



Cisco Unified Communications Manager Bulk Administration ガイド

Cisco Unified Communications Manager Bulk Administration Guide

リリース 8.5(1)

**【注意】 シスコ製品をご使用になる前に、安全上の注意
(www.cisco.com/jp/go/safety_warning/) をご確認ください。**

本書は、米国シスコシステムズ発行ドキュメントの参考和訳です。
リンク情報につきましては、日本語版掲載時点で、英語版にアップデートがあり、リンク先のページが移動 / 変更されている場合がありますことをご了承ください。
あくまでも参考和訳となりますので、正式な内容については米国サイトのドキュメントを参照ください。

また、契約等の記述については、弊社販売パートナー、または、弊社担当者にご確認ください。

このマニュアルに記載されている仕様および製品に関する情報は、予告なしに変更されることがあります。このマニュアルに記載されている表現、情報、および推奨事項は、すべて正確であると考えていますが、明示的であれ黙示的であれ、一切の保証の責任を負わないものとします。このマニュアルに記載されている製品の使用は、すべてユーザ側の責任になります。

対象製品のソフトウェア ライセンスおよび限定保証は、製品に添付された『Information Packet』に記載されています。添付されていない場合には、代理店にご連絡ください。

The Cisco implementation of TCP header compression is an adaptation of a program developed by the University of California, Berkeley (UCB) as part of UCB's public domain version of the UNIX operating system. All rights reserved. Copyright © 1981, Regents of the University of California.

ここに記載されている他のいかなる保証にもよらず、各社のすべてのマニュアルおよびソフトウェアは、障害も含めて「現状のまま」として提供されます。シスコシステムズおよびこれら各社は、商品性の保証、特定目的への準拠の保証、および権利を侵害しないことに関する保証、あるいは取引過程、使用、取引慣行によって発生する保証をはじめとする、明示されたまたは黙示された一切の保証の責任を負わないものとします。

いかなる場合においても、シスコシステムズおよびその供給者は、このマニュアルの使用または使用できないことによって発生する利益の損失やデータの損傷をはじめとする、間接的、派生的、偶発的、あるいは特殊な損害について、あらゆる可能性がシスコシステムズまたはその供給者に知らされていても、それらに対する責任を一切負わないものとします。

Cisco および Cisco ロゴは、米国シスコシステムズ社や米国および他の国の関連会社の商標です。シスコの商標の一覧は、www.cisco.com/go/trademarks で参照できます。本書に記載されているサードパーティの商標は、それぞれの所有者の財産です。「パートナー」または「partner」という用語の使用は Cisco と他社との間のパートナーシップ関係を意味するものではありません。(1005R)

このマニュアルで使用している IP アドレスは、実際のアドレスを示すものではありません。マニュアル内の例、コマンド出力、および図は、説明のみを目的として使用されています。説明の中に実際のアドレスが使用されていたとしても、それは意図的なものではなく、偶然の一致によるものです。

Cisco Unified Communications Manager Bulk Administration ガイド

© 2010 Cisco Systems, Inc.

All rights reserved.

Copyright © 2010-2011, シスコシステムズ合同会社.

All rights reserved.



CONTENTS

はじめに xxiii

PART 1

一括管理ツールの概要

CHAPTER 1

概要

1-1

一括管理のインストール	1-2
BAT データ入力ファイル	1-2
BAT 設定プロセス	1-3
BAT テンプレートの使用方法	1-4
マスター電話機テンプレート	1-5
CSV データ ファイルの処理	1-5
新しいデバイスの追加用の CSV データ ファイル	1-6
既存デバイスの更新用の CSV データ ファイル	1-6
CSV データ ファイルのファイル形式のカスタマイズ	1-7
BAT スプレッドシートをデータ収集に使用する方法	1-9
BAT データ入力ファイルの確認	1-10
BAT データ入力ファイルの挿入	1-11
BAT アプリケーションの使用方法	1-12
Cisco Unified Communications Manager の管理ページおよび BAT へのアクセス	1-12
オンライン ヘルプの使用方法	1-12
Cisco Unified Communications Manager のバージョンの表示	1-12
関連項目	1-13

PART 2

ファイルのアップロードとダウンロード

CHAPTER 2

ファイルのアップロードとダウンロード

2-1

ファイルの検索	2-1
ファイルのダウンロード	2-2
ファイルのアップロード	2-3
ファイルの削除	2-4
関連項目	2-4

PART 3

電話機

CHAPTER 3

電話機テンプレート

3-1

電話機の追加

3-1

BAT 電話機テンプレートの使用方法

3-2

BAT 電話機テンプレートの検索

3-3

新しい BAT 電話機テンプレートの作成

3-4

BAT テンプレートにおける回線の追加または更新

3-5

BAT テンプレートにおける IP サービスの追加または更新

3-6

BAT テンプレートにおけるスピードダイヤルの追加または更新

3-6

BAT テンプレートにおけるビジーランプフィールドの追加または更新

3-7

BAT テンプレートにおけるビジーランプフィールドダイレクトコールパークの追加または更新

3-8

BAT テンプレートにおけるインターコムテンプレートの追加または更新

3-8

BAT 電話機テンプレートの変更

3-10

BAT 電話機テンプレートのコピー

3-10

テンプレートの削除

3-11

BAT 電話機テンプレートのフィールドの説明

3-12

BAT テンプレートに回線を追加または更新する場合のフィールドの説明

3-36

BAT テンプレートにインターコムテンプレートを追加する場合のフィールドの説明

3-54

BAT スプレッドシートを使用した電話機用 CSV データファイルの作成

3-57

BAT スプレッドシートの電話機のフィールドの説明

3-60

関連項目

3-83

CHAPTER 4

電話機のファイル形式

4-1

テキストエディタを使用した電話機用 CSV データファイルの作成

4-1

電話機のファイル形式の検索

4-2

電話機のファイル形式の設定

4-3

ファイル形式の作成

4-3

ファイル形式のコピー

4-4

ファイル形式の修正

4-5

ファイル形式の削除

4-6

ファイル形式と CSV データファイルの関連付け

4-6

関連項目

4-7

CHAPTER 5	電話機レコードの確認	5-1	
	CSV データ ファイルの電話機レコードの確認	5-1	5-1
	電話機の確認の制限	5-2	
	関連項目	5-2	
CHAPTER 6	電話機の挿入	6-1	
	電話機の Cisco Unified Communications Manager への挿入	6-1	6-1
	関連項目	6-3	
CHAPTER 7	電話機の更新	7-1	
	クエリーを使用した電話機の更新	7-1	7-1
	カスタム ファイルを使用した電話機の更新	7-2	7-2
	更新パラメータの選択	7-3	7-3
	電話機を更新する場合のフィールドの説明	7-4	7-4
	関連項目	7-21	
CHAPTER 8	電話機の削除	8-1	
	クエリーを使用した電話機の削除	8-1	8-1
	カスタム ファイルを使用した電話機の削除	8-3	8-3
	未定義の電話番号の削除	8-4	8-4
	関連項目	8-5	
CHAPTER 9	電話機のエクスポート	9-1	
	電話機エクスポートの使用方法	9-2	9-2
	電話機レコードのエクスポート	9-4	9-4
	複数ユーザを持つ電話機レコードのエクスポートおよびインポート	9-5	9-5
	関連項目	9-6	
CHAPTER 10	電話回線の追加と更新	10-1	
	クエリーを使用した回線の更新	10-1	10-1
	回線を更新する場合のフィールドの説明	10-3	10-3
	既存の電話機および UDP への回線の追加	10-10	10-10
	BAT スプレッドシートを使用した既存の電話機への回線の追加	10-10	10-10
	BAT スプレッドシートを使用して回線を追加する場合のフィールドの説明	10-12	10-12
	関連項目	10-14	

CHAPTER 11	電話機のリセットまたは再起動	11-1	
	クエリーを使用した電話機のリセットまたは再起動	11-1	
	カスタム ファイルを使用した電話機のリセットまたは再起動		11-3
	関連項目	11-4	
CHAPTER 12	電話機レポートの生成	12-1	
	電話機のレポートの生成	12-1	
	電話機および IP テレフォニー デバイスのレポート		12-3
	ダミー MAC アドレスを使用する電話機リストの作成		12-6
	レポート ログ ファイルの表示	12-6	
	関連項目	12-7	
CHAPTER 13	電話機の移行	13-1	
	SSCP から SIP への電話機の移行	13-1	
	関連項目	13-3	
CHAPTER 14	インターコムの追加と更新	14-1	
	インターコムの DN の更新	14-1	
	インターコムの DN の追加	14-2	
	インターコムの DN を更新する場合のフィールドの説明		14-3
	関連項目	14-4	
PART 4	ユーザ		
CHAPTER 15	ユーザの追加	15-1	
	ユーザの追加	15-1	
	BAT スプレッドシートを使用したユーザ用 CSV データ ファイルの作成		15-2
	関連項目	15-5	
CHAPTER 16	ユーザ テンプレート	16-1	
	BAT ユーザ テンプレートの検索方法	16-1	
	新しい BAT ユーザ テンプレートの作成	16-2	
	BAT ユーザ テンプレートの変更	16-3	
	BAT ユーザ テンプレートのコピー	16-3	
	テンプレートの削除	16-4	
	BAT ユーザ テンプレートのフィールドの説明		16-4
	関連項目	16-7	

CHAPTER 17	ユーザの挿入	17-1	
	Cisco Unified Communications Manager へのユーザの挿入		17-1
	関連項目	17-2	
CHAPTER 18	ユーザの更新	18-1	
	ユーザの更新	18-1	
	格納されている値の保持	18-2	
	BAT スプレッドシートを使用したユーザ更新用 CSV データ ファイルの作成		18-2
	Cisco Unified Communications Manager 内のユーザの更新		18-5
	関連項目	18-6	
CHAPTER 19	ユーザの削除	19-1	
	クエリーを使用したユーザの削除	19-1	
	カスタム ファイルを使用したユーザの削除		19-2
	関連項目	19-3	
CHAPTER 20	ユーザのエクスポート	20-1	
	ユーザ レコードのエクスポート		20-1
	関連項目	20-3	
CHAPTER 21	パスワードと PIN のリセット	21-1	
	パスワードと PIN のリセット	21-1	
	クエリーを使用したユーザ パスワードと PIN のリセット		21-1
	カスタム ファイルを使用したユーザ パスワードと PIN のリセット		21-3
	関連項目	21-4	
CHAPTER 22	ユーザ レポートの生成	22-1	
	ユーザ レポートの生成	22-1	
	レポート ログ ファイルの表示		22-2
	関連項目	22-3	
CHAPTER 23	ライン アピアランス	23-1	
	ライン アピアランスの表示	23-1	
	ライン アピアランスのエクスポート		23-2
	ライン アピアランスの更新	23-3	
	関連項目	23-4	

<hr/>	
CHAPTER 24	エンド ユーザ CAPF プロファイル 24-1
	エンド ユーザ CAPF プロファイルの挿入 24-1
	エンド ユーザ CAPF プロファイルの削除 24-2
	エンド ユーザ CAPF プロファイルのエクスポート 24-3
	BAT スプレッドシートを使用したエンド ユーザ CAPF プロファイル用 CSV データ ファイルの作成 24-5
	関連項目 24-5
<hr/>	
PART 5	電話機とユーザ
<hr/>	
CHAPTER 25	電話機とユーザ 25-1
	新しい電話機とユーザの追加 25-1
	BAT スプレッドシートを使用した電話機とユーザの追加 25-2
	関連項目 25-2
<hr/>	
CHAPTER 26	電話機とユーザのファイル形式 26-1
	電話機とユーザのファイル形式の追加 26-1
	関連項目 26-2
<hr/>	
CHAPTER 27	電話機とユーザの検証 27-1
	電話機レコードとユーザレコードの検証 27-1
	関連項目 27-2
<hr/>	
CHAPTER 28	電話機とユーザの挿入 28-1
	電話機とユーザの Cisco Unified Communications Manager への挿入 28-1
	関連項目 28-2
<hr/>	
PART 6	マネージャとアシスタント
<hr/>	
CHAPTER 29	Cisco Unified Communications Manager Assistant の使用方法 29-1
	Cisco Unified Communications Manager Assistant で使用する電話機と回線の概要 29-2
	プロキシ回線モードでの Cisco Unified Communications Manager Assistant 用の電話機の設定 29-2
	Cisco Unified Communications Manager Assistant マネージャとアシスタントの電話機テンプレートのデフォルト設定値 29-3
	マネージャとアシスタントのプロキシ回線設定 29-4

	プロキシ回線を使用した Cisco Unified Communications Manager Assistant マネージャとアシスタント用の新しい電話機の設定	29-7
	既存の電話機に対する Cisco Unified Communications Manager Assistant プロキシ回線の設定	29-7
	シェアドライン モードでの Cisco Unified Communications Manager Assistant 用の電話機の設定	29-8
	シェアドライン モードにおけるマネージャの電話機	29-8
	シェアドライン モードにおけるアシスタントの電話機	29-9
	マネージャとアシスタントのシェアドラインの設定	29-9
	マネージャとアシスタントのアソシエーション用の CSV データ ファイルの作成	29-10
	BAT スプレッドシートを使用したマネージャとアシスタントのアソシエーションの追加または更新	29-11
	デフォルトのマネージャとアシスタントの CSV データ ファイルの作成	29-11
	カスタムのマネージャとアシスタントの CSV データ ファイルの作成	29-12
	関連項目	29-13
CHAPTER 30	マネージャとアシスタントの挿入	30-1
	Cisco Unified Communications Manager へのマネージャとアシスタントのアソシエーションの挿入	30-1
	関連項目	30-3
CHAPTER 31	マネージャとアシスタントの削除	31-1
	マネージャとアシスタントのアソシエーションの削除	31-1
	関連項目	31-2
CHAPTER 32	マネージャの削除	32-1
	Cisco Unified Communications Manager からのマネージャの削除	32-1
	クエリーを使用したマネージャのアソシエーションの削除	32-1
	カスタム ファイルを使用したマネージャのアソシエーションの削除	32-3
	関連項目	32-4
CHAPTER 33	アシスタントの削除	33-1
	Cisco Unified Communications Manager からのアシスタントの削除	33-1
	クエリーを使用したアシスタントのアソシエーションの削除	33-1
	カスタム ファイルを使用したアシスタントのアソシエーションの削除	33-3
	関連項目	33-4

CHAPTER 34	マネージャおよびアシスタントのレポートの生成	34-1
	Cisco Unified Communications Manager Assistant マネージャおよびアシスタントのレポートの生成	34-1
	レポート ログ ファイルの表示	34-2
	関連項目	34-3
<hr/>		
PART 7	ユーザ デバイス プロファイル	
<hr/>		
CHAPTER 35	ユーザ デバイス プロファイル	35-1
	ユーザ デバイス プロファイルの追加	35-1
	BAT スプレッドシートを使用したユーザ デバイス プロファイル CSV データ ファイルの作成	35-3
	BAT スプレッドシートの User Device Profile フィールドの説明	35-4
	関連項目	35-13
<hr/>		
CHAPTER 36	ユーザ デバイス プロファイル テンプレート	36-1
	ユーザ デバイス プロファイル テンプレートの検索	36-1
	ユーザ デバイス プロファイル用の一括管理 (BAT) テンプレートの作成	36-2
	テンプレートの修正	36-5
	テンプレートのコピー	36-6
	テンプレートの削除	36-6
	関連項目	36-7
<hr/>		
CHAPTER 37	ユーザ デバイス プロファイルのファイル形式	37-1
	ユーザ デバイス プロファイルのファイル形式の設定	37-1
	UDP ファイル形式の検索	37-1
	UDP ファイル形式の作成	37-2
	ファイル形式のコピー	37-3
	ファイル形式の修正	37-4
	ファイル形式の削除	37-5
	関連項目	37-6
<hr/>		
CHAPTER 38	ユーザ デバイス プロファイルのファイル形式の追加	38-1
	ファイル形式の追加	38-1
	関連項目	38-2

CHAPTER 39	ユーザ デバイス プロファイルの確認	39-1	
	ユーザ デバイス プロファイルの確認	39-1	
	ユーザ デバイス プロファイルの確認の制限	39-2	
	関連項目	39-2	
CHAPTER 40	UDP の生成	40-1	
	ユーザ デバイス用のユーザ デバイス プロファイルの挿入	40-1	
	関連項目	40-3	
CHAPTER 41	ユーザ デバイス プロファイルの更新	41-1	
	クエリーを使用した UDP の更新	41-1	
	カスタム ファイルを使用した UDP の更新	41-2	
	UDP を更新する場合のフィールドの説明	41-4	
	関連項目	41-8	
CHAPTER 42	ユーザ デバイス プロファイルの削除	42-1	
	クエリーを使用した UDP の削除	42-1	
	カスタム ファイルを使用した UDP の削除	42-3	
	関連項目	42-4	
CHAPTER 43	ユーザ デバイス プロファイル エクスポートの使用方法	43-1	
	All User Device Profile Details 形式	43-1	
	Specific User Device Profile 形式	43-3	
	ユーザ デバイス プロファイル レコードのエクスポート	43-3	
	関連項目	43-4	
CHAPTER 44	ユーザ デバイス プロファイル用の回線の更新	44-1	
	ユーザ デバイス プロファイル用の回線の更新	44-1	
	クエリーを使用した回線の更新	44-1	
	回線を更新する場合のフィールドの説明	44-3	
	関連項目	44-3	
CHAPTER 45	UDP の回線の追加	45-1	
	既存の UDP への回線の追加	45-1	
	BAT スプレッドシートを使用した既存の UDP への回線の追加	45-2	
	BAT スプレッドシートを使用して回線を追加する場合のフィールドの説明	45-3	
	関連項目	45-6	

CHAPTER 46	UDP のレポートの生成	46-1
	ユーザ デバイス プロファイルのレポートの生成	46-1
	関連項目	46-3
<hr/>		
CHAPTER 47	インターコム DN の追加と更新	47-1
	インターコムの DN の更新	47-1
	インターコムの DN の追加	47-2
	インターコムの DN を更新する場合のフィールドの説明	47-3
	関連項目	47-4
<hr/>		
PART 8	ゲートウェイ	
<hr/>		
CHAPTER 48	ゲートウェイ テンプレート	48-1
	シスコのゲートウェイの追加	48-1
	ゲートウェイ テンプレートの検索	48-3
	ゲートウェイ テンプレートの追加または編集	48-5
	Cisco VG200 ゲートウェイ テンプレートの作成	48-5
	VG200 ゲートウェイ テンプレートへのポートの追加	48-7
	VG200 ゲートウェイ テンプレートへの FXS ポートの追加	48-7
	VG200 ゲートウェイ テンプレートへの FXO ポートの追加	48-8
	VG200 ゲートウェイ テンプレートへのデジタル アクセス T1 (T1-CAS) ポートの追加	48-9
	VG200 ゲートウェイ テンプレートへの T1 PRI または E1 PRI デバイスの追加	48-9
	Cisco Catalyst 6000 (FXS) ゲートウェイ テンプレートの作成	48-10
	Cisco VG224 ゲートウェイ テンプレートの作成	48-11
	VG224 ゲートウェイ テンプレートへの FXS ポートの追加	48-12
	Cisco VG202 または VG204 ゲートウェイ テンプレートの作成	48-13
	VG202 または VG204 ゲートウェイ テンプレートへの FXS ポートの追加	48-14
	ゲートウェイの設定	48-15
	VG200 ゲートウェイ テンプレートのフィールドの説明	48-15
	VG224 ゲートウェイ テンプレートのフィールドの説明	48-16
	VG202 および VG204 ゲートウェイ テンプレートのフィールドの説明	48-17
	Cisco Catalyst 24 Port FXS Gateway テンプレートのフィールドの説明	48-18
	FXS/FXO ポート設定のフィールドの説明	48-22
	Cisco VG200 ゲートウェイ テンプレート上のデジタル アクセス T1 トランクのフィールドの説明	48-29
	Cisco VG200 ゲートウェイ テンプレート上の T1 PRI トランクまたは E1 PRI トランクのフィールドの説明	48-33

ポートの設定	48-47	
POTS ポートの設定	48-48	
デジタル アクセス T1 CAS 用の E & M ポートのフィールドの説明		48-50
関連項目	48-52	

CHAPTER 49

ゲートウェイのファイル形式	49-1	
ゲートウェイのファイル形式の検索		49-1
ゲートウェイのファイル形式の設定		49-2
ファイル形式の作成	49-2	
ファイル形式のコピー	49-3	
ファイル形式の修正	49-4	
ファイル形式の削除	49-5	
ファイル形式と CSV データ ファイルの関連付け		49-5
関連項目	49-6	

CHAPTER 50

ゲートウェイの挿入	50-1	
Cisco VG200 ゲートウェイ用 CSV データ ファイルの作成		50-1
Cisco VG200 T1 CAS、T1 PRI、E1 PRI、FXS、または FXO ゲートウェイおよびポート用 CSV データ ファイルのための BAT スプレッドシートの使用方法		50-1
Cisco Catalyst 6000 (FXS) ポート用 CSV データ ファイルの作成		50-3
Cisco VG224 ゲートウェイ用 CSV データ ファイルの作成		50-4
Cisco VG224 FXS ゲートウェイおよびポート用 CSV データ ファイルの BAT スプレッドシートの使用		50-5
Cisco VG202 および VG204 ゲートウェイ用 CSV データ ファイルの作成		50-6
Cisco VG202 および VG204 FXS ゲートウェイおよびポート用 CSV データ ファイルの BAT スプレッドシートの使用		50-7
Cisco Unified Communications Manager へのゲートウェイの挿入		50-9
関連項目	50-10	

CHAPTER 51

シスコのゲートウェイの削除	51-1	
シスコのゲートウェイの削除		51-1
関連項目	51-2	

CHAPTER 52

シスコのゲートウェイのレポートの生成	52-1	
シスコのゲートウェイのレポートの生成		52-1
レポート ログ ファイルの表示		52-3
関連項目	52-3	

PART 9

強制承認コードとクライアント識別コード

CHAPTER 53

クライアント識別コードと強制承認コードの一括処理 53-1

CMC および FAC の設定チェックリスト 53-2

BAT の重要な考慮事項 53-2

BAT.xlt を使用した CSV ファイルの作成 53-3

テキスト エディタを使用したクライアント識別コードおよび強制承認コードの CSV データ
ファイルの作成 53-4

既存の CMC 用または FAC 用の CSV ファイルの編集 53-4

CMC 用および FAC 用の CSV ファイルの設定値 53-5

BAT を使用した CUCM データベースの更新 53-6

Cisco Unified Communications Manager データベースを更新する場合の BAT の設
定 53-7

関連項目 53-8

CHAPTER 54

強制承認コードとクライアント識別コードの削除 54-1

コードの設定の削除 54-1

強制承認コードとクライアント識別コードの削除 54-2

関連項目 54-4

PART 10

ピックアップ グループ

CHAPTER 55

コール ピックアップ グループの使用方法 55-1

BAT の重要な考慮事項 55-1

BAT.xlt を使用した CSV ファイルの作成 55-2

テキスト エディタを使用したコール ピックアップ グループ用の CSV データ ファイルの作
成 55-3

既存のコール ピックアップ グループ CSV ファイルの編集 55-3

コール ピックアップ グループ CSV ファイルの設定値 55-4

BAT を使用した Cisco Unified Communications Manager データベースの更新 55-4

Cisco Unified Communications Manager データベースを更新する場合の BAT の設
定 55-6

関連項目 55-6

CHAPTER 56

コール ピックアップ グループの削除 56-1

コール ピックアップ グループの削除 56-1

関連項目 56-2

PART 11

モビリティ

CHAPTER 57

アクセス リスト 57-1

- アクセス リストの挿入 57-1
- アクセス リストの削除 57-2
- アクセス リストのエクスポート 57-3
- 関連項目 57-4

CHAPTER 58

リモート接続先 58-1

- リモート接続先の挿入 58-1
- リモート接続先の削除 58-2
- リモート接続先のエクスポート 58-3
- 関連項目 58-4

CHAPTER 59

リモート接続先プロファイル 59-1

- リモート接続先プロファイル テンプレート 59-1
 - リモート接続先プロファイル テンプレートの検索 59-1
 - リモート接続先プロファイル テンプレートの作成 59-3
 - リモート接続先プロファイル テンプレートの回線の追加または更新 59-3
 - リモート接続先プロファイル テンプレートの削除 59-4
 - リモート接続先プロファイル テンプレートのフィールドの説明 59-5
- リモート接続先プロファイルのファイル形式 59-7
 - テキスト エディタを使用したリモート接続先 CSV データ ファイルの作成 59-7
 - リモート接続先のファイル形式の検索 59-7
 - リモート接続先プロファイルのファイル形式の設定 59-8
 - ファイル形式の作成 59-9
 - ファイル形式のコピー 59-10
 - ファイル形式の修正 59-10
 - ファイル形式の削除 59-11
 - ファイル形式と CSV データ ファイルの関連付け 59-12
- リモート接続先プロファイルの挿入 59-12
 - Cisco Unified Communications Manager へのリモート接続先プロファイルの挿入 59-13
- リモート接続先プロファイルの削除 59-14
 - カスタム ファイルを使用したリモート接続先プロファイルの削除 59-14

リモート接続先プロファイルのエクスポート	59-15
リモート接続先プロファイルのエクスポートの使用	59-15
Default Remote Destination Profile ファイル形式	59-17
関連項目	59-18

CHAPTER 60

モビリティ プロファイル	60-1
モビリティ プロファイルの挿入	60-1
モビリティ プロファイルの削除	60-2
モビリティ プロファイルのエクスポート	60-3
関連項目	60-4

PART 12

リージョン マトリクス

CHAPTER 61

リージョン マトリクスの更新	61-1
リージョン マトリクスの実装および実装解除	61-1

PART 13

インポートとエクスポート

CHAPTER 62

インポート/エクスポート	62-1
設定のエクスポート	62-1
ログ ファイル	62-6
.tar ファイルの編集	62-7
関連項目	62-8

CHAPTER 63

設定のインポート	63-1
ログ ファイル	63-2
依存関係にあるエンティティの段階的なインポート	63-3
インポートまたはエクスポートでサポートされない項目	63-4
上書き更新	63-4
Cisco Unified CallManager 4.x リリースからのアップグレード	63-5
関連項目	63-5

CHAPTER 64

インポート ファイルの検証	64-1
ログ ファイル	64-2
関連項目	64-2

PART 14**電話の移行****CHAPTER 65****電話の移行 65-1**

電話の移行用の CSV データ ファイルの作成 65-1

電話の移行用 CSV データ ファイルを作成するための BAT スプレッドシートの使用
方法 65-1

電話機の移行 65-3

関連項目 65-4

PART 15**クラスタ間のエクステンション モビリティ (EMCC)****CHAPTER 66****クラスタ間のエクステンション モビリティ テンプレート 66-1**

EMCC テンプレートの使用方法 66-1

EMCC テンプレートの検索 66-1

新しい EMCC テンプレートの作成 66-2

EMCC テンプレートの削除 66-3

BAT EMCC テンプレートのフィールドの説明 66-4

関連項目 66-5

CHAPTER 67**EMCC の挿入および更新 67-1**

EMCC デバイスの挿入 67-1

EMCC デバイスの更新 67-2

関連項目 67-3

CHAPTER 68**EMCC デバイスの削除 68-1**

関連項目 68-1

PART 16**Intercompany Media Service****CHAPTER 69****信頼要素の設定の挿入 69-1**

関連項目 69-2

CHAPTER 70**信頼要素の設定の削除 70-1**

関連項目 70-2

CHAPTER 71**信頼グループの設定の挿入 71-1**

関連項目 71-2

CHAPTER 72	信頼グループの設定の削除	72-1
	関連項目	72-2
CHAPTER 73	登録済みグループの設定の挿入	73-1
	関連項目	73-2
CHAPTER 74	登録済みグループの設定の削除	74-1
	関連項目	74-2
CHAPTER 75	除外グループの設定の挿入	75-1
	関連項目	75-2
CHAPTER 76	除外グループの設定の削除	76-1
	関連項目	76-2
CHAPTER 77	フォールバック プロファイルの設定の挿入	77-1
	関連項目	77-2
CHAPTER 78	フォールバック プロファイルの設定の削除	78-1
	関連項目	78-2
PART 17	CUPS	
CHAPTER 79	ライセンスの操作	79-1
	[CUPS] メニューの使用方法	79-1
	CUPS/CUPC ユーザの更新	79-1
	CUPS/CUPC ユーザのエクスポート	79-2
PART 18	Tool for Auto-Registered Phones Support	
CHAPTER 80	Tool for Auto-Registered Phones Support (TAPS) の使用方法	80-1
	TAPS の概要	80-2
	TAPS の自動登録オプション	80-2
	新しい電話機での TAPS の使用方法	80-2
	設定をリロードするための TAPS の使用方法	80-3
	電話番号の保護	80-4
	TAPS ユーザ用の言語プロンプト	80-4

TAPS のインストール	80-4
UCCX アプリケーション サーバでの TAPS アプリケーションの設定	80-6
TAPS サービスのアクティブ化	80-6
TAPS の起動 / 停止 / 再起動	80-6
TAPS のオプション設定	80-7
TAPS の自動登録オプションの設定	80-7
電話番号の保護の設定	80-8
保護電話番号の検索	80-9
電話番号の制限	80-9
電話番号に対する制限の解除	80-10
TAPS ログ ファイルの表示	80-10
関連項目	80-11

CHAPTER 81

Tool for Auto-Registered Phones Support のユーザ ロケール	81-1
Tool for Auto-Registered Phones Support のユーザ ロケールの設定	81-1
Tool for Auto-Registered Phones Support プロンプトの言語の追加	81-1
Tool for Auto-Registered Phones Support プロンプトの言語の削除	81-2
エンド ユーザ用の Tool for Auto-Registered Phones Support 情報	81-3
関連項目	81-4

PART 19**ジョブのスケジュール****CHAPTER 82**

ジョブのスケジュール	82-1
Bulk Provisioning Service のアクティブ化	82-1
BPS の起動 / 停止 / 再起動	82-2
BPS の非アクティブ化	82-3
ジョブの検索	82-3
ジョブのスケジュール	82-4
関連項目	82-6

PART 20**BAT および TAPS のトラブルシューティング****CHAPTER 83**

BAT および TAPS のトラブルシューティング	83-1
トレース設定ファイルの表示	83-1
BAT ログ ファイル	83-3
BAT のトラブルシューティング	83-3
BAT パフォーマンスのトラブルシューティング	83-7

BAT および TAPS のトラブルシューティング	83-8
Tool for Auto-Registered Phones Support ログ ファイルの表示	83-8
Tool for Auto-Registered Phones Support のエラー メッセージ	83-8
関連項目	83-9

PART 21

付録

APPENDIX A

テキストベースの CSV ファイル	A-1
電話機用のテキストベース CSV ファイルの作成	A-2
電話機用の CSV データ ファイル形式	A-3
電話機とユーザの組み合わせのファイル形式	A-3
CTI ポート /H.323 クライアントのファイル形式	A-4
CTI ポートとユーザの組み合わせ、および H.323 クライアントとユーザの組み合わせのファイル形式	A-4
All Phone Details オプション用のエクスポート ファイルのフィールド	A-5
電話機 CSV ファイルの例	A-6
ユーザ用のテキストベース CSV ファイルの作成	A-7
ユーザのファイル形式	A-8
ユーザのファイル形式の更新	A-9
ユーザ デバイス プロファイル用のテキストベース CSV ファイルの作成	A-10
ユーザ デバイス プロファイルのファイル形式	A-11
2 つの回線と 2 つのスピード ダイヤルを持つユーザ デバイス プロファイル	A-11
すべての詳細オプションを使用するユーザ デバイス プロファイルのエクスポート ファイルのフィールド	A-12
Cisco Unified CM Assistant マネージャとアシスタントのアソシエーション用のテキストベース CSV ファイルの作成	A-13
マネージャおよびアシスタントのファイル形式	A-14
デフォルトのマネージャとアシスタントのアソシエーション	A-14
デフォルトのアシスタントとマネージャのアソシエーション	A-15
カスタムのマネージャとアシスタントのアソシエーション	A-15
Cisco VG200 ゲートウェイ用のテキストベース CSV ファイルの作成	A-15
FXO トランクまたは FXS トランクの CSV ファイル形式	A-16
T1 CAS トランク、T1 PRI トランク、または E1 PRI トランクのファイル形式	A-17
Cisco VG224 ゲートウェイ用のテキストベース CSV ファイルの作成	A-18
VG224 用の FXS トランク CSV ファイル形式	A-18
Cisco Catalyst 6000 FXS ポート用のテキストベース CSV ファイルの作成	A-19
Cisco Catalyst 6000 (FXS) ポートのファイル形式	A-20

Cisco VG202 および VG204 ゲートウェイ用のテキストベース CSV ファイルの作成	A-20
VG202 および VG204 ゲートウェイ用の CSV ファイル形式	A-21
クライアント識別コードと強制承認コードのテキストベースのカスタム CSV ファイルの作成	A-22
CMC 用ファイル形式	A-23
CMC 用ファイル形式の更新	A-24
FAC 用ファイル形式	A-24
FAC 用ファイル形式の更新	A-24
コール ピックアップ グループ用のテキストベース CSV ファイルの作成	A-25
CPG ファイル形式	A-26
CPG ファイル形式の更新	A-26
リモート接続先プロファイル用のテキストベース CSV ファイルの作成	A-27
電話の移行用のテキストベース CSV ファイルの作成	A-28
電話の移行のファイル形式	A-28
IME 信頼要素設定用のテキストベース CSV ファイルの作成	A-29
IME 信頼要素設定のファイル形式	A-29
IME 信頼グループ設定用のテキストベース CSV ファイルの作成	A-30
IME 信頼グループ設定のファイル形式	A-30
IME 登録済みグループ設定用のテキストベース CSV ファイルの作成	A-31
IME 登録済みグループ設定のファイル形式	A-31
IME 除外グループ設定用のテキストベース CSV ファイルの作成	A-32
IME 除外グループ設定のファイル形式	A-32
フォールバック プロファイル設定用のテキストベース CSV ファイルの作成	A-33
フォールバック プロファイル設定のファイル形式	A-33
エンド ユーザ CAPF プロファイル用のテキストベース CSV ファイルの作成	A-34
エンド ユーザ CAPF プロファイルのファイル形式	A-34
モビリティ プロファイル用のテキストベース CSV ファイルの作成	A-35
モビリティ プロファイルのファイル形式	A-35
関連項目	A-36

APPENDIX B

BAT のパフォーマンス B-1

INDEX



はじめに

ここでは、このマニュアルの目的、対象読者、構成、および表記法、そして関連資料の入手方法について説明します。



(注)

このマニュアルには、シスコ製品の最新情報が記載されていない可能性があります。次の URL からシスコの製品マニュアルのページにアクセスすることにより、最新資料を入手することができます。

http://www.cisco.com/en/US/products/sw/voicesw/ps556/tsd_products_support_series_home.html

次のトピックについて取り上げます。

- 「目的」 (P.xxiii)
- 「対象読者」 (P.xxiii)
- 「マニュアルの構成」 (P.xxiv)
- 「関連資料」 (P.xxvi)
- 「表記法」 (P.xxvi)
- 「マニュアルの入手方法およびテクニカル サポート」 (P.xxvii)

目的

『*Cisco Unified Communications Manager Bulk Administration ガイド*』では、Cisco Unified Communications Manager の管理ページの [一括管理 (Bulk Administration)] メニューの使用方法について説明します。

対象読者

このマニュアルは、Cisco Unified Communications Manager システムの管理を担当するネットワーク管理者または技術者を対象としています。Cisco Unified Communications Manager 一括管理 (BAT) の管理には、テレフォニーおよび IP ネットワーキング技術に関する知識が必要です。

マニュアルの構成

表 1 は、このマニュアルの構成を示しています。

表 1 BAT ガイドの構成

章	説明
Part 1	Cisco Unified Communications Manager 一括管理の概要 BAT の概要を説明します。
Part 2	ファイルのアップロードとダウンロード ファイルのアップロードとダウンロードの方法を説明します。
Part 3	電話機 電話機、電話機とユーザ、Computer Telephony Integration (CTI; コンピュータ/テレフォニー インテグレーション) ポート、および CTI ポートとユーザを、個別に追加するのではなく、一括して追加する方法を説明します。また、回線や電話サービス、スピードダイヤルを追加または更新する方法、電話機を更新および削除する方法についても説明します。
Part 4	ユーザ 複数のユーザを一括して追加、更新、削除する方法を説明します。
Part 5	電話機とユーザ Cisco Unified Communications Manager サーバ上にユーザのグループとその電話機を 1 回のバルク トランザクションで追加する方法を説明します。
Part 6	マネージャとアシスタント マネージャとアシスタントのアソシエーションを追加、更新、削除する方法を説明します。
Part 7	ユーザ デバイス プロファイル ユーザ デバイス プロファイルを追加、更新、削除する方法を説明します。
Part 8	ゲートウェイ Cisco VG200 ゲートウェイとポートを追加、更新、または削除する方法、Cisco Catalyst 6000 アナログ インターフェイス モジュール用の FXS (Foreign Exchange Station) ポートを追加または削除する方法を説明します。また、FXS ポートで使用するための Gateway Directory Number テンプレートを作成する方法も説明します。
Part 9	強制承認コードとクライアント識別コード クライアント識別コードと強制承認コードを追加、更新、削除する方法を説明します。
Part 10	ピックアップ グループ コール ピックアップ グループを追加、更新、削除する方法を説明します。

表 1 BAT ガイドの構成 (続き)

Part 11	<p>モビリティ</p> <p>アクセス リスト、リモート接続先、およびリモート接続先プロファイルを挿入、削除、エクスポートする方法を説明します。</p>
Part 12	<p>リージョン マトリクス</p> <p>リージョン マトリクスを実装および実装解除する方法を説明します。</p>
Part 13	<p>インポートとエクスポート</p> <p>Cisco Unified Communications Manager データベースを別のサーバに、あるいは変更を加えて同じサーバにインポートまたはエクスポートする方法を説明します。</p>
Part 14	<p>電話の移行</p> <p>BAT の [電話の移行 (Phone Migration)] メニューについて説明し、電話を一括で移行する手順を説明します。</p>
Part 15	<p>クラスタ間のエクステンション モビリティ (EMCC)</p> <p>BAT の [EMCC] メニューについて説明し、EMCC を挿入、削除、更新する方法を説明します。</p>
Part 16	<p>Intercompany Media Service</p> <p>BAT の [Intercompany Media Service] メニューについて説明し、信頼要素、信頼グループ、登録済みグループ、除外グループ、フォールバック プロファイルの設定を挿入および削除する方法を説明します。</p>
Part 17	<p>CUPS</p> <p>BAT の [CUPS] メニューについて説明し、このメニューを使用して CUPS ユーザと CUPC ユーザを更新およびエクスポートする方法を説明します。</p>
Part 18	<p>Tool for Auto Registered Phones Support (TAPS)</p> <p>TAPS のインストール方法や設定方法、使用方法を説明します。</p>
Part 19	<p>ジョブのスケジュール</p> <p>ジョブのスケジュールとアクティブ化の方法を説明します。</p>
Part 20	<p>BAT および Unified CM Auto-Register Phone Tool のトラブルシューティング</p> <p>バルク トランザクション用のログ ファイルの一般的なシナリオについて説明し、BAT または Unified CM Auto-Register Phone Tool の使用時に表示される可能性がある各種エラーメッセージの説明と解決方法を記述します。</p>
Part 21	<p>付録</p> <p>バルク トランザクション用のデバイスやユーザについてテキストベースのファイルを作成する方法を説明します。また、さまざまなシナリオにおけるファイル形式の例も示します。</p>

関連資料

Cisco IP テレフォニー関連のアプリケーションと製品の詳細は、次の資料を参照してください。

- 『Cisco Unified Communications Manager アドミニストレーションガイド』
- 『Cisco Unified Communications Manager システムガイド』
- 『Release Notes for Cisco Unified Communications Manager』
- 『Installing Cisco Unified Communications Manager』
- 『Cisco Unified Serviceability Administration Guide』
- 『Cisco Unified Communications Manager セキュリティガイド』
- 『Hardware Configuration Guide for the Cisco VG200』
- 『Software Configuration Guide for the Cisco VG200』
- 『Cisco VG248 Analog Phone Gateway Software Configuration Guide』
- 『Cisco Unified IP Phone Administration Guide for Cisco Unified Communications Manager』
- 『Cisco Unified Communications Manager 機能およびサービスガイド』
- 『Troubleshooting Guide for Cisco Unified Communications Manager』
- 『Cisco Unified Communications Manager Assistant User Guide』

表記法

このマニュアルでは、次の表記法を使用しています。

表記法	説明
太字	コマンドおよびキーワードは、 太字 で示しています。
イタリック体	ユーザが値を指定する引数は、 <i>イタリック体</i> で示しています。
ストリング	引用符を付けない一組の文字。ストリングの前後には引用符を使用しません。引用符を使用すると、その引用符も含めてストリングと見なされます。
screen フォント	システムが表示する端末セッションおよび情報は、 <code>screen</code> フォントで示しています。
太字の screen フォント	ユーザが入力しなければならない情報は、 太字の screen フォントで示しています。

(注) は、次のように表しています。



(注)

「注釈」です。役立つ情報や、このマニュアル以外の参照資料などを紹介しています。



ワンポイントアドバイス

ワンポイントアドバイスは、次のように表しています。

時間を節約する方法です。ここに紹介している方法で作業を行うと、時間を短縮できます。

ヒントは、次のように表しています。



ヒント

役立つヒントです。

注意は、次のように表しています。



注意

「**要注意**」の意味です。機器の損傷またはデータ損失を予防するための注意事項が記述されています。

警告は、次のように表しています。



警告

「**危険**」の意味です。人身事故を予防するための注意事項が記述されています。機器の取り扱い作業を行うときは、電気回路の危険性に注意し、一般的な事故防止策に留意してください。

マニュアルの入手方法およびテクニカル サポート

マニュアルの入手方法、テクニカル サポート、その他の有用な情報について、次の URL で、毎月更新される『*What's New in Cisco Product Documentation*』を参照してください。シスコの新規および改訂版の技術マニュアルの一覧も示されています。

<http://www.cisco.com/en/US/docs/general/whatsnew/whatsnew.html>

『*What's New in Cisco Product Documentation*』は RSS フィードとして購読できます。また、リーダーアプリケーションを使用してコンテンツがデスクトップに直接配信されるように設定することもできます。RSS フィードは無料のサービスです。シスコは現在、RSS バージョン 2.0 をサポートしています。



PART 1

一括管理ツールの概要



CHAPTER 1

概要

Cisco Unified Communications Manager 一括管理ツール (BAT) は、Web ベースのアプリケーションで、Cisco Unified Communications Manager データベースに対してバルク トランザクションを実行します。同種の電話機、ユーザ、およびポートを多数一括で追加、更新、または削除できます。今まで、Cisco Unified Communications Manager の管理機能では、データベース トランザクションを個々に手作業で処理する必要がありましたが、BAT を使用すると、プロセスを自動化し、追加、更新、および削除の操作をはるかに高速に処理できるようになります。



(注)

[一括管理 (Bulk Administration)] メニューは、Cisco Unified Communications Manager サーバの最初のノードでのみ表示されることに注意してください。

Bulk Provision Service (BPS) は、Cisco Unified Communications Manager の管理ページの [一括管理 (Bulk Administration)] メニューを使用して送信されたすべてのジョブを管理および保守します。このサービスは、Cisco Unified Communications Manager Serviceability から開始できます。

BPS Server サービス パラメータによって、このサービスを特定のサーバ上でアクティブにするかどうかが決まります。BPS は、Cisco Unified Communications Manager の最初のノードでのみアクティブにする必要があります。

BAT で処理できるデバイスとレコードのタイプは、次のとおりです。

- Cisco Unified IP Phone (たとえば Voice Gateway (VG) 電話機、Computer Telephony Interface (CTI) ポート、および H.323 クライアント) の追加、更新、削除、および Skinny Client Control Protocol (SCCP) から Session Initiation Protocol (SIP) への電話機の移行
- ユーザの追加、更新、および削除
- ユーザ デバイス プロファイルの追加、更新、および削除
- Cisco Unified Communications Manager のアシスタントとマネージャのアソシエーションの追加、更新、および削除
- Cisco Catalyst 6000 FXS アナログ インターフェイス モジュール上のポートの追加、更新、および削除
- Cisco VG200 および Cisco VG224 のアナログ ゲートウェイとポートの追加または削除
- 強制承認コードの追加および削除
- クライアント識別コードの追加および削除
- コール ピックアップ グループの追加または削除
- CUP/CUPC ユーザの更新またはエクスポート
- リージョン マトリクスの実装または実装解除
- アクセス リストの挿入、削除、またはエクスポート

- 設定のエクスポートまたはインポート
- リモート接続先およびリモート接続先プロファイルの挿入、削除、またはエクスポート



(注)

Cisco Unified Communications Manager 一括管理でバルク トランザクションを実行するときは、レコード数の制限を最大の 12,000 レコードにすることをお勧めします。この制限数は、BAT を使用してレコードを挿入、更新、削除、またはクエリーを行う場合に適用されます。

デバイスは、ユーザ情報と組み合わせて処理することも可能です。たとえば、CTI ポートおよびユーザを追加する場合、BAT の「Enable CTI Application Use」を選択して、CTI ポートを必要とするアプリケーション（たとえば Cisco IP SoftPhone）を使用するユーザを短時間で追加できます。

BAT のオプション コンポーネントである Cisco Unified Communications Manager Auto-Register Phone Tool (TAPS) を使用すると、大型システムの管理に伴う時間と手間がさらに減少します。たとえば、新しい電話機を大量に追加する必要がある場合、BAT を使用すれば、ダミーのメディア アクセス制御 (MAC) アドレスを持つデバイスを追加することで、MAC アドレスを 1 つずつデータ入力ファイルに入力しなくて済みます。電話機をインストールしたら、電話機のユーザまたは管理者は、Unified CM Auto-Register Phone Tool 電話番号にダイヤルしていくつかの音声プロンプトに従うだけで、電話機に適切なユーザ デバイス プロファイルをダウンロードできます。Unified CM Auto-Register Phone Tool の詳細については、[第 80 章「Tool for Auto-Registered Phones Support \(TAPS\) の使用方法」](#)を参照してください。

次のトピックでは、BAT の使用方法について説明します。

- 「一括管理のインストール」(P.1-2)
- 「BAT データ入力ファイル」(P.1-2)
- 「BAT 設定プロセス」(P.1-3)
- 「BAT アプリケーションの使用方法」(P.1-12)

一括管理のインストール

BAT は、Cisco Unified Communications Manager の管理機能の一部としてインストールされます。詳細については、『Cisco Unified Communications Manager アドミニストレーションガイド』を参照してください。

追加情報

「[関連項目](#)」(P.1-13) を参照してください。

BAT データ入力ファイル

すべてのデバイスには、個々のアトリビュート、設定、および情報フィールドが数多くあり、それらの設定によってデバイスはネットワークで正しく動作し、テレフォニー機能を提供します。アトリビュートと設定には、多くのデバイスに共通しているものもあれば、電話番号のように特定のユーザやデバイスで固有の値をとるものもあります。BAT データ入力ファイルの内容をできるだけ圧縮するため、BAT は、共通のデバイス設定に対してテンプレートを使用します。

Cisco Unified Communications Manager データベースに対するバルク設定トランザクションでは、2つのコンポーネント、つまり、デバイスタイプに対するテンプレートと、カンマ区切り値 (CSV) 形式のデータファイルが BAT プロセスによって使用されます。CSV 形式のデータファイルには、新しいデバイスを設定するため、またはデータベース内の既存のレコードを更新するために使用する固有の値を定義します。CSV データファイルは、デバイステンプレートと連携して動作します。

たとえば、Cisco IP Phone グループ用のバルク トランザクションを作成する場合、各電話機に固有な情報 (たとえば電話番号や MAC アドレス) を記載した CSV データファイルを設定します。さらに、トランザクション内のすべての電話機に共通の設定を記載した BAT テンプレート (たとえば Cisco IP Phone 7960 テンプレート) を設定または選択します。

追加情報

「関連項目」(P.1-13) を参照してください。

BAT 設定プロセス

BAT は、複数のステップから成るプロセスを使用して、バルク設定トランザクションを準備します。BAT が提供する [一括管理 (Bulk Administration)] メニュー オプションを使用して、設定タスクを順に処理できます。BAT プロセスには、次のタスクが含まれています。

1. データ入力用のテンプレートを設定します。
2. CSV データファイルの形式を定義します。
3. バルク トランザクションにおける各デバイス用データを収集します。
4. トランザクション用の該当ターゲットおよび機能を選択するデータファイルをアップロードします。
5. Cisco Unified Communications Manager データベースを使用してデータ入力ファイルを確認します。
6. 実行するためにジョブを送信します。
7. ジョブをスケジュールします。
8. Cisco Unified Communications Manager データベースにデバイスを挿入するためのジョブを実行します。

BAT メニューの使用方法

[一括管理 (Bulk Administration)] メニューから、次のデバイスまたは設定オプションのいずれかを選択します。

- [ファイルのアップロード/ダウンロード (Upload/Download Files)]
- [電話 (Phones)]
- [ユーザ (Users)]
- [電話とユーザ (Phones and User)]
- [マネージャ / アシスタント (Manager/Assistants)]
- [ユーザデバイスプロファイル (User Device Profiles)]
- [ゲートウェイ (Gateways)]
- [強制承認コード (Forced Authorization Codes)]
- [クライアント識別コード (Client Matter Codes)]
- [コールピックアップグループ (Call Pickup Group)]
- [モビリティ (Mobility)]

- [リージョンマトリクス (Region Matrix)]
- [インポート/エクスポート (Import/Export)]
- [電話の移行 (Phone Migration)]
- [EMCC]
- [Intercompany Media Engine (IME)]
- [CUPS]
- [TAPS]
- [ジョブスケジューラ (Job Scheduler)]

オプションを選択すると、対応するメニュー項目が表示されます。たとえば、[電話 (Phones)] を選択すると、次のメニュー項目が表示されます。

- [電話の確認 (Validate Phones)] : 電話機のレコードを確認します。
- [電話の挿入 (Insert Phones)] : 新しい電話機を追加します。
- [電話の更新 (Update Phones)] : 既存の電話機を見つけて修正します。
- [電話の削除 (Delete Phones)] : 電話機を見つけて削除します。
- [電話のエクスポート (Export Phones)] : 特定の電話機レコードまたはすべての電話機レコードを見つけてエクスポートします。
- [回線の追加/更新 (Add/Update Lines)] : 既存の電話機に新しい回線を追加します。また既存の電話機の回線を見つけて修正します。
- [電話のリセット/リスタート (Reset/Restart Phones)] : 電話機を見つけてリセットまたは再起動します。
- [電話レポートの作成 (Generate Phone Reports)] : 電話機に関するカスタマイズされたレポートを生成します。
- [電話の移行 (Migrate Phones)] : SCCP から SIP に電話機を移行します。

[一括管理 (Bulk Administration)] メニューからメニュー オプションを選択すると、対応するウィンドウ (たとえば [電話テンプレートの設定 (Phone Template Configuration)] ウィンドウ) が表示されます。設定ウィンドウには、テンプレートを定義するための入力フィールドがあります。

追加情報

「関連項目」(P.1-13) を参照してください。

BAT テンプレートの使用方法

BAT 設定プロセスの最初のタスクでは、設定するデバイス用のテンプレートを設定します。追加または修正する電話機またはデバイスのタイプを指定し、次に、バルク トランザクション内のすべての電話機またはデバイスに共通の機能を記載した BAT テンプレートを作成します。

BAT テンプレートを作成できるデバイス オプションのタイプは、次のとおりです。

- [電話 (Phones)] : すべての Cisco Unified IP Phone モデル、Cisco ATA 186、Cisco VGC 電話機、CTI ポート、および H.323 クライアント
- [ゲートウェイ (Gateways)] : Cisco VG200 および Cisco Catalyst 6000 FXS アナログ インターフェイス モジュール
- [ユーザデバイスプロファイル (User Device Profiles)] : Cisco Unified IP Phone 7900 シリーズおよび Cisco SoftPhone

バルク トランザクションにおいてすべてのデバイスに共通のテンプレート フィールドに値を指定して、BAT テンプレートを定義します。BAT テンプレート フィールドに必要な値は、Cisco Unified Communications Manager の管理ページでデバイスを追加するときに入力する値とほぼ同じです。

BAT テンプレートを作成する前に、デバイス プール、ロケーション、コーリング サーチ スペース、ボタン テンプレート、ソフトキー テンプレートなどの設定値が、Cisco Unified Communications Manager の管理ページに設定されていることを確認してください。

BAT テンプレートを作成したら、名前を付けて保存します。設定プロセスの後の部分で、このテンプレート名に CSV データ ファイルを関連付けます。テンプレートはシステムに保存されるので、今後のバルク トランザクションでこれらのテンプレートを再利用できます。たとえば、特定のボタン テンプレートとコーリング サーチ スペースを使用して Cisco IP Phone 7960 用テンプレートを設定した後で、違うボタン テンプレートを使用してエクステンション モビリティ機能が有効になっている別の Cisco IP Phone 7960 用テンプレートを設定できます。同じ設定を持つ多数の電話機を追加する必要があるときに、既存の BAT テンプレートを再利用できます。

マスター電話機テンプレート

複数の回線を持つ電話機のグループを追加する場合、複数の回線を備え、特定の電話機モデルに広く使用される値を持つマスター電話機テンプレートを作成します。マスター テンプレートを使用すると、マスター電話機テンプレートの回線数を上限として、異なる数の回線を持つ複数の電話機を追加できます。たとえば、8 回線を持つ Cisco Unified IP Phone 7960 用のマスター電話機テンプレートを作成するとします。このテンプレートを使用すると、1 回線または 2 回線から最大で 8 回線を持つ電話機を追加できます。

追加情報

「[関連項目](#)」(P.1-13) を参照してください。

CSV データ ファイルの処理

CSV データ ファイルには、各デバイスに固有な設定や情報（たとえば、電話番号、MAC アドレス、および説明）が含まれています。CSV データ ファイル内のすべての電話機とデバイスが、同じ電話機モデルとデバイス モデルであることと、BAT テンプレートと一致していることを確認してください。CSV データ ファイルには、BAT テンプレートの値の一部を複写できます。CSV データ ファイル内で値を設定すると、BAT テンプレートで設定されている値は上書きされます。この上書き機能によって、特殊な設定が可能になります。

テンプレート値の上書きの例

バルク トランザクション内の大部分の電話機を、ボイス メッセージ システムにリダイレクトする場合、[話中転送 (Forward Busy Internal/External)] (CFB) フィールドおよび [無応答時転送 (Forward No Answer Internal/External)] (CFNA) フィールドにボイス メッセージ番号を設定します。しかし、バルク トランザクション内の一部の電話機を、ボイス メッセージ システムではなく秘書にリダイレクトする場合は、CSV データ ファイル内の CFB フィールドおよび CFNA フィールドに、秘書の電話番号を指定できます。このように設定することによって、大部分の電話機は、BAT 電話機テンプレートから CFB および CFNA の値を使用しますが、一部の電話機は、CSV データ ファイルに指定されている秘書の電話番号を使用します。

電話機用の CSV データ ファイルには、複数の電話番号が含まれる場合があります。CSV データ ファイルに入力する電話番号の数は、BAT 電話機テンプレートで設定されている回線数を超えることはできません。回線数が設定値を超えると、エラーが発生します。

次のトピックでは、CSV データ ファイルのタイプについて説明します。

- 「新しいデバイスの追加用の CSV データ ファイル」(P.1-6)
- 「既存デバイスの更新用の CSV データ ファイル」(P.1-6)
- 「CSV データ ファイルのファイル形式のカスタマイズ」(P.1-7)

新しいデバイスの追加用の CSV データ ファイル

システムに新しいデバイスを追加する場合、BAT 専用に設計された Microsoft Excel スプレッドシートを使用できます。BAT スプレッドシートには、次に挙げる便利な機能があります。

- 異なるデバイス用のマクロを含むデータ ファイル テンプレート
- カスタマイズされたファイル形式定義
- 複数の電話回線のサポート
- エラー チェックの記録
- CSV 形式へのファイル変換

新しいレコードを作成する場合、BAT.xlt という名前の BAT スプレッドシートを使用します。このスプレッドシートを使用すると、CSV 形式にエクスポートするときにデータが自動的に確認されます。BAT スプレッドシートの使用方法の詳細については、「BAT スプレッドシートをデータ収集に使用する方法」(P.1-9) を参照してください。



(注)

BAT.xlt は、有効な文字、データ型、および特定のフィールドのフィールド長についてのみデータを検証します。詳細については、「CSV データ ファイルの電話機レコードの確認」(P.5-1) を参照してください。

CSV 形式のファイルの処理に精通している BAT ユーザであれば、テキスト エディタを使用して、デバイス挿入タスク ウィンドウに用意されているサンプル テキスト ファイルに準じて CSV データ ファイルを作成できます。テキストベースの CSV データ ファイルの詳細については、付録 A 「テキストベースの CSV ファイル」を参照してください。

追加情報

「関連項目」(P.1-13) を参照してください。

既存デバイスの更新用の CSV データ ファイル

既存の電話機とデバイスを修正または更新するには、これらのデバイスのレコードを検索する必要があります。BAT には、電話機、ゲートウェイ、およびデバイス プロファイルを検索する方法が 2 つ用意されています。カスタマイズされたクエリーを使用するか、またはカスタム ファイルを使用して検索できます。

カスタマイズされたクエリー

BAT には、クエリー基準を定義するためのウィンドウがあります。特定のデバイス モデルを選択するか、デバイス詳細のリストと回線詳細のリストから検索条件を選択します。両方を選択することも可能です。特定のデバイス モデル (たとえば Cisco IP Phone 7912) のすべてのデバイスを検索する場合は、モデルは選択しますが、他の検索条件は追加しません。この処理によって、データベースに設定されている Cisco Unified IP Phone 7912 すべてのレコードを取得できます。

カスタム ファイル

クエリーで使用できる共通のアトリビュートがない場合は、BAT が提供するカスタム ファイル オプションを使用します。カスタム ファイルには、デバイス名または電話番号が記載されています。カスタム テキスト ファイルを作成するときは、それぞれのレコードを別々の行に記述します。検索を実行すると、条件に一致するレコードをすべて取得できます。

エクスポート ファイル

電話機のグループを移動する必要がある場合は、エクスポート ユーティリティを使用します。エクスポート ユーティリティを使用すると、Cisco Unified Communications Manager データベース内の既存レコードを抽出し、CSV データ ファイルに移動できます。電話機を移動するときは、[電話のエクスポート (Export Phones)] の [電話のすべての詳細 (All Phone Details)] オプションを使用します。このオプションを使用すると、電話機に関連する情報 (デバイス アトリビュート、回線アトリビュート、サービスなど) をすべて持つレコードを含むエクスポート ファイルが生成されます。同じような回線設定を持つ電話機が複数ある場合、テンプレートを使用すれば、特定の詳細情報を持つ電話機レコードをエクスポートすることもできます。エクスポート ユーティリティを使用したデバイスの更新の詳細については、「電話機エクスポートの使用方法」(P.9-2) を参照してください。

追加情報

「関連項目」(P.1-13) を参照してください。

CSV データ ファイルのファイル形式のカスタマイズ

CSV データ ファイルには、デバイス アトリビュートを表す文字列と、カンマ区切り値 (CSV) 形式で記述された情報が格納されています。Cisco Unified Communications Manager データベースにデータレコードを挿入する場合は、各データ ファイルが CSV 形式であることを確認してください。以前のリリースの BAT では、CSV ファイルの形式は決まっており、次の 2 つのオプションがありました。

- デフォルト形式：各デバイスに対して制限された固定数のアトリビュートと設定を持つ CSV ファイル
- すべての詳細形式：エクスポート ユーティリティにより作成され、各デバイスのアトリビュートと設定すべてを持つ CSV ファイル

CSV データ ファイルの最初の行には、ファイル形式、つまり、CSV ファイルに含まれている各フィールドの名前が表示されます。このファイル形式情報を利用すると、CSV データ ファイル内の特定のフィールドのエントリを簡単に見つけることができます。たとえば、次に示す CSV ファイルの例では、USER ID はヘッダー内の 4 番目のフィールドを表しており、電話機に対応した CSV ファイルでは、4 番目のフィールドは「johns」になっています。

デフォルトのファイル形式の CSV データ ファイルの例

```
MAC ADDRESS,DESCRIPTION,LOCATION,USER ID,DIRECTORY NUMBER 1,DISPLAY 1,LINE TEXT LABEL
1,FORWARD BUSY EXTERNAL 1,FORWARD NO ANSWER EXTERNAL 1,FORWARD NO COVERAGE EXTERNAL
1,FORWARD BUSY INTERNAL 1,FORWARD NO ANSWER INTERNAL 1,FORWARD NO COVERAGE INTERNAL 1,CALL
PICKUP GROUP 1,SPEED DIAL NUMBER 1, SPEED DIAL LABEL 1
1231123245AB,SEP1231123245AB,Dallas,johns,9728437154,9728437154,Mike,9728437172,9728437196
,9728437127,9728437154,9728437178,9728437189,9728437121/TollByPass,1230000000,Helpdesk
9728437127,9728437154,9728437178,9728437189,Marketing,1230000000,Helpdesk
```

このリリースでは、[電話ファイル形式の作成 (Create Phone File Format Configuration)] ウィンドウを使用して、CSV データ ファイルのファイル形式をカスタマイズできるようになりました。BAT テンプレートに含まれているアトリビュートを、独自のファイル形式に追加できます。この機能を使用すると、テンプレートのエントリを、デバイス用の特定のアトリビュート値で上書きできます。たとえば、独自のファイル形式のルートパーティションアトリビュートを選択し、電話機ごとに、異なるパーティションを CSV データ ファイルに入力できます。

このウィンドウでは、[デバイスフィールド(Device Fields)] と [回線フィールド(Line Fields)] フィールドから特定のアトリビュートを選択できます。

次のデバイス アトリビュートは、すべてのファイル形式に必ず含まれます。

- MAC Address
- Description

[ファイル形式(File Format Configuration)] ダイアログボックスでは、[デバイスフィールド(Device Fields)] ボックスでデバイス アトリビュートを簡単に選択できます。矢印をクリックすると、そのアトリビュートを [選択済みのデバイスフィールド(Selected Device Fields)] ボックスに移動できます。Ctrl キーを押したまま選択すると、複数のアトリビュートを同時に選択できます。

ファイル形式内のデバイス アトリビュート フィールドと回線アトリビュート フィールドの順序は、上向き矢印と下向き矢印を使用して変更できます。アトリビュートを選択した後に、上向き矢印をクリックすると、その項目は前方に移動し、下向き矢印をクリックすると、その項目は後方に移動します。回線アトリビュートをデバイス アトリビュートより前に移動したり、スピードダイヤルの順序を変更したりすることはできません。



ヒント

CSV ファイル形式は、別のデータベースに格納されている従業員の電話機情報の配列に合うようにカスタマイズすることもできます。この方法を利用すると、会社のデータベースと Cisco Unified Communications Manager データベースとの間でデータを簡単にエクスポートできます。

カスタマイズされたファイル形式の CSV データ ファイルの例

[デバイスフィールド(Device Fields)] : MAC Address、Description、Device Pool、CSS

[回線フィールド(Line Fields)] : Directory number、Partition、Line Text Label (ファイル内では電話番号の後に移動)

[ファイル形式(File Format)] には、スピードダイヤルのコードは含まれません。[CSV 形式にスピードダイヤルを含める(Include Speed Dials in the CSV Format)] チェックボックスをオンにして、スピードダイヤルを選択します。

```
MAC ADDRESS,DESCRIPTION,DEVICE POOL,CSS,DIRECTORY NUMBER,LINE TEXT LABEL,PARTITION,
2234900AEF01,SEP2234900AEF01,DP_1,CSS_Restricted,
9725098827,Lobby Phone,Part1
```

ファイル形式と CSV データ ファイルの関連付け

テキスト エディタを使用して CSV データ ファイルを作成する場合、最初に、カスタマイズされたファイル形式を作成し、そのファイル形式で指定した順序で値を入力することができます。カスタマイズされたファイル形式のテキストベースの CSV データ ファイルを挿入する前に、その CSV データ ファイルにファイル形式名を関連付ける必要があります。1 つの CSV データ ファイルに関連付けられるファイル形式は 1 つだけです。

[ファイル形式の追加(Add File Format)] ウィンドウを使用して、[ファイル名(File Name)] ドロップダウン リストで CSV データ ファイル <CSV ファイル名>.txt を選択します。次に、[形式ファイル名(Format File Name)] ドロップダウン リストで、希望するファイル形式を選択します。CSV データ ファイル内のデータは、選択したカスタム ファイル形式と一致している必要があります。

追加情報

「関連項目」(P.1-13) を参照してください。

BAT スプレッドシートをデータ収集に使用する方法

BAT スプレッドシートを使用すると、CSV データ ファイルを簡単に作成できます。複数のデバイスを追加し、各デバイスのレコードをスプレッドシート形式で表示できます。スプレッドシート内のファイル形式はカスタマイズ可能です。確認とエラー チェックが自動的に行われるので、設定エラーを減少させることができます。BAT スプレッドシートの下部には複数のタブがあり、このタブを使用して、BAT 内のさまざまなデバイスとユーザの組み合わせに必要なデータ入力フィールドにアクセスできます。



(注) BAT.xlt は、有効な文字、データ型、および特定のフィールドのフィールド長についてのみデータを検証します。詳細については、「[CSV データ ファイルの電話機レコードの確認](#)」(P.5-1) を参照してください。

CSV データ ファイルは、BAT テンプレートと連携して動作します。たとえば、BAT スプレッドシートの [Phones] タブでは、[Location]、[Forward Busy Destination]、または [Call Pickup Group] の各フィールドをブランクのままにすることができます。その場合、これらのフィールドには、BAT 電話機テンプレートからの値が使用されます。しかし、[Forward Busy Destination] フィールドまたは [Call Pickup Group] フィールドに値を指定すると、その値が BAT 電話機テンプレートでこれらのフィールドに対して設定されている値を上書きします。



ヒント

Cisco Unified Communications Manager をインストールすると、BAT スプレッドシート用の Microsoft Excel ファイルは最初のノードのデータベース サーバに置かれますが、通常、最初のノードのデータベース サーバは Microsoft Excel を実行していません。最初のノードのデータベース サーバから、作業用のローカル PC に BAT.xlt ファイルをダウンロードする必要があります。

ローカル マシンにダウンロードする手順については、[第 2 章「ファイルのアップロードとダウンロード」](#) を参照してください。BAT.xlt ファイルを Microsoft Excel がインストールされているローカル マシンにダウンロードします。

BAT.xlt スプレッドシートを使用して CSV データ ファイルを作成するには、BAT.xlt ファイルを見つけてダブルクリックします。BAT スプレッドシートを開くときは [マクロを有効にする] を選択しておく必要があります。

スプレッドシートには、アトリビュート ヘッダーを持つカラムのセットが表示されます。ヘッダーは、BAT フィールドの名前、必須フィールドであるかオプション フィールドであるかの区別、およびフィールドに入力可能な最大文字数を示すためのものです。

スプレッドシートの下部には、すべてのデバイスに対応するタブが表示されています。処理をするデバイス タイプのタブをクリックすると、カラムが調整され、選択したデバイスに関連するフィールドがすべて表示されます。たとえば、電話機とユーザを同時に追加するには、[Phones-Users] のマークが付いたタブをクリックします。



ヒント

スプレッドシートを開くときに「マクロを有効にする」オプションが表示されない場合は、Excel のマクロ セキュリティが「高」に設定されている可能性があります。実行するマクロのマクロ セキュリティが「中」か「低」であることを確認してください。マクロのセキュリティを「中」に設定するには、Excel メニューから [ツール] > [マクロ] > [セキュリティ] を選択します。[セキュリティ レベル] を [中] に設定します。Excel を閉じて、再度開きます。この操作により、次回にスプレッドシートを開くときに、「マクロを有効にする」オプションが表示されます。

次に、[ファイル形式の作成 (Create File Format)] ボタンをクリックして、CSV データ ファイルのファイル形式を定義します。[Field Selection] ダイアログボックスを使用して、CSV データ ファイルに含める項目と、項目の順序を選択します。[Create] をクリックすると、スプレッドシート内のカラムは、指定した新しいファイル形式に合わせて調整されます。

最初の行では、すべての必須フィールドおよび該当するオプション フィールドに、デバイスのデータを入力します。デバイスごとにデータを新しい行に入力してください。



(注) スプレッドシート内にブランク行がある場合、システムは「end of file」マーカーとして処理し、それ以降のレコードを廃棄します。

すべてのデバイス レコードの入力が完了したら、BAT スプレッドシート データを CSV ファイル形式でエクスポートします。BAT は、CSV ファイル形式を使用して、Cisco Unified Communications Manager の最初のノードのデータベースに対してバルク トランザクションを実行します。



(注) いずれかのフィールドにカンマを入力した場合、BAT.xlt を使用して BAT 形式にエクスポートするときに、そのフィールド エントリは二重引用符で囲まれます。

CSV 形式ファイルは、テキスト ファイルとして、ユーザが選択した別のフォルダに保存されます。ファイル名の形式は次のとおりです。

```
<tablename><timestamp>.txt
```

ここで、<tablename> は、作成したデバイス入力ファイルのタイプ（電話、ユーザ デバイス プロファイル など）を表します。<timestamp> は、ファイルが作成された正確な日時を表します。

次に、Cisco Unified Communications Manager の管理ページの一括管理 (Bulk Administration) で、[ファイルのアップロード/ダウンロード (Upload/Download Files)] オプションを使用して、変換した CSV データ ファイル (CSV 形式バージョン) を Cisco Unified Communications Manager データベース サーバに戻します。詳細については、第 2 章「ファイルのアップロードとダウンロード」を参照してください。

追加情報

「関連項目」(P.1-13) を参照してください。

BAT データ入力ファイルの確認

次のタスクでは、ファイルの確認オプションを使用します。このタスクでは、CSV データ ファイルの名前およびデバイス用の BAT テンプレートを選択します。CSV データ ファイルにすべての詳細が記述されている場合は、モデルを選択します。レコードの挿入方法としては、次のオプションがあります。

[固有の詳細 (Specific Details)] : デフォルト形式またはカスタム ファイル形式のレコードを確認します。

[すべての詳細 (All Details)] : エクスポート ユーティリティで [すべての詳細 (All Details)] オプションを使用して生成したファイルのレコードを確認します。

確認オプションを選択すると、システムは、最初のノードのデータベースの情報と照合してエラーをチェックする確認ルーチンを実行します。チェックされる項目は、次のとおりです。

- データベース テーブルに依存しないフィールド（たとえば、説明、表示テキスト、およびスピード ダイアル ラベル）に、有効な文字が使用されていること。

- BAT 確認トランザクションで、データ型、長さおよび依存関係を確認すること。

次の例を考慮します。

```
MAC ADDRESS,DESCRIPTION,PARTITION
```

```
AABBCC112233,Lab Phone,Dallas
```

パーティションが存在しない場合、「Dallas is not an existing PARTITION.」などのエラーメッセージが表示されます。

- デバイスに設定されている回線数が、デバイス テンプレートと一致していること（[固有の詳細 (Specific Details)] の場合のみ）。

ここでは、ユーザが存在するかどうか、または BAT で定義した必須フィールドやオプション フィールド（たとえばダミーの MAC アドレス）についてはチェックされません。

トランザクションが完了したら、[ジョブスケジューラ (Job Scheduler)] ウィンドウの [Log File Name] リンクをクリックして、正しいと確認できなかったデバイスと、エラー コードを示すログ ファイルを表示します。ログ ファイルの詳細については、[第 83 章「BAT および TAPS のトラブルシューティング」](#)を参照してください。

追加情報

[「関連項目」\(P.1-13\)](#) を参照してください。

BAT データ入力ファイルの挿入

データ入力ファイルの確認が終了したら、挿入ウィンドウを使用して、デバイス レコードを Cisco Unified Communications Manager の最初のノードにあるデータベースに追加できます。このタスクでは、データ入力ファイルの名前、デバイス用の BAT テンプレート、およびモデル（必要に応じて）を選択します。レコードの挿入方法としては、次のオプションがあります。

[固有の詳細 (Specific Details)] : カスタマイズされたファイル形式のレコードを挿入します。

[すべての詳細 (All Details)] : エクスポート ユーティリティで [すべての詳細 (All Details)] オプションを使用して生成したファイルのレコードを挿入します。

[ジョブ情報 (Job Information)] にジョブ情報の詳細を入力して [送信 (Submit)] をクリックします。ジョブが作成され、[一括管理 (Bulk Administration)] メニューの [ジョブスケジューラ (Job Scheduler)] オプションを使用してアクセスできるようになります。ステータスの表示、ジョブのスケジュールやアクティブ化には、[ジョブスケジューラ (Job Scheduler)] ウィンドウを使用します。



(注) 電話機レコードの回線情報に何らかの問題がある場合、BAT は、その電話機レコードを挿入しません。

トランザクションが完了したら、[ジョブスケジューラ (Job Scheduler)] ウィンドウで [Log File Name] をクリックすると、追加されたレコード数と問題のあるレコード数を示すログ ファイル（エラー コードを含む）が表示されます。ログ ファイルの詳細については、[第 83 章「BAT および TAPS のトラブルシューティング」](#)を参照してください。

追加情報

[「関連項目」\(P.1-13\)](#) を参照してください。

BAT アプリケーションの使用方法

次のトピックでは、BAT アプリケーションの基本情報、起動方法、および使用方法について説明します。

- 「Cisco Unified Communications Manager の管理ページおよび BAT へのアクセス」(P.1-12)
- 「オンライン ヘルプの使用方法」(P.1-12)
- 「BAT 設定プロセス」(P.1-3)
- 「BAT データ入力ファイル」(P.1-2)

Web ブラウザはリソース消費型のアプリケーションであるため、システム メモリと CPU サイクルを大量に消費します。Cisco Unified Communications Manager が必要としているリソースを Web ブラウザが使用すると、コール処理に悪影響が及びます。Web サーバや Cisco Unified Communications Manager と同じマシンで Web ブラウザを使用すると、発信音の遅延やコールの中断が発生する可能性があります。

Cisco Unified Communications Manager の管理ページおよび BAT へのアクセス

BAT は、Web ベースのアプリケーションであるため Web ブラウザを使用します。詳細および仕様については、『Cisco Unified Communications Manager アドミニストレーションガイド』を参照してください。

追加情報

「関連項目」(P.1-13) を参照してください。

オンライン ヘルプの使用方法

BAT オンライン ヘルプにアクセスするには、[ヘルプ] メニューを選択します。[ヘルプ] メニューには、次の 2 つのヘルプ機能があります。

- [目次とインデックス]: BAT ヘルプ ファイルを表示し、情報の参照または索引の検索ができます。
- [このページ]: 現在表示しているウィンドウについてのヘルプを直接開きます。引き続き、ヘルプの残りの項目を参照したり、インデックスを使用したりすることができます。

オンライン ヘルプに備えられたマルチボリューム システムにより、同じウィンドウから複数の異なるヘルプシステムにアクセスできます。総合的な検索エンジンとインデックスにもアクセスできます。

追加情報

「関連項目」(P.1-13) を参照してください。

Cisco Unified Communications Manager のバージョンの表示

Cisco Unified Communications Manager の現在のバージョンを確認するには、[ヘルプ] > [バージョン情報] の順に選択します。

追加情報

「関連項目」(P.1-13) を参照してください。

関連項目

- [「BAT データ入力ファイル」 \(P.1-2\)](#)
- [「BAT 設定プロセス」 \(P.1-3\)](#)
- [「BAT テンプレートの使用方法」 \(P.1-4\)](#)
- [「CSV データ ファイルの処理」 \(P.1-5\)](#)
- [「新しいデバイスの追加用の CSV データ ファイル」 \(P.1-6\)](#)
- [「既存デバイスの更新用の CSV データ ファイル」 \(P.1-6\)](#)
- [「CSV データ ファイルのファイル形式のカスタマイズ」 \(P.1-7\)](#)
- [「BAT スプレッドシートをデータ収集に使用する方法」 \(P.1-9\)](#)
- [「BAT データ入力ファイルの確認」 \(P.1-10\)](#)
- [「BAT データ入力ファイルの挿入」 \(P.1-11\)](#)
- [「BAT アプリケーションの使用方法」 \(P.1-12\)](#)
- [「Cisco Unified Communications Manager の管理ページおよび BAT へのアクセス」 \(P.1-12\)](#)
- [「オンライン ヘルプの使用方法」 \(P.1-12\)](#)
- [「Cisco Unified Communications Manager のバージョンの表示」 \(P.1-12\)](#)



PART 2

ファイルのアップロードとダウンロード



CHAPTER 2

ファイルのアップロードとダウンロード

この章では、Cisco Unified Communications Manager の最初のノードにファイルをアップロードする手順、およびローカルマシンにファイルをダウンロードする手順について説明します。

次の手順を使用します。

- 「ファイルの検索」(P.2-1)
- 「ファイルのダウンロード」(P.2-2)
- 「ファイルのアップロード」(P.2-3)
- 「ファイルの削除」(P.2-4)

ファイルの検索

Cisco Unified Communications Manager サーバからダウンロード可能なファイルを検索する手順は、次のとおりです。

手順

- ステップ 1** [一括管理 (Bulk Administration)] > [ファイルのアップロード/ダウンロード (Upload/Download Files)] の順に選択します。[ファイルの検索と一覧表示 (Find and List Files)] ウィンドウが表示されます。
- ステップ 2** 最初の [検索対象: ファイル、検索条件 (Find File where)] ドロップダウン リスト ボックスで、次のオプションのいずれかを選択します。
 - [名前 (Name)]
 - [タイプ (Type)]
- ステップ 3** 2 番目の [検索対象: ジョブ、検索条件 (Find Job where)] ドロップダウン リスト ボックスで、次のいずれかのオプションを選択します。
 - **ステップ 2** で [名前 (Name)] を選択した場合は、次のオプションのいずれかを選択して、**ステップ 4** に進みます。
 - [が次の文字列で始まる (begins with)]
 - [が次の文字列を含む (contains)]
 - [が次の文字列と等しい (is exactly)]
 - [が次の文字列で終わる (ends with)]
 - [が空である (is empty)]
 - [が空ではない (is not empty)]

- [ステップ 2](#) で [タイプ (Type)] を選択した場合は、[ステップ 4](#) に進みます。

ステップ 4 必要に応じて、適切な検索テキストを指定します。



ヒント データベースに登録されているすべてのファイルを表示するには、検索テキストを入力せずに [検索 (Find)] をクリックします。

ステップ 5 クエリーをさらに定義する場合や、複数のフィルタを追加する場合は、[絞り込み (Search Within Results)] チェックボックスをオンにし、ドロップダウン ボックスから [AND] または [OR] を選択して、[ステップ 2](#) ~ [ステップ 4](#) を繰り返します。

ステップ 6 [ステップ 2](#) で [タイプ (Type)] を選択した場合は、[項目を選択するか、検索テキストを入力してください (Select item or enter search text)] ドロップダウン ボックスから、次のオプションのいずれかを選択します。

- [挿入ファイル]
- [エクスポートファイル]
- [レポートファイル]
- [カスタムファイル]
- [ログファイル]
- [BAT Excel テンプレート]

ステップ 7 [検索 (Find)] をクリックします。

検索されたファイルのリストが、次の項目別に表示されます。

- [ファイル名 (File Name)]
- [機能タイプ (Function Type)]

[ステップ 2](#) で [タイプ (Type)] を選択した場合は、検索されたファイルのリストが、次の項目別に表示されます。

- [ファイル名 (File Name)]
- [起動日時 (Launch Date and Time)]

選択したファイルをダウンロードする手順については、「[ファイルのダウンロード](#)」(P.2-2) を参照してください。

追加情報

「[関連項目](#)」(P.2-4) を参照してください。

ファイルのダウンロード

Cisco Unified Communications Manager サーバからファイルをダウンロードする手順は、次のとおりです。

手順

ステップ 1 「[ファイルの検索](#)」(P.2-1) の手順に従って、ダウンロードするファイルを検索します。

ステップ 2 ダウンロードするファイルのチェックボックスをオンにし、[選択項目のダウンロード (Download Selected)] をクリックします。



(注) すべてのファイルをダウンロードするには、[すべてを選択 (Select All)] をクリックして [選択項目のダウンロード (Download Selected)] をクリックします。



(注) 複数のファイルを同時に選択してダウンロードすると、ファイルは共通の zip ファイルにダウンロードされます。

ステップ 3 [ファイルのダウンロード (File Download)] ポップアップ ウィンドウが表示されます。[保存 (Save)] をクリックします。

ステップ 4 [名前を付けて保存 (Save As)] ポップアップ ウィンドウで、ファイルの保存場所を選択し、[保存 (Save)] をクリックします。

ステップ 5 [ダウンロードの完了 (Download Complete)] ポップアップ ウィンドウが表示されます。ダウンロードしたファイルをすぐに開く場合は [ファイルを開く (Open)] を、後で開く場合は [閉じる (Close)] をクリックします。

追加情報

「関連項目」(P.2-4) を参照してください。

ファイルのアップロード

Cisco Unified Communications Manager サーバにファイルをアップロードする手順は、次のとおりです。

手順

ステップ 1 [一括管理 (Bulk Administration)] > [ファイルのアップロード/ダウンロード (Upload/Download Files)] の順に選択します。[ファイルの検索と一覧表示 (Find and List Files)] ウィンドウが表示されます。

ステップ 2 [新規追加 (Add New)] をクリックします。[ファイルのアップロード (File Upload Configuration)] ウィンドウが表示されます。

ステップ 3 [ファイル (File)] テキスト ボックスにアップロードするファイルのフルパスを入力するか、[参照...(Browse)] をクリックしてファイルを探します。

ステップ 4 [ターゲットの選択 (Select The Target)] ドロップダウン リスト ボックスから、ファイルを使用する対象のターゲットを選択します。

ステップ 5 [トランザクションタイプの選択 (Select Transaction Type)] ドロップダウン リスト ボックスから、そのファイルによって定義するトランザクションタイプを選択します。

ステップ 6 既存のファイルと同じ名前で上書きする場合は、[ファイルが存在する場合は上書きする。(Overwrite File if it exists.)] チェックボックスをオンにします。

ステップ 7 [保存 (Save)] をクリックします。アップロードが正常に実行されていることを示すステータスが表示されます。

追加情報

「[関連項目](#)」(P.2-4) を参照してください。

ファイルの削除

ファイルを削除する手順は、次のとおりです。

手順

-
- ステップ 1** 「[ファイルの検索](#)」(P.2-1) の手順に従って、削除するファイルを検索します。
- ステップ 2** [検索結果(Search Results)] 領域で、削除するファイルに対応したチェックボックスをオンにします。
- ステップ 3** [選択項目の削除>Delete Selected)] をクリックします。



(注) [検索結果(Search Results)] 領域に表示されているすべてのファイルを削除するには、[すべてを選択>Select All)] をクリックしてから [選択項目の削除>Delete Selected)] をクリックします。

- ステップ 4** 次に進むには、[OK] をクリックします。
- ステップ 5** これで、ファイルがサーバから削除されます。



(注) 削除対象として選択されたファイルがジョブの実行に使用中の場合、これらのファイルは削除されません。



(注) BAT.xlt ファイルは削除しないでください。

追加情報

「[関連項目](#)」(P.2-4) を参照してください。

関連項目

- 「[ファイルの検索](#)」(P.2-1)
- 「[ファイルのダウンロード](#)」(P.2-2)
- 「[ファイルのアップロード](#)」(P.2-3)
- 「[ファイルの削除](#)」(P.2-4)



PART 3

電話機



CHAPTER 3

電話機テンプレート

Cisco Unified Communications Manager 一括管理 (BAT) は、多数の電話機を一括して追加、更新、または削除する高速で効率的な方法を管理者に提供します。Cisco Unified Communications Manager の管理ページを通じて個々に更新を行う必要はありません。BAT を使用して次のタイプの電話機を処理することができます。

- Cisco Unified IP Phone (全モデル)
- CTI ポート
- H.323 クライアント

次のトピックでは、BAT を使用して電話機テンプレートと他の IP テレフォニー デバイスに関する作業を行う方法について説明します。

- 「[電話機の追加](#)」 (P.3-1)
- 「[BAT 電話機テンプレートの使用方法](#)」 (P.3-2)

電話機の追加

BAT を使用して、電話機と他の IP テレフォニー デバイスを Cisco Unified Communications Manager データベースに追加する場合は、各電話機に複数の回線、サービス、およびスピードダイヤルを追加することができます。CTI ポートと H.323 クライアントを追加することもできます。

電話機用の CSV データ ファイルを作成する方法としては、次の 2 つのオプションがあります。

- BAT スプレッドシート (BAT.xlt) を使用し、データを CSV 形式にエクスポートする。
- テキスト エディタを使用して、CSV 形式のテキスト ファイルを作成する (経験豊富なユーザ向け)。

電話機と IP テレフォニー デバイスを一括して追加するには、次の手順を実行します。

ステップ 1 [一括管理 (Bulk Administration)] > [電話 (Phones)] > [電話テンプレート (Phone Template)] の順に選択します。

[電話テンプレートの検索と一覧表示 (Find and List Phone Templates)] ウィンドウが表示されます。電話機テンプレートの設定の詳細については、「[BAT 電話機テンプレートの使用方法](#)」 (P.3-2) を参照してください。

ステップ 2 BAT スプレッドシートを使用して、電話機テンプレートを挿入するための CSV データ ファイルを作成する手順は、「[BAT スプレッドシートを使用した電話機用 CSV データ ファイルの作成](#)」 (P.3-57) を参照してください。

テキスト エディタを使用して CSV データ ファイルを作成する場合

- a. [一括管理 (Bulk Administration)] > [電話 (Phones)] > [電話ファイル形式 (Phone File Format)] > [ファイル形式の作成 (Create File Format)] の順に選択します。
[電話ファイル形式の検索と一覧表示 (Find and List Phone File Formats)] ウィンドウが表示されず。CSV データ ファイル用のファイル形式設定の詳細については、「[電話機のファイル形式の検索](#)」(P.4-2) を参照してください。
- b. テキスト エディタを使用して、使用するファイル形式に従った電話機用の CSV データ ファイルを作成します。テキストベースの CSV ファイル作成の詳細については、「[電話機用のテキストベース CSV ファイルの作成](#)」(P.A-2) を参照してください。
- c. [一括管理 (Bulk Administration)] > [電話 (Phones)] > [電話ファイル形式 (Phone File Format)] > [ファイル形式の追加 (Add File Format)] の順に選択します。
[ファイル形式の追加 (Add File Format Configuration)] ウィンドウが表示されます。ファイル形式の関連付けの詳細については、「[ファイル形式と CSV データ ファイルの関連付け](#)」(P.4-6) を参照してください。

ステップ 3 [一括管理 (Bulk Administration)] > [電話 (Phones)] > [電話の確認 (Validate Phones)] の順に選択します。
[電話の確認 (Validate Phones)] ウィンドウが表示されます。電話機レコードの確認の詳細については、[第5章「電話機レコードの確認」](#)を参照してください。

ステップ 4 [一括管理 (Bulk Administration)] > [電話 (Phones)] > [電話の挿入 (Insert phones)] の順に選択します。
[電話の挿入 (Insert Phones Configuration)] ウィンドウが表示されます。Cisco Unified Communications Manager データベースへの電話機レコードの挿入の詳細については、「[電話機の Cisco Unified Communications Manager への挿入](#)」(P.6-1) を参照してください。

追加情報

「[関連項目](#)」(P.3-83) を参照してください。

BAT 電話機テンプレートの使用方法

BAT 電話機テンプレートを使用して、一連の新しい電話機を追加するために共通の電話機アトリビュートを定義します。テンプレートの作成前に、電話機設定値（たとえば、デバイス プール、ロケーション、コーリング サーチ スペース、ボタン テンプレート、ソフトキー テンプレート）が、Cisco Unified Communications Manager の管理ページに設定されていることを確認してください。BAT で新しい設定値を作成することはできません。

次のトピックを使用して、BAT 電話機テンプレートに関する作業を行います。

- 「[BAT 電話機テンプレートの検索](#)」(P.3-3)
- 「[新しい BAT 電話機テンプレートの作成](#)」(P.3-4)
- 「[BAT テンプレートにおける回線の追加または更新](#)」(P.3-5)
- 「[BAT 電話機テンプレートのコピー](#)」(P.3-10)
- 「[テンプレートの削除](#)」(P.3-11)
- 「[BAT 電話機テンプレートのフィールドの説明](#)」(P.3-12)
- 「[BAT スプレッドシートを使用した電話機用 CSV データ ファイルの作成](#)」(P.3-57)

BAT 電話機テンプレートの検索

複数の電話機テンプレートに対応できるように、Cisco Unified Communications Manager では、固有の検索条件に基づいて特定の電話機テンプレートを検出できます。テンプレートを見つける手順は、次のとおりです。



(注)

ブラウザセッションの作業中、検索/一覧表示の検索プリファレンスはクライアント マシンのクッキーに格納されます。別のメニュー項目に移動してからこのメニュー項目に戻った場合、またはブラウザを閉じてから新しいブラウザ ウィンドウを再度開いた場合、検索を変更するまで Cisco Unified Communications Manager 検索プリファレンスが維持されます。

手順

ステップ 1 [一括管理(Bulk Administration)] > [電話(Phones)] > [電話テンプレート(Phone Template)] の順に選択します。

[電話テンプレートの検索と一覧表示 (Find and List Phone Templates)] ウィンドウが表示されます。2 つのドロップダウン リスト ボックスを使用して、テンプレートを検索します。

ステップ 2 最初の [検索対象: 電話テンプレート、検索条件:(Find Phone Templates where)] ドロップダウン リスト ボックスで、次のいずれかの検索条件を選択します。

- [デバイス名 (Device Name)]
- [説明 (Description)]
- [電話番号 (Directory Number)]
- [コーリングサーチスペース (Calling Search Space)]
- [デバイスプール (Device Pool)]
- [デバイスタイプ (Device Type)]
- [コールピックアップグループ (Call Pickup Group)]
- [LSC ステータス (LSC Status)]
- [認証文字列 (Authentication String)]
- [デバイスプロトコル (Device Protocol)]
- [セキュリティプロファイル (Security Profile)]
- [共通デバイス設定 (Common Device Configuration)]

2 番目の [検索対象: 電話テンプレート、検索条件:(Find Phone Template where)] ドロップダウン リスト ボックスで、次のいずれかの条件を選択します。

- [が次の文字列で始まる (begins with)]
- [が次の文字列を含む (contains)]
- [が次の文字列と等しい (is exactly)]
- [が次の文字列で終わる (ends with)]
- [が空である (is empty)]
- [が空ではない (is not empty)]

ステップ 3 必要に応じて、適切な検索テキストを指定し、[検索 (Find)] をクリックします。



ヒント データベースに登録されているすべての電話機テンプレートを検索するには、検索テキストを入力せずに [検索 (Find)] をクリックします。

検索されたテンプレートのリストが表示されます。

ステップ 4 レコードのリストから、検索条件に一致するデバイス名をクリックします。

選択した電話機テンプレートがウィンドウに表示されます。

追加情報

「関連項目」(P.3-83) を参照してください。

新しい BAT 電話機テンプレートの作成

電話機テンプレートを作成する手順は、次のとおりです。電話機テンプレートを作成したら、回線、サービス、およびスピードダイヤルを追加できます。電話機テンプレートを作成するには、次の手順を実行します。

手順

ステップ 1 [一括管理 (Bulk Administration)] > [電話 (Phones)] > [電話テンプレート (Phone Template)] の順に選択します。

[電話テンプレートの検索と一覧表示 (Find and List Phone Templates)] ウィンドウが表示されます。

ステップ 2 [新規追加 (Add New)] をクリックします。[新規電話テンプレートを追加 (Add a New Phone Template)] ウィンドウが表示されます。

ステップ 3 [電話のタイプ (Phone Type)] ドロップダウン リスト ボックスで、テンプレートを作成する対象の電話機のモデルを選択します。[次へ (Next)] をクリックします。

ステップ 4 [デバイスプロトコルの選択 (Select the Device Protocol)] ドロップダウン リスト ボックスで、デバイスプロトコルを選択します。[次へ (Next)] をクリックします。

[電話テンプレートの設定 (Phone Template Configuration)] ウィンドウに、選択したデバイス タイプに対応するフィールドとデフォルトのエントリが表示されます。

ステップ 5 [テンプレート名 (Template Name)] フィールドに、テンプレートの名前を入力します。名前には、50 文字以内の英数字を指定することができます。例 : Sales_7975。

ステップ 6 [デバイス情報 (Device Information)] 領域に、このバッチに共通する電話機設定値を入力します。フィールドの説明については、表 3-1 を参照してください。電話機モデルとデバイス タイプによっては、表に記載されているアトリビュートすべてを備えていないものがあります。

ステップ 7 この BAT 電話機テンプレートの設定値をすべて入力した後、[保存 (Save)] をクリックします。

ステップ 8 トランザクションが完了したことがステータスに示されたら、回線アトリビュートを追加することができます。

追加情報

「関連項目」(P.3-83) を参照してください。

BAT テンプレートにおける回線の追加または更新

次の手順を実行すると、BAT テンプレートに複数の回線を追加したり、既存の回線を更新したりすることができます。この BAT テンプレートで使用しているボタン テンプレートにより、追加または更新できる回線の数が決まります。複数の回線を持つマスター電話機テンプレートを作成することができます。さらに、マスターテンプレートを使用して、1 回線またはマスターテンプレートの回線数以下の複数回線を持つ電話機を追加することができます。詳細については、「[マスター電話機テンプレート \(P.1-5\)](#)」を参照してください。

手順

ステップ 1 「[BAT 電話機テンプレートの検索 \(P.3-3\)](#)」の手順に従って、回線を追加する電話機テンプレートを検索します。

ステップ 2 [電話テンプレートの設定 (Phone Template Configuration)] ウィンドウの [割り当て情報 (Association Information)] 領域で、[回線 [1] - 新規 DN を追加 (Line [1] - Add a new DN)] をクリックします。

[回線テンプレートの設定 (Line Template Configuration)] ウィンドウが表示されます。



(注) BAT テンプレート用に表示される最大回線数は、BAT 電話機テンプレートの作成時に選択したモデルとボタンテンプレートによって決まります。

ステップ 3 [表 3-2](#) で説明されている回線設定値に対して、適切な値を入力または選択します。この回線用に選択する設定値は、このバッチ内のすべての電話機またはユーザ デバイス プロファイルで使用されます。すべてのフィールドは、オプションです。

ステップ 4 [保存 (Save)] をクリックします。

BAT によって、回線が電話機テンプレート設定に追加されます。

ステップ 5 その他の回線の設定値を追加するには、[ステップ 2](#) ~ [ステップ 4](#) を繰り返します。



(注) [回線テンプレートの設定 (Line Template Configuration)] ウィンドウの右上隅にある [関連リンク (Related Links)] ドロップダウン リスト ボックスから [検索/リストに戻る (Back to Find/List)] を選択すると、[回線テンプレートの検索と一覧表示 (Find and List Line Templates)] ウィンドウが表示されます。既存の回線テンプレートを検索するには、適切な検索条件を入力して、[検索 (Find)] をクリックします。新しい回線テンプレートを追加するには、[回線テンプレートの検索と一覧表示 (Find and List Line Templates)] ウィンドウで、[新規追加 (Add New)] をクリックします。

回線テンプレートには、英数字を使用することをお勧めします。番号を指定すると、実際の電話番号と競合する可能性があるためです。英数字を使用することで、コール ピックアップ グループ番号やコール パーク番号などの情報との競合も回避できます。



(注) 一部の Cisco Unified IP Phone モデルでは、Cisco Unified IP Phone サービスとスピードダイヤルをテンプレートに追加することができます。詳細については、「[BAT テンプレートにおける IP サービスの追加または更新 \(P.3-6\)](#)」および「[BAT テンプレートにおけるスピードダイヤルの追加または更新 \(P.3-6\)](#)」を参照してください。

追加情報

「[関連項目 \(P.3-83\)](#)」を参照してください。

BAT テンプレートにおける IP サービスの追加または更新

各種の Cisco Unified IP Phone サービスが、この機能を備える Cisco Unified IP Phone モデルに登録できます。



(注)

固有のサービスパラメータを持つ IP サービスではなく共通のサービスパラメータを持つ IP サービスに、ユーザまたは電話機をまとめて登録できます。これは、電話テンプレートによって登録されているサービスでのみ有効です。固有のサービスパラメータを持つサービスの場合、CSV ファイルを使用して値を指定できます。

手順

- ステップ 1 「BAT 電話機テンプレートの検索」(P.3-3) の手順に従って、IP サービスを追加する電話機テンプレートを検索します。
- ステップ 2 [電話テンプレートの設定 (Phone Template Configuration)] ウィンドウの [割り当て情報 (Association Information)] 領域で、[新規 SURL を追加 (Add a new SURL)] をクリックします。
ポップアップ ウィンドウが表示されます。このウィンドウで、利用可能な Cisco Unified IP Phone サービスを登録できます。
- ステップ 3 [サービスの選択 (Select a Service)] ドロップダウン リストボックスで、すべての電話機に登録するサービスを選択します。[サービスの説明 (Service Description)] ボックスに、選択したサービスの詳細が表示されます。
- ステップ 4 [次へ (Next)] をクリックします。
- ステップ 5 必要に応じて、[サービス名 (Service Name)] フィールドでサービスの名前を変更します。
- ステップ 6 [保存 (Save)] をクリックして、これらの電話サービスを電話機テンプレートに関連付けます。
- ステップ 7 他のサービスを追加するには、ステップ 3 ～ステップ 6 を繰り返します。
- ステップ 8 すべてのサービスをテンプレートに追加するには、[更新 (Update)] をクリックします。
- ステップ 9 ポップアップ ウィンドウを閉じます。
- ステップ 10 引き続き「BAT テンプレートにおけるスピードダイヤルの追加または更新」(P.3-6) に進むことで、スピードダイヤルをテンプレートに追加することができます。

追加情報

「関連項目」(P.3-83) を参照してください。

BAT テンプレートにおけるスピードダイヤルの追加または更新

BAT テンプレートでスピードダイヤルを追加することも更新することもできます。

電話機ボタンテンプレートでスピードダイヤルボタンが設定されている場合は、電話機および Cisco VGC Phone にスピードダイヤルを指定できます。

手順

- ステップ 1 「BAT 電話機テンプレートの検索」(P.3-3) の手順に従って、スピードダイヤルを追加する電話機テンプレートを検索します。

- ステップ 2** [電話テンプレートの設定 (Phone Template Configuration)] ウィンドウの [割り当て情報 (Association Information)] 領域で [新規 SD を追加 (Add a new SD)] をクリックするか、同じウィンドウの右上隅にある [関連リンク (Related Links)] ドロップダウンリスト ボックスで [スピードダイヤルの追加/更新 (Add/Update Speed Dials)] を選択します。
- ポップアップ ウィンドウが表示されます。このウィンドウで、Cisco Unified IP Phone および拡張モジュールに対して、スピードダイヤル ボタンを指定できます。この BAT テンプレートで使用している電話機ボタンテンプレートによって、使用可能なスピードダイヤル ボタンの数が決まります。
- ステップ 3** [スピードダイヤル設定 (Speed Dial Settings)] 領域で、アクセス コードや長距離コードを含めて、電話番号を [番号 (Number)] フィールドに入力します。
- ステップ 4** [ラベル (Label)] フィールドに、スピードダイヤル番号に対応するラベルを入力します。
- ステップ 5** [ASCII ラベル (ASCII Label)] フィールドに、スピードダイヤル番号の ASCII ラベルを入力します。
- ステップ 6** [短縮ダイヤル設定 (Abbreviated Dial Settings)] 領域で、**ステップ 3** および**ステップ 5** を繰り返すと、該当する IP Phone モデルに短縮ダイヤルを設定することができます。
- ステップ 7** [保存 (Save)] をクリックします。
- BAT によってテンプレートにスピードダイヤル設定値が挿入され、ポップアップ ウィンドウが閉じます。

追加情報

「関連項目」(P.3-83) を参照してください。

BAT テンプレートにおけるビジー ランプ フィールドの追加または更新

BAT テンプレートでビジー ランプ フィールド スピードダイヤルの追加と更新ができます。

電話機ボタンテンプレートでスピードダイヤル ボタンが設定されている場合は、電話機および Cisco VGC Phone にビジー ランプ フィールド スピードダイヤルを指定できます。

手順

- ステップ 1** 「BAT 電話機テンプレートの検索」(P.3-3) の手順に従って、スピードダイヤルを追加する電話機テンプレートを検索します。
- ステップ 2** [電話テンプレートの設定 (Phone Template Configuration)] ウィンドウの [割り当て情報 (Association Information)] 領域で [新規 BLF SD を追加 (Add a new BLF SD)] をクリックするか、同じウィンドウの右上隅にある [関連リンク (Related Links)] ドロップダウンリスト ボックスで [ビジーランプフィールド スピードダイヤルの追加/更新 (Add/Update Busy Lamp Field Speed Dials)] を選択します。
- ポップアップ ウィンドウが表示されます。このウィンドウで、Cisco Unified IP Phone および拡張モジュールに対して、ビジー ランプ フィールド スピードダイヤル (BLF SD) ボタンを指定できます。この BAT テンプレートで使用している電話機ボタンテンプレートによって、使用可能な BLF SD ダイヤル ボタンの数が決まります。
- ステップ 3** [スピードダイヤル設定 (Speed Dial Settings)] 領域で、アクセス コードや長距離コードを含めて、電話番号を [接続先 (Destination)] フィールドに入力します。
- ステップ 4** ドロップダウン リスト ボックスから電話番号を選択します。[検索 (Find)] をクリックすると、電話番号を検索できます。
- ステップ 5** [ラベル (Label)] フィールドに、BLF SD 番号に対応するラベルを入力します。
- ステップ 6** [ASCII ラベル (ASCII Label)] フィールドに、BLF SD 番号に対応する ASCII ラベルを入力します。

ステップ 7 [保存 (Save)] をクリックします。

BAT によってテンプレートに設定値が挿入され、ポップアップ ウィンドウが閉じます。

BAT テンプレートにおけるビジー ランプ フィールド ダイレクト コール パークの追加または更新

BAT テンプレートで Busy Lamp Field (BLF; ビジー ランプ フィールド) ダイレクト コール パークの追加と更新ができます。

電話機ボタン テンプレートでスピード ダイヤル ボタンが設定されている場合は、電話機および Cisco VGC Phone に BLF ダイレクト コール パークを指定できます。

手順

ステップ 1 「BAT 電話機テンプレートの検索」(P.3-3) の手順に従って、BLF スピード ダイレクト コール パークを追加する電話機テンプレートを検索します。

ステップ 2 [電話テンプレートの設定 (Phone Template Configuration)] ウィンドウの [割り当て情報 (Association Information)] 領域で [新規 BLF ダイレクトコールパークの追加 (Add a new BLF Directed Call Park)] をクリックするか、同じウィンドウの右上隅にある [関連リンク (Related Links)] ドロップダウンリストボックスで [ビジーランプフィールドダイレクトコールパークの追加/更新 (Add/Update Busy Lamp Field Directed Call Park)] を選択します。

ポップアップ ウィンドウが表示されます。このウィンドウで、Cisco Unified IP Phone および拡張モジュールに対して、BLF ダイレクト コール パーク ボタンを指定できます。この BAT テンプレートで使用している電話機ボタンテンプレートによって、使用可能な BLF ダイレクト コール パーク ボタンの数が決まります。

ステップ 3 [割り当てられていないビジーランプフィールド/ダイレクトコールパークの設定 (Unassigned Busy Lamp Field/Directed Call Park Settings)] 領域で、ドロップダウン リスト ボックスから電話番号を選択します。[検索 (Find)] をクリックすると、電話番号を検索できます。

ステップ 4 [ラベル (Label)] フィールドに、BLF ダイレクト コール パーク番号に対応するラベルを入力します。

ステップ 5 [ASCII ラベル (ASCII Label)] フィールドに、BLF ダイレクト コール パーク番号に対応する ASCII ラベルを入力します。

ステップ 6 [保存 (Save)] をクリックします。

BAT によってテンプレートに BLF ダイレクト コール パーク設定が挿入され、ポップアップ ウィンドウが閉じます。

BAT テンプレートにおけるインターコム テンプレートの追加または更新

次の手順を実行すると、BAT テンプレートに複数のインターコム テンプレートを追加したり、既存のインターコム テンプレートを更新したりすることができます。この BAT テンプレートで使用しているボタンテンプレートにより、追加または更新できる回線の数が決まります。複数の回線を持つマスター電話機テンプレートを作成することができます。さらに、マスターテンプレートを使用して、1 回線またはマスターテンプレートの回線数以下の複数回線を持つ電話機を追加することができます。詳細については、「マスター電話機テンプレート」(P.1-5) を参照してください。

手順

ステップ 1 「BAT 電話機テンプレートの検索」(P.3-3) の手順に従って、インターコム テンプレートを追加する電話機テンプレートを検索します。

ステップ 2 [電話テンプレートの設定 (Phone Template Configuration)] ウィンドウの [割り当て情報 (Association Information)] 領域で、[インターコム [1] - 新規インターコムの追加 (Intercom [1] - Add a new Intercom)] をクリックします。

[インターコムテンプレートの設定 (Intercom Template Configuration)] ウィンドウが表示されます。



(注) BAT テンプレート用に表示される最大回線数は、BAT 電話機テンプレートの作成時に選択したモデルとボタンテンプレートによって決まります。

ステップ 3 表 3-3 で説明されているインターコム テンプレート設定値に対して、適切な値を入力または選択します。このインターコム テンプレート用に選択する設定値は、このバッチ内のすべての電話機またはユーザ デバイス プロファイルで使用されます。

ステップ 4 [保存 (Save)] をクリックします。

BAT によって、インターコム テンプレートが電話機テンプレート設定に追加されます。

ステップ 5 その他のインターコム テンプレートの設定値を追加するには、[ステップ 2](#) ～[ステップ 4](#) を繰り返します。



(注) [インターコムテンプレートの設定 (Intercom Template Configuration)] ウィンドウの右上隅にある [関連リンク (Related Links)] ドロップダウンリスト ボックスから [検索/リストに戻る (Back to Find/List)] を選択すると、[インターコム電話番号の検索と一覧表示 (Find and List Intercom Directory Numbers)] ウィンドウが表示されます。既存のインターコム電話番号を検索するには、適切な検索条件を入力して、[検索 (Find)] をクリックします。新しいインターコム電話番号を追加するには、[インターコム電話番号の検索と一覧表示 (Find and List Intercom Directory Numbers)] ウィンドウで、[新規追加 (Add New)] をクリックします。

インターコム テンプレートには、英数字を使用することをお勧めします。番号を指定すると、実際の電話番号と競合する可能性があるためです。英数字を使用することで、コール ピックアップ グループ番号やコール パーク番号などの情報との競合も回避できます。



(注) 一部の Cisco Unified IP Phone モデルでは、Cisco Unified IP Phone サービスとスピード ダイヤルをテンプレートに追加することができます。詳細については、「[BAT テンプレートにおける IP サービスの追加または更新](#)」(P.3-6)、「[BAT テンプレートにおける回線の追加または更新](#)」(P.3-5)、および「[BAT テンプレートにおけるスピード ダイヤルの追加または更新](#)」(P.3-6) を参照してください。

追加情報

「[関連項目](#)」(P.3-83) を参照してください。

BAT 電話機テンプレートの変更

既存の電話機またはユーザ デバイス プロファイル テンプレートを表示または修正する手順は、次のとおりです。回線、サービス、およびスピード ダイアルを追加または更新できます。

手順

- ステップ 1 「BAT 電話機テンプレートの検索」(P.3-3) の手順に従って、変更する電話機テンプレートを検索します。
- ステップ 2 [電話テンプレートの設定 (Phone Template Configuration)] ウィンドウで、テンプレートの設定値を追加、変更、または削除します。詳細については、「電話機テンプレートのフィールドの説明」(P.3-12) を参照してください。
- ステップ 3 設定値を変更した後、[保存 (Save)] をクリックしてテンプレートを更新します。
- ステップ 4 他のアトリビュートを更新する場合は、次の手順のいずれかを選択します。
 - 「BAT テンプレートにおける回線の追加または更新」(P.3-5)
 - 「BAT テンプレートにおける IP サービスの追加または更新」(P.3-6)
 - 「BAT テンプレートにおけるスピード ダイアルの追加または更新」(P.3-6)

追加情報

「関連項目」(P.3-83) を参照してください。

BAT 電話機テンプレートのコピー

変更するフィールドの数が少ない場合は、電話機テンプレートのプロパティを新しい電話機テンプレートにコピーできます。



(注)

作成する新しいテンプレートは、元のテンプレートとデバイス タイプが同じでなければなりません (たとえば、Cisco IP Phone 7975)。

既存の BAT 電話機テンプレートをコピーする手順は、次のとおりです。

手順

- ステップ 1 「BAT 電話機テンプレートの検索」(P.3-3) の手順に従って、コピーする電話機テンプレートを検索します。
- ステップ 2 [電話テンプレートの設定 (Phone Template Configuration)] ウィンドウで、コピーするテンプレートを確認し、[コピー (Copy)] をクリックします。



(注)

[電話テンプレートの検索と一覧表示 (Find and List Phone Templates)] ウィンドウから、電話機テンプレートをコピーすることもできます。コピーする電話機テンプレートに対応した、[コピー (Copy)] カラムまたは [スーパーコピー (Super Copy)] カラムのアイコンをクリックします。

テンプレートが複製され、コピーが作成されます。このコピーには、元のテンプレートで指定した値がすべて複製されます。[電話テンプレートの検索と一覧表示 (Find and List Phone Templates)] ウィンドウで [スーパーコピー (Super Copy)] カラムをクリックした場合、テンプレートに関連付けられているすべての回線も一緒にコピーされます。

- ステップ 3** [テンプレート名 (Template Name)] フィールドに、テンプレートの名前を入力します。名前には、50 文字以内の英数字を指定することができます。例：Sales_7975。
- ステップ 4** 必要に応じて、新しいテンプレートのフィールドを更新します。詳細については、「電話機テンプレートのフィールドの説明」(P.3-12) を参照してください。
- ステップ 5** [保存 (Save)] をクリックします。BAT に追加されるテンプレートが、左側の [電話テンプレート (Phone Template)] カラムに表示されます。
- ステップ 6** 電話機テンプレートに回線を追加する手順については、「BAT テンプレートにおける回線の追加または更新」(P.3-5) を参照してください。各種のサービスとスピードダイヤル ボタンを定義することもできます。

追加情報

「関連項目」(P.3-83) を参照してください。

テンプレートの削除

BAT テンプレートが不要になった場合は、削除することができます。テンプレートを削除する手順は、次のとおりです。

手順

- ステップ 1** 「BAT 電話機テンプレートの検索」(P.3-3) の手順に従って、削除する電話機テンプレートを検索します。
- ステップ 2** [電話テンプレートの設定 (Phone Template Configuration)] ウィンドウで、削除するテンプレートを確認し、[削除 (Delete)] をクリックします。



(注) [電話テンプレートの検索と一覧表示 (Find and List Phone Templates)] で電話機テンプレートを削除することもできます。削除するテンプレートの横のチェックボックスをオンにし、[選択項目の削除 (Delete Selected)] をクリックします。

削除操作を確認するように求めるメッセージが表示されます。

- ステップ 3** [OK] をクリックして、テンプレートを削除します。[電話テンプレートの検索と一覧表示 (Find and List Phone Templates)] ウィンドウの電話機テンプレート リストのリストから、テンプレート名が消去されます。



注意

特定の電話機テンプレートを使用するジョブを送信し、その電話機テンプレートを削除すると、ジョブも削除されます。

追加情報

「関連項目」(P.3-83) を参照してください。

BAT 電話機テンプレートのフィールドの説明

表 3-1 では、すべての IP テレフォニー デバイスの BAT 電話機テンプレートを追加する場合に表示されるフィールドすべてについて説明します。一部のデバイス タイプには、すべての電話機設定値を必要としないものもあります。

Cisco Unified Communications Manager の管理ページで設定された値を表示するフィールドもあります。

BAT ユーザ インターフェイスでは、アスタリスクが付いているフィールドには値を入力する必要があります。アスタリスクの付いていないフィールドはオプションです。

関連する手順については、「[関連項目](#)」(P.3-83) を参照してください。

表 3-1 電話機テンプレートのフィールドの説明

フィールド	説明
[デバイス情報 (Device Information)]	
[テンプレート名 (Template name)]	テンプレートの名前を入力します。
[説明 (Description)]	作成する電話機テンプレートの説明を入力します。説明には、任意の言語で最大 50 文字を指定できますが、二重引用符 (")、パーセント記号 (%)、アンパサンド (&)、バックスラッシュ (\)、または山カッコ (<>) は使用できません。
[デバイスプール (Device Pool)]	このグループの電話機またはポートのデバイス プールを選択します。デバイス プールは、デバイスに共通した特性のセット (たとえば、地域、日付/時刻グループ、Cisco Unified Communications Manager グループ、自動登録用のコーリング サーチ スペースなど) を定義します。
[共通デバイス設定 (Common Device Configuration)]	電話機に割り当てられる共通のデバイス設定を選択します。共通のデバイス設定には、特定のユーザに関連付けられているアトリビュート (サービスまたは機能) が含まれています。[共通デバイス設定 (Common Device Configuration)] ウィンドウで共通のデバイス設定を行います。 共通デバイス設定の設定値を参照するには、[詳細の表示] リンクをクリックします。
[電話ボタンテンプレート (Phone Button Template)]	このグループ内の全電話機のボタン テンプレートを選択します。ボタン テンプレートによって、ボタンの識別 (回線、スピードダイヤル) と電話機上のボタンの位置が決まります。ボタン テンプレートには、拡張モジュールが含まれます。
[ソフトキーテンプレート (Softkey Template)]	このグループ内のすべての電話機に使用されるソフトキー テンプレートを選択します。
[共通の電話プロフィール (Common Phone Profile)]	ドロップダウン リスト ボックスで、利用可能な共通の電話プロフィールのリストから、共通の電話プロフィールを選択します。
[コーリングサーチスペース (Calling Search Space)]	このグループの電話機またはポートのコーリング サーチ スペースを選択します。 コーリング サーチ スペースは、ルート パーティションの集合を指定するものです。ルート パーティションの集合は、ダイヤルされた番号のルーティング方法を決定するために検索されます。

表 3-1 電話機テンプレートのフィールドの説明 (続き)

フィールド	説明
[AAR コーリングサーチスペース (AAR Calling Search Space)]	デバイスが自動代替ルーティング (AAR) の実行時に使用する適切なコーリングサーチスペースを選択します。AAR コーリングサーチスペースは、ルートパーティションの集合を指定するものです。ルートパーティションの集合は、帯域幅不足のために本来ならブロックされるダイヤルされた番号のルーティング方法を決定するために検索されます。
[メディアリソースグループリスト (Media Resource Group List)]	このグループの電話機またはポートのメディアリソースグループリスト (MRGL) を選択します。 MRGL は、優先順位が付けられたメディアリソースグループのリストを指定します。アプリケーションは、MRGL に定義されている優先順位に従って、使用可能なメディアリソースの中から、必要なメディアリソースを選択できます。
[ユーザ保留 MOH 音源 (User Hold MOH Audio Source)]	このグループの電話機またはポートのユーザ保留オーディオソースを選択します。 ユーザ保留オーディオソースは、ユーザがコールを保留にしたときに再生される音楽のオーディオソースを特定します。
[ネットワーク保留 MOH 音源 (Network Hold MOH Audio Source)]	このグループの IP Phone またはポートのネットワーク保留オーディオソースを選択します。 ネットワーク保留オーディオソースは、システムがコールを保留にすると (たとえば、ユーザがコールを転送したときまたはコールパークに置いたとき) に再生される音楽のオーディオソースを特定します。
[ロケーション (Location)]	このグループの IP Phone またはポートの適切なロケーションを選択します。 ロケーションは、このロケーションの着信コールおよび発信コールに使用可能な合計帯域幅を指定します。ロケーションを [なし (None)] に設定すると、ロケーション機能がこの Cisco IP Phone の消費する帯域幅を管理しないことを示します。
[AAR グループ (AAR Group)]	このデバイスの自動代替ルーティング (AAR) グループを選択します。AAR グループはプレフィックス番号を提供するものです。プレフィックス番号は、帯域幅不足のために本来ならブロックされるコールをルーティングするために使用します。 AAR グループを [<なし (None)>] に設定すると、ブロックされたコールの再ルーティングは行われません。
[ユーザロケール (User Locale)]	このグループの IP Phone に関連付ける国/地域と言語の組み合わせを選択します。 この選択内容によって、言語やフォントを含むロケール属性のどれをこのユーザに適用するか、およびこのユーザの Cisco Unified Communications Manager のユーザウィンドウと電話機をどの言語で表示するかが決まります。
[ネットワークロケール (Network Locale)]	このグループの電話機に関連付けるネットワークロケールを選択します。 ネットワークロケールは、シスコのゲートウェイと電話機が、特定地域の PSTN およびその他のネットワークと通信するとき使用するトーンと断続周期を提供します。

表 3-1 電話機テンプレートのフィールドの説明 (続き)

フィールド	説明
[ビルトインブリッジ(Built In Bridge)]	<p>[ビルトインブリッジ(Built In Bridge)] ドロップダウン リストボックスを使用して、割り込み機能のためのビルトイン会議ブリッジを有効または無効にします ([オン(On)]、[オフ(Off)]、または [デフォルト(Default)] を選択します)。</p> <p>設定情報の詳細については、『Cisco Unified Communications Manager 機能およびサービス ガイド』の「割り込みとプライバシー」を参照してください。</p>
[プライバシー(Privacy)]	<p>プライバシーを必要とする電話機ごとに、[プライバシー(Privacy)] ドロップダウン リストボックスで [オン(On)] を選択します。</p> <p>設定情報の詳細については、『Cisco Unified Communications Manager 機能およびサービス ガイド』の「割り込みとプライバシー」を参照してください。</p>
[デバイスモビリティモード(Device Mobility Mode)]	<p>ドロップダウン リストボックスから、このデバイスのデバイスモビリティ機能のオンまたはオフを選択するか、[デフォルト(Default)] を選択してデフォルトのデバイスモビリティモードを使用します。</p> <p>[現在のデバイスモビリティ設定の表示(View Current Device Mobility Settings)] をクリックして、これらのデバイスモビリティパラメータの現在の値を表示します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [Cisco Unified CM グループ(Cisco Unified Communications Manager Group)] • [ローミング用デバイスプール(Roaming Device Pool)] • [ロケーション(Location)] • [リージョン(Region)] • [ネットワークロケール(Network Locale)] • [AAR グループ(AAR Group)] • [AAR コーリングサーチスペース(AAR Calling Search Space)] • [デバイスコーリングサーチスペース(Device Calling Search Space)] • [メディアリソースグループリスト(Media Resource Group List)] • [SRST] <p>ヒント 設定情報の詳細については、『Cisco Unified Communications Manager 機能およびサービス ガイド』の「デバイスモビリティ」の章を参照してください。</p>
[オーナーのユーザ ID(Owner User ID)]	<p>プライマリ電話機ユーザのユーザ ID を入力します。</p>

表 3-1 電話機テンプレートのフィールドの説明 (続き)

フィールド	説明
[モビリティユーザ ID(Mobility User ID)] (デュアルモードフォンのみ)	<p>ドロップダウンリスト ボックスから、このデュアルモードフォンが割り当てられているユーザのユーザ ID を選択します。</p> <p>(注) モビリティ ユーザ ID 設定は、デュアルモードフォンのモバイル コネクトおよびモバイル ボイス アクセス機能のために使用されます。</p> <p>(注) オーナーのユーザ ID とモビリティ ユーザ ID は異なることがあります。</p>
[電話機のパーソナライゼーション (Phone Personalization)]	<p>ドロップダウンリスト ボックスで電話機のパーソナライゼーションを有効または無効にするか、[デフォルト (Default)] を選択して共通の電話プロフィールに設定されている電話機のパーソナライゼーションを使用します。次のオプションのいずれかを選択できます。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [無効 (Disabled)] : 電話機のパーソナライゼーション設定をアクティブにしません。 • [有効 (Enabled)] : この設定は、電話機のスクリーンに使用される個人設定された背景イメージファイルや一時的な表示用のプレビュー イメージを受け入れます。また、個人設定されたトーン ファイルを受け入れて、デフォルトの呼出音を個人用に設定します。 • [デフォルト (Default)] : 共通の電話プロフィールに設定されている電話機のパーソナライゼーションを使用します。
[サービスのプロビジョニング (Services Provisioning)]	<p>ドロップダウンリスト ボックスにある次の値から、使用するサービスのプロビジョニングの設定値を選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [内部 (Internal)] • [外部 URL(External URLs)] • [両方 (Both)] • デフォルト : [内部 (Internal)] <p>このパラメータでは、電話機が設定ファイル (内部) からプロビジョニングされたサービスまたはサービス URL (外部の URL) から受信したサービスを使用するか、または両方を使用するかを制御します。[外部 URL(External URLs)] では、サードパーティのプロビジョニング サーバとの下位互換性を確保します。[両方 (Both)] オプションを使用すると、設定ファイルで指定されたサービスを登録できます。また、外部のプロビジョニング サーバからサービスを追加することもできます。</p> <p>これは必須フィールドです。</p>

表 3-1 電話機テンプレートのフィールドの説明 (続き)

フィールド	説明
[電話ロード名 (Phone Load Name)]	<p>該当する場合は、カスタム電話機ロードを入力します。</p> <p>(注) このフィールドに入力される値は、選択されたモデルのデフォルト値を上書きします。</p> <p>Cisco IP Phone ソフトウェアおよび設定の詳細については、電話機モデルに対応する『<i>Cisco IP Phone Administration Guide for Cisco Unified Communications Manager</i>』を参照してください。</p>
[ワンボタン割り込み (Single Button Barge)]	<p>ドロップダウンリストボックスでデバイスのワンボタン割り込み/C割り込み機能を有効または無効にするか、[デフォルト (Default)] を選択してサービス パラメータの設定値を使用します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [オフ (Off)] : ワンボタン割り込み/C 割り込み機能を無効にします。ただし、通常の割り込みまたは C 割り込み機能は使用できます。 • [割り込み (Barge)] : ワンボタン割り込み機能を有効にします。 • [C 割込 (cBarge)] : ワンボタン C 割り込み機能を有効にします。 • [デフォルト (Default)] : サービス パラメータで設定されているワンボタン割り込み/C 割り込みの値を使用します。 <p>ヒント 設定情報の詳細については、『<i>Cisco Unified Communications Manager 機能およびサービス ガイド</i>』の「割り込みとプライバシー」を参照してください。</p>
[回線をまたいで参加 (Join Across Lines)]	<p>ドロップダウン リストボックスで、このデバイスの回線をまたいで参加の機能を有効または無効にするか、[デフォルト (Default)] を選択して、サービス パラメータの設定値を使用します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [オフ (Off)] : 回線をまたいで参加機能を無効にします。 • [オン (On)] : 回線をまたいで参加機能を有効にします。 • [デフォルト (Default)] : サービス パラメータの回線をまたいで参加設定を使用します。

表 3-1 電話機テンプレートのフィールドの説明 (続き)

フィールド	説明
[信頼できるリレーポイントを使用 (Use Trusted Relay Point)]	<p>ドロップダウンリストボックスで、Cisco Unified Communications Manager がこのメディア エンドポイントに Trusted Relay Point (TRP; 信頼できるリレー ポイント) デバイスを追加するかどうかを有効または無効にします。次の値のいずれかを選択してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [デフォルト (Default)] : この値を選択すると、デバイスが関連付けられている共通デバイス設定の [信頼できるリレーポイントを使用 (Use Trusted Relay Point)] の設定値を使用します。 • [オフ (Off)] : この値を選択して、デバイスでの TRP の使用を無効にします。この設定値は、デバイスが関連付けられている共通デバイス設定の [信頼できるリレーポイントを使用 (Use Trusted Relay Point)] の設定値を上書きします。 • [オン (On)] : この値を選択して、デバイスでの TRP の使用を有効にします。この設定値は、デバイスが関連付けられている共通デバイス設定の [信頼できるリレーポイントを使用 (Use Trusted Relay Point)] の設定値を上書きします。 <p>信頼できるリレー ポイント (TRP) デバイスでは、信頼できるリレー ポイントとして表示されている MTP またはトランスコーダを指定します。</p> <p>複数のリソースがエンドポイント (トランスコーダ、RSVP エージェントなど) に対して必要な場合、Cisco Unified Communications Manager では、関連付けられたエンドポイント デバイスに最も近い場所に TRP を配置します。</p> <p>TRP と MTP の両方がエンドポイントに必要な場合、TRP は必要な MTP として使用されます。</p> <p>ヒント コールの動作の詳細については、『Cisco Unified Communications Manager システム ガイド』で TRP の挿入に関する要件の説明を参照してください。</p>
[BLF オーディオアラート設定 (BLF Audible Alert Setting、電話がアイドルのとき)]	<p>ドロップダウンリスト ボックスにある次の値から、使用する BLF オーディオ アラートの設定値を選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [オン (On)] • [オフ (Off)] • [デフォルト (Default)] <p>コールがビジー ランプ フィールド (BLF) ボタンで監視されている回線のいずれかに着信した場合、このパラメータで現在アイドルの電話機にオーディオ アラートとビジュアル アラートを送信します。</p> <p>これは必須フィールドです。</p>

表 3-1 電話機テンプレートのフィールドの説明 (続き)

フィールド	説明
[BLF オーディオアラート設定 (BLF Audible Alert Setting、電話がビジーのとき)]	<p>この必須フィールドでは、コールがビジー ランプ フィールド (BLF) ボタンで監視されている回線のいずれかに着信した場合、このパラメータで現在使用中の電話機にオーディオ アラートとビジュアル アラートを送信します。</p> <p>ドロップダウン リスト ボックスにある次の値から、使用する BLF オーディオ アラートの設定値を選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [オン (On)] • [オフ (Off)] • [デフォルト (Default)]
[常にプライム回線を使用する (Always Use Prime Line)]	<p>ドロップダウン リスト ボックスで、次のいずれかのオプションを選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [オフ (Off)] : 電話機がアイドル状態で、いずれかの回線でコールを受けたとき、電話機ユーザはコールを受けた回線でコールに応答します。 • [オン (On)] : 電話機がアイドル状態で (オフフック)、いずれかの回線でコールを受けたとき、プライマリ回線がコールに選択されます。他の回線のコールでは引き続き呼出音が鳴り、電話機ユーザは他の回線を選択してコールに応答する必要があります。 • [デフォルト (Default)] : Cisco Unified Communications Manager は常にプライム回線を使用するサービス パラメータの設定を使用します。これは、Cisco CallManager サービスをサポートします。
[ボイスメッセージには常にプライム回線を使用する (Always Use Prime Line for Voice Message)]	<p>ドロップダウン リスト ボックスで、次のいずれかのオプションを選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [オン (On)] : 電話機がアイドル状態の場合、電話機ユーザが電話機の [メッセージ] ボタンを押すと、電話機のプライマリ回線がボイスメッセージを取得するためのアクティブな回線になります。 • [オフ (Off)] : 電話機がアイドル状態の場合、電話機の [メッセージ] ボタンを押すと、ボイスメッセージのある回線からボイスメッセージ システムに自動的にダイヤルします。Cisco Unified Communications Manager は、ボイスメッセージのある最初の回線を常に選択します。ボイスメッセージのある回線がない場合は、電話機ユーザが [メッセージ] ボタンを押すとプライマリ回線が使用されます。 • [デフォルト (Default)] : Cisco Unified Communications Manager はボイスメッセージには常にプライム回線を使用するサービス パラメータの設定を使用します。これは、Cisco CallManager サービスをサポートします。

表 3-1 電話機テンプレートのフィールドの説明 (続き)

フィールド	説明
[発呼側トランスフォーメーション CSS(Calling Party Transformation CSS)]	<p>この設定を使用すると、デバイスの発呼側番号をローカライズすることができます。選択した [発呼側トランスフォーメーション CSS(Calling Party Transformation CSS)] には、このデバイスに割り当てる発呼側トランスフォーメーションパターンが含まれます。</p> <p>発呼側トランスフォーメーション CSS が存在するパーティションにパターンを割り当てる場合、デバイスは発呼側トランスフォーメーションパターンのアトリビュートを使用します。</p> <p>ヒント 詳細については、『<i>Cisco Unified Communications Manager 機能およびサービス ガイド</i>』を参照してください。</p>
[位置情報 (Geo Location)]	<p>ドロップダウン リスト ボックスから、位置情報を選択します。</p> <p>未指定の位置情報を選択できます。これは、このデバイスを位置情報に関連付けないことを示します。</p> <p>[システム] > [位置情報の設定] メニュー オプションで設定した位置情報を選択することもできます。</p>
[機能管理ポリシー (Feature Control Policy)]	<p>このグループの電話機の機能管理ポリシーを選択します。</p> <p>機能管理ポリシーは、機能のピアランスおよび電話機に表示される関連付けられたソフトキーを指定します。</p>
[デバイスプールの発呼側トランスフォーメーション CSS を使用 (Use Device Pool Calling Party Transformation CSS)]	<p>このデバイスに割り当てられているデバイス プールに設定された発呼側トランスフォーメーション CSS を使用するには、このチェックボックスをオンにします。このチェックボックスをオフにすると、デバイスはデバイス設定ウィンドウで設定した発呼側トランスフォーメーション CSS を使用します。</p>
[デバイスセキュリティモード (Device Security Mode)]	<p>ドロップダウン リスト ボックスから、デバイスに設定するモードを選択します。</p> <p>[Use System Default] : 電話機はエンタープライズ パラメータのデバイス セキュリティ モードに指定された値を使用します。</p> <p>[Non-secure] : 電話機にセキュリティ機能はありません。TCP 接続で Cisco Unified Communications Manager が利用できます。</p> <p>[Authenticated] : Cisco Unified Communications Manager は電話機の整合性と認証を提供します。NULL/SHA を使用する TLS 接続を開始します。</p> <p>[Encrypted] : Cisco Unified Communications Manager は電話機の整合性、認証、および暗号化を提供します。AES128/SHA を使用する TLS 接続を開始します。</p> <p>このフィールドが表示されるのは、電話機モデルが認証または暗号化をサポートしている場合だけです。</p>

表 3-1 電話機テンプレートのフィールドの説明 (続き)

フィールド	説明
[ビデオコールを音声として再試行 (Retry Video Call as Audio)]	<p>このチェックボックスは、コールを受けるビデオ エンドポイントだけに適用されます。この電話機がビデオとして接続していないコールを受けると、コールはオーディオ コールとして接続を試みます。</p> <p>デフォルトでは、このチェックボックスはオンになっています。つまり、ビデオ コールがビデオ コールとして接続できない場合に、このデバイスがビデオ コールをオーディオ コールとして即座に再試行し、その後で再ルーティングのためにコール制御にコールを送るよう指定されています。</p> <p>このチェックボックスをオフにすると、ビデオとして接続できないビデオ コールでは、オーディオ コールとしての接続確立が再試行されません。この場合、コールはコール制御を行わず、コール制御は Automatic Alternate Routing (AAR) やルート リスト、ハント リストによってコールをルーティングします。</p>
[プレゼンテーションインジケータを無視 (Ignore Presentation Indicators、内線コールのみ)]	<p>このチェックボックスをオンにすると、コール表示の制限をコールごとに設定できます。このチェックボックスをオンにすると、Cisco Unified Communications Manager では、内線コールのために受信したすべての表示制限が無視されます。</p>
[CTI からデバイスを制御可能 (Allow Control of Device from CTI)]	<p>このチェックボックスをオンにすると、CTI で制御可能なすべてのデバイスを CTI から制御できます。</p> <p>このチェックボックスは、CTI で制御可能なデバイスタイプおよびデバイスプロトコルに基づいて、オンまたはオフにできます。たとえば、SIP プロトコルを使用する 7975 は CTI ではサポートされていないので、チェックボックスをオフにする必要があります。SCCP プロトコルを使用する 7975 は CTI でサポートされているので、チェックボックスをオンにする必要があります。</p>
[ハントグループにログイン (Logged Into Hunt Group)]	<p>このチェックボックスは、デフォルトではすべての電話機でオンになっています。これは電話機がハント リスト (グループ) にログインしていることを示します。電話機がハント リストに追加されていると、管理者はこのチェックボックスをオンまたはオフにしてユーザをログインさせたりログアウトさせたりすることができます。</p> <p>ユーザは電話機のソフトキーを使用して、ハント リストに電話機をログインさせたりログアウトさせたりします。</p>
[リモートデバイス (Remote Device)]	<p>SCCP を介した接続で、リモート サイトへの接続時間が遅延する場合、[電話の設定 (Phone Configuration)] ウィンドウにある [リモートデバイス (Remote Device)] チェックボックスをオンにします。このチェックボックスをオンにすると、Cisco Unified Communications Manager では、電話デバイスが登録されたときにバッファを割り当て、電話機に SCCP メッセージを組み込みます。</p> <p>この機能はリソースを消費するので、SCCP を実行する電話機でシグナリング遅延が発生する場合にのみ、このチェックボックスをオンにしてください。通常、ユーザにはこのオプションは不要です。</p>

表 3-1 電話機テンプレートのフィールドの説明 (続き)

フィールド	説明
[保護されたデバイス (Protected Device)]	<p>このチェックボックスをオンにして、電話機を「保護された」デバイスとして指定します。これにより、コールが暗号化されていて、かつ、両方の電話機が保護されたデバイスとして設定されている場合、電話機では、2秒間のトーンを再生し、ユーザに通知することができます。コールに回答すると、トーンは発信と着信の両方で再生されます。両方の電話機が「保護されて」おらず、コールが暗号化されたメディア上で発生していない場合、トーンは再生されません。</p> <p>ヒント セキュアなトーン機能と設定要件の詳細については、『Cisco Unity Connection System Administration Guide』を参照してください。</p>
[ホットラインデバイス (Hotline Device)]	<p>このデバイスをホットライン デバイスにするには、このチェックボックスをオンにします。ホットライン デバイスは、他のホットライン デバイスにだけ接続できます。この機能は、オフフックになると自動的に1つの電話番号をダイヤルするように電話機を設定する PLAR の拡張機能です。ホットラインでは、PLAR を使用するデバイスに適用できる制限事項が追加されます。</p> <p>ホットラインを実装するには、補足サービス ソフトキーのないソフトキー テンプレートを作成して、ホットライン デバイスに適用する必要があります。</p>
<p>[関連付けられたモビリティ ID (Associated Mobility Identity)] : これらのモビリティ用フィールドは、Nokia S60 デバイスおよび Cisco Unified Mobile Communicator 電話機でだけ利用可能です。[新規携帯 ID の追加 (Add New Mobile Identity)] リンクをクリックして、[携帯 ID の設定 (Mobile Identity Configuration)] ページを表示します。</p>	
[名前 (Name)]	携帯 ID を識別する名前を入力します。
[接続先番号 (Destination Number)]	<p>携帯 ID に対応する電話番号を入力します。これには、外部の回線を取得するのに必要な追加の番号と市外局番が含まれています。最大フィールド長は 24 文字です。値として使用できるのは、0 ~ 9 の数字、* および # です。スマート フォンの宛先の発信者 ID を設定することをお勧めします。</p> <p>必要なトランスレーション パターンまたは宛先番号をルーティングするルート パターンを追加します。</p>
[最短応答タイマー (Answer Too Soon Timer)]	<p>携帯電話が応答されるまでに経過する最短時間 (ミリ秒)。</p> <p>範囲 : 0 ~ 10,000 ミリ秒</p> <p>デフォルト : 1,500 ミリ秒</p>
[最長応答タイマー (Answer Too Late Timer)]	<p>携帯電話が応答されるまでに経過する最長時間 (ミリ秒)。</p> <p>範囲 : 10,000 ~ 300,000 ミリ秒</p> <p>デフォルト : 19,000 ミリ秒</p>
[呼び出し前の遅延タイマー (Delay Before Ringing Timer)]	<p>コールがデスクトップ電話機から携帯電話に転送された場合、携帯電話で呼び出し音が鳴るまでに経過する時間を入力します。</p> <p>範囲 : 0 ~ 300,000 ミリ秒</p> <p>デフォルト : 4,000 ミリ秒</p>

表 3-1 電話機テンプレートのフィールドの説明 (続き)

フィールド	説明
[時刻アクセス (Time of Day Access)]	ドロップダウン リスト ボックスから、この宛先に関連付けられた時刻アクセス レコードを選択します。
[タイムゾーン (Time Zone)]	ドロップダウン リスト ボックスから、リモート接続先用に使用するタイム ゾーンを選択します。 (注) リモート接続先に使用するタイム ゾーンは時刻アクセス機能で使用され、接続先に対するコールを許可または拒否します。
[携帯電話 (Mobile Phone)]	デスクトップ電話機で応答されたコールをリモート接続先として携帯電話に転送する場合、このチェックボックスをオンにします。 (注) モバイル コネクトをリモート接続先で機能させるには、このチェックボックスをオンにする必要があります。
[モバイルコネクトの有効化 (Enable Mobile Connect)]	このチェックボックスをオンにすると、コールの着信時にデスクトップ電話機とリモート接続先で同時に呼び出し音を鳴らすことができます。
[関連付けられたリモート接続先 (Associated Remote Destinations)] : [新規リモート接続先の追加] リンクをクリックすると、[リモート接続先の設定 (Remote Destination Configuration)] ページが表示されます。	
[名前 (Name)]	リモート接続先を識別する名前を入力します。
[接続先番号 (Destination Number)]	接続先の電話番号を入力します。これには、外部の回線を取得するのに必要な追加の番号と市外局番が含まれています。最大フィールド長は 24 文字です。値として使用できるのは、0 ~ 9 の数字、* および # です。リモート接続先の発信者 ID を設定することをお勧めします。 必要なトランスレーション パターンまたは宛先番号をルーティングするルート パターンを追加します。
[最短応答タイマー (Answer Too Soon Timer)]	携帯電話が応答されるまでに経過する最短時間 (ミリ秒)。 範囲 : 0 ~ 10,000 ミリ秒 デフォルト : 1,500 ミリ秒
[最長応答タイマー (Answer Too Late Timer)]	携帯電話が応答されるまでに経過する最長時間 (ミリ秒)。 範囲 : 10,000 ~ 300,000 ミリ秒 デフォルト : 19,000 ミリ秒
[呼び出し前の遅延タイマー (Delay Before Ringing Timer)]	コールがデスクトップ電話機から携帯電話に転送された場合、携帯電話で呼び出し音が鳴るまでに経過する時間を入力します。 範囲 : 0 ~ 300,000 ミリ秒 デフォルト : 4,000 ミリ秒
[時刻アクセス (Time of Day Access)]	ドロップダウン リスト ボックスから、リモート接続先に関連付けられた時刻アクセス レコードを選択します。
[タイムゾーン (Time Zone)]	ドロップダウン リスト ボックスから、リモート接続先用に使用するタイム ゾーンを選択します。 (注) このリモート接続先に使用するタイム ゾーンは時刻アクセス機能で使用され、このリモート接続先に対するコールを許可または拒否します。

表 3-1 電話機テンプレートのフィールドの説明 (続き)

フィールド	説明
[携帯電話 (Mobile Phone)]	デスクトップ電話機で応答されたコールをリモート接続先として携帯電話に転送する場合、このチェックボックスをオンにします。 (注) モバイル コネクトをリモート接続先で機能させるには、このチェックボックスをオンにする必要があります。
[モバイルコネクトの有効化 (Enable Mobile Connect)]	このチェックボックスをオンにすると、コールの着信時にデスクトップ電話機とリモート接続先で同時に呼び出し音を鳴らすことができます。
[プロトコル固有情報 (Protocol Specific Information)]	
[パケットキャプチャモード (Packet Capture Mode)]	ドロップダウン リスト ボックスから、信号パケット キャプチャに設定するモードを選択します。 <ul style="list-style-type: none"> • [なし (None)] : モードを指定しない場合は [なし (None)] を選択します。 • [Real-Time Mode] : リアルタイム信号パケット キャプチャに使用します。 • [バッチ処理モード (Batch Processing Mode)] : 信号パケット キャプチャのバッチ処理に使用します。
[パケットキャプチャ時間 (Packet Capture Duration)]	パケット キャプチャの時間を分単位で入力します。最大 300 分の継続時間を入力できます。デフォルトの継続時間は 60 分です。
[プレゼンスグループ (Presence Group)]	プレゼンス機能で使用すると、SIP または SCCP を実行する電話機は、BLF スピードダイヤル ボタンとして電話機に設定されたプレゼンス エンティティに関するステータス (たとえば、電話番号) を要求するので、ウォッチャーとして機能します。 電話機によってプレゼンス エンティティのステータスを受信するには、電話番号に適用されるプレゼンス グループのステータスを [プレゼンスグループ (Presence Group)] ウィンドウに示されるとおり表示するよう許可されているプレゼンス グループを選択します。 ヒント プレゼンス機能の詳細については、『Cisco Unified Communications Manager 機能およびサービス ガイド』を参照してください。
[SIP ダイアルルール (SIP Dial Rules)]	必要に応じて、適切な SIP ダイアルルールを選択します。SIP ダイアルルールにより、SIP を実行する Cisco IP Phone 7905、7912、7940、および 7975 ではローカルのダイヤルプランを使用できるため、コールが処理される前にユーザがキーを押したりタイマーを待ったりする必要がなくなります。 ダイヤルルールを SIP を実行する IP Phone に適用しない場合は、[SIP ダイアルルール (SIP Dial Rules)] フィールドを [なし (None)] のままにします。この場合、コールを処理するには、ユーザが [ダイヤル] ソフトキーを使用するか、タイマーが期限切れになるのを待つ必要があります。
[デバイスセキュリティプロファイル (Device Security Profile)]	SCCP または SIP を実行する電話機の場合は、デバイスに適用するセキュリティ プロファイルを選択します。 すべての電話で、セキュリティ プロファイルを適用する必要があります。電話機がセキュリティをサポートしていない場合は、非セキュアなプロファイルを選択します。

表 3-1 電話機テンプレートのフィールドの説明 (続き)

フィールド	説明
[MTP優先発信コーデック(MTP Preferred Originating Codec)]	ドロップダウンリストボックスから、SIP コールにメディアターミネーションポイントが必要な場合に使用するコーデックを選択します。
[再ルーティング用コーリングサーチスペース(Rerouting Calling Search Space)]	ドロップダウンリストボックスから、再ルーティングに使用するコーリングサーチスペースを選択します。 参照側の再ルーティング用コーリングサーチスペースが、参照側からターゲットへのルート検索に使用されます。再ルーティング用コーリングサーチスペースが原因で参照が失敗した場合、参照プリミティブは、要求を拒否して「405 Method Not Allowed」というメッセージを返します。 リダイレクション(3xx)プリミティブおよび転送機能も、再ルーティング用コーリングサーチスペースを使用して、リダイレクトからまたは転送からターゲットへのルートを検索します。
[Out-Of-Dialog REFER コーリングサーチスペース(Out-Of-Dialog Refer Calling Search Space)]	ドロップダウンリストボックスから、Out-Of-Dialog REFER コーリングサーチスペースを選択します。 Cisco Unified Communications Manager は、Out-Of-Dialog (OOD) REFER 許可コーリングサーチスペース(CSS)を使用してSIP Out-Of-Dialog REFERを許可します。管理者は、参照側のOOD CSSを設定することによって、Out-Of-Dialog REFERの使用を制限します。参照プリミティブでは、OOD REFER要求を拒否し、「403 Forbidden」というメッセージを返します。
[SUBSCRIBE コーリングサーチスペース(SUBSCRIBE Calling Search Space)]	プレゼンス機能で使用了した場合、電話機からの登録要求をCisco Unified Communications Managerがルーティングする方法は、SUBSCRIBE コーリングサーチスペースによって決まります。ドロップダウンリストボックスから、この目的に使用するコーリングサーチスペースを選択します。 ヒント プレゼンス機能の詳細については、『Cisco Unified Communications Manager 機能およびサービスガイド』を参照してください。
[SIPプロファイル(SIP Profile)]	デフォルトのSIPプロファイルまたはすでに作成した特定のプロファイルを選択します。SIPプロファイルは、デフォルトのテレフォニーイベントペイロードのタイプ、登録タイマーおよびキープアライブタイマー、メディアポート、Iris、および動的DNSサーバアドレスなど、電話機の特定のSIP情報を提供します。
[ダイジェストユーザ(Digest User)]	ダイジェスト認証(SIPセキュリティ)で使用します。電話機に関連付けるエンドユーザを選択します。 選択したダイジェスト信用証明書が、[エンドユーザの設定(End User Configuration)]ウィンドウで指定されたとおりに設定されていることを確認します。 電話機の設定を保存し電話機をリセットした後、ユーザのダイジェスト信用証明書が、電話機の設定ファイルに追加されます。 ダイジェスト認証の詳細については、『Cisco Unified Communications Manager セキュリティガイド』を参照してください。

表 3-1 電話機テンプレートのフィールドの説明 (続き)

フィールド	説明
[メディアターミネーションポイントが必須(Media Termination Point Required)]	<p>H.323 がサポートしていない機能 (保留や転送など) の実装に Media Termination Point (MTP; メディア ターミネーション ポイント) を使用するかどうかを指示する場合に使用します。</p> <p>MTP を使用して機能を実装する場合は [メディアターミネーションポイントが必須(Media Termination Point Required)] チェックボックスをオンにします。MTP を使用して機能を実装しない場合は [メディアターミネーションポイントが必須(Media Termination Point Required)] チェックボックスをオフにします。</p> <p>このチェックボックスは、H.245 Empty Capabilities Set をサポートしていない H.323 クライアントと H.323 デバイスに対してだけ、またはメディア ストリームが単一ソースを通じて終了するようにする場合にだけ使用します。</p>
[不在ポート (Unattended Port)]	このデバイスの不在ポートを指定する場合は、このチェックボックスをオンにします。
[DTMF 受信が必要 (Require DTMF Reception)]	SIP および SCCP を実行する電話機の場合、このチェックボックスをオンにすると、電話機で DTMF を受信する必要があります。
[RFC2833 が無効 (RFC2833 Disabled)]	SCCP を実行する電話機で、このチェックボックスをオンにすると、RFC2833 サポートのサポートが無効になります。
[CAPF の情報 (Certification Authority Proxy Function (CAPF) Information)] (これらのパラメータは、認証または暗号化のサポート機能のあるデバイスの場合にだけ表示されます)	
[証明書の操作 (Certificate Operation)]	<p>ドロップダウン リスト ボックスで、次のオプションの中から実行する証明書のオペレーションを選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> [保留中の操作なし (No Pending Operation)] : このデバイスには保留中の証明書のオペレーション リストが存在しません。このオプションを選択すると、残りの CAPF フィールドは無効になります。 [インストール/アップグレード (Install/Upgrade)] : 証明書のオペレーションをインストールまたは更新します。 [削除 (Delete)] : 証明書のオペレーションを削除します。 [トラブルシューティング (Troubleshoot)] : 証明書のオペレーションのトラブルシューティングを行います。

表 3-1 電話機テンプレートのフィールドの説明 (続き)

フィールド	説明
[認証モード (Authentication Mode)]	<p>ドロップダウン リスト ボックスから、証明書 の 操作中に電話機を CAPF で 認証するために使用する 認証モードを、次の オプション から 選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [Null ストリング (By Null String)] : ユーザが 介入することなく、ローカルで有効な 証明書 をインストール、アップグレード、削除、または トラブルシューティングします。 • [<なし (None)>] <p>(注) この オプションは、認証モードの値を 指定するプロンプト を表示します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [認証ストリング (By Authentication String)] : ユーザが電話機に CAPF 認証文字列を入力した場合にのみ、ローカルで有効な 証明書 をインストール/アップグレード、削除、または トラブルシューティングできます。 • [既存の証明書 (LSC の優先) (By Existing Certificate (precedence to LSC))] : 製造元でインストールされる 証明書 (MIC) またはローカルで有効な 証明書 (LSC) が電話機に存在する場合、LSC をインストール、アップグレード、削除、または トラブルシューティングします。 <p>(注) この オプションを選択する前に、証明書が電話機に存在することを 確認してください。この オプションを選択して、証明書が電話機に存在しない場合、操作は失敗します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [既存の証明書 (MIC の優先) (By Existing Certificate (precedence to MIC))] : LSC または MIC が電話機に存在する場合、LSC をインストール、アップグレード、削除、または トラブルシューティングします。 <p>(注) この オプションを選択する前に、証明書が電話機に存在することを 確認してください。この オプションを選択して、証明書が電話機に存在しない場合、操作は失敗します。</p>
[認証文字列 (Authentication String)]	<p>セキュリティプロファイルの [認証モード (Authentication Mode)] ドロップダウン リスト ボックスで [認証ストリング (By Authentication String)] オプションを選択した場合、この設定が適用されます。4 ~ 10 桁の数値を手動で入力します。ローカルで有効な 証明書 をインストール、アップグレード、または トラブルシューティングするには、電話機のユーザまたは管理者が 認証文字列を電話機に入力する必要があります。</p>

表 3-1 電話機テンプレートのフィールドの説明 (続き)

フィールド	説明
[キーサイズ(Key Size、ビット)]	<p>ドリップダウン リスト ボックスで、証明書のキー サイズを次のオプションから選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 1024 : デフォルトのオプションです。 • [<なし (None)>] <p>(注) このオプションは、証明書のキー サイズの値を指定するプロンプトを表示します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 2048 • 512 <p>(注) デフォルト設定値よりも大きなキー サイズを選択すると、電話機がキーの生成に必要なエントロピーを生成する時間が長くなります。キー生成が低い優先順位で設定されていると、このアクションの実行中に電話機が機能します。電話機モデルによっては、キー生成が完了するのに 30 分以上かかる場合があります。</p>
[操作の完了期限(Operation Completes By)]	このフィールドでは、[証明書の操作(Certificate Operation)]の[インストール/アップグレード(Install/Upgrade)]、[削除(Delete)]、および[トラブルシューティング(Troubleshoot)]オプションがサポートされており、操作を完了する必要がある日付と時刻を指定します。
[証明書の操作ステータス(Certificate Operation Status)]	このフィールドには、認証操作の経過が表示されます。たとえば、<操作のタイプ> Pending、Failed、または Successful のように表示されます。操作のタイプには、[証明書の操作(Certificate Operation)]の[インストール/アップグレード(Install/Upgrade)]、[削除(Delete)]、および[トラブルシューティング(Troubleshoot)]オプションがあります。このフィールドに表示される情報は変更できません。
[拡張モジュール情報(Expansion Module Information)]	
[モジュール1(Module 1)]	電話機に取り付けられている場合は拡張モジュールを選択します。
[モジュール1ロード名(Module 1 Load Name)]	最初の Cisco Unified IP Phone Expansion Module のファームウェアロードを入力します (該当する場合)。デフォルト ロードを使用する場合は、このフィールドをブランクのままにします。
[モジュール2(Module 2)]	電話機に取り付けられている場合は拡張モジュールを選択します。
[モジュール2ロード名(Module 2 Load Name)]	2 番目の Cisco Unified IP Phone Expansion Module のファームウェアロードを入力します (該当する場合)。デフォルト ロードを使用する場合は、このフィールドをブランクのままにします。
[外部データ位置情報(External Data Locations Information、デフォルトを使用する場合はブランク)]	
[情報(Information)]	Cisco Unified IP Phone の情報ボタンのヘルプ テキスト URL を入力します。
[ディレクトリ(Directory)]	Cisco Unified IP Phone のディレクトリ サーバの URL を入力します。
[メッセージ(Messages)]	Cisco Unified IP Phone のボイス メッセージのアクセス パイロット番号を入力します。

表 3-1 電話機テンプレートのフィールドの説明 (続き)

フィールド	説明
[サービス (Services)]	Cisco Unified IP Phone のサービス メニューの URL を入力します。
[認証サーバ (Authentication Server)]	<p>電話機の Web サーバに対する要求を認証するときに、電話機が使用する URL を入力します。認証 URL を指定しない場合は、認証を必要とする Cisco Unified IP Phone モデルの拡張機能は動作しません。デフォルト設定値を受け入れる場合には、このフィールドをブランクのままにします。</p> <p>デフォルトでは、この URL は、インストール時に設定された Cisco Unified IP Phone ユーザ オプション ウィンドウにアクセスします。</p>
[プロキシサーバ (Proxy Server)]	<p>電話機の HTTP クライアントから非ローカル ホスト アドレスにアクセスするために、プロキシ HTTP 要求に使用されるホストおよびポート (たとえば、proxy.cisco.com:80) を入力します。</p> <p>電話機が、サービスの中で URL (たとえば、www.cisco.com) を受信するときに cisco.com ドメインで設定されていない場合、その電話機はプロキシサーバを使用してその URL にアクセスします。cisco.com ドメインで設定されている場合、電話機は、URL と同じドメインにいたので、プロキシを使用せずに URL にアクセスします。</p> <p>デフォルト設定値を受け入れる場合には、このフィールドをブランクのままにします。</p>
[アイドル (Idle)]	[アイドルタイマー (Idle Timer、秒)] フィールドで指定された時間、電話機が使用されなかったときに、Cisco Unified IP Phone LCD スクリーンにアイドル表示として表示される XML サービスの URL を入力します。たとえば、電話機が 5 分間使用されなかったときに、LCD スクリーンにロゴを表示できます。デフォルト値を使用する場合には、このフィールドをブランクのままにします。
[アイドルタイマー (Idle Timer、秒)]	電話機に許容される非動作時間 (秒数) を入力します。非動作のままこの時間が経過すると、電話機は [アイドル (Idle)] フィールドに指定された URL を表示します。デフォルト値を使用する場合には、このフィールドをブランクのままにします。
[セキュア認証 URL (Secure Authentication URL)]	<p>電話機の Web サーバに対する要求を検証するために、この電話機が使用するセキュア URL を入力します。</p> <p>(注) [セキュア認証 URL (Secure Authentication URL)] の値を指定しないと、デバイスでは非セキュア URL が使用されます。セキュア URL と非セキュア URL の両方を指定した場合、デバイスではデバイスの持つ機能に応じて適切な URL が選択されます。</p> <p>デフォルトでは、この URL は、インストール時に設定された Cisco Unified CM のユーザ オプション ウィンドウにアクセスします。</p> <p>デフォルト値を受け入れるには、このフィールドをブランクのままにします。</p> <p>最大長 : 255</p>

表 3-1 電話機テンプレートのフィールドの説明 (続き)

フィールド	説明
[セキュアディレクトリ URL(Secure Directory URL)]	<p>電話機がディレクトリ情報を取得する際の取得元となるサーバのセキュア URL を入力します。このパラメータは、ディレクトリ ボタンを押したときに、セキュリティ保護された Cisco Unified IP Phone で使用する URL を指定します。</p> <p>(注) [セキュアディレクトリ URL(Secure Directory URL)] の値を指定しないと、デバイスでは非セキュア URL が使用されます。セキュア URL と非セキュア URL の両方を指定した場合、デバイスではデバイスの持つ機能に応じて適切な URL が選択されます。</p> <p>デフォルト値を受け入れるには、このフィールドを空白のままにします。</p> <p>最大長：255</p>
[セキュアアイドル URL(Secure Idle URL)]	<p>[アイドルタイマー (Idle Timer、秒)] フィールドの指定に従って電話機がアイドル状態になったときに、Cisco Unified IP Phone のディスプレイに表示する情報のセキュア URL を入力します。たとえば、電話機が 5 分間使用されなかったときに、LCD 上にロゴを表示できます。</p> <p>(注) [セキュアアイドル URL(Secure Idle URL)] の値を指定しないと、デバイスでは非セキュア URL が使用されます。セキュア URL と非セキュア URL の両方を指定した場合、デバイスではデバイスの持つ機能に応じて適切な URL が選択されます。</p> <p>デフォルト値を受け入れるには、このフィールドを空白のままにします。</p> <p>最大長：255</p>
[セキュア情報 URL(Secure Information URL)]	<p>Cisco Unified IP Phone がヘルプテキスト情報を検索できるサーバロケーションのセキュア URL を入力します。この情報は、ユーザが情報 ([i]) ボタンまたは疑問符 ([?]) ボタンを押すと表示されます。</p> <p>(注) [セキュア情報 URL(Secure Information URL)] の値を指定しないと、デバイスでは非セキュア URL が使用されます。セキュア URL と非セキュア URL の両方を指定した場合、デバイスではデバイスの持つ機能に応じて適切な URL が選択されます。</p> <p>デフォルト値を受け入れるには、このフィールドを空白のままにします。</p> <p>最大長：255</p>

表 3-1 電話機テンプレートのフィールドの説明 (続き)

フィールド	説明
[セキュアメッセージ URL(Secure Messages URL)]	<p>メッセージサーバのセキュア URL を入力します。ユーザがメッセージ ボタンを押すと、Cisco Unified IP Phone はこの URL に接続されます。</p> <p>(注) [セキュアメッセージ URL(Secure Messages URL)] の値を指定しないと、デバイスでは非セキュア URL が使用されます。セキュア URL と非セキュア URL の両方を指定した場合、デバイスではデバイスの持つ機能に応じて適切な URL が選択されます。</p> <p>デフォルト値を受け入れるには、このフィールドを空白のままにします。</p> <p>最大長：255</p>
[セキュアサービス URL(Secure Services URL)]	<p>Cisco Unified IP Phone サービスのセキュア URL を入力します。これは、ユーザがサービス ボタンを押したときに、セキュアな Cisco Unified IP Phone が接続される場所です。</p> <p>(注) [セキュアサービス URL(Secure Services URL)] の値を指定しないと、デバイスでは非セキュア URL が使用されます。セキュア URL と非セキュア URL の両方を指定した場合、デバイスではデバイスの持つ機能に応じて適切な URL が選択されます。</p> <p>デフォルト値を受け入れるには、このフィールドを空白のままにします。</p> <p>最大長：255</p>
[内線情報 (Extension Information)]	
[エクステンションモビリティの有効化 (Enable Extension Mobility)]	<p>エクステンション モビリティ機能を使用可能にする場合に、このチェックボックスをオンにします。エクステンション モビリティを使用すると、ユーザは、Cisco IP Phone にログインおよびログアウトすることができます。エクステンション モビリティの詳細については、『Cisco Unified Communications Manager 機能およびサービス ガイド』を参照してください。</p>
[ログアウトプロファイル (Log Out Profile)]	<p>エクステンション モビリティのユーザがログアウトするときに電話機がロードするプロファイルを選択します。Cisco Unified Communications Manager の管理ページでログアウト プロファイルを設定する必要があります。</p> <p>[現在のデバイス設定を使用 --(Use Current Device Setting)] : これを選択すると、自動生成されたデバイス プロファイルが、デフォルト デバイス プロファイルとして作成されます。</p> <p>[ユーザデバイスプロファイルを選択 --(Select a User Device Profile)] : これを選択すると、定義済みのユーザ デバイス プロファイルが割り当てられ、このデバイスのデフォルト デバイス プロファイルになります。</p> <p>選択されたユーザ デバイス プロファイルは、ログインしているユーザがいないとき、デバイスにロードされます。</p>

表 3-1 電話機テンプレートのフィールドの説明 (続き)

フィールド	説明
[MLPP 情報 (Multilevel Precedence and Preemption (MLPP) Information)]	
[MLPP 表示 (MLPP Indication)]	<p>(使用可能な場合) 優先トーンを再生する機能のあるデバイスが、MLPP 優先コールを行うときにその機能を使用するかどうかを指定します。</p> <p>ドロップダウン リスト ボックスで、このデバイスに割り当てる設定値を次のオプションから選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [デフォルト (Default)] : デバイスは MLPP 表示設定をデバイス プールから継承します。 • [オフ (Off)] : デバイスは MLPP 優先コールの表示を送信しません。 • [オン (On)] : デバイスは MLPP 優先コールの表示を送信します。 <p>(注) [MLPP プリエンプション (MLPP Preemption)] が [強制 (Forceful)] で [MLPP 表示 (MLPP Indication)] が [オフ (Off)] という組み合わせではデバイスを設定しないでください。</p>
[MLPP プリエンプション (MLPP Preemption)]	<p>(使用可能な場合) 進行中のコールをプリエンプション処理する機能のあるデバイスが、MLPP 優先コールを行うときにその機能を使用するかどうかを指定します。</p> <p>ドロップダウン リスト ボックスで、このデバイスに割り当てる設定値を次のオプションから選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [デフォルト (Default)] : デバイスは MLPP プリエンプション 設定値をデバイス プールから継承します。 • [無効 (Disabled)] : デバイスは MLPP 優先コールを行うときに進行中のコールをプリエンプション処理しません。 • [強制 (Forceful)] : デバイスは MLPP 優先コールを行うときに進行中のコールをプリエンプション処理します。 <p>(注) [MLPP プリエンプション (MLPP Preemption)] が [強制 (Forceful)] で [MLPP 表示 (MLPP Indication)] が [オフ (Off)] という組み合わせではデバイスを設定しないでください。</p>
[MLPP ドメイン (MLPP Domain)] ("0000FF" など)	このデバイスに関連付けられている MLPP ドメインの 16 進数値を入力します。このフィールドはブランクまたは 0 ~ FFFFFFFF の値である必要があります。
[H.323 デバイス情報 (H.323 Device Information)]	
[シグナリングポート (Signaling Port)]	このデバイスが使用する H.225 シグナリング ポートを指定します。デフォルト値は 1720 です。有効な値は 1 ~ 65535 です。

表 3-1 電話機テンプレートのフィールドの説明 (続き)

フィールド	説明
[ビデオコールを音声として再試行 (Retry Video Call as Audio)]	<p>このチェックボックスは、コールを受けるビデオ エンドポイントだけに適用されます。この電話機がビデオとして接続していないコールを受けると、コールはオーディオ コールとして接続を試みます。</p> <p>デフォルトでは、このチェックボックスはオンになっており、送信側デバイスが、オーディオ コールとして接続していないビデオコールを即座に再試行し、その後で再ルーティングのためにコール制御にコールを送るよう指定されています。</p> <p>このチェックボックスをオフにすると、ビデオとして接続できないビデオ コールはコール制御を行えません。この時点で、コール制御はそのコールをルート リスト内で再ルーティングします。Automatic Alternate Routing (AAR) が設定され使用可能になっている場合、コール制御はルート リスト間のコールも再ルーティングします。</p>
[ファーエンド H.245 ターミナル機能セットを待機 (Wait for Far End H.245 Terminal Capability Set)]	<p>デフォルトでは、このチェックボックスはオンになっています。これは、Cisco Unified Communications Manager がデバイスと機能の交換を開始するように指定していることを意味します。このチェックボックスは、Cisco Unified Communications Manager が、先に遠端の H.245 ターミナル機能セットを受信してから、その H.245 ターミナル機能セットを送信する必要があることを指定します。</p>
[プロトコル固有情報 (Protocol Specific Information)]	
[SRTP を許可 (SRTP Allowed)]	<p>このチェックボックスをオンにすると、ネットワークで IPSec を設定してエンド ツー エンドのセキュリティを提供する必要があります。そのようにしないと、キーやその他の情報が公開されます。</p>
[MTP 優先発信コーデック (MTP Preferred Originating Codec)]	<p>ドロップダウン リスト ボックスから、SIP コールにメディア ターミネーション ポイントが必要な場合に使用するコーデックを選択します。</p>
[メディアターミネーションポイントが必須 (Media Termination Point Required)]	<p>H.323 がサポートしていない機能 (保留や転送など) の実装に Media Termination Point (MTP; メディア ターミネーション ポイント) を使用するかどうかを指示する場合に使用します。</p> <p>メディア ターミネーション ポイントを使用して機能を実装する場合は [メディアターミネーションポイントが必須 (Media Termination Point Required)] チェックボックスをオンにします。メディア ターミネーション ポイントを使用して機能を実装しない場合は [メディアターミネーションポイントが必須 (Media Termination Point Required)] チェックボックスをオフにします。</p> <p>このチェックボックスは、H.245 Empty Capabilities Set をサポートしていない H.323 クライアントと H.323 デバイスに対してだけ、またはメディア ストリームが単一ソースを通じて終了するようにする場合にだけ使用します。</p> <p>このチェックボックスをオンにして MTP を要求し、このデバイスがビデオ コールのエンドポイントになると、コールはオーディオ専用として機能します。</p>

表 3-1 電話機テンプレートのフィールドの説明 (続き)

フィールド	説明
[H.323 情報 (H.323 Information)]	
[発信者 ID パターン (Outgoing Caller ID Pattern)]	電話機への着信コールに対して、発信者 ID に使用するパターンを、0 ~ 24 桁で入力します。
[発呼者の選択 (Calling Party Selection)]	次のいずれかのオプションを選択して、送信される電話番号を指定します。 <ul style="list-style-type: none"> • [発信元 (Originator)] : コールの発信側デバイスの電話番号を送信します。 • [最初のリダイレクト番号 (First Redirect Number)] : リダイレクトするデバイスの電話番号を送信します。 • [最後のリダイレクト番号 (Last Redirect Number)] : コールを最後にリダイレクトするデバイスの電話番号を送信します。 • [最初のリダイレクト番号 (外部) (First Redirect Number (External))] : リダイレクトするデバイスの電話番号を送信します。 • [最後のリダイレクト番号 (外部) (Last Redirect Number (External))] : コールを最後にリダイレクトするデバイスの電話番号を送信します。
[発呼者の表示 (Calling Party Presentation)]	セントラル オフィスが発信者 ID を送信するか、非通知にするかを選択します。 <ul style="list-style-type: none"> • セントラル オフィスが発信者 ID を送信する場合は、[許可 (Allowed)] を選択します。 • セントラル オフィスが発信者 ID を送信しない場合は、[非許可 (Restricted)] を選択します。 • デフォルトでは、発信者 ID をコール ストリーム内で上記のレベルによって [非許可 (Restricted)] にされていない限り、発信者 ID が表示されます。
[IE 配信を表示 (Display IE Delivery)]	発信側と着信側の名前通知サービスに対して、SETUP メッセージおよび CONNECT メッセージ内の表示情報要素 (IE) を通知するには、このチェックボックスをオンにします。
[番号 IE 配信のリダイレクト - アウトバウンド (Redirecting Number IE Delivery - Outbound)]	<p>コールの自動転送時に最初のリダイレクト番号とコールのリダイレクト理由を知らせるために、Cisco Unified Communications Manager からの発信 SETUP メッセージに番号 IE のリダイレクトを含めるには、このチェックボックスをオンにします。</p> <p>発信 SETUP メッセージに最初のリダイレクト番号とリダイレクト理由を含めない場合は、このチェックボックスをオフにします。</p> <p>ボイス メッセージ統合だけの場合は、番号 IE のリダイレクトを使用します。設定したボイス メッセージ システムが番号 IE のリダイレクトをサポートしている場合は、このチェックボックスをオンにします。</p>

表 3-1 電話機テンプレートのフィールドの説明 (続き)

フィールド	説明
[番号 IE 配信のリダイレクト - インバウンド (Redirecting Number IE Delivery - Inbound)]	<p>番号 IE のリダイレクトをサポートするボイスメッセージシステムを統合する場合は、番号 IE のリダイレクトを使用します。</p> <p>Cisco Unified Communications Manager への着信 SETUP メッセージで番号 IE のリダイレクトを受け入れる場合は、このチェックボックスをオンにします。</p> <p>Cisco Unified Communications Manager に着信した SETUP メッセージから番号 IE のリダイレクトを除外する場合は、このチェックボックスをオフにします。</p>
[ゲートキーパー情報 (Gatekeeper Information)]	
[ゲートキーパー名 (Gatekeeper Name)]	<p>ドロップダウン リスト ボックスから、ゲートキーパー制御の H.323 デバイス用のゲートキーパーを選択します。</p> <p>(注) デバイスを選択しない場合、[E164]、[テクノロジープレフィックス (Technology Prefix)]、および [ゾーン (Zone)] の各フィールドは無効になります。</p> <p>(注) デバイスに複数の電話番号が設定されている場合、そのデバイスをゲートキーパー制御の電話機に変更することはできません。</p>
[E.164]	<p>ゲートキーパーに登録されている E.164 アドレスを選択します。</p> <p>(注) H.323 クライアントがゲートキーパー制御のデバイスとして設定されていることを確認します。</p> <p>(注) このフィールドには、ゲートキーパー制御の H.323 クライアント用の値を入力する必要があります。このフィールドに入力できるのは、数字 (0 ~ 9) と特殊文字の # および * だけです。</p>
[テクノロジープレフィックス (Technology Prefix)]	<p>テクノロジー プレフィックスを入力して、gw-type-prefix コマンドの設定時に各 Cisco Unified Communications Manager システムの IP アドレスを入力する必要がないようにします。たとえば、ゲートキーパーで次の gw-type-prefix コマンドを使用できる場合、このフィールドには次のように 1#* と入力することができます。</p> <p>gw-type-prefix 1#* default-technology</p> <p>(注) このフィールドには、ゲートキーパー制御の H.323 クライアント用の値を入力する必要があります。このフィールドに入力できるのは、数字 (0 ~ 9) と特殊文字の # および * だけです。</p>
[ゾーン (Zone)]	<p>ゲートキーパーで、Cisco Unified Communications Manager が登録を行う特定のゾーンを入力します。ゾーンには、このゾーンと別のゾーンの間のコールに使用可能な合計帯域幅を指定します。</p> <p>(注) このフィールドには、ゲートキーパー制御の電話機用の値を入力する必要があります。このフィールドに入力できるのは、文字、数字、スペース、ダッシュ、ドット、およびアンダースコアだけです。</p>
[Gatekeeper Controlled H.323 Client]	<p>H.323 クライアント ゲートキーパーを制御対象のゲートキーパーとして設定する場合は、このチェックボックスをオンにします。</p>

表 3-1 電話機テンプレートのフィールドの説明 (続き)

フィールド	説明
[サイレント (Do Not Disturb)]	
[サイレント (Do Not Disturb)]	DND を有効にする場合は、このチェックボックスをオンにします。
[DND オプション (DND Option)]	ドロップダウンリスト ボックスで、次のいずれかの DND オプションを選択します。 <ul style="list-style-type: none"> • [なし (None)] • [呼出音オフ (Ringer Off)]
[DND 着信呼警告 (DND Incoming Call Alert)]	ドロップダウンリスト ボックスで、次のいずれかのオプションを選択します。 <ul style="list-style-type: none"> • [なし (None)] • [無効 (Disable)] • [フラッシュのみ (Flash Only)] • [ビーブ音のみ (Beep Only)]
[セキュアシェル情報 (Secure Shell Information)]	
[セキュアシェルユーザ (Secure Shell User)]	セキュリティ保護されたシェルのユーザのユーザ ID を入力します。設定している電話機がセキュリティ保護されたシェルへのアクセスをサポートしていない場合、このフィールドは表示されません。Cisco Technical Assistance Center (TAC) は、トラブルシューティングのためにセキュリティ保護されたシェルを使用します。詳細については、TAC にお問い合わせください。
[セキュアシェルパスワード (Secure Shell Password)]	セキュリティで保護されたシェルのユーザのパスワードを入力します。設定している電話機がセキュリティ保護されたシェルへのアクセスをサポートしていない場合、このフィールドは表示されません。詳細については、TAC にお問い合わせください。
[プロダクト固有の設定 (Product Specific Configuration)]	
デバイスの製造元が定義するモデル固有の設定フィールド	<p>プロダクト固有の設定では、デバイスの製造元によってモデル固有のフィールドが定義されています。これらのフィールドは動的に設定されるので、事前の通知なく変更されることがあります。</p> <p>フィールドの説明、および製品固有の設定項目のヘルプを表示するには、[プロダクト固有の設定 (Product Specific Configuration)] 見出しの右側にある「？」情報アイコンをクリックして、ポップアップ ダイアログボックスにヘルプを表示してください。</p> <p>詳細な情報が必要な場合は、設定するデバイスの資料を参照するか、製造元にお問い合わせください。</p>



(注) BAT 電話機テンプレートの設定を続行するには、「[新しい BAT 電話機テンプレートの作成](#)」(P.3-4)に進みます。

BAT テンプレートに回線を追加または更新する場合のフィールドの説明

表 3-2 では、BAT 電話機テンプレート、ゲートウェイテンプレート、または UDP テンプレートに回線を追加する場合に表示されるフィールドすべてについて説明します。一部のデバイスタイプには、すべての電話機設定値を必要としないものもあります。

Cisco Unified Communications Manager の管理ページで設定された値を表示するフィールドもあります。

BAT ユーザーインターフェイスでは、アスタリスクが付いているフィールドには値を入力する必要があります。アスタリスクの付いていないフィールドはオプションです。

関連する手順については、「[関連項目](#)」(P.3-83) を参照してください。

表 3-2 BAT テンプレートに回線を追加する場合のフィールドの説明

フィールド	説明
[電話番号情報(Directory Number Information)]	
[回線テンプレート名(Line Template Name)]	回線テンプレートの一意の名前を入力します。 このフィールドは、回線を追加する場合にのみ使用できます。既存の回線を更新する場合には使用できません。
[ルートパーティション(Route Partition)]	電話番号が属するルートパーティションを選択します。 (注) 電話番号は複数のパーティションに現れる可能性があります。
[説明(Description)]	回線テンプレートの説明を入力します。説明には、任意の言語で最大 50 文字を指定できますが、二重引用符 (")、パーセント記号 (%)、アンパサンド (&)、または山カッコ (<>) は使用できません。
[呼び出し表示(Alerting Name)]	共有電話番号に対するアラート中に表示される名前を表します。非共有電話番号の場合、アラート時には [表示(Display)] フィールドに入力された名前が使用されます。
[ASCII呼び出し表示(ASCII Alerting Name)]	このフィールドには、[呼び出し表示(Alerting Name)] フィールドと同じ情報が表示されますが、入力を ASCII 文字に制限する必要があります。Unicode (国際化) 文字をサポートしないデバイスでは、[ASCII呼び出し表示(ASCII Alerting Name)] フィールドの内容が表示されます。
[アクティブ(Active)]	このチェックボックスをオンにすると、この DN へのコールを自動転送できます (自動転送が設定されている場合)。チェックボックスがオフの場合、DN は Cisco Unified Communications Manager で無視されます。
[電話番号の設定(Directory Number Settings)]	
[ボイスメールプロファイル(Voice Mail Profile)]	パイロット番号をこの回線の電話番号と同じにするには、このパラメータを選択します。この機能は、この電話機に対してボイスメッセージサーバが設定されていない場合に役立ちます。

表 3-2 BAT テンプレートに回線を追加する場合のフィールドの説明 (続き)

フィールド	説明
[コーリングサーチスペース (Calling Search Space)]	この電話番号から呼び出される番号を検索するパーティションを選択します。 (注) このフィールドに変更を加えると、[コールピックアップグループ (Call Pickup Group)] フィールドのリストに表示されるピックアップグループ名が更新されます。この設定値は、この電話番号を使用するすべてのデバイスに適用されます。
[プレゼンスグループ (Presence Group)]	プレゼンス機能で使用すると、電話番号がプレゼンス エンティティとして機能します。つまり、ウォッチャーが電話番号のステータスを要求すると、電話番号のステータスがリアルタイムにデバイスに表示されます。 電話機によってプレゼンス エンティティのステータスを受信するには、ウォッチャーのプレゼンス グループが、電話番号に適用されるプレゼンス グループのステータスを、[プレゼンスグループ (Presence Group)] ウィンドウに示されるとおりに表示するよう許可されていることを確認します。 プレゼンス機能については、『Cisco Unified Communications Manager 機能およびサービス ガイド』を参照してください。
[ユーザ保留 MOH 音源 (User Hold MOH Audio Source)]	ユーザが保留ボタンを押してコールを保留にするときに再生される保留音オーディオ ソースを選択します。
[ネットワーク保留 MOH 音源 (Network Hold MOH Audio Source)]	システムがコールを保留にするとき (たとえば、ユーザがコールを転送する間や電話会議またはコール パークを開始する間) に再生される保留音オーディオ ソースを選択します。
[自動応答 (Auto Answer)]	次のいずれかのオプションを選択して、この電話番号の自動応答機能をアクティブにします。 <ul style="list-style-type: none"> • [自動応答オフ (Auto Answer Off)] <デフォルト> • [ヘッドセットで自動応答 (Auto Answer with Headset)] • [スピーカフォンで自動応答 (Auto Answer with Speakerphone)] (注) [ヘッドセットで自動応答 (Auto Answer with headset)] または [スピーカフォンで自動応答 (Auto Answer with speakerphone)] を選択する場合、ヘッドセットまたはスピーカフォンが使用不可になっていないことを確認してください。 シェアドラインを持つデバイスに自動応答を設定しないでください。

[AAR 設定 (AAR Settings)] : この領域のフィールドの設定で、帯域幅が不十分なために宛先に到達できない場合のコールの処理方法を指定します。Automated alternate routing (AAR; 自動代替ルーティング) は、AAR 接続先マスクまたはボイスメールにルーティングされるコールを処理します。

表 3-2 BAT テンプレートに回線を追加する場合のフィールドの説明 (続き)

フィールド	説明
AAR ボイスメール	このチェックボックスをオンにすると、[ボイスメールプロファイルの設定 (Voice Mail Profile Configuration)] ウィンドウの設定が使用されます。 (注) このチェックボックスをオンにすると、Cisco Unified Communications Manager では、カバレッジまたは着信先のボックスおよび [コーリングサーチスペース (Calling Search Space)] の設定が無視されます。
[AAR 接続先マスク (AAR Destination Mask)]	外部電話番号マスクを使用するのではなく、この設定を使用して、ダイヤルする接続先を判定します。
[AAR コーリングサーチスペース (AAR Calling Search Space)]	デバイスが自動代替ルーティング (AAR) の実行時に使用する適切なコーリングサーチスペースを選択します。AAR コーリングサーチスペースは、ルートパーティションの集合を指定するものです。ルートパーティションの集合は、帯域幅不足のために本来ならブロックされるダイヤルされた番号のルーティング方法を決定するために検索されます。
[AAR グループ (AAR Group)]	このデバイスの自動代替ルーティング (AAR) グループを選択します。AAR グループはプレフィックス番号を提供するものです。プレフィックス番号は、帯域幅不足のために本来ならブロックされるコールをルーティングするために使用します。 AAR グループを [くなし (None)] に設定すると、ブロックされたコールの再ルーティングは行われません。
[この接続先を不在転送履歴に保持する (Retain this destination in the call forwarding history)]	このチェックボックスをオンにすると、コールのログが通話履歴に表示されるようになります。
[視覚的なメッセージ受信インジケータのポリシー (Visual Message Waiting Indicator Policy)]	このフィールドを使用してハンドセットランプ照明ポリシーを設定します。次のオプションのいずれかを選択してください。 <ul style="list-style-type: none"> • [システムポリシーの使用 (Use System Policy)] (電話番号は「メッセージ受信ランプポリシー」設定を参照します) • [ライトとプロンプト (Light and Prompt)] • [プロンプトのみ (Prompt Only)] • [ライトのみ (Light Only)] • [なし (None)] 設定は、[共有デバイス設定の更新 (Update Shared Device Settings)] チェックボックスをオンにして [選択対象を反映 (Propagate Selected)] ボタンをクリックしない限り、現在のデバイスだけに適用されます (チェックボックスが表示されるのは、他のデバイスがこの電話番号を共有している場合だけです)。

表 3-2 BAT テンプレートに回線を追加する場合のフィールドの説明 (続き)

フィールド	説明
[オーディオメッセージ受信インジケータのポリシー (Audible Message Waiting Indicator Policy)]	<p>このフィールドを使用して、オーディオメッセージ受信インジケータのポリシーを設定します。次のオプションのいずれかを選択してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [オフ (Off)] • [オン (On)] : このオプションを選択すると、ハンドセットをオフフックにした際に、スタッター ダイヤル トーンを受信します。 • [デフォルト (Default)] : このオプションを選択すると、電話機はシステム レベルで設定されたデフォルト値を使用します。
[コールピックアップグループオーディオアラートの設定 (Call Pickup Group Audio Alert Setting、電話がアイドルのとき)]	<p>このフィールドで、着信コールがコール ピックアップ グループのメンバーに送信する通知のタイプが判定されます。コールが着信した電話機で応答されない場合、コール ピックアップグループ内のアイドルの電話機で短い呼び出し音が聞こえるか (一度鳴らす)、または何も聞こえません (無効)。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [システムデフォルトの使用 (Use System Default)] : このフィールドの値は、Cisco CallManager サービス パラメータの Call Pickup Group Audio Alert Setting of Idle Station の設定値によって異なります。 • [無効 (Disable)] : アラートはコール ピックアップ グループのメンバーに送信されません。 • [一度鳴らす (Ring Once)] : 短い呼び出し音がコール ピックアップ グループのメンバーに送信されます。
[コールピックアップグループオーディオアラートの設定 (Call Pickup Group Audio Alert Setting、電話がアクティブのとき)]	<p>このフィールドで、着信コールがコール ピックアップ グループのメンバーに送信する通知のタイプが判定されます。コールが着信した電話機で応答されない場合、コール ピックアップグループ内で使用中の電話機でビープ音が聞こえるか (ビープ音のみ)、または何も聞こえません (無効)。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [システムデフォルトの使用 (Use System Default)] : このフィールドの値は、Cisco CallManager サービス パラメータの Call Pickup Group Audio Alert Setting of Busy Station の設定値によって異なります。 • [無効 (Disable)] : アラートはコール ピックアップ グループのメンバーに送信されません。 • [ビープ音のみ (Beep Only)] : ビープ音がコール ピックアップ グループのメンバーに送信されます。

表 3-2 BAT テンプレートに回線を追加する場合のフィールドの説明 (続き)

フィールド	説明
[録音オプション(Recording Option)]	<p>このフィールドで、エージェントのライン アピアランスでの録音オプションが決定されます。デフォルトでは、録音オプションは [コール録音が無効(Call Recording Disabled)] です。</p> <p>次のオプションのいずれかを選択してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [コール録音が無効(Call Recording Disabled)] : エージェントがライン アピアランスで発信したコールは録音されません。 • [自動コール録音が有効(Automatic Call Recording Enabled)] : エージェントがライン アピアランスで発信したコールが自動的に録音されます。 • [アプリケーションから呼び出されたコール録音が有効(Application Invoked Call Recording Enabled)] : アプリケーションがコール録音を呼び出した場合に、エージェントがライン アピアランスで発信したコールが録音されます。 <p>録音オプションが [自動コール録音が有効(Automatic Call Recording Enabled)] または [アプリケーションから呼び出されたコール録音が有効(Application Invoked Call Recording Enabled)] のいずれかに設定されている場合、ライン アピアランスを録音プロファイルに関連付けることができます。</p> <p>自動録音が有効な場合、アプリケーションからの録音要求は拒否されます。</p>
[録音プロファイル(Recording Profile)]	<p>このフィールドで、エージェントのライン アピアランスでの録音プロファイルが決定されます。</p>
[モニタリング用コーリングサーチスペース(Monitoring Calling Search Space)]	<p>スーパーバイザのライン アピアランスのモニタリング用コーリングサーチスペースに、エージェントの回線またはデバイスパーティションを含めてエージェントを監視できるようにします。</p> <p>スーパーバイザのライン アピアランス ウィンドウでモニタリング用コーリングサーチスペースを設定します。ドロップダウンリストボックスから既存のコーリングサーチスペースを選択します。</p> <p>デフォルト値は [なし(None)] です。</p>
[コール転送とコールピックアップの設定(Call Forward and Call Pickup Settings)]	
[不在転送(Forward All)] の [ボイスメール(Voice Mail)]	<p>コールをボイスメール プロファイルで選択した番号に自動転送する場合は、このチェックボックスをオンにします。</p> <p>このチェックボックスをオンにすると、[不在転送(Forward All)] の [接続先(Destination)] フィールドと [不在転送(Forward All)] の [コーリングサーチスペース(Calling Search Space)] チェックボックスでの指定内容は無効になります。</p>
[不在転送(Forward All)] の [接続先(Destination)]	<p>すべてのコールの自動転送先の電話番号を入力します。</p> <p>(注) この設定値は、ダイヤル可能な任意の電話番号 (制限されていない限り、外部の宛先を含む)、およびこの電話番号を使用するすべてのデバイスに適用されます。</p>

表 3-2 BAT テンプレートに回線を追加する場合のフィールドの説明 (続き)

フィールド	説明
[不在転送 (Forward All)] の [コーリングサーチスペース (Calling Search Space)]	<p>コールが指定された宛先に自動転送されるときに使用するコーリングサーチスペースを選択します。</p> <p>(注) この設定値は、この電話番号を使用するすべてのデバイスに適用されます。</p>
[不在転送の二次コーリングサーチスペース (Secondary Calling Search Space for Forward All)]	<p>ドロップダウン リスト ボックスからセカンダリ コーリングサーチスペース (CSS) を選択します。</p> <p>自動転送は回線ごとの機能なので、デバイスのコーリングサーチスペースが不明な場合は、回線のコーリングサーチスペースを使用してコールが自動転送されます。回線のコーリングサーチスペースが制限的またはルーティング不能な場合、自動転送の試行が失敗します。</p> <p>不在転送の二次コーリングサーチスペースを追加すると、転送のためのソリューションとなります。不在転送の一次コーリングサーチスペースと、不在転送の二次コーリングサーチスペースは、不在転送を処理するときに連結されます (一次 CFA CSS + 二次 CFA CSS)。Cisco Unified Communications Manager は、この組み合わせを使用して、CFA の宛先を検証し、コールを転送します。</p>
[話中転送 (Forward Busy Internal、内部)] の [ボイスメール (Voice Mail)]	<p>内部番号からのコールをボイスメール プロファイルで選択した番号に自動転送する場合は、このチェックボックスをオンにします。</p> <p>このチェックボックスをオンにすると、[話中転送 (Forward Busy Internal、内部)] の [接続先 (Destination)] フィールドと [コーリングサーチスペース (Calling Search Space)] チェックボックスでの指定内容は無効になります。</p>
[話中転送 (Forward Busy Internal、内部)] の [接続先 (Destination)]	<p>回線が使用中のときに内線コールが自動転送される先の電話番号を入力します。</p> <p>(注) この設定値は、ダイヤル可能な任意の内部電話番号、およびこの電話番号を使用するすべてのデバイスに適用されます。</p>
[話中転送 (Forward Busy Internal、内部)] の [コーリングサーチスペース (Calling Search Space)]	<p>内線コールが指定された宛先に自動転送されるときに使用するコーリングサーチスペースを選択します。</p> <p>(注) この設定値は、この電話番号を使用するすべてのデバイスに適用されます。</p>
[話中転送 (Forward Busy External、外部)] の [ボイスメール (Voice Mail)]	<p>外部番号からのコールをボイスメール プロファイルで選択した番号に自動転送する場合は、このチェックボックスをオンにします。</p> <p>このチェックボックスをオンにすると、[話中転送 (Forward Busy External、外部)] の [接続先 (Destination)] フィールドと [コーリングサーチスペース (Calling Search Space)] チェックボックスでの指定内容は無効になります。</p>

表 3-2 BAT テンプレートに回線を追加する場合のフィールドの説明 (続き)

フィールド	説明
[話中転送 (Forward Busy External、外部)] の [接続先 (Destination)]	回線が使用中のときに外線コールが自動転送される先の電話番号を入力します。 (注) この設定値は、ダイヤル可能な任意の外部電話番号 (制限されていない限り、外部の宛先を含む)、およびこの電話番号を使用するすべてのデバイスに適用されます。
[話中転送 (Forward Busy External、外部)] の [コーリングサーチスペース (Calling Search Space)]	外線コールが指定された宛先に自動転送されるときに使用するコーリングサーチスペースを選択します。 (注) この設定値は、この電話番号を使用するすべてのデバイスに適用されます。
[無応答時転送 (Forward No Answer Internal、内部)] の [ボイスメール (Voice Mail)]	内部番号からのコールをボイスメール プロファイルで選択した番号に自動転送する場合は、このチェックボックスをオンにします。 このチェックボックスをオンにすると、[無応答時転送 (Forward No Answer Internal、内部)] の [接続先 (Destination)] フィールドと [コーリングサーチスペース (Calling Search Space)] チェックボックスでの指定内容は無効になります。
[無応答時転送 (Forward No Answer Internal、内部)] の [接続先 (Destination)]	電話機が応答しない場合に、内線コールが自動転送される先の電話番号を入力します。 (注) この設定値は、ダイヤル可能な任意の内部電話番号、およびこの電話番号を使用するすべてのデバイスに適用されます。
[無応答時転送 (Forward No Answer Internal、内部)] の [コーリングサーチスペース (Calling Search Space)]	内線コールが指定された宛先に自動転送されるときに使用するコーリングサーチスペースを選択します。この設定値は、システム内で設定されている場合だけ、表示されます。 (注) この設定値は、この電話番号を使用するすべてのデバイスに適用されます。
[無応答時転送 (Forward No Answer External、外部)] の [ボイスメール (Voice Mail)]	コールをボイスメール プロファイルで選択した外部番号に自動転送する場合は、このチェックボックスをオンにします。 このチェックボックスをオンにすると、[無応答時転送 (Forward No Answer External、外部)] の [接続先 (Destination)] フィールドと [コーリングサーチスペース (Calling Search Space)] チェックボックスでの指定内容は無効になります。
[無応答時転送 (Forward No Answer External、外部)] の [接続先 (Destination)]	電話機が応答しない場合に、外線コールが自動転送される先の電話番号を入力します。 (注) この設定値は、ダイヤル可能な任意の外部電話番号 (制限されていない限り、外部の宛先を含む)、およびこの電話番号を使用するすべてのデバイスに適用されます。
[無応答時転送 (Forward No Answer External、外部)] の [コーリングサーチスペース (Calling Search Space)]	外線コールが指定された宛先に自動転送されるときに使用するコーリングサーチスペースを選択します。この設定値は、システム内で設定されている場合だけ、表示されます。 (注) この設定値は、この電話番号を使用するすべてのデバイスに適用されます。

表 3-2 BAT テンプレートに回線を追加する場合のフィールドの説明 (続き)

フィールド	説明
[カバレッジなし時転送 (Forward No Coverage Internal、内部)] の [ボイスメール (Voice Mail)]	<p>内部番号からのコールをボイスメール プロファイルで選択した番号に自動転送する場合は、このチェックボックスをオンにします。</p> <p>このチェックボックスをオンにすると、無応答時転送の [接続先 (Destination)] フィールドと [コーリングサーチスペース (Calling Search Space)] チェックボックスでの指定内容は無効になります。</p>
[カバレッジなし時転送 (Forward No Coverage Internal、内部)] の [接続先 (Destination)]	<p>電話機のカバレッジが対応しない場合に、内線コールが自動転送される先の電話番号を入力します。</p> <p>(注) この設定値は、ダイヤル可能な任意の内部電話番号、およびこの電話番号を使用するすべてのデバイスに適用されます。</p>
[カバレッジなし時転送 (Forward No Coverage Internal、内部)] の [コーリングサーチスペース (Calling Search Space)]	<p>内線コールが指定された宛先に自動転送されるときに使用するコーリングサーチスペースを選択します。この設定値は、システム内で設定されている場合だけ、表示されます。</p> <p>(注) この設定値は、この電話番号を使用するすべてのデバイスに適用されます。</p>
[カバレッジなし時転送 (Forward No Coverage External、外部)] の [ボイスメール (Voice Mail)]	<p>外部番号からのコールをボイスメール プロファイルで選択した番号に自動転送する場合は、このチェックボックスをオンにします。</p> <p>このチェックボックスをオンにすると、無応答時転送の [接続先 (Destination)] フィールドと [コーリングサーチスペース (Calling Search Space)] チェックボックスでの指定内容は無効になります。</p>
[カバレッジなし時転送 (Forward No Coverage External、外部)] の [接続先 (Destination)]	<p>電話機のカバレッジが対応しない場合に、外線コールが自動転送される先の電話番号を入力します。</p> <p>(注) この設定値は、ダイヤル可能な任意の電話番号 (制限されていない限り、外部の宛先を含む)、およびこの電話番号を使用するすべてのデバイスに適用されます。</p>
[カバレッジなし時転送 (Forward No Coverage External、外部)] の [コーリングサーチスペース (Calling Search Space)]	<p>外線コールが指定された宛先に自動転送されるときに使用するコーリングサーチスペースを選択します。この設定値は、システム内で設定されている場合だけ、表示されます。</p> <p>(注) この設定値は、この電話番号を使用するすべてのデバイスに適用されます。</p>

表 3-2 BAT テンプレートに回線を追加する場合のフィールドの説明 (続き)

フィールド	説明
[CTI 障害時転送 (Forward on CTI Failure)] の [ボイスメール (Voice Mail)]	<p>[CTI 障害時転送 (Forward on CTI Failure)] フィールドは、CTI ルート ポイントおよび CTI ポートのみに適用されます。この行の設定は、CTI ルート ポイントまたは CTI ポートが失敗した場合に、この CTI ルート ポイントまたは CTI ポートへの外線コールの自動転送をどのように扱うかを指定します。</p> <p>このチェックボックスをオンにすると、[ボイスメールプロファイルの設定 (Voice Mail Profile Configuration)] ウィンドウの設定が使用されます。</p> <p>このチェックボックスをオンにすると、Cisco Unified Communications Manager では、[接続先 (Destination)] ボックスおよび [コーリングサーチスペース (Calling Search Space)] の設定が無視されます。外線コールでこのチェックボックスをオンにすると、外線コールの [ボイスメール (Voice Mail)] チェックボックスが自動的にオンになります。外線コールをボイスメッセージシステムに自動転送しない場合、外線コールの [ボイスメール (Voice Mail)] チェックボックスをオフにする必要があります。</p>
[CTI 障害時転送 (Forward on CTI Failure)] の [接続先 (Destination)]	<p>この設定は、電話番号を制御するアプリケーションが失敗した場合に、接続されなかった外線コールが自動転送される電話番号を指定します。外部の電話番号を含め、ダイヤル可能な任意の電話番号を使用します。</p> <p>外線コールの宛先の値を入力すると、外線コールの [接続先 (Destination)] フィールドにこの値が自動的にコピーされます。外線コールを別の宛先に自動転送する場合は、外線コールの [接続先 (Destination)] フィールドに別の値を入力する必要があります。</p>
[CTI 障害時転送 (Forward on CTI Failure)] の [コーリングサーチスペース (Calling Search Space)]	<p>この設定値は、この電話番号を使用するすべてのデバイスに適用されます。</p> <p>外線コールの CSS を選択すると、外線コールの CSS 設定にこの値が自動的にコピーされます。外線コールを別のコーリングサーチスペースに自動転送する場合は、外線コールの CSS に別の設定値を選択する必要があります。</p>
[無応答時の呼び出し時間 (No Answer Ring Duration、秒)]	<p>コールが呼び出し音を送り、応答を待つ時間 (秒数) を入力します。この時間内に応答がないと、無応答時の転送着信先にコールを自動転送します。</p>
[コールピックアップグループ (Call Pickup Group)]	<p>コールピックアップグループ名を選択してコールピックアップグループを指定します。コールピックアップグループでは、該当のピックアップグループ番号をダイヤルすることにより、この電話番号への着信コールに応答することができます。</p>

表 3-2 BAT テンプレートに回線を追加する場合のフィールドの説明 (続き)

フィールド	説明
[パークモニタリング(Park Monitoring)]	
[未取得時のパークモニタリング転送の接続先(外部)]の[接続先(Destination)]	パークされた発信側が外部ユーザの場合、パーク元の[未取得時のパークモニタリング転送の接続先(外部)(Park Monitoring Forward No Retrieve Destination External)]パラメータに指定された接続先にコールが自動転送されます。[未取得時のパークモニタリング転送の接続先(外部)(Park Monitoring Forward No Retrieve Destination External)]フィールドの値が空の場合は、パークされた発信側がパーク元の回線にリダイレクトされます。
[未取得時のパークモニタリング転送の接続先(内部)]の[接続先(Destination)]	パークされた発信側が内部ユーザの場合、パーク元の[未取得時のパークモニタリング転送の接続先(内部)(Park Monitoring Forward No Retrieve Destination Internal)]パラメータに指定された接続先にコールが自動転送されます。[未取得時のパークモニタリング転送の接続先(内部)(Park Monitoring Forward No Retrieve Destination Internal)]フィールドの値が空の場合は、パークされた発信側がパーク元の回線にリダイレクトされます。
[パークモニタリング復帰タイマー(Park Monitoring Reversion Timer)]	このパラメータによって、Cisco Unified Communications Manager がユーザにパークしたコールの取得を求めるまでに待機する秒数が決まります。このタイマーはユーザが電話の[パーク]ソフトキーを押すと起動し、タイマーの期限が切れるとリマインダが発行されます。 デフォルト：60 秒 (注) ゼロ以外の値を設定すると、[サービスパラメータ(Service Parameters)]ウィンドウに設定されているパラメータの値がこの値で上書きされます。一方、ここに0を設定すると、[サービスパラメータ(Service Parameters)]ウィンドウの値が使用されます。
[未取得時のパークモニタリング転送の接続先(内部)]の[ボイスメール(Voice Mail)]	このチェックボックスをオンにすると、[ボイスメールプロファイルの設定(Voice Mail Profile Configuration)]ウィンドウの設定が使用されます。 (注) このチェックボックスをオンにすると、Cisco Unified Communications Manager は、[接続先(Destination)]ボックスと[コーリングサーチスペース(Calling Search Space)]の設定値を無視します。
[未取得時のパークモニタリング転送の接続先(外部)(Park Monitoring Forward No Retrieve Destination External)]の[ボイスメール(Voice Mail)]	このチェックボックスをオンにすると、[ボイスメールプロファイルの設定(Voice Mail Profile Configuration)]ウィンドウの設定が使用されます。 (注) このチェックボックスをオンにすると、Cisco Unified Communications Manager は、[接続先(Destination)]ボックスと[コーリングサーチスペース(Calling Search Space)]の設定値を無視します。
[未取得時のパークモニタリング転送の接続先(外部)]の[コーリングサーチスペース(Calling Search Space)]	電話番号に適用するコーリングサーチスペースを選択します。

表 3-2 BAT テンプレートに回線を追加する場合のフィールドの説明 (続き)

フィールド	説明
[未取得時のパークモニタリング転送の接続先(内部)]の[コーリングサーチスペース(Calling Search Space)]	電話番号に適用するコーリングサーチスペースを選択します。
[未登録内線の不在転送(Forward Unregistered Internal)]の[ボイスメール(Voice Mail)]	このフィールドは未登録の内部 DN コールに適用されます。コールは指定された宛先番号またはボイスメールに再ルーティングされます。 未登録の内部番号からのコールをボイスメール プロファイルで選択した番号に自動転送する場合は、このチェックボックスをオンにします。 このチェックボックスをオンにすると、[未登録内線の不在転送(Forward Unregistered Internal)]の[接続先(Destination)]フィールドと[コーリングサーチスペース(Calling Search Space)]ドロップダウンリストボックスでの指定内容は無効になります。
[未登録内線の不在転送(Forward Unregistered Internal)]の[接続先(Destination)]	回線が使用中のときに未登録の内線コールが自動転送される先の電話番号を入力します。 この設定値は、ダイヤル可能な任意の内部電話番号、およびこの電話番号を使用するすべてのデバイスに適用されます。
[未登録内線の不在転送(Forward Unregistered Internal)]の[CSS]	未登録の内線コールが指定された宛先に自動転送されるときに使用するコーリングサーチスペースを選択します。 この設定値は、この電話番号を使用するすべてのデバイスに適用されます。
[未登録外線の不在転送(Forward Unregistered External)]の[ボイスメール(Voice Mail)]	このフィールドは未登録の外部 DN コールに適用されます。コールは指定された宛先番号またはボイスメールに再ルーティングされます。 (注) [サービスパラメータ設定(Service Parameter Configuration)] ウィンドウで、電話番号に対して許可される最大自動転送数を指定する必要があります。
[未登録外線の不在転送(Forward Unregistered External)]の[接続先(Destination)]	回線が使用中のときに外線コールが自動転送される先の電話番号を入力します。 この設定値は、ダイヤル可能な任意の外部電話番号(制限されていない限り、外部の宛先を含む)、およびこの電話番号を使用するすべてのデバイスに適用されます。
[未登録外線の不在転送(Forward Unregistered External)]の[CCS]	外線コールが指定された宛先に自動転送されるときに使用するコーリングサーチスペースを選択します。 この設定値は、この電話番号を使用するすべてのデバイスに適用されます。
[MLPP代替パーティの設定(MLPP Alternate Party Settings)]	
[転送先(Target、接続先)]	この電話番号が優先コールを受信したが、その番号もその自動転送先もその優先コールに応答しない場合に、MLPP 優先コールが向けられる先の番号を入力します。 値は数字、シャープ(#)、およびアスタリスク(*)を含めることができます。

表 3-2 BAT テンプレートに回線を追加する場合のフィールドの説明 (続き)

フィールド	説明
[MLPP コーリングサーチスペース (MLPP Calling Search Space)]	ドロップダウン リスト ボックスから、代替パーティ ターゲット (宛先) 番号に関連付ける コーリング サーチ スペースを選択します。
[MLPP 無応答時の呼び出し時間 (MLPP No Answer Ring Duration、秒)]	優先コールに対してこの電話番号とその自動転送先が応答するのを待つ時間 (4 ~ 30 秒) を入力します。この時間内に応答がないと、MLPP 優先コールはこの電話番号の代替パーティに向けて送られます。 Cisco Unified Communications Manager エンタープライズ パラメータの Precedence Alternate Party Timeout で設定されている値を使用する場合は、この設定をブランクのままにします。
[デバイスの回線 (Line on Device)]	
[表示 (Display、内線発信者 ID)]	このフィールドは、ライン アピアランスに電話番号を表示しない場合だけ使用します。回線と電話機の組み合わせに使用されているこの電話番号を識別するためのテキストを入力します。 推奨される入力値としては、上司の名前、部門名、あるいは複数の電話番号を受け持つ秘書またはアシスタントが複数の電話番号を識別できる別の適切な情報が挙げられます。このフィールドの値が表示される電話機の種類にご注意ください。対象に漢字未対応の電話機が含まれる場合は、状況により半角カタカナあるいは ASCII 文字を使用するようにしてください。また、電話機のユーザ ロケールが複数存在する場合は、共通する文字セットを使用してください。
[ASCII 表示 (ASCII Display、内線発信者 ID)]	このフィールドには、[表示 (Display、内線発信者 ID)] フィールドと同じ情報が表示されますが、入力を ASCII 文字に制限する必要があります。Unicode (国際化) 文字をサポートしないデバイスでは、[ASCII 表示 (ASCII Display、内線発信者 ID)] フィールドの内容が表示されます。 設定は、右にあるチェックボックス ([共有デバイス設定の更新 (Update Shared Device Settings)]) をオンにして [選択対象を反映 (Propagate Selected)] ボタンをクリックしない限り、現在のデバイスだけに適用されます (右側のチェックボックスが表示されるのは、他のデバイスがこの電話番号を共有している場合だけです)。
[回線のテキストラベル (Line Text Label)]	回線と電話機の組み合わせに使用されているこの電話番号を識別するためのテキストを入力します。このフィールドの値が表示される電話機の種類にご注意ください。対象に漢字未対応の電話機が含まれる場合は、状況により半角カタカナあるいは ASCII 文字を使用するようにしてください。また、電話機のユーザ ロケールが複数存在する場合は、共通する文字セットを使用してください。 (注) デフォルトの言語は英語です。

表 3-2 BAT テンプレートに回線を追加する場合のフィールドの説明 (続き)

フィールド	説明
[ASCII 回線テキストラベル (ASCII Line Text Label)]	<p>このフィールドには、[回線のテキストラベル (Line Text Label)] フィールドと同じ情報が表示されますが、入力を ASCII 文字に制限する必要があります。Unicode (国際化) 文字をサポートしないデバイスでは、[ASCII 回線テキストラベル (ASCII Line Text Label)] フィールドの内容が表示されます。</p> <p>設定は、右にあるチェックボックス ([共有デバイス設定の更新 (Update Shared Device Settings)]) をオンにして [選択対象を反映 (Propagate Selected)] ボタンをクリックしない限り、現在のデバイスだけに適用されます (右側のチェックボックスが表示されるのは、他のデバイスがこの電話番号を共有している場合だけです)。</p>
[外線電話番号マスク (External Phone Number Mask)]	<p>この回線からコールを行うときに発信者 ID 用に送信される電話番号 (またはマスク) を入力します。</p> <p>最大 24 桁の数字と「X」文字が入力できます。X は電話番号を表し、パターンの最後に表示する必要があります。たとえば、972813XXXX というマスクを指定すると、内線 1234 からの外線コールには発信者 ID 番号 9728131234 が表示されます。</p>
[視覚的なメッセージ受信インジケータのポリシー (Visual Message Waiting Indicator Policy)]	<p>このフィールドを使用してハンドセット ランプ照明ポリシーを設定します。次のオプションのいずれかを選択してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> [システムポリシーの使用 (Use System Policy)] (電話番号は「メッセージ受信ランプポリシー」設定を参照します) [ライトとプロンプト (Light and Prompt)] [プロンプトのみ (Prompt Only)] [ライトのみ (Light Only)] [なし (None)] <p>設定は、[共有デバイス設定の更新 (Update Shared Device Settings)] チェックボックスをオンにして [選択対象を反映 (Propagate Selected)] ボタンをクリックしない限り、現在のデバイスだけに適用されます (チェックボックスが表示されるのは、他のデバイスがこの電話番号を共有している場合だけです)。</p>
[オーディオメッセージ受信インジケータのポリシー (Audible Message Waiting Indicator Policy)]	<p>このフィールドを使用して、オーディオメッセージ受信インジケータのポリシーを設定します。次のオプションのいずれかを選択してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> [オフ (Off)] [オン (On)] : このオプションを選択すると、ハンドセットをオフフックにした際に、スタッター ダイヤルトーンを受信します。 [デフォルト (Default)] : このオプションを選択すると、電話機はシステム レベルで設定されたデフォルト値を使用します。

表 3-2 BAT テンプレートに回線を追加する場合のフィールドの説明 (続き)

フィールド	説明
[呼出音設定 (Ring Setting、電話がアイドルのとき)]	<p>着信コールを受信し、デバイスに他のアクティブなコールがない場合の、ラインアピランスに対する呼び出し音設定を選択します。次のオプションのいずれかを選択してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [システムデフォルトを使用 (Use System Default)] • [無効 (Disable)] • [フラッシュのみ (Flash Only)] • [一度鳴らす (Ring Once)] • [鳴らす (Ring)]
[呼出音設定 (Ring Setting、電話がアクティブのとき)]	<p>この電話機に異なる回線で別のアクティブ コールがあった場合に使用される呼び出し音設定を選択します。次のオプションのいずれかを選択してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [システムデフォルトを使用 (Use System Default)] • [無効 (Disable)] • [フラッシュのみ (Flash Only)] • [一度鳴らす (Ring Once)] • [鳴らす (Ring)] • [ビーブ音のみ (Beep only)]
[コールピックアップグループオーディオアラートの設定 (Call Pickup Group Audio Alert Setting、電話がアイドルのとき)]	<p>このフィールドで、着信コールがコール ピックアップ グループのメンバーに送信する通知のタイプが判定されます。コールが着信した電話機で応答されない場合、コール ピックアップ グループ内のアイドルの電話機で短い呼び出し音が聞こえるか (一度鳴らす)、または何も聞こえません (無効)。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [システムデフォルトの使用 (Use System Default)] : このフィールドの値は、Cisco CallManager サービス パラメータの Call Pickup Group Audio Alert Setting of Idle Station の設定値によって異なります。 • [無効 (Disable)] : アラートはコール ピックアップ グループのメンバーに送信されません。 • [一度鳴らす (Ring Once)] : 短い呼び出し音がコール ピックアップ グループのメンバーに送信されます。

表 3-2 BAT テンプレートに回線を追加する場合のフィールドの説明 (続き)

フィールド	説明
[コールピックアップグループオーディオアラートの設定 (Call Pickup Group Audio Alert Setting、電話がアクティブのとき)]	<p>このフィールドで、着信コールがコールピックアップグループのメンバーに送信する通知のタイプが判定されます。コールが着信した電話機で応答されない場合、コールピックアップグループ内で使用中の電話機でビープ音が聞こえるか (ビープ音のみ)、または何も聞こえません (無効)。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [システムデフォルトの使用 (Use System Default)] : このフィールドの値は、Cisco CallManager サービスパラメータの Call Pickup Group Audio Alert Setting of Busy Station の設定値によって異なります。 • [無効 (Disable)] : アラートはコールピックアップグループのメンバーに送信されません。 • [ビープ音のみ (Beep Only)] : ビープ音がコールピックアップグループのメンバーに送信されます。
[録音オプション (Recording Option)]	<p>このフィールドで、エージェントのラインアピアランスでの録音オプションが決定されます。デフォルトでは、録音オプションは [コール録音が無効 (Call Recording Disabled)] です。次のオプションのいずれかを選択してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [コール録音が無効 (Call Recording Disabled)] : エージェントがラインアピアランスで発信したコールは録音されません。 • [自動コール録音の有効 (Automatic Call Recording Enabled)] : エージェントがラインアピアランスで発信したコールが自動的に録音されます。 • [アプリケーションから呼び出されたコール録音の有効] : アプリケーションがコール録音を呼び出した場合に、エージェントがラインアピアランスで発信したコールが録音されます。 <p>録音オプションが [自動コール録音の有効 (Automatic Call Recording Enabled)] または [アプリケーションから呼び出されたコール録音の有効 (Application Invoked Call Recording Enabled)] のいずれかに設定されている場合、ラインアピアランスを録音プロファイルに関連付けることができます。</p> <p>自動録音が有効な場合、アプリケーションからの録音要求は拒否されます。</p>
[録音プロファイル (Recording Profile)]	<p>このフィールドで、エージェントのラインアピアランスでの録音プロファイルが決定されます。ドロップダウンリストボックスから既存の録音プロファイルを選択します。録音プロファイルを作成するには、[デバイス (Device)] > [デバイスの設定 (Device Settings)] > [録音プロファイル (Recording Profile)] メニュー オプションを使用します。</p> <p>デフォルト値は [なし (None)] です。</p>

表 3-2 BAT テンプレートに回線を追加する場合のフィールドの説明 (続き)

フィールド	説明
[モニタリング用コーリング検索スペース (Monitoring Calling Search Space)]	<p>スーパーバイザのライン アピアランスのモニタリング用コーリング検索スペースに、エージェントの回線またはデバイスパーティションを含めてエージェントを監視できるようにします。</p> <p>スーパーバイザのライン アピアランス ウィンドウでモニタリング用コーリング検索スペースを設定します。ドロップダウンリストボックスから既存のコーリング検索スペースを選択します。</p> <p>デフォルト値は [なし (None)] です。</p>
[不在着信のログ (Log Missed Calls)]	<p>このチェックボックスを使用すると、不在着信のログ機能をオンまたはオフにできます。このチェックボックスにチェックマークが表示されている (オンになっている) 場合 (デフォルトの設定)、Cisco Unified Communications Manager は電話機でのその電話番号に対する通話履歴に不在着信のログを記録します。</p>

表 3-2 BAT テンプレートに回線を追加する場合のフィールドの説明 (続き)

フィールド	説明
不在転送コーリング サーチ スペースのアクティベーション ポリシー	<p>ド롭ダウン リスト ボックスから次のオプションのいずれかを選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [システムデフォルトの使用 (Use System Default)] • [設定済み CSS を使用 (With Configured CSS)] • [デバイス/回線 CSS のアクティブ化を使用 (With Activating Device/Line CSS)] <p>[設定済み CSS を使用 (With Configured CSS)] オプションを選択した場合、[電話番号の設定 (Directory Number Configuration)] ウィンドウで明示的に設定された [不在転送 (Forward All)] の [コーリングサーチスペース (Calling Search Space)] で、不在転送のアクティブ化と自動転送を制御します。[不在転送 (Forward All Calling)] の [コーリングサーチスペース (Search Space)] が [なし (None)] に設定されている場合、CSS は不在転送のために設定されません。パーティションが設定された任意の電話番号への不在転送をアクティブにすることはできません。不在転送がアクティブになっているとき、[不在転送 (Forward All)] の [コーリングサーチスペース (Calling Search Space)] と [不在転送の二次コーリングサーチスペース (Secondary Calling Search Space for Forward All)] を変更することはできません。</p> <p>電話番号のコーリング サーチ スペースとデバイスのコーリング サーチ スペースを組み合わせて利用する場合、[コーリングサーチスペースのアクティベーションポリシー (Calling Search Space Activation Policy)] で [デバイス/回線 CSS のアクティブ化を使用 (With Activating Device/Line CSS)] を選択します。このオプションを使用すると、不在転送が電話機からアクティブにされている場合、[不在転送 (Forward All)] の [コーリングサーチスペース (Calling Search Space)] と [不在転送の二次コーリングサーチスペース (Secondary Calling Search Space for Forward All)] は、電話番号のコーリング サーチ スペースとアクティブになっているデバイスのコーリング サーチ スペースで自動的に実装されます。</p>
[保留復帰の呼び出し時間 (Hold Reversion Ring Duration、秒)]	<p>0 ~ 1200 の数値 (両端の値も含む) を入力して、保留している電話機に戻されるコールのアラートを送信するまでの待機時間 (秒) を指定します。</p> <p>0 を入力すると、Cisco Unified Communications Manager では、保留したコールを復帰する機能は呼び出されません。</p>
[保留復帰の通知間隔 (Hold Reversion Notification Interval、秒)]	<p>0 ~ 1200 の数値 (両端の値も含む) を入力して、保留している電話機にリマインダ アラートを送信する間隔 (秒) を指定します。</p> <p>0 を入力すると、Cisco Unified Communications Manager では、リマインダ アラートは送信されません。</p>

表 3-2 BAT テンプレートに回線を追加する場合のフィールドの説明 (続き)

フィールド	説明
[パーティ参加トーン (Party Entrance Tone)]	<p>ドロップダウン リスト ボックスから次のオプションのいずれかを選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> [デフォルト (Default)] : パーティ参加トーン サービス パラメータで設定した値を使用します。 [オン (On)] : 基本コールがマルチパーティ コール (割り込みコール、C 割り込みコール、アドホック会議、ミーティング会議、または参加コール) に変わると、電話機でトーンが再生されます。さらに、通話者がマルチパーティ コールを離れると、別のトーンが再生されます。制御デバイスつまりマルチパーティ コールの発信元がビルトインブリッジの場合、制御デバイスで [オン (On)] を選択すると、すべての通話者に対してトーンが再生されます。制御デバイス (たとえば、会議の開催者) がコールに参加しなくなっている場合、または制御デバイスがトーンを再生できない場合は、[オン (On)] が選択されていても、Cisco Unified Communications Manager はトーンを再生しません。 [オフ (Off)] : 基本コールがマルチパーティ コールに変わっても、電話機でトーンは再生されません。
[複数コール/コール待機設定 (Multiple Call/Call Waiting Settings)]	
[コール最大数 (Maximum Number of Calls)]	<p>クラスタ内のデバイスの 1 つの回線に対して最大 184 のコールを設定できます。ただし、デバイスが制限要因となります。1 つの回線に対してコールの数を設定すると、別の回線に使用可能なコールが減少します。</p> <p>デフォルトは 4 です。電話機が回線ごとの複数コールを許可していない場合、デフォルトは 2 です。</p> <p>CTI ルート ポイントに対しては、各ポートに対して最大 10,000 のコールを設定できます。デフォルトは 5000 コールです。</p> <p>このフィールドは [ビジートリガー (Busy Trigger)] フィールドと併せて使用します。</p>
[ビジートリガー (Busy Trigger)]	<p>この設定は、[コール最大数 (Maximum Number of Calls)] および [話中転送 (Call Forward Busy)] と連動し、回線で表示されるコールの最大数を決定します。[コール最大数 (Maximum Number of Calls)] が 50 に設定され、[ビジートリガー (Busy Trigger)] が 40 に設定されている場合、着信コール 41 は話中を理由として拒否されます (さらに [話中転送 (Call Forward Busy)] が設定されている場合は転送されます)。この回線が共有されている場合は、すべての回線が話し中になって、初めて着信コールが拒否されることに注意してください。</p> <p>このフィールドは、CTI ルート ポイント用の [コール最大数 (Maximum Number of Calls)] と併せて使用します。デフォルトは 4500 コールです。</p>

表 3-2 BAT テンプレートに回線を追加する場合のフィールドの説明 (続き)

フィールド	説明
[転送呼の情報表示 (Forwarded Call Information Display on Device)]	
[発信者名 (Caller Name)]	自動転送されたコールの受信時に、表示に発信者名を含めるには、このチェックボックスをオンにします。デフォルトでは、このチェックボックスはオンになっています。
[発信者番号 (Caller Number)]	自動転送されたコールの受信時に、表示に発信者番号を含めるには、このチェックボックスをオンにします。
[転送元番号 (Redirected Number)]	自動転送されたコールの受信時に、表示にリダイレクトされた番号を含めるには、このチェックボックスをオンにします。
[ダイヤル番号 (Dialed Number)]	自動転送されたコールの受信時に、表示にダイヤルされた番号を含めるには、このチェックボックスをオンにします。デフォルトの設定では、このチェックボックスはオンになっています。



(注) 電話機と UDP の手順を完了するには、「BAT テンプレートにおける回線の追加または更新」(P.3-5)に進みます。リモート接続先プロファイルについては、「リモート接続先プロファイルテンプレートの回線の追加または更新」(P.59-3)を参照してください。UDPについては、第45章「UDPの回線の追加」および第44章「ユーザデバイスプロファイル用の回線の更新」を参照してください。ゲートウェイに関するアップデートを完了するには、第48章「ゲートウェイテンプレート」を参照してください。



(注) [割り当て済みのデバイス (Associated Devices)] リスト ボックスでデバイス名を選択し、[デバイスの関連付け (Associated Devices)] または [ラインアピアランスの編集 (Edit Line Appearance)] をクリックして、デバイスまたは回線を編集することができます。

BAT テンプレートにインターコム テンプレートを追加する場合のフィールドの説明

この項では、BAT 電話機テンプレート、ゲートウェイ テンプレート、または UDP テンプレートに回線を追加する場合に表示されるフィールドすべてについて説明します。一部のデバイス タイプには、すべての電話機設定値を必要としないものもあります。

Cisco Unified Communications Manager の管理ページで設定された値を表示するフィールドもあります。

BAT ユーザ インターフェイスでは、アスタリスクが付いているフィールドには値を入力する必要があります。アスタリスクの付いていないフィールドはオプションです。

関連する手順については、「関連項目」(P.3-83)を参照してください。

表 3-3 BAT テンプレートにインターコム テンプレートを追加する場合のフィールドの説明

フィールド	説明
[インターコム電話番号情報 (Intercom Directory Number Information)]	
[インターコムテンプレート名 (Intercom Template Name)]	インターコム テンプレートの一意の名前を入力します。
[ルートパーティション (Route Partition)]	電話番号が属するルート パーティションを選択します。 (注) 電話番号は複数のパーティションに現れる可能性があります。
[説明 (Description)]	電話番号およびルート パーティションの説明を入力します。説明には、任意の言語で最大 50 文字を指定できますが、二重引用符 (")、パーセント記号 (%)、アンパサンド (&)、または山カッコ (<>) は使用できません。
[表示 (Display、内線発信者 ID)]	このフィールドは、ライン アピアランスに電話番号を表示しない場合だけ使用します。回線と電話機の組み合わせに使用されているこの電話番号を識別するためのテキストを入力します。 推奨される入力値としては、上司の名前、部門名、あるいは複数の電話番号を受け持つ秘書またはアシスタントが複数の電話番号を識別できる別の適切な情報が挙げられます。このフィールドの値が表示される電話機の種類にご注意ください。対象に漢字未対応の電話機が含まれる場合は、状況により半角カタカナあるいは ASCII 文字を使用するようにしてください。また、電話機のユーザ ロケールが複数存在する場合は、共通する文字セットを使用してください。
[ASCII 表示 (ASCII Display、内線発信者 ID)]	このフィールドには、[表示 (Display、内線発信者 ID)] フィールドと同じ情報が表示されますが、入力を ASCII 文字に制限する必要があります。Unicode (国際化) 文字をサポートしないデバイスでは、[ASCII 表示 (ASCII Display、内線発信者 ID)] フィールドの内容が表示されます。 設定は、右にあるチェックボックス ([共有デバイス設定の更新 (Update Shared Device Settings)]) をオンにして [選択対象を反映] ボタンをクリックしない限り、現在のデバイスだけに適用されます (右側のチェックボックスが表示されるのは、他のデバイスがこの電話番号を共有している場合だけです)。
[回線のテキストラベル (Line Text Label)]	回線と電話機の組み合わせに使用されているこの電話番号を識別するためのテキストを入力します。このフィールドの値が表示される電話機の種類にご注意ください。対象に漢字未対応の電話機が含まれる場合は、状況により半角カタカナあるいは ASCII 文字を使用するようにしてください。また、電話機のユーザ ロケールが複数存在する場合は、共通する文字セットを使用してください。 (注) デフォルトの言語は英語です。

表 3-3 BAT テンプレートにインターコム テンプレートを追加する場合のフィールドの説明 (続き)

フィールド	説明
[ASCII 回線テキストラベル (ASCII Line Text Label)]	このフィールドには、[回線のテキストラベル (Line Text Label)] フィールドと同じ情報が表示されますが、入力を ASCII 文字に制限する必要があります。Unicode (国際化) 文字をサポートしないデバイスでは、ASCII 回線テキストラベル (ASCII Line Text Label) フィールドの内容が表示されます。 設定は、右にあるチェックボックス ([共有デバイス設定の更新 (Update Shared Device Settings)]) をオンにして [選択対象を反映 (Propagate Selected)] ボタンをクリックしない限り、現在のデバイスだけに適用されます (右側のチェックボックスが表示されるのは、他のデバイスがこの電話番号を共有している場合だけです)。
[呼び出し表示 (Alerting Name)]	共有電話番号に対するアラート中に表示される名前を表します。非共有電話番号の場合、アラート時には [表示 (Display)] フィールドに入力された名前が使用されます。
[ASCII 呼び出し表示 (ASCII Alerting Name)]	このフィールドには、[呼び出し表示 (Alerting Name)] フィールドと同じ情報が表示されますが、入力を ASCII 文字に制限する必要があります。Unicode (国際化) 文字をサポートしないデバイスでは、[ASCII 呼び出し表示 (ASCII Alerting Name)] フィールドの内容が表示されます。
[スピードダイヤル (Speed Dial)]	ユーザがスピードダイヤル ボタンを押したときにダイヤルされる番号を入力します。0 ~ 9 の数字、*、#、および + (国際的なエスケープ文字) を入力します。
[外線電話番号マスク (External Phone Number Mask)]	この回線からコールを行うときに発信者 ID 用に送信される電話番号 (またはマスク) を入力します。 最大 24 桁の数字と「X」文字が入力できます。X は電話番号を表し、パターン最後に表示する必要があります。たとえば、972813XXXX というマスクを指定すると、内線 1234 からの外線コールには発信者 ID 番号 9728131234 が表示されます。
[インターコム電話番号の設定 (Intercom Directory Number Settings)]	
[コーリングサーチスペース (Calling Search Space)]	ドロップダウンリスト ボックスから、適切なコーリングサーチスペースを選択します。コーリングサーチスペースは、この電話番号からコールが行われる番号を検索するパーティションの集合から構成されています。選択した値は、この電話番号を使用するすべてのデバイスに適用されます。
[プレゼンスグループ (Presence Group)]	このフィールドにはプレゼンス機能を設定します。 ドロップダウンリスト ボックスから、この電話番号に対するプレゼンスグループを選択します。選択したグループでは、この電話番号を監視できるデバイス、エンドユーザ、およびアプリケーションユーザを指定します。

表 3-3 BAT テンプレートにインターコム テンプレートを追加する場合のフィールドの説明 (続き)

フィールド	説明
[自動応答 (Auto Answer)]	次のいずれかのオプションを選択して、この電話番号の自動応答機能をアクティブにします。 <ul style="list-style-type: none"> • [自動応答オフ (Auto Answer Off)] <デフォルト> • [ヘッドセットで自動応答 (Auto Answer with Headset)] • [スピーカフォンで自動応答 (Auto Answer with Speakerphone)] <p>(注) シェアラインを持つデバイスに自動応答を設定しないでください。</p>
[デフォルトのアクティブデバイス (Default Activated Device)]	ドロップダウンリストボックスから、電話番号に対するデフォルトのアクティブ デバイスを選択します。電話番号がデフォルトでアクティブになっている電話機を指定します。ドロップダウン リストには、インターコムをサポートしているデバイスのみが表示されます。 <p>(注) インターコム電話番号がインターコム回線としてアクティブになるデフォルトのアクティブ デバイスを指定する必要があります。</p> <p>(注) Cisco エクステンション モビリティ用に設定されているデバイス プロファイルでインターコム DN が指定されている場合、デバイスがインターコム機能をサポートし、ユーザが指定されたデフォルト アクティブ デバイスにデバイス プロファイルを使用してログインしたときのみ、そのインターコム DN がインターコム回線として表示されます。</p>

追加情報

「[関連項目](#)」(P.3-83) を参照してください。

BAT スプレッドシートを使用した電話機用 CSV データ ファイルの作成

新しい電話機または IP テレフォニー デバイスをシステムに追加する場合、BAT とともに使用するよう設計された Microsoft Excel スプレッドシートを使用できます。このスプレッドシートは、選択されたデバイスのオプションを自動的に調整するマクロを備えています。スプレッドシート内でファイル形式を定義することができるので、BAT スプレッドシートはデータ ファイル形式を使用して CSV データ ファイルのフィールドを表示します。

新しい電話機と他の IP テレフォニー デバイスを追加するために BAT スプレッドシートを使用して CSV データ ファイルを作成する手順は、次のとおりです。

BAT スプレッドシートのインストール方法と使用方法については、「[BAT スプレッドシートをデータ収集に使用する方法](#)」(P.1-9) を参照してください。

手順

ステップ 1 BAT.xlt ファイルを検索し、ダブルクリックして、BAT スプレッドシートを開きます。

ステップ 2 プロンプトが表示されたら、[マクロを有効にする] ボタンをクリックして、スプレッドシート機能を使用します。

ステップ 3 電話機オプションを表示するには、スプレッドシートの下部にある [Phones] タブをクリックします。

ステップ 4 次のデバイス タイプのいずれかのオプション ボタンを選択します。

- [Phones]
- [CTI Port]
- [H.323 Client]
- [VGC Phone]
- [VGC Virtual Phone]
- [Cisco IP Communicator Phone]

スプレッドシートには、選択されたデバイスで使用可能なオプションが表示されます。たとえば、[Phones] を選択すると、回線数とスピードダイヤル数のフィールドが表示されます。



(注) 選択するデバイス タイプによって BAT スプレッドシート内のデータの検索条件が決まります。

ステップ 5 電話機ごとに定義できるデバイス フィールドおよび回線フィールドを選択するには、[Create File Format] をクリックします。[Field Selection] ポップアップ ウィンドウが表示されます。

ステップ 6 デバイス フィールドを選択するには、[Device Fields] ボックスでデバイス フィールド名をクリックし、次に矢印をクリックしてそのフィールドを [Selected Device Fields] ボックスに移動します。

CSV データ ファイルには、[MAC Address/Device Name] および [Description] を含める必要があります。したがって、これらのフィールドは常に選択された状態になっています。



ヒント リスト内の特定範囲のフィールドを複数同時に選択するには、Shift キーを押しながらフィールド名をクリックします。複数のフィールドを任意に選択するには、Ctrl キーを押しながらフィールド名をクリックします。

ステップ 7 [Line Fields] ボックスで回線フィールド名をクリックしてから、矢印をクリックしてそのフィールドを [Selected Line Fields] ボックスに移動します。



ヒント [Selected Line Fields] ボックスと [Selected Device Fields] ボックスの項目の順序は変更できません。項目を選択し、上向き矢印を使用してその項目をリストの前方に移動させるか、または下向き矢印を使用してその項目をリストの後方に移動させます。

ステップ 8 既存の CSV 形式を上書きするかどうかを確認するメッセージが表示されます。[Create] をクリックして、CSV データ ファイル形式を修正します。

ステップ 9 [OK] をクリックします。選択したフィールド用の新しいカラムが、指定した順序で BAT スプレッドシートに表示されます。

ステップ 10 [Maximum Number of Phone Lines] ボックスが表示されるまで、右にスクロールします。ここで指定する回線数は、BAT テンプレートで設定した回線数を超えることはできません。



(注) CSV データ ファイルを挿入するとき、電話機の回線数は BAT 電話機テンプレートの回線数を超えることはできません。この数を超えると、エラーが発生します。

- ステップ 11** 電話機の [スピードダイヤルの最大数 (Maximum Number of Speed Dials)] ボックスでスピードダイヤル ボタンの数を入力する必要があります。ボタン数を入力すると、各スピードダイヤル番号用のカラムが表示されます。



(注) データレコードを挿入するときは、BAT テンプレートで設定したスピードダイヤル数を超えないようにしてください。超えた場合は、CSV データファイルと BAT 電話機テンプレートを挿入するときにエラーが発生します。

- ステップ 12** [BLF スピードダイヤルの最大数 (Maximum Number of BLF Speed Dials)] ボックスで、ビジーランプ フィールド (BLF) スピードダイヤル ボタンの数を入力します。ボタン数を入力すると、各 BLF スピードダイヤル番号用のカラムが表示されます。

- ステップ 13** スプレッドシートで回線ごとに個々の電話機のデータを入力します。すべての必須フィールド、および該当するオプション フィールドに値を入力します。各カラムの見出しは、フィールドの長さ、およびそのフィールドが必須かオプションかを指定しています。表 3-4 では、BAT スプレッドシートのすべての電話機フィールドを説明しています。

- ステップ 14** 電話機ごとに MAC アドレスを入力しなかった場合は、[Create Dummy MAC Address] チェックボックスをオンにします。

ダミー MAC アドレス オプションを選択した場合、後で、正しい MAC アドレスを使用して電話機を更新できます。この更新を行うには、Cisco Unified Communications Manager の管理ページにこの情報を手作業で入力するか、Unified CM Auto-Register Phone Tool ツールを使用します。Unified CM Auto-Register Phone Tool の詳細については、「TAPS の概要」(P.80-2) を参照してください。



(注) CTI ポートを追加する場合、ダミー MAC アドレス オプションを使用すると、ダミー MAC アドレスの形式で、CTI ポートごとに固有のデバイス名が指定されます。H.323 Client、VGC Phone、および VGC Virtual Phone には、ダミー MAC アドレスを使用しないでください。

- ステップ 15** [Export to BAT Format] をクリックして BAT Excel スプレッドシートから CSV 形式のデータファイルにデータを転送します。

このファイルは、指定したローカルワークステーション上で選択したフォルダに、次のファイル名で保存されます。

<tablename>-<timestamp>.txt

ここで、<tablename> は、作成した入力ファイルのタイプ (たとえば、phones) を表し、<timestamp> は、ファイルが作成された正確な日時を表します。



(注) いずれかのフィールドにカンマを入力した場合、BAT.xlt を使用して BAT 形式にエクスポートするときに、そのフィールド エントリは二重引用符で囲われます。スプレッドシートにブランク行を入力すると、その空の行はファイルの終わりとして扱われません。ブランク行の後に入力されているデータは BAT 形式に変換されません。



(注) カンマが入った CSV ファイル名 (abcd,e.txt) は、Cisco Unified Communications Manager サーバにアップロードできません。

CSV データ ファイルを Cisco Unified Communications Manager の最初のノードにあるデータベース サーバにアップロードして、BAT が CSV データ ファイルにアクセスできるようにする必要があります。ファイルのアップロードとダウンロードの詳細については、第 2 章「ファイルのアップロードとダウンロード」を参照してください。



(注)

エクスポートされた CSV データ ファイルを読み取る方法については、BAT 内の [電話の挿入 (Insert Phones)] ウィンドウで [サンプルファイルの表示 (View Sample File)] へのリンクをクリックしてください。

追加情報

「関連項目」(P.3-83) を参照してください。

BAT スプレッドシートの電話機のフィールドの説明

表 3-4 では、CSV データ ファイルにデバイスと回線の詳細を追加する場合に使用可能な電話機フィールドについて説明します。関連する手順については、「関連項目」(P.3-83) を参照してください。

表 3-4 BAT スプレッドシートの電話機フィールドの説明

フィールド	説明
[Device Fields]	
[MAC Address/Device Name]	電話機、VGC Virtual Phone、および VGC Phone の MAC アドレスを入力します。CTI ポートまたは H.323 クライアントの固有の ID (デバイス名) を入力します。[Dummy MAC Address] チェックボックスをオンにすると、固有のデバイス ID を自動的に生成できます。
[Description]	電話機またはデバイスを特定する説明 (たとえば、「Conference Room A」や「John Smith」) を入力します。説明には、任意の言語で最大 50 文字を指定できますが、二重引用符 (")、パーセント記号 (%)、アンパサンド (&)、バックスラッシュ (\)、または山カッコ (<>) は使用できません。
[Media Resource Group List]	このグループの電話機またはポートのメディア リソース グループ リスト (MRGL) を入力します。 MRGL は、優先順位が付けられたメディア リソース グループのリストを指定します。アプリケーションは、MRGL に定義されている優先順位に従って、使用可能なメディア リソースの中から、必要なメディア リソースを選択できます。
[User Hold Audio Source]	このグループの IP Phone または CTI ポートが使用するユーザ保留 オーディオ ソースを入力します。 ユーザ保留オーディオ ソースは、ユーザがコールを保留にしたときに再生される音楽のオーディオ ソースを特定します。

表 3-4 BAT スプレッドシートの電話機フィールドの説明 (続き)

フィールド	説明
[Network Hold Audio Source]	このグループの IP Phone または CTI ポートが利用するネットワーク保留オーディオ ソースを入力します。 ネットワーク保留オーディオ ソースは、システムがコールを保留にするとき (たとえば、ユーザがコールを転送したときまたはコールパークに置いたとき) に再生される音楽のオーディオ ソースを特定します。
[User Locale]	このグループの IP Phone に関連付ける国/地域と言語の組み合わせを入力します。 この選択内容によって、言語やフォントを含むロケール属性のどれをこのユーザに適用するか、およびこのユーザの Cisco Unified Communications Manager のユーザ ウィンドウと電話機をどの言語で表示するかが決まります。
[Network Locale]	このグループの電話機に関連付けるネットワーク ロケールを入力します。 ネットワーク ロケールは、シスコのゲートウェイと電話機が、特定地域の PSTN およびその他のネットワークと通信するときに使用するトーンと断続周期を提供します。
[Softkey Template]	このグループ内の電話機すべてに使用されるソフトキー テンプレートを入力します。
[Common Phone Profile]	ドロップダウンリスト ボックスで、利用可能な共通の電話プロファイルのリストから、共通の電話プロファイルを選択します。
[Device Presence Group]	プレゼンス機能で使用すると、SIP または SCCP を実行する電話機は、BLF スピードダイヤル ボタンとして電話機に設定されたプレゼンス エンティティに関するステータス (たとえば、電話番号) を要求するので、ウォッチャーとして機能します。 電話機によってプレゼンス エンティティのステータスを受信するには、電話番号に適用されるプレゼンス グループのステータスを [プレゼンスグループの設定 (Presence Group Configuration)] ウィンドウに示されるとおり表示するよう許可されているプレゼンス グループを選択します。 ヒント プレゼンス機能の詳細については、『Cisco Unified Communications Manager 機能およびサービス ガイド』を参照してください。
[Phone Load Name]	該当する場合は、カスタム電話機ロードを入力します。 (注) このフィールドに入力される値は、選択された電話機のデフォルト値を上書きします。 値は CTI ポートには適用されません。
[Security Profile]	デバイスに適用するセキュリティ プロファイルを入力します。選択したプロファイルを電話機がサポートしていない場合は、Cisco Unified Communications Manager で設定が適用できません。 すべての電話で、セキュリティ プロファイルを適用する必要があります。電話機がセキュリティをサポートしていない場合は、非セキュアなプロファイルを選択します。

表 3-4 BAT スプレッドシートの電話機フィールドの説明 (続き)

フィールド	説明
[Device Subscribe CSS]	<p>プレゼンス機能で使用了した場合、電話機からの登録要求を Cisco Unified Communications Manager がルーティングする方法は、SUBSCRIBE コーリング サーチ スペースによって決まります。この目的に使用するコーリング サーチ スペースを入力します。</p> <p>ヒント プレゼンス機能の詳細については、『<i>Cisco Unified Communications Manager 機能およびサービス ガイド</i>』を参照してください。</p>
[E.164]	<p>ゲートキーパーに登録されている E.164 アドレスを選択します。</p> <p>(注) H.323 クライアントがゲートキーパー制御のデバイスとして設定されていることを確認します。</p> <p>(注) このフィールドには、ゲートキーパー制御の H.323 クライアント用の値を入力する必要があります。このフィールドに入力できるのは、数字 (0 ~ 9) と特殊文字の # および * だけです。</p>
[User ID]	この電話機ユーザのユーザ ID を入力します。
[Media Resource Group List]	このリストは、優先順位が付けられたメディア リソース グループのグルーピングを指定します。アプリケーションは、[Media Resource Group List] で定義する優先順位に従って、使用可能なメディア リソースから必要なメディア リソース (たとえば保留音サーバ) を選択します。
[AAR Calling Search Space]	デバイスが自動代替ルーティング (AAR) の実行時に使用する適切なコーリング サーチ スペースを入力します。AAR コーリング サーチ スペースは、ルート パーティションの集合を指定するものです。ルート パーティションの集合は、帯域幅不足のために本来ならブロックされるダイヤルされた番号のルーティング方法を決定するために検索されます。
[MLPP Domain]	このデバイスに関連付けられている MLPP ドメインの 16 進数値を入力します。ブランクまたは 0 ~ FFFFFFFF の値である必要があります。
[MLPP Indication]	<p>(使用可能な場合) 優先トーンを再生する機能のあるデバイスが、MLPP 優先コールを行うときにその機能を使用するかどうかを指定します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [Default] : デバイスは MLPP 表示設定をデバイス プールから継承します。 • [Off] : デバイスは MLPP 優先コールの表示の対応も処理もしません。 • [On] : デバイスは MLPP 優先コールの表示に対応して処理します。

表 3-4 BAT スプレッドシートの電話機フィールドの説明 (続き)

フィールド	説明
[MLPP Preemption]	<p>(使用可能な場合) 進行中のコールをプリエンプション処理する機能のあるデバイスが、MLPP 優先コールを行うときにその機能を使用するかどうかを指定します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [Default] : デバイスは MLPP 表示設定をデバイス プールから継承します。 • [Off] : デバイスは MLPP 優先コールの表示の対応も処理もしません。 • [On] : デバイスは MLPP 優先コールの表示に対応して処理します。
[Signal Packet Capture Mode]	<p>信号パケット キャプチャに設定するモードを入力します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [None] : モードを指定しない場合は [None] を選択します。 • [Real-Time Mode] : リアルタイム信号パケット キャプチャに使用します。 • [Batch Processing Mode] : 信号パケット キャプチャのバッチ処理に使用します。
[Packet Capture Duration]	<p>パケット キャプチャの時間を分単位で入力します。最大 300 分の継続時間を入力できます。</p>
[Authentication String]	<p>4 ~ 10 桁の数値を入力します。ローカルで有効な証明書をインストール、アップグレード、またはトラブルシューティングするには、電話機のユーザまたは管理者が認証文字列を電話機に入力する必要があります。</p>
[Ignore Presentation Indicator]	<p>Yes または No を入力して、コール表示の制限をコールごとに設定します。このチェックボックスをオンにすると、Cisco Unified Communications Manager では、内線コールのために受信したすべての表示制限が無視されます。</p>
[SIP Profile]	<p>デフォルトの SIP プロファイルまたはすでに作成した特定のプロファイルを入力します。SIP プロファイルは、デフォルトのテレフォニー イベント ペイロードのタイプ、登録タイマーおよびキープアライブ タイマー、メディア ポート、Iris、および動的 DNS サーバアドレスなど、電話機の特定の SIP 情報を提供します。</p>
[Digest User]	<p>ダイジェスト認証 (SIP セキュリティ) で使用します。電話機に関連付けるエンドユーザを選択します。</p> <p>選択したダイジェスト信用証明書が、[エンドユーザの設定 (End User Configuration)] ウィンドウで指定されたとおりに設定されていることを確認します。</p> <p>電話機の設定を保存し電話機をリセットした後、ユーザのダイジェスト信用証明書が、電話機の設定ファイルに追加されます。</p> <p>ダイジェスト認証の詳細については、『Cisco Unified Communications Manager セキュリティ ガイド』を参照してください。</p>

表 3-4 BAT スプレッドシートの電話機フィールドの説明 (続き)

フィールド	説明
[Log Out Profile]	<p>エクステンション モビリティのユーザがログアウトするときに電話機がロードするプロファイルを入力します。Cisco Unified Communications Manager の管理ページでログアウト プロファイルを設定する必要があります。</p> <p>[現在のデバイス設定を使用 (Use Current Device Setting)] : これを選択すると、自動生成されたデバイス プロファイルが、デフォルト デバイス プロファイルとして作成されます。</p> <p>[ユーザデバイスプロファイルを選択 (Select a User Device Profile)] : これを選択すると、定義済みのユーザ デバイス プロファイルが割り当てられ、このデバイスのデフォルト デバイス プロファイルになります。</p> <p>選択されたユーザ デバイス プロファイルは、ログインしているユーザがいないとき、デバイスにロードされます。</p>
[SIPCodec_MTPPreferredOrigCodec]	SIP コールにメディア ターミネーション ポイントが必要な場合に使用するコーデックを入力します。
[Dial Rules]	<p>必要に応じて、適切な SIP ダイアル ルールを入力します。SIP ダイアル ルールにより、SIP を実行する Cisco Unified IP Phone 7905、7912、7940、および 7975 ではローカルのダイアル プランを使用できるため、コールが処理される前にユーザがキーを押したりタイマーを待ったりする必要がなくなります。</p> <p>ダイアル ルールを SIP を実行する IP Phone に適用しない場合は、[SIP Dial Rules] フィールドを [<None>] のままにします。この場合、コールを処理するには、ユーザが [ダイアル] ソフトキーを使用するか、タイマーが期限切れになるのを待つ必要があります。</p>
[CSS Reroute]	<p>再ルーティングに使用するコーリング サーチ スペースを入力します。</p> <p>参照側の再ルーティング用コーリング サーチ スペースが、参照側からターゲットへのルート検索に使用されます。再ルーティング用コーリング サーチ スペースが原因で参照が失敗した場合、参照プリミティブは、要求を拒否して「405 Method Not Allowed」というメッセージを返します。</p> <p>リダイレクション (3xx) プリミティブおよび転送機能も、再ルーティング用コーリング サーチ スペースを使用して、リダイレクトからまたは転送からターゲットへのルートを検索します。</p>
[Common Phone Configuration]	電話機に割り当てられる共通の電話設定を入力します。共通の電話設定には、特定のユーザに関連付けられたアトリビュート (サービスまたは機能) があります。
[CSS Refer]	<p>Out-Of-Dialog REFER コーリング サーチ スペースを入力します。</p> <p>Cisco Unified Communications Manager は、Out-Of-Dialog (OOD) REFER 許可コーリング サーチ スペース (CSS) を使用して SIP Out-Of-Dialog REFER を許可します。管理者は、参照側の OOD CSS を設定することによって、Out-Of-Dialog REFER の使用を制限します。参照プリミティブでは、OOD REFER 要求を拒否し、「403 Forbidden」というメッセージを返します。</p>

表 3-4 BAT スプレッドシートの電話機フィールドの説明 (続き)

フィールド	説明
[Certificate Operation]	次のオプションから実行する認証操作を入力します。 <ul style="list-style-type: none"> • [No Pending Operation] : このデバイスには保留中の証明書のオペレーションリストが存在しません。このオプションを選択すると、残りの CAPF フィールドは無効になります。 • [Install/Upgrade] : 証明書のオペレーションをインストールまたは更新します。 • [Delete] : 証明書のオペレーションを削除します。 • [Troubleshoot] : 証明書のオペレーションのトラブルシューティングを行います。
[Certification Operation Completion Time]	このフィールドでは、[Certificate Operation] の [Install/Upgrade]、[Delete]、および [Troubleshoot] オプションがサポートされており、操作を完了する必要がある日付と時刻を指定します。
[Secure Shell User]	セキュリティ保護されたシェルのユーザのユーザ ID を入力します。設定している電話機がセキュリティ保護されたシェルへのアクセスをサポートしていない場合、このフィールドは表示されません。Cisco Technical Assistance Center (TAC) は、トラブルシューティングのためにセキュリティ保護されたシェルを使用します。詳細については、TAC にお問い合わせください。
[Secure Shell Password]	セキュリティで保護されたシェルのユーザのパスワードを入力します。設定している電話機がセキュリティ保護されたシェルへのアクセスをサポートしていない場合、このフィールドは表示されません。詳細については、TAC にお問い合わせください。
[Device Pool]	適切なデバイス プールを入力します。 デバイス プールは、このデバイスのプロパティの集合 (たとえば、Cisco Unified Communications Manager グループ、日付/時刻グループ、地域、およびデバイスの自動登録用のコーリング サーチ スペース) を指定します。
[Built in Bridge]	Off、On、または Default を入力して、割り込み機能のためのビルトイン会議ブリッジを有効または無効にします。 設定情報の詳細については、『Cisco Unified Communications Manager 機能およびサービス ガイド』の「割り込みとプライバシー」を参照してください。
[Calling Search Space]	適切なコーリング サーチ スペースを入力します。コーリング サーチ スペースは、この電話番号からコールが行われる番号を検索するパーティションの集合から構成されています。選択した値は、この電話番号を使用するすべてのデバイスに適用されます。コーリング サーチ スペースに関する設定情報については、『Cisco Unified Communications Manager アドミニストレーション ガイド』を参照してください。
[Location]	この電話機に対して、適切な場所を選択します。ロケーションを Hub_None に設定すると、ロケーション機能がこの電話機の消費する帯域幅を管理しないことを示します。
[Module 1]	適切な拡張モジュールまたは None を入力します。

表 3-4 BAT スプレッドシートの電話機フィールドの説明 (続き)

フィールド	説明
[Module 1 Load Name]	適切な拡張モジュールのカスタム ソフトウェアを入力します (該当する場合)。 ここで入力する値は、現在のモデルのデフォルト値を上書きします。ファームウェア ロードがモジュール ロードに一致することを確認します。
[Module 2]	適切な拡張モジュールまたは None を入力します。
[Module 2 Load Name]	2 番目の拡張モジュールのカスタム ソフトウェアを入力します (該当する場合)。 ここで入力する値は、現在のモデルのデフォルト値を上書きします。ファームウェア ロードがモジュール ロードに一致することを確認します。
[Phone Template]	このタイプのバルク トランザクション用に作成した電話機テンプレートを <input type="text"/> に入力します。
[Authentication Server]	電話機の Web サーバに対する要求を認証するときに、電話機が使用する URL を <input type="text"/> に入力します。認証 URL を指定しない場合は、認証を必要とする Cisco Unified IP Phone の拡張機能は動作しません。デフォルト設定値を受け入れる場合には、このフィールドをブランクのままにします。 デフォルトでは、この URL は、インストール時に設定された Cisco Unified IP Phone ユーザ オプション ウィンドウにアクセスします。
[Proxy Server]	電話機の HTTP クライアントから非ローカル ホスト アドレスにアクセスするために、プロキシ HTTP 要求に使用されるホストおよびポート (たとえば、 <code>proxy.cisco.com:80</code>) を <input type="text"/> に入力します。 電話機が、サービスの中で URL (たとえば、 <code>www.cisco.com</code>) を受信するときに <code>cisco.com</code> ドメインで設定されていない場合、その電話機はプロキシサーバを使用してその URL にアクセスします。 <code>cisco.com</code> ドメインで設定されている場合、電話機は、URL と同じドメインにいるので、プロキシを使用せずに URL にアクセスします。
[Idle]	[Idle Timer] フィールドで指定された時間、電話機が使用されなかったときに、Cisco Unified IP Phone LCD スクリーンにアイドル表示として表示される XML サービスの URL を <input type="text"/> に入力します。 たとえば、電話機が 5 分間使用されなかったときに、LCD スクリーンにロゴを表示できます。
[Idle Timer]	電話機に許容される非動作時間 (秒数) を <input type="text"/> に入力します。非動作のままこの時間が経過すると、電話機は [Idle] フィールドに指定された URL を表示します。

表 3-4 BAT スプレッドシートの電話機フィールドの説明 (続き)

フィールド	説明
[Secure Authentication URL]	<p>電話機の Web サーバに対する要求を検証するために、この電話機が使用するセキュア URL を入力します。</p> <p>(注) [Secure Authentication URL] の値を指定しないと、デバイスでは非セキュア URL が使用されます。セキュア URL と非セキュア URL の両方を指定した場合、デバイスではデバイスの持つ機能に応じて適切な URL が選択されます。</p> <p>デフォルトでは、この URL は、インストール時に設定された Cisco Unified CM のユーザ オプション ウィンドウにアクセスします。</p> <p>デフォルト値を受け入れるには、このフィールドを空白のままにします。</p> <p>最大長：255</p>
[Secure Directory URL]	<p>電話機がディレクトリ情報を取得する際の取得元となるサーバのセキュア URL を入力します。このパラメータは、ディレクトリ ボタンを押したときに、セキュリティ保護された Cisco Unified IP Phone で使用する URL を指定します。</p> <p>(注) [Secure Directory URL] の値を指定しないと、デバイスでは非セキュア URL が使用されます。セキュア URL と非セキュア URL の両方を指定した場合、デバイスではデバイスの持つ機能に応じて適切な URL が選択されます。</p> <p>デフォルト値を受け入れるには、このフィールドを空白のままにします。</p> <p>最大長：255</p>
[Secure Idle URL]	<p>[Idle Timer] フィールドの指定に従って電話機がアイドル状態になったときに、Cisco Unified IP Phone のディスプレイに表示する情報のセキュア URL を入力します。たとえば、電話機が 5 分間使用されなかったときに、LCD 上にロゴを表示できます。</p> <p>(注) [Secure Idle URL] の値を指定しないと、デバイスでは非セキュア URL が使用されます。セキュア URL と非セキュア URL の両方を指定した場合、デバイスではデバイスの持つ機能に応じて適切な URL が選択されます。</p> <p>デフォルト値を受け入れるには、このフィールドを空白のままにします。</p> <p>最大長：255</p>

表 3-4 BAT スプレッドシートの電話機フィールドの説明 (続き)

フィールド	説明
[Secure Information URL]	<p>Cisco Unified IP Phone がヘルプ テキスト情報を検索できるサーバロケーションのセキュア URL を入力します。この情報は、ユーザが情報 ([i]) ボタンまたは疑問符 ([?]) ボタンを押すと表示されます。</p> <p>(注) [Secure Information URL] の値を指定しないと、デバイスでは非セキュア URL が使用されます。セキュア URL と非セキュア URL の両方を指定した場合、デバイスではデバイスの持つ機能に応じて適切な URL が選択されます。</p> <p>デフォルト値を受け入れるには、このフィールドを空白のままにします。</p> <p>最大長：255</p>
[Secure Messages URL]	<p>メッセージ サーバのセキュア URL を入力します。ユーザがメッセージ ボタンを押すと、Cisco Unified IP Phone はこの URL に接続されます。</p> <p>(注) [Secure Messages URL] の値を指定しないと、デバイスでは非セキュア URL が使用されます。セキュア URL と非セキュア URL の両方を指定した場合、デバイスではデバイスの持つ機能に応じて適切な URL が選択されます。</p> <p>デフォルト値を受け入れるには、このフィールドを空白のままにします。</p> <p>最大長：255</p>
[Secure Services URL]	<p>Cisco Unified IP Phone サービスのセキュア URL を入力します。これは、ユーザがサービス ボタンを押したときに、セキュアな Cisco Unified IP Phone が接続される場所です。</p> <p>(注) [Secure Services URL] の値を指定しないと、デバイスでは非セキュア URL が使用されます。セキュア URL と非セキュア URL の両方を指定した場合、デバイスではデバイスの持つ機能に応じて適切な URL が選択されます。</p> <p>デフォルト値を受け入れるには、このフィールドを空白のままにします。</p> <p>最大長：255</p>
[Hotline Device]	<p>「T」または「F」を入力します。ホットライン デバイスは、他のホットライン デバイスにだけ接続できます。この機能は、オフフックになると自動的に 1 つの電話番号をダイヤルするように電話機を設定する PLAR の拡張機能です。ホットラインでは、PLAR を使用するデバイスに適用できる制限事項が追加されます。</p> <p>ホットラインを実装するには、補足サービス ソフトキーのないソフトキー テンプレートを作成して、ホットライン デバイスに適用する必要があります。</p>
[Owner User ID]	<p>プライマリ 電話機ユーザのユーザ ID を入力します。</p>
[Common Phone Profile]	<p>電話機に割り当てられる共通の電話プロファイルを入力します。共通の電話プロファイルには、特定のユーザに関連付けられているアトリビュート (サービスまたは機能) が含まれています。</p>

表 3-4 BAT スプレッドシートの電話機フィールドの説明 (続き)

フィールド	説明
[Device Mobility Mode]	このデバイスのデバイス モビリティ機能をオンまたはオフにするか、デフォルトを入力してデフォルトのデバイス モビリティ モードを使用します。 設定情報の詳細については、『Cisco Unified Communications Manager 機能およびサービス ガイド』の「デバイス モビリティ」の章を参照してください。
[DND Option]	次のオプションから DND オプションを選択します。 <ul style="list-style-type: none"> • [None] • [Ringer Off]
[DND Incoming Call Alert]	次のオプションのいずれかを入力します。 <ul style="list-style-type: none"> • [None] • [Disable] • [Flash Only] • [Beep Only]
[Privacy]	次のオプションのいずれかを入力します。 <ul style="list-style-type: none"> • [On] • [Off] • [Default]
[Use Trusted Relay Point]	次のオプションのいずれかを入力します。 <ul style="list-style-type: none"> • [Default] • [Off] • [On]
[Information]	Cisco Unified IP Phone の情報ボタンのヘルプ テキスト URL を入力します。
[Directory]	Cisco Unified IP Phone のディレクトリ サーバの URL を入力します。
[Messages]	Cisco Unified IP Phone のボイス メッセージのアクセス パイロット番号を入力します。
[Services]	Cisco Unified IP Phone のサービス メニューの URL を入力します。
[Calling Party Transformation CSS]	この設定を使用すると、デバイスの発呼側番号をローカライズすることができます。入力した [Calling Party Transformation CSS] には、このデバイスに割り当てる発呼側トランスフォーメーション パターンが含まれます。

表 3-4 BAT スプレッドシートの電話機フィールドの説明 (続き)

フィールド	説明
[Single Button Barge]	次のオプションのいずれかを入力します。 <ul style="list-style-type: none"> • [Off] : ワンボタン割り込み/C 割り込み機能を無効にします。ただし、通常の割り込みまたは C 割り込み機能は使用できます。 • [Barge] : ワンボタン割り込み機能を有効にします。 • [cBarge] : ワンボタン C 割り込み機能を有効にします。 • [Default] : サービス パラメータで設定されているワンボタン割り込み/C 割り込みの値を使用します。 <p>ヒント 設定情報の詳細については、『Cisco Unified Communications Manager 機能およびサービス ガイド』の「割り込みとプライベートシー」を参照してください。</p>
[Join Across Lines]	次のオプションのいずれかを入力します。 <ul style="list-style-type: none"> • [Off] : 回線をまたいで参加の機能を無効にします。 • [On] : 回線をまたいで参加の機能を有効にします。 • [Default] : サービス パラメータで設定されている回線をまたいで参加の設定値を使用します。
[BLF Audible Alert Setting (Phone Idle)]	次の値から、使用する BLF オーディオアラートの設定値を入力します。 <ul style="list-style-type: none"> • [On] • [Off] • [Default] <p>この必須フィールドでは、コールがビジー ランプ フィールド (BLF) ボタンで監視されている回線のいずれかに着信した場合、このパラメータで現在アイドルの電話機にオーディオアラートとビジュアルアラートを送信します。</p>
[BLF Audible Alert Setting (Phone Busy)]	この必須フィールドでは、次の値から、使用する BLF オーディオアラートの設定値を入力します。 <ul style="list-style-type: none"> • [On] • [Off] • [Default]
[Always Use Prime Line]	次の値から、使用する [Always Use Prime Line] の設定値を入力します。 <ul style="list-style-type: none"> • [On] • [Off] • [Default]
[Always Use Prime Line for Voice Message]	次の値から、使用する [Always Use Prime Line for Voice Message] の設定値を入力します。 <ul style="list-style-type: none"> • [On] • [Off] • [Default]

表 3-4 BAT スプレッドシートの電話機フィールドの説明 (続き)

フィールド	説明
[Services Provisioning]	この必須フィールドでは、次のいずれかの値を入力します。 <ul style="list-style-type: none"> • [Internal] • [External URLs] • [Both] • デフォルト:[Internal]
[Phone Personalization]	次の値のいずれかを入力します。 <ul style="list-style-type: none"> • [Disabled] : 電話機のパーソナライゼーション設定をアクティブにしません。 • [Enabled] : この設定は、電話機のスクリーンに使用される個人用の背景イメージファイルや一時的な表示用のプレビューイメージを受け入れます。また、個人用のトーンファイルを受け入れて、デフォルトの呼出音を個人用に設定します。 • [Default] : 共通の電話プロファイルに設定されている電話機のパーソナライゼーションを使用します。
[Mobility Identity Name]	リモート接続先を識別する名前を入力します。
[Mobility Identity Destination Number]	接続先の電話番号を入力します。これには、外部の回線を取得するのに必要な追加の番号と市外局番が含まれています。最大フィールド長は 24 文字です。値として使用できるのは、0 ~ 9 の数字、* および # です。リモート接続先の発信者 ID を設定することをお勧めします。 必要なトランスレーションパターンまたは宛先番号をルーティングするルートパターンを追加します。
[Mobility Identity Answer Too Soon Timer]	携帯電話が応答されるまでに経過する最短時間 (ミリ秒)。 範囲 : 0 ~ 10,000 ミリ秒 デフォルト : 1,500 ミリ秒
[Mobility Identity Answer Too Late Timer]	携帯電話が応答されるまでに経過する最長時間 (ミリ秒)。 範囲 : 10,000 ~ 300,000 ミリ秒 デフォルト : 19,000 ミリ秒
[Mobility Identity Delay Before Ringing Cell]	コールがデスクトップ電話機から携帯電話に転送された場合、携帯電話で呼び出し音が鳴るまでに経過する時間を入力します。 範囲 : 0 ~ 300,000 ミリ秒 デフォルト : 4,000 ミリ秒
[Mobility Identity Time of Day Access]	このリモート接続先に関連付けられている時刻アクセスレコードを入力します。
[Mobility Identity Time Zone]	このリモート接続先に使用するタイムゾーンを入力します。 (注) このリモート接続先に使用するタイムゾーンは時刻アクセス機能で使用され、このリモート接続先に対するコールを許可または拒否します。
[Mobility Identity Enable Mobile Connect]	このフィールドに「T」または「F」を入力すると、コールの着信時にデスクトップ電話機とリモート接続先で同時に呼び出し音を鳴らしたり、または鳴らさないようにしたりすることができます。

表 3-4 BAT スプレッドシートの電話機フィールドの説明 (続き)

フィールド	説明
[Mobile Smart Client Profile]	モバイル スマート クライアント プロファイルは、スマート クライアント デバイスとデュアルモード フォンのスマート クライアントです。 このフィールドに「Standard Cisco Unified Mobile Communicator Profile」と入力して、Cisco Unified Mobile Communicator を有効にします。ブランクにすると、無効になります。
[Geo Location]	電話機に関連付ける位置情報を入力します。 電話機を位置情報に関連付けない場合は、「unspecified」と入力します。
[Feature Control Policy]	このグループの電話機の機能管理ポリシーを入力します。 機能管理ポリシーは、機能の Appearance および電話機に表示される関連付けられたソフトキーを指定します。
[Line Fields] (オプション)	
[Directory Number]	電話機の電話番号を、24 桁以下の数字と特殊文字で入力します。
[Route Partition]	電話番号が属するルート パーティションを入力します。 (注) 電話番号は複数のパーティションに現れる可能性があります。
[Display]	コールの着信側の電話機ディスプレイに表示するテキストを入力します (たとえば、John Smith などのユーザ名や Conference Room 1 などの電話機の設置場所など)。このフィールドの値が表示される電話機の種類にご注意ください。対象に漢字未対応の電話機が含まれる場合は、状況により半角カタカナあるいは ASCII 文字を使用するようにしてください。また、電話機のユーザ ロケールが複数存在する場合は、共通する文字セットを使用してください。 (注) このフィールドをブランクにしておくと、[Directory Number] フィールドに入力された値が使用されます。 (注) デフォルトの言語は英語です。
[Line Text Label]	回線と電話機の組み合わせで使用されているこの電話番号を識別するためのテキストを入力します。このフィールドの値が表示される電話機の種類にご注意ください。対象に漢字未対応の電話機が含まれる場合は、状況により半角カタカナあるいは ASCII 文字を使用するようにしてください。また、電話機のユーザ ロケールが複数存在する場合は、共通する文字セットを使用してください。 (注) デフォルトの言語は英語です。
[Voice Mail Profile]	パイロット番号をこの回線の電話番号と同じにするには、このパラメータを入力します。この機能は、この電話機に対してボイス メッセージ サーバが設定されていない場合に役立ちます。
[Line Calling Search Space]	この電話番号から呼び出される番号を検索するパーティションを入力します。 (注) このフィールドに変更を加えると、[Call Pickup Group] フィールドのリストに表示されるピックアップグループ名が更新されます。この設定値は、この電話番号を使用するすべてのデバイスに適用されます。

表 3-4 BAT スプレッドシートの電話機フィールドの説明 (続き)

フィールド	説明
[AAR Group]	このデバイスの自動代替ルーティング (AAR) グループを入力します。AAR グループはプレフィックス番号を提供するものです。プレフィックス番号は、帯域幅不足のために本来ならブロックされるコールをルーティングするために使用します。 AARグループを [<None>] に設定すると、ブロックされたコールの再ルーティングは行われません。
[Forward All CSS]	コールが指定された宛先に自動転送されるときに使用するコーリングサーチスペースを入力します。 (注) この設定値は、この電話番号を使用するすべてのデバイスに適用されます。
[Secondary CSS for Forward All]	二次コーリングサーチスペース (CSS) を入力します。
[Forward All Destination]	すべてのコールが転送される先の電話番号を入力します。 (注) この設定値は、ダイヤル可能な任意の電話番号 (制限されていない限り、外部の宛先を含む)、およびこの電話番号を使用するすべてのデバイスに適用されます。
[Forward Busy External CSS]	外部番号からのコールが指定された宛先に自動転送されるときに使用するコーリングサーチスペースを入力します。 (注) この設定値は、この電話番号を使用するすべてのデバイスに適用されます。
[Forward Busy Internal CSS]	内部番号からのコールが指定された宛先に自動転送されるときに使用するコーリングサーチスペースを入力します。 (注) この設定値は、この電話番号を使用するすべてのデバイスに適用されます。
[Forward Busy External Destination]	回線が使用中のときに外部番号からのコールが自動転送される先の電話番号を入力します。 (注) この設定値は、ダイヤル可能な任意の電話番号 (制限されていない限り、外部の宛先を含む)、およびこの電話番号を使用するすべてのデバイスに適用されます。
[Forward Busy Internal Destination]	回線が使用中のときに内部番号からのコールが自動転送される先の電話番号を入力します。 (注) この設定値は、ダイヤル可能な任意の電話番号 (制限されていない限り、外部の宛先を含む)、およびこの電話番号を使用するすべてのデバイスに適用されます。
[Forward No Answer External CSS]	外部番号からのコールが指定された宛先に自動転送されるときに使用するコーリングサーチスペースを入力します。この設定値は、システム内で設定されている場合だけ、表示されます。 (注) この設定値は、この電話番号を使用するすべてのデバイスに適用されます。

表 3-4 BAT スプレッドシートの電話機フィールドの説明 (続き)

フィールド	説明
[Forward No Answer Internal CSS]	内部番号からのコールが指定された宛先に自動転送されるときに使用するコーリング サーチ スペースを入力します。この設定値は、システム内で設定されている場合だけ、表示されます。 (注) この設定値は、この電話番号を使用するすべてのデバイスに適用されます。
[Forward No Answer External Destination]	電話機が応答しない場合に外部番号からのコールが自動転送される先の電話番号を入力します。 (注) この設定値は、ダイヤル可能な任意の電話番号 (制限されていない限り、外部の宛先を含む)、およびこの電話番号を使用するすべてのデバイスに適用されます。
[Forward No Answer Internal Destination]	電話機が応答しない場合に内部番号からのコールが自動転送される先の電話番号を入力します。 (注) この設定値は、ダイヤル可能な任意の電話番号 (制限されていない限り、外部の宛先を含む)、およびこの電話番号を使用するすべてのデバイスに適用されます。
[Forward No Coverage External CSS]	外部番号からのコールが指定された宛先に自動転送されるときに使用するコーリング サーチ スペースを入力します。この設定値は、システム内で設定されている場合だけ、表示されます。 (注) この設定値は、この電話番号を使用するすべてのデバイスに適用されます。
[Forward No Coverage Internal CSS]	内部番号からのコールが指定された宛先に自動転送されるときに使用するコーリング サーチ スペースを入力します。この設定値は、システム内で設定されている場合だけ、表示されます。 (注) この設定値は、この電話番号を使用するすべてのデバイスに適用されます。
[Forward No Coverage External Destination]	電話機のカバレッジが対応しない場合に外部番号からのコールが自動転送される先の電話番号を入力します。 (注) この設定値は、ダイヤル可能な任意の電話番号 (制限されていない限り、外部の宛先を含む)、およびこの電話番号を使用するすべてのデバイスに適用されます。
[Forward No Coverage Internal Destination]	電話機のカバレッジが対応しない場合に内部番号からのコールが自動転送される先の電話番号を入力します。 (注) この設定値は、ダイヤル可能な任意の電話番号 (制限されていない限り、外部の宛先を含む)、およびこの電話番号を使用するすべてのデバイスに適用されます。
[Calling Search Space Forward on Failure External/Internal]	(CTI ポートのみ) 内線コールまたは外線コールが指定された宛先に自動転送されるときに使用するコーリング サーチ スペースを入力します。この設定値は、システム内で設定されている場合だけ、表示されます。 (注) この設定値は、この電話番号を使用するすべてのデバイスに適用されます。
[Forward on Failure Destination External/Internal]	(CTI ポートのみ) 電話機または CTI アプリケーションに障害が起きたときに、内部番号または外部番号からのコールが自動転送される先の電話番号を入力します。

表 3-4 BAT スプレッドシートの電話機フィールドの説明 (続き)

フィールド	説明
[Forward on CTI Failure Destination]	この設定は、電話番号を制御するアプリケーションが失敗した場合に、接続されなかった内線コールが自動転送される電話番号を指定します。外部の電話番号を含め、ダイヤル可能な任意の電話番号を使用します。 内線コールの宛先の値を入力すると、外線コールの [Destination] フィールドにこの値が自動的にコピーされます。外線コールを別の宛先に自動転送する場合は、外線コールの [Destination] フィールドに別の値を入力する必要があります。
[Forward on CTI Failure CSS]	この設定値は、この電話番号を使用するすべてのデバイスに適用されます。 内線コールの CSS を選択すると、外線コールの CSS 設定にこの値が自動的にコピーされます。外線コールを別のコーリング サーチ スペースに自動転送する場合は、外線コールの CSS に別の設定値を選択する必要があります。
[Call Pickup Group]	コール ピックアップ グループ名を選択してコール ピックアップ グループを指定します。コール ピックアップ グループでは、該当のピックアップグループ番号をダイヤルすることにより、この電話番号への着信コールに応答することができます。
[External Phone Number Mask]	この回線からコールを行うときに発信者 ID 用に送信される電話番号 (またはマスク) を入力します。 最大 24 桁の数字と「X」文字が入力できます。X は電話番号を表し、パターンの最後に表示する必要があります。たとえば、972813XXXX というマスクを指定すると、内線 1234 からの外線コールには発信者 ID 番号 9728131234 が表示されます。
[Forward No Answer Ring Duration (CFNA)]	コールが呼び出し音を送り、応答を待つ時間 (秒数) を入力します。この時間内に応答がないと、無応答時の転送着信先にコールを自動転送します。
[Target Destination (MLPP)]	この電話番号が優先コールを受信したが、その番号もその自動転送先もその優先コールに応答しない場合に、MLPP 優先コールが向けられる先の番号を入力します。 値は数字、シャープ (#)、およびアスタリスク (*) を含めることができます。
[MLPP CSS]	代替パーティターゲット (宛先) 番号に関連付けるコーリング サーチ スペースを入力します。
[No Answer Ring Duration (MLPP)]	優先コールに対してこの電話番号とその自動転送先が応答するのを待つ時間 (4 ~ 30 秒) を入力します。この時間内に応答がないと、MLPP 優先コールはこの電話番号の代替パーティに向けて送られます。 Cisco Unified Communications Manager エンタープライズ パラメータの Precedence Alternate Party Timeout で設定されている値を使用する場合は、この設定をブランクのままにします。

表 3-4 BAT スプレッドシートの電話機フィールドの説明 (続き)

フィールド	説明
[Maximum Number of Calls]	<p>クラスタ内のデバイスの 1 つの回線に対して最大 200 のコールを設定できます。ただし、デバイスが制限要因となります。1 つの回線に対してコールの数を設定すると、別の回線に使用可能なコールが減少します。</p> <p>デフォルトは 4 です。電話機が回線ごとの複数コールを許可していない場合、デフォルトは 2 です。</p> <p>CTI ルート ポイントに対しては、各ポートに対して最大 10,000 のコールを設定できます。デフォルトは 5000 コールです。このフィールドは [Busy Trigger] フィールドと併せて使用します。</p>
[Busy Trigger]	<p>この設定は、[Maximum Number of Calls] および [Call Forward Busy] と連動し、回線で表示されるコールの最大数を決定します。[Maximum Number of Calls] が 50 に設定され、[Busy Trigger] が 40 に設定されている場合、着信コール 41 は話し中を理由として拒否されます（さらに [Call Forward Busy] が設定されている場合は自動転送されます）。この回線が共有されている場合は、すべての回線が話し中になって、初めて着信コールが拒否されることに注意してください。</p> <p>このフィールドは、CTI ルート ポイント用の [Maximum Number of Calls] と併せて使用します。デフォルトは 4500 コールです。</p>
[Alerting Name]	共有電話番号に対するアラート中に表示される名前を表します。非共有電話番号の場合、アラート時には [Display] フィールドに入力された名前が使用されます。
[Alerting Name ASCII]	このフィールドには、[Alerting Name] フィールドと同じ情報が表示されますが、入力を ASCII 文字に制限する必要があります。Unicode (国際化) 文字をサポートしないデバイスでは、[Alerting Name ASCII] フィールドの内容が表示されます。
[Auto Answer]	<p>次のいずれかのオプションを入力して、この電話番号の自動応答機能をアクティブにします。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [Auto Answer Off] <デフォルト> • [Auto Answer with Headset] • [Auto Answer with Speakerphone] <p>(注) [Auto Answer with Headset] または [Auto Answer with Speakerphone] を選択する場合、ヘッドセットまたはスピーカフォンが使用不可になっていないことを確認してください。</p> <p>シェアラインを持つデバイスに自動応答を設定しないでください。</p>

表 3-4 BAT スプレッドシートの電話機フィールドの説明 (続き)

フィールド	説明
[Route Filter]	<p>[Route Filter Name] フィールドに名前を入力します。名前は、最大 50 文字の英数字と、空白、ピリオド (.)、ハイフン (-)、およびアンダースコア (_) の各文字を自由に組み合わせることができます。各フィルタ名がルートプランで一意であることを確認します。</p> <p>(注) ルートフィルタには、短くてわかりやすい名前を使用します。CompanynameLocationCalltype という形式を使用すれば、通常、十分に詳細でありながら、ルートフィルタをすばやく容易に識別する短い名前が作成できます。たとえば、CiscoDallasMetro という名前は、着信無料のローカル間アクセスであり、シスコのダラス オフィスからのトランスポート領域 (LATA) コールのルートフィルタを示します。</p>
[Dial Plan]	たとえば、北米番号計画などのダイヤルプランを入力します。
[Line User Hold Audio Source]	ユーザが電話を保留にしたときの保留音 (MOH) のために使用するオーディオソースを入力します。
[Line Network Hold Audio Source]	ネットワークが電話を保留にしたときの保留音 (MOH) のために使用するオーディオソースを入力します。
[Ring Setting (Phone Active)]	<p>この電話機に異なる回線で別のアクティブコールがあった場合に使用される呼び出し音設定を入力します。次のオプションのいずれかを選択してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [Use System Default] • [Disable] • [Flash Only] • [Ring Once] • [Ring] • [Beep Only]
[Ring Setting (Phone Idle)]	<p>着信コールを受信し、デバイスに他のアクティブなコールがない場合の、ライン アピラランスに対する呼び出し音設定を入力します。次のオプションのいずれかを選択してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [Use System Default] • [Disable] • [Flash Only] • [Ring Once] • [Ring]
[E.164]	<p>ゲートキーパーに登録されている E.164 アドレスを入力します。</p> <p>(注) H.323 クライアントがゲートキーパー制御のデバイスとして設定されていることを確認します。</p> <p>(注) このフィールドには、ゲートキーパー制御の H.323 クライアント用の値を入力する必要があります。このフィールドに入力できるのは、数字 (0 ~ 9) と特殊文字の # および * だけです。</p>

表 3-4 BAT スプレッドシートの電話機フィールドの説明 (続き)

フィールド	説明
[AAR Destination Mask]	外部電話番号マスクではなく、使用する設定を入力して、ダイヤルする接続先を判定します。
[Forward Unregistered Internal Destination]	回線が使用中のときに未登録の内線コールが自動転送される先の電話番号を入力します。 この設定値は、ダイヤル可能な任意の内部電話番号、およびこの電話番号を使用するすべてのデバイスに適用されます。
[Forward Unregistered Internal CSS]	未登録の内線コールが指定された宛先に自動転送されるときに使用するコーリング サーチ スペースを入力します。 この設定値は、この電話番号を使用するすべてのデバイスに適用されます。
[Forward Unregistered External Destination]	回線が使用中のときに外線コールが自動転送される先の電話番号を入力します。 この設定値は、ダイヤル可能な任意の外部電話番号 (制限されていない限り、外部の宛先を含む)、およびこの電話番号を使用するすべてのデバイスに適用されます。
[Forward Unregistered External CSS]	外線コールが指定された宛先に自動転送されるときに使用するコーリング サーチ スペースを入力します。 この設定値は、この電話番号を使用するすべてのデバイスに適用されます。
[Audible Message Waiting Indicator Policy]	このフィールドを使用して、オーディオ メッセージ受信インジケータのポリシーを設定します。次のオプションのいずれかを入力します。 <ul style="list-style-type: none"> • [Off] • [On] : このオプションを入力すると、ハンドセットをオフフックにした際に、スタッター ダイヤル トーンを受信します。 • [Default] : このオプションを入力すると、電話機はシステム レベルで設定されたデフォルト値を使用します。
[Call Pickup Group Audio Alert Setting (Phone Idle)]	このフィールドで、着信コールがコール ピックアップ グループのメンバーに送信する通知のタイプが判定されます。コールが着信した電話機で応答されない場合、コール ピックアップ グループ内のアイドルの電話機で短い呼び出し音が聞こえるか (ring once)、または何も聞こえません (disabled)。 <ul style="list-style-type: none"> • [Use System Default] : このフィールドの値は、Cisco CallManager サービス パラメータの Call Pickup Group Audio Alert Setting of Idle Station の設定値によって異なります。 • [Disable] : アラートはコール ピックアップ グループのメンバーに送信されません。 • [Ring Once] : 短い呼び出し音がコール ピックアップ グループのメンバーに送信されます。

表 3-4 BAT スプレッドシートの電話機フィールドの説明 (続き)

フィールド	説明
[Call Pickup Group Audio Alert Setting (Phone Active)]	<p>このフィールドで、着信コールがコール ピックアップ グループのメンバーに送信する通知のタイプが判定されます。コールが着信した電話機で応答されない場合、コール ピックアップ グループ内で使用中の電話機でビープ音が聞こえるか (Beep Only)、または何も聞こえません (Disable)。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [Use System Default] : このフィールドの値は、Cisco CallManager サービス パラメータの Call Pickup Group Audio Alert Setting of Busy Station の設定値によって異なります。 • [Disable] : アラートはコール ピックアップ グループのメンバーに送信されません。 • [Beep Only] : ビープ音がコール ピックアップ グループのメンバーに送信されます。
[Call Recording Option]	<p>このフィールドで、エージェントのライン アピアランスでの録音オプションが決定されます。デフォルトでは、録音オプションは [Call Recording Disabled] です。</p> <p>次のオプションのいずれかを入力します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [Call Recording Disabled] : エージェントがこのライン アピアランスで発信したコールは録音されません。 • [Automatic Call Recording Enabled] : エージェントがこのライン アピアランスで発信したコールが自動的に録音されます。 • [Application Invoked Call Recording Enabled] : アプリケーションがコール録音を呼び出した場合に、エージェントがこのライン アピアランスで発信したコールが録音されます。 <p>録音オプションが [Automatic Call Recording Enabled] または [Application Invoked Call Recording Enabled] のいずれかに設定されている場合、ライン アピアランスを録音プロファイルに関連付けることができます。</p> <p>自動録音が有効な場合、アプリケーションからの録音要求は拒否されます。</p>
[Recording Profile]	<p>このフィールドで、エージェントのライン アピアランスでの録音プロファイルが決定されます。</p>
[Monitoring Calling Search Space]	<p>スーパーバイザのライン アピアランスのモニタリング用コーリングサーチ スペースに、エージェントの回線またはデバイス パーティションを含めてエージェントを監視できるようにします。</p> <p>スーパーバイザのライン アピアランス ウィンドウでモニタリング用コーリングサーチ スペースを入力します。</p> <p>デフォルト値は [None] です。</p>
[Forward All CSS Activation Policy]	<p>次のオプションのいずれかを入力します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [Use System Default] • [With Configured CSS]

表 3-4 BAT スプレッドシートの電話機フィールドの説明 (続き)

フィールド	説明
[ASCII Line Text Label]	<p>このフィールドには、[Line Text Label] フィールドと同じ情報が表示されますが、入力を ASCII 文字に制限する必要があります。Unicode (国際化) 文字をサポートしないデバイスでは、[ASCII Line Text Label] フィールドの内容が表示されます。</p> <p>設定は、右にあるチェックボックス ([共有デバイス設定の更新 (Update Shared Device Settings)]) をオンにして [選択対象を反映 (Propagate Selected)] ボタンをクリックしない限り、現在のデバイスだけに適用されます (右側のチェックボックスが表示されるのは、他のデバイスがこの電話番号を共有している場合だけです)。</p>
[Party Entrance Tone]	<p>次のいずれかのパーティ参加トーン オプションを選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [Default] : パーティ参加トーン サービス パラメータで設定した値を使用します。 • [On] : 基本コールがマルチパーティ コール (割り込みコール、C 割り込みコール、アドホック会議、ミーティング会議、または参加コール) に変わると、電話機でトーンが再生されます。さらに、通話者がマルチパーティ コールを離れると、別のトーンが再生されます。制御デバイスつまりマルチパーティ コールの発信元がビルトインブリッジの場合、制御デバイスで [On] を選択すると、すべての通話者に対してトーンが再生されます。制御デバイス (たとえば、会議の開催者) がコールに参加しなくなっている場合、または制御デバイスがトーンを再生できない場合は、[On] が選択されていても、Cisco Unified Communications Manager はトーンを再生しません。 • [Off] : 基本コールがマルチパーティ コールに変わっても、電話機でトーンは再生されません。
[Park Monitor Forward No Retrieve Ext Destination]	<p>パークされた発信側が外部ユーザの場合、パーク元の [Park Monitoring Forward No Retrieve Destination External] パラメータに指定された接続先にコールが自動転送されます。[Forward No Retrieve Destination External] フィールドの値が空の場合は、パークされた発信側がパーク元の回線にリダイレクトされます。</p>
[Park Monitor Forward No Retrieve Int Destination]	<p>パークされた発信側が内部ユーザの場合、パーク元の [Park Monitoring Forward No Retrieve Destination Internal] パラメータに指定された接続先にコールが自動転送されます。[Forward No Retrieve Destination Internal] フィールドの値が空の場合は、パークされた発信側がパーク元の回線にリダイレクトされます。</p>
[Park Monitor Forward No Retrieve Int Voice Mail]	<p>この設定では、[ボイスメールプロファイルの設定 (Voice Mail Profile Configuration)] ウィンドウの設定が使用されます。</p> <p>この設定では、Cisco Unified Communications Manager は、[接続先 (Destination)] ボックスと [コーリングサーチスペース (Calling Search Space)] の設定値を無視します。</p>
[Park Monitor Forward No Retrieve Ext Voice Mail]	<p>この設定では、[ボイスメールプロファイルの設定 (Voice Mail Profile Configuration)] ウィンドウの設定が使用されます。</p> <p>この設定では、Cisco Unified Communications Manager は、[接続先 (Destination)] ボックスと [コーリングサーチスペース (Calling Search Space)] の設定値を無視します。</p>

表 3-4 BAT スプレッドシートの電話機フィールドの説明 (続き)

フィールド	説明
[Park Monitor Forward No Retrieve Ext CSS]	電話番号に適用するコーリング サーチ スペースを選択します。
[Park Monitor Forward No Retrieve Int CSS]	電話番号に適用するコーリング サーチ スペースを選択します。
Park Monitor Reversion Timer]	このパラメータによって、Cisco Unified Communications Manager がユーザにパークしたコールの取得を求めるまでに待機する秒数が決まります。このタイマーはユーザが電話の [パーク] ソフトキーを押すと起動し、タイマーの期限が切れるとリマインダが発行されます。 デフォルト：60 秒 ゼロ以外の値を設定すると、[サービス パラメータ (Service Parameters)] ウィンドウに設定されているパラメータの値がこの値で上書きされます。一方、ここに 0 を設定すると、[サービス パラメータ (Service Parameters)] ウィンドウの値が使用されます。
[Log Missed Calls]	このフィールドを使用すると、不在着信のログ機能をオンまたはオフにできます。「T」を入力すると、Cisco Unified Communications Manager は電話機でのその電話番号に対する通話履歴に不在着信のログを記録します。この機能を無効にするには「F」を入力します。
[Intercom Fields] (オプション)	
[Intercom Directory Number]	ダイヤル可能な電話番号を入力します。値は、(.) と (@) を除いた特殊文字、数字、およびルート パターン ワイルドカードを含めることができます。 入力した電話番号は複数のパーティションに現れる可能性があります。 国際的なエスケープ文字 + を使用する場合、電話番号の先頭に「¥+」と入力します。このフィールドの場合、¥+ はワイルドカードではありません。¥+ はダイヤルされた番号のことです。
[Intercom Route Partition]	電話番号が属するパーティションを入力します。[Intercom Directory Number] フィールドに入力した電話番号は選択したパーティション内で一意であることを確認します。 (注) 電話番号は複数のパーティションに現れる可能性があります。
[Description]	電話番号およびルート パーティションの説明を入力します。
[Alerting Name]	発信者の電話機で表示する名前を入力します。 この設定は QSIG プロトコルの識別サービスをサポートしていて、共有電話番号および非共有電話番号に適用されます。
[Alerting Name ASCII]	このフィールドには、[Alerting Name] フィールドと同じ情報が表示されますが、入力を ASCII 文字に制限する必要があります。Unicode (国際化) 文字をサポートしないデバイスでは、[Alerting Name ASCII] フィールドの内容が表示されます。

表 3-4 BAT スプレッドシートの電話機フィールドの説明 (続き)

フィールド	説明
[Intercom Directory Number Settings]	
[Calling Search Space]	適切なコーリング サーチ スペースを入力します。コーリング サーチ スペースは、この電話番号からコールが行われる番号を検索するパーティションの集合から構成されています。選択した値は、この電話番号を使用するすべてのデバイスに適用されます。
[Intercom Presence Group]	この電話番号のプレゼンス グループを入力します。選択したグループでは、この電話番号を監視できるデバイス、エンドユーザ、およびアプリケーション ユーザを指定します。
[Intercom Display]	このフィールドをブランクにすると、内線番号が表示されます。 最大 30 文字の英数字を使用します。通常は、ユーザ名または電話番号を使用します (電話番号を使用した場合、コールの受信者に発信者の正確な識別情報が表示されません)。このフィールドの値が表示される電話機の種類にご注意ください。対象に漢字未対応の電話機が含まれる場合は、状況により半角カタカナあるいは ASCII 文字を使用するようにしてください。また、電話機のユーザ ロケールが複数存在する場合は、共通する文字セットを使用してください。
[Intercom ASCII Display]	このフィールドには、[Display (Internal Caller ID)] フィールドと同じ情報が表示されますが、入力を ASCII 文字に制限する必要があります。Unicode (国際化) 文字をサポートしないデバイスでは、[ASCII Display (Internal Caller ID)] フィールドの内容が表示されません。
[Intercom Line Text Label]	このフィールドは、ライン アピアランスにインターコム電話番号を表示しない場合だけ使用します。回線と電話機の組み合わせに使用されているこの電話番号を識別するためのテキストを入力します。このフィールドの値が表示される電話機の種類にご注意ください。対象に漢字未対応の電話機が含まれる場合は、状況により半角カタカナあるいは ASCII 文字を使用するようにしてください。また、電話機のユーザ ロケールが複数存在する場合は、共通する文字セットを使用してください。
[Intercom Line Text Label ASCII]	このフィールドには、[Intercom Line Text Label] フィールドと同じ情報が表示されますが、入力を ASCII 文字に制限する必要があります。Unicode (国際化) 文字をサポートしないデバイスでは、[Intercom Line Text Label ASCII] フィールドの内容が表示されます。
[Intercom Speed Dial]	ユーザがスピードダイヤル ボタンを押したときにダイヤルされる番号を入力します。0～9の数字、*、#、および+ (国際的なエスケープ文字) を入力します。
[Intercom External Phone Number Mask]	この回線からコールを行うときに発信者 ID 用に送信するために使用される電話番号 (またはマスク) を入力します。 最大 24 桁の数字、国際的なエスケープ文字「+」、および「X」文字が入力できます。X は電話番号を表し、パターンの最後に表示する必要があります。たとえば、972813XXXX というマスクを指定すると、内線 1234 からの外線コールには発信者 ID 番号 9728131234 が表示されます。
[Intercom Caller Name]	「T」を入力すると、自動転送時に発信者の名前が表示されるようになります。「F」を入力すると、表示されません。

表 3-4 BAT スプレッドシートの電話機フィールドの説明 (続き)

フィールド	説明
[Intercom Caller Number]	「T」を入力すると、自動転送時に発信者の番号が表示されるようになります。「F」を入力すると、表示されません。
[Intercom Call Recording Option]	次のオプションのいずれかを入力します。 <ul style="list-style-type: none"> • [Call Recording Disabled] : エージェントがライン アピアランスで発信したコールは録音されません。 • [Automatic Call Recording Enabled] : エージェントがライン アピアランスで発信したコールが自動的に録音されます。 • [Application Invoked Call Recording Enabled] : アプリケーションがコール録音を呼び出した場合に、エージェントがライン アピアランスで発信したコールが録音されます。
[Intercom Recording Profile]	エージェントのライン アピアランスでの録音プロファイルを入力します。
[Intercom Monitoring Calling Search Space]	スーパーバイザのライン アピアランスのモニタリング用コーリングサーチ スペースに、エージェントの回線またはデバイス パーティションを含めてエージェントを監視できるようにします。 既存のコーリングサーチ スペースを入力します。 デフォルト値は [None] です。
[Auto Answer]	次のいずれかのオプションを入力して、この電話番号の自動応答機能をアクティブにします。 <ul style="list-style-type: none"> • [Auto Answer Off] <デフォルト> • [Auto Answer with Headset] • [Auto Answer with Speakerphone] <p>(注) シェアドラインを持つデバイスに自動応答を設定しないでください。</p>



(注)

手順を完了するには、「[BAT スプレッドシートを使用した電話機用 CSV データ ファイルの作成 \(P.3-57\)](#)」に進みます。

関連項目

- 「電話機の追加」 (P.3-1)
- 「BAT 電話機テンプレートの使用方法」 (P.3-2)
- 「新しい BAT 電話機テンプレートの作成」 (P.3-4)
- 「BAT テンプレートにおける回線の追加または更新」 (P.3-5)
- 「BAT テンプレートにおける IP サービスの追加または更新」 (P.3-6)
- 「BAT テンプレートにおけるスピードダイヤルの追加または更新」 (P.3-6)
- 「BAT 電話機テンプレートの変更」 (P.3-10)
- 「BAT 電話機テンプレートのコピー」 (P.3-10)

- 「テンプレートの削除」 (P.3-11)
- 「BAT 電話機テンプレートのフィールドの説明」 (P.3-12)
- 「BAT スプレッドシートを使用した電話機用 CSV データ ファイルの作成」 (P.3-57)
- 「BAT スプレッドシートの電話機のフィールドの説明」 (P.3-60)



CHAPTER 4

電話機のファイル形式

次のトピックでは、テキスト エディタを使用して作成する CSV データ ファイルのファイル形式設定に関する情報を提供します。

- 「テキスト エディタを使用した電話機用 CSV データ ファイルの作成」 (P.4-1)
- 「電話機のファイル形式の検索」 (P.4-2)
- 「電話機のファイル形式の設定」 (P.4-3)
- 「ファイル形式と CSV データ ファイルの関連付け」 (P.4-6)
- 「電話機用のテキストベース CSV ファイルの作成」 (P.A-2)

テキスト エディタを使用した電話機用 CSV データ ファイルの作成

値がカンマで区切られた ASCII テキストを複数行使用して、カンマ区切り値 (CSV) データ ファイルを作成することができます。カンマ区切り値 (CSV) ファイルでは、テキスト情報は表形式で与えられます。電話機用のテキストベース CSV ファイルの詳細については、「[電話機用のテキストベース CSV ファイルの作成](#)」 (P.A-2) を参照してください。

次のファイル形式オプションのいずれかを使用して、CSV データ ファイル内のデバイスと回線のフィールドを識別します。

- **Default Phone** : 電話機のデバイス フィールドと回線フィールドの事前決定済みの組み合わせを含む。
- **Simple Phone** : 電話機の基本的なデバイス フィールドと回線フィールドを含む。
- **Custom** : 独自に選択して順序付けしたデバイス フィールドと回線フィールドを含む。

Simple Phone または Default Phone のファイル形式は、修正することも削除することもできません。



(注)

Cisco Unified Communications Manager 一括管理 (BAT) スプレッドシートを使用して CSV データ ファイルを作成する場合は、スプレッドシート内でファイル形式を作成することができます。テキスト エディタを使用して CSV データ ファイルを作成する場合は、ファイル形式を作成するか、Simple または Default のファイル形式を使用する必要があります。値は、テキストベースのファイルに、ファイル形式で指定されている順序と同じ順序で入力します。

追加情報

「[関連項目](#)」 (P.4-7) を参照してください。

電話機のファイル形式の検索

電話機のファイル形式を検索するには、次の手順を実行します。

手順

- ステップ 1** [一括管理 (Bulk Administration)] > [電話 (Phones)] > [電話ファイル形式 (Phone File Format)] > [ファイル形式の作成 (Create File Format)] の順に選択します。
- [電話ファイル形式の検索と一覧表示 (Find and List Phone File Formats)] ウィンドウが表示されます。
- ステップ 2** [検索対象: 電話ファイル形式、検索条件:(Find Phone File Format where)] ドロップダウン リスト ボックスで、次のいずれかの検索条件を選択します。
- [が次の文字列で始まる (begins with)]
 - [が次の文字列を含む (contains)]
 - [が次の文字列と等しい (is exactly)]
 - [が次の文字列で終わる (ends with)]
 - [が空である (is empty)]
 - [が空ではない (is not empty)]
- ステップ 3** 必要に応じて、適切な検索テキストを指定し、[検索 (Find)] をクリックします。
- 
- ヒント** すべての電話機の形式を検索するには、検索テキストを入力せずに [検索 (Find)] をクリックします。
- ステップ 4** クエリーをさらに定義する場合や、複数のフィルタを追加する場合は、[絞り込み (Search Within Results)] チェックボックスをオンにし、ドロップダウン ボックスから [AND] または [OR] を選択して、ステップ 2 ~ 3 を繰り返します。
- 
- ヒント** 指定したテキストをクリアするには、[フィルタのクリア (Clear Filter)] をクリックします。
- ステップ 5** レコードのリストから、検索条件に一致するファイル形式名をクリックします。
- [電話ファイル形式の作成 (Create Phone File Format Configuration)] ウィンドウが表示されます。

追加情報

「関連項目」(P.4-7) を参照してください。

電話機のファイル形式の設定

次のトピックでは、電話機のファイル形式の作成、コピー、変更、または削除について説明します。

- 「ファイル形式の作成」(P.4-3)
- 「ファイル形式のコピー」(P.4-4)
- 「ファイル形式の修正」(P.4-5)
- 「ファイル形式の削除」(P.4-6)

ファイル形式の作成

テキストベースの CSV データ ファイル用のファイル形式を作成する手順は、次のとおりです。

手順

ステップ 1 [一括管理 (Bulk Administration)] > [電話 (Phones)] > [電話ファイル形式 (Phone File Format)] > [ファイル形式の作成 (Create File Format)] の順に選択します。

ステップ 2 [新規追加 (Add New)] をクリックします。[電話ファイル形式の作成 (Create Phone File Format Configuration)] ウィンドウが表示されます。

ステップ 3 [形式名 (Format Name)] フィールドに、このカスタム形式の名前を入力します。

ステップ 4 [デバイスフィールド (Device Fields)] で、各電話機に定義するデバイス フィールド名を選択します。[デバイスフィールド (Device Fields)] ボックスで、デバイス フィールド名をクリックしてから矢印をクリックして、そのフィールドを [選択済みのデバイスフィールド (Selected Device Fields)] ボックスに移動します。

CSV データ ファイルには、[MAC Address/Device Name] および [Description] を含める必要があります。したがって、これらのフィールドは常に選択された状態になっています。



ヒント

Ctrl キーを押しながらリスト内の複数のフィールド名を任意に選択し、次に矢印をクリックすると、その複数のフィールドを同時に選択することができます。Shift キーを使用すると、特定範囲の項目を複数同時に選択することができます。

ステップ 5 [回線フィールド (Line Fields)] ボックスで回線フィールド名をクリックしてから矢印をクリックして、そのフィールドを [選択済みの回線フィールド (Selected Line Fields)] ボックスに移動します。

ステップ 6 [インターコム DN フィールド (Intercom DN Fields)] ボックスでインターコム DN フィールドの名前をクリックしてから矢印をクリックし、そのフィールドを [選択済みのインターコム DN フィールド (Selected Intercom DN Fields)] の [ソート順 (Order)] ボックスに移動します。



ヒント

[選択済みの回線フィールド (Selected Line Fields)]、[選択済みのデバイスフィールド (Selected Device Fields)]、および [選択済みのインターコム DN フィールド (Selected Intercom DN Fields)] の [ソート順 (Order)] ボックス内の項目の順序は変更できます。項目を選択し、上向き矢印を使用してその項目をリストの前方に移動させるか、または下向き矢印を使用してその項目をリストの後方に移動させます。

- ステップ 7** [IP Phone サービスの最大値 (IP Phone Service Maximums)] 領域で、次のフィールドに最大値を入力します。
- [スピードダイヤルの最大数 (Maximum Number of Speed Dials)]
 - [BLF スピードダイヤルの最大数 (Maximum Number of BLF Speed Dials)]
 - [BLF ダイレクトコールパークの最大数 (Maximum Number of BLF Directed Call Parks)]
 - [IP Phone サービスの最大数 (Maximum Number of IP Phone Services)]
 - [IP Phone サービスパラメータの最大数 (Maximum Number of IP Phone Service Parameters)]
- ステップ 8** カスタム ファイル形式を保存するには、[保存 (Save)] をクリックします。ファイル形式の名前が、[電話ファイル形式の検索と一覧表示 (Find and List Phone File Formats)] ウィンドウの [名前 (Name)] リストに表示されます。

追加情報

「関連項目」(P.4-7) を参照してください。

ファイル形式のコピー

CSV データ ファイルの既存の形式をコピーする手順は、次のとおりです。

手順

- ステップ 1** 「電話機のファイル形式の検索」(P.4-2) の手順に従って、コピーする電話機のファイル形式を検索します。
- ステップ 2** [検索結果 (Search Results)] 領域で、コピーするファイル形式を選択します。[電話ファイル形式の作成 (Create Phone File Format Configuration)] ウィンドウが表示されます。
- ステップ 3** [コピー (Copy)] をクリックして選択されたファイル形式をコピーします。



(注) [電話ファイル形式の検索と一覧表示 (Find and List Phone File Formats)] ウィンドウで、対応する [コピー (Copy)] アイコンをクリックして、ファイル形式をコピーすることもできます。

- ステップ 4** [形式名 (Format Name)] フィールドに、コピーした形式の新しい名前を入力します。
- ステップ 5** 次の方式のいずれかを使用して、コピーした形式を修正します。
- 新しいフィールドを追加するには、[デバイスフィールド (Device Fields)] ボックス、[回線フィールド (Line Fields)] ボックス、または [インターコム DN フィールド (Intercom DN Fields)] ボックスからフィールドを選択し、次に矢印をクリックして、選択したフィールドを [選択済みのデバイスフィールド (Selected Device Fields)]、[選択済みの回線フィールド (Selected Line Fields)]、または [選択済みのインターコム DN フィールド (Selected Intercom DN Fields)] の [ソート順 (Order)] ボックスに移動します。
 - フィールドを削除するには、[選択済みのデバイスフィールド (Selected Device Fields)]、[選択済みの回線フィールド (Selected Line Fields)]、または [選択済みのインターコム DN フィールド (Selected Intercom DN Fields)] の [ソート順 (Order)] ボックスからフィールドを選択し、次に矢印をクリックして、選択したフィールドを [デバイスフィールド (Device Fields)] ボックス、[回線フィールド (Line Fields)] ボックス、または [インターコム DN フィールド (Intercom DN Fields)] ボックスに移動します。

- フィールドの順序を変更するには、[選択済みのデバイスフィールド (Selected Device Fields)]、[選択済みの回線フィールド (Selected Line Fields)]、または [選択済みのインターコム DN フィールド (Selected Intercom DN Fields)] の [ソート順 (Order)] ボックスのフィールド名を選択し、上向き矢印または下向き矢印を使用してフィールドの位置を変更します。

ステップ 6 変更を加えたら、[保存 (Save)] をクリックして、コピーしたファイル形式を変更内容とともにリストに保存します。

追加情報

「関連項目」(P.4-7) を参照してください。

ファイル形式の修正

CSV データ ファイルの既存のファイル形式を修正する手順は、次のとおりです。修正できるのは、カスタム形式だけです。

手順

ステップ 1 「電話機のファイル形式の検索」(P.4-2) の手順に従って、修正する電話機のファイル形式を検索します。

ステップ 2 [検索結果 (Search Results)] 領域で、修正するファイル形式を選択します。[電話ファイル形式の作成 (Create Phone File Format Configuration)] ウィンドウが表示されます。

ステップ 3 次の方式のいずれかを使用して、コピーした形式を修正します。

- 新しいフィールドを追加するには、[デバイスフィールド (Device Fields)] ボックス、[回線フィールド (Line Fields)] ボックス、または [インターコム DN フィールド (Intercom DN Fields)] ボックスからフィールドを選択します。次に矢印をクリックして、選択したフィールドを [選択済みのデバイスフィールド (Selected Device Fields)]、[選択済みの回線フィールド (Selected Line Fields)]、または [選択済みのインターコム DN フィールド (Selected Intercom DN Fields)] の [ソート順 (Order)] ボックスに移動します。
- フィールドを削除するには、[選択済みのデバイスフィールド (Selected Device Fields)]、[選択済みの回線フィールド (Selected Line Fields)]、または [選択済みのインターコム DN フィールド (Selected Intercom DN Fields)] の [ソート順 (Order)] ボックスからフィールドを選択してから矢印をクリックして、選択したフィールドを [デバイスフィールド (Device Fields)] ボックス、[回線フィールド (Line Fields)] ボックス、または [インターコム DN フィールド (Intercom DN Fields)] ボックスに移動します。



(注) [Number of lines]、[MAC Address]、および [Description] の必須フィールドは削除できません。

- フィールドの順序を変更するには、[選択済みのデバイスフィールド (Selected Device Fields)]、[選択済みの回線フィールド (Selected Line Fields)]、または [選択済みのインターコム DN フィールド (Selected Intercom DN Fields)] の [ソート順 (Order)] ボックスのフィールド名を選択し、上向き矢印または下向き矢印を使用してフィールドの位置を変更します。

ステップ 4 変更を加えたら、[保存 (Save)] をクリックして変更内容をファイル形式に保存します。

追加情報

「関連項目」(P.4-7) を参照してください。

ファイル形式の削除

CSV データ ファイルの既存のファイル形式を削除する手順は、次のとおりです。削除できるのは、カスタム形式だけです。

手順

-
- ステップ 1** 「電話機のファイル形式の検索」(P.4-2) の手順に従って、削除する電話機のファイル形式を検索します。
 - ステップ 2** [検索結果(Search Results)] 領域で、削除するファイルが正しいことを確認します。
 - ステップ 3** リストからファイル形式を削除するには、[選択項目の削除>Delete Selected)] をクリックします。ファイル形式の削除を確認するメッセージが表示されます。[OK] をクリックして続行します。ファイル形式名がリストから削除されます。



-
- (注)** [選択項目の削除>Delete Selected)] をクリックする前に、表示された結果のリストを全部確認してください。
-

追加情報

「関連項目」(P.4-7) を参照してください。

ファイル形式と CSV データ ファイルの関連付け

テキスト エディタを使用して CSV データ ファイルを作成した場合は、テキストベースのファイルに値を入力するためのファイル形式をすでに作成したということになります。値は、ファイル形式で指定されている順序でテキスト ファイルに入力済みです。

CSV データ ファイルが完成したら、ファイル形式をテキストベースの CSV データ ファイルに関連付ける必要があります。ファイル形式を CSV ファイルに関連付けると、各フィールドの名前は CSV データ ファイルの最初のレコードとして表示されます。この情報を使用して、各フィールドの値を正しい順序で入力してあることが確認できます。

テキストベースの CSV データ ファイルでファイル形式を追加する手順は、次のとおりです。

手順

-
- ステップ 1** [一括管理(Bulk Administration)] > [電話(Phones)] > [電話ファイル形式(Phone File Format)] > [ファイル形式の追加(Add File Format)] の順に選択します。[ファイル形式の追加(Add File Format)] ウィンドウが表示されます。
 - ステップ 2** [ファイル名(File Name)] フィールドで、このトランザクション用に作成したテキストベースの CSV ファイルを選択します。
 - ステップ 3** [形式ファイル名(Format File Name)] フィールドで、このタイプのバルク トランザクション用に作成したファイル形式を選択します。
 - ステップ 4** [ジョブ情報(Job Information)] 領域に、ジョブの説明を入力します。
 - ステップ 5** 一致するファイル形式を CSV データ ファイルに関連付けるジョブを作成するには、[送信(Submit)] をクリックします。

- ステップ 6** [一括管理 (Bulk Administration)] メイン メニューの [ジョブスケジューラ (Job Scheduler)] オプションを使用して、このジョブのスケジュールやアクティブ化を行います。
- ジョブの詳細については、[第 82 章「ジョブのスケジュール」](#) を参照してください。
-

追加情報

[「関連項目」 \(P.4-7\)](#) を参照してください。

関連項目

- [「テキスト エディタを使用した電話機用 CSV データ ファイルの作成」 \(P.4-1\)](#)
- [「電話機のファイル形式の検索」 \(P.4-2\)](#)
- [「電話機のファイル形式の設定」 \(P.4-3\)](#)
- [「ファイル形式と CSV データ ファイルの関連付け」 \(P.4-6\)](#)
- [「電話機用のテキストベース CSV ファイルの作成」 \(P.A-2\)](#)



CHAPTER 5

電話機レコードの確認

[電話の確認 (Validate Phones)] を選択すると、システムは確認ルーチンを実行して、CSV データ ファイルと Cisco Unified Communications Manager 一括管理 (BAT) 電話機テンプレートが、デバイス プールやロケーションなどのすべての必須フィールドを指定しているかどうかをチェックします。確認ではさらに、最初のノードのデータベースとの不一致がないかどうかをチェックします。

始める前に

- 追加するデバイスの BAT 電話機テンプレートが必要です。単一回線または複数回線を持つ電話機を追加するには、複数回線を持つマスター電話機テンプレートを使用できます。詳細については、「[マスター電話機テンプレート](#)」(P.1-5) を参照してください。
- 電話機または他の IP テレフォニー デバイスに固有の詳細を含むカンマ区切り値 (CSV) 形式のデータ ファイルが必要です。

CSV データ ファイルの電話機レコードの確認

CSV データ ファイルの電話機レコードを確認する手順は、次のとおりです。

手順

- ステップ 1** [一括管理 (Bulk Administration)] > [電話 (Phones)] > [電話の確認 (Validate Phones)] の順に選択します。
[電話の確認 (Validate Phones Configuration)] ウィンドウが表示されます。
- ステップ 2** カスタマイズされたファイル形式を使用する電話機レコードを確認するには、[電話固有の詳細の確認 (Validate Phones Specific Details)] オプション ボタンをクリックして、ステップ 4 と 5 を続けます。
- ステップ 3** [すべての詳細 (All Details)] オプションを使用して生成したエクスポート電話機ファイルから電話機レコードを確認するには、[電話すべての詳細の確認 (Validate Phones All Details)] オプション ボタンをクリックします。
- ステップ 4** [ファイル名 (File Name)] ドロップダウン リスト ボックスで、この固有のバルク トランザクション用に作成した CSV データ ファイルを選択します。
- ステップ 5** [固有の詳細 (Specific Details)] オプションを選択した場合は、[電話テンプレート名 (Phone Template Name)] ドロップダウン リスト ボックスで、このタイプのバルク トランザクション用に作成した BAT 電話機テンプレートを選択します。
- ステップ 6** [送信 (Submit)] をクリックすると、選択した CSV データ ファイルと最初のノードのデータベースが検証されます。
- ステップ 7** ジョブが即座に送信されて実行されます。

ジョブの詳細については、[第 82 章「ジョブのスケジュール」](#)を参照してください。

ログ ファイルの詳細については、「[BAT ログ ファイル](#)」(P.83-3)を参照してください。

追加情報

「[関連項目](#)」(P.5-2)を参照してください。

電話機の確認の制限

電話機の確認には次のような制限があります。

- 確認プロセスでは、テンプレートに設定されている回線の数だけがチェックされます。テンプレートに設定されている回線番号はチェックされません。[電話の確認-特定の詳細(Validate Phones - Specific Details)] ジョブを実行した後で、電話機テンプレートによってサポートされる数よりも多い回線が CSV データ ファイルに含まれている場合は、ログに「WARNING: CSV contains more number of lines than are supported by the phone template.」というメッセージが書き込まれます。空の電話番号、空のスピードダイヤル、空のビジネスマップ フィールドスピードダイヤルなどが存在する場合は、要約ログ ファイルに表示されている警告メッセージが正しくない可能性があることを示しています。
- 確認プロセスでは、必須フィールドが CSV ファイル内で指定されているかどうかはチェックされません。
- 電話機のテキスト ファイルで IP Phone サービス パラメータが指定されている場合、確認プロセスでは、CSV に指定されている名前のパラメータが Cisco Unified Communications Manager に存在するかどうかだけがチェックされます。指定されているパラメータが IP Phone サービスで設定されているかどうかはチェックされません。

関連項目

- 「[CSV データ ファイルの電話機レコードの確認](#)」(P.5-1)
- 「[電話機の確認の制限](#)」(P.5-2)
- [電話機テンプレート](#)
- [電話機のファイル形式](#)



CHAPTER 6

電話機の挿入

Cisco Unified Communications Manager データベースに電話機、Cisco VGC Phone、CTI ポート、または H.323 クライアントを追加する手順は、次のとおりです。

始める前に

- 追加するデバイスには、Cisco Unified Communications Manager 一括管理 (BAT) 電話機テンプレートが必要です。
- 電話機または他の IP テレフォニー デバイスに固有の詳細を含むカンマ区切り値 (CSV) 形式のデータ ファイルが必要です。
- トランザクションのための該当ターゲットと機能を選択してデータ ファイルをアップロードします。
- 電話機を挿入する前に、電話機レコードを確認します。

追加情報

「[関連項目](#)」(P.6-3) を参照してください。

電話機の Cisco Unified Communications Manager への挿入

電話機を Cisco Unified Communications Manager に挿入する手順は、次のとおりです。

手順

- ステップ 1** [一括管理(Bulk Administration)] > [電話(Phones)] > [電話の挿入(Insert Phones)] の順に選択します。
[電話の挿入 (Insert Phones Configuration)] ウィンドウが表示されます。
- ステップ 2** カスタマイズされたファイル形式を使用する電話機レコードを挿入するには、[電話固有の詳細の挿入 (Insert Phones Specific Details)] オプション ボタンをクリックして、ステップ 4 と 6 を続けます。
- ステップ 3** [すべての詳細 (All Details)] オプションを使用して生成したエクスポート電話機ファイルから電話機レコードを挿入するには、[電話のすべての詳細の挿入 (Insert Phones All Details)] オプション ボタンをクリックします。
- ステップ 4** [ファイル名 (File Name)] ドロップダウン リスト ボックスで、この固有のバルク トランザクション用に作成した CSV データ ファイルを選択します。選択したカスタム ファイルを使用して電話機を更新できるようにするには、[カスタム CSV ファイルを使用した電話の更新の許可 (Allow Update Phone with Custom CSV File)] チェックボックスをオンにします。

ステップ 5 [既存の設定の上書き (Override the existing configuration)] チェックボックスをオンにすると、既存の電話機の設定が、挿入するファイルに含まれている情報によって上書きされます。

[既存の設定の上書き (Override the existing configuration)] チェックボックスをオンにすると、次のチェックボックスが選択可能になります。

- [新しいスピードダイヤルを追加する前に既存のすべてのスピードダイヤルを削除 (Delete all existing Speed Dials before adding new Speed Dials)]
- [新しい BLF スピードダイヤルを追加する前に既存のすべての BLF スピードダイヤルを削除 (Delete all existing BLF Speed Dials before adding new BLF Speed Dials)]
- [新しい BLF ダイレクトコールパークを追加する前に既存のすべての BLF ダイレクトコールパークを削除 (Delete all existing BLF Directed Call Parks before adding new BLF Directed Call Parks)]
- [新しいサービスを追加する前に既存の登録済みサービスをすべて削除 (Delete all existing Subscribed Services before adding new Services)]



(注) これらのチェックボックスをオンにすると、スピードダイヤル、BLF スピードダイヤル、登録済みサービスの既存のレコードがすべて削除され新しいレコードが追加されます。既存のレコードに追加する場合は、チェックボックスをオフにします。

ステップ 6 [固有の詳細 (Specific Details)] オプションを選択した場合は、[電話テンプレート名 (Phone Template Name)] ドロップダウンリストボックスで、このタイプのバルク トランザクション用に作成した BAT 電話機テンプレートを選択します。

CSV データ ファイルに個々の MAC アドレスを入力しなかった場合は、[ダミー MAC アドレスの作成 (Create Dummy MAC Address)] チェックボックスをオンにする必要があります。CTI ポートを追加する場合、ダミー MAC アドレス オプションを使用すると、ダミー MAC アドレスの形式で、CTI ポートごとに固有のデバイス名が指定されます。

このフィールドは、XXXXXXXXXXXX という形式でダミー MAC アドレスを自動生成します。X は任意の 12 文字の 16 進数 (0 ~ 9 および A ~ F) を表します。

- ユーザに割り当てられる電話機の MAC アドレスがわからない場合に、このオプションを選択します。電話機が接続されると、そのデバイスに対する MAC アドレスが登録されます。
- データ入力ファイルに MAC アドレスまたはデバイス名を指定した場合は、このオプションを選択しないでください。

Cisco Unified Communications Manager の管理ページにこの情報を手作業で入力するか、または、Unified CM Auto-Register Phone Tool を使用すると、後で、電話機またはデバイスを正しい MAC アドレスで更新できます。Unified CM Auto-Register Phone Tool の詳細については、「[TAPS の概要](#)」(P.80-2) を参照してください。ステップ 9 に進みます。

ステップ 7 [ジョブ情報 (Job Information)] 領域に、ジョブの説明を入力します。

ステップ 8 電話機レコードを即座に挿入するには、[今すぐ実行 (Run Immediately)] オプション ボタンをクリックします。電話機レコードを後で挿入するには、[後で実行 (Run Later)] をクリックします。

ステップ 9 [送信 (Submit)] をクリックして、電話機レコードを挿入するジョブを作成します。

ステップ 10 このジョブのスケジュールやアクティブ化を行うには、[ジョブスケジューラ (Job Scheduler)] ウィンドウを使用します。

ジョブの詳細については、[第 82 章「ジョブのスケジュール」](#) を参照してください。

ログ ファイルの詳細については、「[BAT ログ ファイル](#)」(P.83-3) を参照してください。



(注) 挿入する電話機のタイプが Cisco Unified Mobile Communicator である場合は、挿入ジョブを完了した後でデバイスをリセットする必要があります。電話機をリセットするには、[一括管理 (Bulk Administration)] > [電話 (Phones)] > [電話のリセット/リスタート (Reset/Restart Phones)] の順に選択します。

追加情報

「関連項目」(P.6-3) を参照してください。

関連項目

- [電話機テンプレート](#)
- [電話機のファイル形式](#)
- [ファイルのアップロードとダウンロード](#)
- [電話機レコードの確認](#)



CHAPTER 7

電話機の更新

デバイス プールの変更または追加、あるいは類似した一連の電話機のコーリング サーチ スペースなど、電話機の設定値を更新するには、[電話の更新 (Update Phones)] オプションを使用します。次の2つの方法を使用して既存の電話機レコードを検索することができます。

- 「クエリーを使用した電話機の更新」(P.7-1)
- 「カスタム ファイルを使用した電話機の更新」(P.7-2)

クエリーを使用した電話機の更新

更新する電話機を検索するためのクエリーを作成する手順は、次のとおりです。

手順

ステップ 1 [一括管理 (Bulk Administration)] > [電話 (Phones)] > [電話の更新 (Update Phones)] > [クエリー (Query)] の順に選択します。

[電話の更新のクエリー (Update Phones Query)] ウィンドウが表示されます。



(注) クエリーを指定せずに [検索 (Find)] をクリックすると、すべての電話機を更新できます。「[更新パラメータの選択](#)」(P.7-3) に進みます。

ステップ 2 最初の [検索対象: 電話、検索条件:(Find Phone where)] ドロップダウン リスト ボックスで、次のいずれかの検索条件を選択します。

- [デバイス名 (Device Name)]
- [説明 (Description)]
- [電話番号 (Directory Number)]
- [コーリングサーチスペース (Calling Search Space)]
- [デバイスプール (Device Pool)]
- [デバイスタイプ (Device Type)]
- [コールピックアップグループ (Call Pickup Group)]
- [LSC ステータス (LSC Status)]
- [認証文字列 (Authentication String)]
- [ロケーション (Location)]

- [電話ロード名 (Phone Load Name)]
- [デバイスプロトコル (Device Protocol)]
- [セキュリティプロファイル (Security Profile)]

2 番目の [検索対象 : 電話、検索条件 :(Find Phone where)] ドロップダウン リスト ボックスで、次のいずれかの検索条件を選択します。

- [が次の文字列で始まる (begins with)]
- [が次の文字列を含む (contains)]
- [が次の文字列と等しい (is exactly)]
- [が次の文字列で終わる (ends with)]
- [が空である (is empty)]
- [が空ではない (is not empty)]

ステップ 3 必要に応じて、適切な検索テキストを指定します。



ヒント データベースに登録されているすべての電話機を検索するには、検索テキストを入力せずに [検索 (Find)] をクリックします。

ステップ 4 クエリーをさらに定義する場合や、複数のフィルタを追加する場合は、[絞り込み (Search Within Results)] チェックボックスをオンにし、ドロップダウン ボックスから [AND] または [OR] を選択して、ステップ 2 ~ 3 を繰り返します。

ステップ 5 [検索 (Find)] をクリックします。

検索された電話機のリストが表示されます。

[電話の更新 (Update Phones)] ウィンドウに、選択した電話機の詳細が表示されます。

電話機を更新する手順を完了するには、「更新パラメータの選択」(P.7-3) に進みます。

カスタム ファイルを使用した電話機の更新

更新する電話機を検索するためのカスタム ファイルを作成する手順は、次のとおりです。

始める前に

1. 更新が必要なデバイスを識別します。
2. 次のオプションのいずれかを別個の行に記載したテキスト ファイルを作成します。
 - デバイス名
 - 電話番号
 - 説明
3. テキスト ファイルを Cisco Unified Communications Manager サーバにアップロードします。詳細については、「ファイルのアップロード」(P.2-3) を参照してください。

カスタム ファイルの電話機のリストを使用して電話機を更新する手順は、次のとおりです。

手順

- ステップ 1** [一括管理 (Bulk Administration)] > [電話 (Phones)] > [電話の更新 (Update Phones)] > [カスタムファイル (Use Custom File)] の順に選択します。
- [電話の更新 (カスタム) (Update Phones Custom Configuration)] ウィンドウが表示されます。
- ステップ 2** [更新対象: 電話、検索条件:(Update Phones where)] ドロップダウンリスト ボックスで、作成したカスタム ファイルのタイプを次の条件から選択します。
- [デバイス名 (Device Name)]
 - [電話番号 (Directory Number)]
 - [説明 (Description)]
- ステップ 3** カスタム ファイルのリストで、この更新用のカスタム ファイルのファイル名を選択します。
- ステップ 4** [検索 (Find)] をクリックします。
- クエリー結果が予想どおりではなかった場合は、カスタム ファイルの選択を変更することができます。



(注)

更新トランザクション用に `bat.xlt` として作成したトランザクション ファイルを挿入またはエクスポートしないでください。代わりに、更新が必要な電話機レコードの詳細情報が設定されたカスタム ファイルを作成する必要があります。更新トランザクションには、このファイルしか使用しないでください。このカスタム更新ファイルには、ヘッダーを指定する必要がありません。デバイス名、説明、電話番号の値を入力します。

電話機を更新する手順を完了するには、「更新パラメータの選択」(P.7-3) に進みます。

更新パラメータの選択

電話機を検索するためのクエリーまたはカスタム ファイルを定義した後、電話機を更新するためのパラメータを選択して値を定義する手順は、次のとおりです。

手順

- ステップ 1** [電話の更新のクエリー (Update Phones Query)] ウィンドウで、[次へ (Next)] をクリックします。選択したクエリーのタイプが、[電話の更新 (Update Phones)] に表示されます。クエリーのタイプを変更する場合は、[戻る (Back)] をクリックします。
- ステップ 2** 更新する前にユーザをログアウトするには、[更新前にユーザをログアウト (Logout Users Before Update)] チェックボックスをオンにします。フィールドを 1 つも選択しない場合、このオプションを使用してユーザを一括してログアウトすることもできます。
- ステップ 3** クエリーまたはカスタム ファイルで定義したレコードすべてに対して、更新する設定値を指定します。更新するパラメータは複数選択できます。パラメータの説明については、「電話機を更新する場合のフィールドの説明」(P.7-4) を参照してください。
- ステップ 4** 更新するフィールドの左側にある [更新 (update)] チェックボックスをオンにします。この操作により、フィールドの既存の値を上書きするように BAT に指示します。



(注)

BAT は、[更新 (update)] チェックボックスをオンにしたフィールドしか更新しないことに注意してください。

電話機を更新する場合のフィールドの説明

- ステップ 5** チェックマークが付いたパラメータの値フィールドに新しい値を入力するか、リスト ボックスから値を選択します。
- ステップ 6** [ログアウト/リセット/リスタート (Logout/Reset/Restart)] 領域で、次の選択項目のいずれかを選択します。
- [電話をリセット/リスタートしない/設定を適用 (Don't Reset/Restart phones/Apply Config)] : 後でデバイスをリセットまたは再起動します。
 - [電話のリセット (Reset phones)] : 電話機をリセット (電源をオン/オフ) します。
 - [電話のリスタート (Restart phones)] : 電源のオン/オフをせずに電話機をリセットします。
 - [設定の適用 (Apply Config)] : 最後のリセット以降に変更された設定のみをリセットします。
- ステップ 7** 必要な電話機パラメータを更新します。電話機を更新する場合のフィールドの説明については、表 7-1 を参照してください。
- ステップ 8** レコードを更新するジョブを作成するには、[送信 (Submit)] をクリックします。
- ステップ 9** [一括管理 (Bulk Administration)] メイン メニューの [ジョブスケジューラ (Job Scheduler)] オプションを使用して、このジョブのスケジュールやアクティブ化を行います。
- ジョブの詳細については、第 82 章「ジョブのスケジュール」を参照してください。
- ログ ファイルの詳細については、「BAT ログ ファイル」(P.83-3) を参照してください。

追加情報

「関連項目」(P.7-21) を参照してください。

電話機を更新する場合のフィールドの説明

表 7-1 では、電話機を更新する場合に表示されるフィールドすべてについて説明します。一部のデバイス タイプには、すべての電話機設定値を必要としないものもあります。関連する手順については、「関連項目」(P.7-21) を参照してください。

一部のフィールドに示される値は、Cisco Unified Communications Manager から表示されます。これらの値は、Cisco Unified Communications Manager の管理ページを使用して設定する必要があります。

表 7-1 電話機を更新する場合のフィールドの説明

フィールド	説明
[説明 (Description)]	デバイスを識別しやすくする説明を入力します。説明には、任意の言語で最大 50 文字を指定できますが、二重引用符 (")、パーセント記号 (%)、アンパサンド (&)、バックスラッシュ (\)、または山カッコ (<>) は使用できません。
[デバイスプール (Device Pool)]	このグループの電話機またはポートが属するデバイス プールを選択します。 デバイス プールは、デバイスに共通した特性のセット (たとえば、地域、日付/時刻グループ、Cisco Unified Communications Manager グループ、自動登録用のコーリング サーチ スペースなど) を定義します。

表 7-1 電話機を更新する場合のフィールドの説明 (続き)

フィールド	説明
[共通デバイス設定 (Common Device Configuration)]	電話機に割り当てられる共通のデバイス設定を選択します。共通のデバイス設定には、特定のユーザに関連付けられているアトリビュート（サービスまたは機能）が含まれています。[共通デバイス設定 (Common Device Configuration)] ウィンドウで共通のデバイス設定を行います。 共通デバイス設定の設定値を参照するには、[詳細の表示 (View Details)] リンクをクリックします。
[電話ボタンテンプレート (Phone Button Template)]	適切な電話機ボタンテンプレートを選択します。電話機ボタンテンプレートは、電話機に表示するボタンの設定を決定し、各ボタンをどの機能（回線、スピードダイヤルなど）に使用するかを指定します。 Cisco Unified Communications Manager では、H.323 クライアントまたは CTI ポートに対してこのフィールドを利用できません。
[ソフトキーテンプレート (Softkey Template)]	このグループ内のすべての電話機に使用されるソフトキーテンプレートを選択します。
[共通の電話プロファイル (Common Phone Profile)]	ドロップダウンリストボックスで、利用可能な共通の電話プロファイルのリストから、共通の電話プロファイルを選択します。
[コーリングサーチスペース (Calling Search Space)]	このグループの電話機またはポートが属するコーリングサーチスペースを選択します。 コーリングサーチスペースは、ルートパーティションの集合を指定するものです。ルートパーティションの集合は、ダイヤルされた番号のルーティング方法を決定するために検索されます。
[AAR コーリングサーチスペース (AAR Calling Search Space)]	デバイスが自動代替ルーティング (AAR) の実行時に使用する適切なコーリングサーチスペースを選択します。AAR コーリングサーチスペースは、ルートパーティションの集合を指定するものです。ルートパーティションの集合は、帯域幅不足のために本来ならブロックされるダイヤルされた番号のルーティング方法を決定するために検索されます。
[メディアリソースグループリスト (Media Resource Group List)]	このグループの電話機またはポートが属するメディアリソースグループリスト (MRGL) を選択します。 MRGL は、優先順位が付けられたメディアリソースグループのリストを指定します。アプリケーションは、MRGL で指定された優先順位に従って、使用可能なメディアリソースの中から、必要なメディアリソースを選択できます。
[ユーザ保留 MOH 音源 (User Hold MOH Audio Source)]	このグループの電話機またはポートのユーザ保留オーディオソースを選択します。 ユーザ保留オーディオソースは、ユーザがコールを保留にしたときに音楽を再生します。
[ネットワーク保留 MOH 音源 (Network Hold MOH Audio Source)]	このグループの IP Phone または CTI ポートが利用するネットワーク保留オーディオソースを選択します。 ネットワーク保留オーディオソースは、システムがコールを保留にすると（たとえば、ユーザがコールを転送したとき、またはコールパークに置いたとき）に音楽を再生します。

表 7-1 電話機を更新する場合のフィールドの説明 (続き)

フィールド	説明
[ロケーション (Location)]	このグループの電話機またはポートが属するロケーションを選択します。 ロケーションは、帯域幅制限付き接続を使用してアクセスされるリモートロケーションを指します。
[AAR グループ (AAR Group)]	このデバイスの自動代替ルーティング (AAR) グループを選択します。AAR グループはプレフィックス番号を提供するものです。プレフィックス番号は、帯域幅不足のために本来ならブロックされるコールをルーティングするために使用します。AAR グループが指定されている場合、Cisco Unified Communications Manager では、デバイス プールまたは回線に関連付けられているグループが使用されます。
[ユーザロケール (User Locale)]	このユーザに関連付ける国/地域と言語を選択します。 この選択内容によって、言語やフォントを含むロケール属性のどれをこのユーザに適用するか、およびこのユーザの Cisco Unified Communications Manager のユーザ ウィンドウと電話機をどの言語で表示するかが決まります。
[ネットワークロケール (Network Locale)]	このユーザに関連付けるネットワークロケールを選択します。 ネットワークロケールは、シスコのゲートウェイと電話機が、特定地域の PSTN およびその他のネットワークと通信するとき使用するトーンと断続周期を提供します。
[ビルトインブリッジ (Built In Bridge)]	[ビルトインブリッジ (Built In Bridge)] ドロップダウン リストボックスを使用して、割り込み機能のためのビルトイン会議ブリッジを有効または無効にします ([オン (On)], [オフ (Off)], または [デフォルト (Default)] を選択します)。 設定情報の詳細については、『Cisco Unified Communications Manager 機能およびサービス ガイド』の「割り込みとプライバシー」を参照してください。
[プライバシー (Privacy)]	プライバシーを必要とする電話機ごとに、[プライバシー (Privacy)] ドロップダウン リストボックスで [オン (On)] を選択します。 設定情報の詳細については、『Cisco Unified Communications Manager 機能およびサービス ガイド』の「割り込みとプライバシー」を参照してください。

表 7-1 電話機を更新する場合のフィールドの説明 (続き)

フィールド	説明
[デバイスモビリティモード (Device Mobility Mode)]	<p>ドロップダウン リスト ボックスから、このデバイスのデバイスモビリティ機能のオンまたはオフを選択するか、[デフォルト (Default)] を選択してデフォルトのデバイス モビリティ モードを使用します。</p> <p>[現在のデバイスモビリティ設定の表示 (View Current Device Mobility Settings)] をクリックして、これらのデバイス モビリティ パラメータの現在の値を表示します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [Cisco Unified CM グループ (Cisco Unified Communications Manager Group)] • [ローミング用デバイスプール (Roaming Device Pool)] • [ロケーション (Location)] • [リージョン (Region)] • [ネットワークロケール (Network Locale)] • [AAR グループ (AAR Group)] • [AAR コーリングサーチスペース (AAR Calling Search Space)] • [デバイスコーリングサーチスペース (Device Calling Search Space)] • [メディアリソースグループリスト (Media Resource Group List)] • [SRST] <p>ヒント 設定情報の詳細については、『Cisco Unified Communications Manager 機能およびサービス ガイド』の「デバイスモビリティ」の章を参照してください。</p>
[モビリティユーザ ID (Mobility User ID)]	<p>ドロップダウン リスト ボックスから、このデュアルモード フォンが割り当てられているユーザのユーザ ID を選択します。</p> <p>(注) モビリティ ユーザ ID 設定は、デュアルモード フォンのモバイル コネクトおよびモバイル ボイス アクセスのために使用されます。</p> <p>(注) オーナーのユーザ ID とモビリティ ユーザ ID は異なることがあります。</p>
[オーナーのユーザ ID (Owner User ID)]	<p>プライマリ電話機ユーザのユーザ ID を入力します。</p>

表 7-1 電話機を更新する場合のフィールドの説明 (続き)

フィールド	説明
[電話機のパーソナライゼーション (Phone Personalization)]	<p>ドロップダウン リスト ボックスで、このデバイスの Cisco Unified Phone Designer 機能を有効または無効にするか、[デフォルト (Default)] を選択して共通の電話プロファイルに設定されている電話機のパーソナライゼーションを使用します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [無効 (Disabled)] : Cisco Unified Phone アプリケーションスイート機能のいずれもアクティブになりません。 • [有効 (Enabled)] : この設定は、電話機のスクリーンに使用される個人設定された背景イメージファイルや一時的な表示用のプレビュー イメージを受け入れます。また、個人設定されたトーンファイルを受け入れて、デフォルトの呼出音を個人用に設定します。 • [デフォルト (Default)] : 共通の電話プロファイルに設定されている電話機のパーソナライゼーションを使用します。
[サービスのプロビジョニング (Services Provisioning)]	<p>ドロップダウン リスト ボックスにある次の値から、使用するサービスのプロビジョニングの設定値を選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [内部 (Internal)] • [外部 URL (External URLs)] • [両方 (Both)] • デフォルト : [内部 (Internal)] <p>このパラメータでは、電話機が設定ファイル (内部) からプロビジョニングされたサービスまたはサービス URL (外部の URL) から受信したサービスを使用するか、または両方を使用するかを制御します。[外部 URL (External URLs)] では、サードパーティのプロビジョニング サーバとの下位互換性を確保します。[両方 (Both)] オプションを使用すると、設定ファイルで指定されたサービスを登録できます。また、外部のプロビジョニング サーバからサービスを追加することもできます。</p> <p>これは必須フィールドです。</p>
[電話ロード名 (Phone Load Name)]	<p>該当する場合は、カスタム電話機ロードを入力します。</p> <p>(注) このフィールドに入力される値は、選択されたモデルのデフォルト値を上書きし、Cisco Unified IP Phone 用のカスタム ソフトウェアを指定します。</p>

表 7-1 電話機を更新する場合のフィールドの説明 (続き)

フィールド	説明
[ワンボタン割込み (Single Button Barge)]	<p>ドロップダウン リスト ボックスで、このデバイスのワンボタン割り込み/C 割り込み機能を有効または無効にするか、[デフォルト (Default)] を選択して、サービス パラメータの設定値を使用します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [オフ (Off)] : ワンボタン割り込み/C 割り込み機能を無効にします。ただし、通常の割り込みまたは C 割り込み機能は使用できます。 • [割込み (Barge)] : ワンボタン割り込み機能を有効にします。 • [C 割込 (cBarge)] : ワンボタン C 割り込み機能を有効にします。 • [デフォルト (Default)] : サービス パラメータで設定されているワンボタン割り込み/C 割り込みの値を使用します。 <p>ヒント 設定情報の詳細については、『Cisco Unified Communications Manager 機能およびサービス ガイド』の「割り込みとプライバシー」を参照してください。</p>
[回線をまたいで参加 (Join Across Lines)]	<p>ドロップダウン リスト ボックスで、このデバイスの回線をまたいで参加の機能を有効または無効にするか、[デフォルト (Default)] を選択して、サービス パラメータの設定値を使用します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [オフ (Off)] : 回線をまたいで参加の機能を無効にします。 • [オン (On)] : 回線をまたいで参加の機能を有効にします。 • [デフォルト (Default)] : この設定はサービス パラメータで設定されている回線をまたいで参加の設定値を使用します。

表 7-1 電話機を更新する場合のフィールドの説明 (続き)

フィールド	説明
[信頼できるリレーポイントを使用 (Use Trusted Relay Point)]	<p>ドロップダウン リスト ボックスで、Cisco Unified Communications Manager がこのメディア エンドポイントに Trusted Relay Point (TRP; 信頼できるリレー ポイント) デバイスを追加するかどうかを有効または無効にします。次の値のいずれかを選択してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [デフォルト (Default)] : この値を選択すると、このデバイスに関連付けられた共通デバイス設定の [信頼できるリレーポイントを使用 (Use Trusted Relay Point)] の設定値が使用されます。 • [オフ (Off)] : この値を選択すると、このデバイスに対して TRP が使用不可になります。この設定値は、デバイスが関連付けられている共通デバイス設定の [信頼できるリレーポイントを使用 (Use Trusted Relay Point)] の設定値を上書きします。 • [オン (On)] : この値を選択すると、このデバイスに対して TRP が使用可能になります。この設定値は、デバイスが関連付けられている共通デバイス設定の [信頼できるリレーポイントを使用 (Use Trusted Relay Point)] の設定値を上書きします。 <p>信頼できるリレー ポイント (TRP) デバイスでは、信頼できるリレー ポイントとして表示されている MTP またはトランスコーダを指定します。</p> <p>複数のリソースがエンドポイント (トランスコーダ、RSVP エージェントなど) に対して必要な場合、Cisco Unified Communications Manager では、関連付けられたエンドポイント デバイスに最も近い場所に TRP を配置します。</p> <p>TRP と MTP の両方がエンドポイントに必要な場合、TRP は必要な MTP として使用されます。</p> <p>ヒント コールの動作の詳細については、『Cisco Unified Communications Manager システム ガイド』で TRP の挿入に関する要件の説明を参照してください。</p>
[発呼側トランスフォーメーション CSS (Calling Party Transformation CSS)]	<p>この設定を使用すると、デバイスの発呼側番号をローカライズすることができます。選択した [発呼側トランスフォーメーション CSS (Calling Party Transformation CSS)] には、このデバイスに割り当てる発呼側トランスフォーメーション パターンが含まれます。</p> <p>発呼側トランスフォーメーション CSS が存在するパーティションにパターンを割り当てる場合、デバイスは発呼側トランスフォーメーション パターンのアトリビュートを使用します。</p> <p>ヒント 詳細については、『Cisco Unified Communications Manager 機能およびサービス ガイド』を参照してください。</p>
[位置情報 (Geolocation)]	<p>ドロップダウン リスト ボックスで、位置情報を選択します。</p> <p>このデバイスが位置情報に関連付けられていないことを示す、未指定の位置情報を選択できます。</p> <p>[システム (System)] > [位置情報の設定 (Geolocation Configuration)] メニュー オプションで設定した位置情報を選択することもできます。</p>

表 7-1 電話機を更新する場合のフィールドの説明 (続き)

フィールド	説明
[機能管理ポリシー (Feature Control Policy)]	このグループの電話機の機能管理ポリシーを選択します。 機能管理ポリシーは、機能のアピランスや電話機に表示される関連ソフトキーを指定します。
[BLF オーディオアラート設定 (BLF Audible Alert Setting、電話がアイドルのとき)]	この必須フィールドでは、ドロップダウン リスト ボックスにある次の値から、使用する BLF オーディオ アラートの設定値を選択します。 <ul style="list-style-type: none"> • [オン (On)] • [オフ (Off)] • [デフォルト (Default)] コールがビジー ランプ フィールド (BLF) ボタンで監視されている回線のいずれかに着信した場合、このパラメータで現在アイドルの電話機にオーディオアラートとビジュアルアラートを送信します。
[BLF オーディオアラート設定 (BLF Audible Alert Setting、電話がビジーのとき)]	この必須フィールドでは、コールがビジー ランプ フィールド (BLF) ボタンで監視されている回線のいずれかに着信した場合、このパラメータで現在使用中の電話機にオーディオアラートとビジュアルアラートを送信します。 ドロップダウン リスト ボックスにある次の値から、使用する BLF オーディオアラートの設定値を選択します。 <ul style="list-style-type: none"> • [オン (On)] • [オフ (Off)] • [デフォルト (Default)]
[常にプライム回線を使用する (Always Use Prime Line)]	ドロップダウン リスト ボックスにある次の値から、使用する [常にプライム回線を使用する (Always Use Prime Line)] の設定値を選択します。 <ul style="list-style-type: none"> • [オン (On)] • [オフ (Off)] • [デフォルト (Default)]
[ボイスメッセージには常にプライム回線を使用する (Always Use Prime Line for Voice Message)]	ドロップダウン リスト ボックスにある次の値から、使用する [ボイスメッセージには常にプライム回線を使用する (Always Use Prime Line for Voice Message)] の設定値を選択します。 <ul style="list-style-type: none"> • [オン (On)] • [オフ (Off)] • [デフォルト (Default)]
[デバイスプールの発呼側トランスフォーメーションCSSを使用 (Use Device Pool Calling Party Transformation CSS)]	このデバイスに割り当てられているデバイス プールに設定された発呼側トランスフォーメーション CSS を使用するには、このチェックボックスをオンにします。このチェックボックスをオフにすると、デバイスはデバイス設定ウィンドウで設定した発呼側トランスフォーメーション CSS を使用します。
[プレゼンテーションインジケータを無視 (Ignore Presentation Indicators、内線コールのみ)]	システムで表示インジケータを無視する必要がある場合に、このチェックボックスをオンにします。

表 7-1 電話機を更新する場合のフィールドの説明 (続き)

フィールド	説明
[ビデオコールをオーディオとして再試行(Retry Video Call as Audio)]	ビデオ コールをオーディオ コールとしてリトライするには、このチェックボックスをオンにします。
[CTI からデバイスを制御可能 (Allow Control of Device from CTI)]	このチェックボックスをオンにすると、CTI がこのデバイスを制御、監視できます。 関連付けられた電話番号がシェアドラインを指定している場合、少なくとも 1 つの関連付けられたデバイスが、デバイス タイプおよび CTI がサポートするプロトコルの組み合わせを指定している限り、チェックボックスをオンにする必要があります。
[ハントグループにログイン (Logged Into Hunt Group)]	このチェックボックスは、デフォルトではすべての電話機でオンになっています。これは電話機がハント リスト (グループ) にログインしていることを示します。電話機がハント リストに追加されていると、管理者はこのチェックボックスをオンまたはオフにしてユーザをログインさせたりログアウトさせたりすることができます。 ユーザは電話機のソフトキーを使用して、ハント リストに電話機をログインさせたりログアウトさせたりします。
[リモートデバイス (Remote Device)]	SCCP を介した接続で、リモート サイトへの接続時間が遅延する場合、[電話の設定 (Phone Configuration)] ウィンドウにある [リモートデバイス (Remote Device)] チェックボックスをオンにします。このチェックボックスをオンにすると、Cisco Unified Communications Manager では、電話デバイスが登録されたときにバッファを割り当て、電話機に SCCP メッセージを組み込みます。 (注) この機能はリソースを消費するので、SCCP を実行する電話機でシグナリング遅延が発生する場合にのみ、このチェックボックスをオンにしてください。通常、ユーザにはこのオプションは不要です。
[保護されたデバイス (Protected Device)]	このチェックボックスをオンにして、電話機を「保護された」デバイスとして指定します。これにより、コールが暗号化されていて、かつ、両方の電話機が保護されたデバイスとして設定されている場合、電話機では、2 秒間のトーンを再生し、ユーザに通知することができます。コールに応答すると、トーンは発信と着信の両方で再生されます。このトーンが再生されるのは、両方の電話機が「保護」になっていて、暗号化メディアを介してコールが発信された場合だけです。 ヒント セキュアなトーン機能と設定要件の詳細については、『Cisco Unity Connection System Administration Guide』を参照してください。

表 7-1 電話機を更新する場合のフィールドの説明 (続き)

フィールド	説明
[プロトコル固有情報 (Protocol Specific Information)]	
[パケットキャプチャモード (Packet Capture Mode)]	<p>ドロップダウン リスト ボックスから、信号パケット キャプチャに設定するモードを選択します。</p> <p>[なし (None)] : モードを指定しない場合は [なし (None)] を選択します。</p> <p>[Real-Time Mode] : リアルタイム信号パケット キャプチャに使用します。</p> <p>[バッチ処理モード (Batch Processing Mode)] : 信号パケット キャプチャのバッチ処理に使用します。</p>
[パケットキャプチャ時間 (Packet Capture Duration)]	<p>パケット キャプチャの時間を分単位で入力します。最大 300 分の継続時間を入力できます。デフォルトの継続時間は 60 分です。</p>
[プレゼンスグループ (Presence Group)]	<p>プレゼンス機能で使用すると、SIP または SCCP を実行する電話機は、BLF スピードダイヤル ボタンとして電話機に設定されたプレゼンス エンティティに関するステータス (たとえば、電話番号) を要求するので、ウォッチャーとして機能します。</p> <p>電話機によってプレゼンス エンティティのステータスを受信するには、電話番号に適用されるプレゼンス グループのステータスを [プレゼンスグループの設定 (Presence Group Configuration)] ウィンドウに示されるとおり表示するよう許可されているプレゼンスグループを選択します。</p> <p>ヒント プレゼンス機能の詳細については、『Cisco Unified Communications Manager 機能およびサービス ガイド』を参照してください。</p>
[デバイスセキュリティプロファイル (Device Security Profile)]	<p>SCCP および SIP を実行する電話機の場合は、デバイスに適用するセキュリティ プロファイルを選択します。</p> <p>すべての電話で、セキュリティ プロファイルを適用する必要があります。電話機がセキュリティをサポートしていない場合は、非セキュアなプロファイルを選択します。</p> <p>ヒント プロファイルに設定されている CAPF 設定は、[電話の設定 (Phone Configuration)] ウィンドウに表示される [CAPF の情報 (Certification Authority Proxy Function (CAPF) Information)] 設定に関連します。製造元でインストールされた証明書 (MIC) またはローカルで有効な証明書 (LSC) を管理するには、プロファイルと [電話の設定 (Phone Configuration)] ウィンドウの両方で、CAPF 設定値を指定する必要があります。</p>
[SUBSCRIBE コーリングサーチスペース (SUBSCRIBE Calling Search Space)]	<p>プレゼンス機能で使用した場合、電話機からの登録要求を Cisco Unified Communications Manager がルーティングする方法は、SUBSCRIBE コーリングサーチスペースによって決まります。ドロップダウン リスト ボックスから、この目的に使用するコーリングサーチスペースを選択します。</p> <p>ヒント プレゼンス機能の詳細については、『Cisco Unified Communications Manager 機能およびサービス ガイド』を参照してください。</p>

表 7-1 電話機を更新する場合のフィールドの説明 (続き)

フィールド	説明
[アウトバウンドコールロールオーバー (Outbound Call Rollover)]	<p>ドロップダウン リスト ボックスから、アウトバウンド コール用に使用するロールオーバー オプションを選択します。</p> <p>[ロールオーバーなし (No Rollover)] : ロールオーバー機能をオフに切り替えるには、このオプションを選択します。このモードでは会議と転送は機能しません。</p> <p>[同一 DN 内のロールオーバー (Rollover Within Same DN)] : 同一 DN 内でロールオーバーを使用するには、このオプションを使用します。(異なる回線で) 同じ電話番号を使用すると、会議とコール転送を実行することができます。</p> <p>[任意の回線へのロールオーバー (Rollover to any line)] : 任意の回線にロールオーバーするには、このオプションを使用します。元のコールと異なる電話番号を使用すると、会議とコール転送を実行することができます。</p>
[不在ポート (Unattended Port)]	このデバイスの不在ポートを指定する場合は、このチェックボックスをオンにします。
[DTMF 受信が必要 (Require DTMF Reception)]	SIP および SCCP を実行する電話機の場合、このチェックボックスをオンにすると、この電話機で DTMF を受信する必要があります。
[外部データ位置情報 (External Data Locations Information、デフォルトを使用する場合はブランク)]	
[情報 (Information)]	情報ボタンのヘルプ テキスト URL を入力します。
[ディレクトリ (Directory)]	ディレクトリ サーバの URL を入力します。
[メッセージ (Messages)]	ボイス メッセージのアクセス パイロット番号を入力します。
[サービス (Services)]	サービス メニューの URL を入力します。
[認証サーバ (Authentication Server)]	<p>電話機の Web サーバに対する要求を認証するときに、電話機が使用する URL を入力します。認証 URL を指定しない場合は、認証を必要とする Cisco Unified IP Phone の拡張機能は動作しません。デフォルト設定値を受け入れる場合には、このフィールドをブランクのままにします。</p> <p>デフォルトでは、この URL は、インストール時に設定された Cisco Unified IP Phone ユーザ オプション ウィンドウにアクセスします。</p>
[プロキシサーバ (Proxy Server)]	<p>電話機の HTTP クライアントから非ローカル ホストアドレスにアクセスするために、プロキシ HTTP 要求に使用されるホストおよびポート (たとえば、proxy.cisco.com:80) を入力します。</p> <p>電話機が、サービスの中で URL (たとえば、www.cisco.com) を受信するときに cisco.com ドメインで設定されていない場合、その電話機はプロキシサーバを使用してその URL にアクセスします。cisco.com ドメインで設定されている場合、電話機は、URL と同じドメインにいたので、プロキシを使用せずに URL にアクセスします。</p> <p>デフォルト設定値を受け入れる場合には、このフィールドをブランクのままにします。</p>

表 7-1 電話機を更新する場合のフィールドの説明 (続き)

フィールド	説明
[アイドル (Idle)]	[アイドルタイマー (Idle Timer、秒)] フィールドで指定された時間、電話機が使用されなかったときに、Cisco Unified IP Phone 画面に表示される URL を入力します。たとえば、電話機が 5 分間使用されなかったときに、画面にロゴを表示できます。デフォルト値を使用する場合には、このフィールドを空白のままにします。
[アイドルタイマー (Idle Timer、秒)]	電話機に許容される非動作時間 (秒数) を入力します。非動作のままこの時間が経過すると、電話機は [アイドル (Idle)] フィールドに指定された URL を表示します。デフォルト値を使用する場合には、このフィールドを空白のままにします。
[セキュア認証 URL (Secure Authentication URL)]	<p>電話機の Web サーバに対する要求を検証するために、この電話機が使用するセキュア URL を入力します。</p> <p>(注) [セキュア認証 URL (Secure Authentication URL)] の値を指定しないと、デバイスでは非セキュア URL が使用されます。セキュア URL と非セキュア URL の両方を指定した場合、デバイスではデバイスの持つ機能に応じて適切な URL が選択されます。</p> <p>デフォルトでは、この URL は、インストール時に設定された [Cisco Unified CM のユーザ オプション (Cisco Unified CM User Options)] ウィンドウにアクセスします。</p> <p>デフォルト値を受け入れるには、このフィールドを空白のままにします。</p> <p>最大長は 255 文字です。</p>
[セキュアディレクトリ URL (Secure Directory URL)]	<p>電話機がディレクトリ情報を取得する際の取得元となるサーバのセキュア URL を入力します。このパラメータは、ディレクトリ ボタンを押したときに、セキュリティ保護された Cisco Unified IP Phone で使用する URL を指定します。</p> <p>(注) [セキュアディレクトリ URL (Secure Directory URL)] の値を指定しないと、デバイスでは非セキュア URL が使用されます。セキュア URL と非セキュア URL の両方を指定した場合、デバイスではデバイスの持つ機能に応じて適切な URL が選択されます。</p> <p>デフォルト値を受け入れるには、このフィールドを空白のままにします。</p> <p>最大長は 255 文字です。</p>

表 7-1 電話機を更新する場合のフィールドの説明 (続き)

フィールド	説明
[セキュアアイドルURL(Secure Idle URL)]	<p>[アイドルタイマー (Idle Timer、秒)] フィールドの指定に従って電話機がアイドル状態になったときに、Cisco Unified IP Phone のディスプレイに表示する情報のセキュア URL を入力します。たとえば、電話機が 5 分間使用されなかったときに、LCD 上にロゴを表示できます。</p> <p>(注) [セキュアアイドルURL(Secure Idle URL)] の値を指定しないと、デバイスでは非セキュア URL が使用されます。セキュア URL と非セキュア URL の両方を指定した場合、デバイスではデバイスの持つ機能に応じて適切な URL が選択されます。</p> <p>デフォルト値を受け入れるには、このフィールドを空白のままにします。</p> <p>最大長は 255 文字です。</p>
[セキュア情報URL(Secure Information URL)]	<p>Cisco Unified IP Phone がヘルプテキスト情報を検索できるサーバーケーションのセキュア URL を入力します。この情報は、ユーザが情報 ([i]) ボタンまたは疑問符 ([?]) ボタンを押すと表示されます。</p> <p>(注) [セキュア情報URL(Secure Information URL)] の値を指定しないと、デバイスでは非セキュア URL が使用されます。セキュア URL と非セキュア URL の両方を指定した場合、デバイスではデバイスの持つ機能に応じて適切な URL が選択されます。</p> <p>デフォルト値を受け入れるには、このフィールドを空白のままにします。</p> <p>最大長は 255 文字です。</p>
[セキュアメッセージURL(Secure Messages URL)]	<p>メッセージサーバーのセキュア URL を入力します。ユーザがメッセージ ボタンを押すと、Cisco Unified IP Phone はこの URL に接続されます。</p> <p>(注) [セキュアメッセージURL(Secure Messages URL)] の値を指定しないと、デバイスでは非セキュア URL が使用されます。セキュア URL と非セキュア URL の両方を指定した場合、デバイスではデバイスの持つ機能に応じて適切な URL が選択されます。</p> <p>デフォルト値を受け入れるには、このフィールドを空白のままにします。</p> <p>最大長は 255 文字です。</p>

表 7-1 電話機を更新する場合のフィールドの説明 (続き)

フィールド	説明
[セキュアサービス URL(Secure Services URL)]	<p>Cisco Unified IP Phone サービスのセキュア URL を入力します。この設定では、ユーザがサービス ボタンを押したときに、セキュアな Cisco Unified IP Phone が接続される場所を指定します。</p> <p>(注) [セキュアサービス URL(Secure Services URL)] の値を指定しないと、デバイスでは非セキュア URL が使用されます。セキュア URL と非セキュア URL の両方を指定した場合、デバイスではデバイスの持つ機能に応じて適切な URL が選択されます。</p> <p>デフォルト値を受け入れるには、このフィールドをブランクのままにします。</p> <p>最大長は 255 文字です。</p>
[ホットラインデバイス (Hotline Device)]	<p>T または F を入力します。ホットライン デバイスは、他のホットライン デバイスにだけ接続できます。この機能によって、オフフックになると自動的に 1 つの電話番号をダイヤルするように電話機を設定する PLAR 機能が拡張されます。ホットラインでは、PLAR を使用するデバイスに適用できる制限事項が追加されます。</p> <p>また、ホットラインを実装するには、補足サービス ソフトキーのないソフトキー テンプレートを作成して、ホットライン デバイスに適用する必要があります。</p>
[内線情報 (Extension Information)]	
[エクステンションモビリティの有効化(Enable Extension Mobility)]	<p>エクステンション モビリティを使用可能にする場合に、このチェックボックスをオンにします。</p> <p>この機能を無効にする場合は 0 (オフ) を、有効にする場合は 1 (オン) を選択します。</p> <p>ユーザは、エクステンション モビリティを使用して Cisco Unified IP Phone にログインおよびログアウトすることができます。エクステンション モビリティの詳細については、『Cisco Unified Communications Manager 機能およびサービス ガイド』を参照してください。</p>
[IP サービス 1(IP Services1)]	<p>Cisco Unified Communications Manager の管理ページを使用して、設定済みのサービスを選択します。</p>
[IP サービス 2(IP Services2)]	<p>Cisco Unified Communications Manager の管理ページを使用して、設定済みのサービスを選択します。</p> <p>Cisco Unified Communications Manager 一括管理 (BAT) を使用して、1 つのトランザクションで更新できる IP サービスは最大 2 つです。</p>

表 7-1 電話機を更新する場合のフィールドの説明 (続き)

フィールド	説明
[CAPF 情報 (Certification Authority Proxy Function (CAPF) Information)] (これらのパラメータは、認証または暗号化のサポート機能のあるデバイスにのみ表示されます)	
[証明書の操作 (Certificate Operation)]	ドロップダウン リスト ボックスで、次のオプションの中から実行する証明書のオペレーションを選択します。 <ul style="list-style-type: none"> [保留中の操作なし (No Pending Operation)] : このデバイスには保留中の証明書のオペレーション リストが存在しません。このオプションを選択すると、残りの CAPF フィールドは無効になります。 [インストール/アップグレード (Install/Upgrade)] : 証明書のオペレーションをインストールまたは更新します。 [削除 (Delete)] : 証明書のオペレーションを削除します。 [トラブルシューティング (Troubleshoot)] : 証明書のオペレーションのトラブルシューティングを行います。
[一意の認証文字列を各デバイスに生成 (Generate unique authentication string for each device)]	各デバイスに一意の認証文字列を生成する場合は、このチェックボックスをオンにします。
[認証文字列 (Authentication String)]	[認証モード (Authentication Mode)] が [認証文字列 (Authentication String)] の場合は、認証文字列を入力します。または、システム生成の文字列を入手するために [文字列を生成 (Generate String)] をクリックします。
[操作の完了期限 (Operation Completes By)]	証明書の操作を完了する期限の日付を入力します。日付形式は、YYYY: MM: DD: HH です。デフォルトの完了日付は現在のシステム日付の 10 日後です。
[MLPP 情報 (Multilevel Precedence and Preemption (MLPP) Information)]	
[MLPP 表示 (MLPP Indication)]	(使用可能な場合) 優先トーンを再生する機能のあるデバイスが、MLPP 優先コールを行うときにその機能を使用するかどうかを指定します。 ドロップダウン リスト ボックスで、このデバイスに割り当てる設定値を次のオプションから選択します。 <ul style="list-style-type: none"> [デフォルト (Default)] : デバイスは MLPP 表示設定をデバイス プールから継承します。 [オフ (Off)] : デバイスは MLPP 優先コールの表示を送信しません。 [オン (On)] : デバイスは MLPP 優先コールの表示を送信します。 (注) [MLPP プリエンプション (MLPP Preemption)] が [強制 (Forceful)] で [MLPP 表示 (MLPP Indication)] が [オフ (Off)] という組み合わせではデバイスを設定しないでください。

表 7-1 電話機を更新する場合のフィールドの説明 (続き)

フィールド	説明
[MLPP プリエンプション (MLPP Preemption)]	<p>(使用可能な場合) 進行中のコールをプリエンプション処理する機能のあるデバイスが、MLPP 優先コールを行うときにその機能を使用するかどうかを指定します。</p> <p>ドロップダウン リスト ボックスで、このデバイスに割り当てる設定値を次のオプションから選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> [デフォルト (Default)] : デバイスは MLPP プリエンプション設定値をデバイス プールから継承します。 [無効 (Disabled)] : デバイスは MLPP 優先コールを行うときに進行中のコールをプリエンプション処理しません。 [強制 (Forceful)] : デバイスは MLPP 優先コールを行うときに進行中のコールをプリエンプション処理します。 <p>(注) [MLPP プリエンプション (MLPP Preemption)] が [強制 (Forceful)] で [MLPP 表示 (MLPP Indication)] が [オフ (Off)] という組み合わせではデバイスを設定しないでください。</p>
[MLPP ドメイン (MLPP Domain)] ("0000FF" など)	このデバイスに関連付けられている MLPP ドメインの 16 進数値を入力します。ブランクまたは 0 ~ FFFFFFFF の値である必要があります。
[サイレント (Do Not Disturb)]	
[サイレント (Do Not Disturb)]	DND 機能を有効にする場合、このチェックボックスをオンにします。
[DND オプション (DND Option)]	<p>ドロップダウン リスト ボックスで、次のいずれかの DND オプションを選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> [なし (None)] [呼出音オフ (Ringer Off)] [コール拒否 (Call Reject)] [共通の電話プロファイル設定を使用 (Use Common Phone Profile Setting)]
[DND 着信呼警告 (DND Incoming Call Alert)]	<p>ドロップダウン リスト ボックスで、次のいずれかのオプションを選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> [なし (None)] [無効 (Disable)] [フラッシュのみ (Flash Only)] [ビーブ音のみ (Beep Only)]
[セキュアシェル情報 (Secure Shell Information)]	
[セキュアシェルユーザ (Secure Shell User)]	セキュリティ保護されたシェルのユーザのユーザ ID を入力します。設定している電話機がセキュリティ保護されたシェルへのアクセスをサポートしていない場合、このフィールドは表示されません。Cisco Technical Assistance Center (TAC) は、トラブルシューティングのためにセキュリティ保護されたシェルを使用します。詳細については、TAC にお問い合わせください。

表 7-1 電話機を更新する場合のフィールドの説明 (続き)

フィールド	説明
[セキュアシェルパスワード (Secure Shell Password)]	セキュリティで保護されたシェルのユーザのパスワードを入力します。設定している電話機がセキュリティ保護されたシェルへのアクセスをサポートしていない場合、このフィールドは表示されません。詳細については、TAC にお問い合わせください。
[IP Phone サービスの割り当て (Assign IP Phone Services)]	
[このテンプレートからすべてのサービスを追加 (Add all services from this template)]	ドロップダウン リスト ボックスから、電話の更新に使用するサービスのリストが入ったテンプレートを選択します。 [IP Phone サービスの編集 (Edit IP Phone Services)] リンクをクリックすると、テンプレート上の登録済み Cisco IP Phone サービスを更新できます。
[重複の削除 (Remove Duplicate)]	重複した IP Phone サービスを削除するには、このチェックボックスをオンにします。このチェックボックスをオンにすると、重複したサービス登録が電話機とユーザ デバイス プロファイルから削除されます。IP システムが、IP サービス名に基づいてサービスを削除します。
[プロダクト固有の情報 (Product Specific Information)]	
[Device Security Mode]	ドロップダウン リスト ボックスから、デバイスに設定するモードを選択します。 [Use System Default] : 電話機はエンタープライズ パラメータのデバイス セキュリティ モードに指定された値を使用します。 [Non-secure] : 電話機にセキュリティ機能はありません。TCP 接続で Cisco Unified Communications Manager が利用できます。 [Authenticated] : Cisco Unified Communications Manager は電話機の整合性と認証を提供します。NULL/SHA を使用する TLS 接続を開始します。 [Encrypted] : Cisco Unified Communications Manager は電話機の整合性、認証、および暗号化を提供します。AES128/SHA を使用する TLS 接続を開始します。 このフィールドが適用されるのは、電話機モデルが認証または暗号化をサポートしている場合だけです。
[Remove Duplicate IP Services from all Phones and Device Profiles]	重複した IP Phone サービスを削除するには、このチェックボックスをオンにします。このチェックボックスをオンにすると、重複したサービス登録が電話機とユーザ デバイス プロファイルから削除されます。IP システムが、IP サービス名に基づいてサービスを削除します。
[Disable Speakerphone]	スピーカフォンを無効にするには、このチェックボックスをオンにします。
[Disable Speakerphone and Headset]	スピーカフォンとヘッドセットを無効にするには、このチェックボックスをオンにします。
[Forwarding Delay]	このフィールドを使用して自動転送遅延を有効または無効にします。コールの自動転送前にポートを数秒間遅延させる場合、有効にします。

表 7-1 電話機を更新する場合のフィールドの説明 (続き)

フィールド	説明
[PC Port]	このフィールドを使用して内部スイッチを持つ電話機の PC ポートを有効または無効にします。ユーザは、電話機背面の「10/100 PC」というラベルの付いたポートを使用して、PC またはワークステーションを電話機に接続できます。
[Setting Access]	このフィールドを使用してユーザが電話機設定値にアクセスするかどうかを選択します。[Enabled] および [Disable] を選択できます。
[Gratuitous ARP]	Gratuitous ARP を制御するには、[Enabled] または [Disable] を選択します。
[PC Voice VLAN Access]	PC ボイス VLAN へのアクセスを制御するには、[Enabled] または [Disable] を選択します。
[Video Capabilities]	ビデオ機能アクセスを制御するには、[Enabled] または [Disable] を選択します。
[Auto Line Select]	電話機での自動回線選択を制御するには、[Enabled] または [Disable] を選択します。
[Web Access]	電話機での Web アクセスを制御するには、[Enabled] または [Disable] を選択します。



(注)

手順を完了するには、「更新パラメータの選択」(P.7-3) に進みます。

関連項目

- 「クエリーを使用した電話機の更新」(P.7-1)
- 「カスタム ファイルを使用した電話機の更新」(P.7-2)
- 「更新パラメータの選択」(P.7-3)
- 「電話機を更新する場合のフィールドの説明」(P.7-4)



CHAPTER 8

電話機の削除

一連の電話機およびその他の IP テレフォニー デバイスを Cisco Unified Communications Manager データベースから削除するには、ここで説明する手順を実行します。

次の方法を使用して既存の電話機レコードを検索できます。

- 「クエリーを使用した電話機の削除」(P.8-1)
- 「カスタム ファイルを使用した電話機の削除」(P.8-3)
- 「未定義の電話番号の削除」(P.8-4)

クエリーを使用した電話機の削除

電話機レコードを検索するためのクエリーを作成して電話機を削除する手順は、次のとおりです。

手順

- ステップ 1** [一括管理 (Bulk Administration)] > [電話 (Phones)] > [電話の削除 (Delete Phones)] > [クエリー (Query)] の順に選択します。
- [電話の削除 (カスタム) (Delete Phones Custom Configuration)] ウィンドウが表示されます。
- ステップ 2** 最初の [検索対象: 電話、検索条件:(Find Phone where)] ドロップダウン リストボックスで、次のいずれかの検索条件を選択します。
- [デバイス名 (Device Name)]
 - [説明 (Description)]
 - [電話番号 (Directory Number)]
 - [コーリングサーチスペース (Calling Search Space)]
 - [デバイスプール (Device Pool)]
 - [デバイスタイプ (Device Type)]
 - [コールピックアップグループ (Call Pickup Group)]
 - [LSC ステータス (LSC Status)]
 - [認証文字列 (Authentication String)]
 - [デバイスプロトコル (Device Protocol)]
 - [セキュリティプロファイル (Security Profile)]
 - [未定義の DN(Unassigned DN)]

■ クエリーを使用した電話機の削除

2 番目の [検索対象 : 電話、検索条件 :(Find Phone where)] ドロップダウン リスト ボックスで、次のいずれかの検索条件を選択します。

- [が次の文字列で始まる (begins with)]
- [が次の文字列を含む (contains)]
- [が次の文字列と等しい (is exactly)]
- [が次の文字列で終わる (ends with)]
- [が空である (is empty)]
- [が空ではない (is not empty)]

ステップ 3 必要に応じて、適切な検索テキストを指定します。



ヒント データベースに登録されているすべての電話機を検索するには、検索テキストを入力せずに [検索 (Find)] をクリックします。

ステップ 4 クエリーをさらに定義する場合や、複数のフィルタを追加する場合は、[絞り込み (Search Within Results)] チェックボックスをオンにし、ドロップダウン ボックスから [AND] または [OR] を選択して、ステップ 2 ~ 3 を繰り返します。

ステップ 5 [検索 (Find)] をクリックします。

検索された電話機のリストが、次の項目別に表示されます。

- [デバイス名 (Device Name)]
- [説明 (Description)]
- [デバイスプール (Device Pool)]
- [デバイスプロトコル (Device Protocol)]
- [ステータス (Status)]
- [IP アドレス (IP Address)]

ステップ 6 [ジョブ情報 (Job Information)] 領域に、ジョブの説明を入力します。

ステップ 7 電話機レコードを即座に削除するには、[今すぐ実行 (Run Immediately)] オプション ボタンをクリックします。電話機レコードを後で削除するには、[後で実行 (Run Later)] をクリックします。

ステップ 8 [送信 (Submit)] をクリックして、電話機レコードを削除するジョブを作成します。



(注) ジョブを送信する前に、表示された結果のリストを全部確認してください。

ステップ 9 このジョブのスケジュールやアクティブ化を行うには、[ジョブスケジューラ (Job Scheduler)] ウィンドウを使用します。

ジョブの詳細については、[第 82 章「ジョブのスケジュール」](#) を参照してください。

ログ ファイルの詳細については、「[BAT ログ ファイル](#)」(P.83-3) を参照してください。

**注意**

クエリー テキストボックスに情報を何も入力しないと、すべての電話機レコードが削除されます。削除は最終的な操作なので、削除したレコードは復元できません。

追加情報

「関連項目」(P.8-5) を参照してください。

カスタム ファイルを使用した電話機の削除

テキスト エディタを使用して、削除する電話機のカスタム ファイルを作成することができます。同一のカスタム ファイルの中に、MAC アドレスとデバイス名の両方を含めることができますが、電話番号は同じファイルに入れることはできません。複数のファイルを作成する必要があります。1 つのファイルには、デバイス名と MAC アドレスを含め、もう 1 つのファイルには電話番号を含めます。

始める前に

1. 削除する電話機について次の詳細のいずれかを記載するテキスト ファイルを作成します。
 - デバイス名
 - 説明
 - 電話番号
2. テキスト ファイルで 1 行に 1 項目ずつ配置します。
3. カスタム ファイルを Cisco Unified Communications Manager サーバにアップロードします。ファイルのアップロードの詳細については、「ファイルのアップロード」(P.2-3) を参照してください。

カスタム ファイルに記載されている電話機を削除する手順は、次のとおりです。



(注) 削除トランザクション用に bat.xlt として作成したトランザクション ファイルを挿入またはエクスポートしないでください。代わりに、削除が必要な電話機レコードの詳細情報が設定されたカスタム ファイルを作成する必要があります。削除トランザクションには、このファイルしか使用しないでください。このカスタム削除ファイルには、ヘッダーを指定する必要がありません。名前、説明、電話番号の値を入力します。

手順

- ステップ 1** [一括管理 (Bulk Administration)] > [電話 (Phones)] > [電話の削除 (Delete Phones)] > [カスタムファイル (Custom File)] の順に選択します。
[電話の削除 (カスタム) (Delete Phones Custom Configuration)] ウィンドウが表示されます。
- ステップ 2** [削除対象: 電話、検索条件:(Delete Phones where)] ドロップダウン リスト ボックスで、作成したカスタム ファイルのタイプを次のいずれかの条件から選択します。
 - [デバイス名 (Device Name)]
 - [電話番号 (Directory Number)]
 - [説明 (Description)]
- ステップ 3** カスタム ファイルのリストで、この削除用のカスタム ファイルのファイル名を選択します。
- ステップ 4** [検索 (Find)] をクリックします。検索条件に一致する電話機のリストが表示されます。
- ステップ 5** [ジョブ情報 (Job Information)] 領域に、ジョブの説明を入力します。
- ステップ 6** 電話機レコードを即座に削除するには、[今すぐ実行 (Run Immediately)] オプション ボタンをクリックします。電話機レコードを後で削除するには、[後で実行 (Run Later)] をクリックします。
- ステップ 7** [送信 (Submit)] をクリックして、電話機レコードを削除するジョブを作成します。

ステップ 8 このジョブのスケジュールやアクティブ化を行うには、[ジョブスケジューラ (Job Scheduler)] ウィンドウを使用します。

ジョブの詳細については、第 82 章「ジョブのスケジュール」を参照してください。

ログ ファイルの詳細については、「BAT ログ ファイル」(P.83-3) を参照してください。

追加情報

「関連項目」(P.8-5) を参照してください。

未定義の電話番号の削除

電話機レコードを検索するためのクエリーを作成して未定義の電話番号を削除する手順は、次のとおりです。

手順

ステップ 1 [一括管理 (Bulk Administration)] > [電話 (Phones)] > [電話の削除 (Delete Phones)] > [未定義の DN の削除 (Delete Unassigned DN)] の順に選択します。

[未定義の電話番号の削除 (Delete Unassigned Directory Numbers)] ウィンドウが表示されます。

ステップ 2 最初の [削除 未定義の電話番号の一括処理、検索条件:(Delete Bulk Unassigned Directory Number where)] ドロップダウン リスト ボックスで、次のいずれかの検索条件を選択します。

- [パターン (Pattern)]
- [説明 (Description)]
- [ルートパーティション (Route Partition)]

2 番目の [未定義の電話番号の一括削除、検索条件 (Delete Bulk Unassigned Directory Number where)] ドロップダウン リスト ボックスで、次のいずれかの検索条件を選択します。

- [が次の文字列で始まる (begins with)]
- [が次の文字列を含む (contains)]
- [が次の文字列と等しい (is exactly)]
- [が次の文字列で終わる (ends with)]
- [が空である (is empty)]
- [が空ではない (is not empty)]

ステップ 3 必要に応じて、適切な検索テキストを指定します。

ステップ 4 [検索 (Find)] をクリックします。

検索された電話機のリストが、次の項目別に表示されます。

- [パターン (Pattern)]
- [説明 (Description)]
- [パーティション (Partition)]



ヒント データベースに登録された未定義の電話番号をすべて検索するには、検索テキストを入力せずに [検索 (Find)] をクリックします。

ステップ 5 [ジョブ情報 (Job Information)] 領域に、ジョブの説明を入力します。

デフォルトの説明は、「未定義の DN の削除 - クエリ」です。

ステップ 6 未定義の電話番号を即座に削除するには、[今すぐ実行 (Run Immediately)] オプション ボタンをクリックします。電話機レコードを後で削除するには、[後で実行 (Run Later)] をクリックします。

ステップ 7 [送信 (Submit)] をクリックして、電話機レコードを削除するジョブを作成します。



(注) ジョブを送信する前に、表示された結果のリスト全体を確認してください。

ステップ 8 このジョブのスケジュールやアクティブ化を行うには、[ジョブスケジューラ (Job Scheduler)] ウィンドウを使用します。

ジョブの詳細については、[第 82 章「ジョブのスケジュール」](#) を参照してください。

ログ ファイルの詳細については、「[BAT ログ ファイル](#)」(P.83-3) を参照してください。

関連項目

- 「クエリーを使用した電話機の削除」(P.8-1)
- 「カスタム ファイルを使用した電話機の削除」(P.8-3)
- 「未定義の電話番号の削除」(P.8-4)



CHAPTER 9

電話機のエクスポート

エクスポートユーティリティを使用すると、複数の Cisco Unified Communications Manager サーバ上のレコードを 1 台の Cisco Unified Communications Manager サーバにマージできます。Cisco Unified Communications Manager サーバから別のサーバにレコードを移動する手順は、次のとおりです。エクスポートするのは、移動の対象となるレコードだけにしてください。次の手順を実行します。

- 「電話機レコードのエクスポート」(P.9-4)
- 「ユーザレコードのエクスポート」(P.20-1)
- 「ユーザデバイスプロファイルレコードのエクスポート」(P.43-3)
- (オプション) テキストエディタでの CSV ファイルの編集。レコード形式は、そのファイル形式に指定された形式に従っている必要があります。たとえば、電話機レコードは電話機のファイル形式に従っている必要があります。



注意

CSV ファイルを編集するときは、十分に注意してください。誤った形式でレコードを挿入すると、電話機が動作しない場合があります。

1. CSV ファイルを Cisco Unified Communications Manager サーバにアップロードします。詳細については、「ファイルのアップロード」(P.2-3) を参照してください。



注意

レコードの挿入順序は、重要な意味を持っています。ユーザレコードを最初に挿入する必要があります。この方法によって、既存ユーザに対して、デバイスが適切に関連付けられます。

2. ユーザレコードを挿入します。
3. 電話機レコードを挿入します。
4. ユーザデバイスプロファイルレコードを挿入します。
5. ログファイルでエラーをチェックします。

追加情報

「関連項目」(P.9-6) を参照してください。

電話機エクスポートの使用方法

電話機レコードをエクスポートする場合、次の 2 つのファイル形式オプションから選択できます。

- [固有の詳細 (Specific Details)] : 同様の設定の電話機の場合 (Default Phone ファイル形式)。
- [すべての詳細 (All Details)] : パーティションやコーリング スペースが複数あるなど、回線設定の異なる電話機の場合 (All Phone Details ファイル形式)。

Default Phone ファイル形式

Default Phone ファイル形式を選択した場合は、定義済みクエリーを使用してレコードをエクスポートできます。

表 9-1 に、Default Phone ファイル形式を選択した場合にエクスポートされるフィールドを示します。

表 9-1 Default Phone ファイル形式でエクスポートされるフィールド

フィールドの種類	エクスポートされるフィールド
デバイス フィールド	MAC Address、Description、Location
回線フィールド	Directory Number、Display、Line Text Label、Forward Busy External、Forward Busy Internal、Forward No Answer Internal、Forward No Answer External、Forward No Coverage Internal、Forward No Coverage External、Call Pickup Group

All Phone Details ファイル形式

All Phone Details オプションを使用して電話機レコードをエクスポートする場合は、特定モデルの電話機の電話機レコードをエクスポートすることになります。すべてのデバイス フィールド情報、各種の回線アトリビュート、および電話機に関連付けられているサービスがエクスポートされます。またはすべての電話機モデルを 1 つのファイルにエクスポートすることができます。すべての電話機のタイプを 1 つのファイルにエクスポートするには、[デバイスタイプの選択 (Select the Device Type)] ドロップダウン リスト ボックスから [All Phone Types] を選択します。クエリーを使用してレコード数を制限することはできません。

表 9-2 に、All Phone Details ファイル形式を選択した場合にエクスポートされるフィールドを示します。



(注)

All Phone Details ファイル形式を使用してエクスポートする場合は、MAC アドレスではなくデバイス名が保存されます。

表 9-2 All Phone Details ファイル形式でエクスポートされるフィールド

フィールドの種類	エクスポートされるフィールド
デバイス フィールド	Device Name、Description、Owner User ID、Device Pool、CSS、AAR CSS、Media Resource Group List、User Hold Audio Source、Network Hold Audio Source、Location、User Locale、Network Locale、Phone Button Template、Expansion Module type I、Expansion Module type II、Softkey Template、Phone Load Name、Module 1 Load Name、Module 2 Load Name、Login user ID、Built in Bridge、MLPP Indication、MLPP Preemption、MLPP Domain、Retry Video call as Audio、Privacy、Security Mode、Ignore Presentation Indicators、Single Packet Capture mode、Packet Capture Duration、Certificate Operation、Authentication Mode、Authentication String、Key Size (bits)、Operation Completes By
モデル固有のデバイス フィールド	Information、Directory、Messages、Services、Authentication Server、Proxy Server、Idle、Idle Timer、Enable Extension Mobility、Logout Profile、Login User ID、Login Time、Logout Time、Product Specific XML
回線フィールド	Directory Number、Partition、Voice Mail Profile、Line CSS、AAR Group、Line User Hold Audio Source、Line Network Hold Audio Source、Auto Answer、Forward All to Voice Mail、Forward All Destination、Forward All CSS、Forward Busy External to Voice Mail、Forward Busy External Destination、Forward Busy External CSS、Forward No Answer External to Voice Mail、Forward No Answer External Destination、Forward No Answer External CSS、Forward On Failure to Voice Mail、Forward On Failure Destination、Forward on Failure CSS、Call pickup group、Forward Busy Internal to Voice Mail、Forward Busy Internal Destination、Forward Busy Internal CSS、Forward No Answer Internal to Voice Mail、Forward No Answer Internal Destination、Forward No Answer Internal CSS、Forward No Call Coverage External to Voice Mail、Forward No Call Coverage External Destination、Forward No Call Coverage External CSS、Forward No Call Coverage Internal to Voice Mail、Forward No Call Coverage Internal Destination、Forward No Call Coverage Internal CSS、Display、External Phone Number Mask、Message Waiting Lamp Policy、Ring Setting When Idle、Line Text Label、Ring Setting When Active、No Answer Ring Duration、MLPP Target Destination、MLPP Calling Search Space、MLPP No Answer Ring Duration、Max Num Calls、Busy Trigger、Call Info Display Mask、Alerting Name

表 9-2 All Phone Details ファイル形式でエクスポートされるフィールド (続き)

フィールドの種類	エクスポートされるフィールド
ユーザ フィールド	User ID
スピードダイヤル	Speed Dial Number、Speed Dial Label
サービス	Service Name、Subscribed Service Name、Parameter Name、Parameter Value

追加情報

「関連項目」(P.9-6) を参照してください。

電話機レコードのエクスポート

Cisco Unified Communications Manager から電話機レコードをエクスポートする手順は、次のとおりです。

手順

-
- ステップ 1** 次のオプションのいずれかを選択してください。
- [一括管理 (Bulk Administration)] > [電話 (Phones)] > [電話のエクスポート (Export Phones)] > [固有の詳細 (Specific Details)] の順に選択します。[電話の検索と一覧表示 (Find and List Phones)] ウィンドウが表示されます。
 - [一括管理 (Bulk Administration)] > [電話 (Phones)] > [電話のエクスポート (Export Phones)] > [すべての詳細 (All Details)] の順に選択します。[電話のエクスポート (Export Phones Configuration)] ウィンドウが表示されます。
- ステップ 2** [すべての詳細 (All Details)] オプションを選択した場合は、[デバイスタイプ (Device Type)] ドロップダウン リスト ボックスでデバイスのタイプか特定のモデルを選択します。この形式でエクスポートされるフィールドの一覧は、表 9-1 を参照してください。ステップ 4 に進みます。
- ステップ 3** [固有の詳細 (Specific Details)] では、エクスポートする電話機セットを選択することによりエクスポート ファイルをカスタマイズできますが、電話機の詳細は設定できません。
- a. 最初の [検索対象: 電話、検索条件:(Find Phone where)] ドロップダウン リスト ボックスで、次のいずれかのオプションを選択します。
 - [デバイス名 (Device Name)]
 - [説明 (Description)]
 - [電話番号 (Directory Number)]
 - [コーリングサーチスペース (Calling Search Space)]
 - [デバイスプール (Device Pool)]
 - [コールピックアップグループ (Call Pickup Group)]
 - [LSC ステータス (LSC Status)]
 - [認証文字列 (Authentication String)]
 - [セキュリティプロファイル (Security Profile)]
 - b. 2 番目のドロップダウン リスト ボックスで、次のいずれかのオプションを選択します。
 - [が次の文字列で始まる (begins with)]
 - [が次の文字列を含む (contains)]

- [が次の文字列と等しい (is exactly)]
 - [が次の文字列で終わる (ends with)]
 - [が空である (is empty)]
 - [が空ではない (is not empty)]
- c. 検索フィールドまたはリストボックスで、検索する値（たとえば、デバイス名）を選択するか、入力します。
- d. 複数のフィルタを追加するには、[絞り込み (Search Within Results)] チェックボックスをクリックして [AND] または [OR] をクリックします。クエリーをさらに定義するには、サブステップ a. ～ c. を繰り返します。
- e. [検索 (Find)] をクリックします。検索結果が表示されます。
- f. [次へ (Next)] をクリックします。[電話のエクスポート (Export Phones Configuration)] ウィンドウが表示されます。
- g. [ファイル形式 (File Format)] ドロップダウン リスト ボックスで電話機のファイル形式を選択します。

ステップ 4 [ファイル名 (File Name)] テキストボックスにエクスポート ファイル名を入力します。

ステップ 5 [ジョブ情報 (Job Information)] 領域に、ジョブの説明を入力します。

ステップ 6 電話機レコードを即座にエクスポートするには、[今すぐ実行 (Run Immediately)] オプション ボタンをクリックします。後でエクスポートするには、[後で実行 (Run Later)] をクリックします。

ステップ 7 [送信 (Submit)] をクリックして、電話機レコードをエクスポートするジョブを作成します。

ステップ 8 このジョブのスケジュールやアクティブ化を行うには、[一括管理 (Bulk Administration)] メインメニューの [ジョブスケジューラ (Job Scheduler)] オプションを使用します。

ジョブの詳細については、[第 82 章「ジョブのスケジュール」](#) を参照してください。

ログ ファイルの詳細については、「[BAT ログ ファイル \(P.83-3\)](#)」を参照してください。

エクスポート ファイルは、[一括管理 (Bulk Administration)] メニューの [ファイルのアップロード/ダウンロード (Upload/Download Files)] オプションを使用して検索またはダウンロードできます。詳細については、[第 2 章「ファイルのアップロードとダウンロード」](#) を参照してください。

追加情報

「[関連項目 \(P.9-6\)](#)」を参照してください。

複数ユーザを持つ電話機レコードのエクスポートおよびインポート

エクスポート ファイル名には、タイムスタンプのサフィックスが付加されます。電話をエクスポートするジョブが反復的にスケジュールされている場合、情報は同じファイル名でエクスポートされますが、タイムスタンプが異なります。

複数ユーザを持つ電話機が含まれたエクスポート ファイルをインポートすると、すべてのユーザが同じレコードにエクスポートされます。

追加情報

「[関連項目 \(P.9-6\)](#)」を参照してください。

関連項目

- 「電話機レコードのエクスポート」 (P.9-4)
- 「ユーザレコードのエクスポート」 (P.20-1)
- 「ユーザデバイスプロファイルレコードのエクスポート」 (P.43-3)



CHAPTER 10

電話回線の追加と更新

特定のデバイス グループまたは特定のユーザ デバイス プロファイル グループ用の回線アトリビュートを更新するには、[回線の更新(Update Lines)] オプションを使用します。クエリー結果に電話機用の回線とユーザ デバイス プロファイル用の回線の両方が含まれている場合は、両回線が同時に更新されます。



(注) 電話機を Cisco Unified Communications Manager データベースから削除しても、電話番号はデータベース内に残っています。これらの孤立した電話番号を管理するには、[回線の更新(Update Lines)] オプションを使用して割り当てられていない電話番号を検索し、これらの電話番号を削除または更新することができます。

Cisco Unified Communications Manager データベース内の既存の電話機のグループ、またはユーザ デバイス プロファイルのグループに回線を追加することができます。テンプレートを 사용하여新しい回線を追加すると、電話サービスまたはスピードダイヤルを変更することはできません。既存の電話機に回線を追加する場合、Cisco Unified Communications Manager 一括管理 (BAT) ではテンプレートのこれらのフィールドが無視されます。

回線のアトリビュートを更新し、回線を追加し、既存の電話機またはユーザ デバイス プロファイルに回線を追加する手順は、次のとおりです。

- 「クエリーを使用した回線の更新」(P.10-1)
- 「既存の電話機および UDP への回線の追加」(P.10-10)
- 「BAT スプレッドシートを使用した既存の電話機への回線の追加」(P.10-10)

クエリーを使用した回線の更新

回線を更新する手順は、次のとおりです。

手順

ステップ 1

[一括管理(Bulk Administration)] > [電話(Phones)] > [回線の追加/更新(Add/Update Lines)] > [回線の更新(Update Lines)] の順に選択するか、[一括管理(Bulk Administration)] > [ユーザデバイスプロファイル(User Device Profiles)] > [回線の追加/更新(Add/Update Lines)] > [回線の更新(Update Lines)] の順に選択します。

[回線の更新のクエリー(Update Lines Query)] ウィンドウが表示されます。



(注) クエリーを指定しなければ、すべての回線を更新できます。「回線を更新する場合のフィールドの説明」(P.10-3)に進みます。

ステップ 2 最初の [検索対象: 回線、検索条件 (Find Line where)] ドロップダウン リスト ボックスで、次のいずれかの検索条件を選択します。

- [電話番号 (Directory Number)]
- [ルートパターン (Route Pattern)]
- [回線の説明 (Line Description)]
- [CSS(電話)(Calling Search Space (Phone))]
- [CSS(回線)(Calling Search Space (Line))]
- [デバイスプール (Device Pool)]
- [デバイスの説明 (Device Description)]
- [回線の位置 (Line Position)]
- [未定義の DN(Unassigned DN)]
- [コールピックアップグループ (Call Pickup Group)]



(注) 孤立した電話番号を検索して削除するには、「未定義の DN」を使用します。

2 番目の [検索対象: 回線、検索条件 (Find Line where)] ドロップダウン リスト ボックスで、次のいずれかの検索条件を選択します。

- [が次の文字列で始まる (begins with)]
- [が次の文字列を含む (contains)]
- [が次の文字列と等しい (is exactly)]
- [が次の文字列で終わる (ends with)]
- [が空である (is empty)]
- [が空ではない (is not empty)]

ステップ 3 検索フィールドリスト ボックスで、検索する値を選択するか、入力します。たとえば、リストから回線の位置を選択するか、電話番号の範囲を入力します。



ヒント データベースに登録されているすべての回線を検索するには、検索テキストを入力せずに [検索 (Find)] をクリックします。

ステップ 4 クエリーをさらに定義する場合や、複数のフィルタを追加する場合は、[絞り込み (Search Within Results)] チェックボックスをオンにし、ドロップダウン ボックスから [AND] または [OR] を選択して、ステップ 2 ~ 3 を繰り返します。

ステップ 5 [検索 (Find)] をクリックして、検索対象のレコードを表示します。

検索された回線のリストが、次の項目別に表示されます。

- [パターン / 電話番号 (Pattern/Directory Number)]
- [パーティション (Partition)]
- [説明 (Description)]

- ステップ 6** [次へ(Next)] をクリックします。最上部で選択したクエリーのタイプが、[回線の更新(Update Lines)] ウィンドウに表示されます。クエリーのタイプを変更する場合は、[戻る(Back)] をクリックします。
- ステップ 7** クエリーで定義したすべてのレコードに対して、更新する設定値を指定します。更新するパラメータは複数選択できます。パラメータの説明については、「[回線を更新する場合のフィールドの説明 \(P.10-3\)](#)」を参照してください。
- ステップ 8** チェックマークが付いたパラメータの値フィールドに新しい値を入力するか、リスト ボックスから値を選択します。
- ステップ 9** [ジョブ情報(Job Information)] 領域に、ジョブの説明を入力します。
- ステップ 10** 回線を即座に挿入するには、[今すぐ実行(Run Immediately)] オプション ボタンをクリックします。後で挿入するには、[後で実行(Run Later)] をクリックします。
- ステップ 11** 電話機レコードを挿入するジョブを作成するには、[送信(Submit)] をクリックします。
- ステップ 12** このジョブのスケジュールやアクティブ化を行うには、[ジョブスケジューラ(Job Scheduler)] ウィンドウを使用します。
ジョブの詳細については、[第 82 章「ジョブのスケジュール」](#) を参照してください。
ログ ファイルの詳細については、「[BAT ログ ファイル \(P.83-3\)](#)」を参照してください。

追加情報

「[関連項目 \(P.10-14\)](#)」を参照してください。

回線を更新する場合のフィールドの説明

表 10-1 では、回線の詳細を更新する場合のフィールドについて説明します。関連する手順については、「[関連項目 \(P.10-14\)](#)」を参照してください。

一部のフィールドに示される値は、Cisco Unified Communications Manager から表示されます。これらの値は、Cisco Unified Communications Manager の管理ページを使用して設定する必要があります。

表 10-1 回線の詳細を更新する場合のフィールドの説明

フィールド	説明
[ルートパーティション(Route Partition)]	パーティションを選択します。パーティションは、電話番号が属するルートパーティションを指定します。 (注) 電話番号は複数のパーティションに現れる可能性があります。
[CSS(回線)(Calling Search Space (Line))]	この電話番号から呼び出される番号を検索するパーティションを選択します。 (注) このフィールドに変更を加えると、[コールピックアップグループ(Call Pickup Group)] フィールドのリストに表示されるコールピックアップグループ名が更新されます。この設定値は、この電話番号を使用するすべてのデバイスに適用されます。
[不在転送(Forward All)] の [コーリングサーチスペース(Calling Search Space)]	コールが指定された宛先に自動転送されるときに使用するコーリングサーチスペースを選択します。 (注) この設定値は、この電話番号を使用するすべてのデバイスに適用されます。

表 10-1 回線の詳細を更新する場合のフィールドの説明 (続き)

フィールド	説明
[不在転送 (Forward All)] の [接続先 (Destination)]	すべてのコールの自動転送先の電話番号を入力します。 (注) この設定値は、ダイヤル可能な任意の電話番号 (制限されていない限り、外部の宛先を含む)、およびこの電話番号を使用するすべてのデバイスに適用されます。
[不在転送 (Forward All)] の [ボイスメール (Voice Mail)]	すべてのコールをボイス メッセージ プロファイルで選択した番号に自動転送する場合は、このチェックボックスをオンにします。 このチェックボックスをオンにすると、[不在転送 (Forward All)] の [接続先 (Destination)] フィールドと [コーリングサーチスペース (Calling Search Space)] チェックボックスでの指定内容は無効になります。
[話中転送 (Forward Busy External、外部)] の [コーリングサーチスペース (Calling Search Space)]	外部番号からのコールが指定された宛先に自動転送されるときに使用するコーリングサーチスペースを選択します。 (注) この設定値は、この電話番号を使用するすべてのデバイスに適用されます。
[未取得時のパークモニタリング転送の接続先 (外部)] の [接続先 (Destination)]	パークされた発信側が外部ユーザの場合、パーク元の [未取得時のパークモニタリング転送の接続先 (外部) (Park Monitoring Forward No Retrieve Destination External)] パラメータに指定された接続先にコールが自動転送されます。[未取得時の転送の接続先 (外部) (Forward No Retrieve Destination External)] フィールドの値が空の場合は、パークされた発信側がパーク元の回線にリダイレクトされます。
[未取得時のパークモニタリング転送の接続先 (内部)] の [接続先 (Destination)]	パークされた発信側が内部ユーザの場合、パーク元の [未取得時のパークモニタリング転送の接続先 (内部) (Park Monitoring Forward No Retrieve Destination Internal)] パラメータに指定された接続先にコールが自動転送されます。[未取得時の転送の接続先 (内部) (Forward No Retrieve Destination Internal)] フィールドの値が空の場合は、パークされた発信側がパーク元の回線にリダイレクトされます。
[未取得時のパークモニタリング転送の接続先 (内部)] の [ボイスメール (Voice Mail)]	このチェックボックスをオンにすると、[ボイスメールプロファイルの設定 (Voice Mail Profile Configuration)] ウィンドウの設定が使用されます。 このチェックボックスがオンになっていると、Cisco Unified Communications Manager は、[接続先 (Destination)] ボックスと [コーリングサーチスペース (Calling Search Space)] の設定値を無視します。
[未取得時のパークモニタリング転送の接続先 (外部)] の [ボイスメール (Voice Mail)]	このチェックボックスをオンにすると、[ボイスメールプロファイルの設定 (Voice Mail Profile Configuration)] ウィンドウの設定が使用されます。 このチェックボックスがオンになっていると、Cisco Unified Communications Manager は、[接続先 (Destination)] ボックスと [コーリングサーチスペース (Calling Search Space)] の設定値を無視します。
[未取得時のパークモニタリング転送の接続先 (外部)] の [コーリングサーチスペース (Calling Search Space)]	電話番号に適用するコーリングサーチスペースを選択します。

表 10-1 回線の詳細を更新する場合のフィールドの説明 (続き)

フィールド	説明
[未取得時のパークモニタリング転送の接続先(内部)]の[コーリングサーチスペース(Calling Search Space)]	電話番号に適用するコーリングサーチスペースを選択します。
[パークモニタリング復帰タイマー(Park Monitoring Reversion Timer)]	このパラメータによって、Cisco Unified Communications Manager がユーザにパークしたコールの取得を求めるまでに待機する秒数が決まります。このタイマーはユーザが電話の[パーク]ソフトキーを押すと起動し、タイマーの期限が切れるとリマインダが発行されます。 デフォルト：60 秒 ゼロ以外の値を設定すると、[サービスパラメータ(Service Parameters)] ウィンドウに設定されているパラメータの値がこの値で上書きされます。一方、ここに 0 を設定すると、[サービスパラメータ(Service Parameters)] ウィンドウの値が使用されます。
[不在着信のログ(Log Missed Calls)]	このチェックボックスを使用すると、不在着信のログ機能をオンまたはオフにできます。このチェックボックスにチェックマークが表示されている(オンになっている)場合(デフォルトの設定)、Cisco Unified Communications Manager は電話機でのその電話番号に対する通話履歴に不在着信のログを記録します。
[パーティ参加トーン(Party Entrance Tone)]	ドロップダウンリストボックスから次のオプションのいずれかを選択します。 <ul style="list-style-type: none"> • [デフォルト(Default)]：パーティ参加トーンサービスパラメータで設定した値を使用します。 • [オン(On)]：基本コールがマルチパーティコール(割り込みコール、C 割り込みコール、アドホック会議、ミーティング会議、または参加コール)に変わると、電話機でトーンが再生されます。さらに、通話者がマルチパーティコールを離れると、別のトーンが再生されます。制御デバイスつまりマルチパーティコールの発信元がビルトインブリッジの場合、制御デバイスで[オン(On)]を選択すると、すべての通話者に対してトーンが再生されます。制御デバイス(たとえば、会議の開催者)がコールに参加しなくなっている場合、または制御デバイスがトーンを再生できない場合は、[オン(On)]が選択されていても、Cisco Unified Communications Manager はトーンを再生しません。 • [オフ(Off)]：基本コールがマルチパーティコールに変わっても、電話機でトーンは再生されません。
[話中転送(Forward Busy Internal、内部)]の[コーリングサーチスペース(Calling Search Space)]	内部番号からのコールが指定された宛先に自動転送されるときに使用するコーリングサーチスペースを選択します。 (注) この設定値は、この電話番号を使用するすべてのデバイスに適用されます。
[話中転送(Forward Busy External、外部)]の[接続先(Destination)]	回線が使用中のときに外部番号からのコールが自動転送される先の電話番号を入力します。 (注) この設定値は、ダイヤル可能な任意の電話番号(制限されていない限り、外部の宛先を含む)、およびこの電話番号を使用するすべてのデバイスに適用されます。

表 10-1 回線の詳細を更新する場合のフィールドの説明 (続き)

フィールド	説明
[話中転送 (Forward Busy Internal、内部)] の [接続先 (Destination)]	回線が使用中のときに内部番号からのコールが自動転送される先の電話番号を入力します。 (注) この設定値は、ダイヤル可能な任意の電話番号 (制限されていない限り、外部の宛先を含む)、およびこの電話番号を使用するすべてのデバイスに適用されます。
[話中転送 (Forward Busy External、外部)] の [ボイスメール (Voice Mail)]	回線が使用中のときに外部番号からのコールをボイス メッセージ プロファイルで選択した番号に自動転送する場合は、このチェックボックスをオンにします。 このチェックボックスをオンにすると、[話中転送 (Forward Busy)] の [接続先 (Destination)] フィールドと [コーリングサーチスペース (Calling Search Space)] チェックボックスでの指定内容は無効になります。
[話中転送 (Forward Busy Internal、内部)] の [ボイスメール (Voice Mail)]	回線が使用中のときに内部番号からのコールをボイス メッセージ プロファイルで選択した番号に自動転送する場合は、このチェックボックスをオンにします。 このチェックボックスをオンにすると、[話中転送 (Forward Busy)] の [接続先 (Destination)] フィールドと [コーリングサーチスペース (Calling Search Space)] チェックボックスでの指定内容は無効になります。
[無応答時転送 (Forward No Answer External、外部)] の [コーリングサーチスペース (Calling Search Space)]	外部番号からのコールが指定された宛先に自動転送されるときに使用するコーリングサーチスペースを選択します。この設定値は、システム内で設定されている場合だけ、表示されます。 (注) この設定値は、この電話番号を使用するすべてのデバイスに適用されます。
[無応答時転送 (Forward No Answer Internal、内部)] の [コーリングサーチスペース (Calling Search Space)]	内部番号からのコールが指定された宛先に自動転送されるときに使用するコーリングサーチスペースを選択します。この設定値は、システム内で設定されている場合だけ、表示されます。 (注) この設定値は、この電話番号を使用するすべてのデバイスに適用されます。
[無応答時転送 (Forward No Answer External、外部)] の [接続先 (Destination)]	電話機が応答しない場合に外部番号からのコールが自動転送される先の電話番号を入力します。 (注) この設定値は、ダイヤル可能な任意の電話番号 (制限されていない限り、外部の宛先を含む)、およびこの電話番号を使用するすべてのデバイスに適用されます。
[無応答時転送 (Forward No Answer Internal、内部)] の [接続先 (Destination)]	電話機が応答しない場合に内部番号からのコールが自動転送される先の電話番号を入力します。 (注) この設定値は、ダイヤル可能な任意の電話番号 (制限されていない限り、外部の宛先を含む)、およびこの電話番号を使用するすべてのデバイスに適用されます。

表 10-1 回線の詳細を更新する場合のフィールドの説明 (続き)

フィールド	説明
[無応答時転送 (Forward No Answer External、外部)] の [ボイスメール (Voice Mail)]	<p>応答されない外部番号からのコールをボイス メッセージ プロファイルで選択した番号に自動転送する場合は、このチェックボックスをオンにします。</p> <p>このチェックボックスをオンにすると、無応答時転送の [接続先 (Destination)] フィールドと [コーリングサーチスペース (Calling Search Space)] チェックボックスでの指定内容は無効になります。</p>
[無応答時転送 (Forward No Answer Internal、内部)] の [ボイスメール (Voice Mail)]	<p>応答されない内部番号からのコールをボイス メッセージ プロファイルで選択した番号に自動転送する場合は、このチェックボックスをオンにします。</p> <p>このチェックボックスをオンにすると、無応答時転送の [接続先 (Destination)] フィールドと [コーリングサーチスペース (Calling Search Space)] チェックボックスでの指定内容は無効になります。</p>
[カバレッジなし時転送 (Forward No Coverage External、外部)] の [コーリングサーチスペース (Calling Search Space)]	<p>外部番号からのコールが指定された宛先に自動転送されるときに使用するコーリング サーチ スペースを選択します。この設定値は、システム内で設定されている場合だけ、表示されます。</p> <p>(注) この設定値は、この電話番号を使用するすべてのデバイスに適用されます。</p>
[カバレッジなし時転送 (Forward No Coverage Internal、内部)] の [コーリングサーチスペース (Calling Search Space)]	<p>内部番号からのコールが指定された宛先に自動転送されるときに使用するコーリング サーチ スペースを選択します。この設定値は、システム内で設定されている場合だけ、表示されます。</p> <p>(注) この設定値は、この電話番号を使用するすべてのデバイスに適用されます。</p>
[カバレッジなし転送 (Forward No Coverage External、外部)] の [接続先 (Destination)]	<p>電話機のカバレッジが対応しない場合に外部番号からのコールが自動転送される先の電話番号を入力します。</p> <p>(注) この設定値は、ダイヤル可能な任意の電話番号 (制限されていない限り、外部の宛先を含む)、およびこの電話番号を使用するすべてのデバイスに適用されます。</p>
[カバレッジなし転送 (Forward No Coverage Internal、内部)] の [接続先 (Destination)]	<p>電話機のカバレッジが対応しない場合に内部番号からのコールが自動転送される先の電話番号を入力します。</p> <p>(注) この設定値は、ダイヤル可能な任意の電話番号 (制限されていない限り、外部の宛先を含む)、およびこの電話番号を使用するすべてのデバイスに適用されます。</p>
[カバレッジなし時転送 (Forward No Coverage External、外部)] の [ボイスメール (Voice Mail)]	<p>電話機のカバレッジが対応しない場合に外部番号からのコールをボイス メッセージ プロファイルで選択した番号に自動転送する場合は、このチェックボックスをオンにします。</p> <p>このチェックボックスをオンにすると、無応答時転送の [接続先 (Destination)] フィールドと [コーリングサーチスペース (Calling Search Space)] チェックボックスでの指定内容は無効になります。</p>
[カバレッジなし時転送 (Forward No Coverage Internal、内部)] の [ボイスメール (Voice Mail)]	<p>電話機のカバレッジが対応しない場合に内部番号からのコールをボイス メッセージ プロファイルで選択した番号に自動転送する場合は、このチェックボックスをオンにします。</p> <p>このチェックボックスをオンにすると、無応答時転送の [接続先 (Destination)] フィールドと [コーリングサーチスペース (Calling Search Space)] チェックボックスでの指定内容は無効になります。</p>

表 10-1 回線の詳細を更新する場合のフィールドの説明 (続き)

フィールド	説明
[CTI 障害時転送 (Forward on CTI Failure)] の [コーリングサーチスペース (Calling Search Space)]	(CTI ポートのみ) 内線コールまたは外線コールが指定された宛先に自動転送されるときに使用するコーリングサーチスペースを選択します。この設定値は、システム内で設定されている場合だけ、表示されます。 (注) この設定値は、この電話番号を使用するすべてのデバイスに適用されます。
[CTI 障害時転送 (Forward on CTI Failure)] の [接続先 (Destination)]	(CTI ポートのみ) 電話機または CTI アプリケーションに障害が起きたときに、内部番号または外部番号からのコールが自動転送される先の電話番号を入力します。
[CTI 障害時転送 (Forward on CTI Failure)] の [ボイスメール (Voice Mail)]	(CTI ポートのみ) 外部番号または内部番号からの失敗したコールをボイスメッセージプロファイルで選択した番号に自動転送する場合は、このチェックボックスをオンにします。
[無応答時の呼び出し時間 (Call Forward No Answer Ring Duration、秒)]	コールが呼び出し音を送り、応答を待つ秒数 (1 ~ 300) を入力します。この時間内に応答がないと、無応答時転送の [接続先 (Destination)] フィールドで入力された電話番号にコールを自動転送します。 (注) Cisco Unified Communications Manager サービス パラメータの Forward No Answer Timer で設定されている値を使用する場合は、このフィールドをブランクのままにします。
[ユーザ保留音源 (User Hold Audio Source)]	ユーザが保留ボタンまたはソフトキーを押してコールを保留にしたときに再生される保留音オーディオソースを選択します。
[ネットワーク保留音源 (Network Hold Audio Source)]	システムがコールを保留にすると (たとえば、ユーザがコールを転送したときや電話会議またはコールパークを開始したとき) に再生される保留音オーディオソースを選択します。
[自動応答 (Auto Answer)]	ここで更新されるすべての回線で自動応答機能を使用する場合は、このパラメータを選択します。自動応答を使用すると、ヘッドセットを使用中であっても、Cisco Unified Communications Manager が自動的にコールに応答します。着信コールが接続されていることをユーザに知らせるアラート音 (ジップ トーン) が再生されます。
[ボイスメールプロファイル (Voice Mail Profile)]	パイロット番号をこの回線の電話番号と同じにするには、このパラメータを選択します。このパラメータを選択すると、この電話機に対してボイスメッセージサーバが設定されていない場合に役立ちます。
[呼出音設定 (Ring Setting、電話がアイドルのとき)]	電話機に着信コールがあった場合の呼び出し音のタイプを選択します。
[呼出音設定 (Ring Setting、電話がアクティブのとき)]	この電話機に異なる回線で別のアクティブ コールがあった場合に使用される、着信コールの呼び出し音のタイプを選択します。
[コールピックアップグループ名 (Call Pickup Group Name)]	コールピックアップグループ名を選択してコールピックアップグループを指定します。コールピックアップグループでは、該当のピックアップグループ番号をダイヤルすることにより、この電話番号への着信コールに応答することができます。
[AAR グループ (AAR Group)]	このデバイスの自動代替ルーティング (AAR) グループを選択します。AAR グループはプレフィックス番号を提供するものです。プレフィックス番号は、帯域幅不足のために本来ならブロックされるコールをルーティングするために使用します。 ブロックされたコールの再ルーティングは行われないようにするには、AAR グループを [なし (None)] に設定します。

表 10-1 回線の詳細を更新する場合のフィールドの説明 (続き)

フィールド	説明
[転送先 (Target、接続先)]	この電話番号が優先コールを受信したが、その番号もその自動転送先もその優先コールに応答しない場合に、MLPP 優先コールが向けられる先の番号を入力します。 値は数字、シャープ (#)、およびアスタリスク (*) を含めることができます。
[MLPP コーリングサーチスペース (MLPP Calling Search Space)]	ドロップダウン リスト ボックスから、代替パーティ ターゲット (宛先) 番号に関連付ける コーリング サーチ スペースを選択します。
[MLPP 無応答時の呼び出し時間 (MLPP No Answer Ring Duration、秒)]	優先コールに対してこの電話番号とその自動転送先が応答するのを待つ時間 (4 ~ 30 秒) を入力します。この時間内に応答がないと、MLPP 優先コールはこの電話番号の代替パーティに向けて送られます。 Cisco Unified Communications Manager エンタープライズ パラメータの Precedence Alternate Party Timeout で設定されている値を使用する場合は、この設定をブランクのままにします。
[外線電話番号マスク (External Phone Number Mask)]	この回線からコールを行うときに発信者 ID 用に送信される電話番号 (またはマスク) を入力します。 最大 30 桁の数字と「X」文字が入力できます。X は電話番号を表し、パターンの最後に表示する必要があります。たとえば、972813XXXX というマスクを指定すると、内線 1234 からの外線コールには発信者 ID 番号 9728131234 が表示されます。
[コール最大数 (Maximum Number of Calls)]	クラスタ内のデバイスの 1 つの回線に対して最大 184 のコールを設定できます。ただし、デバイスが制限要因となります。1 つの回線に対してコールの数を設定すると、別の回線に使用可能なコールが減少します。 デフォルトは 4 です。電話機が回線ごとの複数コールを許可していない場合、デフォルトは 2 です。 CTI ルート ポイントに対しては、各ポートに対して最大 10,000 のコールを設定できます。デフォルトは 5000 コールです。 このフィールドは [ビジートリガー (Busy Trigger)] フィールドと併せて使用します。
[ビジートリガー (Busy Trigger)]	この設定は、[コール最大数 (Maximum Number of Calls)] および [話中転送 (Call Forward Busy)] と連動し、回線で表示されるコールの最大数を決定します。[コール最大数 (Maximum Number of Calls)] が 50 に設定され、[ビジートリガー (Busy Trigger)] が 40 に設定されている場合、着信コール 41 は話中を理由として拒否されます (さらに [話中転送 (Call Forward Busy)] が設定されている場合は転送されます)。この回線が共有されている場合、すべての回線が使用中でなければ着信コールは拒否されません。 このフィールドは、CTI ルート ポイント用の [コール最大数 (Maximum Number of Calls)] と併せて使用します。デフォルトは 4500 コールです。



(注) 手順を完了するには、「クエリーを使用した回線の更新」(P.10-1) に進みます。

既存の電話機および UDP への回線の追加

既存の電話機および UDP に回線を追加する手順は、次のとおりです。

始める前に

- このトランザクションには BAT テンプレートが必要です。詳細については、「[BAT テンプレートにおける回線の追加または更新](#)」(P.3-5) を参照してください。
- このトランザクションには CSV データ ファイルが必要です。詳細については、「[BAT スプレッドシートを使用した既存の電話機への回線の追加](#)」(P.10-10) を参照してください。

手順

-
- ステップ 1** [一括管理 (Bulk Administration)] > [電話 (Phones)] > [回線の追加/更新 (Add/Update Lines)] > [回線の追加 (Add Lines)] の順に選択します。
- [電話回線の追加 (Phone Add Lines)] ウィンドウが表示されます。
- ステップ 2** [ファイル名 (File Name)] フィールドで、このバルク トランザクション用に作成した CSV データ ファイルを選択します。
- ステップ 3** [電話テンプレート名 (Phone Template Name)] フィールドで、このバルク トランザクションに使用する BAT 電話機テンプレートを選択します。
- ステップ 4** テンプレート内にある既存の電話機の設定値を変更する場合は、[既存の電話ボタンテンプレートの更新 (Update the existing phone button template)] チェックボックスをオンにします。このチェックボックスをオンにすると、ユーザ電話機情報も更新されます。
- ステップ 5** [ジョブ情報 (Job Information)] 領域に、ジョブの説明を入力します。
- ステップ 6** 電話機レコードを即座に挿入するには、[今すぐ実行 (Run Immediately)] オプション ボタンをクリックします。電話機レコードを後で挿入するには、[後で実行 (Run Later)] をクリックします。
- ステップ 7** [送信 (Submit)] をクリックして、既存の電話機および UDP に回線を追加するジョブを作成します。
- ステップ 8** このジョブのスケジュールやアクティブ化を行うには、[ジョブスケジューラ (Job Scheduler)] ウィンドウを使用します。
- ジョブの詳細については、[第 82 章「ジョブのスケジュール」](#) を参照してください。
- ログ ファイルの詳細については、「[BAT ログ ファイル](#)」(P.83-3) を参照してください。
-

追加情報

「[関連項目](#)」(P.10-14) を参照してください。

BAT スプレッドシートを使用した既存の電話機への回線の追加

既存の電話機に回線を追加するための BAT スプレッドシートを使用して CSV データ ファイルを作成する手順は、次のとおりです。

BAT スプレッドシートのインストール方法と使用方法については、「[BAT スプレッドシートをデータ収集に使用する方法](#)」(P.1-9) を参照してください。

手順

- ステップ 1** **BAT.xlt** ファイルを見つけ、ダブルクリックして、BAT スプレッドシートを開きます。ファイルのアップロードとダウンロードの詳細については、第 2 章「ファイルのアップロードとダウンロード」を参照してください。
- ステップ 2** プロンプトが表示されたら、[マクロを有効にする] ボタンをクリックして、スプレッドシート機能を使用します。
- ステップ 3** フィールドを表示するには、スプレッドシートの下部にある [Add Lines] タブをクリックします。
- ステップ 4** [電話機 (Phones)] オプション ボタンを選択して、電話機に回線を追加します。



(注) [ユーザデバイスプロファイル (User Device Profile)] オプション ボタンを選択すると、回線をユーザ デバイス プロファイルに追加するように選択できます。

- ステップ 5** スプレッドシートで回線ごとに個々の電話機の入力データを入力します。すべての必須フィールド、および該当するオプションフィールドに値を入力します。各カラムの見出しは、フィールドの長さ、およびそのフィールドが必須かオプションかを指定しています。表 10-2 では、BAT スプレッドシートで回線を追加するためのフィールドについて説明します。
- ステップ 6** [Export to BAT Format] をクリックして BAT Excel スプレッドシートから CSV 形式のデータ ファイルにデータを転送します。

このファイルは C:\XLSDataFiles に保存されます。あるいは [Browse] を使用してローカル ワークステーション上の別の既存フォルダに保存することもできます。ファイル名は次のとおりです。

<tabname>-<timestamp>.txt

ここで、<tabname> は、作成した入力ファイルのタイプ (たとえば、phones) を表し、<timestamp> は、ファイルが作成された正確な日時を表します。



(注) いずれかのフィールドにカンマを入力した場合、BAT.xlt を使用して BAT 形式にエクスポートするときに、そのフィールド エントリは二重引用符で囲まれます。

スプレッドシートに空白行を入力すると、その空の行はファイルの終わりとして扱われます。空白行の後に入力されているデータは BAT 形式に変換されません。

ファイルを Cisco Unified Communications Manager サーバにアップロードします。詳細については、「ファイルのアップロード」(P.2-3) を参照してください。



(注) エクスポートされた CSV データ ファイルを読み取る方法については、BAT 内の [電話の挿入 (Insert Phones)] ウィンドウで [サンプルファイルの表示 (View Sample File)] へのリンクをクリックしてください。

追加情報

「関連項目」(P.10-14) を参照してください。

BAT スプレッドシートを使用して回線を追加する場合のフィールドの説明

表 10-2 では、BAT スプレッドシートを使用して回線を追加する場合のフィールドについて説明します。関連する手順については、「[関連項目](#)」(P.10-14) を参照してください。

表 10-2 BAT スプレッドシートを使用して回線を追加する場合のフィールドの説明

フィールド	説明
[MAC Address]	電話機、VGC Virtual Phone、および VGC Phone の MAC アドレスを入力します。CTI ポートおよび H.323 クライアントの固有の ID を入力します。
[Line Index]	電話機の回線インデックスに 1 ~ 34 の数字を入力します。
[Directory Number]	この回線の電話番号を、24 桁以下の数字と特殊文字で入力します。
[Display]	<p>コールの着信側の電話機ディスプレイに表示するテキストを入力します (たとえば、John Smith などのユーザ名や Conference Room 1 などの電話機の設置場所など)。このフィールドの値が表示される電話機の種類にご注意ください。対象に漢字未対応の電話機が含まれる場合は、状況により半角カタカナあるいは ASCII 文字を使用するようにしてください。また、電話機のユーザ ロケールが複数存在する場合は、共通する文字セットを使用してください。</p> <p>(注) このフィールドをブランクにしておくと、[Directory Number] フィールドに入力された値が使用されます。</p> <p>(注) デフォルトの言語は英語です。</p>
[Line Text Label]	<p>回線と電話機の組み合わせに使用されているこの電話番号を識別するためのテキストを入力します。このフィールドの値が表示される電話機の種類にご注意ください。対象に漢字未対応の電話機が含まれる場合は、状況により半角カタカナあるいは ASCII 文字を使用するようにしてください。また、電話機のユーザ ロケールが複数存在する場合は、共通する文字セットを使用してください。</p> <p>(注) デフォルトの言語は英語です。</p>
[Forward Busy External]	<p>回線が使用中のときに外部番号からのコールが自動転送される先の電話番号を入力します。</p> <p>(注) この設定値は、ダイヤル可能な任意の電話番号 (制限されていない限り、外部の宛先を含む)、およびこの電話番号を使用するすべてのデバイスに適用されます。</p>
[Forward No Answer External]	<p>電話機が応答しない場合に外部番号からのコールが自動転送される先の電話番号を入力します。</p> <p>(注) この設定値は、ダイヤル可能な任意の電話番号 (制限されていない限り、外部の宛先を含む)、およびこの電話番号を使用するすべてのデバイスに適用されます。</p>
[Forward No Coverage External]	<p>電話機のカバレッジが対応しない場合に外部番号からのコールが自動転送される先の電話番号を入力します。</p> <p>(注) この設定値は、ダイヤル可能な任意の電話番号 (制限されていない限り、外部の宛先を含む)、およびこの電話番号を使用するすべてのデバイスに適用されます。</p>

表 10-2 BAT スプレッドシートを使用して回線を追加する場合のフィールドの説明

フィールド	説明
[Forward Busy Internal]	回線が使用中のときに内部番号からのコールが自動転送される先の電話番号を入力します。 (注) この設定値は、ダイヤル可能な任意の電話番号（制限されていない限り、外部の宛先を含む）、およびこの電話番号を使用するすべてのデバイスに適用されます。
[Forward No Answer Internal]	電話機が応答しない場合に内部番号からのコールが自動転送される先の電話番号を入力します。 (注) この設定値は、ダイヤル可能な任意の電話番号（制限されていない限り、外部の宛先を含む）、およびこの電話番号を使用するすべてのデバイスに適用されます。
[Forward No Coverage Internal]	電話機のカバレッジが対応しない場合に内部番号からの自動コールが転送される先の電話番号を入力します。 (注) この設定値は、ダイヤル可能な任意の電話番号（制限されていない限り、外部の宛先を含む）、およびこの電話番号を使用するすべてのデバイスに適用されます。
[Call Pickup Group]	コール ピックアップ グループ名を入力してコール ピックアップ グループを指定します。コール ピックアップ グループでは、該当のピックアップグループ番号をダイヤルすることにより、この回線への着信コールに回答することができます。
[Park Monitoring Forward No Retrieve Destination External]	パークされた発信側が外部ユーザの場合、パーク元の [Park Monitoring Forward No Retrieve Destination External] パラメータに指定された接続先にコールが自動転送されます。[Forward No Retrieve Destination External] フィールドの値が空の場合は、パークされた発信側がパーク元の回線にリダイレクトされます。
[Park Monitoring Forward No Retrieve Destination Internal]	パークされた発信側が内部ユーザの場合、パーク元の [Park Monitoring Forward No Retrieve Destination Internal] パラメータに指定された接続先にコールが自動転送されます。[Forward No Retrieve Destination Internal] フィールドの値が空の場合は、パークされた発信側がパーク元の回線にリダイレクトされます。
[Park Monitoring Reversion Timer]	このパラメータによって、Cisco Unified Communications Manager がユーザにパークしたコールの取得を求めるまでに待機する秒数が決まります。このタイマーはユーザが電話の [パーク] ソフトキーを押すと起動し、タイマーの期限が切れるとリマインダが発行されます。 デフォルト：60 秒 ゼロ以外の値を設定すると、[サービス パラメータ (Service Parameters)] ウィンドウに設定されているパラメータの値がこの値で上書きされます。一方、ここに 0 を設定すると、[サービス パラメータ (Service Parameters)] ウィンドウの値が使用されます。
[Park Monitoring Forward No Retrieve Internal Voice Mail]	この設定では、[ボイスメールプロファイルの設定 (Voice Mail Profile Configuration)] ウィンドウの設定が使用されます。 このチェックボックスをオンにすると、Cisco Unified Communications Manager は、[接続先 (Destination)] ボックスと [コーリングサーチスペース (Calling Search Space)] の設定値を無視します。

表 10-2 BAT スプレッドシートを使用して回線を追加する場合のフィールドの説明

フィールド	説明
[Park Monitoring Forward No Retrieve External Voice Mail]	この設定では、[ボイスメールプロファイルの設定 (Voice Mail Profile Configuration)] ウィンドウの設定が使用されます。 このチェックボックスをオンにすると、Cisco Unified Communications Manager は、[接続先 (Destination)] ボックスと [コーリングサーチスペース (Calling Search Space)] の設定値を無視します。
[Park Monitoring Forward No Retrieve External CSS]	電話番号に適用するコーリングサーチスペースを選択します。
[Park Monitoring Forward No Retrieve Internal CSS]	電話番号に適用するコーリングサーチスペースを選択します。
[Log Missed Calls]	このフィールドを使用すると、不在着信のログ機能をオンまたはオフにできます。「T」を入力すると、Cisco Unified Communications Manager は電話機でのその電話番号に対する通話履歴に不在着信のログを記録します。この機能を無効にするには「F」を入力します。
[Party Entrance Tone]	次のいずれかのパーティ参加トーン オプションを選択します。 <ul style="list-style-type: none"> • [Default] : パーティ参加トーン サービス パラメータで設定した値を使用します。 • [On] : 基本コールがマルチパーティ コール (割り込みコール、C 割り込みコール、アドホック会議、ミーティング会議、または参加コール) に変わると、電話機でトーンが再生されます。さらに、通話者がマルチパーティ コールを離れると、別のトーンが再生されます。制御デバイスつまりマルチパーティ コールの発信元がビルトインブリッジの場合、制御デバイスで [On] を選択すると、すべての通話者に対してトーンが再生されます。制御デバイス (たとえば、会議の開催者) がコールに参加しなくなっている場合、または制御デバイスがトーンを再生できない場合は、[On] が選択されていても、Cisco Unified Communications Manager はトーンを再生しません。 • [Off] : 基本コールがマルチパーティ コールに変わっても、電話機でトーンは再生されません。

関連項目

- 「クエリーを使用した回線の更新」 (P.10-1)
- 「既存の電話機および UDP への回線の追加」 (P.10-10)
- 「BAT スプレッドシートを使用した既存の電話機への回線の追加」 (P.10-10)



CHAPTER 11

電話機のリセットまたは再起動

アトリビュートを更新しなくても、デバイスをリセットまたは再起動できます。問題が発生したために、複数の電話機をバルク トランザクションによってリセットまたは再起動する必要がある場合に、この手順を使用します。

次の 2 つの方法のいずれかを使用して、リセットまたは再起動する電話機を検索することができます。

- 「クエリーを使用した電話機のリセットまたは再起動」(P.11-1)
- 「カスタム ファイルを使用した電話機のリセットまたは再起動」(P.11-3)

クエリーを使用した電話機のリセットまたは再起動

電話機を検索するためのクエリーを作成して電話機をリセットまたは再起動する手順は、次のとおりです。

手順

ステップ 1 [一括管理 (Bulk Administration)] > [電話 (Phones)] > [電話のリセット/リスタート (Reset/Restart Phones)] > [クエリー (Query)] の順に選択します。

[電話のリセット/リスタート (Reset/Restart Phones Configuration)] ウィンドウが表示されます。

ステップ 2 最初の [検索対象: 電話、検索条件:(Find Phones where)] ドロップダウン リスト ボックスで、次のいずれかの検索条件を選択します。

- [デバイス名 (Device Name)]
- [説明 (Description)]
- [電話番号 (Directory Number)]
- [コーリングサーチスペース (Calling Search Space)]
- [デバイスプール (Device Pool)]
- [デバイスタイプ (Device Type)]
- [コールピックアップグループ (Call Pickup Group)]
- [LSC ステータス (LSC Status)]
- [認証文字列 (Authentication String)]
- [デバイスプロトコル (Device Protocol)]
- [セキュリティプロファイル (Security Profile)]
- [共通デバイス設定 (Common Device Configuration)]

2 番目の [検索対象 : 電話、検索条件 :(Find Phone where)] ドロップダウン リスト ボックスで、次のいずれかの検索条件を選択します。

- [が次の文字列で始まる (begins with)]
- [が次の文字列を含む (contains)]
- [が次の文字列と等しい (is exactly)]
- [が次の文字列で終わる (ends with)]
- [が空である (is empty)]
- [が空ではない (is not empty)]

ステップ 3 必要に応じて、適切な検索テキストを指定します。



ヒント データベースに登録されているすべての電話機を検索するには、検索テキストを入力せずに [検索 (Find)] をクリックします。

ステップ 4 クエリーをさらに定義するには、[AND] または [OR] を選択して複数のフィルタを追加し、ステップ 2 ~ 3 の手順を繰り返します。

ステップ 5 [検索 (Find)] をクリックします。

検索されたテンプレートのリストが、次の項目別に表示されます。

- [デバイス名 (Device Name)]
- [説明 (Description)]
- [デバイスプール (Device Pool)]
- [デバイスプロトコル (Device Protocol)]
- [ステータス (Status)]
- [IP アドレス (IP Address)]

ステップ 6 レコードのリストから、検索条件に一致するデバイス名をクリックします。

ステップ 7 次のオプションのいずれかをクリックします。

- [リセット (Reset)] : 電話機をリセット (電源をオン / オフ) します。
- [リスタート (Restart)] : 電源のオン / オフをせずに電話機をリセットします。
- [設定の適用 (Apply Config)] : 最後のリセット以降に変更された設定のみをリセットします。

ステップ 8 [ジョブ情報 (Job Information)] 領域に、ジョブの説明を入力します。

ステップ 9 電話機レコードを即座に挿入するには、[今すぐ実行 (Run Immediately)] オプション ボタンをクリックします。電話機レコードを後で挿入するには、[後で実行 (Run Later)] をクリックします。

ステップ 10 電話機レコードを挿入するジョブを作成するには、[送信 (Submit)] をクリックします。

ステップ 11 このジョブのスケジュールやアクティブ化を行うには、[ジョブスケジューラ (Job Scheduler)] ウィンドウを使用します。

ジョブの詳細については、[第 82 章「ジョブのスケジュール」](#) を参照してください。

ログ ファイルの詳細については、「[BAT ログ ファイル](#)」(P.83-3) を参照してください。

追加情報

「[関連項目](#)」(P.11-4) を参照してください。

カスタムファイルを使用した電話機のリセットまたは再起動

テキスト エディタを使用して、リセットまたは再起動する電話機のカスタム ファイルを作成できます。カスタム ファイルのデバイス名または電話番号のいずれかを使用できます。

始める前に

1. リセットまたは再起動する電話機について次の詳細のいずれかを記載するテキスト ファイルを作成します。
 - デバイス名
 - 説明
 - 電話番号
2. テキスト ファイルで 1 行に 1 項目ずつ配置します。
3. ファイルを Cisco Unified Communications Manager の最初のノードにアップロードします。詳細については、「[ファイルのアップロード](#)」(P.2-3) を参照してください。

カスタム ファイルに記載されている電話機をリセットまたは再起動する手順は、次のとおりです。

手順

-
- ステップ 1** [一括管理 (Bulk Administration)] > [電話 (Phones)] > [電話のリセット/リスタート (Reset/Restart Phones)] > [カスタムファイル (Custom File)] の順に選択します。
- [電話のリセット/リスタート (カスタム) (Reset/Restart Phones Custom Configuration)] ウィンドウが表示されます。
- ステップ 2** [更新対象: 電話、検索条件:(Update Phones where)] ドロップダウン リスト ボックスで、作成したカスタム ファイルのタイプを次のいずれかの条件から選択します。
- [デバイス名 (Device Name)]
 - [電話番号 (Directory Number)]
 - [説明 (Description)]
- ステップ 3** カスタム ファイルのリストで、この更新用のカスタム ファイルのファイル名を選択します。
-
-  **注意** クエリー テキストボックスに情報を何も入力しないと、すべての電話機がリセットまたは再起動されます。
-
- ステップ 4** [検索 (Find)] をクリックします。
- ステップ 5** 次のオプションのいずれかをクリックします。
- [リセット (Reset)] : 電話機をリセット (電源をオン/オフ) します。
 - [リスタート (Restart)] : 電源のオン/オフをせずに電話機をリセットします。
 - [設定の適用 (Apply Config)] : 最後のリセット以降に変更された設定のみをリセットします。
- ステップ 6** [ジョブ情報 (Job Information)] 領域に、ジョブの説明を入力します。
- ステップ 7** 電話機レコードを即座に挿入するには、[今すぐ実行 (Run Immediately)] オプション ボタンをクリックします。電話機レコードを後で挿入するには、[後で実行 (Run Later)] をクリックします。
- ステップ 8** 電話機レコードを挿入するジョブを作成するには、[送信 (Submit)] をクリックします。

■ 関連項目

ステップ 9 このジョブのスケジュールやアクティブ化を行うには、[ジョブスケジューラ (Job Scheduler)] ウィンドウを使用します。

ジョブの詳細については、[第 82 章「ジョブのスケジュール」](#)を参照してください。

ログ ファイルの詳細については、「[BAT ログ ファイル \(P.83-3\)](#)」を参照してください。

追加情報

「[関連項目 \(P.11-4\)](#)」を参照してください。

関連項目

- 「[クエリーを使用した電話機のリセットまたは再起動 \(P.11-1\)](#)」
- 「[カスタム ファイルを使用した電話機のリセットまたは再起動 \(P.11-3\)](#)」



CHAPTER 12

電話機レポートの生成

Cisco Unified Communications Manager 一括管理 (BAT) には、レコードを効率的に管理するためのレポート機能があります。レポートを作成し、保存して、電話機、ユーザ、ユーザ デバイス プロファイル、マネージャとアシスタント、およびゲートウェイ レコードについての情報を利用できます。これらのレポートは、ファイル名を指定して保存できます。また、最初のノード サーバ上のフォルダに格納して再表示および印刷できます。

デバイス フィールドおよび回線フィールドの一覧から項目を選択して、特定のニーズに適合するように、電話機およびユーザ デバイス プロファイルについて BAT レポートをカスタマイズできます。レポート内のフィールドの整列方法を選択することもできます。レポートは CSV ファイル形式で生成されます。ユーザ、マネージャ、アシスタント、およびゲートウェイのレポートは固定形式であるため、カスタマイズできません。

例

電話機モデル別に、自動転送先を持つすべての電話番号の一覧が必要です。Cisco Unified IP Phone 7960 の電話機レポートを生成して、クエリー詳細 ([Device Name]、[Directory Number]、[Forward Busy Destination]、[Forward No Answer Destination]、および [Label]) を選択できます。レポート フィールドを整理して、[Label] フィールドが [Directory Number] フィールドの後ろ、2 つの自動転送先番号の前に位置するように調整できます。

追加情報

[「関連項目」\(P.12-7\)](#) を参照してください。

電話機のレポートの生成

電話機および他の IP テレフォニー デバイスのレポートを生成する手順は、次のとおりです。

手順

- ステップ 1** [一括管理 (Bulk Administration)] > [電話 (Phones)] > [電話レポートの作成 (Generate Phone Reports)] の順に選択します。
[電話の検索と一覧表示 (Find and List Phones)] ウィンドウが表示されます。
- ステップ 2** 最初の [検索対象: 電話、検索条件:(Find Phone where)] ドロップダウン リスト ボックスで、クエリー対象のフィールド ([デバイス名 (Device Name)] や [電話番号 (Directory Number)] など) を選択します。
- ステップ 3** 2 番目のドロップダウン リスト ボックスで、[が次の文字列で始まる (begins with)]、[が次の文字列を含む (contains)]、[が空である (is empty)] などの検索条件を選択します。

ステップ 4 検索フィールドまたはリストボックスで、検索する値（たとえば、リストからのモデル名または電話番号範囲）を選択するか、入力します。

ステップ 5 必要に応じて、適切な検索テキストを指定します。



ヒント データベースに登録されているすべての電話機についてレポートを生成するには、検索テキストを入力せずに [検索 (Find)] をクリックします。

ステップ 6 クエリーをさらに定義する場合や、複数のフィルタを追加する場合は、[絞り込み (Search Within Results)] チェックボックスをオンにし、ドロップダウンボックスから [AND] または [OR] を選択して、ステップ 2 ~ 5 を繰り返します。

ステップ 7 [検索 (Find)] をクリックします。

検索された電話機のリストが表示されます。

ステップ 8 レポートのタイプについての詳細を選択する場合は、[次へ (Next)] をクリックします。[電話レポートの作成 (Generate Phone Report Configuration)] ウィンドウが表示されて、選択したクエリーを表示します。クエリーのタイプを変更する場合は、[戻る (Back)] をクリックします。

ステップ 9 [レポートファイル名 (Report File Name)] フィールドに、このレポートの名前を入力します（必須）。

ステップ 10 使用可能な [デバイスフィールド (Device Fields)] ドロップダウンリストボックスでデバイス項目を選択し、矢印をクリックして項目をこのレポートリストの [選択済みのフィールド (Selected Fields)] に移動します。レポートに含めるフィールドは複数選択できます。デバイスフィールドおよび回線フィールドについては、「電話機および IP テレフォニー デバイスのレポート」(P.12-3) を参照してください。

ステップ 11 このレポートリストの [選択済みのデバイスフィールド (Selected Device Fields)] 内の項目の順序を変更するには、項目を選択し、上向き矢印または下向き矢印をクリックして項目をリスト内の別の位置に移動します。

ステップ 12 使用可能な [回線フィールド (Line Fields)] ドロップダウンリストボックスで回線項目を選択し、矢印をクリックして項目をこのレポートリストの [選択済みのフィールド (Selected Fields)] に移動します。レポートに含めるフィールドは複数選択できます。

ステップ 13 このレポートリストの [選択済みの回線フィールド (Selected Line Fields)] 内の回線項目の順序を変更するには、項目を選択し、上向き矢印または下向き矢印をクリックして項目をリスト内の別の位置に移動します。



(注) レポートを生成するには、少なくとも 1 つのデバイスフィールドまたは回線フィールドを指定する必要があります。

ステップ 14 レポートに IP Phone サービスのフィールドを追加するには、[スピードダイヤルサービス (Speed Dial Services)] チェックボックスまたは [IP Phone サービス (IP Phone Services)] チェックボックス（あるいはその両方）をオンにします。

ステップ 15 [ジョブ情報 (Job Information)] 領域に、ジョブの説明を入力します。

ステップ 16 レポートを即座に生成するには、[今すぐ実行 (Run Immediately)] オプション ボタンをクリックします。レポートを後で生成するには、[後で実行 (Run Later)] をクリックします。

ステップ 17 電話機レコードを挿入するジョブを作成するには、[送信 (Submit)] をクリックします。

ステップ 18 このジョブのスケジュールやアクティブ化を行うには、[ジョブスケジューラ (Job Scheduler)] ウィンドウを使用します。

ジョブの詳細については、[第 82 章「ジョブのスケジュール」](#) を参照してください。

ログ ファイルの詳細については、「[BAT ログ ファイル](#)」(P.83-3) を参照してください。

レポート ファイルは、[一括管理 (Bulk Administration)] メニューの [ファイルのアップロード/ダウンロード (Upload/Download Files)] オプションを使用して検索またはダウンロードできます。詳細については、[第 2 章「ファイルのアップロードとダウンロード」](#) を参照してください。

追加情報

「[関連項目](#)」(P.12-7) を参照してください。

電話機および IP テレフォニー デバイスのレポート

すべての電話機および IP テレフォニー デバイスの電話機レポートを作成できます。また、次のオプションのうち 1 つに限定したレポートを作成できます。

- [デバイス名 (Device Name)] : フィルタまたは正確な名前を指定します。
- [説明 (Description)] : フィルタまたは正確な説明を指定します。
- [デバイスプール (Device Pool)] : クラスタに設定されているデバイス プールのリストから 1 つを選択します。
- [コーリングサーチスペース (Calling Search Space)] : クラスタに設定されている CSS のリストから 1 つを選択します。
- [電話番号 (Directory Number)] : フィルタまたは正確な番号を指定します。

電話機レポート タイプを選択したら、レポートに組み込む対象のデバイスおよび回線の詳細を選択できます。

次のデバイス フィールドから選択できます。

- [AAR Calling Search Space]
- [AAR Neighborhood]
- [Authentication String]
- [Built In Bridge]
- [Calling Search Space]
- [CSS Reroute]
- [Certificate Operation]
- [Certificate Status]
- [Common Profile]
- [Country]
- [Description]
- [Device Name]
- [Device Pool]
- [Device Profile]

- [Device Protocol]
- [Device_Default Profile]
- [Dial Rules]
- [LastLogin User ID]
- [Load Information]
- [Location]
- [Login Duration]
- [Login Time]
- [MLPP Domain]
- [MLPP Indication]
- [Media Resource List]
- [Model]
- [Network Hold MOH Audio Source ID]
- [Network Location]
- [Packet Capture Duration]
- [Packet Capture Mode]
- [Phone Template]
- [Preemption]
- [Privacy]
- [Product]
- [Public Key]
- [Qsig]
- [SIP Profile]
- [Secure Shell Password]
- [Secure Shell User ID]
- [Security Profile]
- [Softkey Template]
- [Upgrade Finish Time]
- [User ID]
- [Geo Location]
- [Always Use Prime Line]
- [Always Use Prime Line for Voice Message]

次の回線フィールドから選択できます。

- [Alerting Name]
- [Auto Answer]
- [CSS_Device Failure]
- [CSS_mwi]
- [Call Forward duration]

- [Calling Line Presentation Bit]
- [Calling Name Presentation Bit]
- [Calling Party Prefix Digits]
- [Connected Line Presentation Bit]
- [Connected Name Presentation Bit]
- [Device Failure DN]
- [Directory Number]
- [Forward All CSS]
- [CSS (Forward Busy External)]
- [Forward Busy Internal CSS]
- [CSS (Forward No Answer External)]
- [Forward No Coverage Internal CSS]
- [CSS (Forward On Failure)]
- [Forward No Coverage External CSS]
- [Forward No Coverage Internal CSS]
- [Forward All Destination]
- [Forward Busy External Destination]
- [Forward Busy Internal Destination]
- [Forward No Answer External Destination]
- [Forward No Answer Internal Destination]
- [Forward on Failure Destination]
- [Forward No Coverage External Destination]
- [Forward No Coverage Internal Destination]
- [Forward on CTI Failure CSS]
- [Line AAR Neighborhood]
- [Line Alerting Name ASCii]
- [Line Description]
- [Line Network Hold MOH Audio Source ID]
- [MLPP No Answer Ring Duration (Seconds)]
- [Route Partition]
- [Secondary Call Forward All CSS]
- [Target CSS]
- [Target Destination]
- [User Hold MOH Audio Source ID]
- [Party Entrance Tone]
- [Log Missed Calls]
- [Park Monitor Forward No Retrieve External Destination]
- [Park Monitor Forward No Retrieve Internal Destination]

- [Park Monitor Forward No Retrieve Internal Voice Mail]
- [Park Monitor Forward No Retrieve External Voice Mail]
- [Park Monitor Forward No Retrieve External CSS]
- [Park Monitor Forward No Retrieve Internal CSS]
- [Park Monitor Reversion Timer]

追加情報

「関連項目」(P.12-7) を参照してください。

ダミー MAC アドレスを使用する電話機リストの作成

ダミー MAC アドレスを使用している電話機のリストを生成する手順は、次のとおりです。

手順

-
- ステップ 1** [一括管理 (Bulk Administration)] > [電話 (Phones)] > [電話レポートの作成 (Generate Phone Reports)] の順に選択します。
- [電話の検索と一覧表示 (Find and List Phones)] ウィンドウが表示されます。
- ステップ 2** 最初の [検索対象: 電話、検索条件:(Find Phone(s) where)] ドロップダウン リスト ボックスで、[デバイス名 (Device Name)] を選択します。
- ステップ 3** 2 番目のドロップダウン リスト ボックスで、[が次の文字列で始まる (begins with)] を選択します。
- ステップ 4** テキスト フィールドに、**BAT** と入力します。ダミー MAC アドレスを使用して追加されたすべての電話機のデバイス名は、先頭が **BAT** で始まります。
- ステップ 5** [検索 (Find)] をクリックします。「BAT」で始まるテキストのデバイス名がクエリー テキストボックスに表示されます。
- ステップ 6** [次へ (Next)] をクリックします。[電話レポートの作成 (Generate Phone Report Configuration)] ウィンドウが表示されます。
- ステップ 7** 電話機のレポートの生成手順の **ステップ 9** に進んで、レポートを完成します。
-

追加情報

「関連項目」(P.12-7) を参照してください。

レポート ログ ファイルの表示

レポート トランザクションごとにログ ファイルが生成され、Cisco Unified Communications Manager サーバの最初のノードに格納されます。このジョブのログ ファイルへのリンクは、このジョブの [ジョブスケジューラ (Job Scheduler)] ウィンドウにあります。詳細については、[第 82 章「ジョブのスケジューラ」](#) を参照してください。

追加情報

「関連項目」(P.12-7) を参照してください。

関連項目

- 「電話機のレポートの生成」(P.12-1)
- 「電話機および IP テレフォニー デバイスのレポート」(P.12-3)
- 「ダミー MAC アドレスを使用する電話機リストの作成」(P.12-6)
- 「レポート ログ ファイルの表示」(P.12-6)



CHAPTER 13

電話機の移行

Cisco Unified Communications Manager 一括管理 (BAT) を使用すると、一連の電話機を Skinny Client Control Protocol (SCCP) から Session Initiation Protocol (SIP) に移行することができます。

SSCP から SIP への電話機の移行

電話機を移行する手順は、次のとおりです。

手順

- ステップ 1** [一括管理 (Bulk Administration)] > [電話 (Phones)] > [電話の移行 (Migrate Phones)] > [SCCP から SIP(SCCP to SIP)] の順に選択します。
- [電話の移行 -SCCP から SIP(Migrate Phones - SCCP TO SIP)] ウィンドウが表示されます。



(注) SCCP を実行している電話機の SIP への移行では、移行時に電話機がリセットされるので、手動リセットは必要ありません。

- ステップ 2** 最初の [検索対象: 電話、検索条件:(Find Phone where)] ドロップダウン リストボックスで、次のいずれかの検索条件を選択します。
- [デバイス名 (Device Name)]
 - [説明 (Description)]
 - [電話番号 (Directory Number)]
 - [コーリングサーチスペース (Calling Search Space)]
 - [デバイスプール (Device Pool)]
 - [デバイスタイプ (Device Type)]
 - [コールピックアップグループ (Call Pickup Group)]
 - [LSC ステータス (LSC Status)]
 - [認証文字列 (Authentication String)]
 - [ロケーション (Location)]
 - [電話ロード名 (Phone Load Name)]
 - [セキュリティプロファイル (Security Profile)]

ステップ 3 2 番目の [検索対象: 電話、検索条件:(Find Phone where)] ドロップダウン リストボックスで、次のいずれかの検索条件を選択します。

- [が次の文字列で始まる (begins with)]
- [が次の文字列を含む (contains)]
- [が次の文字列と等しい (is exactly)]
- [が次の文字列で終わる (ends with)]
- [が空である (is empty)]
- [が空ではない (is not empty)]

ステップ 4 必要に応じて、適切な検索テキストを指定します。



ヒント

データベースに登録されているすべての電話機を検索するには、検索テキストを入力せずに [検索 (Find)] をクリックします。

ステップ 5 さらにクエリーを定義するには、[絞り込み 使用 (Search Within Results Using)] ドロップダウン リストボックスに対応するチェックボックスをオンにします。[AND] または [OR] を選択して、複数のフィルタを追加できます。ステップ 2 ~ 4 の手順を繰り返します。

ステップ 6 [検索 (Find)] をクリックします。

検索された電話機のリストが、次の項目別に表示されます。

- [デバイス名 (Device Name)]
- [説明 (Description)]
- [デバイスプール (Device Pool)]
- [デバイスプロトコル (Device Protocol)]
- [ステータス (Status)]
- [IP アドレス (IP Address)]

ステップ 7 [次へ (Next)] をクリックします。

ステップ 8 ドロップダウン リスト ボックスから電話機テンプレートを選択します。



(注) SSCP から SIP への移行では、テンプレートにある SIP に固有のデフォルト値だけが移行時に処理されます。テンプレートの他の値は処理されません。

ステップ 9 [ジョブ情報 (Job Information)] 領域に、ジョブの説明を入力します。

ステップ 10 電話機レコードを即座に移行するには、[今すぐ実行 (Run Immediately)] オプション ボタンをクリックします。後で移行するには、[後で実行 (Run Later)] をクリックします。

ステップ 11 電話機レコードを移行するジョブを作成するには、[送信 (Submit)] をクリックします。



(注) SSCP から SIP へ電話を移行するためのジョブを送信した後、必ずこれらの電話をリセットします。[一括管理 (Bulk Administration)] > [電話 (Phones)] > [電話のリセット/リスタート (Reset/Restart Phones)] > [クエリー (Query)] の順に選択します。詳細については、「クエリーを使用した電話機のリセットまたは再起動」(P.11-1) を参照してください。

- ステップ 12** このジョブのスケジュールやアクティブ化を行うには、[一括管理 (Bulk Administration)] メインメニューの [ジョブスケジューラ (Job Scheduler)] オプションを使用します。
- ジョブの詳細については、[第 82 章「ジョブのスケジュール」](#) を参照してください。
- ログ ファイルの詳細については、[「BAT ログ ファイル」 \(P.83-3\)](#) を参照してください。
-

追加情報

[「関連項目」 \(P.13-3\)](#) を参照してください。

関連項目

- [「SSCP から SIP への電話機の移行」 \(P.13-1\)](#)
- [「キューリーを使用した電話機のリセットまたは再起動」 \(P.11-1\)](#)
- [ジョブのスケジュール](#)



CHAPTER 14

インターコムの追加と更新

インターコム機能を使用すると、ユーザが別のユーザへコールしたときに、着信側がビジー状態かアイドル状態かにかかわらず、発信側から着信側への一方向メディアを使用して、そのコールに自動的に応答させることができます。

インターコムの追加/更新ユーティリティを使用すると、Cisco Unified Communications Manager サーバにインターコムを一括して追加または更新することができます。インターコムを追加または更新する手順は、次のとおりです。

- 「インターコムの DN の更新」 (P.14-1)
- 「インターコムの DN の追加」 (P.14-2)

インターコムの DN の更新



(注)

- 電話機のインターコムの DN を更新するには、[一括管理 (Bulk Administration)] > [電話 (Phones)] > [インターコムの追加/更新 (Add/Update Intercom)] > [インターコムの DN の更新 (Update Intercom DN)] の順に選択します。[インターコム電話番号の更新 (Update Intercom Directory Number)] ウィンドウが表示されます。
- ユーザ デバイス プロファイルのインターコムの DN を更新するには、[一括管理 (Bulk Administration)] > [ユーザデバイスプロファイル (User Device Profiles)] > [インターコムの追加/更新 (Add/Update Intercom)] > [インターコムの DN の更新 (Update Intercom DN)] の順に選択します。[インターコム電話番号の更新 (Update Intercom Directory Number)] ウィンドウが表示されます。

インターコムの DN を更新する手順は、次のとおりです。

手順

ステップ 1

最初の [検索対象: 更新するインターコム電話番号の検索と一覧表示、検索条件:(Find and List Intercom Directory Numbers To Update where)] ドロップダウン リスト ボックスで、次のいずれかの検索条件を選択します。

- [インターコム電話番号 (Intercom Directory Number)]
- [ルートパーティション (Route Partition)]
- [説明 (Description)]

- ステップ 2** 2 番目の [検索対象: 更新するインターコム電話番号の検索と一覧表示、検索条件:(Find and List Intercom Directory Numbers To Update where)] ドロップダウン リスト ボックスで、次のいずれかの検索条件を選択します。
- [が次の文字列で始まる (begins with)]
 - [が次の文字列を含む (contains)]
 - [が次の文字列で終わる (ends with)]
 - [が次の文字列と等しい (is exactly)]
 - [が空である (is empty)]
 - [が空ではない (is not empty)]

- ステップ 3** 必要に応じて、テキスト フィールドに適切な検索テキストを指定します。



ヒント データベースに登録されているすべてのインターコムの DN を検索するには、検索テキストを入力せずに [検索 (Find)] をクリックします。

- ステップ 4** クエリーをさらに定義するには、[AND] または [OR] を選択して複数のフィルタを追加し、ステップ 1 ~ 2 の手順を繰り返します。

- ステップ 5** [検索 (Find)] をクリックします。

検索されたインターコムの DN のリストが、次の項目別に表示されます。

- [インターコムの DN/ パターン (Intercom DN Pattern)]
- [ルートパーティション (Route Partition)]
- [説明 (Description)]

- ステップ 6** [次へ (Next)] をクリックします。次の [インターコム電話番号の更新 (Update Intercom Directory Number)] ウィンドウが表示されます。

- ステップ 7** クエリーで定義したすべてのレコードに対して、更新する設定値を指定します。更新するパラメータは複数選択できます。パラメータの説明については、「[インターコムの DN を更新する場合のフィールドの説明](#)」(P.14-3) を参照してください。

追加情報

「[関連項目](#)」(P.14-4) を参照してください。

インターコムの DN の追加

インターコムの DN を Cisco Unified Communications Manager サーバに追加する手順は、次のとおりです。

始める前に

- 電話機または他の IP テレフォニー デバイスに固有の詳細を含むカンマ区切り値 (CSV) 形式のデータ ファイルが必要です。
- トランザクションのための該当ターゲットと機能を選択してデータ ファイルをアップロードします。

手順

- ステップ 1** [一括管理 (Bulk Administration)] > [電話 (Phones)] > [インターコムの追加/更新 (Add/Update Intercom)] > [インターコムの DN の追加 (Add Intercom DN)] の順に選択します。[UDP インターコム DN の一括挿入 (Bulk UDP Intercom DN Insert)] ウィンドウが表示されます。
- ステップ 2** [ファイル名 (File Name)] ドロップダウン リスト ボックスで、この固有のバルク トランザクション用に作成した CSV データ ファイルを選択します。
- ステップ 3** [電話機テンプレート名 (Phone Template Name)] ドロップダウン リスト ボックスで、このタイプのバルク トランザクション用に作成した BAT 電話機テンプレートを選択します。
- ステップ 4** [設定の上書き (Override Configuration Settings)] チェックボックスをオンにすると、既存の電話機ボタン テンプレートの設定が、挿入するファイルに含まれている情報によって上書きされます。既存の設定の上書きはオプションです。
- ステップ 5** [ジョブ情報 (Job Information)] 領域に、ジョブの説明を入力します。
このトランザクションのデフォルトのジョブの説明は、「インターコムの DN の挿入」です。
- ステップ 6** インターコムの DN を即座に追加するには [今すぐ実行 (Run Immediately)] オプション ボタンをクリックします。後で追加するには、[後で実行 (Run Later)] をクリックします。
- ステップ 7** インターコムの DN を追加するジョブを作成するには、[送信 (Submit)] をクリックします。
- ステップ 8** このジョブのスケジュールやアクティブ化を行うには、[一括管理 (Bulk Administration)] メインメニューの [ジョブスケジューラ (Job Scheduler)] オプションを使用します。
ジョブの詳細については、[第 82 章「ジョブのスケジュール」](#) を参照してください。
ログ ファイルの詳細については、「[BAT ログ ファイル](#)」(P.83-3) を参照してください。

インターコムの DN を更新する場合のフィールドの説明

表 14-1 では、回線の詳細を更新する場合のフィールドについて説明します。

表 14-1 インターコムの DN の詳細を更新する場合のフィールドの説明

フィールド	説明
[インターコム電話番号情報 (Intercom Directory Number Information)]	
[ルートパーティション (Route Partition)]	電話番号が属するルート パーティションを選択します。 (注) 電話番号は複数のパーティションに現れる可能性があります。
[説明 (Description)]	デバイスを識別しやすくする説明を入力します。説明には、任意の言語で最大 50 文字を指定できますが、二重引用符 (")、パーセント記号 (%)、アンパサンド (&)、または山カッコ (<>) は使用できません。
[呼び出し表示 (Alerting Name)]	共有電話番号に対するアラート中に表示される名前を表します。非共有電話番号の場合、アラート時には [表示 (Display)] フィールドに入力された名前が使用されます。

表 14-1 インターコムの DN の詳細を更新する場合のフィールドの説明

フィールド	説明
[インターコム電話番号情報 (Intercom Directory Number Information)]	
[ASCII 呼び出し表示 (ASCII Alerting Name)]	このフィールドには、[呼び出し表示 (Alerting Name)] フィールドと同じ情報が表示されますが、入力を ASCII 文字に制限する必要があります。Unicode (国際化) 文字をサポートしないデバイスでは、[ASCII 呼び出し表示 (ASCII Alerting Name)] フィールドの内容が表示されます。
[インターコム電話番号の設定 (Intercom Directory Number Settings)]	
[コーリングサーチスペース (Calling Search Space)]	このグループの電話機またはポートが属するコーリングサーチスペースを選択します。 コーリングサーチスペースは、ルートパーティションの集合を指定するものです。ルートパーティションの集合は、ダイヤルされた番号のルーティング方法を決定するために検索されます。
[プレゼンスグループ (Presence Group)]	プレゼンス機能で使用すると、SIP または SCCP を実行する電話機は、BLF スピードダイヤル ボタンとして電話機に設定されたプレゼンス エンティティに関するステータス (たとえば、電話番号) を要求するので、ウォッチャーとして機能します。 電話機によってプレゼンス エンティティのステータスを受信するには、電話番号に適用されるプレゼンスグループのステータスを [プレゼンスグループの設定 (Presence Group Configuration)] ウィンドウに示されるとおり表示するよう許可されているプレゼンスグループを選択します。 プレゼンス機能の詳細については、『Cisco Unified Communications Manager 機能およびサービス ガイド』を参照してください。

追加情報

「関連項目」(P.14-4) を参照してください。

関連項目

- 「インターコムの DN の更新」(P.14-1)
- 「インターコムの DN の追加」(P.14-2)
- 「インターコムの DN を更新する場合のフィールドの説明」(P.14-3)



PART 4

ユーザ



CHAPTER 15

ユーザの追加

Cisco Unified Communications Manager 一括管理 (BAT) を使用すると、Cisco Unified Communications Manager データベースで新しいユーザのグループを追加し、ユーザを電話機や他の IP テレフォニー デバイスに関連付けることができます。



(注)

社内ディレクトリを使用しており、Lightweight Directory Access Protocol (LDAP) 同期が有効である (Cisco Unified Communications Manager の管理ページで [システム (System)] > [LDAP] > [LDAP システム (LDAP System)] の順に選択) 場合は、BAT を使用してパスワードをリセットしたり、ユーザを挿入/更新または削除したりすることはできません。LDAP の詳細については、『*Cisco Unified Communications Manager アドミニストレーションガイド 7.0*』を参照してください。

この章では、ユーザの一括処理について説明します。

次のトピックでは、ユーザ レコードを管理する方法について説明します。また、電話機とユーザ、または CTI ポートとユーザ レコードなどの、Cisco Unified Communications Manager LDAP データベース内のユーザの組み合わせを一括管理する方法について説明します。

- 「ユーザの追加」 (P.15-1)
- 「ユーザ レコードのエクスポート」 (P.20-1)
- 「ユーザ レポートの生成」 (P.22-1)

ユーザの追加

複数のユーザを Cisco Unified Communications Manager データベースに一括して追加する手順は、次のとおりです。

1. カンマ区切り値 (CSV) データ ファイルを作成して、追加するユーザごとに個々の値を定義します。
 - 詳細については、「[BAT スプレッドシートを使用したユーザ用 CSV データ ファイルの作成](#)」 (P.15-2) を参照してください。
 - ユーザ用のテキストベース CSV データ ファイルの作成方法については、「[ユーザ用のテキストベース CSV ファイルの作成](#)」 (P.A-7) を参照してください。
2. BAT を使用して、Cisco Unified Communications Manager データベースにユーザを挿入します。詳細については、「[Cisco Unified Communications Manager へのユーザの挿入](#)」 (P.17-1) を参照してください。



(注) 追加するユーザに Cisco IP SoftPhone などの CTI ポートを必要とするアプリケーションがある場合、BAT を使用して CTI ポートを既存のユーザに関連付けられます。

追加情報

「関連項目」(P.15-5) を参照してください。

BAT スプレッドシートを使用したユーザ用 CSV データ ファイルの作成

Cisco Unified Communications Manager データベースに新しいユーザを追加するために詳細を BAT スプレッドシートに記述した後、それを CSV データ ファイルに変換できます。

BAT スプレッドシートのインストール方法と使用方法については、「[BAT スプレッドシートをデータ収集に使用する方法](#)」(P.1-9) を参照してください。

新しいユーザを一括して追加するための CSV データ ファイルを作成する手順は、次のとおりです。

手順

- ステップ 1** BAT スプレッドシートを開くには、**BAT.xlt** ファイルを検索し、それをダブルクリックします。
- ステップ 2** プロンプトが表示されたら、[マクロを有効にする] ボタンをクリックして、スプレッドシート機能を使用します。
- ステップ 3** ユーザを追加するには、スプレッドシートの下部にある [Users] タブをクリックします。
- ステップ 4** すべての必須フィールド、および該当するオプションフィールドに値を入力します。各カラムの見出しは、フィールドの長さ、およびそのフィールドが必須かオプションかを指定しています。
各行に、表 15-1 で説明されている情報を指定します。ユーザが複数のデバイスを持つ場合、デバイス名フィールドは各デバイスに 1 つずつ設定します。

表 15-1 ユーザ追加用の BAT スプレッドシート内のフィールドの説明

フィールド	説明
[First Name]	電話機ユーザの名を 64 文字以内で入力します。
[Middle Name]	電話機ユーザのミドルネームを 64 文字以内で入力します。
[Last Name]	電話機ユーザの姓を 1 ~ 64 文字で入力します。
[User ID]	電話機ユーザのユーザ ID を 1 ~ 128 文字で入力します。
[Password]	Cisco IP Phone 設定ウィンドウへのアクセス時にユーザが使用するパスワードを 128 文字以内で入力します。 パスワードは、CSV データ ファイルに指定する必要があります。または、ユーザ テンプレートを追加するときに BAT ユーザ インターフェイスを使用して指定する必要があります。ユーザまたはユーザのグループごとに個別のパスワードを適用する場合は、CSV データ ファイルでパスワード情報を指定してください。すべてのユーザにデフォルトのパスワードを使用する場合は、BAT 内でユーザを挿入するときにデフォルトのパスワードを設定します。

表 15-1 ユーザ追加用の BAT スプレッドシート内のフィールドの説明 (続き)

フィールド	説明
[Manager User ID]	電話機ユーザのマネージャのユーザ ID を 128 文字以内で入力します。
[Department]	電話機ユーザの所属部門番号を 64 文字以内で入力します。
[PIN]	エクステンション モビリティで使用される Personal Identification Number (PIN; 個人識別番号) を 128 桁以内の数値で入力します。 PIN は、CSV データ ファイルに指定する必要があります。または、ユーザ テンプレートを追加するときに BAT ユーザ インターフェイスを使用して入力する必要があります。ユーザまたはユーザのグループごとに個別の PIN を適用する場合は、CSV データ ファイルで PIN を指定します。すべてのユーザが使用できるデフォルト PIN を使用するには、BAT にユーザを挿入するときにデフォルト PIN を指定します。
[Default Profile]	このユーザとデバイス用のユーザ デバイス プロファイルを、50 文字以内で入力します。ユーザ デバイス プロファイルは、BAT に表示される Cisco Unified Communications Manager の管理ページ内の既存の UDP のリストから選択できます。
[User Locale]	このユーザに関連付ける言語と国/地域を 50 文字以内で入力します。この選択内容によって、言語やフォントを含むロケール属性のどれをこのユーザに適用するか、および Cisco Unified Communications Manager のユーザ ウィンドウと電話機をどの言語で表示するかが決まります。
[Controlled Device 1]	このユーザに関連付ける電話機またはデバイスの名前を 50 文字以内で入力します。 (注) スプレッドシートの右端の [Number of Controlled Devices] フィールドをゼロより大きい数に設定すると、[Controlled Device] フィールドが表示されます。
[Telephone Number]	電話機のプライマリ内線 (通常は回線 1) の電話番号を 64 桁以内の数値で入力します。
[Primary Extension]	このフィールドは、ユーザが追加され、ユーザのプライマリ データベース番号が設定された後に表示されます。デバイスをユーザに割り当てる場合は、プライマリ回線を選択しません。ユーザは、電話機に複数の回線を接続できます。
[Associated PC]	このフィールドは、Cisco SoftPhone および Cisco Unified Communications Manager Attendant Console のユーザに必須のフィールドであり、ユーザが追加されると表示されます。
[IPCC Extension]	ドロップダウン リスト ボックスから、このエンドユーザの ICD 内線を選択します。
[Mail ID]	エンド ユーザの電子メール アドレスを 255 文字以内で入力します。

表 15-1 ユーザ追加用の BAT スプレッドシート内のフィールドの説明 (続き)

フィールド	説明
[Controlled Device 2]	<p>このユーザに関連付ける追加の電話機の名前を 50 文字以内で入力します。</p> <p>(注) スプレッドシートの右端の [Number of Controlled Devices] フィールドをゼロより大きい数に設定すると、[Controlled Device] フィールドが表示されます。</p> <p>(注) まず、[Controlled Device 1] フィールドに値を入力してから Controlled Device エントリを追加する必要があります。</p>
[Presence Group]	<p>データベース番号、プレゼンス エンティティのステータスを監視するプレゼンス グループを入力します。</p> <p>プレゼンス機能については、『Cisco Unified Communications Manager 機能およびサービス ガイド』を参照してください。</p>
[SUBSCRIBE Calling Search Space]	<p>Cisco Unified Communications Manager の管理ページで設定したすべてのコーリング サーチ スペースが、[SUBSCRIBE コーリング サーチスペース (SUBSCRIBE Calling Search Space)] ドロップダウン リスト ボックスに表示されます。</p> <p>[SUBSCRIBE コーリングサーチスペース (SUBSCRIBE Calling Search Space)] は、エンドユーザからのプレゼンスの SUBSCRIBE 要求を Cisco Unified Communications Manager がルーティングする方法を決定します。特にこの目的のためにコーリング サーチ スペースを設定するには、他のすべてのコーリング サーチ スペースと同様にコーリング サーチ スペースを設定します ([コールルーティング (Call Routing)] > [コントロールのクラス (Class Control)] > [コーリングサーチスペース (Calling Search Space)])。</p> <p>コーリングサーチ スペースの設定方法については、『Cisco Unified Communications Manager アドミニストレーション ガイド』を参照してください。</p>
[Digest Credentials]	<p>SIP を実行している電話機にダイジェスト認証を設定すると、電話機が Cisco Unified Communications Manager に SIP 要求を送信するたびに、Cisco Unified Communications Manager が電話機の身元を確認します。このフィールドに入力されたダイジェスト信用証明書は、[電話の設定 (Phone Configuration)] ウィンドウでダイジェスト ユーザを選択したときに、電話機に関連付けられます。</p> <p>最大で 128 文字の英数字による文字列を入力します。</p> <p>ダイジェスト認証の詳細については、『Cisco Unified Communications Manager セキュリティ ガイド』を参照してください。</p>
[User Group]	<p>ユーザが属するユーザ グループを入力します。</p> <p>(注) スプレッドシートの右端の [Number of User Groups] フィールドをゼロより大きい数に設定すると、[User Group] フィールドが表示されます。</p>

ステップ 5 新しいユーザに関連付ける追加のデバイス名を入力するには、[Number of Controlled Devices] テキストボックスに値を入力します。



(注) CTI ポート、ATA ポート、および H.323 クライアントなど、すべてのデバイスをユーザに関連付けることができます。

ステップ 6 [Export to BAT Format] をクリックして BAT Excel スプレッドシートから CSV 形式のデータ ファイルにデータを転送します。

このファイルは C:\XLSDataFiles に保存されます。または、[Browse] を使用してファイルを別の既存フォルダに保存できます。ファイル名は次のとおりです。

<tabname>-<timestamp>.txt

ここで、<tabname> は、作成した入力ファイルのタイプ（たとえば、phones）を表し、<timestamp> は、ファイルが作成された正確な日時を表します。



(注) いずれかのフィールドにカンマを入力した場合、BAT.xlt を使用して BAT 形式にエクスポートするときに、そのフィールド エントリは二重引用符で囲まれます。

スプレッドシートに空白行を入力すると、その空の行はファイルの終わりとして扱われず。空白行の後に入力されたデータは、BAT 形式には変換されません。

CSV データ ファイルを Cisco Unified Communications Manager データベース サーバの最初のノードにアップロードして、BAT がデータ ファイルにアクセスできるようにする必要があります。詳細については、第 2 章「ファイルのアップロードとダウンロード」を参照してください。



(注) エクスポートされた CSV データ ファイルを読み取る方法については、BAT 内の [ユーザの挿入 (Insert Users Configuration)] ウィンドウで、[サンプルファイルの表示 (View Sample File)] へのリンクをクリックしてください。

追加情報

「関連項目」(P.15-5) を参照してください。

関連項目

- 「ユーザの追加」(P.15-1)
- 「ユーザ レコードのエクスポート」(P.20-1)
- 「ユーザ レポートの生成」(P.22-1)
- 「BAT ログ ファイル」(P.83-3)



CHAPTER 16

ユーザ テンプレート

Cisco Unified Communications Manager 一括管理 (BAT) ユーザ テンプレートを使用すると、共通のユーザ アトリビュートを定義して、新しいユーザのグループを追加することができます。

次のトピックを使用して、BAT ユーザ テンプレートに関する作業を行います。

- 「BAT ユーザ テンプレートの検索方法」 (P.16-1)
- 「新しい BAT ユーザ テンプレートの作成」 (P.16-2)
- 「BAT ユーザ テンプレートの変更」 (P.16-3)
- 「BAT ユーザ テンプレートのコピー」 (P.16-3)
- 「テンプレートの削除」 (P.16-4)
- 「BAT ユーザ テンプレートのフィールドの説明」 (P.16-4)

BAT ユーザ テンプレートの検索方法

複数のユーザ テンプレートに対応できるように、Cisco Unified Communications Manager では、特定の検索条件に基づいて特定のユーザ テンプレートを探し出すことができます。テンプレートを見つける手順は、次のとおりです。



(注)

ブラウザ セッションの作業中、検索/一覧表示の検索プリファレンスはクライアント マシンのクッキーに格納されます。別のメニュー項目に移動してからこのメニュー項目に戻った場合、またはブラウザを閉じてから新しいブラウザ ウィンドウを再度開いた場合、システムでは検索を変更するまで Cisco Unified Communications Manager 検索プリファレンスが保持されます。

手順

ステップ 1 [一括管理 (Bulk Administration)] > [ユーザ (Users)] > [ユーザテンプレート (User Template)] の順に選択します。

[ユーザテンプレートの検索と一覧表示 (Find and List User Templates)] ウィンドウが表示されます。2 つのドロップダウン リスト ボックスを使用して、テンプレートを検索します。

ステップ 2 最初の [検索対象: ユーザテンプレート、検索条件 (Find User Template where)] ドロップダウン リスト ボックスで、次のいずれかの検索条件を選択します。

- [ユーザテンプレート名 (User Template Name)]
- [部署名 (Department)]

2 番目の [検索対象 : ユーザテンプレート、検索条件 (Find User Template where)] ドロップダウン リスト ボックスで、次のいずれかの検索条件を選択します。

- [が次の文字列で始まる (begins with)]
- [が次の文字列を含む (contains)]
- [が次の文字列と等しい (is exactly)]
- [が次の文字列で終わる (ends with)]
- [が空である (is empty)]
- [が空ではない (is not empty)]

ステップ 3 必要に応じて、適切な検索テキストを指定し、[検索 (Find)] をクリックします。



ヒント データベースに登録されているすべてのユーザ テンプレートを検索するには、検索テキストを入力せずに [検索 (Find)] をクリックします。

検索されたテンプレートのリストが、次の項目別に表示されます。

- [ユーザテンプレート (User Template)]
- [部署名 (Department)]

ステップ 4 レコードのリストから、検索条件に一致するユーザ テンプレートをクリックします。
選択したユーザ テンプレートがウィンドウに表示されます。

追加情報

「[関連項目](#)」(P.16-7) を参照してください。

新しい BAT ユーザ テンプレートの作成

新しいユーザ テンプレートを作成する手順は、次のとおりです。

手順

- ステップ 1** [一括管理 (Bulk Administration)] > [ユーザ (Users)] > [ユーザテンプレート (User Template)] の順に選択します。
[ユーザテンプレートの検索と一覧表示 (Find and List User Templates)] ウィンドウが表示されます。
- ステップ 2** [新規追加 (Add New)] をクリックします。[ユーザテンプレートの設定 (User Template Configuration)] ウィンドウが表示されます。
- ステップ 3** このグループのユーザに共通するユーザ設定を入力します。詳細については、「[BAT ユーザ テンプレートのフィールドの説明](#)」(P.16-4) を参照してください。
- ステップ 4** [保存 (Save)] をクリックします。
ユーザ テンプレートをデータベースに追加すると、トランザクションが完了したことを示すステータスが表示されます。

追加情報

「[関連項目](#)」(P.16-7) を参照してください。

BAT ユーザ テンプレートの変更

既存のユーザ テンプレートを表示または修正する手順は、次のとおりです。

手順

-
- ステップ 1** 「[BAT ユーザ テンプレートの検索方法](#)」(P.16-1) の手順に従って、修正するユーザ テンプレートを検索します。
 - ステップ 2** [ユーザテンプレートの設定 (User Template Configuration)] ウィンドウで、テンプレートの設定値を追加、変更、または削除します。詳細については、「[表 16-1 BAT ユーザ テンプレートのフィールドの説明](#)」(P.16-4) を参照してください。
 - ステップ 3** 設定値を変更した後、[保存 (Save)] をクリックしてテンプレートを更新します。
-

追加情報

「[関連項目](#)」(P.16-7) を参照してください。

BAT ユーザ テンプレートのコピー

変更するフィールドの数が少ない場合は、ユーザ テンプレートのプロパティを新しいユーザ テンプレートにコピーできます。

既存の BAT 電話機テンプレートをコピーする手順は、次のとおりです。

手順

-
- ステップ 1** 「[BAT ユーザ テンプレートの検索方法](#)」(P.16-1) の手順に従って、コピーするユーザ テンプレートを検索します。
 - ステップ 2** [ユーザテンプレートの設定 (User Template Configuration)] ウィンドウで、コピーするテンプレートを確認し、[コピー (Copy)] をクリックします。
テンプレートが複製され、コピーが作成されます。このコピーには、元のテンプレートで指定した値がすべて複製されます。
 - ステップ 3** 必要に応じて、新しいテンプレートのフィールドを更新します。詳細については、「[表 16-1 BAT ユーザ テンプレートのフィールドの説明](#)」(P.16-4) を参照してください。
 - ステップ 4** [保存 (Save)] をクリックします。
-

追加情報

「[関連項目](#)」(P.16-7) を参照してください。

テンプレートの削除

BAT テンプレートが不要になった場合は、削除することができます。テンプレートを削除する手順は、次のとおりです。

手順

- ステップ 1** 「BAT ユーザ テンプレートの検索方法」(P.16-1) の手順に従って、削除するユーザ テンプレートを検索します。
- ステップ 2** [ユーザテンプレートの設定 (User Template Configuration)] ウィンドウで、削除するテンプレートを確認し、[削除 (Delete)] をクリックします。



(注) [ユーザテンプレートの検索と一覧表示 (Find and List User Templates)] でユーザ テンプレートを削除することもできます。削除するテンプレートの横のチェックボックスをオンにし、[選択項目の削除 (Delete Selected)] をクリックします。

削除操作を確認するように求めるメッセージが表示されます。

- ステップ 3** [OK] をクリックして、テンプレートを削除します。[ユーザテンプレートの検索と一覧表示 (Find and List User Templates)] ウィンドウのユーザ テンプレートのリストから、テンプレート名が消去されます。



(注) 特定のユーザ テンプレートを使用するジョブを送信し、そのジョブが実行される前にユーザ テンプレートを削除すると、ジョブも削除されます。この場合、ユーザ テンプレートを再作成し、もう一度ジョブを送信する必要があります。

追加情報

「関連項目」(P.16-7) を参照してください。

BAT ユーザ テンプレートのフィールドの説明

表 16-1 では、BAT ユーザ テンプレートを追加する場合に表示されるフィールドすべてについて説明します。関連する手順については、「関連項目」(P.16-7) を参照してください。

BAT ユーザ インターフェイスでは、アスタリスクが付いているフィールドには値を入力する必要があります。アスタリスクの付いていないフィールドはオプションです。

表 16-1 BAT ユーザ テンプレートのフィールドの説明

フィールド	説明
[ユーザテンプレート名 (User Template Name)]	ユーザ テンプレートの一意的名前を 30 文字以内の英数字で入力します。
[ユーザ ID をデフォルトパスワードにする (Default Password to User ID)]	このチェックボックスをオンにすると、すべてのユーザで、ユーザ ID がデフォルトのパスワードとなります。

表 16-1 BAT ユーザ テンプレートのフィールドの説明

フィールド	説明
[電話番号をデフォルト PIN にする (Default PIN to Telephone Number)]	このチェックボックスをオンにすると、電話番号がデフォルトの PIN となります。
[プライマリ内線をデフォルト電話番号にする (Default Telephone Number to Primary Extension)]	このチェックボックスをオンにすると、電話番号がプライマリ内線となります。
[ユーザ ID をデフォルトメール ID にする (Default Mail ID to User ID)]	このチェックボックスをオンにすると、ユーザ ID がデフォルトのメール ID となります。
[マネージャのユーザ ID (Manager User ID)]	電話機ユーザのマネージャのユーザ ID を 128 文字以内で入力します。
[部署名 (Department)]	電話機ユーザの所属部門番号を 64 文字以内で入力します。
[ユーザロケール (User Locale)]	ドロップダウンリスト ボックスから、このユーザに関連付ける国/地域と言語を選択します。この選択内容によって、言語やフォントを含むロケール属性のどれをこのユーザに適用するか、および Cisco Unified Communications Manager のユーザ ウィンドウと電話機をどの言語で表示するかが決まります。
[割り当てられた PC (Associated PC)]	このフィールドは、Cisco SoftPhone および Cisco Unified Communications Manager Attendant Console のユーザに必須のフィールドであり、ユーザが追加されると表示されます。
[デフォルトのプロファイル (Default Profile)]	[デフォルトのプロファイル (Default Profile)] ドロップダウン リスト ボックスで、このユーザのデフォルトのプロファイルを選択します。
[プレゼンスグループ (Presence Group)]	ドロップダウンリスト ボックスから、電話番号、プレゼンス エンティティのステータスを監視するプレゼンス グループを入力します。 プレゼンス機能については、『Cisco Unified Communications Manager 機能およびサービス ガイド』を参照してください。
[SUBSCRIBE コーリングサーチスペース (SUBSCRIBE Calling Search Space)]	Cisco Unified Communications Manager の管理ページで設定したすべてのコーリングサーチスペースが、[SUBSCRIBE コーリングサーチスペース (SUBSCRIBE Calling Search Space)] ドロップダウン リスト ボックスに表示されます。 [SUBSCRIBE コーリングサーチスペース (SUBSCRIBE Calling Search Space)] は、エンドユーザからのプレゼンスの SUBSCRIBE 要求を Cisco Unified Communications Manager がルーティングする方法を決定します。特にこの目的のためにコーリングサーチスペースを設定するには、他のすべてのコーリングサーチスペースと同様にコーリングサーチスペースを設定します ([コールルーティング (Call Routing)] > [コントロールのクラス (Class Control)] > [コーリングサーチスペース (Calling Search Space)])。 コーリングサーチスペースの設定方法については、『Cisco Unified Communications Manager アドミニストレーション ガイド』を参照してください。

表 16-1 BAT ユーザ テンプレートのフィールドの説明

フィールド	説明
[CTI からデバイスを制御可能 (Allow Control of Device from CTI)]	このチェックボックスをオンにすると、CTI がこのデバイスを制御、監視できます。 関連付けられた電話番号がシェアドラインを指定している場合、少なくとも 1 つの関連付けられたデバイスが、デバイス タイプ および CTI がサポートするプロトコルの組み合わせを指定している限り、チェックボックスをオンにする必要があります。
[EMCC を使う (EMCC Enabled)]	EMCC サービスを使用可能にする場合に、このチェックボックスをオンにします。
[ユーザグループ (User Group)]	ドロップダウン リスト ボックスから、このユーザが属するユーザ グループを選択します。
[ダイジェスト信用証明書 (Digest Credentials)]	SIP を実行している電話機にダイジェスト認証を設定すると、電話機が Cisco Unified Communications Manager に SIP 要求を送信するたびに、Cisco Unified Communications Manager が電話機の身元を確認します。このフィールドに入力されたダイジェスト信用証明書は、[電話の設定 (Phone Configuration)] ウィンドウでダイジェスト ユーザを選択したときに、電話機に関連付けられます。 最大で 128 文字の英数字による文字列を入力します。 ダイジェスト認証の詳細については、『Cisco Unified Communications Manager セキュリティ ガイド』を参照してください。
[ダイジェスト信用証明書の確認 (Confirm Digest Credentials)]	ダイジェスト信用証明書を正しく入力したことを確認するために、このフィールドにそのクレデンシャルを再入力します。
[モビリティの有効化 (Enable Mobility)]	モバイル コネクトをアクティブにするには、このチェックボックスをオンにします。モバイル コネクトを使用すると、ユーザが 1 つの電話番号を使用してコールを管理したり、デスクトップ電話機および携帯電話で進行中のコールをピックアップしたりできるようになります。
[モバイルボイスアクセスの有効化 (Enable Mobile Voice Access)]	モバイル ボイス アクセスの Integrated Voice Response (IVR; 自動音声応答) システムにユーザがアクセスし、モバイル コネクト コールを発信したり、モバイル コネクト機能をアクティブ化または非アクティブ化したりできるようにするには、このチェックボックスをオンにします。
[デスクピックアップの最大待機時間 (Maximum Wait Time for Desk Pickup)]	このユーザに対する最大待機時間を 5 桁以内の数値で入力します。 これは、携帯電話からデスクトップ電話機に転送されたコールを、ユーザがピックアップできる最大時間を示します。
[リモート接続先の制限 (Remote Destination Limit)]	ユーザが、デスクトップ電話機からコールを転送できる電話機の最大数を 2 桁以内の数値で入力します。



(注) BAT 電話機テンプレートの設定を続行するには、「[新しい BAT ユーザ テンプレートの作成](#)」(P.16-2)に進みます。

関連項目

- [「BAT ユーザ テンプレートの検索方法」 \(P.16-1\)](#)
- [「新しい BAT ユーザ テンプレートの作成」 \(P.16-2\)](#)
- [「BAT ユーザ テンプレートの変更」 \(P.16-3\)](#)
- [「BAT ユーザ テンプレートのコピー」 \(P.16-3\)](#)
- [「テンプレートの削除」 \(P.16-4\)](#)
- [「BAT ユーザ テンプレートのフィールドの説明」 \(P.16-4\)](#)



CHAPTER 17

ユーザの挿入

Cisco Unified Communications Manager 一括管理 (BAT) を使用すると、ユーザのグループを Cisco Unified Communications Manager データベースに追加することができます。



(注)

この機能では、UTF-8 符号化形式で保存されたカスタム ファイルのみサポートされます。

Cisco Unified Communications Manager へのユーザの挿入

ユーザのグループを Cisco Unified Communications Manager データベースに追加する手順は、次のとおりです。

始める前に

ユーザ名、コントロール デバイス名、および電話番号が格納されている CSV データ ファイルが必要です。この CSV データ ファイルは、次のいずれかの方法で作成できます。

- BAT スプレッドシートを CSV 形式に変換する。
- エクスポート ユーティリティで、ユーザ データのエクスポート ファイルを作成する。

手順

- ステップ 1** [一括管理 (Bulk Administration)] > [ユーザ (Users)] > [ユーザの挿入 (Insert Users)] の順に選択します。
[ユーザの挿入 (Insert Users Configuration)] ウィンドウが表示されます。
- ステップ 2** [ファイル名 (File Name)] フィールドで、このバルク トランザクション用に作成した CSV データ ファイルを選択します。
- ステップ 3** エクスポート ユーティリティを使用して作成した CSV データ ファイルの場合は、[ユーザのエクスポートで作成されたファイル (File created with Export Users)] チェックボックスをオンにします。
- ステップ 4** [ユーザテンプレート名 (User Template Name)] ドロップダウン リスト ボックスから、挿入に使用するユーザ テンプレートを選択します。



(注) ユーザ デバイス プロファイル、コントロール デバイス名、および電話番号は、すでに Cisco Unified Communications Manager データベースに存在している必要があります。コントロール デバイスの完全な名前を入力する必要があります。デバイス名に MAC アドレスしか含まれていない場合は、デバイスが存在しないことを示すエラーが BAT に表示されます。

ステップ 5 [ジョブ情報 (Job Information)] 領域に、ジョブの説明を入力します。

ステップ 6 ユーザ レコードを即座に挿入するには、[今すぐ実行 (Run Immediately)] オプション ボタンをクリックします。ユーザ レコードを後で挿入するには、[後で実行 (Run Later)] をクリックします。

ステップ 7 ユーザ レコードを挿入するジョブを作成するには、[送信 (Submit)] をクリックします。

ステップ 8 このジョブのスケジュールやアクティブ化を行うには、[一括管理 (Bulk Administration)] メインメニューの [ジョブスケジューラ (Job Scheduler)] オプションを使用します。

ジョブの詳細については、第 82 章「ジョブのスケジュール」を参照してください。

ログ ファイルの詳細については、「BAT ログ ファイル」(P.83-3) を参照してください。



(注) ユーザを挿入するために CSV ファイルに入力したフィールド値によって、ユーザ テンプレートに設定された値が上書きされます。



(注) エクスポートした BAT ファイルを使用してユーザを挿入している場合、複数のファイルにエクスポートされたユーザについて、「ユーザ ID がすでに存在している」というエラーが表示されることがあります。たとえば、1 つ目の回線マネージャのリストとユーザのリストが、どちらも同じマネージャ ユーザ ID を含んでいることがあります。



(注) クレデンシャル ポリシーが [単純すぎるパスワードの確認 (Check for Trivial Passwords)] を有効にしていて、ユーザ テンプレートのパスワードがユーザ ID であり、ユーザ ID が単純すぎるパスワードに必要な条件を満たさない場合は、BAT を介してのユーザの挿入が失敗することがあります。

追加情報

「関連項目」(P.17-2) を参照してください。

関連項目

- 「新しい BAT ユーザ テンプレートの作成」(P.16-2)
- 「BAT ユーザ テンプレートのフィールドの説明」(P.16-4)
- 「Cisco Unified Communications Manager へのユーザの挿入」(P.17-1)



CHAPTER 18

ユーザの更新

データベースにある既存のユーザ情報を更新する手順は、次のとおりです。

- 「ユーザの更新」(P.18-1)
- 「格納されている値の保持」(P.18-2)
- 「BAT スプレッドシートを使用したユーザ更新用 CSV データ ファイルの作成」(P.18-2)
- 「Cisco Unified Communications Manager 内のユーザの更新」(P.18-5)

ユーザの更新

Cisco Unified Communications Manager データベースにある既存のユーザ情報を更新する手順は、次のとおりです。

1. カンマ区切り値 (CSV) データ ファイルを作成して、更新するユーザごとに個々の値を定義します。
 - 詳細については、「BAT スプレッドシートを使用したユーザ更新用 CSV データ ファイルの作成」(P.18-2) を参照してください。
 - テキストベースの CSV ファイルについては、「ユーザのファイル形式の更新」(P.A-9) を参照してください。



(注) Cisco Unified Communications Manager ディレクトリにすでに格納されている値や設定を保持する方法については、「格納されている値の保持」(P.18-2) を参照してください。



(注) ユーザ テンプレートはユーザ トランザクションの更新に必須ではありません。ユーザ テンプレートを選択した場合は、CSV に設定されていないフィールドは更新されたテンプレートから取得されます。選択しない場合、これらのフィールドは無視されます。また、無視するフィールドに「#」などの他の値を指定すると、無視する値が空白ではなくなるため、「#」の値が含まれるフィールドが無視されるようになります。

2. Cisco Unified Communications Manager 一括管理 (BAT) を使用して、Cisco Unified Communications Manager データベースにある更新されたユーザ レコードを挿入します。詳細については、「Cisco Unified Communications Manager 内のユーザの更新」(P.18-5) を参照してください。

追加情報

「関連項目」(P.18-6) を参照してください。

格納されている値の保持

ユーザレコードを更新する場合、Cisco Unified Communications Manager ディレクトリにすでに格納されている値や設定を保持する必要があることがあります。この場合、値を保持する必要があるフィールドに対して、「#」などの記号を使用することができます。次の CSV データファイルの例では、# を入力することによって、すでに DC ディレクトリに入力されている [マネージャ (Manager)] フィールドの値が保持されます。

```
userid,#,department,,123456789012,
```

格納されている値を保持するために使用する値を識別する手順は、次のとおりです。

手順

-
- ステップ 1** [一括管理 (Bulk Administration)] > [ユーザ (Users)] > [ユーザの更新 (Update Users)] の順に選択します。
 - [ユーザの更新 (Update Users Configuration)] ウィンドウが表示されます。
 - ステップ 2** [無視するフィールドの値 (Value for fields to be ignored)] フィールドを確認します。更新されたユーザの値を CSV データファイルに挿入する場合は、その値を保持するための記号をこのボックスに入力する必要があります。
 - ステップ 3** 値を保持するために使用する記号を決定します。
 - ステップ 4** [無視するフィールドの値 (Value for fields to be ignored)] フィールドと同じ値を BAT スプレッドシートボックスに入力します。
 - ステップ 5** この記号を BAT スプレッドシートフィールドで保持する必要がある値に対して使用します。
-

追加情報

「関連項目」(P.18-6) を参照してください。

BAT スプレッドシートを使用したユーザ更新用 CSV データファイルの作成

既存のユーザのグループを更新するための CSV データファイルを作成する手順は、次のとおりです。

手順

-
- ステップ 1** BAT.xlt ファイルをダウンロードして開きます。詳細については、第 2 章「ファイルのアップロードとダウンロード」を参照してください。
 - ステップ 2** プロンプトが表示されたら、[マクロを有効にする] ボタンをクリックして、スプレッドシート機能を使用します。
 - ステップ 3** ユーザ情報を追加するには、スプレッドシート下部の [Update Users] タブをクリックします。
 - ステップ 4** すべての必須フィールド、および該当するオプションフィールドに値を入力します。各カラムの見出しは、フィールドの長さ、およびそのフィールドが必須かオプションかを指定しています。BAT スプレッドシートのフィールドの説明については、表 18-1 を参照してください。

表 18-1 ユーザ更新用の BAT スプレッドシートのフィールドの説明

フィールド	説明
[User ID]	電話機ユーザのユーザ ID を 1 ～ 128 文字で入力します。
[Manager]	電話機ユーザのマネージャのユーザ ID を 128 文字以内で入力します。
[Department]	電話機ユーザの所属部門番号を 64 文字以内で入力します。
[Default Profile]	このユーザとデバイス用のユーザ デバイス プロファイルを、50 文字以内で入力します。ユーザ デバイス プロファイルは、BAT に表示される Cisco Unified Communications Manager の管理ページ内の既存の UDP のリストから選択できます。
[User Locale]	このユーザに関連付ける言語と国/地域のセットを 50 文字以内で入力します。この選択内容によって、言語やフォントを含むロケール属性のどれをこのユーザに適用するか、および Cisco Unified Communications Manager のユーザ ウィンドウと電話機をどの言語で表示するかが決まります。
[Password]	Cisco IP Phone 設定ウィンドウへのアクセス時にユーザが使用するパスワードを 128 文字以内で入力します。 パスワードは、CSV データ ファイルに指定する必要があります。または、ユーザ テンプレートを追加するときに BAT ユーザ インターフェイスを使用して指定する必要があります。ユーザ またはユーザのグループごとに個別のパスワードを適用する場合は、CSV データ ファイルでパスワード情報を指定してください。すべてのユーザにデフォルトのパスワードを使用する場合は、BAT 内でユーザを挿入するときにデフォルトのパスワードを設定します。
[PIN]	エクステンション モビリティで使用される Personal Identification Number (PIN; 個人識別番号) を 128 桁以内の数値で入力します。 PIN は、CSV データ ファイルに指定する必要があります。または、ユーザ テンプレートを追加するときに BAT ユーザ インターフェイスを使用して入力する必要があります。ユーザまたはユーザのグループごとに個別の PIN を適用する場合は、CSV データ ファイルで PIN を指定します。すべてのユーザが使用できるデフォルト PIN を使用するには、BAT にユーザを挿入するときにデフォルト PIN を指定します。
[Telephone Number]	電話番号を 64 桁以内の数値で入力します。
[Primary Extension]	このフィールドは、ユーザが追加され、ユーザのプライマリ電話番号が設定された後に表示されます。デバイスをユーザに割り当てる場合は、プライマリ回線を選択しません。ユーザは、電話機に複数の回線を接続できます。 システムが Unity と統合するように設定されている場合、[Cisco Unity Voice Mailbox の作成] リンクが表示されます。
[Associated PC]	このフィールドは、Cisco SoftPhone および Cisco Unified Communications Manager Attendant Console のユーザに必須のフィールドであり、ユーザが追加されると表示されます。
[IPCC Extension]	このエンドユーザの ICD 内線を 50 文字以内で入力します。
[Mail ID]	電子メール ID を 255 文字以内で入力します。

表 18-1 ユーザ更新用の BAT スプレッドシートのフィールドの説明 (続き)

フィールド	説明
[Presence Group]	<p>電話番号、プレゼンス エンティティのステータスを監視するプレゼンス グループを 50 文字以内で入力します。</p> <p>プレゼンス機能については、『Cisco Unified Communications Manager 機能およびサービス ガイド』を参照してください。</p>
[SUBSCRIBE Calling Search Space]	<p>Cisco Unified Communications Manager の管理ページで設定したすべてのコーリング サーチ スペースが、[SUBSCRIBE コーリングサーチスペース (SUBSCRIBE Calling Search Space)] ドロップダウンリスト ボックスに表示されます。</p> <p>[SUBSCRIBE コーリングサーチスペース (SUBSCRIBE Calling Search Space)] は、エンドユーザからのプレゼンスの SUBSCRIBE 要求を Cisco Unified Communications Manager がルーティングする方法を決定します。特にこの目的のためにコーリング サーチ スペースを設定するには、他のすべてのコーリングサーチ スペースと同様にコーリング サーチ スペースを設定します ([コールルーティング (Call Routing)] > [コントロールのクラス (Class Control)] > [コーリングサーチスペース (Calling Search Space)])。</p> <p>コーリングサーチ スペースの設定方法については、『Cisco Unified Communications Manager アドミニストレーション ガイド』を参照してください。</p>
[Digest Credentials]	<p>SIP を実行している電話機にダイジェスト認証を設定すると、電話機が Cisco Unified Communications Manager に SIP 要求を送信するたびに、Cisco Unified Communications Manager が電話機の身元を確認します。このフィールドに入力されたダイジェスト信用証明書は、[電話の設定 (Phone Configuration)] ウィンドウでダイジェスト ユーザを選択したときに、電話機に関連付けられます。</p> <p>最大で 128 文字の英数字による文字列を入力します。</p> <p>ダイジェスト認証の詳細については、『Cisco Unified Communications Manager セキュリティ ガイド』を参照してください。</p>

ステップ 5 DC ディレクトリに格納済みの値を保持する場合は、値を保持するよう BAT に指示するために使用する記号を [無視するフィールドの値 (Value for fields to be ignored)] フィールドに入力します。保持するフィールドの値に同じ値を入力します。

ステップ 6 BAT Excel スプレッドシートから CSV ファイルにデータを転送するには、[Export to BAT format] ボタンをクリックします。

このファイルは C:\¥XLSDataFiles¥ (または、別の既存フォルダを指定) に保存されます。ファイル名は次のとおりです。

Update_Users-timestamp.txt (または、別のファイル名を指定)



(注) いずれかのフィールドにカンマを入力した場合、BAT.xlt を使用して BAT 形式にエクスポートするときに、そのフィールド エントリは二重引用符で囲まれます。

スプレッドシートに空白行を入力すると、その空の行はファイルの終わりとして扱われます。空白行の後に入力されたデータは、BAT 形式には変換されません。

CSV データ ファイルは、Cisco Unified Communications Manager サーバの最初のノードにアップロードして、BAT からアクセスできるようにする必要があります。詳細については、「[ファイルのアップロード](#)」(P.2-3) を参照してください。

CSV ファイルを読み取る方法については、BAT の [ユーザの更新 (Update Users Configuration)] ウィンドウで、[サンプルファイルの表示 (View Sample File)] へのリンクをクリックしてください。

追加情報

「[関連項目](#)」(P.18-6) を参照してください。

Cisco Unified Communications Manager 内のユーザの更新

Cisco Unified Communications Manager ディレクトリでユーザ レコードのグループを更新する手順は、次のとおりです。

始める前に

更新されたユーザ情報がある CSV データ ファイルが必要です。手順については、「[BAT スプレッドシートを使用したユーザ更新用 CSV データ ファイルの作成](#)」(P.18-2) を参照してください。

手順

- ステップ 1** [一括管理 (Bulk Administration)] > [ユーザ (Users)] > [ユーザの更新 (Update Users)] の順に選択します。
[ユーザの更新 (Update Users Configuration)] ウィンドウが表示されます。
 - ステップ 2** [ファイル名 (File Name)] ドロップダウン リスト ボックスで、このバルク トランザクション用に作成した CSV データ ファイルを選択します。
 - ステップ 3** [ユーザテンプレート名 (User Template Name)] ドロップダウン リスト ボックスで、このバルク トランザクション用に作成したユーザ テンプレートを選択します。
 - ステップ 4** DC ディレクトリに格納済みの値を保持する場合は、値を保持するよう BAT に指示するために使用する記号を [無視するフィールドの値 (Value for fields to be ignored)] フィールドに入力します。詳細については、「[格納されている値の保持](#)」(P.18-2) を参照してください。
- (注) ユーザを更新するために CSV ファイルに入力した値によって、ユーザ テンプレートに設定された値が上書きされます。
- ステップ 5** [ジョブ情報 (Job Information)] 領域に、ジョブの説明を入力します。

■ 関連項目

- ステップ 6** ユーザレコードを即座に挿入するには、[今すぐ実行 (Run Immediately)] オプション ボタンをクリックします。ユーザレコードを後で挿入するには、[後で実行 (Run Later)] をクリックします。
- ステップ 7** ユーザレコードを更新するジョブを作成するには、[送信 (Submit)] をクリックします。
- ステップ 8** このジョブのスケジュールやアクティブ化を行うには、[一括管理 (Bulk Administration)] メインメニューの [ジョブスケジューラ (Job Scheduler)] オプションを使用します。
ジョブの詳細については、[第 82 章「ジョブのスケジュール」](#) を参照してください。
ログファイルの詳細については、「[BAT ログファイル \(P.83-3\)](#)」を参照してください。
-

追加情報

「[関連項目 \(P.18-6\)](#)」を参照してください。

関連項目

- 「[ユーザの更新 \(P.18-1\)](#)」
- 「[格納されている値の保持 \(P.18-2\)](#)」
- 「[BAT スプレッドシートを使用したユーザ更新用 CSV データ ファイルの作成 \(P.18-2\)](#)」
- 「[Cisco Unified Communications Manager 内のユーザの更新 \(P.18-5\)](#)」
- [ファイルのアップロードとダウンロード](#)



CHAPTER 19

ユーザの削除

Cisco Unified Communications Manager ディレクトリのユーザ グループは削除できます。既存のユーザ レコードは、次の 2 つの方法のいずれかによって検索できます。

- 「クエリーを使用したユーザの削除」(P.19-1)
- 「カスタム ファイルを使用したユーザの削除」(P.19-2)

クエリーを使用したユーザの削除

クエリー フィルタを作成してユーザ レコードを検索し、ユーザを削除する手順は、次のとおりです。

手順

ユーザ レコードを検索するためのクエリーを作成してユーザを削除する手順は、次のとおりです。

ステップ 1 [一括管理 (Bulk Administration)] > [ユーザ (Users)] > [ユーザの削除 (Delete Users)] > [クエリー (Query)] の順に選択します。

[ユーザの削除 (Delete Users Configuration)] ウィンドウが表示されます。

ステップ 2 最初の [検索対象: ユーザ、検索条件 (Find User where)] ドロップダウン リスト ボックスで、次のいずれかの検索条件を選択します。

- [ユーザ ID (User ID)]
- [名 (First Name)]
- [ミドルネーム (Middle Name)]
- [姓 (Last Name)]
- [マネージャ (Manager)]
- [部署名 (Department Name)]

2 番目の [検索対象: ユーザ、検索条件 (Find User where)] ドロップダウン リスト ボックスで、次のいずれかの検索条件を選択します。

- [が次の文字列で始まる (begins with)]
- [が次の文字列を含む (contains)]
- [が次の文字列と等しい (is exactly)]
- [が次の文字列で終わる (ends with)]

- [が空である (is empty)]
- [が空ではない (is not empty)]

ステップ 3 必要に応じて、適切な検索テキストを指定します。



ヒント データベースに登録されているすべてのユーザを検索するには、検索テキストを入力せずに [検索 (Find)] をクリックします。

ステップ 4 クエリーをさらに定義する場合や、複数のフィルタを追加する場合は、[絞り込み (Search With)] チェックボックスをオンにし、ドロップダウン ボックスから [AND] または [OR] を選択して、ステップ 2 ~ 3 を繰り返します。

ステップ 5 [検索 (Find)] をクリックします。

検索されたテンプレートのリストが、次の項目別に表示されます。

- [ユーザ ID (User ID)]
- [名 (First Name)]
- [ミドルネーム (Middle Name)]
- [姓 (Last Name)]
- [マネージャ (Manager)]
- [部署名 (Department Name)]
- [LDAP 同期状態 (LDAP Sync Status)]

ステップ 6 [ジョブ情報 (Job Information)] 領域に、ジョブの説明を入力します。

ステップ 7 ユーザ レコードを即座に削除するには、[今すぐ実行 (Run Immediately)] オプション ボタンをクリックします。ユーザ レコードを後で削除するには、[後で実行 (Run Later)] をクリックします。

ステップ 8 ユーザ レコードを削除するジョブを作成するには、[送信 (Submit)] をクリックします。

ステップ 9 このジョブのスケジュールやアクティブ化を行うには、[一括管理 (Bulk Administration)] メイン メニューの [ジョブスケジューラ (Job Scheduler)] オプションを使用します。

ジョブの詳細については、[第 82 章「ジョブのスケジュール」](#)を参照してください。

ログ ファイルの詳細については、「[BAT ログ ファイル \(P.83-3\)](#)」を参照してください。

追加情報

「[関連項目 \(P.19-3\)](#)」を参照してください。

カスタム ファイルを使用したユーザの削除

テキスト エディタを使用してユーザ ID のカスタム ファイルを作成し、ユーザを検索して削除できます。

始める前に

1. テキスト ファイルを作成し、削除するユーザ ID を 1 行に 1 つずつ指定します。
2. カスタム ファイルを Cisco Unified Communications Manager サーバの最初のノードにアップロードします。詳細については、[第 2 章「ファイルのアップロードとダウンロード」](#)を参照してください。

カスタム ファイルを使用してユーザを削除する手順は、次のとおりです。



(注) 削除トランザクション用に `bat.xlt` として作成したトランザクションファイルを挿入またはエクスポートしないでください。代わりに、削除が必要なユーザ レコードの詳細情報が設定されたカスタム ファイルを作成する必要があります。削除トランザクションには、このファイルしか使用しないでください。このカスタム削除ファイルには、ヘッダーを指定する必要があります。ユーザ ID の値を入力します。

手順

- ステップ 1** [一括管理 (Bulk Administration)] > [ユーザ (Users)] > [ユーザの削除 (Delete Users)] > [カスタムファイル (Custom File)] の順に選択します。
[ユーザの検索と一覧表示 (Find and List Users)] の [カスタムファイルの設定に基づいたユーザの削除 (Delete Users Based on Custom file Configuration)] ウィンドウが表示されます。
- ステップ 2** [削除対象: ユーザ、検索条件 (Delete Users where)] ドロップダウン リストボックスで、次のいずれかの検索条件を選択します。
 - [ユーザ ID (User ID)]
 - [名 (First Name)]
 - [ミドルネーム (Middle Name)]
 - [姓 (Last Name)]
 - [部署名 (Department)]
- ステップ 3** [カスタムファイル (Custom file)] ドロップダウン リストボックスで、カスタム ファイルのファイル名を選択します。
- ステップ 4** クエリーに必要な情報が含まれていることを確認し、[検索 (Find)] をクリックします。
- ステップ 5** [ジョブ情報 (Job Information)] 領域に、ジョブの説明を入力します。
- ステップ 6** ユーザ レコードを即座に削除するには、[今すぐ実行 (Run Immediately)] オプション ボタンをクリックします。ユーザ レコードを後で削除するには、[後で実行 (Run Later)] をクリックします。
- ステップ 7** ユーザ レコードを削除するジョブを作成するには、[送信 (Submit)] をクリックします。
- ステップ 8** このジョブのスケジュールやアクティブ化を行うには、[一括管理 (Bulk Administration)] メインメニューの [ジョブスケジューラ (Job Scheduler)] オプションを使用します。
ジョブの詳細については、[第 82 章「ジョブのスケジュール」](#) を参照してください。
ログ ファイルの詳細については、「[BAT ログ ファイル](#)」(P.83-3) を参照してください。

追加情報

「[関連項目](#)」(P.19-3) を参照してください。

関連項目

- 「[クエリーを使用したユーザの削除](#)」(P.19-1)
- 「[カスタム ファイルを使用したユーザの削除](#)」(P.19-2)



CHAPTER 20

ユーザのエクスポート

Cisco Unified Communications Manager 一括管理 (BAT) を使用してユーザ レコードをエクスポートすると、エクスポート ユーティリティによりデータベース内の組織階層に基づいてユーザがソートされます。

[ユーザのエクスポート (Export Users Configuration)] ウィンドウで、[ファイル形式 (File Format)] ドロップダウン リスト ボックスから [Default User Format] を選択した場合、エクスポート ユーティリティは、ユーザに関連付けられたデフォルトのユーザ デバイス プロファイルのみをエクスポートします。そのユーザ用の他のユーザ デバイス プロファイルは、Cisco Unified Communications Manager の管理ページを使用して別途挿入する必要があります。

ユーザ レコードのエクスポート

ユーザ レコードが Cisco Unified Communications Manager 3.1 以前で作成されているために、ユーザ レコードをエクスポートしてもユーザの PIN がブランクになる場合があります。この場合は、デフォルトの PIN を指定してから、ユーザ レコードを BAT ユーザ インターフェイスに再挿入する必要があります。

Cisco Unified Communications Manager からユーザ レコードをエクスポートする手順は、次のとおりです。

手順

ステップ 1 [一括管理 (Bulk Administration)] > [ユーザ (Users)] > [ユーザのエクスポート (Export Users)] の順に選択します。

[ユーザの検索と一覧表示 (Find and List Users)] ウィンドウが表示されます。

ステップ 2 最初の [検索対象: ユーザ、検索条件 (Find User where)] ドロップダウン リスト ボックスで、次のいずれかのオプションからクエリーを行うフィールドを選択します。

- [ユーザ ID (User ID)]
- [名 (First Name)]
- [ミドルネーム (Middle Name)]
- [姓 (Last Name)]
- [マネージャ (Manager)]
- [部署名 (Department)]

ステップ 3 2 番目のドロップダウン リスト ボックスで、次のいずれかのオプションを選択します。

- [が次の文字列で始まる (begins with)]
- [が次の文字列を含む (contains)]
- [が次の文字列と等しい (is exactly)]
- [が次の文字列で終わる (ends with)]
- [が空である (is empty)]
- [が空ではない (is not empty)]

ステップ 4 検索フィールドまたはリスト ボックスで、検索する値（たとえば、特定の名前またはユーザ ID）を入力します。



(注) ユーザを複数の部署から選択する場合は、このフィールドに複数の部署を入力します。たとえば、部署 12 と部署 34 からユーザを選択するには、3 番目のボックスに 12, 34 と入力します。操作を 2 回繰り返す必要はありません。

ステップ 5 複数のフィルタを追加するには、[絞り込み(Search Within Results)] チェックボックスをクリックして [AND] または [OR] をクリックします。クエリーをさらに定義するには、[ステップ 2](#) ~ [ステップ 4](#) を繰り返します。

ステップ 6 [検索(Find)] をクリックします。検索結果が表示されます。



(注) データベースに登録されているすべてのユーザを検索するには、検索テキストを入力せずに [検索(Find)] をクリックします。

ステップ 7 [次へ(Next)] をクリックします。

ステップ 8 [ファイル名 (File Name)] テキストボックスにエクスポート ユーザ ファイル名を入力します。

ステップ 9 [ファイル形式 (File Format)] ドロップダウン リスト ボックスで、ファイル形式を選択します。

ステップ 10 [ジョブ情報 (Job Information)] 領域に、ジョブの説明を入力します。

ステップ 11 ユーザレコードを即座にエクスポートするには、[今すぐ実行 (Run Immediately)] オプション ボタンをクリックします。後でエクスポートするには、[後で実行 (Run Later)] をクリックします。

ステップ 12 ユーザレコードをエクスポートするジョブを作成するには、[送信 (Submit)] をクリックします。

ステップ 13 このジョブのスケジュールやアクティブ化を行うには、[一括管理 (Bulk Administration)] メインメニューの [ジョブスケジューラ (Job Scheduler)] オプションを使用します。

ジョブの詳細については、[第 82 章「ジョブのスケジュール」](#) を参照してください。

ログ ファイルの詳細については、「[BAT ログ ファイル](#)」(P.83-3) を参照してください。

エクスポート ファイルは、[一括管理 (Bulk Administration)] メニューの [ファイルのアップロード/ダウンロード (Upload/Download Files)] オプションを使用して検索またはダウンロードできます。詳細については、[第 2 章「ファイルのアップロードとダウンロード」](#) を参照してください。



(注) エクスポート ファイルのユーザ ID、PKID、パスワード、PIN、およびダイジェスト信用証明書のカラムは、どのような状況でも変更しないでください。

追加情報

「[関連項目](#)」(P.20-3) を参照してください。

関連項目

- 「[BAT ログ ファイル](#)」(P.83-3)
- 「[ファイルのアップロードとダウンロード](#)」(P.2-1)



CHAPTER 21

パスワードと PIN のリセット

Cisco Unified IP Phone ユーザ オプション ウィンドウにログインするときにユーザが入力するパスワードはリセットできます。また、ユーザが Cisco Unified IP Phone にログインするときに使用するエクステンション モビリティ機能用の PIN もリセットできます。このリセット機能は、他のアトリビュートを更新せずに、ユーザのグループをデフォルトのパスワードやデフォルトの PIN にリセットする必要がある場合に使用します。



(注)

リセット ページで選択したクレデンシャルの設定値は、パスワードと PIN の両方に適用されます。

パスワードと PIN のリセット

パスワードと PIN をリセットするユーザの選択方法には、次の 2 つがあります。

- 「クエリーを使用したユーザ パスワードと PIN のリセット」 (P.21-1)
- 「カスタム ファイルを使用したユーザ パスワードと PIN のリセット」 (P.21-3)

クエリーを使用したユーザ パスワードと PIN のリセット

クエリーを使用してユーザを検索し、パスワードと PIN をデフォルト値にリセットする手順は、次のとおりです。

手順

- ステップ 1** [一括管理 (Bulk Administration)] > [ユーザ (Users)] > [パスワード/PIN のリセット (Reset Password/PIN)] > [クエリー (Query)] の順に選択します。
[ユーザの検索と一覧表示 (Find and List Users)] ウィンドウが表示されます。
- ステップ 2** リセットするユーザを検索するために、クエリー フィルタを定義します。
- ステップ 3** 最初の [検索対象: ユーザ、検索条件 (Find User where)] ドロップダウン リストボックスで、次のいずれかの検索条件を選択します。
 - [ユーザ ID (User ID)]
 - [名 (First Name)]
 - [ミドルネーム (Middle Name)]
 - [姓 (Last Name)]

- [マネージャ (Manager)]
- [部署名 (Department)]

2 番目の [検索対象 : ユーザ、検索条件 (Find User where)] ドロップダウン リスト ボックスで、次のいずれかの検索条件を選択します。

- [が次の文字列で始まる (begins with)]
- [が次の文字列を含む (contains)]
- [が次の文字列と等しい (is exactly)]
- [が次の文字列で終わる (ends with)]
- [が空である (is empty)]
- [が空ではない (is not empty)]

ステップ 4 必要に応じて、適切な検索テキストを指定し、[検索 (Find)] をクリックします。



(注) ユーザを複数の部署から選択する場合は、このフィールドに複数の部署をカンマで区切って入力します。たとえば、部署 12 と部署 14 からユーザを選択するには、3 番目のボックスに **12, 14** と入力します。操作を 2 回繰り返す必要はありません。



ヒント データベースに登録されているすべてのユーザを検索するには、検索テキストを入力せずに [検索 (Find)] をクリックします。

ステップ 5 クエリーをさらに定義するには、[AND] または [OR] を選択して複数のフィルタを追加し、ステップ 3 ~ 4 の手順を繰り返します。

ステップ 6 [検索 (Find)] をクリックします。

検索されたユーザのリストが、次の項目別に表示されます。

- [ユーザ ID (User ID)]
- [名 (First Name)]
- [ミドルネーム (Middle Name)]
- [姓 (Last Name)]
- [マネージャ (Manager)]
- [部署名 (Department Name)]
- [LDAP 同期状態 (LDAP Sync Status)]

ステップ 7 [次へ (Next)] をクリックします。

ステップ 8 クエリーで定義したすべてのレコードに対して、更新する値を入力します。

- [パスワード (Password、半角英数字のみ)] : Cisco Unified IP Phone ユーザ オプション ウィンドウにログインするときにユーザが入力するデフォルトのパスワードを指定します。
- [パスワードの確認 (Confirm Password)] : パスワードを再入力します。
- [PIN (半角数字のみ)] : Cisco Unified IP Phone にログインするときにユーザが入力するエクステンション モビリティ機能用のデフォルトの PIN を指定します。
- [PIN の確認 (Confirm PIN、半角数字のみ)] : PIN をもう一度指定します。

ステップ 9 [ジョブ情報 (Job Information)] 領域に、ジョブの説明を入力します。

- ステップ 10** パスワードまたは PIN を即座に変更するには、[今すぐ実行 (Run Immediately)] オプション ボタンをクリックします。後で変更するには、[後で実行 (Run Later)] をクリックします。
- ステップ 11** パスワードまたは PIN をリセットするジョブを作成するには、[送信 (Submit)] をクリックします。
- ステップ 12** このジョブのスケジュールやアクティブ化を行うには、[一括管理 (Bulk Administration)] メインメニューの [ジョブスケジューラ (Job Scheduler)] オプションを使用します。
- ジョブの詳細については、第 82 章「ジョブのスケジュール」を参照してください。
- ログ ファイルの詳細については、「BAT ログ ファイル」(P.83-3) を参照してください。

追加情報

「関連項目」(P.21-4) を参照してください。

カスタム ファイルを使用したユーザ パスワードと PIN のリセット

テキスト エディタを使用してユーザ ID のカスタム ファイルを作成し、ユーザを検索してパスワードと PIN をデフォルト値にリセットできます。

始める前に

1. テキスト ファイルを作成し、パスワードまたは PIN をリセットするユーザ ID を 1 行に 1 つずつ指定します。
2. カスタム ファイルを Cisco Unified Communications Manager の最初のノードにアップロードします。詳細については、「ファイルのアップロード」(P.2-3) を参照してください。



(注)

リセット トランザクション用に bat.xlt として作成したトランザクション ファイルを挿入またはエクスポートしないでください。代わりに、リセットが必要なユーザ レコードの詳細情報が設定されたカスタム ファイルを作成する必要があります。リセット トランザクションには、このファイルしか使用しないでください。このカスタム リセット ファイルには、ヘッダーを指定する必要がありません。ユーザ ID の値を入力します。

カスタム ファイルを使用してユーザのパスワードと PIN をリセットする手順は、次のとおりです。

手順

- ステップ 1** [一括管理 (Bulk Administration)] > [ユーザ (Users)] > [パスワード/PIN のリセット (Reset Password/PIN)] > [カスタムファイル (Custom File)] の順に選択します。
- [ユーザの検索と一覧表示 (Find and List Users)] ウィンドウが表示されます。
- ステップ 2** [ユーザパスワード/PIN のリセット、検索条件 (Reset Pwd/PIN for Users where)] ドロップダウン リスト ボックスで、カスタム ファイルで使用したフィールドを次のオプションから選択します。
- [ユーザ ID (User ID)]
 - [名 (First Name)]
 - [ミドルネーム (Middle Name)]
 - [姓 (Last Name)]
 - [部署名 (Department)]

■ 関連項目

- ステップ 3** [カスタムファイル] ドロップダウン リスト ボックスで、カスタム ファイルのファイル名を選択します。
- ステップ 4** [ジョブ情報 (Job Information)] 領域に、ジョブの説明を入力します。
- ステップ 5** パスワードまたは PIN を即座に変更するには、[今すぐ実行 (Run Immediately)] オプション ボタンをクリックします。後で変更するには、[後で実行 (Run Later)] をクリックします。
- ステップ 6** パスワードまたは PIN をリセットするジョブを作成するには、[送信 (Submit)] をクリックします。
- ステップ 7** このジョブのスケジュールやアクティブ化を行うには、[一括管理 (Bulk Administration)] メインメニューの [ジョブスケジューラ (Job Scheduler)] オプションを使用します。
- ジョブの詳細については、[第 82 章「ジョブのスケジュール」](#) を参照してください。
- ログ ファイルの詳細については、「[BAT ログ ファイル \(P.83-3\)](#)」を参照してください。ログ ファイルには、更新されたユーザ数と失敗したレコード数 (エラー コードを含む) が示されます。
-

追加情報

「[関連項目 \(P.21-4\)](#)」を参照してください。

関連項目

- 「[クエリーを使用したユーザ パスワードと PIN のリセット \(P.21-1\)](#)」
- 「[カスタム ファイルを使用したユーザ パスワードと PIN のリセット \(P.21-3\)](#)」



CHAPTER 22

ユーザ レポートの生成

Cisco Unified Communications Manager 一括管理 (BAT) には、レコードを効率的に管理するためのレポート機能があります。レポートを作成し、保存して、電話機、ユーザ、ユーザ デバイス プロファイル、マネージャとアシスタント、およびゲートウェイ レコードについての情報を利用できます。これらのレポートは、ファイル名を指定して保存できます。また、Cisco Unified Communications Manager の最初のノード上のフォルダに格納して再表示および印刷できます。

追加情報

「関連項目」(P.22-3) を参照してください。

ユーザ レポートの生成

クエリー オプションを指定せずにすべてのユーザのレポートを生成できます。また、限定されたクエリー オプション セットを指定できます。ユーザ レポートの形式はカスタマイズできます。

ユーザのレポートを生成する手順は、次のとおりです。

手順

ステップ 1 [一括管理(Bulk Administration)] > [ユーザ(Users)] > [ユーザレポートの作成(Generate User Reports)] の順に選択します。[ユーザの検索と一覧表示(Find and List Users)] ウィンドウが表示されます。



(注) クエリーを指定せずにすべてのユーザについてのレポートを生成できます。また、次に示す手順で、特定のユーザのレポートを生成できます。

ステップ 2 [検索対象: ユーザ、検索条件(Select Users Where)] スクロール ボックスで、クエリー オプション ([ユーザ ID(User ID)]、[部署名(Department)]、[名(First Name)]、[ミドルネーム(Middle Name)]、[姓(Last Name)]、[マネージャ(Manager)]) を選択します。

ステップ 3 2 番目のドロップダウン リスト ボックスで、次の検索条件から選択します。

- [が次の文字列で始まる (begins with)]
- [が次の文字列を含む (contains)]
- [が次の文字列と等しい (is exactly)]
- [が次の文字列で終わる (ends with)]
- [が空である (is empty)]
- [が空ではない (is not empty)]

ステップ 4 検索フィールド ボックスに、検索対象の値（たとえば、正確なユーザ ID またはユーザの姓）を入力します。

検索フィールド ボックスに複数の値を入力するには、カンマで区切ります（例：*JohnJ, PaulP, SueS, JoeJ*）。



ヒント データベースに登録されているすべてのユーザについてレポートを生成するには、検索テキストを入力せずに [検索 (Find)] をクリックします。

ステップ 5 [検索 (Find)] をクリックします。検索されたユーザ レコードのリストが表示されます。

ステップ 6 レポートのタイプについての詳細を選択する場合は、[次へ (Next)] をクリックします。クエリータイプを変更する場合は、[戻る (Back)] をクリックします。

ステップ 7 [ファイル名 (File Name)] フィールドに、このレポートの名前を入力します（必須）。

ステップ 8 [使用可能なフィールド (Available Fields)] ドロップダウン リスト ボックスで項目を選択し、矢印をクリックして項目をこのレポート リストの [選択済みのフィールド (Selected Fields)] に移動します。レポートに含めるフィールドは複数選択できます。

ステップ 9 このレポート リストの [選択済みのフィールド (Selected Fields)] 内の項目の順序を変更するには、項目を選択し、上向き矢印または下向き矢印をクリックして項目をリスト内の別の位置に移動します。

ステップ 10 [ジョブ情報 (Job Information)] 領域に、ジョブの説明を入力します。

ステップ 11 レポートを即座に生成するには、[今すぐ実行 (Run Immediately)] オプション ボタンをクリックします。後で生成するには、[後で実行 (Run Later)] をクリックします。

ステップ 12 ユーザ レポートを生成するジョブを作成するには、[送信 (Submit)] をクリックします。

ステップ 13 このジョブのスケジュールやアクティブ化を行うには、[一括管理 (Bulk Administration)] メインメニューの [ジョブスケジューラ (Job Scheduler)] オプションを使用します。

ジョブの詳細については、[第 82 章「ジョブのスケジュール」](#) を参照してください。

ログ ファイルの詳細については、[「BAT ログ ファイル」\(P.83-3\)](#) を参照してください。

レポート ファイルは、[一括管理 (Bulk Administration)] メニューの [ファイルのアップロード/ダウンロード (Upload/Download Files)] オプションを使用して検索またはダウンロードできます。詳細については、[第 2 章「ファイルのアップロードとダウンロード」](#) を参照してください。

追加情報

[「関連項目」\(P.22-3\)](#) を参照してください。

レポート ログ ファイルの表示

レポート トランザクションごとにログ ファイルが生成され、Cisco Unified Communications Manager サーバの最初のノードに格納されます。このジョブのログ ファイルへのリンクは、このジョブの [ジョブスケジューラ (Job Scheduler)] ウィンドウにあります。詳細については、[第 82 章「ジョブのスケジュール」](#) を参照してください。

追加情報

[「関連項目」\(P.22-3\)](#) を参照してください。

関連項目

- [「ユーザ レポートの生成」 \(P.22-1\)](#)
- [「レポート ログ ファイルの表示」 \(P.22-2\)](#)



CHAPTER 23

ライン アピアランス

ライン アピアランスとは、デバイスに対する回線のつながりを意味します。現在のエンド ユーザは、回線ではなくむしろライン アピアランスにリンクされていると言えます。

以前は、システムがシェアドラインなどの関係について詳細なプレゼンス情報を Cisco Unified Presence に提供しなかったため、プレゼンスの状態が不正確または不完全になっていました。ライン アピアランス機能を使うと、1 人のユーザに複数のライン アピアランスが関連付けられている場合、詳細な情報を提供できます。

BAT の [ラインアピアランス (Line Appearance)] メニューを使用して、ライン アピアランスを表示、エクスポートおよび更新できます。

- [ラインアピアランスの表示](#)
- [ラインアピアランスのエクスポート](#)
- [ラインアピアランスの更新](#)

ライン アピアランスの表示

複数のレコードに対応できるように、Cisco Unified Communications Manager では、固有の検索条件に基づいて特定のレコードを探し出すことができます。特定のライン アピアランスを見つける手順は、次のとおりです。



(注)

ブラウザセッションの作業中、クライアント マシンのクッキーは、検索/一覧表示の検索プリファレンスを保存します。別のメニュー項目に移動してからこのメニュー項目に戻った場合、またはブラウザを閉じてから新しいブラウザ ウィンドウを再度開いた場合、システムでは検索を変更するまで Cisco Unified Communications Manager 検索プリファレンスが保持されます。

ライン アピアランスを検索および表示する手順は、次のとおりです。

手順

- ステップ 1** [一括管理 (Bulk Administration)] > [ユーザ (Users)] > [ラインアピアランス (Line Appearance)] > [ラインアピアランスのエクスポート (Export Line Appearance)] の順に選択します。
[ユーザエクスポートのクエリー (Export Users Query)] ウィンドウが表示されます。
- ステップ 2** データベースのすべてのレコードを検索するには、ダイアログボックスが空であることを確認して、[ステップ 3](#) に進みます。

レコードをフィルタまたは検索する手順は、次のとおりです。

- 最初のドロップダウン リスト ボックスから、検索パラメータを選択します。
- 2 番目のドロップダウン リスト ボックスから、検索パターンを選択します。
- 必要に応じて、適切な検索テキストを指定します。



(注) その他の検索条件を追加するには、[+] ボタンをクリックします。検索条件を追加した場合、指定したすべての検索条件に一致するレコードが検索されます。検索条件を削除するには、[-] ボタンをクリックして、最後に追加した条件を削除するか、[フィルタのクリア (Clear Filter)] ボタンをクリックして、追加した検索条件をすべて削除します。

ステップ 3 [検索 (Find)] をクリックします。

すべてのレコードまたは一致するレコードが表示されます。[ページあたりの行数 (Rows per Page)] ドロップダウン リスト ボックスから異なる値を選択すると各ページに表示される項目数を変更できます。



(注) 複数のレコードをデータベースから削除するには、該当するレコードの横のチェックボックスをオンにし、[選択項目の削除 (Delete Selected)] をクリックします。[すべてを選択 (Select All)] をクリックしてから [選択項目の削除 (Delete Selected)] をクリックすると、この選択で設定可能なすべてのレコードを削除できます。

ステップ 4 表示するレコードのリストから、表示するレコードのリンクをクリックします。



(注) ソート順序を逆にするには、リスト ヘッダーの上向き矢印または下向き矢印をクリックします (ある場合)。

選択した項目がウィンドウに表示されます。

ラインアピアランスのエクスポート

エクスポートするラインアピアランスの項目を選択した後、ラインアピアランスをエクスポートする手順は、次のとおりです。

始める前に

1. エクスポートするラインアピアランスの詳細が記載されたテキスト ファイルを作成します。
2. カスタム ファイルを Cisco Unified Communications Manager の最初のノードにアップロードします。詳細については、「[ファイルのアップロード](#)」(P.2-3) を参照してください。
3. エクスポートするレコードを検索します。詳細については、「[ラインアピアランスの表示](#)」(P.23-1) を参照してください。

ラインアピアランスをエクスポートする手順は、次のとおりです。

手順

ステップ 1 エクスポートする項目を見つけたら、[次へ (Next)] をクリックします。[ラインアピアランスのエクスポートの設定 (Export Line Appearance Configuration)] ウィンドウが表示されます。

ステップ 2 [ファイル名 (File Name)] フィールドにカスタム ファイルのファイル名を入力します。

- ステップ 3** [ファイル形式 (File Format)] ドロップダウン リスト ボックスでファイル形式を選択します。デフォルトでは [Line Appearance Format] が選択されていることに注意してください。
- ステップ 4** 次のチェックボックスの 1 つ以上をオンにします。
- [CUP ユーザのラインアピアランスのみエクスポート (Export line appearances for CUP users only)] : Cisco Unified Presence ユーザに対してのみエクスポート操作を実行します。
 - [すべてのプライマリ内線のラインアピアランスのエクスポート (Export line appearances for all the primary extensions)] : ユーザが関連付けられた回線を共有するすべてのデバイスのラインアピアランスをエクスポートします。
 - [関連付けられているデバイスのラインアピアランスのエクスポート (Export line appearances for the devices associated)] : ユーザが関連付けられたデバイスを共有するすべての回線のラインアピアランスをエクスポートします。
- ステップ 5** [ジョブ情報 (Job Information)] 領域に、ジョブの説明を入力します。
- ステップ 6** ラインアピアランスを即座にエクスポートするには、[今すぐ実行 (Run Immediately)] オプション ボタンをクリックします。後でエクスポートするには、[後で実行 (Run Later)] をクリックします。
- ステップ 7** ラインアピアランスをエクスポートするジョブを作成するには、[送信 (Submit)] をクリックします。
- ステップ 8** このジョブのスケジュールやアクティブ化を行うには、[一括管理 (Bulk Administration)] メインメニューの [ジョブスケジューラ (Job Scheduler)] オプションを使用します。
ジョブの詳細については、[第 82 章「ジョブのスケジュール」](#) を参照してください。
- ステップ 9** ログファイルの詳細については、「[BAT ログファイル](#)」(P.83-3) を参照してください。ログファイルには、更新されたユーザ数と失敗したレコード数 (エラー コードを含む) が示されます。

追加情報

「[関連項目](#)」(P.23-4) を参照してください。

ラインアピアランスの更新

始める前に

1. 更新するラインアピアランスについて次の詳細を記載するテキストファイルを作成します。
 - ユーザ ID
 - デバイス
 - 電話番号
 - パーティション (オプション)
2. テキストファイルで 1 行に 1 項目ずつ配置します。
3. カスタムファイルを Cisco Unified Communications Manager サーバにアップロードします。ファイルのアップロードの詳細については、「[ファイルのアップロード](#)」(P.2-3) を参照してください。
カスタムファイルに記載されているラインアピアランスを更新する手順は、次のとおりです。

手順

- ステップ 1** [一括管理 (Bulk Administration)] > [ユーザ (Users)] > [ラインアピアランス (Line Appearance)] > [ラインアピアランスの更新 (Line Appearance)] の順に選択します。
- [ラインアピアランス更新の設定 (Update Line Appearance Configuration)] ウィンドウが表示されます。
- ステップ 2** [ファイル名 (File Name)] ドロップダウン リスト ボックスから、カスタム ファイル名を選択します。
- ステップ 3** Cisco Unified Presence ユーザのラインアピアランスのみを更新する場合は、[CUP ユーザのラインアピアランスのみ更新 (Update line appearance for CUP users only)] チェックボックスをオンにします。
- ステップ 4** ラインアピアランスの関連付けを解除するには、[ラインアピアランスの関連付け解除 (Disassociate line appearances)] チェックボックスをオンにします。
- ステップ 5** [ジョブ情報 (Job Information)] 領域に、ジョブの説明を入力します。
- ステップ 6** ラインアピアランスを即座に更新するには、[今すぐ実行 (Run Immediately)] オプション ボタンをクリックします。後で更新するには、[後で実行 (Run Later)] をクリックします。
- ステップ 7** ラインアピアランスを更新するジョブを作成するには、[送信 (Submit)] をクリックします。
- ステップ 8** このジョブのスケジュールやアクティブ化を行うには、[ジョブスケジューラ (Job Scheduler)] ウィンドウを使用します。
- ジョブの詳細については、[第 82 章「ジョブのスケジュール」](#) を参照してください。
- ログ ファイルの詳細については、「[BAT ログ ファイル](#)」(P.83-3) を参照してください。



- (注) [ラインアピアランスの更新 (Update Line Appearance)] トランザクションを正常に実行するには、回線をエンド ユーザに関連付けておく必要があります。

追加情報

「[関連項目](#)」(P.23-4) を参照してください。

関連項目

- 「[ラインアピアランスのエクスポート](#)」(P.23-2)
- 「[ラインアピアランスの更新](#)」(P.23-3)



CHAPTER 24

エンド ユーザ CAPF プロファイル

Cisco Unified Communications Manager 一括管理ツールを使用して、Cisco Unified Communications Manager データベース内の既存のエンド ユーザに CAPF プロファイルを追加できます。

次のトピックでは、エンド ユーザ CAPF プロファイルを管理するオプションについて説明します。

- 「エンド ユーザ CAPF プロファイルの挿入」 (P.24-1)
- 「エンド ユーザ CAPF プロファイルの削除」 (P.24-2)
- 「エンド ユーザ CAPF プロファイルのエクスポート」 (P.24-3)

エンド ユーザ CAPF プロファイルの挿入

次の手順を使用して、エンド ユーザの CAPF プロファイルを一括で挿入します。

始める前に

エンド ユーザ CAPF プロファイルには、固有の詳細情報を含む Comma-Separated Value (CSV; カンマ区切り値) 形式のデータ ファイルが必要です。

この CSV データ ファイルは、次のいずれかの方法で作成できます。

- BAT スプレッドシートを CSV 形式に変換する。
- エクスポート ユーティリティで、エンド ユーザ CAPF プロファイル データのエクスポート ファイルを作成する。

手順

- ステップ 1** [一括管理 (Bulk Administration)] > [ユーザ (Users)] > [エンドユーザ CAPF プロファイル (End User CAPF Profile)] > [エンドユーザ CAPF プロファイルの挿入 (Insert End User CAPF Profile)] の順に選択します。
[エンドユーザ CAPF プロファイル設定の挿入 (Insert End User CAPF Profile Configuration)] ウィンドウが表示されます。
- ステップ 2** [ファイル名 (File Name)] ドロップダウン リスト ボックスで、この特定のバルク トランザクション用に作成した CSV データ ファイルを選択します。
- ステップ 3** 挿入するファイルに含まれる情報で既存の CAPF プロファイル設定を上書きするには、[既存の設定の上書き (Override the existing configuration)] チェックボックスをオンにします。
- ステップ 4** [ジョブ情報 (Job Information)] 領域に、ジョブの説明を入力します。

- ステップ 5** [今すぐ実行 (Run Immediately)] オプション ボタンをクリックしてプロファイルを即座に挿入するか、[後で実行 (Run Later)] をクリックして後で挿入します。
- ステップ 6** [送信 (Submit)] をクリックして、CAPF プロファイルを挿入するジョブを作成します。
- ステップ 7** [一括管理 (Bulk Administration)] メイン メニューの [ジョブスケジューラ (Job Scheduler)] オプションを使用して、このジョブのスケジュールやアクティブ化を行います。
- ジョブの詳細については、[第 82 章「ジョブのスケジュール」](#)を参照してください。
- ログ ファイルの詳細については、「[BAT ログ ファイル](#)」(P.83-3) を参照してください。



(注) レコードの情報に何らかの問題がある場合、BAT はその CAPF プロファイル レコードを挿入しないことに注意してください。

追加情報

「[関連項目](#)」(P.24-5) を参照してください。

エンド ユーザ CAPF プロファイルの削除

ここでは、Cisco Unified Communications Manager データベースからエンド ユーザ CAPF プロファイルを削除する方法について説明します。

始める前に

Cisco Unified Communications Manager の管理ページからエンド ユーザ CAPF プロファイルを削除する前に、次の作業を実行する必要があります。

- テキスト ファイルを作成し、削除するエンド ユーザ CAPF プロファイルを 1 行に 1 つずつ指定します。
- カスタム ファイルを Cisco Unified Communications Manager サーバの最初のノードにアップロードします。詳細については、[第 2 章「ファイルのアップロードとダウンロード」](#)を参照してください。

カスタム ファイルを使用してエンド ユーザ CAPF プロファイルを削除する手順は、次のとおりです。



(注) 削除トランザクション用に bat.xlt として作成したトランザクション ファイルを挿入またはエクスポートしないでください。代わりに、削除が必要なエンド ユーザ CAPF プロファイル レコードの詳細情報を記述したカスタム ファイルを作成します。削除トランザクションには、このファイルしか使用しないでください。カスタム削除ファイルにはヘッダーは不要であり、インスタンス ID またはエンド ユーザ ID の値を入力できます。

手順

-
- ステップ 1** [一括管理 (Bulk Administration)] > [ユーザ (Users)] > [エンドユーザ CAPF プロファイル (End User CAPF Profile)] > [エンドユーザ CAPF プロファイルの削除 (Delete End User CAPF Profile)] の順に選択します。
- [エンドユーザ CAPF プロファイル設定の削除 (Delete End User CAPF Profile Configuration)] ウィンドウが表示されます。
- ステップ 2** [削除 エンドユーザ CAPF プロファイル、検索条件: エンドユーザ ID/ インスタンス ID が次のカスタムファイル内にある (Delete End User CAPF Profile where End User ID/ Instance ID in custom file)] ドロップダウンリスト ボックスで、エンドユーザ CAPF プロファイルを削除するためにアップロードしたファイルを選択します。
- ステップ 3** [検索 (Find)] をクリックします。
- [ジョブ情報 (Job Information)] セクションが表示され、選択したエンドユーザ CAPF プロファイルが示されます。
- ステップ 4** 対応するオプション ボタンを選択して、ジョブをすぐに実行するか、後で実行するかを選択できます。
- ステップ 5** [送信 (Submit)] をクリックして、エンドユーザ CAPF プロファイルを削除するジョブを作成します。
- [ステータス (Status)] セクションのメッセージで、ジョブが正常に送信されたことが示されます。
- ステップ 6** [一括管理 (Bulk Administration)] メイン メニューの [ジョブスケジューラ (Job Scheduler)] オプションを使用して、このジョブのスケジュールやアクティブ化を行います。
-

追加情報

「関連項目」(P.24-5) を参照してください。

エンドユーザ CAPF プロファイルのエクスポート

BAT を使用してエンドユーザ CAPF プロファイルをエクスポートする手順は、次のとおりです。

手順

-
- ステップ 1** [一括管理 (Bulk Administration)] > [ユーザ (Users)] > [エンドユーザ CAPF プロファイル (End User CAPF Profile)] > [エンドユーザ CAPF プロファイルのエクスポート (Export End User CAPF Profile)] の順に選択します。
- [エクスポートするエンドユーザ CAPF プロファイルの検索と一覧表示 (Find and List End User CAPF Profiles To Export)] ウィンドウが表示されます。
- ステップ 2** 最初の [検索対象: エンドユーザ CAPF プロファイル、検索条件 (Find End User CAPF Profile where)] ドロップダウン リスト ボックスで、次のオプションからクエリーを行うフィールドを選択します。
- [インスタンス ID (Instance Id)]
 - [エンドユーザ ID (End User Id)]

- ステップ 3** 2 番目のドロップダウン リスト ボックスで、次のいずれかのオプションを選択します。
- [が次の文字列で始まる (begins with)]
 - [が次の文字列を含む (contains)]
 - [が次の文字列と等しい (is exactly)]
 - [が次の文字列で終わる (ends with)]
 - [が空である (is empty)]
 - [が空ではない (is not empty)]
- ステップ 4** 検索フィールド ボックスに、検索する値（たとえば、特定のインスタンス ID またはエンド ユーザ ID）を入力します。
- ステップ 5** 複数のフィルタを追加するには、[AND] または [OR] をクリックします。クエリーをさらに定義するには、[ステップ 2](#)～[ステップ 4](#) を繰り返します。
- ステップ 6** [検索 (Find)] をクリックします。
- 一致するすべてのレコードが表示されます。[ページあたりの行数 (Rows per Page)] ドロップダウン リスト ボックスから異なる値を選択すると各ページに表示される項目数を変更できます。
- ステップ 7** 表示されるレコードリストから、目的のレコードのリンクをクリックします。
- データベースに登録されているすべてのユーザを検索するには、検索テキストを入力せずに [検索 (Find)] をクリックします。
- 選択したレコードがウィンドウに表示されます。
- ステップ 8** [次へ (Next)] をクリックします。
- [エンドユーザ CAPF プロファイル設定のエクスポート (Export End User CAPF Profile Configuration)] ウィンドウが表示されます。
- ステップ 9** [ファイル名 (File Name)] テキスト ボックスに、エクスポートするエンド ユーザ CAPF のファイル名を入力します。
- ステップ 10** [ファイル形式 (File Format)] ドロップダウン リスト ボックスで CAPF ファイルの形式を選択します。
- ステップ 11** [ジョブ情報 (Job Information)] 領域に、ジョブの説明を入力します。
- ステップ 12** [今すぐ実行 (Run Immediately)] オプション ボタンをクリックしてエンド ユーザ CAPF プロファイル を即座にエクスポートするか、[後で実行 (Run Later)] をクリックして後でエクスポートします。
- ステップ 13** [送信 (Submit)] をクリックして、エンド ユーザ CAPF プロファイルをエクスポートするジョブを作成 します。
- [一括管理 (Bulk Administration)] メイン メニューの [ジョブスケジューラ (Job Scheduler)] オプションを使用して、このジョブのスケジュールやアクティブ化を行います。
- フィールドの詳細については、「[BAT スプレッドシートを使用したエンド ユーザ CAPF プロファイル 用 CSV データ ファイルの作成](#)」(P.24-5) を参照してください。
- ジョブの詳細については、[第 82 章「ジョブのスケジュール」](#) を参照してください。
- ログ ファイルの詳細については、「[BAT ログ ファイル](#)」(P.83-3) を参照してください。

追加情報

- 「[関連項目](#)」(P.24-5) を参照してください。

BAT スプレッドシートを使用したエンドユーザ CAPF プロファイル用 CSV データ ファイルの作成

表 24-1 では、エンドユーザ CAPF プロファイルを挿入、削除、またはエクスポートする際に表示されるフィールドについて説明します。

BAT ユーザ インターフェイスでは、アスタリスクが付いているフィールドには値を入力する必要があります。アスタリスクの付いていないフィールドはオプションです。

表 24-1 BAT でのエンドユーザ CAPF プロファイルのフィールドの説明

フィールド	説明
[エンドユーザ ID(End User Id)]	エンドユーザのユーザ ID を入力します。
[インスタンス ID(Instance Id)]	1 ~ 128 字の英数字 (a ~ z, A ~ Z, 0 ~ 9) を入力します。インスタンス ID は、証明書操作のためユーザを識別します。
[証明書の操作 (Certificate Operation)]	次のオプションのいずれかを入力します。 <ul style="list-style-type: none"> [保留中の操作なし (No Pending Operation)] : 証明書の操作が発生しないときに表示されます。これは、認証操作のデフォルト設定です。 [インストール/アップグレード (Install/Upgrade)] : アプリケーションのローカルで有効な証明書を新しくインストールするか、あるいは既存の証明書をアップグレードします。
[認証モード (Authentication Mode)]	証明書のインストールまたはアップグレード操作の認証モードは [認証ストリング (By Authentication String)] です。これは、ユーザまたは管理者が JTAPI/TSP の初期設定ウィンドウで CAPF 認証文字列を入力したときにだけ、ローカルで有効な証明書がインストール、アップグレード、またはトラブルシューティングされることを意味します。
[認証文字列 (Authentication String)]	4 ~ 10 桁の数値を入力します。
[キーサイズ (Key Size、ビット)]	証明書のキーサイズを入力します。デフォルト設定は 1024 です。その他のオプションには 512 と 2048 があります。
[操作の完了期限 (Operation Completes By)]	このフィールドは、すべての証明書操作をサポートし、操作を完了する必要がある期限の日付と時刻を指定します。

関連項目

- 「エンドユーザ CAPF プロファイルの挿入」 (P.24-1)
- 「エンドユーザ CAPF プロファイルの削除」 (P.24-2)
- 「エンドユーザ CAPF プロファイルのエクスポート」 (P.24-3)
- 「BAT スプレッドシートを使用したエンドユーザ CAPF プロファイル用 CSV データ ファイルの作成」 (P.24-5)

■ 関連項目



PART 5

電話機とユーザ



CHAPTER 25

電話機とユーザ

Cisco Unified Communications Manager 一括管理を使用すると、Cisco Unified Communications Manager サーバ上にユーザのグループとその電話機を 1 回のバルク トランザクションで追加できます。電話機用の CSV データ ファイルを作成するには、次の 2 つのオプションがあります。

- BAT スプレッドシート (BAT.xlt) を使用し、データを CSV 形式にエクスポートする。
- テキスト エディタを使用して、CSV 形式のテキスト ファイルを作成する (経験豊富なユーザ向け)。

[ユーザ付きの電話の挿入 (Insert Phones with Users)] オプションにアクセスするには、Cisco Unified Communications Manager の管理ページのメインメニューから [一括管理 (Bulk Administration)] > [電話とユーザ (Phones and Users)] を選択します。

新しい電話機とユーザの追加

ユーザと電話機を挿入する手順は、次のとおりです。

1. 更新する電話機レコードおよびユーザ レコードごとに個々の値を定義するには、カンマ区切り値 (CSV) データ ファイルを作成します。
 - 詳細については、「[BAT スプレッドシートを使用した電話機とユーザの追加](#)」(P.25-2) を参照してください。
 - テキストベースの CSV ファイルについては、「[電話機とユーザの組み合わせのファイル形式](#)」(P.A-3) を参照してください。
2. ファイル形式と CSV データ ファイルを関連付けます。
 - 詳細については、「[電話機とユーザのファイル形式の追加](#)」(P.26-1) を参照してください。
3. 電話機とユーザ レコードを検証します。
 - 詳細については、「[電話機レコードとユーザ レコードの検証](#)」(P.27-1) を参照してください。
4. 電話機とユーザ レコードを挿入します。
 - 詳細については、「[電話機とユーザの Cisco Unified Communications Manager への挿入](#)」(P.28-1) を参照してください。

BAT スプレッドシートを使用した電話機とユーザの追加

電話機とユーザを一括して追加するための CSV データ ファイルを作成する手順は、次のとおりです。

BAT スプレッドシートのインストール方法と使用方法については、「[BAT スプレッドシートをデータ収集に使用する方法](#)」(P.1-9) を参照してください。

手順

- ステップ 1** BAT スプレッドシートを開くには、**BAT.xlt** ファイルを検索し、それをダブルクリックします。**BAT.xlt** ファイルのダウンロードの詳細については、[第 2 章「ファイルのアップロードとダウンロード」](#)を参照してください。
- ステップ 2** プロンプトが表示されたら、[マクロを有効にする] ボタンをクリックして、スプレッドシート機能を使用します。
- ステップ 3** スプレッドシートの下部にある [Phones-Users] タブをクリックします。
- ステップ 4** 「[BAT スプレッドシートを使用した電話機用 CSV データ ファイルの作成](#)」(P.3-57) のステップ 4 ~ 14 の作業を行います。
ユーザ情報フィールドの説明については、「[表 15-1 ユーザ追加用の BAT スプレッドシート内のフィールドの説明](#)」(P.15-2) を参照してください。

追加情報

「[関連項目](#)」(P.25-2) を参照してください。

関連項目

- 「[新しい電話機とユーザの追加](#)」(P.25-1)
- 「[電話機とユーザの組み合わせのファイル形式](#)」(P.A-3)
- 「[電話機とユーザのファイル形式の追加](#)」(P.26-1)
- 「[電話機レコードとユーザレコードの検証](#)」(P.27-1)
- [電話機とユーザの Cisco Unified Communications Manager への挿入](#)



CHAPTER 26

電話機とユーザのファイル形式

カンマ区切り値 (CSV) データ ファイルを作成するには、更新するユーザごとに個々の値を定義します。

- 詳細については、「[BAT スプレッドシートを使用した電話機とユーザの追加 \(P.25-2\)](#)」を参照してください。
- テキストベースの CSV ファイルについては、「[電話機とユーザの組み合わせのファイル形式 \(P.A-3\)](#)」を参照してください。

テキスト エディタを使用して CSV データ ファイルを作成した場合は、テキストベースのファイルに値を入力するためのファイル形式をすでに作成したということになります。値は、ファイル形式で指定されている順序でテキスト ファイルに入力済みです。

CSV データ ファイルが完成したら、ファイル形式をテキストベースの CSV データ ファイルに関連付ける必要があります。ファイル形式を CSV ファイルに関連付けると、各フィールドの名前は CSV データ ファイルの最初のレコードとして表示されます。この情報を使用して、各フィールドの値を正しい順序で入力してあることが確認できます。

電話機とユーザのファイル形式の追加

テキストベースの CSV データ ファイルでファイル形式を追加する手順は、次のとおりです。

手順

- ステップ 1** [一括管理 (Bulk Administration)] > [電話とユーザ (Phones and Users)] > [電話とユーザのファイル形式 (Phones & Users File Format)] > [ファイル形式の割り当て (Assign File Format)] の順に選択します。[ファイル形式の追加 (Add File Format Configuration)] ウィンドウが表示されます。
- ステップ 2** [ファイル名 (File Name)] フィールドで、このトランザクション用に作成したテキストベースの CSV ファイルを選択します。
- ステップ 3** [形式ファイル名 (Format File Name)] フィールドで、このタイプのバルク トランザクション用に作成したファイル形式を選択します。
- ステップ 4** 一致するファイル形式を CSV データ ファイルに関連付けるジョブを作成するには、[送信 (Submit)] をクリックします。
- ステップ 5** このジョブのスケジュールやアクティブ化を行うには、[一括管理 (Bulk Administration)] メインメニューの [ジョブスケジューラ (Job Scheduler)] オプションを使用します。

ジョブの詳細については、[第 82 章「ジョブのスケジュール」](#)を参照してください。
ログ ファイルの詳細については、「[BAT ログ ファイル](#)」(P.83-3)を参照してください。



(注)

ファイル形式を追加すると、ユーザ フィールドが自動的に追加されます。

追加情報

「[関連項目](#)」(P.26-2)を参照してください。

関連項目

- 「[BAT スプレッドシートを使用した電話機とユーザの追加](#)」(P.25-2)
- 「[電話機とユーザの組み合わせのファイル形式](#)」(P.A-3)
- 「[BAT ログ ファイル](#)」(P.83-3)



CHAPTER 27

電話機とユーザの検証

Cisco Unified Communications Manager 一括管理 (BAT) を使用すると、Cisco Unified Communications Manager サーバ上にユーザのグループとその電話機を 1 回のバルク トランザクションで追加できます。電話機用の CSV データ ファイルを作成するには、次の 2 つのオプションがあります。

- BAT スプレッドシート (BAT.xlt) を使用し、データを CSV 形式にエクスポートする。
- テキスト エディタを使用して、CSV 形式のテキスト ファイルを作成する (経験豊富なユーザ向け)。

[ユーザ付きの電話の挿入 (Insert Phones with Users)] オプションにアクセスするには、Cisco Unified Communications Manager の管理ページのメイン メニューから [一括管理 (Bulk Administration)] > [電話とユーザ (Phones and Users)] を選択します。

始める前に

1. カンマ区切り値 (CSV) データ ファイルを作成して、検証する電話機およびユーザごとに個々の値を定義します。
 - 詳細については、「[電話機レコードとユーザ レコードの検証](#)」(P.27-1) を参照してください。
 - テキストベースの CSV ファイルについては、「[電話機とユーザの組み合わせのファイル形式](#)」(P.A-3) を参照してください。
2. ファイル形式と CSV データ ファイルを関連付けます。
 - 詳細については、「[ファイル形式と CSV データ ファイルの関連付け](#)」(P.4-6) を参照してください。

電話機レコードとユーザ レコードの検証

[電話/ユーザの確認 (Validate Phones/Users)] を選択すると、システムが検証ルーチンを実行して、CSV データ ファイルおよび BAT 電話機テンプレートで、デバイス プールやロケーションなどのすべての必須フィールドが指定されているかどうかをチェックします。この検証によってチェックされるのは、デバイス フィールドとそのデバイス フィールドが依存するフィールドだけです。



(注)

ユーザのプライマリ内線とプライマリ ユーザ デバイスは検証されないことに注意してください。

始める前に

- 追加するデバイスの BAT 電話機テンプレートが必要です。単一回線または複数回線を持つ電話機を追加するには、複数回線を持つマスター電話機テンプレートを使用できます。詳細については、「[マスター電話機テンプレート](#)」(P.1-5) を参照してください。

- 次のオプションのいずれかによって作成された CSV データ ファイルが必要です。
 - 「電話機レコードとユーザレコードの検証」(P.27-1)
 - 「電話機とユーザの組み合わせのファイル形式」(P.A-3) で、テキストベースの CSV ファイルを作成

CSV データ ファイルのレコードを検証する手順は、次のとおりです。

手順

-
- ステップ 1** [一括管理 (Bulk Administration)] > [電話とユーザ (Phones and Users)] > [電話/ユーザの確認 (Validate Phones/Users)] の順に選択します。[電話/ユーザの確認 (Validate Phones/Users Configuration)] ウィンドウが表示されます。
- ステップ 2** [ファイル名 (File Name)] フィールドで、この特定のバルク トランザクション用に作成した CSV データ ファイルを選択します。
- ステップ 3** [電話テンプレート名 (Phone Template Name)] フィールドで、このバルク トランザクション用に作成した BAT 電話機テンプレートを選択します。
- ステップ 4** ユーザと電話機を検証するジョブを作成するには、[送信 (Submit)] をクリックします。
- ステップ 5** このジョブのスケジュールやアクティブ化を行うには、[一括管理 (Bulk Administration)] メインメニューの [ジョブスケジューラ (Job Scheduler)] オプションを使用します。
- ジョブの詳細については、第 82 章「ジョブのスケジュール」を参照してください。
- ログファイルの詳細については、「BAT ログファイル」(P.83-3) を参照してください。
-

追加情報

「関連項目」(P.27-2) を参照してください。

関連項目

- 「電話機とユーザの組み合わせのファイル形式」(P.A-3)
- 「ファイル形式と CSV データ ファイルの関連付け」(P.4-6)
- 「BAT ログファイル」(P.83-3)
- ジョブのスケジュール



CHAPTER 28

電話機とユーザの挿入

電話機とユーザのグループを Cisco Unified Communications Manager データベースとディレクトリに追加する手順は、次のとおりです。

電話機とユーザの Cisco Unified Communications Manager への挿入

始める前に

1. カンマ区切り値 (CSV) データ ファイルを作成して、挿入する電話機およびユーザごとに個々の値を定義します。
 - 詳細については、「[BAT スプレッドシートを使用した電話機とユーザの追加](#)」(P.25-2) を参照してください。
 - テキストベースの CSV ファイルについては、「[電話機とユーザの組み合わせのファイル形式](#)」(P.A-3) を参照してください。
2. ファイル形式と CSV データ ファイルを関連付けます。
 - 詳細については、「[電話機とユーザのファイル形式の追加](#)」(P.26-1) を参照してください。
3. 電話機とユーザ レコードを検証します。
 - 詳細については、「[電話機レコードとユーザ レコードの検証](#)」(P.27-1) を参照してください。

電話機とユーザを Cisco Unified Communications Manager に挿入する手順は、次のとおりです。

手順

- ステップ 1** [一括管理 (Bulk Administration)] > [電話とユーザ (Phones & Users)] > [ユーザ付きの電話の挿入 (Insert Phones with Users)] の順に選択します。
[電話 / ユーザの挿入 (Insert Phones/Users Configuration)] ウィンドウが表示されます。
- ステップ 2** [ファイル名 (File Name)] フィールドで、このバルク トランザクション用に作成した CSV データ ファイルを選択します。
- ステップ 3** [電話テンプレート名 (Phone Template Name)] フィールドで、このトランザクション用に作成した BAT 電話機テンプレートを選択します。
CSV データ ファイルに個々の MAC アドレスを入力しなかった場合は、[ダミー MAC アドレスの作成 (Create Dummy MAC Address)] チェックボックスをオンにする必要があります。CTI ポートを追加する場合、ダミー MAC アドレス オプションを使用すると、ダミー MAC アドレスの形式で、CTI ポートごとに固有のデバイス名が指定されます。

このフィールドは、BATXXXXXXXXXXXX という形式でダミー MAC アドレスを自動生成します。X は任意の 12 文字の 16 進数 (0 ~ 9 および A ~ F) を表します。

- ユーザに割り当てられる電話機の MAC アドレスがわからない場合に、このオプションを使用します。電話機が接続されると、そのデバイスに対する MAC アドレスが登録されます。
- データ入力ファイルに MAC アドレスまたはデバイス名を指定した場合は、このオプションを選択しないでください。

Cisco Unified Communications Manager の管理ページにこの情報を手作業で入力するか、または、Unified CM Auto-Register Phone Tool を使用すると、後で、電話機またはデバイスを正しい MAC アドレスで更新できます。Unified CM Auto-Register Phone Tool の詳細については、「[TAPS の概要](#)」(P.80-2) を参照してください。

- ステップ 4** [ユーザテンプレート名 (User Template Name)] フィールドで、このトランザクション用に作成した BAT ユーザ テンプレートを選択します。
- ステップ 5** [ジョブ情報 (Job Information)] 領域に、ジョブの説明を入力します。
- ステップ 6** ユーザを持つ電話機を即座に挿入するには、[今すぐ実行 (Run Immediately)] オプション ボタンをクリックします。ユーザを持つ電話機を後で挿入するには、[後で実行 (Run Later)] をクリックします。
- ステップ 7** ユーザ レコードを削除するジョブを作成するには、[送信 (Submit)] をクリックします。
- ステップ 8** このジョブのスケジュールやアクティブ化を行うには、[一括管理 (Bulk Administration)] メインメニューの [ジョブスケジューラ (Job Scheduler)] オプションを使用します。
- ジョブの詳細については、[第 82 章「ジョブのスケジュール」](#) を参照してください。
- ログ ファイルの詳細については、「[BAT ログ ファイル](#)」(P.83-3) を参照してください。

追加情報

「[関連項目](#)」(P.28-2) を参照してください。

関連項目

- 「[BAT スプレッドシートを使用した電話機とユーザの追加](#)」(P.25-2)
- 「[電話機とユーザの組み合わせのファイル形式](#)」(P.A-3)
- 「[電話機とユーザのファイル形式の追加](#)」(P.26-1)
- 「[電話機レコードとユーザ レコードの検証](#)」(P.27-1)
- 「[ジョブのスケジュール](#)」(P.82-1)
- 「[TAPS の概要](#)」(P.80-2)
- 「[BAT ログ ファイル](#)」(P.83-3)



PART 6

マネージャとアシスタント



CHAPTER 29

Cisco Unified Communications Manager Assistant の使用方法

Cisco Unified Communications Manager 一括管理 (BAT) を使用すると、Cisco Unified Communications Manager の Cisco Unified Communications Manager Assistant 機能を管理できます。BAT では、マネージャやアシスタントの IP Phone を追加できます。詳細については、次の項を参照してください。

- 「プロキシ回線モードでの Cisco Unified Communications Manager Assistant 用の電話機の設定」 (P.29-2)
- 「シェアドラインモードでの Cisco Unified Communications Manager Assistant 用の電話機の設定」 (P.29-8)

マネージャまたはアシスタントとそのアソシエーションをバルク トランザクションで追加、更新、および削除できます。詳細については、「マネージャとアシスタントのアソシエーション用の CSV データファイルの作成」 (P.29-10) を参照してください。

次のトピックでは、BAT を使用して Cisco Unified CM Assistant を管理するためのオプションについて説明します。

- 「Cisco Unified Communications Manager へのマネージャとアシスタントのアソシエーションの挿入」 (P.30-1)
- 「マネージャとアシスタントのアソシエーションの削除」 (P.31-1)
- 「Cisco Unified Communications Manager からのマネージャの削除」 (P.32-1)
- 「Cisco Unified Communications Manager からのアシスタントの削除」 (P.33-1)

Cisco Unified CM Assistant の詳細については、次のマニュアルを参照してください。

- 『Cisco Unified Communications Manager 機能およびサービス ガイド』
- 『Cisco Unified Communications Manager Assistant User Guide』

Cisco Unified Communications Manager Assistant で使用する電話機と回線の概要

Cisco Unified CM Assistant 機能は、いくつかの Cisco Unified IP Phone モデルとデバイス プロファイルに対して利用できます。Cisco Unified CM Assistant には、マネージャとアシスタントの回線で Cisco Unified CM Assistant 機能を利用するための設定モードとして、次の 2 つが用意されています。

- プロキシ モード：プライマリ マネージャ回線は、アシスタントの電話機とは異なる電話番号を持つプロキシ回線と関連付けられます。詳細については、「[プロキシ回線モードでの Cisco Unified Communications Manager Assistant 用の電話機の設定](#)」(P.29-2) を参照してください。
- シェアドライン モード：マネージャとアシスタントの電話機がシェアドラインを持ち、同じ電話番号とパーティションを使用します。詳細については、「[シェアドライン モードでの Cisco Unified Communications Manager Assistant 用の電話機の設定](#)」(P.29-8) を参照してください。



(注)

ユーザをデバイスや電話機に関連付けられるのは、Unified CM Assistant がサポートされている場合だけです。

BAT を使用して、マネージャとアシスタントの電話機に、プロキシ回線またはシェアドラインを設定することができます。

プロキシ回線モードでの Cisco Unified Communications Manager Assistant 用の電話機の設定

マネージャの電話機とアシスタントの電話機が Unified CM Assistant プロキシ回線をサポートするよう設定するには、次のタスクを実行する必要があります。

1. Cisco Unified CM Assistant 設定ウィザードを使用して、システムに Unified CM Assistant の要件を設定することをお勧めします。このウィザードは、Unified CM Assistant マネージャとアシスタント、ルート ポイント、パーティション、トランスレーション パターン、および Cisco Unified CM Assistant サービスのコーリング サーチ スペースについて、電話機テンプレートを自動的に作成します。Cisco Unified CM Assistant 設定ウィザードを実行するには、BAT とウィザードが同じサーバにある必要があります。Cisco Unified CM Assistant 設定ウィザードの実行方法については、『[Cisco Unified Communications Manager 機能およびサービス ガイド](#)』を参照してください。



(注)

Cisco Unified CM Assistant 設定ウィザードは、システムの Unified CM Assistant 設定上の要件を設定するときに一度だけ使用できます。この設定ウィザードを実行した後は、設定内容をウィザードで表示できますが、変更はできません。

2. マネージャとアシスタント用に新しい電話機とユーザを追加するには、Cisco Unified CM Assistant 設定ウィザードによって BAT サーバ上に作成される Unified CM Assistant マネージャと Unified CM Assistant アシスタントの電話機テンプレートを使用します。BAT テンプレートは、プロキシ モードの電話機を設定する場合にだけ使用します。テンプレートの詳細については、「[Cisco Unified Communications Manager Assistant マネージャとアシスタントの電話機テンプレートのデフォルト設定値](#)」(P.29-3) を参照してください。

3. 既存のマネージャとアシスタントの電話機については、次のいずれかの方法を使用して、Unified CM Assistant 電話機テンプレートに対応するように変更できます。
 - BAT の回線の追加機能を使用して、既存の電話機を Unified CM Assistant 電話機テンプレートに類似した形式に変更できます。詳細については、「[既存の電話機および UDP への回線の追加](#)」(P.10-10) を参照してください。
 - マネージャとアシスタントの Unified CM Assistant 電話機テンプレートを使用し、元の電話機を削除して、新しい電話機を追加できます。「[電話機の追加](#)」(P.3-1) の新しい電話機の設定手順に従ってください。
4. マネージャとアシスタントについて電話機と回線を設定し終わったら、マネージャとアシスタントの回線を関連付けて Unified CM Assistant で制御できるようにします。Unified CM Assistant の回線設定については、「[マネージャとアシスタントのプロキシ回線設定](#)」(P.29-4) を参照してください。

Cisco Unified Communications Manager Assistant マネージャとアシスタントの電話機テンプレートのデフォルト設定値

表 29-1 に、Unified CM Assistant マネージャ電話機テンプレートのデフォルト設定値を示します。

表 29-1 プロキシ回線用のマネージャ電話機テンプレートのデフォルト設定値

フィールド	デフォルト値
[ソフトキーテンプレート (Softkey Template)]	Softkey Template Standard Manager
[電話ボタンテンプレート (Phone Button Template)]	Standard Cisco Unified IP Phone 7960 (2 lines)
回線 1	プライマリ回線 <ul style="list-style-type: none"> • CSS = Generated_CSS_I_E • Partition = Generated_Managers
回線 2	着信インターコム回線 <ul style="list-style-type: none"> • CSS = Generated_CSS_I_E • Partition = Generated_Everyone • ヘッドセットでの自動応答のオプションも設定します。
[サービス (Services)]	アシスタントプライマリサービス

表 29-2 に、Unified CM Assistant アシスタント電話機テンプレートのデフォルト設定値を示します。

表 29-2 プロキシ回線用のアシスタント電話機テンプレートのデフォルト設定値

フィールド	デフォルト値
[ソフトキーテンプレート (Softkey Template)]	Softkey Assistant
[電話ボタンテンプレート (Phone Button Template)]	Standard Cisco Unified IP Phone 7960 Assistant
拡張モジュール 1	14 ボタンの拡張モジュール

表 29-2 プロキシ回線用のアシスタント電話機テンプレートのデフォルト設定値

フィールド	デフォルト値
電話機本体上の 1 回線と拡張モジュール上の 5 回線	プロキシ回線では、電話機本体上の 1 回線と拡張モジュール上の 5 回線が、デフォルトで次のように構成されます。 <ul style="list-style-type: none"> • CSS = Generated_CSS_M_E • Partition = Generated_Everyone
回線 7 (拡張モジュール上)	インターコム回線 <ul style="list-style-type: none"> • CSS = Generated_CSS_I_E • Partition = Generated_Everyone • ヘッドセットでの自動応答のオプションも設定します。

マネージャとアシスタントのプロキシ回線設定

BAT は、電話機のプライマリ マネージャ回線をアシスタントの電話機のプロキシ回線にマッピングすることで、Unified CM Assistant 回線設定を割り当てます。Unified CM Assistant ウィザードで作成した Unified CM Assistant マネージャと Unified CM Assistant アシスタントのデフォルトのテンプレートを使用すると、1 ～ 5 回線のマネージャ回線を 1 人のアシスタントの電話機に関連付けることができます。Unified CM Assistant テンプレートによって設定された電話機について、次の例では、2 つのマネージャの電話機を 1 つのアシスタントの電話機に関連付ける場合の回線設定を示します。

マネージャ 1 の電話機

- 回線 1：プライマリ回線
- 回線 2：インターコム回線

マネージャ 2 の電話機

- 回線 1：プライマリ回線
- 回線 2：インターコム回線

アシスタントの電話機

- 回線 1：プライマリ回線
- 回線 2：マネージャ 1 用のプロキシ回線
- 回線 3：マネージャ 2 用のプロキシ回線
- 回線 4 ～ 6 は未割り当て
- 回線 7：インターコム回線

回線 4 ～ 6 は他のマネージャとのアソシエーションに使用できます。

1 人のアシスタントの電話機に複数のマネージャを関連付ける場合、プロキシ回線は、CSV データファイル内での順序に基づいて作成されます。マネージャとアシスタントの最初の回線は、すべてのプライマリ マネージャ回線を、アシスタントの電話機上の未割り当て回線にプロキシ回線として割り当てることで作成されます。アシスタントの電話機的全回線が割り当て済みになるか、CSV レコード内のすべてのマネージャが割り当てられるまで、CSV レコードの順序に基づいて、マネージャとアシスタントのプロキシ回線が 1 つずつ作成されていきます。

複数のアシスタントを 1 人のマネージャのプライマリ回線に関連付ける場合、BAT は CSV データ ファイル内での順序に基づいて、アシスタントをマネージャに割り当てます。BAT によって割り当てられるプライマリ マネージャ回線は、1 番目のアシスタントで利用可能な回線数に基づきます。たとえば、マネージャの電話機に 2 つの回線があるとします。CSV データ ファイルにある 1 番目のアシスタントが利用できるのは、1 回線だけです。結果として、BAT によって、マネージャの 1 つのプライマリ回線だけが、CSV レコードに含まれているすべてのアシスタントの電話機にある 1 つのプロキシ回線に関連付けられます。

Unified CM Assistant マネージャの電話機の設定

表 29-3 に、マネージャとアシスタントのアソシエーションを使用する場合に、BAT がマネージャの電話機に対して設定できるすべての回線設定を示します。

表 29-3 マネージャの電話機のリターン設定

利用可能回線数	設定
1 回線	回線 1 : プライマリ回線 (Unified CM Assistant 制御) インターコム回線 (なし)
2 回線 (デフォルトの Unified CM Assistant マネージャ電話機テンプレート)	回線 1 : プライマリ回線 (Unified CM Assistant 制御) 回線 2 : インターコム回線 (オプション)
3 回線以上	最後の回線が、インターコム回線として設定されます。 プロキシ回線に関連付けられるマネージャのリターン数は、アシスタントの電話機で利用できる回線数によって決定されます。

Unified CM Assistant アシスタントの電話機の設定

表 29-4 に、マネージャとアシスタントのアソシエーションの作成中に、BAT がアシスタントの電話機に対して設定するデフォルトのリターン設定を示します。

表 29-4 アシスタントの電話機のリターン設定

利用可能回線数	設定
1 回線	回線 1 : プロキシ回線 インターコム回線 (なし)
2 回線	回線 1 : プライマリ回線 回線 2 : プロキシ回線 インターコム回線 (なし)
3 回線	回線 1 : プライマリ回線 回線 2 : プロキシ回線 回線 3 : インターコム回線

表 29-4 アシスタントの電話機のリ線設定 (続き)

利用可能回線数	設定
4 回線以上	回線 1 : プライマリ回線 回線 2 : プロキシ回線 最後の回線が、インターコム回線として設定されます。 他の回線は、すべてプロキシ回線として設定されます。
7 回線 (デフォルトの Unified CM Assistant アシスタント電話機テンプレート)	回線 1 : プライマリ回線 回線 2 ~ 6 は、5 人以下のマネージャをサポートするプロキシ回線として設定できます。 回線 7 : インターコム回線

Cisco Unified Communications Manager Assistant マネージャとアシスタントの電話機用のプロキシ回線の例

ここでは、それぞれ 3 つの既存回線を持つ 2 人のマネージャを、6 つの未割り当て回線を持つ 1 人のアシスタントに関連付けます。BAT は、マネージャとアシスタントの電話機に、次の回線設定を行います。

マネージャ 1 の電話機

- 回線 1 : マネージャのプライマリ回線 (電話番号は 2355)
- 回線 2 : マネージャのプライマリ回線 (電話番号は 2366)
- 回線 3 : マネージャのインターコム回線

マネージャ 2 の電話機

- 回線 1 : マネージャのプライマリ回線 (電話番号は 2656)
- 回線 2 : マネージャのプライマリ回線 (電話番号は 2666)
- 回線 3 : マネージャのインターコム回線

アシスタントの電話機

- 回線 1 : アシスタントのプライマリ回線 (電話番号は 3333)
- 回線 2 : マネージャ 1 のプロキシ回線 1 (電話番号は 3455)
- 回線 3 : マネージャ 2 のプロキシ回線 1 (電話番号は 3656)
- 回線 4 : マネージャ 1 のプロキシ回線 2 (電話番号は 3366)
- 回線 5 : マネージャ 2 のプロキシ回線 2 (電話番号は 3666)
- 回線 6 : 利用可能
- 回線 7 : アシスタントのインターコム回線

すでにプライマリ回線を持つマネージャ電話機を関連付けるときは、アシスタントの電話機の未割り当て回線数が、マネージャの電話機のプライマリ回線数以上である必要があります。たとえば、4 つのプライマリ回線が設定済みの電話機を持つマネージャと、3 回線だけ利用可能なアシスタントとのアソシエーションは、BAT では作成できません。

プロキシ回線を使用した Cisco Unified Communications Manager Assistant マネージャとアシスタント用の新しい電話機の設定

プロキシ回線を使用する Unified CM Assistant マネージャとアシスタントのために新しい電話機を設定する手順は、次のとおりです。

始める前に

1. Unified CM Assistant 設定ウィザードを実行して Unified CM Assistant 用テンプレート、パーティション、およびコーリング サーチ スペースを作成します。
2. 1 人のアシスタントに 6 人以上のマネージャを関連付ける場合、Unified CM Assistant 用テンプレートにアクセスして、新しい名前で作成する必要があります。マネージャの追加に対応するには、テンプレートに行を追加します。

- ステップ 1** [一括管理 (Bulk Administration)] > [電話 (Phones)] > [電話テンプレート (Phones Template)] の順に選択し、対象のテンプレートを開きます。[電話テンプレートの設定 (Phone Template Configuration)] ウィンドウが表示されます。



- (注)** BAT Unified CM Assistant テンプレートは書き込み禁止なので、これらのテンプレートを変更する場合は、テンプレートのコピーを作成してから編集してください。

マネージャ電話機テンプレートのフィールドの説明は、「[プロキシ回線用のマネージャ電話機テンプレートのデフォルト設定値](#)」(P.29-3) を参照してください。

アシスタント電話機テンプレートのフィールドの説明は、「[プロキシ回線用のアシスタント電話機テンプレートのデフォルト設定値](#)」(P.29-3) を参照してください。

- ステップ 2** 次のオプションを使用して、マネージャの電話機とアシスタントの電話機に、それぞれ別の CSV データファイルを作成します。

- BAT スプレッドシートを使用して、[Phones] タブを選択します。
- テキスト エディタを使用して、マネージャまたはアシスタントのテンプレートのフィールドをガイドとして参照します。

- ステップ 3** 新しい電話機を挿入する手順は、「[電話機の追加](#)」(P.3-1) を参照してください。

既存の電話機に対する Cisco Unified Communications Manager Assistant プロキシ回線の設定

既存の電話機に、マネージャとアシスタント用の回線を設定する手順は、次のとおりです。

- ステップ 1** [一括管理 (BAT Administration)] > [電話 (Phones)] > [回線の追加 (Add Lines)] の順に選択します。[電話回線の追加 (Phone Add Lines Configuration)] ウィンドウが表示されます。

- ステップ 2** BAT 用に Unified CM Assistant テンプレートのコピーや変更が必要な場合は、次のトピックを参照してください。

- 「[表 29-1 プロキシ回線用のマネージャ電話機テンプレートのデフォルト設定値](#)」(P.29-3)
- 「[表 29-2 プロキシ回線用のアシスタント電話機テンプレートのデフォルト設定値](#)」(P.29-3)



(注) Cisco Unified CM Assistant 設定ウィザードの実行時に、設定情報（たとえば、パーティション名）を変更した場合は、テンプレートの編集時にもそのフィールドで同じ設定情報を使用する必要があります。

- ステップ 3** 次のいずれかのオプションを使用して、マネージャの電話機とアシスタントの電話機に、それぞれ別の CSV データ ファイルを作成します。
- BAT スプレッドシートを使用して、[Add Lines] タブを選択します。
 - テキスト エディタを使用して、マネージャまたはアシスタントのテンプレートのフィールドをガイドとして使用します。
- ステップ 4** 「既存の電話機および UDP への回線の追加」(P.10-10) の手順を参照し、既存の電話機にマネージャとアシスタントの回線を設定します。

追加情報

「関連項目」(P.29-13) を参照してください。

シェアドライン モードでの Cisco Unified Communications Manager Assistant 用の電話機の設定

マネージャの電話機とアシスタントの電話機がシェアドラインをサポートするよう設定するには、次のタスクを実行する必要があります。

1. Cisco Unified Communications Manager でシェアドラインをサポートするための Unified CM Assistant サービス パラメータを設定する必要があります。詳細については、『Cisco Unified Communications Manager 機能およびサービス ガイド』を参照してください。
2. Cisco Unified IP Phone モデル 7960 で 5 回線以上を使用する場合は、電話機ボタン テンプレートが必要です。
3. 次のガイドラインを使用してマネージャとアシスタントの電話機を設定します。

シェアドライン モードにおけるマネージャの電話機

「電話機の追加」(P.3-1) で説明している、BAT を使用した新しい電話機の設定の手順に従ってください。

BAT テンプレートを作成し、次に示す電話機の設定を使用して、マネージャの新しい電話機を追加するか、既存の電話機を更新します。

- ソフトキー テンプレートを割り当てます：Standard Shared Mode Manager。
- 必要に応じて、アシスタントと共有するプライマリ回線を追加します。
- プライマリ回線に、ボイス メッセージ プロファイルを設定します。
- 着信インターコム回線を追加します（オプション）。
- 発信インターコムのターゲットに対して、スピードダイヤル ボタンを追加します（オプション）。
- ユーザ ロケールを設定します。

シェアドライン モードにおけるアシスタントの電話機

「電話機の追加」(P.3-1) で説明している、BAT を使用した新しい電話機の設定の手順に従ってください。

BAT テンプレートを作成し、次に示す電話機の設定を使用して、アシスタントの新しい電話機を追加するか、既存の電話機を更新します。

- ソフトキー テンプレートを割り当てます : Standard Assistant。
- 追加の回線に Cisco 14 ボタン拡張モジュール (7914) を使用している場合、BAT テンプレートで拡張モジュールのタイプを指定します。



(注) Cisco Unified IP Phone 7960 の電話機ボタン テンプレートには、拡張モジュール回線が含まれています。

- 個人用のプライマリ回線を追加します。
 - 関連付けられたマネージャに、シェアドラインを追加します。同じ電話番号とパーティションを、マネージャの電話機のプライマリ回線として使用します。
 - 着信インターコム回線を追加します (オプション)。
 - マネージャのインターコム回線に、スピードダイヤルを追加します (オプション)。
 - ユーザ ロケールを設定します。
1. 既存のマネージャまたはアシスタントの電話機に回線を追加する方法については、「[既存の電話機および UDP への回線の追加](#)」(P.10-10) を参照してください。回線の設定については、次に示す項を参照してください。
 - 「[シェアドライン モードにおけるマネージャの電話機](#)」(P.29-8)
 - 「[シェアドライン モードにおけるアシスタントの電話機](#)」(P.29-9)
 2. マネージャとアシスタントについて電話機と回線を設定し終わったら、マネージャとアシスタントの回線を関連付けて Unified CM Assistant で制御できるようにします。「[マネージャとアシスタントのアソシエーション用の CSV データ ファイルの作成](#)」(P.29-10) の手順に従ってください。

マネージャとアシスタントのシェアドラインの設定

BAT は、Cisco Unified CM Assistant の回線設定を、マネージャとアシスタントの電話機に割り当てたシェアドラインに関連付けます。シェアドライン モードは、アシスタントに関連付けるときにマネージャの設定で指定します。

シェアドライン モードでは、マネージャの回線が、アシスタントの電話機のシェアドラインに対応します。たとえば、2 人のマネージャを 1 人のアシスタントに関連付けるためには、マネージャの電話機のプライマリ回線と同じ電話番号とパーティションを持つアシスタントの電話機に、2 つの回線を追加します。

マネージャ 1 の電話機

- 回線 1 : プライマリ回線 (電話番号は 2355)
- 回線 2 : インターコム回線 (オプション)

マネージャ 2 の電話機

- 回線 1 : プライマリ回線 (電話番号は 2875)
- 回線 2 : インターコム回線 (オプション)

アシスタントの電話機

- 回線 1：アシスタントのプライマリ回線（電話番号は 3356）
- 回線 2：マネージャ 1 のシェアドライン（電話番号は 2355）
- 回線 3：マネージャ 2 のシェアドライン（電話番号は 2875）
- 回線 4～6 は利用可能
- 回線 7：インターコム回線（オプション）

回線 4～6 は、他のマネージャ用のシェアドラインとして追加できます。

1 人のアシスタントの電話機に複数のマネージャの回線を追加する場合は、アシスタントの電話機にあるすべての回線でシェアドライン モードを使用する必要があります。アシスタントの電話機では、プロキシ回線とシェアドラインは共存できません。同様に、1 人のマネージャに複数のアシスタントがいる場合、すべてのアソシエーションでシェアドライン モードを使用する必要があります。

複数のアシスタントをシェアドライン モードの 1 人のマネージャに関連付けると、BAT は、シェアドライン モードを使用しているアシスタントにだけ Unified CM Assistant アソシエーションを割り当てます。

追加情報

「関連項目」(P.29-13) を参照してください。

マネージャとアシスタントのアソシエーション用の CSV データ ファイルの作成

BAT を使用して、Cisco Unified Communications Manager データベースに、マネージャとアシスタントのアソシエーションを挿入する場合、新しいアソシエーションを追加することも、既存のアソシエーションを更新することもできます。

マネージャとアシスタントのアソシエーション用に CSV データ ファイルを作成するには、次の 2 つのオプションがあります。

- 「BAT スプレッドシートを使用したマネージャとアシスタントのアソシエーションの追加または更新」(P.29-11)
- テキスト エディタを使用した CSV 形式のテキスト ファイルの作成。詳細については、「マネージャおよびアシスタントのファイル形式」(P.A-14) を参照してください。

新しいマネージャ用のアソシエーションを作成する場合は、デバイス名を入力する必要があります。既存の Unified CM Assistant レコードでマネージャを更新する場合、これらのフィールドはオプションです。マネージャとアシスタントの電話機に BAT がどのように回線設定を割り当てるかについては、「マネージャとアシスタントのプロキシ回線設定」(P.29-4) を参照してください。マネージャ用の回線が 3 回線以上の場合、BAT では、アシスタント用のプロキシ回線にマネージャのインターコム回線を割り当てることができません。

BAT スプレッドシートを使用したマネージャとアシスタントのアソシエーションの追加または更新

BAT スプレッドシートにはマクロを持つデータ ファイル テンプレートがあり、マネージャとアシスタントのアソシエーションを容易に追加、更新、または削除できます。BAT スプレッドシートのインストール方法と使用方法については、「[BAT スプレッドシートをデータ収集に使用する方法](#)」(P.1-9) を参照してください。

BAT スプレッドシートを使用して新しい Unified CM Assistant アソシエーションを追加する手順は、次のとおりです。マネージャとアシスタントの設定には、次の 2 つの方法を使用できます。

- デフォルトの回線設定を使用してマネージャとアシスタントのアソシエーションを作成する方法については、「[デフォルトのマネージャとアシスタントの CSV データ ファイルの作成](#)」(P.29-11) を参照してください。

表 29-3 と表 29-4 は、マネージャとアシスタントの電話機のデフォルトの回線設定を示しています。

- デフォルトの回線設定に従わないプロキシ回線を割り当てる場合、カスタムのマネージャとアシスタント用のファイルを作成するための手順は、「[カスタムのマネージャとアシスタントの CSV データ ファイルの作成](#)」(P.29-12) を参照してください。

デフォルトのマネージャとアシスタントの CSV データ ファイルの作成

デフォルトの設定を使用して、プロキシモードとシェアドラインモードの両方でマネージャとアシスタントのアソシエーションを挿入または更新するために CSV データ ファイルを作成する手順は、次のとおりです。

手順

- ステップ 1** **BAT.xlt** ファイルをダウンロードして開き、BAT スプレッドシートを開きます。詳細については、「[ファイルのダウンロード](#)」(P.2-2) を参照してください。
- ステップ 2** プロンプトが表示されたら、[マクロを有効にする] ボタンをクリックして、スプレッドシート機能を使用します。
- ステップ 3** マネージャとアシスタントのアソシエーションのオプションを表示するには、スプレッドシートの下部にある [Default Managers-Assistants] タブをクリックします。
- ステップ 4** テンプレートを右側にスクロールしてオプション ボタンを表示し、このトランザクションのアソシエーションのタイプを次のうちから選択します。
 - **[One manager, multiple assistants]**
 - **[One assistant, multiple managers]**
- ステップ 5** すべての必須フィールド、および該当するオプション フィールドに値を入力します。
[One manager, multiple assistants] オプション ボタンを選択する場合は、各行に次の情報を入力します。
 - [Manager ID] : マネージャのユーザ ID を 30 文字以内で入力します。
 - [Assistant ID#] : このマネージャに割り当てるアシスタントのユーザ ID を 30 文字以内で入力します。
記号は、マネージャに割り当てるアシスタントの数を表します。



(注) 別のアシスタントをさらに追加するには、[Add more Assistants] をクリックします。

[One assistant, multiple managers] オプション ボタンを選択する場合は、各行に次の情報を入力します。

- [Assistant ID] : アシスタントのユーザ ID を 30 文字以内で入力します。
- [Manager ID#] : このアシスタントに割り当てるマネージャのユーザ ID を 30 文字以内で入力します。
記号は、アシスタントに割り当てるマネージャの数を表します。



(注) 別のマネージャをさらに追加するには、[Add more Managers] をクリックします。

ステップ 6 次のうちから、実行する操作を選択します。

- [Insert] をクリックして、マネージャとアシスタントのアソシエーションを作成します。
- [Delete] をクリックして、マネージャとアシスタントのアソシエーションから、マネージャまたはアシスタントを削除します。

ステップ 7 [Export to BAT Format] をクリックして、BAT スプレッドシートから CSV データ ファイルにデータを転送します。

このファイルは、次の名前が付けられて、C:\%XLSDataFiles または選択した別の既存フォルダに保存されます。

<type of operation>ManagerAssistants-timestamp.txt

<type of operation> には、ステップ 6 で選択した操作の種類が入力されます。「timestamp」は、ファイルが作成された正確な日時を表します。

CSV データ ファイルを Cisco Unified Communications Manager サーバの最初のノードにアップロードして、BAT からアクセスできるようにします。詳細については、「[ファイルのアップロード](#)」(P.2-3) を参照してください。

エクスポートされた CSV ファイルを読み取る方法については、BAT の [マネージャ / アシスタントの挿入 (Insert Managers/Assistants)] ウィンドウで、[サンプルファイルの表示 (View Sample File)] へのリンクをクリックしてください。

追加情報

「[関連項目](#)」(P.29-13) を参照してください。

カスタムのマネージャとアシスタントの CSV データ ファイルの作成

既存の電話機にマネージャとアシスタントのアソシエーションを設定する場合は、BAT スプレッドシートの [Custom Managers-Assistants] タブを使用できます。CSV データ ファイルを作成することによって、アシスタントの電話機のプロキシ回線で、マネージャとアシスタントのアソシエーションを挿入または更新する手順は、次のとおりです。

手順

- ステップ 1** Cisco Unified Communications Manager サーバから **BAT.xlt** ファイルをダウンロードします。詳細については、「[ファイルのダウンロード](#)」(P.2-2) を参照してください。
- ステップ 2** **BAT.xlt** ファイルを開きます。プロンプトが表示されたら、[マクロを有効にする] ボタンをクリックして、スプレッドシート機能を使用します。
- ステップ 3** マネージャとアシスタントのアソシエーションのオプションを表示するには、スプレッドシートの下部にある [Custom Managers-Assistants] タブをクリックします。

ステップ 4 [Number of Proxy Lines] ボックスが表示されるまで、テンプレートを右側にスクロールします。このボックスで、アシスタントに割り当てるプロキシ回線の数を入力します。スプレッドシートは、入力した数値に基づいて、[Proxy Line DN] と [Manager Line DN] の列を追加します。

すべての必須フィールド、および該当するオプション フィールドに値を入力します。

- [Manager ID] : マネージャのユーザ ID を入力します。
- [Device Name] : マネージャの電話機に割り当てられたデバイス名を入力します。
- [Intercom DN] : マネージャのインターコム回線の電話番号を入力します (オプション)。
- [Assistant ID] : このマネージャに割り当てるアシスタントのユーザ ID を入力します。
- [Device Name] : アシスタントの電話機に割り当てられたデバイス名を入力します。
- [Intercom DN] : アシスタントのインターコム回線の電話番号を入力します (オプション)。
- [Proxy Line DN#] : アシスタントのプロキシ回線の電話番号を入力します。
- [Manager Line DN#] : マネージャのプライマリ回線の電話番号を入力します。
記号は、マネージャに関連付けるプロキシ回線の数を表します。

ステップ 5 [Export to BAT Format] ボタンをクリックして、BAT スプレッドシートから CSV データ ファイルにデータを転送します。

このファイルは、Custom Managers-Assistants-timestamp.txt というファイル名を使用して、C:\%XLSDataFiles または選択した別の既存フォルダに保存されます。

CSV データ ファイルを Cisco Unified Communications Manager サーバの最初のノードにアップロードして、BAT からアクセスできるようにします。詳細については、「[ファイルのアップロード](#)」(P.2-3) を参照してください。

エクスポートされた CSV ファイルを読み取る方法については、BAT の [マネージャ / アシスタントの挿入 (Insert Managers/Assistants)] ウィンドウで、[サンプルファイルの表示 (View Sample File)] へのリンクをクリックしてください。

追加情報

「[関連項目](#)」(P.29-13) を参照してください。

関連項目

- 「[Cisco Unified Communications Manager Assistant で使用する電話機と回線の概要](#)」(P.29-2)
- 「[マネージャとアシスタントのアソシエーション用の CSV データ ファイルの作成](#)」(P.29-10)
- 「[Cisco Unified Communications Manager へのマネージャとアシスタントのアソシエーションの挿入](#)」(P.30-1)
- 「[プロキシ回線モードでの Cisco Unified Communications Manager Assistant 用の電話機の設定](#)」(P.29-2)
- 「[シェアドライン モードでの Cisco Unified Communications Manager Assistant 用の電話機の設定](#)」(P.29-8)
- 「[マネージャとアシスタントのアソシエーションの削除](#)」(P.31-1)
- 「[Cisco Unified Communications Manager からのマネージャの削除](#)」(P.32-1)
- 「[Cisco Unified Communications Manager からのアシスタントの削除](#)」(P.33-1)

Cisco Unified CM Assistant の詳細については、次のマニュアルを参照してください。

- 『*Cisco Unified Communications Manager 機能およびサービス ガイド*』
- 『*Cisco Unified Communications Manager Assistant User Guide*』



CHAPTER 30

マネージャとアシスタントの挿入

Cisco Unified Communications Manager 一括管理 (BAT) を使用すると、Cisco Unified Communications Manager の Cisco Unified Communications Manager Assistant 機能を管理できます。BAT では、マネージャやアシスタントの IP Phone を追加できます。

Cisco Unified CM Assistant 機能は、いくつかの Cisco Unified IP Phone モデルとデバイス プロファイルに対して利用できます。Cisco Unified CM Assistant には、マネージャとアシスタントの回線で Cisco Unified CM Assistant 機能を利用するための設定モードとして、次の 2 つが用意されています。

- プロキシ モード：マネージャのプライマリ回線は、アシスタントの電話機とは異なる電話番号を持つプロキシ回線と関連付けられます。詳細については、「[プロキシ回線モードでの Cisco Unified Communications Manager Assistant 用の電話機の設定](#)」(P.29-2) を参照してください。
- シェアドライン モード：マネージャとアシスタントの電話機がシェアドラインを持ち、同じ電話番号とパーティションを使用します。詳細については、「[シェアドラインモードでの Cisco Unified Communications Manager Assistant 用の電話機の設定](#)」(P.29-8) を参照してください。

BAT を使用して、マネージャとアシスタントの電話機に、プロキシ回線またはシェアドラインを設定することができます。

Cisco Unified Communications Manager へのマネージャとアシスタントのアソシエーションの挿入

マネージャとアシスタントの新しいアソシエーションを挿入したり、既存のアソシエーションを更新したりするには、CSV データ ファイルが必要です。詳細については、「[マネージャとアシスタントのアソシエーション用の CSV データ ファイルの作成](#)」(P.29-10) を参照してください。

BAT がマネージャとアシスタントのアソシエーションを更新するときは、インターコムの電話番号や関連付けられているデバイスについて、既存の Cisco Unified CM Assistant 回線設定は変更されません。



注意

Cisco Unified CM Assistant の最小構成をサポートするために必要な数の回線をアシスタントの電話機が持っていない場合、マネージャとアシスタントのアソシエーション作成は失敗します。

始める前に

次の 2 つの手順のいずれかを使用して、マネージャとアシスタント用の電話機が設定されていることを確認してください。

- 「[プロキシ回線モードでの Cisco Unified Communications Manager Assistant 用の電話機の設定](#)」(P.29-2)

- 「シェアドライン モードでの Cisco Unified Communications Manager Assistant 用の電話機の設定」(P.29-8)

Cisco Unified Communications Manager データベースにマネージャとアシスタントの新しいアソシエーションを追加または更新する手順は、次のとおりです。

手順

- ステップ 1** [一括管理 (Bulk Administration)] > [マネージャ / アシスタント (Managers/Assistants)] > [マネージャ / アシスタントの挿入 (Insert Managers/Assistants)] の順に選択します。[マネージャ / アシスタントの挿入 (Insert Managers/Assistants Configuration)] ウィンドウが表示されます。
- ステップ 2** [ファイル名 (File Name)] フィールドで、このバルク トランザクション用に作成した CSV データ ファイルを選択します。
- ステップ 3** マネージャがエクステンション モビリティを使用してログインする場合は、[マネージャがエクステンションモビリティを使用するように設定 (Configure Managers as mobile managers)] チェックボックスをオンにします。
- ステップ 4** すべての電話機にシェアドラインがある場合は、[シェアドラインの使用 (Uses Shared Lines)] チェックボックスをオンにします。
- ステップ 5** [オプションの挿入 (Insert Options)] 領域で、作成した CSV データ ファイルのタイプを次のうちから選択します。
- [デフォルト (Default)] : 標準の CSV データ ファイルを作成した場合は、CSV ファイルのデータに基づいて、このトランザクションのアソシエーションのタイプを選択します。
 - [1 人のマネージャに 1 人以上のアシスタントを割り当て (Associate one or more assistants to one manager)]
 - [1 人のアシスタントに 1 人以上のマネージャを割り当て (Associate one or more managers to one assistant)]
 - [カスタム (Custom)] : プロキシ モードのためのカスタム CSV データ ファイルを作成した場合に選択します。
- ステップ 6** [ジョブ情報 (Job Information)] 領域に、ジョブの説明を入力します。
- ステップ 7** マネージャ / アシスタントを即座に挿入するには、[今すぐ実行 (Run Immediately)] オプション ボタンをクリックします。マネージャ / アシスタントを後で挿入するには、[後で実行 (Run Later)] をクリックします。
- ステップ 8** [送信 (Submit)] をクリックして、マネージャとアシスタントのレコードを挿入するジョブを作成します。
- ステップ 9** このジョブのスケジュールやアクティブ化を行うには、[一括管理 (Bulk Administration)] メインメニューの [ジョブスケジューラ (Job Scheduler)] オプションを使用します。
- ジョブの詳細については、[第 82 章「ジョブのスケジュール」](#) を参照してください。



(注) ログ ファイルの詳細については、「[BAT ログ ファイル](#)」(P.83-3) を参照してください。アシスタントまたはマネージャの設定の更新を BAT で実行しているとき、利用可能回線数の不足が原因で変更が一部しか完了しなかった場合は、トランザクション レコード全体が失敗します。

- ステップ 10** 変更内容を有効にするには、Cisco Unified CM Assistant サービスを再起動する必要があります。

追加情報

「[関連項目](#)」(P.30-3) を参照してください。

関連項目

- 「プロキシ回線モードでの Cisco Unified Communications Manager Assistant 用の電話機の設定」 (P.29-2)
- 「シェアドライン モードでの Cisco Unified Communications Manager Assistant 用の電話機の設定」 (P.29-8)
- マネージャとアシスタントのアソシエーション用の CSV データ ファイルの作成
- 「ジョブのスケジュール」 (P.82-1)
- 「BAT ログ ファイル」 (P.83-3)



CHAPTER 31

マネージャとアシスタントの削除

Cisco Unified Communications Manager 一括管理 (BAT) を使用すると、Cisco Unified Communications Manager データベースにある、マネージャとアシスタントの特定のアソシエーションを削除できます。たとえば、*jmorgan* というユーザ ID のアシスタントが、*rcraig* と *dbaker* というユーザ ID を持つ 2 人のマネージャに割り当てられているとします。このマネージャとアシスタントのアソシエーションを変更する場合、たとえば、アシスタント *jmorgan* を *rcraig* だけに割り当てる場合は、次のようなエントリを持つ CSV データ ファイルを作成して、*jmorgan* と *dbaker* のアソシエーションを削除します。

例

```
jmorgan,dbaker
```

マネージャとアシスタントのアソシエーションの削除

マネージャとアシスタントのすべてのアソシエーションから、マネージャまたはアシスタントを削除する場合は、次の項を参照してください。

- 「Cisco Unified Communications Manager からのマネージャの削除」 (P.32-1)
- 「Cisco Unified Communications Manager からのアシスタントの削除」 (P.33-1)

Cisco Unified Communications Manager 内にあるマネージャとアシスタントの特定のアソシエーションを削除する手順は、次のとおりです。

始める前に

削除する特定のマネージャとアシスタントのアソシエーションのユーザ ID が含まれた CSV データファイルが必要です。詳細については、[第 29 章「Cisco Unified Communications Manager Assistant の使用方法」](#) を参照してください。

手順

- ステップ 1** [一括管理 (Bulk Administration)] > [マネージャ / アシスタント (Managers/Assistants)] > [マネージャ / アシスタントの削除 (Delete Managers/Assistants)] の順に選択します。[マネージャ / アシスタントの削除 (Delete Managers/Assistants Configuration)] ウィンドウが表示されます。
- ステップ 2** [ファイル名 (File Name)] フィールドで、このタイプのバルク トランザクション用に作成した CSV ファイルを選択します。

■ 関連項目

- ステップ 3** 削除のタイプとして、次のいずれかを選択します。
- [1 人のマネージャに割り当てられたアシスタントの削除 (Delete associated assistants for one manager)]
 - [1 人のアシスタントに割り当てられたマネージャの削除 (Delete associated managers for one assistant)]
- ステップ 4** [ジョブ情報 (Job Information)] 領域に、ジョブの説明を入力します。
- ステップ 5** マネージャとアシスタントを即座に削除するには、[今すぐ実行 (Run Immediately)] オプション ボタンをクリックします。後で削除するには、[後で実行 (Run Later)] をクリックします。
- ステップ 6** [送信 (Submit)] をクリックして、必須のマネージャとアシスタントのアソシエーションを削除するジョブを作成します。
- ステップ 7** このジョブのスケジュールやアクティブ化を行うには、[一括管理 (Bulk Administration)] メインメニューの [ジョブスケジューラ (Job Scheduler)] オプションを使用します。
- ジョブの詳細については、[第 82 章「ジョブのスケジュール」](#) を参照してください。
- ログファイルの詳細については、[「BAT ログファイル」 \(P.83-3\)](#) を参照してください。
-

追加情報

「[関連項目](#)」 (P.31-2) を参照してください。

関連項目

- 「[Cisco Unified Communications Manager からのマネージャの削除](#)」 (P.32-1)
- 「[Cisco Unified Communications Manager からのアシスタントの削除](#)」 (P.33-1)



CHAPTER 32

マネージャの削除

Unified CM Assistant のマネージャを削除しても、Cisco Unified Communications Manager は、そのマネージャをユーザとしてディレクトリに保持します。たとえば、*rmartinez* というユーザ ID を持つマネージャに 2 人のアシスタントがいて、それぞれ *dbell* と *jkent* というユーザ ID を持つ場合、マネージャとしての *rmartinez* を Cisco Unified Communications Manager データベースで削除すれば、*rmartinez* と両方のアシスタントとの関連付けを解除できます。削除した後も、ディレクトリには *rmartinez* がユーザとして残ります。

Cisco Unified Communications Manager からのマネージャの削除

Cisco Unified Communications Manager データベースと LDAP ディレクトリから、マネージャと、そのマネージャとアシスタントのアソシエーションをすべて削除できます。[マネージャの削除 (Delete Manager)] オプションにアクセスするには、[一括管理 (Bulk Administration)] > [マネージャ / アシスタント (Managers/Assistants)] > [マネージャの削除 (Delete Managers)] を選択します。

削除する既存のレコードを検索する方法には、次の 2 つがあります。

- 「クエリーを使用したマネージャのアソシエーションの削除」(P.32-1)
- 「カスタム ファイルを使用したマネージャのアソシエーションの削除」(P.32-3)

クエリーを使用したマネージャのアソシエーションの削除

Cisco Unified Communications Manager ディレクトリ内にあるアシスタントとのアソシエーションからマネージャを削除する手順は、次のとおりです。

手順

- ステップ 1** [一括管理 (Bulk Administration)] > [マネージャ / アシスタント (Managers/Assistants)] > [マネージャの削除 (Delete Managers)] > [クエリー (Query)] の順に選択します。[マネージャの削除 (Delete Managers Configuration)] ウィンドウが表示されます。
- ステップ 2** 最初の [検索対象: マネージャ、検索条件 (Find Managers where)] ドロップダウン リストボックスで、次のいずれかの検索条件を選択します。
 - [ユーザ ID (User ID)]
 - [名 (First Name)]
 - [ミドルネーム (Middle Name)]

- [姓 (Last Name)]
- [部署名 (Department)]

2 番目の [検索対象 : マネージャ、検索条件 (Find Managers where)] ドロップダウン リスト ボックスで、次のいずれかの検索条件を選択します。

- [が次の文字列で始まる (begins with)]
- [が次の文字列を含む (contains)]
- [が次の文字列と等しい (is exactly)]
- [が次の文字列で終わる (ends with)]
- [が空である (is empty)]
- [が空ではない (is not empty)]

ステップ 3 必要に応じて、適切な検索テキストを指定します。



ヒント データベースに登録されているすべてのマネージャを検索するには、検索テキストを入力せずに [検索 (Find)] をクリックします。



(注) マネージャを複数の部署から選択するには、このフィールドに複数の部署を入力します。たとえば、部署 12 と部署 24 からマネージャを選択するには、3 番目のボックスに **12, 24** と入力します。削除操作を 2 回繰り返す必要はありません。

ステップ 4 クエリーをさらに定義する場合や、複数のフィルタを追加する場合は、[絞り込み (Search Within Results)] チェックボックスをオンにし、ドロップダウン ボックスから [AND] または [OR] を選択して、ステップ 2 ~ 3 を繰り返します。

ステップ 5 [検索 (Find)] をクリックします。

検索されたマネージャのリストが、次の項目別に表示されます。

- [ユーザ ID (User ID)]
- [名 (First Name)]
- [ミドルネーム (Middle Name)]
- [姓 (Last Name)]
- [部署名 (Department)]

ステップ 6 [ジョブ情報 (Job Information)] 領域に、ジョブの説明を入力します。

ステップ 7 マネージャを即座に削除するには、[今すぐ実行 (Run Immediately)] オプション ボタンをクリックします。マネージャを後で削除するには、[後で実行 (Run Later)] をクリックします。

ステップ 8 [送信 (Submit)] をクリックして、選択したマネージャを削除するジョブを作成します。

ステップ 9 このジョブのスケジュールやアクティブ化を行うには、[一括管理 (Bulk Administration)] メインメニューの [ジョブスケジューラ (Job Scheduler)] オプションを使用します。

ジョブの詳細については、第 82 章「ジョブのスケジュール」を参照してください。

ログ ファイルの詳細については、「BAT ログ ファイル」(P.83-3) を参照してください。

追加情報

「関連項目」(P.32-4) を参照してください。

カスタム ファイルを使用したマネージャのアソシエーションの削除

テキスト エディタを使用してカスタム ファイルを作成し、削除対象のマネージャのアソシエーションを検索できます。

始める前に

1. 削除するマネージャのユーザ ID を指定したテキスト ファイルを作成します。
2. ユーザ ID は、1 行に 1 つずつ指定します。
3. カスタム ファイルを Cisco Unified Communications Manager サーバの最初のノードにアップロードします。詳細については、「ファイルのアップロード」(P.2-3) を参照してください。

カスタム ファイルを使用してマネージャのアソシエーションを削除する手順は、次のとおりです。



- (注) 削除トランザクション用に bat.xlt として作成したトランザクション ファイルを挿入またはエクスポートしないでください。代わりに、削除が必要なマネージャのアソシエーション レコードの詳細情報が設定されたカスタム ファイルを作成する必要があります。削除トランザクションには、このファイルしか使用しないでください。このカスタム削除ファイルには、ヘッダーを指定する必要がありません。マネージャのアソシエーション ID の値を入力します。

手順

- ステップ 1** [一括管理(Bulk Administration)] > [マネージャ/アシスタント (Managers/Assistant)] > [マネージャの削除(Delete Managers)] > [カスタムファイル(Custom File)] の順に選択します。[マネージャの削除(カスタム) (Delete Managers Custom Configuration)] ウィンドウが表示されます。
- ステップ 2** [削除対象: マネージャ、検索条件(Select managers where)] フィールドで、識別子 [ユーザ ID(User ID)] を選択します。
- ステップ 3** 2 番目のフィールドである [カスタムファイル(Custom File)] ドロップダウン リスト ボックスで、このトランザクション用に作成したカスタム ファイルの名前を選択します。
- ステップ 4** [検索(Find)] をクリックします。
検索されたマネージャのリストが表示されます。
- ステップ 5** [ジョブ情報(Job Information)] 領域に、ジョブの説明を入力します。
- ステップ 6** マネージャを即座に削除するには、[今すぐ実行(Run Immediately)] オプション ボタンをクリックします。マネージャを後で削除するには、[後で実行(Run Later)] をクリックします。
- ステップ 7** [送信(Submit)] をクリックして、選択したマネージャを削除するジョブを作成します。
- ステップ 8** このジョブのスケジュールやアクティブ化を行うには、[ジョブスケジューラ(Job Scheduler)] ウィンドウを使用します。
ジョブの詳細については、第 82 章「ジョブのスケジュール」を参照してください。
ログ ファイルの詳細については、「BAT ログ ファイル」(P.83-3) を参照してください。

関連項目

- 「マネージャとアシスタントのアソシエーションの削除」 (P.31-1)
- 「Cisco Unified Communications Manager からのアシスタントの削除」 (P.33-1)
- 「BAT ログ ファイル」 (P.83-3)
- 「ファイルのアップロード」 (P.2-3)
- 「ジョブのスケジュール」 (P.82-1)



CHAPTER 33

アシスタントの削除

Unified CM Assistant のアシスタントを削除しても、Cisco Unified Communications Manager は、そのアシスタントをユーザとしてディレクトリに保持します。たとえば、アシスタント *thudson* が、*hart* と *dstewart* という 2 人のマネージャに割り当てられているとします。*thudson* と 2 人のマネージャとのアソシエーションを削除するには、アシスタントとしての *thudson* を Cisco Unified Communications Manager データベースから削除します。削除した後も、ディレクトリには *thudson* がユーザとして残ります。

Cisco Unified Communications Manager からのアシスタントの削除

削除する既存のレコードを検索する方法には、次の 2 つがあります。

- 「クエリーを使用したアシスタントのアソシエーションの削除」(P.33-1)
- 「カスタム ファイルを使用したアシスタントのアソシエーションの削除」(P.33-3)

クエリーを使用したアシスタントのアソシエーションの削除

Cisco Unified Communications Manager ディレクトリ内にあるマネージャとのアソシエーションからアシスタントを削除する手順は、次のとおりです。

手順

- ステップ 1** [一括管理 (Bulk Administration)] > [マネージャ / アシスタント (Managers/Assistants)] > [アシスタントの削除 (Delete Assistants)] > [クエリー (Query)] の順に選択します。[アシスタントの削除 (Delete Assistants Configuration)] ウィンドウが表示されます。
- ステップ 2** 最初の [検索対象: アシスタント、検索条件 (Find Assistants where)] ドロップダウン リスト ボックスで、次のいずれかの検索条件を選択します。
 - [ユーザ ID (User ID)]
 - [名 (First Name)]
 - [ミドルネーム (Middle Name)]
 - [姓 (Last Name)]
 - [部署名 (Department)]

2 番目の [検索対象 : アシスタント、検索条件 (Find Assistants where)] ドロップダウン リストボックスで、次のいずれかの検索条件を選択します。

- [が次の文字列で始まる (begins with)]
- [が次の文字列を含む (contains)]
- [が次の文字列と等しい (is exactly)]
- [が次の文字列で終わる (ends with)]
- [が空である (is empty)]
- [が空ではない (is not empty)]

ステップ 3 必要に応じて、適切な検索テキストを指定します。



ヒント データベースに登録されているすべてのアシスタントを検索するには、検索テキストを入力せずに [検索 (Find)] をクリックします。



(注) アシスタントを複数の部署から選択するには、このフィールドに複数の部署を入力します。たとえば、部署 12 と部署 24 からマネージャを選択するには、3 番目のボックスに **12, 24** と入力します。削除操作を 2 回繰り返す必要はありません。

ステップ 4 クエリーをさらに定義する場合や、複数のフィルタを追加する場合は、[絞り込み (Search Within Results)] チェックボックスをオンにし、ドロップダウン ボックスから [AND] または [OR] を選択して、ステップ 2 ~ 3 を繰り返します。

ステップ 5 [検索 (Find)] をクリックします。

検索されたアシスタントのリストが、次の項目別に表示されます。

- [ユーザ ID (User ID)]
- [名 (First Name)]
- [ミドルネーム (Middle Name)]
- [姓 (Last Name)]
- [部署名 (Department)]

ステップ 6 [ジョブ情報 (Job Information)] 領域に、ジョブの説明を入力します。

ステップ 7 アシスタントを即座に削除するには、[今すぐ実行 (Run Immediately)] オプション ボタンをクリックします。アシスタントを後で削除するには、[後で実行 (Run Later)] をクリックします。

ステップ 8 [送信 (Submit)] をクリックして、アシスタントを削除するジョブを作成します。

ステップ 9 このジョブのスケジュールやアクティブ化を行うには、[一括管理 (Bulk Administration)] メインメニューの [ジョブスケジューラ (Job Scheduler)] オプションを使用します。

ジョブの詳細については、第 82 章「ジョブのスケジュール」を参照してください。

ログ ファイルの詳細については、「BAT ログ ファイル」(P.83-3) を参照してください。

追加情報

「関連項目」(P.33-4) を参照してください。

カスタム ファイルを使用したアシスタントのアソシエーションの削除

テキスト エディタを使用してカスタム ファイルを作成し、削除対象のアシスタントのアソシエーションを検索できます。

始める前に

1. テキスト ファイルを作成し、削除するアシスタントのユーザ ID を 1 行に 1 つずつ指定します。
2. カスタム ファイルを Cisco Unified Communications Manager サーバの最初のノードにアップロードします。詳細については、「[ファイルのアップロード](#)」(P.2-3) を参照してください。

カスタム ファイルを使用してアシスタントのアソシエーションを削除する手順は、次のとおりです。



(注) 削除トランザクション用に bat.xlt として作成したトランザクション ファイルを挿入またはエクスポートしないでください。代わりに、削除が必要なアシスタントのアソシエーション レコードの詳細情報が設定されたカスタム ファイルを作成する必要があります。削除トランザクションには、このファイルしか使用しないでください。このカスタム削除ファイルには、ヘッダーを指定する必要がありません。アシスタント ID の値を入力します。

手順

- ステップ 1** [一括管理 (Bulk Administration)] > [マネージャ / アシスタント (Managers/Assistant)] > [アシスタントの削除 (Delete Assistants)] > [カスタムファイル (Custom File)] の順に選択します。[アシスタントの削除 (カスタム) (Delete Assistants Custom Configuration)] ウィンドウが表示されます。
- ステップ 2** [削除対象: アシスタント、検索条件 (Select Assistants where)] フィールドで、識別子 [ユーザ ID (User ID)] を選択します。
- ステップ 3** 2 番目のフィールドである [カスタムファイル (Custom File)] ドロップダウン リスト ボックスで、このトランザクション用に作成したカスタム ファイルの名前を選択します。
- ステップ 4** [検索 (Find)] をクリックします。
検索されたアシスタントのリストが表示されます。
- ステップ 5** [ジョブ情報 (Job Information)] 領域に、ジョブの説明を入力します。
- ステップ 6** アシスタントを即座に削除するには、[今すぐ実行 (Run Immediately)] オプション ボタンをクリックします。アシスタントを後で削除するには、[後で実行 (Run Later)] をクリックします。
- ステップ 7** アシスタントを削除するジョブを作成するには、[送信 (Submit)] をクリックします
- ステップ 8** このジョブのスケジュールやアクティブ化を行うには、[一括管理 (Bulk Administration)] メインメニューの [ジョブスケジューラ (Job Scheduler)] オプションを使用します。
ジョブの詳細については、[第 82 章「ジョブのスケジュール」](#) を参照してください。
ログ ファイルの詳細については、「[BAT ログ ファイル](#)」(P.83-3) を参照してください。

追加情報

「[関連項目](#)」(P.33-4) を参照してください。

関連項目

- [「Cisco Unified Communications Manager からのアシスタントの削除」 \(P.33-1\)](#)
- [「Cisco Unified Communications Manager からのアシスタントの削除」 \(P.33-1\)](#)



CHAPTER 34

マネージャおよびアシスタントのレポートの生成

Cisco Unified CM Assistant マネージャおよびアシスタントのレポートは固定形式です。マネージャまたはアシスタントのクエリー オプションセットを指定してレポートを生成できます。

Cisco Unified Communications Manager Assistant マネージャおよびアシスタントのレポートの生成

マネージャおよびアシスタントのレポートを生成する手順は、次のとおりです。

手順

ステップ 1 次のいずれかのオプションを選択してください。

- [一括管理 (Bulk Administration)] > [マネージャ / アシスタント (Managers/Assistants)] > [マネージャレポートの作成 (Generate Manager Reports)] の順に選択します。[マネージャの検索と一覧表示 (Find and List Managers)] ウィンドウが表示されます。
- [一括管理 (Bulk Administration)] > [マネージャ / アシスタント (Managers/Assistants)] > [アシスタントレポートの作成 (Generate Assistant Reports)] の順に選択します。[アシスタントの検索と一覧表示 (Find and List Assistants)] ウィンドウが表示されます。

ステップ 2 クエリーを指定せずにすべてのマネージャまたはアシスタントについてのレポートを生成できます。また、次に示す手順で、特定のマネージャまたはアシスタントのレポートを生成できます。

- a. [検索対象: マネージャ、検索条件 (Find Managers where)] (または [検索対象: アシスタント、検索条件 (Find Assistants where)]) ドロップダウン リスト ボックスで、次のいずれかのクエリー オプションを選択します。
 - [ユーザ ID (User ID)]
 - [名 (First Name)]
 - [ミドルネーム (Middle Name)]
 - [姓 (Last Name)]
 - [部署名 (Department)]
- b. 2 番目のドロップダウン リスト ボックスで、次のいずれかのオプションを選択します。
 - [が次の文字列で始まる (begins with)]
 - [が次の文字列を含む (contains)]
 - [が次の文字列と等しい (is exactly)]

- [が次の文字列で終わる (ends with)]
 - [が空である (is empty)]
 - [が空ではない (is not empty)]
- c. 検索フィールド ボックスに、検索対象の値（たとえば、正確なユーザ ID またはユーザの姓）を入力します。
- 検索フィールド ボックスに複数の値を入力するには、カンマで区切ります（例：*JohnJ, PaulP, SueS, JoeJ*）。
- d. [検索 (Find)] をクリックします。



(注) 複数のフィルタを追加するには、[AND] または [OR] をクリックします。クエリーをさらに定義するには、ステップ a ~ d を繰り返します。

- ステップ 3** レポートのタイプについての詳細を選択する場合は、[次へ (Next)] をクリックします。クエリーのタイプを変更する場合は、[戻る (Back)] をクリックします。
- ステップ 4** [ファイル名 (File Name)] フィールドに、このレポートの名前を入力します（必須）。
- ステップ 5** [ファイル形式 (File Format)] フィールドで、ドロップダウン リスト ボックスからファイル形式を選択します。
- ステップ 6** [ジョブ情報 (Job Information)] 領域に、ジョブの説明を入力します。
- ステップ 7** マネージャとアシスタントのレポートを即座に生成するには、[今すぐ実行 (Run Immediately)] オプション ボタンをクリックします。レポートを後で生成するには、[後で実行 (Run Later)] をクリックします。
- ステップ 8** レポートを生成するジョブを作成するには、[送信 (Submit)] をクリックします。
- ステップ 9** このジョブのスケジュールやアクティブ化を行うには、[一括管理 (Bulk Administration)] メイン メニューの [ジョブスケジューラ (Job Scheduler)] オプションを使用します。
- ジョブの詳細については、[第 82 章「ジョブのスケジュール」](#) を参照してください。
- ログ ファイルの詳細については、[「BAT ログ ファイル」 \(P.83-3\)](#) を参照してください。

Cisco Unified Communications Manager 一括管理 (BAT) は、Cisco Unified Communications Manager サーバの最初のノードにレポート ファイルを保存します。

追加情報

[「関連項目」 \(P.34-3\)](#) を参照してください。

レポート ログ ファイルの表示

レポート トランザクションごとにログ ファイルが生成され、データベース サーバの最初のノードに格納されます。[一括管理 (Bulk Administration)] メニューの [ジョブスケジューラ (Job Scheduler)] オプションを使用してジョブを検索できます。[ジョブスケジューラ (Job Scheduler)] ウィンドウで、ジョブに対応する [ログファイル名 (Log File Name)] カラムへのリンクをクリックすると、ログファイルが表示されます。

ジョブの詳細については、[第 82 章「ジョブのスケジュール」](#) を参照してください。

ログ ファイルの詳細については、[「BAT ログ ファイル」 \(P.83-3\)](#) を参照してください。

追加情報

「関連項目」(P.34-3) を参照してください。

関連項目

- 「Cisco Unified Communications Manager Assistant マネージャおよびアシスタントのレポートの生成」(P.34-1)
- 「レポート ログ ファイルの表示」(P.34-2)
- 「BAT ログ ファイル」(P.83-3)
- 「ジョブのスケジュール」(P.82-1)



PART 7

ユーザ デバイス プロファイル



CHAPTER 35

ユーザ デバイス プロファイル

Cisco Unified Communications Manager 一括管理 (BAT) の [ユーザデバイスプロファイル (User Device Profiles)] (UDP) オプションを使用すると、多数のユーザ デバイス プロファイルを追加または削除できます。さらに、ユーザ デバイス プロファイルの回線を追加または更新できます。システムはエクステンション モビリティ機能と一緒に UDP を使用します。

ユーザ デバイス プロファイルの管理用オプションの詳細については、次のトピックを参照してください。

- 「ユーザ デバイス プロファイルの追加」 (P.35-1)
- 「ユーザ デバイス用のユーザ デバイス プロファイルの挿入」 (P.40-1)
- 「ユーザ デバイス プロファイルの削除」 (P.42-1)
- 「ユーザ デバイス プロファイル レコードのエクスポート」 (P.43-3)
- 「ユーザ デバイス プロファイル用の回線の更新」 (P.44-1)
- 「既存の電話機および UDP への回線の追加」 (P.10-10)
- 「ユーザ デバイス プロファイルのレポートの生成」 (P.46-1)

ユーザ デバイス プロファイルの追加

BAT を使用すると Cisco Unified Communications Manager データベースにユーザ デバイス プロファイルを追加するときに、複数の回線と他の機能を追加できます。

ユーザ デバイス プロファイル用の CSV データ ファイルを作成するには次の 2 つのオプションから選択します。

- BAT スプレッドシート (BAT.xlsx) を使用し、データを CSV 形式にエクスポートする。
- テキスト エディタを使用して、CSV 形式のテキスト ファイルを作成する (経験豊富なユーザ向け)。

Cisco Unified Communications Manager データベースにユーザ デバイス プロファイルを一括で追加する手順は、次のとおりです。

手順

- ステップ 1** [一括管理 (Bulk Administration)] > [ユーザデバイスプロファイル (User Device Profiles)] > [UDP テンプレート (User Device Profile Template)] の順に選択します。
- [UDP テンプレートの検索と一覧表示 (Find and List UDP Templates)] ウィンドウが表示されます。UDP テンプレートの設定の詳細については、「[ユーザ デバイス プロファイル用の一括管理 \(BAT\) テンプレートの作成](#)」(P.36-2) を参照してください。
- ステップ 2** 次のオプションのどちらかの手順に従って CSV データ ファイルを作成します。
- a. **BAT スプレッドシート オプション**

BAT スプレッドシートを開き、CSV データ ファイルを作成します。詳細については、「[BAT スプレッドシートを使用したユーザ デバイス プロファイル CSV データ ファイルの作成](#)」(P.35-3) を参照してください。
 - b. **テキスト エディタ オプション**
 - [UDP ファイル形式の作成 (UDP File Format)] を選択します。

[UDP ファイル形式の検索と一覧表示 (Find and List UDP File Formats)] ウィンドウが表示されます。CSV データ ファイル用のファイル形式設定の詳細については、「[ユーザ デバイス プロファイルのファイル形式の設定](#)」(P.37-1) を参照してください。
 - テキスト エディタを使用して、ユーザ デバイス プロファイル用の CSV データ ファイルを、採用するファイル形式に合うように作成します。テキストベースの CSV ファイル作成の詳細については、「[ユーザ デバイス プロファイル用のテキストベース CSV ファイルの作成](#)」(P.A-10) を参照してください。
 - [ファイル形式の追加 (Add File Format)] を選択します。

[ファイル形式の追加 (Add File Format Configuration)] ウィンドウが表示されます。ファイル形式の詳細については、「[ファイル形式の追加](#)」(P.38-1) を参照してください。
- ステップ 3** [UDP の確認 (Validate User Device Profiles)] を選択します。
- [ユーザデバイスプロファイルの確認 (Validate User Device Profiles Configuration)] ウィンドウが表示されます。ユーザ デバイス プロファイル レコードの確認の詳細については、「[ユーザ デバイス プロファイルの確認](#)」(P.39-1) を参照してください。
- ステップ 4** [UDP の挿入 (Insert User Device Profiles)] を選択します。
- [ユーザデバイスプロファイルの挿入 (Insert User Device Profiles Configuration)] ウィンドウが表示されます。Cisco Unified Communications Manager データベースへのユーザ デバイス プロファイル レコードの挿入の詳細については、「[ユーザ デバイス用のユーザ デバイス プロファイルの挿入](#)」(P.40-1) を参照してください。

追加情報

「[関連項目](#)」(P.35-13) を参照してください。

BAT スプレッドシートを使用したユーザ デバイス プロファイル CSV データ ファイルの作成

新しいユーザ デバイス プロファイルを追加する場合、BAT スプレッドシートが使用できます。スプレッドシート内でファイル形式を定義することで、スプレッドシートにそのデータ ファイル形式を適用し、CSV データ ファイル用のフィールドを表示させることができます。

BAT スプレッドシートの場所の確認と使用方法の詳細については、「[BAT スプレッドシートをデータ収集に使用する方法](#)」(P.1-9) を参照してください。

新しいユーザ デバイス プロファイルを追加するための BAT スプレッドシートを使用して CSV データ ファイルを作成する手順は、次のとおりです。

手順

- ステップ 1** Cisco Unified Communications Manager サーバから **BAT.xlt** ファイルをダウンロードします。詳細については、「[ファイルのダウンロード](#)」(P.2-2) を参照してください。
- ステップ 2** BAT スプレッドシートを開きます。プロンプトが表示されたら、[マクロを有効にする] ボタンをクリックして、スプレッドシート機能を使用します。
- ステップ 3** [ユーザデバイスプロファイル (User Device Profiles)] オプションを表示するには、スプレッドシートの下部にある [User Device Profiles] タブをクリックします。
- ステップ 4** ユーザ デバイス プロファイルごとに定義できるデバイス フィールドおよび回線フィールドを選択するには、[Create File Format] をクリックします。[Field Selection] ポップアップ ウィンドウが表示されます。
- ステップ 5** デバイス フィールドを選択するには、[Device Fields] ボックスでデバイス フィールド名をクリックし、次に矢印をクリックしてそのフィールドを [Selected Device Fields] ボックスに移動します。
CSV データ ファイルには、[Device Profile Name] および [Description] を含める必要があります。したがって、これらのフィールドは常に選択された状態になっています。

ヒント リスト内の特定範囲のフィールドを複数同時に選択するには、Shift キーを押しながらフィールド名をクリックします。複数のフィールドを任意に選択するには、Ctrl キーを押しながらフィールド名をクリックします。
- ステップ 6** [Line Fields] ボックスで回線フィールド名をクリックしてから、矢印をクリックしてそのフィールドを [Selected Line Fields] ボックスに移動します。

ヒント [Selected Line Fields] ボックスと [Selected Device Fields] ボックスの項目の順序は変更できます。項目を選択し、上向き矢印を使用してその項目をリストの前方に移動させるか、下向き矢印を使用してその項目をリストの後方に移動させます。
- ステップ 7** CSV データ ファイル形式を修正するには、[Create] をクリックします。既存の CSV 形式を上書きするかどうかを確認するメッセージが表示されます。
- ステップ 8** [OK] をクリックします。選択したフィールド用の新しいカラムが、指定した順序で BAT スプレッドシートに表示されます。
- ステップ 9** [Number of Phone Lines] ボックスを探すために、右にスクロールします。ここで指定する回線の数は、BAT テンプレートで設定された回線の数を超えることはできません。この数を超えると CSV データ ファイルと UDP テンプレートを挿入するときにエラーが発生します。

- ステップ 10** [Number of Speed Dials] ボックスでスピード ダイアル ボタンの数を入力する必要があります。ボタン数を入力すると、各スピード ダイアル 番号用のカラムが表示されます。



(注) User Device Profile テンプレートに設定したスピード ダイアルの数を超えることはできません。その数を超えると CSV データ ファイルおよび UDP テンプレートを挿入するときにエラーが発生します。

- ステップ 11** スプレッドシートの回線ごとに、個々のユーザ デバイス プロファイルのデータを入力します。すべての必須フィールド、および該当するオプション フィールドに値を入力します。各カラムの見出しは、フィールドの長さ、およびそのフィールドが必須かオプションかを指定しています。BAT スプレッドシートのフィールドの詳細については、表 35-1 を参照してください。

- ステップ 12** [Export to BAT Format] をクリックして BAT Excel スプレッドシートから CSV 形式のデータ ファイルにデータを転送します。

このファイルは、次の名前が付けられて、C:\¥XLSDataFiles またはローカル ワークステーション上の選択した別の既存フォルダに保存されます。ファイル名は次のとおりです。

<tabname>-<timestamp>.txt

ここで、<tabname> は、作成した入力ファイルのタイプ（たとえば、phones）を表し、<timestamp> は、ファイルが作成された正確な日時を表します。

「ファイルのアップロード」(P.2-3) の手順に従って、CSV ファイルを Cisco Unified Communications Manager サーバにアップロードします。



(注) エクスポートされた CSV データ ファイルを読み取る方法の詳細については、BAT 内の [ユーザデバイス プロファイルの挿入 (Insert User Device Profiles Configuration)] ウィンドウで、[サンプルファイルの表示 (View Sample File)] へのリンクをクリックしてください。

追加情報

「関連項目」(P.35-13) を参照してください。

BAT スプレッドシートの User Device Profile フィールドの説明

表 35-1 では、BAT スプレッドシート内のすべてのユーザ デバイス プロファイル フィールドについて説明します。関連する手順については、「関連項目」(P.35-13) を参照してください。

表 35-1 BAT スプレッドシート内の User Device Profile のフィールドの説明

フィールド	説明
[Device Fields] (必須フィールド)	
[Device Profile Name]	デバイス プロファイル名に固有の識別名を入力します。
[Description]	電話機またはデバイスの特定に役立つ説明（たとえば、「Conference Room A」や「John Smith」）を入力します。説明には、任意の言語で最大 50 文字を指定できますが、二重引用符 (")、パーセント記号 (%)、アンパサンド (&)、バックスラッシュ (\)、または山カッコ (<>) は使用できません。

表 35-1 BAT スプレッドシート内の User Device Profile のフィールドの説明

フィールド	説明
[Device Fields] (オプション フィールド)	
[User Locale]	このグループの IP Phone に関連付ける国/地域と言語の組み合わせを入力します。 この選択内容によって、言語やフォントを含むロケール属性のどれをこのユーザに適用するか、およびこのユーザの Cisco Unified Communications Manager のユーザ ウィンドウと電話機をどの言語で表示するかが決まります。
[Softkey Template]	このグループ内の電話機すべてに使用されるソフトキー テンプレートを入力します。
[User ID]	この電話機ユーザのユーザ ID を入力します。
[Login User ID]	デフォルト プロファイル用のログイン ユーザ ID を入力します。 ユーザ デバイス プロファイルがログアウト プロファイルとして使用されている場合は、電話機に関連付けるログイン ユーザ ID を指定します。ユーザがこのユーザ デバイス プロファイルからログアウトすると、電話機は自動的にこのログイン ユーザ ID にログインします。
[User Hold Audio Source]	このグループの IP Phone または CTI ポートが使用するユーザ保留オーディオ ソースを入力します。 ユーザ保留オーディオ ソースは、ユーザがコールを保留にしたときに再生される音楽のオーディオ ソースを特定します。
[Phone Template]	このユーザ デバイス プロファイルと関連付ける電話機テンプレート名を入力します。
[MLPP Indication]	優先トーンを再生する機能のあるデバイスが、MLPP 優先コールを行うときにその機能を使用するかどうかを指定します。
[MLPP Preemption]	(使用可能な場合) 進行中のコールをプリエンプション処理する機能のあるデバイスが、MLPP 優先コールを行うときにその機能を使用するかどうかを指定します。
[Always Use Prime Line]	次のオプションのいずれかを入力します。 <ul style="list-style-type: none"> • [Off] : 電話機がアイドル状態で、いずれかの回線でコールを受けたとき、電話機ユーザはコールを受けた回線でコールに応答します。 • [On] : 電話機がアイドル状態で (オフフック)、いずれかの回線でコールを受けたとき、プライマリ回線がコールに選択されます。他の回線のコールでは引き続き呼出音が鳴り、電話機ユーザは他の回線を選択してコールに応答する必要があります。 • [Default] : Cisco Unified Communications Manager は常にプライム回線を使用するサービス パラメータの設定を使用します。これは、Cisco CallManager サービスをサポートします。

表 35-1 BAT スプレッドシート内の User Device Profile のフィールドの説明

フィールド	説明
[Always Use Prime Line for Voice Message]	次のオプションのいずれかを入力します。 <ul style="list-style-type: none"> [On] : 電話機がアイドル状態の場合、電話機ユーザが電話機の [メッセージ] ボタンを押すと、電話機のプライマリ回線がボイスメッセージを取得するためのアクティブな回線になります。 [Off] : 電話機がアイドル状態の場合、電話機の [メッセージ] ボタンを押すと、ボイスメッセージのある回線からボイスメッセージシステムに自動的にダイヤルします。Cisco Unified Communications Manager は、ボイスメッセージのある最初の回線を常に選択します。ボイスメッセージのある回線がない場合は、電話機ユーザが [メッセージ] ボタンを押すとプライマリ回線が使用されます。 [Default] : Cisco Unified Communications Manager はボイスメッセージには常にプライム回線を使用するサービス パラメータの設定を使用します。これは、Cisco CallManager サービスをサポートします。
[MLPP Domain]	このデバイスに関連付けられている MLPP ドメインの 16 進数値を入力します。ブランクまたは 0 ~ FFFFFFF の値である必要があります。
[Feature Control Policy]	このグループの電話機の機能管理ポリシーを選択します。 機能管理ポリシーは、機能のアピアランスおよび電話機に表示される関連付けられたソフトキーを指定します。
[Extension Mobility Cross Cluster CSS]	[Extension Mobility Cross Cluster CSS] の設定値は、EMCC ログイン中にこのデバイス プロファイルをユーザが選択したときに、リモート電話機のデバイス CSS として使用されます。
[Line Fields] (オプション フィールド)	
[Directory Number]	電話機の電話番号を入力します。
[Route Partition]	電話番号が属するルート パーティションを選択します。 電話番号は複数のパーティションに現れる可能性があります。
[Display]	コールの着信側の電話機ディスプレイに表示するテキストを入力します (たとえば、John Smith などのユーザ名や Conference Room 1 などの電話機の設置場所など)。このフィールドの値が表示される電話機の種類にご注意ください。対象に漢字未対応の電話機が含まれる場合は、状況により半角カタカナあるいは ASCII 文字を使用するようにしてください。また、電話機のユーザ ロケールが複数存在する場合は、共通する文字セットを使用してください。 (注) このフィールドをブランクにしておくと、[Directory Number] フィールドに入力された値が使用されます。 (注) デフォルトの言語は英語です。

表 35-1 BAT スプレッドシート内の User Device Profile のフィールドの説明

フィールド	説明
[Forward All CSS]	<p>コールが指定された宛先に自動転送されるときに使用するコーリング サーチ スペースを選択します。</p> <p>(注) この設定値は、この電話番号を使用するすべてのデバイスに適用されます。</p>
[Forward All Destination]	<p>すべてのコールが自動転送される先の電話番号を入力します。</p> <p>(注) この設定値は、ダイヤル可能な任意の電話番号（制限されていない限り、外部の宛先を含む）、およびこの電話番号を使用するすべてのデバイスに適用されます。</p>
[Forward Busy External CSS]	<p>外部番号からのコールが指定された宛先に自動転送されるときに使用するコーリング サーチ スペースを選択します。</p> <p>(注) この設定値は、この電話番号を使用するすべてのデバイスに適用されます。</p>
[Forward Busy Internal CSS]	<p>内部番号からのコールが指定された宛先に自動転送されるときに使用するコーリング サーチ スペースを選択します。</p> <p>(注) この設定値は、この電話番号を使用するすべてのデバイスに適用されます。</p>
[Forward Busy External Destination]	<p>回線が使用中のときに外部番号からのコールが自動転送される先の電話番号を入力します。</p> <p>(注) この設定値は、ダイヤル可能な任意の電話番号（制限されていない限り、外部の宛先を含む）、およびこの電話番号を使用するすべてのデバイスに適用されます。</p>
[Forward Busy Internal Destination]	<p>回線が使用中のときに内部番号からのコールが自動転送される先の電話番号を入力します。</p> <p>(注) この設定値は、ダイヤル可能な任意の電話番号（制限されていない限り、外部の宛先を含む）、およびこの電話番号を使用するすべてのデバイスに適用されます。</p>
[Forward No Answer External CSS]	<p>外部番号からのコールが指定された宛先に自動転送されるときに使用するコーリング サーチ スペースを選択します。この設定値は、システム内で設定されている場合だけ、表示されます。</p> <p>(注) この設定値は、この電話番号を使用するすべてのデバイスに適用されます。</p>
[Forward No Answer Internal CSS]	<p>内部番号からのコールが指定された宛先に自動転送されるときに使用するコーリング サーチ スペースを選択します。この設定値は、システム内で設定されている場合だけ、表示されます。</p> <p>(注) この設定値は、この電話番号を使用するすべてのデバイスに適用されます。</p>
[Forward No Answer External Destination]	<p>電話機が応答しない場合に外部番号からのコールが自動転送される先の電話番号を入力します。</p> <p>(注) この設定値は、ダイヤル可能な任意の電話番号（制限されていない限り、外部の宛先を含む）、およびこの電話番号を使用するすべてのデバイスに適用されます。</p>

表 35-1 BAT スプレッドシート内の User Device Profile のフィールドの説明

フィールド	説明
[Forward No Answer Internal Destination]	電話機が応答しない場合に内部番号からのコールが自動転送される先の電話番号を入力します。 (注) この設定値は、ダイヤル可能な任意の電話番号（制限されていない限り、外部の宛先を含む）、およびこの電話番号を使用するすべてのデバイスに適用されます。
[Forward No Coverage External CSS]	外部番号からのコールが指定された宛先に自動転送されるときに使用するコーリング サーチ スペースを入力します。この設定値は、システム内で設定されている場合だけ、表示されます。 (注) この設定値は、この電話番号を使用するすべてのデバイスに適用されます。
[Forward No Coverage Internal CSS]	内部番号からのコールが指定された宛先に自動転送されるときに使用するコーリング サーチ スペースを入力します。この設定値は、システム内で設定されている場合だけ、表示されます。 (注) この設定値は、この電話番号を使用するすべてのデバイスに適用されます。
[Forward No Coverage External Destination]	電話機のカバレッジが対応しない場合に外部番号からのコールが自動転送される先の電話番号を入力します。 (注) この設定値は、ダイヤル可能な任意の電話番号（制限されていない限り、外部の宛先を含む）、およびこの電話番号を使用するすべてのデバイスに適用されます。
[Forward No Coverage Internal Destination]	電話機のカバレッジが対応しない場合に内部番号からのコールが自動転送される先の電話番号を入力します。 (注) この設定値は、ダイヤル可能な任意の電話番号（制限されていない限り、外部の宛先を含む）、およびこの電話番号を使用するすべてのデバイスに適用されます。
[Calling Search Space Forward on Failure External/Internal]	(CTI ポートのみ) 内線コールまたは外線コールが指定された宛先に自動転送されるときに使用するコーリング サーチ スペースを入力します。この設定値は、システム内で設定されている場合だけ、表示されます。 (注) この設定値は、この電話番号を使用するすべてのデバイスに適用されます。
[Forward on Failure Destination External/Internal]	(CTI ポートのみ) 電話機または CTI アプリケーションに障害が起きたときに、内部番号または外部番号からのコールが自動転送される先の電話番号を入力します。
[Call Forward No Answer Ring Duration]	コールが呼び出し音を送り、応答を待つ秒数（1 ～ 300）を入力します。この時間内に応答がないと、[Forward No Answer Destination] フィールドで入力された電話番号にコールを自動転送します。 Cisco Unified Communications Manager サービス パラメータの Forward No Answer Timer で設定されている値を使用する場合は、このフィールドをブランクのままにします。

表 35-1 BAT スプレッドシート内の User Device Profile のフィールドの説明

フィールド	説明
[Route Filter]	<p>[Route Filter Name] フィールドに名前を入力します。名前は、最大 50 文字の英数字と、空白、ピリオド (.)、ハイフン (-)、およびアンダースコア (_) の各文字を自由に組み合わせることができます。各フィルタ名がルート プランで一意であることを確認します。</p> <p>ルートフィルタには、短くてわかりやすい名前を使用します。CompanynameLocationCalltype という形式を使用すれば、通常、十分に詳細でありながら、ルートフィルタをすばやく容易に識別する短い名前が作成できます。たとえば、CiscoDallasMetro という名前は、着信無料のローカル間アクセスであり、シスコのダラス オフィスからのトランスポート領域 (LATA) コールのルートフィルタを示します。</p>
[Party Entrance Tone]	<p>次のオプションのいずれかを入力します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [Default] : Party Entrance Tone サービス パラメータで設定した値を使用します。 • [On] : 基本コールがマルチパーティ コール (割り込みコール、C 割り込みコール、アドホック会議、ミーティング会議、または参加コール) に変わると、電話機でトーンが再生されます。さらに、通話者がマルチパーティ コールを離れると、別のトーンが再生されます。制御デバイスつまりマルチパーティ コールの発信元がビルトインブリッジの場合、制御デバイスで [On] を選択すると、すべての通話者に対してトーンが再生されます。制御デバイス (たとえば、会議の開催者) がコールに参加しなくなっている場合、または制御デバイスがトーンを再生できない場合は、[On] が選択されていても、Cisco Unified Communications Manager はトーンを再生しません。 • [Off] : 基本コールがマルチパーティ コールに変わっても、電話機でトーンは再生されません。
[Log Missed Calls]	<p>このフィールドを使用すると、不在着信のログ機能をオンまたはオフにできます。「T」を入力すると、Cisco Unified Communications Manager は電話機でのその電話番号に対する通話履歴に不在着信のログを記録します。この機能を無効にするには「F」を入力します。</p>
[Park Monitoring Forward No Retrieve Destination External]	<p>パークされた発信側が外部ユーザの場合、パーク元の [Park Monitoring Forward No Retrieve Destination External] パラメータに指定された接続先にコールが自動転送されます。[Forward No Retrieve Destination External] フィールドの値が空の場合は、パークされた発信側がパーク元の回線にリダイレクトされます。</p>
[Park Monitoring Forward No Retrieve Destination Internal]	<p>パークされた発信側が内部ユーザの場合、パーク元の [Park Monitoring Forward No Retrieve Destination Internal] パラメータに指定された接続先にコールが自動転送されます。[Forward No Retrieve Destination Internal] フィールドの値が空の場合は、パークされた発信側がパーク元の回線にリダイレクトされます。</p>

表 35-1 BAT スプレッドシート内の User Device Profile のフィールドの説明

フィールド	説明
[Park Monitoring Forward No Retrieve Internal Voice Mail]	この設定では、[ボイスメールプロファイルの設定 (Voice Mail Profile Configuration)] ウィンドウの設定が使用されます。 このチェックボックスをオンにすると、Cisco Unified Communications Manager は、[接続先 (Destination)] ボックスと [コーリングサーチスペース (Calling Search Space)] の設定値を無視します。
[Park Monitoring Forward No Retrieve External Voice Mail]	この設定では、[ボイスメールプロファイルの設定 (Voice Mail Profile Configuration)] ウィンドウの設定が使用されます。 このチェックボックスをオンにすると、Cisco Unified Communications Manager は、[接続先 (Destination)] ボックスと [コーリングサーチスペース (Calling Search Space)] の設定値を無視します。
[Park Monitoring Forward No Retrieve External CSS]	電話番号に適用するコーリングサーチスペースを選択します。
[Park Monitoring Forward No Retrieve Internal CSS]	電話番号に適用するコーリングサーチスペースを選択します。
[Park Monitoring Reversion Timer]	このパラメータによって、Cisco Unified Communications Manager がユーザにパークしたコールの取得を求めるまでに待機する秒数が決まります。このタイマーはユーザが電話の [パーク] ソフトキーを押すと起動し、タイマーの期限が切れるとリマインダが発行されます。 デフォルト：60 秒 ゼロ以外の値を設定すると、[サービスパラメータ (Service Parameters)] ウィンドウに設定されているパラメータの値がこの値で上書きされます。一方、ここに 0 を設定すると、[サービスパラメータ (Service Parameters)] ウィンドウの値が使用されます。
[E164]	常に一意の E.164 数値を使用します。ヌル値は使用しないでください。
[Voice Mail Profile]	パイロット番号をこの回線の電話番号と同じにするには、このパラメータを入力します。この機能は、この電話機に対してボイスメッセージサーバが設定されていない場合に役立ちます。
[Line Calling Search Space]	この電話番号から呼び出される番号を検索するパーティションを入力します。 (注) このフィールドに変更を加えると、コールピックアップグループフィールドのリストに表示されるコールピックアップ名が更新されます。この設定値は、この電話番号を使用するすべてのデバイスに適用されます。
[AAR Group]	このデバイスの自動代替ルーティング (AAR) グループを入力します。AAR グループはプレフィックス番号を提供するものです。プレフィックス番号は、帯域幅不足のために本来ならブロックされるコールをルーティングするために使用します。 AAR グループを [<None>] に設定すると、ブロックされたコールの再ルーティングは行われません。

表 35-1 BAT スプレッドシート内の User Device Profile のフィールドの説明

フィールド	説明
[Line User Hold Audio Source]	ユーザが保留ボタンを押してコールを保留にするときに再生される保留音オーディオ ソースを入力します。
[Line Network Hold Audio Source]	システムがコールを保留にするとき（たとえば、ユーザがコールを転送したときまたは電話会議やコールを開始したとき）に再生される保留音オーディオ ソースを入力します。
[Auto Answer]	次のいずれかの値を入力して、この電話番号の自動応答機能をアクティブにします。 <ul style="list-style-type: none"> • [Auto Answer Off] <デフォルト> • [Auto Answer with Headset] • [Auto Answer with Speakerphone]（インターコム） (注) [Auto Answer with Headset] または [Auto Answer with Speakerphone] を選択する場合、ヘッドセットまたはスピーカフォンが使用不可になっていないことを確認してください。
[No Answer Ring Duration (CFNA)]	コールが呼び出し音を送り、応答を待つ時間（秒数）を入力します。この時間内に応答がないと、無応答時の転送着信先にコールを自動転送します。
[Call Pickup Group]	ピックアップ グループ名を入力してコール ピックアップ グループを指定します。コール ピックアップ グループでは、該当のピックアップ グループ番号をダイヤルすることにより、この回線への着信コールに応答することができます。 BAT 電話機テンプレートの入力値を使用するには、このフィールドをブランクのままにします。
[Target Destination (MLPP)]	この電話番号が優先コールを受信したが、その番号もその自動転送先もその優先コールに応答しない場合に、MLPP 優先コールが向けられる先の番号を入力します。 値は数字、シャープ (#)、およびアスタリスク (*) を含めることができます。
[Target CSS (MLPP)]	ドロップダウン リスト ボックスから、代替パーティ ターゲット (宛先) 番号に関連付けるコーリング サーチ スペースを選択します。
[No Answer Ring Duration (MLPP)]	優先コールに対してこの電話番号とその自動転送先が応答するのを待つ時間（4 ～ 30 秒）を入力します。この時間内に応答がないと、MLPP 優先コールはこの電話番号の代替パーティに向けて送られます。 Cisco Unified Communications Manager エンタープライズ パラメータの Precedence Alternate Party Timeout で設定されている値を使用する場合は、この設定をブランクのままにします。

表 35-1 BAT スプレッドシート内の User Device Profile のフィールドの説明

フィールド	説明
[Line Text Label]	<p>回線と電話機の組み合わせに使用されているこの電話番号を識別するためのテキストを入力します。このフィールドの値が表示される電話機の種類にご注意ください。対象に漢字未対応の電話機が含まれる場合は、状況により半角カタカナあるいは ASCII 文字を使用するようにしてください。また、電話機のユーザ ロケールが複数存在する場合は、共通する文字セットを使用してください。</p> <p>(注) デフォルトのテキストは英語です。</p>
[External Phone Number Mask]	<p>この回線からコールを行うときに発信者 ID 用に送信される電話番号（またはマスク）を入力します。</p> <p>最大 30 桁の数字と「X」文字が入力できます。X は電話番号を表し、パターン最後に表示する必要があります。たとえば、972813XXXX というマスクを指定すると、内線 1234 からの外線コールには発信者 ID 番号 9728131234 が表示されます。</p>
[Maximum Number of Calls]	<p>クラスタ内のデバイスの 1 つの回線に対して最大 200 のコールを設定できます。ただし、デバイスが制限要因となります。1 つの回線に対してコールの数を設定すると、別の回線に使用可能なコールが減少します。</p> <p>デフォルトは 4 です。電話機が回線ごとの複数コールを許可していない場合、デフォルトは 2 です。</p> <p>CTI ルート ポイントに対しては、各ポートに対して最大 10,000 のコールを設定できます。デフォルトは 5000 コールです。このフィールドは [Busy Trigger] フィールドと併せて使用します。</p>
[Busy Trigger]	<p>この設定は、[Maximum Number of Calls] および [Call Forward Busy] と連動し、回線で表示されるコールの最大数を決定します。[Maximum Number of Calls] が 50 に設定され、[Busy Trigger] が 40 に設定されている場合、着信コール 41 は話し中を理由として拒否されます（さらに [Call Forward Busy] が設定されている場合は転送されます）。この回線が共有されている場合は、すべての回線が話し中になって、初めて着信コールが拒否されます。</p> <p>このフィールドは、CTI ルート ポイント用の [Maximum Number of Calls] と併せて使用します。デフォルトは 4500 コールです。</p>
[Message Waiting Lamp Policy]	<p>このフィールドを使用してハンドセット ランプ照明ポリシーを設定します。次のオプションのいずれかを選択してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [Use System Policy]（電話番号は「メッセージ受信ランプポリシー (Message Waiting Lamp Policy)」設定を参照します） • [Light and Prompt] • [Prompt Only] • [Light Only] • [None]

表 35-1 BAT スプレッドシート内の User Device Profile のフィールドの説明

フィールド	説明
[Ring Setting (Phone Idle)]	<p>着信コールを受信し、デバイスに他のアクティブなコールがない場合の、ライン アピランスに対する呼び出し音設定を選択します。次のオプションのいずれかを選択してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [Use System Default] • [Disable] • [Flash Only] • [Ring Once] • [Ring]
[Ring Setting (Phone Active)]	<p>この電話機に異なる回線で別のアクティブ コールがあった場合に使用される呼び出し音設定を選択します。次のオプションのいずれかを選択してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [Use System Default] • [Disable] • [Flash Only] • [Ring Once] • [Ring] • [Beep Only]

関連項目

- 「ユーザ デバイス プロファイルの追加」 (P.35-1)
- 「ユーザ デバイス用のユーザ デバイス プロファイルの挿入」 (P.40-1)
- 「ユーザ デバイス プロファイルの削除」 (P.42-1)
- 「ユーザ デバイス プロファイル レコードのエクスポート」 (P.43-3)
- 「ユーザ デバイス プロファイル用の回線の更新」 (P.44-1)
- 「既存の電話機および UDP への回線の追加」 (P.10-10)
- 「ユーザ デバイス プロファイルのレポートの生成」 (P.46-1)



CHAPTER 36

ユーザ デバイス プロファイル テンプレート

この章では、ユーザ デバイス プロファイルの作成と変更の手順を説明します。

この章は、次の項で構成されています。

- 「ユーザ デバイス プロファイル テンプレートの検索」(P.36-1)
- 「ユーザ デバイス プロファイル用の一括管理 (BAT) テンプレートの作成」(P.36-2)
- 「テンプレートの修正」(P.36-5)
- 「関連項目」(P.36-7)

ユーザ デバイス プロファイル テンプレートの検索

複数のユーザ デバイス プロファイル (UDP) テンプレートに対応できるように、Cisco Unified Communications Manager では、固有の検索条件に基づいて特定のテンプレートを探し出すことができます。テンプレートを見つける手順は、次のとおりです。



(注)

ブラウザセッションの作業中、検索/一覧表示の検索プリファレンスはクライアント マシンのクッキーに格納されます。別のメニュー項目に移動してからこのメニュー項目に戻った場合、またはブラウザを閉じてから新しいブラウザ ウィンドウを再度開いた場合、検索を変更するまで Cisco Unified Communications Manager 検索プリファレンスが維持されます。

手順

- ステップ 1** [一括管理 (Bulk Administration)] > [ユーザ デバイス プロファイル (User Device Profiles)] > [UDP テンプレート (User Device Profile Template)] の順に選択します。
- [UDP テンプレートの検索と一覧表示 (Find and List UDP Templates)] ウィンドウが表示されます。2 つのドロップダウン リスト ボックスを使用して、テンプレートを検索します。
- ステップ 2** 最初の [検索対象: UDP テンプレート、検索条件:(Find UDP Templates where)] ドロップダウン リスト ボックスで、次のいずれかの検索条件を選択します。
- [プロフィール名 (Profile Name)]
 - [プロフィールの説明 (Profile Description)]
 - [デバイス タイプ (Device Type)]

2 番目の [検索対象 : UDP テンプレート、検索条件 :(Find UDP Templates where)] ドロップダウン リスト ボックスで、次のいずれかの検索条件を選択します。

- [が次の文字列で始まる (begins with)]
- [が次の文字列を含む (contains)]
- [が次の文字列と等しい (is exactly)]
- [が次の文字列で終わる (ends with)]
- [が空である (is empty)]
- [が空ではない (is not empty)]

ステップ 3 必要に応じて、適切な検索テキストを指定し、[検索 (Find)] をクリックします。



ヒント データベースに登録されているすべての UDP テンプレートを検索するには、検索テキストを入力せずに [検索 (Find)] をクリックします。

検索されたテンプレートのリストが、次の項目別に表示されます。

- [名前 (Name)]
- [説明 (Description)]
- [デバイスタイプ (Device Type)]
- [プロファイルタイプ (Profile Type)]

ステップ 4 レコードのリストから、検索条件に一致するテンプレート名をクリックします。

[UDP テンプレートの設定 (UDP Template Configuration)] ウィンドウが表示されます。

追加情報

「関連項目」(P.36-7) を参照してください。

ユーザ デバイス プロファイル用の一括管理 (BAT) テンプレートの作成

ユーザ デバイス プロファイルを一括して追加するためのテンプレートを作成する手順は、次のとおりです。

手順

- ステップ 1** [一括管理 (Bulk Administration)] > [ユーザデバイスプロファイル (User Device Profiles)] > [UDP テンプレート (User Device Profile Template)] の順に選択します。
- ステップ 2** [新規追加 (Add New)] をクリックします。[UDP テンプレートの設定 (UDP Template Configuration)] ウィンドウが表示されます。
- ステップ 3** [デバイスプロファイルタイプ (Device Profile Type)] ドロップダウン リスト ボックスから、ユーザ デバイス プロファイルのモデルを選択します。[次へ (Next)] をクリックします。
- ステップ 4** [ユーザデバイスプロファイルテンプレート名 (User Device Profile Template Name)] フィールドに、50 文字以下で固有の名前を入力します。

ステップ 5 [説明 (Description)] フィールドに、UDP テンプレートの説明を入力します。説明には、任意の言語で最大 50 文字を指定できますが、二重引用符 (")、パーセント記号 (%)、アンパサンド (&)、バックスラッシュ (\)、または山カッコ (<>) は使用できません。

デバイスのモデルによっては、次のフィールドの一部が表示されない場合があります。

- [ユーザ保留音源 (User Hold Audio Source)] : ユーザがコールを保留にしたときに再生されるオーディオソースを選択します。
- [ユーザロケール (User Locale)] : このプロファイル用の国と言語の組み合わせを選択します。
- [電話ボタンテンプレート (Phone Button Template)] : このプロファイル用の電話機ボタンテンプレートを選択します。
- [ソフトキーテンプレート (Softkey Template)] : このプロファイルに適切なソフトキーテンプレートを選択します。
- [プライバシー (Privacy)] : このプロファイルに適切なプライバシーオプションを選択します。
 - [オフ (Off)]
 - [オン (On)]
 - [デフォルト (Default)]



(注) プライバシーを必要とするデバイスごとに、[プライバシー (Privacy)] ドロップダウンリストボックスで [オン (On)] を選択します。設定情報の詳細については、『Cisco Unified Communications Manager 機能およびサービス ガイド』の「割り込みとプライバシー」を参照してください。

- [ワンボタン割り込み (Single Button Barge)] : ワンボタン割り込み機能の適切なオプションを選択します。
 - [オフ (Off)] : ワンボタン割り込み/C 割り込み機能を無効にします。ただし、通常の割り込みまたは C 割り込み機能は使用できます。
 - [割り込み (Barge)] : ワンボタン割り込み機能を有効にします。
 - [C 割込 (cBarge)] : ワンボタン C 割り込み機能を有効にします。
 - [デフォルト (Default)] : サービス パラメータで設定されているワンボタン割り込み/C 割り込みの値を使用します。



(注) 設定情報の詳細については、『Cisco Unified Communications Manager 機能およびサービス ガイド』の「割り込みとプライバシー」を参照してください。

- [回線をまたいで参加 (Join Across Lines)] : 回線をまたいで参加するには適切なオプションを選択します。
 - [オフ (Off)] : 回線をまたいで参加機能を無効にします。
 - [オン (On)] : 回線をまたいで参加機能を有効にします。
 - [デフォルト (Default)] : サービス パラメータの回線をまたいで参加設定を使用します。
- [常にプライム回線を使用する (Always Use Prime Line)] : 次の値から使用する設定を入力します。
 - [オン (On)]
 - [オフ (Off)]
 - [デフォルト (Default)]

- [ボイスメッセージには常にプライム回線を使用する] : 次の値から使用する設定を入力します。
 - [オン (On)]
 - [オフ (Off)]
 - [デフォルト (Default)]
- [MLPP 表示 (MLPP Indication)] : MLPP 優先コールを行うときにデバイスが優先トーンを再生できるかどうかを指定するには、次のいずれかを選択します。
 - [デフォルト (Default)] : MLPP 表示をデバイス プールから継承します。
 - [オフ (Off)] : MLPP 表示トーンを送信しません。
 - [オン (On)] : MLPP 優先コールの表示を送信します。
- [MLPP プリエンプション (MLPP Preemption)] : MLPP 優先コールを行うときに進行中のコールをデバイスがプリエンプション処理できるかどうかを指定するには、次のいずれかを選択します。
 - [デフォルト (Default)] : MLPP プリエンプション設定値をデバイス プールから継承します。
 - [無効 (Disable)] : MLPP 優先コールを行うときにコールをプリエンプション処理しません。
 - [強制 (Forceful)] : MLPP 優先コールを行うときに進行中のコールをプリエンプション処理します。



(注) デバイスの [MLPPプリエンプション (MLPP Preemption)] が [強制 (Forceful)] に設定されているときは、[MLPP表示 (MLPP Indication)] を [オフ (Off)] に設定しないでください。

- [MLPP ドメイン (MLPP Domain)] : このデバイスに関連した MLPP ドメインの 16 進数を入力します。ブランクまたは 0 ~ FFFFFFFF の値である必要があります。
- [拡張モジュール情報 (Expansion Module Information)] : 電話機に拡張モジュールが取り付けられている場合はそのタイプを選択し、[モジュール 1 (Module 1)] と [モジュール 2 (Module 2)] に対しては [なし (None)] を選択します。
- [ログインユーザ ID (Login User Id)] : デフォルト プロファイル用のログイン ユーザ ID を入力します。ユーザがユーザ デバイス プロファイルからログアウトすると、ユーザ デバイス プロファイルは自動的にこのログイン ユーザ ID にログインしてデフォルト プロファイルを使用します。

- ステップ 6** 必要に応じて [プレゼンテーションインジケータを無視 (Ignore Presentation Indicators、内線コールのみ)] チェックボックスをオンにします。
- ステップ 7** DND 機能を有効にする場合は、[サイレント (Do Not Disturb)] チェックボックスをオンにします。
- ステップ 8** [DND オプション (DND Option)] ドロップダウン リスト ボックスから、DND オプションを選択します。
- ステップ 9** [DND 着信呼警告 (DND Incoming Call Alert)] ドロップダウン リスト ボックスから、DND 着信呼警告 オプションを選択します。
- [なし (None)] : 着信呼に対して警告を出さない場合は、このオプションを選択します。
 - [無効 (Disable)] : DND モード中に着信呼警告を無効にする場合は、このオプションを選択します。
 - [フラッシュのみ (Flash Only)] : DND モード中にデバイスを点滅させる場合は、このオプションを選択します。
 - [ビープ音のみ (Beep Only)] : DND モード中にデバイスのビープ音を鳴らす場合は、このオプションを選択します。

- ステップ 10** [クラスタ間エクステンションモビリティの CSS(Extension Mobility Cross Cluster CSS)] ドロップダウンリスト ボックスから、クラスタ間エクステンション モビリティの CSS を選択します。
- ステップ 11** [機能管理ポリシー (Feature Control Policy)] ドロップダウン リスト ボックスから、機能管理ポリシーを選択します。



(注) このフィールドは、RoundTable 電話機の場合のみ表示されます。

- ステップ 12** [保存(Save)] をクリックします。[UDP テンプレートの設定(UDP Template Configuration)] ウィンドウが表示されます。
- ステップ 13** 選択した電話機ボタン テンプレートによって、表示されるリンクが異なります。たとえば、回線の追加、スピードダイヤル設定、登録済み Cisco IP Phone サービス設定、およびビジー ランプ フィールド スピードダイヤル設定などのリンクが表示されます。

一部の Cisco Unified IP Phone モデルでは、Cisco Unified IP Phone サービスとスピードダイヤルをテンプレートに追加できます。BAT テンプレートの回線、IP サービス、スピードダイヤルの追加の詳細については、第 3 章「電話機テンプレート」を参照してください。

追加情報

「関連項目」(P.36-7) を参照してください。

テンプレートの修正

同じデバイスの一部のフィールドだけを変更するときは、テンプレートのプロパティを修正できます。既存の BAT テンプレートの詳細を修正または更新する手順は、次のとおりです。

手順

- ステップ 1** 「[ユーザ デバイス プロファイル テンプレートの検索](#)」(P.36-1) の手順に従って、変更する UDP テンプレートを検索します。
- ステップ 2** 表示されたテンプレートのリストから、変更するテンプレート名をクリックします。選択したテンプレートの詳細が、[UDP テンプレートの設定(UDP Template Configuration)] ウィンドウに表示されます。
- ステップ 3** それが修正するテンプレートであることを確認します。
- ステップ 4** 必要に応じてテンプレート フィールドで詳細を修正します。
- ステップ 5** [保存(Save)] をクリックして既存のテンプレートに変更内容を保存します。

追加情報

「関連項目」(P.36-7) を参照してください。

テンプレートのコピー

一部のフィールドだけを変更するときは、テンプレートのプロパティを新しいテンプレートにコピーできます。



(注) 作成する新しいテンプレートは、元のテンプレートとデバイス タイプが同じでなければなりません (たとえば、Cisco IP User Device Profile Model 7960)。

既存の BAT テンプレートをコピーする手順は、次のとおりです。

手順

- ステップ 1** 「[ユーザ デバイス プロファイル テンプレートの検索](#)」 (P.36-1) の手順に従って、コピーする UDP テンプレートを検索します。
- ステップ 2** 表示されたテンプレートのリストから、コピーするテンプレート名をクリックします。選択したテンプレートの詳細が、[UDP テンプレートの設定 (UDP Template Configuration)] ウィンドウに表示されます。
-  **(注)** コピーするテンプレートに対応する [コピー (Copy)] カラムのアイコンをクリックして、テンプレートをコピーすることもできます。
- ステップ 3** これが、コピーするテンプレートであることを確認してから、[コピー (Copy)] をクリックします。テンプレートが複製され、コピーが作成されます。このコピーには、元のテンプレートで指定した値がすべて複写されます。
- ステップ 4** [ユーザ デバイス プロファイル テンプレート名 (User Device Profile Template Name)] フィールドに、新しいテンプレート名を 50 文字以下の英数字で入力します。
- ステップ 5** 必要に応じて、新しいテンプレートのフィールドを更新します。
- ステップ 6** [保存 (Save)] をクリックします。BAT に追加されるテンプレートが、左側のテンプレート カラムに表示されます。

追加情報

「[関連項目](#)」 (P.36-7) を参照してください。

テンプレートの削除

BAT テンプレートが不要になった場合は、削除することができます。テンプレートを削除する手順は、次のとおりです。

手順

- ステップ 1** 「[ユーザ デバイス プロファイル テンプレートの検索](#)」 (P.36-1) の手順に従って、削除する UDP テンプレートを検索します。
- ステップ 2** 表示されたテンプレートのリストから、削除するテンプレート名をクリックします。選択したテンプレートの詳細が、[UDP テンプレートの設定 (UDP Template Configuration)] ウィンドウに表示されます。



(注) テンプレート名の横のチェックボックスをオンにし、[選択項目の削除 (Delete Selected)] をクリックしても、テンプレートを削除できます。

ステップ 3 これが、削除するテンプレートであることを確認してから、[削除 (Delete)] をクリックします。削除操作を確認するように求めるメッセージが表示されます。

ステップ 4 [OK] をクリックして、テンプレートを削除します。[UDP テンプレートの検索と一覧表示 (Find and List UDP Templates)] ウィンドウのテンプレートのリストから、テンプレート名が消去されます。

追加情報

「関連項目」(P.36-7) を参照してください。

関連項目

- 「ユーザ デバイス プロファイル テンプレートの検索」(P.36-1)
- 「ユーザ デバイス プロファイル用の一括管理 (BAT) テンプレートの作成」(P.36-2)
- 「テンプレートの修正」(P.36-5)



CHAPTER 37

ユーザ デバイス プロファイルのファイル形式

CSV データ ファイルの作成にテキスト エディタを使用する場合、デバイス フィールドと回線フィールドを CSV データ ファイル内で識別するファイル形式を使用する必要があります。このファイル形式には次のオプションがあります。

- **Default User Device Profile** : ユーザ デバイス プロファイルのデバイス フィールドと回線フィールドの事前決定済みの組み合わせを含む。
- **Simple User Device Profile** : ユーザ デバイス プロファイル用の基本的なデバイス フィールドと回線フィールドを含む。
- **カスタマイズ** : 独自に選択して順序付けしたデバイス フィールドと回線フィールドを含む。

テキスト エディタで CSV ファイルを作成する前に、既存のファイル形式を選択するか新規のファイル形式を作成する必要があります。次にテキストベースの CSV データ ファイルのファイル形式で指定されたように値を入力します。

ユーザ デバイス プロファイルのファイル形式の設定

次のトピックでは、テキスト エディタを使用して作成する CSV データ ファイルのファイル形式設定に関する情報を提供します。

- 「UDP ファイル形式の検索」 (P.37-1)
- 「UDP ファイル形式の検索」 (P.37-1)
- 「ファイル形式のコピー」 (P.37-3)
- 「ファイル形式の修正」 (P.37-4)
- 「ファイル形式の削除」 (P.37-5)

UDP ファイル形式の検索

ユーザ デバイス プロファイル ファイル形式を検索する手順は、次のとおりです。

- ステップ 1** [一括管理 (Bulk Administration)] > [ユーザデバイスプロファイル (User Device Profiles)] > [UDP ファイル形式 (UDP File Format)] > [UDP ファイル形式の作成 (Create UDP File Format)] の順に選択します。
- [UDP ファイル形式の検索と一覧表示 (Find and List UDP File Formats)] ウィンドウが表示されます。

- ステップ 2** [検索対象: UDP ファイル形式、検索条件: 形式名 (Find UDP File Format where Format Name)] ドロップダウンリストボックスから、次のいずれかの検索条件を選択します。
- [が次の文字列で始まる (begins with)]
 - [が次の文字列を含む (contains)]
 - [が次の文字列と等しい (is exactly)]
 - [が次の文字列で終わる (ends with)]
 - [が空である (is empty)]
 - [が空ではない (is not empty)]

- ステップ 3** 必要に応じて、適切な検索テキストを指定し、[検索 (Find)] をクリックします。



ヒント データベースに登録されているすべての UDP テンプレートを検索するには、検索テキストを入力せずに [検索 (Find)] をクリックします。

検索されたテンプレートのリストが、ファイル形式の名前別に表示されます。

- ステップ 4** レコードのリストから、検索条件に一致するファイル形式名をクリックします。
[UDP ファイル形式の作成 (Create UDP File Format Configuration)] ウィンドウが表示されます。

追加情報

「関連項目」(P.37-6) を参照してください。

UDP ファイル形式の作成

テキストベースの CSV データ ファイル用の UDP ファイル形式を作成する手順は、次のとおりです。

手順

- ステップ 1** [一括管理 (Bulk Administration)] > [ユーザデバイスプロファイル (User Device Profiles)] > [UDP ファイル形式の作成 (Create UDP File Format)] の順に選択します。[UDP ファイル形式の作成 (Create UDP File Format Configuration)] ウィンドウが表示されます。
- ステップ 2** [新規追加 (Add New)] をクリックします。[UDP ファイル形式の作成 (Create UDP File Format Configuration)] ウィンドウが表示されます。
- ステップ 3** [UDP のファイル形式名 (UDP File Format Name)] フィールドに、このカスタマイズされた形式の名前を入力します。
- ステップ 4** [デバイスフィールド (Device Fields)] で、各ユーザ デバイス プロファイルに定義するデバイス フィールド名を選択します。[デバイスフィールド (Device Fields)] ボックスでデバイス フィールド名をクリックしてから、矢印をクリックしてそのフィールドを [選択済みのデバイスフィールド (Selected Device Fields)] の [ソート順 (Order)] ボックスに移動します。

CSV データ ファイルには、[Device Profile Name] および [Description] を含める必要があります。したがって、これらのフィールドは常に選択された状態になっています。



ヒント Ctrl キーを押しながらリスト内の複数のフィールド名を任意に選択し、次に矢印をクリックすると、その複数のフィールドを同時に選択することができます。Shift キーを使用すると、特定範囲の項目を複数同時に選択することができます。

ステップ 5 [回線フィールド (Line Fields)] ボックスで回線フィールド名をクリックしてから、矢印をクリックしてそのフィールドを [選択済みの回線フィールド (Selected Line Fields)] の [ソート順 (Order)] ボックスに移動します。



(注) ファイル形式で回線フィールドを選択した場合は、[Directory Number] が必須のフィールドです。



ヒント [選択済みの回線フィールド (Selected Line Fields)] ボックスおよび [選択済みのデバイスフィールド (Selected Device Fields)] ボックス内の項目の順序は変更できます。項目を選択し、上向き矢印を使用してフィールドをリストの前方に移動させるか、または下向き矢印を使用してリストの後方に移動させます。

ステップ 6 [インターコム DN フィールド (Intercom DN Fields)] ボックスでインターコム DN フィールドの名前をクリックしてから矢印をクリックし、そのフィールドを [選択済みのインターコム DN フィールド (Selected Intercom DN Fields)] の [ソート順 (Order)] ボックスに移動します。

ステップ 7 CSV ファイルに含める回線、スピードダイヤル、IP Phone サービス、IP Phone サービス パラメータの最大数を対応するテキスト ボックスに入力します。



(注) スピードダイヤル、IP Phone サービス、IP Phone サービス パラメータを CSV ファイルに含めない場合は、最大数にゼロを入力してください。ただし、ファイル形式で回線フィールドを選択した場合は、最大回線数にゼロを指定できません。

ステップ 8 カスタマイズしたファイル形式を保存するには、[保存 (Save)] をクリックします。ファイル形式の名前が [UDP ファイル形式の作成 (Create UDP File Format Configuration)] ウィンドウに表示されます。

追加情報

「[関連項目](#)」(P.37-6) を参照してください。

ファイル形式のコピー

CSV データ ファイルの既存の形式をコピーする手順は、次のとおりです。

手順

ステップ 1 「[UDP ファイル形式の検索](#)」(P.37-1) の手順に従って、コピーする UDP ファイル形式を検索します。

ステップ 2 [検索結果 (Search Results)] 領域で、コピーするファイル形式名をクリックします。[UDP ファイル形式の作成 (Create UDP File Format Configuration)] ウィンドウが表示されます。

ステップ 3 [コピー (Copy)] をクリックして選択されたファイル形式をコピーします。



(注) [UDP ファイル形式の検索と一覧表示 (Find and List UDP File Formats)] ウィンドウで、コピーする形式に対応する [コピー (Copy)] カラムのアイコンをクリックして、ファイル形式をコピーすることもできます。

ステップ 4 [UDP のファイル形式名 (UDP File Format Name)] フィールドに、コピーした形式の新しい名前を入力します。

ステップ 5 次の方式のいずれかを使用して、コピーした形式を修正します。

- 新しいフィールドを追加するには、[デバイスフィールド (Device Fields)] ボックス、[回線フィールド (Line Fields)] ボックス、または [インターコム DN フィールド (Intercom DN Fields)] ボックスからフィールドを選択し、次に矢印をクリックして、選択したフィールドを [選択済みのデバイスフィールド (Selected Device Fields)]、[選択済みの回線フィールド (Selected Line Fields)]、または [選択済みのインターコム DN フィールド (Selected Intercom DN Fields)] の [ソート順 (Order)] ボックスに移動します。
- フィールドを削除するには、[選択済みのデバイスフィールド (Selected Device Fields)]、[選択済みの回線フィールド (Selected Line Fields)]、または [選択済みのインターコム DN フィールド (Selected Intercom DN Fields)] の [ソート順 (Order)] ボックスで削除するフィールドを選択してから、矢印をクリックしてその選択したフィールドを [デバイスフィールド (Device Fields)] ボックス、[回線フィールド (Line Fields)] ボックス、または [インターコム DN フィールド (Intercom DN Fields)] ボックスに移動します。
- フィールドの順序を変更するには、[選択済みのデバイスフィールド (Selected Device Fields)]、[選択済みの回線フィールド (Selected Line Fields)]、または [選択済みのインターコム DN フィールド (Selected Intercom DN Fields)] の [ソート順 (Order)] ボックスのフィールド名を選択し、上向き矢印または下向き矢印を使用してフィールドの位置を変更します。

ステップ 6 変更を加えたら、[保存 (Save)] をクリックして、コピーしたファイル形式を変更内容とともにリストに保存します。

追加情報

「関連項目」(P.37-6) を参照してください。

ファイル形式の修正

CSV データ ファイルの既存の形式を修正する手順は、次のとおりです。

手順

ステップ 1 「UDP ファイル形式の検索」(P.37-1) の手順に従って、更新する UDP ファイル形式を検索します。

ステップ 2 [検索結果 (Search Results)] 領域で、変更するファイル形式名をクリックします。[UDP ファイル形式の作成 (Create UDP File Format Configuration)] ウィンドウが表示されます。

ステップ 3 次の方式のいずれかを使用して、コピーした形式を修正します。

- 新しいフィールドを追加するには、[デバイスフィールド (Device Fields)] ボックス、[回線フィールド (Line Fields)] ボックス、または [インターコム DN フィールド (Intercom DN Fields)] ボックスからフィールドを選択し、次に矢印をクリックして、選択したフィールドを [選択済みのデバイスフィールド (Selected Device Fields)]、[選択済みの回線フィールド (Selected Line Fields)]、または [選択済みのインターコム DN フィールド (Selected Intercom DN Fields)] の [ソート順 (Order)] ボックスに移動します。
- フィールドを削除するには、[選択済みのデバイスフィールド (Selected Device Fields)]、[選択済みの回線フィールド (Selected Line Fields)]、または [選択済みのインターコム DN フィールド (Selected Intercom DN Fields)] の [ソート順 (Order)] ボックスで削除するフィールドを選択してから、矢印をクリックしてその選択したフィールドを [デバイスフィールド (Device Fields)] ボックス、[回線フィールド (Line Fields)] ボックスに移動します。
- フィールドの順序を変更するには、[選択済みのデバイスフィールド (Selected Device Fields)] ボックスまたは [選択済みの回線フィールド (Selected Line Fields)] ボックスのフィールド名を選択し、上向き矢印または下向き矢印を使用してフィールドの位置を変更します。

ステップ 4 変更を加えたら、[保存 (Save)] をクリックして変更内容をファイル形式に保存します。

追加情報

「関連項目」(P.37-6) を参照してください。

ファイル形式の削除

CSV データ ファイルの既存のファイル形式を削除する手順は、次のとおりです。

手順

ステップ 1 「UDP ファイル形式の検索」(P.37-1) の手順に従って、削除する UDP ファイル形式を検索します。

ステップ 2 [検索結果 (Search Results)] 領域で、削除するファイル形式名をクリックします。[UDP ファイル形式の作成 (Create UDP File Format Configuration)] ウィンドウが表示されます。このファイルを削除することを確認します。

ステップ 3 ファイル形式名リストからファイル形式を削除するには、[削除 (Delete)] をクリックします。ファイル形式の削除を確認するメッセージが表示されます。[OK] をクリックして続行します。リストからファイル形式名が削除されます。



(注) 対応するチェックボックスをオンにし、[削除 (Delete)] をクリックして、ファイル形式を削除することもできます。[すべてを選択 (Select All)] をクリックして [選択項目の削除 (Delete Selected)] をクリックすると、すべてのファイル形式を削除できます。

追加情報

「関連項目」(P.37-6) を参照してください。

関連項目

- 「ユーザ デバイス プロファイルのファイル形式の設定」 (P.37-1)
- 「ファイル形式の追加」 (P.38-1)



CHAPTER 38

ユーザ デバイス プロファイルのファイル形式の追加

ファイル形式が指定した順序でテキストベースの CSV データ ファイルにすべての値を入力したら、そのテキストベースの CSV データ ファイルを Cisco Unified Communications Manager の最初のノードにアップロードする必要があります。ファイルのアップロードの詳細については、「[ファイルのアップロード](#)」(P.2-3) を参照してください。次にファイル形式をテキストベースの CSV データ ファイルに関連付ける必要があります。

ファイル形式の追加

テキストベースの CSV データ ファイルとファイル形式を関連付ける手順は、次のとおりです。

手順

- ステップ 1** [一括管理 (Bulk Administration)] > [ユーザデバイスプロファイル (User Device Profile)] > [UDP ファイル形式 (UDP File Format)] > [ファイル形式の追加 (Add File Format)] の順に選択します。[ファイル形式の追加 (Add File Format Configuration)] ウィンドウが表示されます。
- ステップ 2** [ファイル名 (File Name)] フィールドで、このバルク トランザクション用に作成した CSV データ ファイルを選択します。
- ステップ 3** [形式ファイル名 (Format File Name)] フィールドで、このタイプのバルク トランザクション用に作成したファイル形式を選択します。
- ステップ 4** 一致するファイル形式を CSV データ ファイルに追加するには、[送信 (Submit)] をクリックします。ジョブが、[一括管理 (Bulk Administration)] メニューの [ジョブスケジューラ (Job Scheduler)] オプションに作成されます。ジョブ スケジュールを変更するには、[ジョブスケジューラ (Job Scheduler)] ウィンドウを使用します。

ジョブの詳細については、[第 82 章「ジョブのスケジュール」](#) を参照してください。

ログ ファイルの詳細については、「[BAT ログ ファイル](#)」(P.83-3) を参照してください。

関連項目

- [「ファイル形式の追加」 \(P.38-1\)](#)
- [「ファイルのアップロード」 \(P.2-3\)](#)
- [「ジョブのスケジュール」 \(P.82-1\)](#)
- [「BAT ログ ファイル」 \(P.83-3\)](#)



CHAPTER 39

ユーザ デバイス プロファイルの確認

[UDPの確認 (Validate User Device Profiles)] を選択すると、システムは確認ルーチンを実行して、CSV データ ファイルが要求されたフィールド（たとえば、デバイス プロファイル名、および電話番号）をすべて読み込んでいるかどうかをチェックし、最初のノード データベースとの不一致がないかをチェックします。

始める前に

- 追加するデバイス用のデバイス プロファイル テンプレートを用意します。1 回線のユーザ デバイス プロファイルの追加には、複数回線のユーザ デバイス プロファイル テンプレートが使用できません。詳細については、「[ユーザ デバイス プロファイル用の一括管理 \(BAT\) テンプレートの作成](#)」(P.36-2) を参照してください。
- ユーザ デバイス プロファイルに固有の詳細情報を含む CSV データ ファイルを用意します。次のオプションを参照してください。
 - 「[BAT スプレッドシートを使用したユーザ デバイス プロファイル CSV データ ファイルの作成](#)」(P.35-3)
 - 「[ユーザ デバイス プロファイルの確認](#)」(P.39-1)

ユーザ デバイス プロファイルの確認

CSV データ ファイルのユーザ デバイス プロファイル レコードを確認する手順は、次のとおりです。

手順

- ステップ 1** [一括管理 (Bulk Administration)] > [ユーザ デバイス プロファイル (User Device Profiles)] > [UDP の確認 (Validate User Device Profiles)] の順に選択します。
[ユーザ デバイス プロファイルの確認 (Validate User Device Profiles Configuration)] ウィンドウが表示されます。
- ステップ 2** CSV データ ファイルに対応する挿入オプションを選択します。
 - [UDP 固有の詳細の確認 (Validate UDP Specific Details)] : ファイル形式を使用するユーザ デバイス プロファイル レコードを確認する場合。
 - [UDP すべての詳細の確認 (Validate UDP All Details)] : [すべての詳細 (All Details)] オプションを使用して生成されたエクスポート ファイルからのユーザ デバイス プロファイル レコードを確認する場合。
- ステップ 3** [ファイル名 (File Name)] フィールドで、この特定のバルク トランザクション用に作成した CSV データ ファイルを選択します。

- ステップ 4** [UDP 固有の詳細の確認 (Validate UDP Specific Details)] オプションを選択する場合は、[UDP テンプレート名 (UDP Template Name)] フィールドで、このタイプのバルク トランザクション用に作成した Cisco Unified Communications Manager 一括管理 (BAT) ユーザ デバイス プロファイル テンプレートを選択します。
- ステップ 5** [送信 (Submit)] をクリックすると、選択した CSV データ ファイルとデータベースが検証されます。ジョブが、[一括管理 (Bulk Administration)] メニューの [ジョブスケジューラ (Job Scheduler)] オプションに作成されます。ジョブ スケジュールを変更するには、[ジョブスケジューラ (Job Scheduler)] ウィンドウを使用します。ジョブの詳細については、第 82 章「ジョブのスケジュール」を参照してください。
- ログ ファイルの詳細については、「BAT ログ ファイル」(P.83-3) を参照してください。

ユーザ デバイス プロファイルの確認の制限

電話機の確認には次のような制限があります。

- 確認プロセスでは、テンプレートに設定されている回線の数だけがチェックされます。テンプレートに設定されている回線番号はチェックされません。[UDP の確認 - 特定の詳細 (Validate UDP - Specific Details)] ジョブを実行した後で、電話機テンプレートによってサポートされる数よりも多い回線が CSV データ ファイルに含まれている場合は、ログに「WARNING: CSV contains more number of lines than are supported by the phone template.」というメッセージが書き込まれます。空の電話番号、空のスピードダイヤル、空のビジュー ランプ フィールド スピードダイヤルなどが存在する場合は、要約ログ ファイルに表示されている警告メッセージが正しくない可能性があることを示しています。
- 確認プロセスでは、必須フィールドが CSV ファイル内で指定されているかどうかはチェックされません。
- 電話機のテキスト ファイルで IP Phone サービス パラメータが指定されている場合、確認プロセスでは、CSV に指定されている名前のパラメータが Cisco Unified Communications Manager に存在するかどうかだけがチェックされます。指定されているパラメータが IP Phone サービスで設定されているかどうかはチェックされません。

関連項目

- 「ユーザ デバイス プロファイル用の一括管理 (BAT) テンプレートの作成」(P.36-2)
- 「ユーザ デバイス プロファイルの確認の制限」(P.39-2)
- 「BAT スプレッドシートを使用したユーザ デバイス プロファイル CSV データ ファイルの作成」(P.35-3)
- 「ジョブのスケジュール」(P.82-1)
- 「BAT ログ ファイル」(P.83-3)



CHAPTER 40

UDP の生成

すべての IP Phone ユーザに対するプロファイルを生成して挿入することによって、Cisco Unified Communications Manager 一括管理 (BAT) を使用してエクステンション モビリティを迅速にセットアップできます。BAT は、ユーザが制御するデバイス数に関係なく、すべての電話機に対してユーザ デバイス プロファイルを生成します。たとえば、ユーザが 2 つのデバイスを制御している場合、BAT は 2 つの異なるユーザ デバイス プロファイル (各デバイスに対して 1 つずつ) を生成し、それらのユーザ デバイス プロファイルを同じユーザに関連付けます。BAT は生成されたユーザ デバイス プロファイルの 1 つをユーザのデフォルト ユーザ デバイス プロファイルとして設定します。BAT は各電話機モデル用の電話機ボタン テンプレートに基づいて、すべての IP Phone 用のユーザ デバイス プロファイルを生成します。



(注)

このアクションの実行には、ユーザ デバイス プロファイル テンプレートも CSV データ ファイルも使用しません。これらのユーザ デバイス プロファイルは、BAT によって生成されたとき、ユーザに関連付けられます。

ユーザ デバイス用のユーザ デバイス プロファイルの挿入

すべてのユーザ用のユーザ デバイス プロファイルを生成する手順は、次のとおりです。

手順

- ステップ 1** [一括管理 (Bulk Administration)] > [ユーザデバイスプロファイル (User Device Profiles)] > [UDP の挿入 (Insert User Device Profiles)] の順に選択します。[ユーザデバイスプロファイルの挿入 (Insert User Device Profiles Configuration)] ウィンドウが表示されます。
- ステップ 2** [ユーザデバイスプロファイルの固有の詳細の挿入 (Insert User Device Profiles Specific Details)] オプション ボタンをクリックし、カスタマイズされたファイル形式を使用する UDP レコードを挿入します。ステップ 4 と 5 に進みます。
- ステップ 3** [ユーザデバイスプロファイルのすべての詳細の挿入 (Insert User Device Profiles All Details)] オプション ボタンをクリックし、[すべての詳細 (All Details)] オプションを使用して作成したエクスポート済み UDP ファイルの UDP レコードを挿入します。
- ステップ 4** [ファイル名 (File Name)] ドロップダウン リスト ボックスで、この固有のバルク トランザクション用に作成した CSV データ ファイルを選択します。

ステップ 5 [ユーザデバイスプロファイルの固有の詳細の挿入 (Insert User Device Profiles Specific Details)] オプションを選択する場合は、[ユーザデバイスプロファイルテンプレート名 (User Device Profiles Template Name)] ドロップダウン リスト ボックスで、このタイプのバルク トランザクション用に作成した BAT 電話機テンプレートを選択します。



(注) エクスポート ユーティリティを使用して生成したファイルを挿入する場合は、ファイルに付加されているサフィックスを参照すると、適切な回線設定とともに電話機テンプレートを選択できます。エクスポート ユーティリティは、電話機に対して設定される回線ごとに、数字のサフィックス `_n` を付加します。たとえば、「sales_7960_1_3.txt」という名前のエクスポートファイルは、このファイル内のすべての電話機レコードに対して、回線 1 と回線 3 が設定されることを示しています。

CSV データ ファイルに個々の MAC アドレスを入力しなかった場合は、[ダミー MAC アドレスの作成 (Create Dummy MAC Address)] チェックボックスをオンにする必要があります。CTI ポートを追加する場合、ダミー MAC アドレス オプションを使用すると、ダミー MAC アドレスの形式で、CTI ポートごとに固有のデバイス名が指定されます。

このフィールドは、XXXXXXXXXXXX という形式でダミー MAC アドレスを自動生成します。X は任意の 12 文字の 16 進数 (0 ~ 9 および A ~ F) を表します。

- ユーザに割り当てられる電話機の MAC アドレスがわからない場合に、このオプションを選択します。電話機が接続されると、そのデバイスに対する MAC アドレスが登録されます。
- データ入力ファイルに MAC アドレスまたはデバイス名を指定した場合は、このオプションを選択しないでください。

Cisco Unified Communications Manager の管理ページにこの情報を手作業で入力するか、または、Unified CM Auto-Register Phone Tool を使用すると、後で、電話機またはデバイスを正しい MAC アドレスで更新できます。Unified CM Auto-Register Phone Tool の詳細については、「[TAPS の概要](#)」(P.80-2) を参照してください。ステップ 8 に進みます。



(注) テンプレート内にある既存の電話機の設定値を変更する場合は、[既存の設定の上書き (Override the existing configuration)] チェックボックスをオンにします。このチェックボックスをオンにすると、ユーザ デバイス プロファイル情報も更新されます。



(注) ユーザの現在の IP Phone に基づいて、すべての電話機に対してユーザ デバイス プロファイルレコードを生成して挿入するには、[ユーザが制御するデバイスを使用 (Based on devices controlled by users)] オプション ボタンを選択します。



(注) 生成済みのユーザ デバイス プロファイルをデバイスのログアウト プロファイルとして使用する場合は、[ユーザデバイスプロファイルをデバイスのログアウトプロファイルとして設定 (Set User Device Profile as Log Out Profile for the device)] チェックボックスをオンにします。

ステップ 6 [ジョブ情報 (Job Information)] 領域に、ジョブの説明を入力します。

ステップ 7 [今すぐ実行 (Run Immediately)] オプション ボタンをクリックして UDP レコードを即座に挿入するか、[後で実行 (Run Later)] をクリックして後で挿入します。

ステップ 8 [送信 (Submit)] をクリックして、電話機レコードを挿入するジョブを作成します。

ステップ 9 [一括管理 (Bulk Administration)] メイン メニューの [ジョブスケジューラ (Job Scheduler)] オプションを使用して、このジョブのスケジュールやアクティブ化を行います。

ジョブの詳細については、[第 82 章「ジョブのスケジュール」](#)を参照してください。

ログ ファイルの詳細については、「[BAT ログ ファイル](#)」(P.83-3)を参照してください。



(注) レコードの情報に何らかの問題がある場合、BAT はユーザ デバイス プロファイル レコードを挿入しません。

追加情報

「[関連項目](#)」(P.40-3)を参照してください。

関連項目

- 「[ユーザ デバイス用のユーザ デバイス プロファイルの挿入](#)」(P.40-1)
- 「[ジョブのスケジュール](#)」(P.82-1)
- 「[TAPS の概要](#)」(P.80-2)
- 「[BAT ログ ファイル](#)」(P.83-3)



CHAPTER 41

ユーザ デバイス プロファイルの更新

User Device Profile (UDP; ユーザ デバイス プロファイル) の設定を更新するには (デバイス プールや、類似したユーザ デバイス プロファイルのグループのコーリング サーチ スペースの変更または追加など)、[UDPの更新(Update UDP)] オプションを使用します。

2つの方法で、既存の UDP 電話機レコードを検索できます。

- 「クエリーを使用した UDP の更新」(P.41-1)
- 「カスタム ファイルを使用した UDP の更新」(P.41-2)
- 「更新パラメータの選択」(P.41-3)

クエリーを使用した UDP の更新

更新する UDP を検索するためのクエリーを作成する手順は、次のとおりです。

手順

ステップ 1 [一括管理(Bulk Administration)] > [ユーザデバイスプロファイル(User Device Profiles)] > [UDPの更新(Update UDP)] > [クエリー(Query)] の順に選択します。

[更新するユーザデバイスプロファイルの検索と一覧表示(Find and List User Device Profiles To Update)] ウィンドウが表示されます。



(注) クエリーを指定せずに [検索(Find)] をクリックすると、すべてのユーザ デバイス プロファイルを更新できます。「更新パラメータの選択」(P.41-3) に進みます。

ステップ 2 最初の [検索対象: ユーザデバイスプロファイル、検索条件(Find User Device Profiles where)] ドロップダウン リスト ボックスで、次のいずれかの検索条件を選択します。

- [プロフィール名(Profile Name)]
- [プロフィールの説明(Profile Description)]
- [プロフィールタイプ(Profile Type)]
- [プロフィールプロトコル(Profile Protocol)]

ステップ 3 2 番目の [検索対象: ユーザデバイスプロファイル、検索条件 (Find User Device Profiles where)] ドロップダウン リスト ボックスで、次のいずれかの検索条件を選択します。

- [が次の文字列で始まる (begins with)]
- [が次の文字列を含む (contains)]
- [が次の文字列と等しい (is exactly)]
- [が次の文字列で終わる (ends with)]
- [が空である (is empty)]
- [が空ではない (is not empty)]

ステップ 4 必要に応じて、適切な検索テキストを指定します。



ヒント データベースに登録されているすべてのユーザ デバイス プロファイルを検索するには、検索テキストを入力せずに [検索 (Find)] をクリックします。

ステップ 5 クエリーをさらに定義する場合や、複数のフィルタを追加する場合は、[絞り込み (Search Within Results)] チェックボックスをオンにし、ドロップダウン ボックスから [AND] または [OR] を選択して、**ステップ 2** ~ **ステップ 3** を繰り返します。

ステップ 6 [検索 (Find)] をクリックします。

条件に一致するすべてのレコードの詳細が、[更新するユーザデバイスプロファイルの検索と一覧表示 (Find and List User Device Profiles To Update)] ウィンドウに表示されます。[ページあたりの行数 (Rows per Page)] ドロップダウン リスト ボックスから異なる値を選択すると各ページに表示される項目数を変更できます。

UDP を更新する手順を完了するには、「更新パラメータの選択」(P.41-3) に進みます。

カスタム ファイルを使用した UDP の更新

更新する UDP を検索するためのカスタム ファイルを作成する手順は、次のとおりです。

始める前に

Cisco Unified Communications Manager で UDP を更新する前に、次の作業を実行する必要があります。

- 更新が必要な UDP を識別します。
- 次のオプションのいずれかを別個の行に記載したテキスト ファイルを作成します。
 - [プロファイル名 (Profile Name)]
 - [説明 (Description)]
 - [プロファイルタイプ (Profile Type)]
 - [プロファイルプロトコル (Profile Protocol)]
- テキスト ファイルを Cisco Unified Communications Manager サーバにアップロードします。
「ファイルのアップロード」(P.2-3) を参照してください。

カスタム ファイルの UDP リストを使用して UDP を更新する手順は、次のとおりです。

手順

- ステップ 1** [一括管理 (Bulk Administration)] > [ユーザデバイスプロファイル (User Device Profiles)] > [UDP の更新 (Update UDP)] > [カスタムファイル (Custom File)] の順に選択します。[更新するユーザデバイスプロファイルの検索と一覧表示 (Find and User Device Profiles To Update)] ウィンドウが表示されます。
- ステップ 2** [更新 ユーザデバイスプロファイル、検索条件 (Update User Device Profiles where)] ドロップダウン リスト ボックスで、作成したカスタム ファイルのタイプを次の条件から選択します。
- [プロフィール名 (Profile Name)]
 - [説明 (Description)]
 - [デバイスタイプ (Device Type)]
 - [デバイスプロトコル (Device Protocol)]
- ステップ 3** カスタム ファイルのリストから、この更新用のカスタム ファイルのファイル名を選択します。
- ステップ 4** [検索 (Find)] をクリックします。



(注) 更新トランザクション用に bat.xlt として作成したトランザクション ファイルを挿入またはエクスポートしないでください。代わりに、更新が必要な UDP レコードの詳細情報を記述したカスタム ファイルを作成します。更新トランザクションには、このファイルしか使用しないでください。このカスタム更新ファイルには、ヘッダーを指定する必要がありません。プロフィール名、説明、プロフィールタイプ、またはプロフィールプロトコルの値を入力します。

UDP を更新する手順を完了するには、「更新パラメータの選択」(P.41-3) に進みます。

更新パラメータの選択

UDP を検索するためのクエリーまたはカスタム ファイルを定義した後、UDP を更新するためのパラメータを選択して値を定義する手順は、次のとおりです。

手順

- ステップ 1** [更新するユーザデバイスプロファイルの検索と一覧表示 (Find and List User Device Profiles To Update)] ウィンドウ ([クエリー (Query)] オプションを使用している場合) または [UDP の検索と一覧表示 (Find and List UDP)] ウィンドウ ([カスタムファイル (Custom File)] オプションを使用している場合) で、[次へ (Next)] をクリックします。
- 選択したクエリーのタイプが、[UDP の更新 (Update UDP)] ウィンドウに表示されます。クエリーのタイプを変更する場合は、[戻る (Back)] をクリックします。
- ステップ 2** クエリーまたはカスタム ファイルで定義したレコードすべてに対して、更新する設定値を指定します。更新するパラメータは複数選択できます。
- ステップ 3** 表 41-1 のフィールドの説明を使用して、必要な UDP パラメータを更新します。
- ステップ 4** 更新するフィールドの左側にある [更新 (update)] チェックボックスをオンにします。この操作により、フィールドの既存の値を上書きするように BAT に指示します。



(注) BAT は、[更新 (update)] チェックボックスをオンにしたフィールドしか更新しないことに注意してください。

- ステップ 5** [ジョブ情報 (Job Information)] 領域に、ジョブの説明を入力します。
- ステップ 6** [今すぐ実行 (Run Immediately)] オプション ボタンをクリックしてユーザ デバイス プロファイルのスケジュールおよびアクティブ化を即座に実行するか、[後で実行 (Run Later)] をクリックして後でジョブを実行します。
- ステップ 7** [送信 (Submit)] をクリックして、レコードを更新するジョブを作成します。フィールドの説明については、表 41-1 を参照してください。
- ジョブの詳細については、第 82 章「ジョブのスケジュール」を参照してください。
- ログ ファイルの詳細については、「BAT ログ ファイル」(P.83-3) を参照してください。



(注) [UDP の更新 (Update UDP)] ウィンドウで、検索結果に複数のタイプおよびプロトコルのデバイスが含まれている場合に、特定のフィールドが表示されないことがあります。すべてのフィールドを表示するには、同じタイプおよびプロトコルの UDP を指定するようにしてください。

追加情報

- 「関連項目」(P.41-8) を参照してください。

UDP を更新する場合のフィールドの説明

表 41-1 では、UDP を更新する際に表示されるフィールドについて説明します。

BAT ユーザ インターフェイスでは、アスタリスクが付いているフィールドには値を入力する必要があります。アスタリスクの付いていないフィールドはオプションです。

表 41-1 BAT で UDP を更新する場合のフィールドの説明

フィールド	説明
[説明 (Description)]	デバイスを識別しやすくする説明を入力します。説明には、任意の言語で最大 50 文字を指定できますが、二重引用符 (")、パーセント記号 (%)、アンパサンド (&)、バックスラッシュ (\)、または山カッコ (<>) は使用できません。
[ユーザ保留 MOH 音源 (User Hold MOH Audio Source)]	このグループの UDP またはポートのオーディオ ソースを選択します。 ユーザ保留オーディオ ソースは、ユーザがコールを保留にしたときに音楽を再生します。
[ユーザロケール (User Locale)]	このユーザに関連付ける国 / 地域と言語を選択します。 この選択内容によって、言語やフォントを含むロケール属性のどれをこのユーザに適用するか、およびこのユーザの Cisco Unified Communications Manager のユーザ ウィンドウと電話機をどの言語で表示するかが決まります。
[電話ボタンテンプレート (Phone Button Template)]	このプロファイルに適切な電話機ボタン テンプレートを選択します。 電話ボタン テンプレートは、電話機上のボタンの設定を決定し、各ボタンに使用される機能 (回線、スピードダイヤルなど) を指定します。

表 41-1 BAT で UDP を更新する場合のフィールドの説明 (続き)

フィールド	説明
[ソフトキーテンプレート (Softkey Template)]	このグループ内のすべての UDP に使用されるソフトキー テンプレートを選択します。
[プライバシー (Privacy)]	<p>ドロップダウン リスト ボックスから、プロファイルの適切なプライバシー オプションを選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> [オフ (Off)] : 各デバイスのプライバシーを有効にします。 [オン (On)] : 各デバイスのプライバシーを無効にします。 [デフォルト (Default)] : デフォルトのプライバシー設定をデバイスに適用します。 <p>ヒント 設定情報の詳細については、『Cisco Unified Communications Manager 機能およびサービス ガイド』の「割り込みとプライバシー」を参照してください。</p>
[SUBSCRIBE コーリング検索スペース (SUBSCRIBE Calling Search Space)]	<p>プレゼンス機能で使用了した場合、電話機からの登録要求を Cisco Unified Communications Manager がルーティングする方法は、SUBSCRIBE コーリング検索スペースによって決まります。ドロップダウン リスト ボックスから、この目的に使用するコーリング検索スペースを選択します。</p> <p>ヒント プレゼンス機能の詳細については、『Cisco Unified Communications Manager 機能およびサービス ガイド』を参照してください。</p>
[プレゼンスグループ (Presence Group)]	<p>ドロップダウン リスト ボックスから、このグループの UDP のプレゼンス グループを選択します。選択したグループでは、この電話番号を監視できるデバイス、エンド ユーザ、およびアプリケーション ユーザを指定します。</p> <p>ヒント プレゼンス機能の詳細については、『Cisco Unified Communications Manager 機能およびサービス ガイド』を参照してください。</p>
[ワンボタン割り込み (Single Button Barge)]	<p>ドロップダウン リスト ボックスで、このデバイスのワンボタン割り込み/C 割り込み機能を有効または無効にするか、[デフォルト (Default)] を選択して、サービス パラメータの設定値を使用します。</p> <ul style="list-style-type: none"> [オフ (Off)] : ワンボタン割り込み/C 割り込み機能を無効にします。ただし、標準の割り込み機能または C 割り込み機能は引き続き動作します。 [割り込み (Barge)] : ワンボタン割り込み機能を有効にします。 [C 割込 (CBarge)] : ワンボタン C 割り込み機能を有効にします。 [デフォルト (Default)] : サービス パラメータで設定されているワンボタン割り込み/C 割り込みの値を使用します。 <p>ヒント 設定情報の詳細については、『Cisco Unified Communications Manager 機能およびサービス ガイド』の「割り込みとプライバシー」を参照してください。</p>

表 41-1 BAT で UDP を更新する場合のフィールドの説明 (続き)

フィールド	説明
[回線をまたいで参加 (Join Across Lines)]	ドロップダウン リスト ボックスで、このデバイスの回線をまたいで参加の機能を有効または無効にするか、[デフォルト (Default)] を選択して、サービス パラメータの設定値を使用します。 <ul style="list-style-type: none"> • [オフ (Off)] : 回線をまたいで参加の機能を無効にします。 • [オン (On)] : 回線をまたいで参加の機能を有効にします。 • [デフォルト (Default)] : サービス パラメータで指定されている回線をまたいで参加の設定値を使用します。
[常にプライム回線を使用する (Always Use Prime Line)]	ドロップダウン リスト ボックスにある次の値から、使用する [常にプライム回線を使用する (Always Use Prime Line)] の設定値を選択します。 <ul style="list-style-type: none"> • [オン (On)] • [オフ (Off)] • [デフォルト (Default)]
[ボイスメッセージには常にプライム回線を使用する (Always Use Prime Line for Voice Message)]	ドロップダウン リスト ボックスにある次の値から、使用する [ボイスメッセージには常にプライム回線を使用する (Always Use Prime Line for Voice Message)] の設定値を選択します。 <ul style="list-style-type: none"> • [オン (On)] • [オフ (Off)] • [デフォルト (Default)]
[機能管理ポリシー (Feature Control Policy)]	ドロップダウン リスト ボックスから、このグループの UDP の機能管理ポリシーを選択します。 機能管理ポリシーは、機能のアピランスや UDP に表示される関連ソフトキーを指定します。
[プレゼンテーションインジケータを無視 (Ignore Presentation Indicators、内線コールのみ)]	システムで表示インジケータを無視する必要がある場合に、このチェックボックスをオンにします。
[サイレント (Do Not Disturb)]	DND 機能を有効にする場合、このチェックボックスをオンにします。
[DND オプション (DND Option)]	ドロップダウン リスト ボックスで、次のいずれかの DND オプションを選択します。 <ul style="list-style-type: none"> • [なし (None)] • [呼出音オフ (Ringer Off)] • [コール拒否 (Call Reject)] • [共通の電話プロフィール設定を使用 (Use Common Phone Profile Setting)]

表 41-1 BAT で UDP を更新する場合のフィールドの説明 (続き)

フィールド	説明
[DND 着信呼警告 (DND Incoming Call Alert)]	ドロップダウン リスト ボックスで、次のいずれかのオプションを選択します。 <ul style="list-style-type: none"> • [なし (None)] • [無効 (Disable)] • [フラッシュのみ (Flash Only)] • [ビープ音のみ (Beep Only)]
[クラスター間エクステンションモビリティの CSS(Extension Mobility Cross Cluster CSS)]	ドロップダウン リスト ボックスから、このグループの UDP に適切な設定を選択します。 [Extension Mobility Cross Cluster CSS] の設定値は、EMCC ログイン中にこのデバイス プロファイルをユーザが選択したときに、リモート電話機のデバイス CSS として使用されます。
[MLPP 情報 (Multilevel Precedence and Preemption (MLPP) Information)]	
[MLPP ドメイン (MLPP Domain)]	このデバイスに関連付けられている MLPP ドメインの 16 進数値を入力します。ブランクまたは 0 ~ FFFFFFF の値である必要があります。
[MLPP 表示 (MLPP Indication)]	(使用可能な場合) 優先トーンを再生する機能のあるデバイスが、MLPP 優先コールを行うときにその機能を使用するかどうかを指定します。 ドロップダウン リスト ボックスで、このデバイスに割り当てる設定値を次のオプションから選択します。 <ul style="list-style-type: none"> • [デフォルト (Default)] : デバイスは MLPP 表示設定をデバイス プールから継承します。 • [オフ (Off)] : デバイスは MLPP 優先コールの表示を送信しません。 • [オン (On)] : デバイスは MLPP 優先コールの表示を送信します。 (注) [MLPP プリエンプション (MLPP Preemption)] が [強制 (Forceful)] で [MLPP 表示 (MLPP Indication)] が [オフ (Off)] という組み合わせではデバイスを設定しないでください。
[MLPP プリエンプション (MLPP Preemption)]	(使用可能な場合) 進行中のコールをプリエンブション処理する機能のあるデバイスが、MLPP 優先コールを行うときにその機能を使用するかどうかを指定します。 ドロップダウン リスト ボックスで、このデバイスに割り当てる設定値を次のオプションから選択します。 <ul style="list-style-type: none"> • [デフォルト (Default)] : デバイスは MLPP プリエンプション設定値をデバイス プールから継承します。 • [無効 (Disabled)] : デバイスは MLPP 優先コールを行うときに進行中のコールをプリエンブション処理しません。 • [強制 (Forceful)] : デバイスは MLPP 優先コールを行うときに進行中のコールをプリエンブション処理します。 (注) [MLPP プリエンプション (MLPP Preemption)] が [強制 (Forceful)] で [MLPP 表示 (MLPP Indication)] が [オフ (Off)] という組み合わせではデバイスを設定しないでください。

表 41-1 BAT で UDP を更新する場合のフィールドの説明 (続き)

フィールド	説明
[ログアウト(デフォルト)プロファイル情報(Logged Out (Default) Profile Information)]	
[ログインユーザ ID(Login User Id)]	ドロップダウン リスト ボックスから、UDP を更新する前にログアウトするユーザ ID を選択します。
[IP Phone サービスの割り当て (Assign IP Phone Services)]	
[このテンプレートからすべてのサービスを追加(Add all services from this template)]	ドロップダウン リスト ボックスから、UDP の更新に使用するサービスのリストが含まれたテンプレートを選択します。 [IP Phone サービスの編集 (Edit IP Phone Services)] リンクをクリックすると、テンプレート上の登録済み Cisco Unified IP Phone サービスを更新できます。
[重複の削除 (Remove Duplicate)]	重複した IP Phone サービスを削除するには、このチェックボックスをオンにします。このチェックボックスをオンにすると、重複したサービス登録が電話機とユーザ デバイス プロファイルから削除されます。IP システムが、IP サービス名に基づいてサービスを削除します。
[ジョブ情報 (Job Information)]	
[ジョブ説明 (Job Description)]	適切なジョブの説明を入力します。
[今すぐ実行 (Run Immediately)]	ユーザ デバイス プロファイル更新ジョブのスケジュールおよびアクティブ化を即座に実行するには、このオプション ボタンをクリックします。
[後で実行 (Run Later)]	ユーザ デバイス プロファイル更新ジョブのスケジュールおよびアクティブ化を後で実行するには、このオプション ボタンをクリックします。

関連項目

- 「クエリーを使用した UDP の更新」 (P.41-1)
- 「カスタム ファイルを使用した UDP の更新」 (P.41-2)
- 「更新パラメータの選択」 (P.41-3)
- 「UDP を更新する場合のフィールドの説明」 (P.41-4)



CHAPTER 42

ユーザ デバイス プロファイルの削除

ここでは、ユーザ デバイス プロファイル (UDP) のグループを Cisco Unified Communications Manager データベースから削除する手順を説明します。

次の 2 つの方法を使用して既存の電話機レコードを検索することができます。

- 「クエリーを使用した UDP の削除」(P.42-1)
- 「カスタム ファイルを使用した UDP の削除」(P.42-3)

クエリーを使用した UDP の削除

削除するレコードを探すには、クエリー フィルタを定義する必要があります。Cisco Unified Communications Manager から UDP を削除する手順は、次のとおりです。

手順

- ステップ 1** [一括管理(Bulk Administration)] > [ユーザデバイスプロファイル(User Device Profile)] > [UDP の削除(Delete User Device Profiles)] > [クエリー (Query)] の順に選択します。
[削除するデバイスプロファイルの検索と一覧表示 (Find and List Device Profiles To Delete)] ウィンドウが表示されます。
- ステップ 2** [検索対象 (Find)] ドロップダウン リスト ボックスで、次のいずれかのオプションを選択します。
 - [ユーザ (User)]
 - [自動生成 (Autogenerated)]
 - [すべて (All)]
- ステップ 3** 最初の [デバイスプロファイル、検索条件 (Device Profiles where)] ドロップダウン リスト ボックスで、次のいずれかの検索条件を選択します。
 - [プロフィール名 (Profile Name)]
 - [説明 (Description)]
 - [デバイスタイプ (Device Type)]
- ステップ 4** 2 番目の [デバイスプロファイル、検索条件 (Device Profiles where)] ドロップダウン リスト ボックスで、次のいずれかの検索条件を選択します。
 - [が次の文字列で始まる (begins with)]
 - [が次の文字列を含む (contains)]
 - [が次の文字列と等しい (is exactly)]

■ クエリーを使用した UDP の削除

- [が次の文字列で終わる (ends with)]
- [が空である (is empty)]
- [が空ではない (is not empty)]

ステップ 5 必要に応じて、適切な検索テキストを指定します。



ヒント データベースに登録されているすべての UDP を検索するには、検索テキストを入力せずに [検索 (Find)] をクリックします。

ステップ 6 クエリーをさらに定義する場合や、複数のフィルタを追加する場合は、[絞り込み (Search Within Results)] チェックボックスをオンにし、ドロップダウン ボックスから [AND] または [OR] を選択して、ステップ 2 ~ 5 を繰り返します。

ステップ 7 [検索 (Find)] をクリックします。

検索されたテンプレートのリストが、次の項目別に表示されます。

- [デバイスプロファイル名 (Device Profile Name)]
- [説明 (Description)]
- [デバイスタイプ (Device Type)]
- [プロファイルタイプ (Profile Type)]

ステップ 8 [ジョブ情報 (Job Information)] 領域に、ジョブの説明を入力します。

ステップ 9 [今すぐ実行 (Run Immediately)] オプション ボタンをクリックして UDP レコードを即座に削除するか、[後で実行 (Run Later)] をクリックして後で削除します。

ステップ 10 [送信 (Submit)] をクリックして、電話機レコードを削除するジョブを作成します。

ステップ 11 [一括管理 (Bulk Administration)] メイン メニューの [ジョブスケジューラ (Job Scheduler)] オプションを使用して、このジョブのスケジュールやアクティブ化を行います。

ジョブの詳細については、[第 82 章「ジョブのスケジュール」](#) を参照してください。

ログ ファイルの詳細については、「[BAT ログ ファイル \(P.83-3\)](#)」を参照してください。

**注意**

クエリー テキスト ボックスに情報を何も入力しないと、すべての UDP レコードが削除されます。削除は最終的な操作なので、削除したレコードは復元できません。

追加情報

「[関連項目 \(P.42-4\)](#)」を参照してください。

カスタム ファイルを使用した UDP の削除

テキスト エディタを使用して、削除する UDP のカスタム ファイルを作成することができます。同一のカスタム ファイルの中に、デバイス プロファイル名、デバイス プロファイルの説明、電話番号を含めることができますが、複数の電話番号を同じファイルに入れることはできません。複数のファイルを作成する必要があります。1 つのファイルには、デバイス名と MAC アドレスを含め、もう 1 つのファイルには電話番号を含めます。



(注) シェアドラインを持つ UDP は、カスタム ファイルを使用して削除することはできません。

始める前に

- 削除する UDP について次の詳細のいずれかを記載するテキスト ファイルを作成します。
 - プロフィール名
 - プロフィールの説明
 - 電話番号
- テキスト ファイルで 1 行に 1 項目ずつ配置します。
- カスタム ファイルを Cisco Unified Communications Manager サーバの最初のノードにアップロードします。詳細については、「[ファイルのアップロード](#)」(P.2-3) を参照してください。

カスタム ファイルに記載されている UDP を削除する手順は、次のとおりです。



(注) 削除トランザクション用に bat.xlt として作成したトランザクション ファイルを挿入またはエクスポートしないでください。代わりに、削除が必要な UDP レコードの詳細情報が設定されたカスタム ファイルを作成する必要があります。削除トランザクションには、このファイルしか使用しないでください。このカスタム削除ファイルには、ヘッダーを指定する必要がありません。名前、説明、電話番号の値を入力します。

手順

- ステップ 1** [一括管理 (Bulk Administration)] > [ユーザデバイスプロフィール (User Device Profiles)] > [UDP の削除 (Delete User Device Profiles)] > [カスタムファイル (Custom File)] の順に選択します。
[ユーザデバイスプロフィールの削除 (カスタム) (Delete User Device Profiles Custom Configuration)] ウィンドウが表示されます。
- ステップ 2** [削除対象 (Delete)] ドロップダウン リスト ボックスで、次のいずれかのオプションを選択します。
 - [ユーザ (User)]
 - [自動生成 (Autogenerated)]
 - [すべて (All)]
- ステップ 3** [デバイスプロフィール、検索条件 (Device Profiles where)] ドロップダウン リスト ボックスで、作成したカスタム ファイルのタイプを次のいずれかの条件から選択します。
 - [プロフィール名 (Profile Name)]
 - [プロフィールの説明 (Profile Description)]
 - [電話番号 (Directory Number)]
- ステップ 4** カスタム ファイルのリストで、この削除用のカスタム ファイルのファイル名を選択します。

■ 関連項目

ステップ 5 [検索 (Find)] をクリックします。

ステップ 6 検索条件に一致する UDP のリストが表示されます。

ステップ 7 [送信 (Submit)] をクリックして、UDP を削除するジョブを作成します。

[一括管理 (Bulk Administration)] メイン メニューの [ジョブスケジューラ (Job Scheduler)] オプションを使用して、このジョブのスケジュールやアクティブ化を行います。ジョブの詳細については、[第 82 章「ジョブのスケジュール」](#)を参照してください。

ログ ファイルの詳細については、「[BAT ログ ファイル](#)」(P.83-3) を参照してください。

追加情報

「[関連項目](#)」(P.42-4) を参照してください。

関連項目

- 「[クエリーを使用した UDP の削除](#)」(P.42-1)
- 「[カスタム ファイルを使用した UDP の削除](#)」(P.42-3)
- 「[ファイルのアップロード](#)」(P.2-3)
- 「[ジョブのスケジュール](#)」(P.82-1)
- 「[TAPS の概要](#)」(P.80-2)
- 「[BAT ログ ファイル](#)」(P.83-3)



CHAPTER 43

ユーザ デバイス プロファイル エクスポートの 使用方法

ユーザ デバイス プロファイル レコードをエクスポートする場合、次の 2 つのファイル形式名から選択できます。

- All User Device Profile Details (All Phone Details ファイル形式) : ユーザ デバイス プロファイルに関連付けられた回線アトリビュート、サービス、およびユーザ ID をすべてエクスポートします。
- Specific User Device Profile Details (Default Phone ファイル形式) : ユーザ デバイス プロファイルに関連付けられた詳細の限定されたセットをエクスポートします。

All User Device Profile Details 形式

複数パーティションやコーリング サーチ スペースなどの、回線設定の異なる電話機の場合、All User Device Profile Details 形式を使用します。

表 43-1 に、All User Device Profile Details ファイル形式を選択した場合にエクスポートされるフィールドを示します。

表 43-1 All User Device Profile Details ファイル形式でエクスポートされるフィールド

フィールドの種類	エクスポートされるフィールド
デバイス フィールド	User Device Profile Name、Description、Device Pool、Calling Search Space、AAR Calling Search Space、Media Resource Group List、User Hold Audio Service、Network Hold Audio Source、Login User ID、User Locale、Network Locale、Phone Button Template、Expansion Module Type I、Expansion Module Type II、Softkey Template、Phone Load Name、Module 1 Load Name、Module 2 Load Name、MLPP Indication、MLPP Preemption、MLPP Domain
モデル固有のデバイス フィールド	Information、Directory、Messages、Services、Authentication Server、Proxy Server、Idle、Idle Timer、Enable Extension Mobility、Logout Profile、Login User ID、Login Time、Logout Time

表 43-1 All User Device Profile Details ファイル形式でエクスポートされるフィールド

フィールドの種類	エクスポートされるフィールド
回線フィールド	Directory Number、Partition、Voice Mail Profile、Line CSS、AAR Group、Line User Hold Audio Source、Line Network Hold Audio Source、Auto Answer、Forward All to Voice Mail、Forward All Destination、Forward All CSS、Forward Busy External to Voice Mail、Forward Busy External Destination、Forward Busy External CSS、Forward No Answer External to Voice Mail、Forward No Answer External Destination、Forward No Answer External CSS、Forward On Failure to Voice Mail、Forward On Failure Destination、Forward on Failure CSS、Call pickup group、Forward Busy Internal to Voice Mail、Forward Busy Internal Destination、Forward Busy Internal CSS、Forward No Answer Internal to Voice Mail、Forward No Answer Internal Destination、Forward No Answer Internal CSS、Forward No Call Coverage External to Voice Mail、Forward No Call Coverage External Destination、Forward No Call Coverage External CSS、Forward No Call Coverage Internal to Voice Mail、Forward No Call Coverage Internal Destination、Forward No Call Coverage Internal CSS、Display、External Phone Number Mask、Message Waiting Lamp Policy、Ring Setting When Idle、Line Text Label、Ring Setting When Active、No Answer Ring Duration、MLPP Target Destination、MLPP Calling Search Space、MLPP No Answer Ring Duration、Max Num Calls、Busy Trigger、Call Info Display Mask、Alerting Name
ユーザ フィールド	User ID
スピードダイヤル	Speed Dial Number、Speed Dial Label
サービス	Service Name、Subscribed Service Name、Parameter Name、Parameter Value

Specific User Device Profile 形式

ユーザ デバイス プロファイルに関連付けられた詳細の限定されたセットをエクスポートするには、Default User Device Profile 形式を使用します。特定のクエリー オプションを選択してエクスポート ファイルをカスタマイズできます。

表 43-2 に、Default User Device Profile 形式を選択した場合にエクスポートされるフィールドを示します。関連する手順については、「関連項目」(P.43-4) を参照してください。

表 43-2 Default User Device Profile ファイル形式でエクスポートされるフィールド

フィールドの種類	エクスポートされるフィールド
デバイス フィールド	MAC Address、Description、Login User ID
回線フィールド	Directory Number、Display、Line Text Label、Forward Busy External、Forward Busy Internal、Forward No Answer External、Forward No Answer Internal、Forward No Coverage External、Forward No Coverage Internal、Call pickup group

追加情報

「関連項目」(P.43-4) を参照してください。

ユーザ デバイス プロファイル レコードのエクスポート

ユーザ デバイス プロファイルを Cisco Unified Communications Manager からエクスポートする手順は、次のとおりです。

手順

- ステップ 1** 次のオプションのいずれかを選択してください。
- [一括管理 (Bulk Administration)] > [ユーザデバイスプロファイル (User Device Profiles)] > [UDP のエクスポート (Export User Device Profiles)] > [固有の詳細 (Specific Details)]。[エクスポートするユーザデバイスプロファイルの検索と一覧表示 (Find and List User Device Profiles To Export)] ウィンドウが表示されます。
 - [一括管理 (Bulk Administration)] > [ユーザデバイスプロファイル (User Device Profiles)] > [UDP のエクスポート (Export User Device Profiles)] > [すべての詳細 (All Details)]。[ユーザデバイスプロファイルのエクスポート (Export User Device Profiles Configuration)] ウィンドウが表示されます。
- ステップ 2** [すべての詳細 (All Details)] オプションを選択した場合は、[デバイスタイプ (Device Type)] ドロップダウン リスト ボックスからデバイスの種類または特定のモデルを選択します。ステップ 4 に進みます。
- ステップ 3** [固有の詳細 (Specific Details)] オプションを選択した場合は、エクスポート ファイルをカスタマイズし、以下の詳細なオプションを設定することができます。
- a. ドロップダウン リスト ボックスで、デバイスの種類とデバイス プロトコルを選択します。
 - b. 最初の [検索対象: ユーザデバイスプロファイル、検索条件 (Find a User Device Profile)] ドロップダウン リスト ボックスで、次のいずれかのオプションを選択します。
 - [プロファイル名 (Profile Name)]
 - [プロファイルの説明 (Profile Description)]

- c. 2 番目のドロップダウン リスト ボックスで、次のいずれかのオプションを選択します。
- [が次の文字列で始まる (begins with)]
 - [が次の文字列を含む (contains)]
 - [が次の文字列と等しい (is exactly)]
 - [が次の文字列で終わる (ends with)]
 - [が空である (is empty)]
 - [が空ではない (is not empty)]
- d. 検索フィールド ボックスに、検索する値（たとえば、特定のプロファイル名またはプロファイルの説明）を入力します。
- e. 複数のフィルタを追加するには、[絞り込み (Search Within Results)] チェックボックスをクリックして [AND] または [OR] をクリックします。クエリーをさらに定義するには、b. ~ d. を繰り返します。
- f. [検索 (Find)] をクリックします。検索結果が表示されます。
- g. [次へ (Next)] をクリックします。
- h. [ファイル形式 (File Format)] ドロップダウン リスト ボックスで、ファイル形式を選択します。

ステップ 4 [ファイル名 (File Name)] フィールドに、使用するファイル名を入力します。

ステップ 5 [ジョブ情報 (Job Information)] 領域に、ジョブの説明を入力します。

ステップ 6 [今すぐ実行 (Run Immediately)] オプション ボタンをクリックしてユーザ データ プロファイルを即座にエクスポートするか、[後で実行 (Run Later)] をクリックして後でエクスポートします。

ステップ 7 [送信 (Submit)] をクリックして、ユーザ デバイス プロファイルをエクスポートするジョブを作成します。

ステップ 8 [一括管理 (Bulk Administration)] メイン メニューの [ジョブスケジューラ (Job Scheduler)] オプションを使用して、このジョブのスケジュールやアクティブ化を行います。

ジョブの詳細については、[第 82 章「ジョブのスケジュール」](#)を参照してください。

ログ ファイルの詳細については、「[BAT ログ ファイル](#)」(P.83-3) を参照してください。

追加情報

「[関連項目](#)」(P.43-4) を参照してください。

関連項目

- 「[Specific User Device Profile 形式](#)」(P.43-3)
- 「[All User Device Profile Details 形式](#)」(P.43-1)
- 「[ユーザ デバイス プロファイル レコードのエクスポート](#)」(P.43-3)
- 「[ジョブのスケジュール](#)」(P.82-1)
- 「[BAT ログ ファイル](#)」(P.83-3)



CHAPTER 44

ユーザ デバイス プロファイル用の回線の更新

特定のデバイス グループまたは特定のユーザ デバイス プロファイル グループ用の回線アトリビュートを更新するには、[回線の更新(Update Lines)] オプションを使用します。クエリー結果に電話機用の回線とユーザ デバイス プロファイル用の回線の両方が含まれている場合は、両回線が同時に更新されます。



(注) 電話機を Cisco Unified Communications Manager データベースから削除しても、電話番号はデータベース内に残っています。これらの孤立した電話番号を管理するには、[回線の更新(Update Lines)] オプションを使用して割り当てられていない電話番号を検索し、これらの電話番号を削除または更新することができます。

ユーザ デバイス プロファイル用の回線の更新

ユーザ デバイス プロファイル用の回線を更新する手順は、次のとおりです。

- 「クエリーを使用した回線の更新」(P.44-1)
- 「回線を更新する場合のフィールドの説明」(P.44-3)

クエリーを使用した回線の更新

回線を更新する手順は、次のとおりです。

手順

ステップ 1 [一括管理(Bulk Administration)] > [ユーザデバイスプロファイル(User Device Profiles)] > [回線の追加/更新(Add/Update Lines)] > [回線の更新(Update Lines)] の順に選択します。

[回線の更新のクエリー(Update Lines Query)] ウィンドウが表示されます。



(注) クエリーを指定しなければ、すべての回線を更新できます。「回線を更新する場合のフィールドの説明」(P.44-3) に進みます。

クエリーを使用した回線の更新

ステップ 2 最初の [検索対象: 回線、検索条件 (Find Line where)] ドロップダウン リスト ボックスで、次のいずれかの検索条件を選択します。

- [電話番号 (Directory Number)]
- [ルートパターン (Route Pattern)]
- [回線の説明 (Line Description)]
- [CSS(電話)(Calling Search Space (Phone))]
- [CSS(回線)(Calling Search Space (Line))]
- [デバイスプール (Device Pool)]
- [デバイスの説明 (Device Description)]
- [回線の位置 (Line Position)]
- [未定義の DN(Unassigned DN)]
- [コールピックアップグループ (Call Pickup Group)]



(注) 孤立した電話番号を検索して削除するには、「未定義の DN」を使用します。

ステップ 3 2 番目の [検索対象: 回線、検索条件 (Find Line where)] ドロップダウン リスト ボックスで、次のいずれかの検索条件を選択します。

- [が次の文字列で始まる (begins with)]
- [が次の文字列を含む (contains)]
- [が次の文字列と等しい (is exactly)]
- [が次の文字列で終わる (ends with)]
- [が空である (is empty)]
- [が空ではない (is not empty)]

ステップ 4 検索フィールドリスト ボックスで、検索する値を選択するか、入力します。たとえば、リストから回線の位置を選択するか、電話番号の範囲を入力します。



ヒント データベースに登録されているすべての回線を検索するには、検索テキストを入力せずに [検索 (Find)] をクリックします。

ステップ 5 クエリーをさらに定義する場合や、複数のフィルタを追加する場合は、[絞り込み (Search Within Results)] チェックボックスをオンにし、ドロップダウン ボックスから [AND] または [OR] を選択して、ステップ 2 ~ 4 を繰り返します。

ステップ 6 [検索 (Find)] をクリックして、検索対象のレコードを表示します。

検索された回線のリストが、次の項目別に表示されます。

- [パターン / 電話番号 (Pattern/Directory Number)]
- [パーティション (Partition)]
- [説明 (Description)]

ステップ 7 [次へ (Next)] をクリックします。最上部で選択したクエリーのタイプが、[回線の更新 (Update Lines)] ウィンドウに表示されます。クエリーのタイプを変更する場合は、[戻る (Back)] をクリックします。

- ステップ 8** クエリーで定義したすべてのレコードに対して、更新する設定値を指定します。更新するパラメータは複数選択できます。パラメータの説明については、「[回線を更新する場合のフィールドの説明](#)」(P.44-3) を参照してください。
- ステップ 9** [ジョブ情報 (Job Information)] 領域に、ジョブの説明を入力します。
- ステップ 10** [今すぐ実行 (Run Immediately)] オプション ボタンをクリックして回線を即座に挿入するか、[後で実行 (Run Later)] をクリックして後で挿入します。
- ステップ 11** [送信 (Submit)] をクリックして、電話機レコードを挿入するジョブを作成します。
- ステップ 12** [ジョブスケジューラ (Job Scheduler)] ウィンドウで、このジョブのスケジュールやアクティブ化を行います。
- ジョブの詳細については、[第 82 章「ジョブのスケジュール」](#) を参照してください。
- ログ ファイルの詳細については、「[BAT ログ ファイル](#)」(P.83-3) を参照してください。



(注) 回線レコードの情報に何らかの問題がある場合、Cisco Unified Communications Manager 一括管理 (BAT) は、その回線レコードを更新しません。

追加情報

「[関連項目](#)」(P.44-3) を参照してください。

回線を更新する場合のフィールドの説明

回線の詳細を更新する場合のフィールドについては、[表 3-2](#) を参照してください。



(注) 適切な値を入力または選択した後、「[クエリーを使用した回線の更新](#)」(P.44-1) に戻って手順を完了する必要があります。

一部のフィールドに示される値は、Cisco Unified Communications Manager から表示されます。これらの値は、Cisco Unified Communications Manager の管理ページを使用して設定する必要があります。関連する手順については、「[関連項目](#)」(P.44-3) を参照してください。



(注) 手順を完了するには、「[クエリーを使用した回線の更新](#)」(P.44-1) に進みます。

関連項目

- 「[クエリーを使用した回線の更新](#)」(P.44-1)
- 「[BAT テンプレートに回線を追加または更新する場合のフィールドの説明](#)」(P.3-36)
- 「[ジョブのスケジュール](#)」(P.82-1)
- 「[BAT ログ ファイル](#)」(P.83-3)



CHAPTER 45

UDP の回線の追加

既存のユーザ デバイス プロファイルのグループに回線を追加することができます。テンプレートを使用して新しい回線を追加すると、電話サービスまたはスピードダイヤルを変更することはできません。既存の電話機に回線を追加する場合、Cisco Unified Communications Manager 一括管理 (BAT) ではテンプレートのこれらのフィールドが無視されます。

既存の電話機またはユーザ デバイス プロファイルに回線を追加する手順は、次のとおりです。

始める前に

- このトランザクションには BAT テンプレートが必要です。詳細については、「[BAT テンプレートにおける回線の追加または更新](#)」(P.3-5) を参照してください。
- このトランザクションには CSV データ ファイルが必要です。詳細については、「[BAT スプレッドシートを使用したユーザ デバイス プロファイル CSV データ ファイルの作成](#)」(P.35-3) を参照してください。

既存の UDP への回線の追加

既存のユーザ デバイス プロファイルのグループに回線を追加する手順は、次のとおりです。

手順

- ステップ 1** [一括管理 (Bulk Administration)] > [ユーザデバイスプロファイル (User Device Profiles)] > [回線の追加/更新 (Add/Update Lines)] > [回線の追加 (Add Lines)] の順に選択します。
[UDP 回線の追加 (UDP Add Lines Configuration)] ウィンドウが表示されます。
- ステップ 2** [ファイル名 (File Name)] フィールドで、このバルク トランザクション用に作成した CSV データ ファイルを選択します。
- ステップ 3** テンプレート内にある既存の電話機の設定値を変更する場合は、[既存の電話ボタンテンプレートの更新 (Update the existing phone button template)] チェックボックスをオンにします。このチェックボックスをオンにすると、ユーザ デバイス プロファイル情報も更新されます。
- ステップ 4** [UDP テンプレート名 (UDP Template Name)] フィールドで、このバルク トランザクションに使用するユーザ デバイス プロファイル テンプレートを選択します。
- ステップ 5** [ジョブ情報 (Job Information)] 領域に、ジョブの説明を入力します。
- ステップ 6** [今すぐ実行 (Run Immediately)] オプション ボタンをクリックして電話機レコードを即座に挿入するか、[後で実行 (Run Later)] をクリックして後で挿入します。
- ステップ 7** [送信 (Submit)] をクリックして、電話機レコードを挿入するジョブを作成します。

ステップ 8 [一括管理 (Bulk Administration)] メイン メニューの [ジョブスケジューラ (Job Scheduler)] オプションを使用して、このジョブのスケジュールやアクティブ化を行います。

ジョブの詳細については、第 82 章「ジョブのスケジュール」を参照してください。

ログ ファイルの詳細については、「BAT ログ ファイル」(P.83-3) を参照してください。

追加情報

「関連項目」(P.45-6) を参照してください。

BAT スプレッドシートを使用した既存の UDP への回線の追加

既存の UDP に回線を追加するための BAT スプレッドシートを使用して CSV データ ファイルを作成する手順は、次のとおりです。

BAT スプレッドシートのインストール方法と使用方法については、「BAT スプレッドシートをデータ収集に使用する方法」(P.1-9) を参照してください。

手順

- ステップ 1** BAT.xlt ファイルを見つけ、ダブルクリックして、BAT スプレッドシートを開きます。
- ステップ 2** プロンプトが表示されたら、[マクロを有効にする] ボタンをクリックして、スプレッドシート機能を使用します。
- ステップ 3** フィールドを表示するには、スプレッドシートの下部にある [Add Lines] タブをクリックします。
- ステップ 4** 次のオプションから適切なオプション ボタンを選択します。
- [電話 (Phones)]
 - [UDP]
- ステップ 5** スプレッドシートの回線ごとに、個々のデバイス プロファイルのデータを入力します。すべての必須フィールド、および該当するオプション フィールドに値を入力します。各カラムの見出しは、フィールドの長さ、およびそのフィールドが必須かオプションかを指定しています。表 45-1 では、BAT スプレッドシートで回線を追加するためのフィールドについて説明します。
- ステップ 6** [Export to BAT Format] をクリックして BAT Excel スプレッドシートから CSV 形式のデータ ファイルにデータを転送します。
- このファイルは C:\XLSDataFiles に保存されます。あるいは [Browse] を使用してローカル ワークステーション上の別の既存フォルダに保存することもできます。ファイル名は次のとおりです。
- ```
<tabname>-<timestamp>.txt
```
- ここで、<tabname> は、作成した入力ファイルのタイプ (たとえば、UDP) を表し、<timestamp> は、ファイルが作成された正確な日時を表します。



(注) いずれかのフィールドにカンマを入力した場合、BAT.xlt を使用して BAT 形式にエクスポートするときに、そのフィールド エントリは二重引用符で囲まれます。

スプレッドシートにブランク行を入力すると、その空の行はファイルの終わりとして扱われます。ブランク行の後に入力されているデータは BAT 形式に変換されません。

CSV ファイルを Cisco Unified Communications Manager サーバの最初のノードにアップロードします。詳細については、「[ファイルのアップロード](#)」(P.2-3) を参照してください。



(注) エクスポートされた CSV データ ファイルを読み取る方法については、BAT 内の [電話の挿入 (Insert Phones Configuration)] ウィンドウで [サンプルファイルの表示 (View Sample File)] へのリンクをクリックしてください。

#### 追加情報

「[関連項目](#)」(P.45-6) を参照してください。

## BAT スプレッドシートを使用して回線を追加する場合のフィールドの説明

表 45-1 では、BAT スプレッドシートを使用して回線を追加する場合のフィールドについて説明します。関連する手順については、「[関連項目](#)」(P.45-6) を参照してください。

表 45-1 BAT スプレッドシートを使用して回線を追加する場合のフィールドの説明

| フィールド                     | 説明                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                  |
|---------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| [MAC Address/Device Name] | 電話機、VGC Virtual Phone、および VGC Phone の MAC アドレスを入力します。CTI ポートおよび H.323 クライアントの固有の ID を入力します。UDP のデバイス名を入力します。                                                                                                                                                                                                                        |
| [Line Index]              | 電話機の回線インデックスに 1 ~ 34 の数字を入力します。                                                                                                                                                                                                                                                                                                     |
| [Directory Number]        | この回線の電話番号を、24 桁以下の数字と特殊文字で入力します。                                                                                                                                                                                                                                                                                                    |
| [Display]                 | コールの着信側の電話機ディスプレイに表示するテキストを入力します (たとえば、John Smith などのユーザ名や Conference Room 1 などの電話機の設置場所など)。このフィールドの値が表示される電話機の種類にご注意ください。対象に漢字未対応の電話機が含まれる場合は、状況により半角カタカナあるいは ASCII 文字を使用するようにしてください。また、電話機のユーザ ロケールが複数存在する場合は、共通する文字セットを使用してください。<br><br>(注) このフィールドをブランクにしておくと、[Directory Number] フィールドに入力された値が使用されます。<br><br>(注) デフォルトの言語は英語です。 |

表 45-1 BAT スプレッドシートを使用して回線を追加する場合のフィールドの説明

| フィールド                          | 説明                                                                                                                                                                                                                           |
|--------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| [Line Text Label]              | <p>回線と電話機の組み合わせに使用されているこの電話番号を識別するためのテキストを入力します。このフィールドの値が表示される電話機の種類にご注意ください。対象に漢字未対応の電話機が含まれる場合は、状況により半角カタカナあるいは ASCII 文字を使用するようにしてください。また、電話機のユーザ ロケールが複数存在する場合は、共通する文字セットを使用してください。</p> <p><b>(注)</b> デフォルトの言語は英語です。</p> |
| [Forward Busy External]        | <p>回線が使用中のときに外部番号からのコールが自動転送される先の電話番号を入力します。</p> <p><b>(注)</b> この設定値は、ダイヤル可能な任意の電話番号（制限されていない限り、外部の宛先を含む）、およびこの電話番号を使用するすべてのデバイスに適用されます。</p>                                                                                 |
| [Forward No Answer External]   | <p>電話機が応答しない場合に外部番号からのコールが自動転送される先の電話番号を入力します。</p> <p><b>(注)</b> この設定値は、ダイヤル可能な任意の電話番号（制限されていない限り、外部の宛先を含む）、およびこの電話番号を使用するすべてのデバイスに適用されます。</p>                                                                               |
| [Forward No Coverage External] | <p>電話機のカバレッジが対応しない場合に外部番号からのコールが自動転送される先の電話番号を入力します。</p> <p><b>(注)</b> この設定値は、ダイヤル可能な任意の電話番号（制限されていない限り、外部の宛先を含む）、およびこの電話番号を使用するすべてのデバイスに適用されます。</p>                                                                         |
| [Forward Busy Internal]        | <p>回線が使用中のときに内部番号からのコールが自動転送される先の電話番号を入力します。</p> <p><b>(注)</b> この設定値は、ダイヤル可能な任意の電話番号（制限されていない限り、外部の宛先を含む）、およびこの電話番号を使用するすべてのデバイスに適用されます。</p>                                                                                 |
| [Forward No Answer Internal]   | <p>電話機が応答しない場合に内部番号からのコールが自動転送される先の電話番号を入力します。</p> <p><b>(注)</b> この設定値は、ダイヤル可能な任意の電話番号（制限されていない限り、外部の宛先を含む）、およびこの電話番号を使用するすべてのデバイスに適用されます。</p>                                                                               |
| [Forward No Coverage Internal] | <p>電話機のカバレッジが対応しない場合に内部番号からのコールが自動転送される先の電話番号を入力します。</p> <p><b>(注)</b> この設定値は、ダイヤル可能な任意の電話番号（制限されていない限り、外部の宛先を含む）、およびこの電話番号を使用するすべてのデバイスに適用されます。</p>                                                                         |

表 45-1 BAT スプレッドシートを使用して回線を追加する場合のフィールドの説明

| フィールド                                              | 説明                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                      |
|----------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| [Party Entrance Tone]                              | 次のいずれかのパーティ参加トーン オプションを入力します。 <ul style="list-style-type: none"> <li>[Default] : Party Entrance Tone サービス パラメータで設定した値を使用します。</li> <li>[On] : 基本コールがマルチパーティ コール（割り込みコール、C 割り込みコール、アドホック会議、ミーティング会議、または参加コール）に変わると、電話機でトーンが再生されます。さらに、通話者がマルチパーティコールを離れると、別のトーンが再生されます。制御デバイスつまりマルチパーティ コールの発信元がビルトインブリッジの場合、制御デバイスで [On] を選択すると、すべての通話者に対してトーンが再生されます。制御デバイス（たとえば、会議の開催者）がコールに参加しなくなっている場合、または制御デバイスがトーンを再生できない場合は、[On] が選択されていても、Cisco Unified Communications Manager はトーンを再生しません。</li> <li>[Off] : 基本コールがマルチパーティ コールに変わっても、電話機でトーンは再生されません。</li> </ul> |
| [Park Monitor Forward No Retrieve Ext Destination] | パークされた発信側が外部ユーザの場合、パーク元の [Park Monitoring Forward No Retrieve Destination External] パラメータに指定された接続先にコールが自動転送されます。[Forward No Retrieve Destination External] フィールドの値が空の場合は、パークされた発信側がパーク元の回線にリダイレクトされます。                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                  |
| [Park Monitor Forward No Retrieve Int Destination] | パークされた発信側が内部ユーザの場合、パーク元の [Park Monitoring Forward No Retrieve Destination Internal] パラメータに指定された接続先にコールが自動転送されます。[Forward No Retrieve Destination Internal] フィールドの値が空の場合は、パークされた発信側がパーク元の回線にリダイレクトされます。                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                  |
| [Park Monitor Forward No Retrieve Int Voice Mail]  | この設定では、[ボイスメールプロファイルの設定 (Voice Mail Profile Configuration)] ウィンドウの設定が使用されます。<br>この設定を使用すると、Cisco Unified Communications Manager は、[接続先 (Destination)] ボックスと [コーリングサーチスペース (Calling Search Space)] の設定値を無視します。                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                           |
| [Park Monitor Forward No Retrieve Ext Voice Mail]  | この設定では、[ボイスメールプロファイルの設定 (Voice Mail Profile Configuration)] ウィンドウの設定が使用されます。<br>この設定を使用すると、Cisco Unified Communications Manager は、[接続先 (Destination)] ボックスと [コーリングサーチスペース (Calling Search Space)] の設定値を無視します。                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                           |
| [Park Monitor Forward No Retrieve Ext CSS]         | 電話番号に適用するコーリングサーチスペースを選択します。                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                            |
| [Park Monitor Forward No Retrieve Int CSS]         | 電話番号に適用するコーリングサーチスペースを選択します。                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                            |

表 45-1 BAT スプレッドシートを使用して回線を追加する場合のフィールドの説明

| フィールド                          | 説明                                                                                                                                                                                                                                                                                                                          |
|--------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| [Park Monitor Reversion Timer] | このパラメータによって、Cisco Unified Communications Manager がユーザにパークしたコールの取得を求めるまでに待機する秒数が決まります。このタイマーはユーザが電話の [パーク] ソフトキーを押すと起動し、タイマーの期限が切れるとリマインダが発行されます。<br><br>デフォルト：60 秒<br><br>ゼロ以外の値を設定すると、[サービス パラメータ (Service Parameters)] ウィンドウに設定されているパラメータの値がこの値で上書きされます。一方、ここに 0 を設定すると、[サービス パラメータ (Service Parameters)] ウィンドウの値が使用されます。 |
| [Log Missed Calls]             | このフィールドを使用すると、不在着信のログ機能をオンまたはオフにできます。「T」を入力すると、Cisco Unified Communications Manager は電話機でのその電話番号に対する通話履歴に不在着信のログを記録します。この機能を無効にするには「F」を入力します。                                                                                                                                                                               |
| [Call Pickup Group]            | コール ピックアップ グループ名を入力してコール ピックアップ グループを指定します。コール ピックアップ グループでは、該当のピックアップ グループ番号をダイヤルすることにより、この回線への着信コールに応答することができます。                                                                                                                                                                                                          |

## 関連項目

- 「既存の UDP への回線の追加」 (P.45-1)
- 「BAT スプレッドシートを使用した既存の UDP への回線の追加」 (P.45-2)
- 「BAT スプレッドシートを使用して回線を追加する場合のフィールドの説明」 (P.45-3)
- 「BAT テンプレートにおける回線の追加または更新」 (P.3-5)



## CHAPTER 46

# UDP のレポートの生成

Cisco Unified Communications Manager 一括管理 (BAT) には、レコードを効率的に管理するためのレポート機能があります。レポートを作成し、保存して、電話機、ユーザ、ユーザ デバイス プロファイル、マネージャとアシスタント、およびゲートウェイ レコードについての情報を利用できます。これらのレポートは、ファイル名を指定して保存できます。また、最初のノード サーバ上のフォルダに格納して再表示および印刷できます。

デバイス フィールドおよび回線フィールドの一覧から項目を選択して、特定のニーズに適合するように、電話機およびユーザ デバイス プロファイルについて BAT レポートをカスタマイズできます。レポート内のフィールドの整列方法を選択することもできます。レポートは CSV ファイル形式で生成されます。ユーザ、マネージャ、アシスタント、およびゲートウェイのレポートは固定形式であるため、カスタマイズできません。

### 例

電話機モデル別に、自動転送先を持つすべての電話番号の一覧が必要です。Cisco Unified IP Phone モデル 7960 の電話機レポートを生成して、クエリー詳細 ([Device Name]、[Directory Number]、[Forward Busy Destination]、[Forward No Answer Destination]、および [Label]) を選択できます。レポート フィールドを整理して、[Label] フィールドが [Directory Number] フィールドの後ろ、2 つの自動転送先番号の前に位置するように調整できます。

### 追加情報

[「関連項目」\(P.46-3\)](#) を参照してください。

## ユーザ デバイス プロファイルのレポートの生成

ユーザ デバイス プロファイル (UDP) のレポートを生成する手順は、次のとおりです。

### 手順

- ステップ 1** [一括管理 (Bulk Administration)] > [ユーザデバイスプロファイル (User Device Profiles)] > [UDP レポートの作成 (Generate UDP Reports)] の順に選択します。  
[デバイスプロファイルの検索と一覧表示 (Find and List Device Profiles)] ウィンドウが表示されます。
- ステップ 2** [検索対象 (Find)] ドロップダウン リスト ボックスで、次のいずれかのオプションを選択します。
  - [ユーザ (User)]
  - [自動生成 (Autogenerated)]
  - [すべて (All)]

- ステップ 3** 最初の [デバイスプロファイル、検索条件 (Device Profiles where)] ドロップダウン リスト ボックスで、次のいずれかの検索条件を選択します。
- [プロファイル名 (Profile Name)]
  - [説明 (Description)]
  - [デバイスタイプ (Device Type)]
- ステップ 4** 2 番目の [デバイスプロファイル、検索条件 (Device Profiles where)] ドロップダウン リスト ボックスで、次のいずれかの検索条件を選択します。
- [が次の文字列で始まる (begins with)]
  - [が次の文字列を含む (contains)]
  - [が次の文字列と等しい (is exactly)]
  - [が次の文字列で終わる (ends with)]
  - [が空である (is empty)]
  - [が空ではない (is not empty)]
- ステップ 5** 必要に応じて、適切な検索テキストを指定します。
-  **ヒント** データベースに登録されているすべての UDP を検索するには、検索テキストを入力せずに [検索 (Find)] をクリックします。
- ステップ 6** クエリーをさらに定義する場合や、複数のフィルタを追加する場合は、[絞り込み (Search Within Results)] チェックボックスをオンにし、ドロップダウン ボックスから [AND] または [OR] を選択して、ステップ 2 ~ 5 を繰り返します。
- ステップ 7** [検索 (Find)] をクリックします。  
検索されたテンプレートのリストが、次の項目別に表示されます。
- [名前 (Name)]
  - [説明 (Description)]
  - [デバイスタイプ (Device Type)]
  - [プロファイルタイプ (Profile Type)]
- ステップ 8** [次へ (Next)] をクリックして、レポートのタイプについての詳細を選択します。[ユーザデバイスプロファイルレポートの作成の設定 (Generate User Device Profiles Report Configuration)] ウィンドウに、選択したクエリーが表示されます。クエリーのタイプを変更する場合は、[戻る (Back)] をクリックします。
- ステップ 9** [レポートファイル名 (Report File Name)] フィールドに、このレポートの名前を入力します (必須)。
- ステップ 10** 使用可能な [デバイスフィールド (Device Fields)] ドロップダウン リスト ボックスでデバイス項目を選択し、矢印をクリックして項目をこのレポート リストの [選択済みのデバイスフィールド (Selected Device Fields)] に移動します。レポートに含めるフィールドは複数選択できます。デバイス フィールドおよび回線フィールドについては、「[電話機および IP テレフォニー デバイスのレポート](#)」(P.12-3) を参照してください。
- ステップ 11** このレポート リストの [選択済みのデバイスフィールド (Selected Device Fields)] 内の項目の順序を変更するには、項目を選択し、上向き矢印または下向き矢印をクリックして項目をリスト内の別の位置に移動します。
- ステップ 12** 使用可能な [回線フィールド (Line Fields)] ドロップダウン リスト ボックスで回線項目を選択し、矢印をクリックして項目をこのレポート リストの [選択済みのフィールド (Selected Fields)] に移動します。レポートに含めるフィールドは複数選択できます。

**ステップ 13** このレポート リストの [選択済みの回線フィールド (Selected Line Fields)] 内の回線項目の順序を変更するには、項目を選択し、上向き矢印または下向き矢印をクリックして項目をリスト内の別の位置に移動します。



**(注)** レポートを生成するには、少なくとも 1 つのデバイス フィールドまたは回線フィールドを指定する必要があります。

**ステップ 14** [追加の IP サービスフィールド (Additional IP Services Fields)] 領域で、必要に応じて [スピードダイヤルサービス (Speed Dial Services)] チェックボックスと [IP Phone サービス (IP Phone Services)] チェックボックスのいずれかまたは両方をオンにします。

**ステップ 15** [ジョブ情報 (Job Information)] 領域に、ジョブの説明を入力します。

**ステップ 16** [今すぐ実行 (Run Immediately)] オプション ボタンをクリックして即座に UDP のレポートを生成するか、[後で実行 (Run Later)] をクリックして後でレポートを生成します。

**ステップ 17** [送信 (Submit)] をクリックして UDP のレポートを生成するジョブを作成します。

**ステップ 18** [一括管理 (Bulk Administration)] メイン メニューの [ジョブスケジューラ (Job Scheduler)] オプションを使用して、このジョブのスケジュールやアクティブ化を行います。

ジョブの詳細については、[第 82 章「ジョブのスケジュール」](#)を参照してください。

ログ ファイルの詳細については、「[BAT ログ ファイル \(P.83-3\)](#)」を参照してください。

#### 追加情報

「[関連項目 \(P.46-3\)](#)」を参照してください。

## 関連項目

- 「[ユーザ デバイス プロファイルのレポートの生成 \(P.46-1\)](#)」
- 「[電話機および IP テレフォニー デバイスのレポート \(P.12-3\)](#)」
- 「[ジョブのスケジュール \(P.82-1\)](#)」
- 「[BAT ログ ファイル \(P.83-3\)](#)」





## CHAPTER 47

# インターコム DN の追加と更新

インターコム機能を使用すると、ユーザが別のユーザへコールしたときに、着信側がビジー状態かアイドル状態かにかかわらず、発信側から着信側への一方向メディアを使用して、そのコールに自動的に応答させることができます。

インターコムの追加/更新ユーティリティを使用すると、Cisco Unified Communications Manager サーバにインターコムを一括して追加または更新することができます。インターコムを追加または更新する手順は、次のとおりです。

- 「インターコムの DN の更新」 (P.47-1)
- 「インターコムの DN の追加」 (P.47-2)

## インターコムの DN の更新

インターコムの DN を更新する手順は、次のとおりです。

### 手順

- ステップ 1** [一括管理 (Bulk Administration)] > [ユーザデバイスプロファイル (User Device Profiles)] > [インターコムの追加/更新 (Add/Update Intercom)] > [インターコムの DN の更新 (Update Intercom DN)] の順に選択します。[インターコム電話番号の更新 (Update Intercom Directory Number)] ウィンドウが表示されます。
- ステップ 2** 最初の [検索対象: 更新するインターコム電話番号の検索と一覧表示、検索条件:(Find and List Intercom Directory Numbers To Update where)] ドロップダウン リスト ボックスで、次のいずれかの検索条件を選択します。
  - [インターコム電話番号 (Intercom Directory Number)]
  - [ルートパーティション (Route Partition)]
  - [説明 (Description)]
- ステップ 3** 2 番目の [検索対象: 更新するインターコム電話番号の検索と一覧表示、検索条件:(Find and List Intercom Directory Numbers To Update where)] ドロップダウン リスト ボックスで、次のいずれかの検索条件を選択します。
  - [ が次の文字列で始まる (begins with)]
  - [ が次の文字列を含む (contains)]
  - [ が次の文字列で終わる (ends with)]
  - [ が次の文字列と等しい (is exactly)]

- [ が空である (is empty)]
- [ が空ではない (is not empty)]

**ステップ 4** 必要に応じて、テキスト フィールドに適切な検索テキストを指定します。



**ヒント** データベースに登録されているすべてのインターコムの DN を検索するには、検索テキストを入力せずに [検索 (Find)] をクリックします。

**ステップ 5** クエリーをさらに定義するには、[AND] または [OR] を選択して複数のフィルタを追加し、ステップ 2 ~ 3 の手順を繰り返します。

**ステップ 6** [検索 (Find)] をクリックします。

検索されたインターコムの DN のリストが、次の項目別に表示されます。

- [ インターコムの DN/ パターン (Intercom DN Pattern)]
- [ ルートパーティション (Route Partition)]
- [ 説明 (Description)]

**ステップ 7** [次へ (Next)] をクリックします。次の [インターコム電話番号の更新 (Update Intercom Directory Number)] ウィンドウが表示されます。

**ステップ 8** クエリーで定義したすべてのレコードに対して、更新する設定値を指定します。更新するパラメータは複数選択できます。パラメータの説明については、「[インターコムの DN を更新する場合のフィールドの説明](#)」(P.47-3) を参照してください。

#### 追加情報

「[関連項目](#)」(P.47-4) を参照してください。

## インターコムの DN の追加

インターコムの DN を Cisco Unified Communications Manager サーバに追加する手順は、次のとおりです。

#### 始める前に

- UDP または他の IP テレフォニー デバイスに固有の詳細を含むカンマ区切り値 (CSV) 形式のデータ ファイルが必要です。
- トランザクションのための該当ターゲットと機能を選択してデータ ファイルをアップロードします。

#### 手順

**ステップ 1** [一括管理 (Bulk Administration)] > [ユーザデバイスプロファイル (User Device Profiles)] > [インターコムの追加/更新 (Add/Update Intercom)] > [インターコムの DN の追加 (Add Intercom DN)] の順に選択します。[UDP インターコム DN の一括挿入 (Bulk UDP Intercom DN Insert)] ウィンドウが表示されます。

**ステップ 2** [ファイル名 (File Name)] ドロップダウン リスト ボックスで、この固有のバルク トランザクション用に作成した CSV データ ファイルを選択します。

**ステップ 3** [ユーザデバイスプロファイルテンプレート名 (User Device Profile Template Name)] ドロップダウン リスト ボックスで、このタイプのバルク トランザクション用に作成した BAT UDP テンプレートを選択します。

- ステップ 4** [既存の設定の上書き (Override the existing configuration)] チェックボックスをオンにすると、既存の UDP テンプレートの設定が、挿入するファイルに含まれている情報によって上書きされます。既存の設定の上書きはオプションです。
- ステップ 5** [ジョブ情報 (Job Information)] 領域に、ジョブの説明を入力します。  
このトランザクションのデフォルトのジョブの説明は、「インターコムの DN の挿入」です。
- ステップ 6** インターコムの DN を即座に追加するには [今すぐ実行 (Run Immediately)] オプション ボタンをクリックします。後で追加するには、[後で実行 (Run Later)] をクリックします。
- ステップ 7** インターコムの DN を追加するジョブを作成するには、[送信 (Submit)] をクリックします。
- ステップ 8** このジョブのスケジュールやアクティブ化を行うには、[一括管理 (Bulk Administration)] メインメニューの [ジョブスケジューラ (Job Scheduler)] オプションを使用します。  
ジョブの詳細については、第 82 章「ジョブのスケジュール」を参照してください。  
ログ ファイルの詳細については、「BAT ログ ファイル」(P.83-3) を参照してください。

## インターコムの DN を更新する場合のフィールドの説明

表 47-1 では、回線の詳細を更新する場合のフィールドについて説明します。

表 47-1 インターコムの DN の詳細を更新する場合のフィールドの説明

| フィールド                                                         | 説明                                                                                                                                                                  |
|---------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <b>[インターコム電話番号情報 (Intercom Directory Number Information)]</b> |                                                                                                                                                                     |
| [ルートパーティション (Route Partition)]                                | 電話番号が属するルートパーティションを選択します。<br>(注) 電話番号は複数のパーティションに現れる可能性があります。                                                                                                       |
| [説明 (Description)]                                            | デバイスを識別しやすくする説明を入力します。                                                                                                                                              |
| [呼び出し表示 (Alerting Name)]                                      | 共有電話番号に対するアラート中に表示される名前を表します。非共有電話番号の場合、アラート時には [表示 (Display)] フィールドに入力された名前が使用されます。                                                                                |
| [ASCII 呼び出し表示 (ASCII Alerting Name)]                          | このフィールドには、[呼び出し表示 (Alerting Name)] フィールドと同じ情報が表示されますが、入力を ASCII 文字に制限する必要があります。Unicode (国際化) 文字をサポートしないデバイスでは、[ASCII 呼び出し表示 (ASCII Alerting Name)] フィールドの内容が表示されます。 |

表 47-1 インターコムの DN の詳細を更新する場合のフィールドの説明

| フィールド                                                       | 説明                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                  |
|-------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <b>[インターコム電話番号の設定 (Intercom Directory Number Settings)]</b> |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                     |
| [コーリングサーチスペース (Calling Search Space)]                       | <p>このグループの UDP またはポートが属するコーリングサーチスペースを選択します。</p> <p>コーリングサーチスペースは、ルートパーティションの集合を指定するものです。ルートパーティションの集合は、ダイヤルされた番号のルーティング方法を決定するために検索されます。</p>                                                                                                                                                                                                                                       |
| [プレゼンスグループ (Presence Group)]                                | <p>プレゼンス機能で使用すると、SIP デバイスまたは SCCP デバイスは、BLF スピードダイヤル ボタンとしてデバイスに設定されたプレゼンス エンティティに関するステータス（たとえば、電話番号）を要求するので、ウォッチャーとして機能します。</p> <p>デバイスによってプレゼンス エンティティのステータスを受信するには、電話番号に適用されるプレゼンスグループのステータスを [プレゼンスグループの設定 (Presence Group Configuration)] ウィンドウに示されるとおり表示するよう許可されているプレゼンスグループを選択します。</p> <p>プレゼンス機能の詳細については、『Cisco Unified Communications Manager 機能およびサービス ガイド』を参照してください。</p> |

**追加情報**

「関連項目」(P.47-4) を参照してください。

**関連項目**

- 「インターコムの DN の更新」(P.47-1)
- 「インターコムの DN の追加」(P.47-2)
- 「インターコムの DN を更新する場合のフィールドの説明」(P.47-3)



## **PART 8**

### **ゲートウェイ**





## CHAPTER 48

# ゲートウェイ テンプレート

Cisco Unified Communications Manager 一括管理 (BAT) を使用すると、複数のシスコのゲートウェイとそのポートを、Cisco Unified Communications Manager データベースに一括して設定できます。各ゲートウェイとポートを個々に追加する必要はありません。

次のトピックでは、これらのタスクの情報と手順について説明します。

- 「シスコのゲートウェイの追加」 (P.48-1)
- 「ゲートウェイ テンプレートの検索」 (P.48-3)
- 「ゲートウェイ テンプレートの追加または編集」 (P.48-5)
- 「ゲートウェイの設定」 (P.48-15)
- 「ポートの設定」 (P.48-47)
- 「シスコのゲートウェイの削除」 (P.51-1)
- 「シスコのゲートウェイのレポートの生成」 (P.52-1)

## シスコのゲートウェイの追加

BAT を使用してシスコの次のゲートウェイを Cisco Unified Communications Manager データベースに追加できます。

- 「VG200 ゲートウェイの追加」 (P.48-1)
- 「Cisco Catalyst 6000 (FXS) ゲートウェイおよびポートの追加」 (P.48-2)
- 「VG224 ゲートウェイの追加」 (P.48-2)
- 「VG202 および VG204 ゲートウェイの追加」 (P.48-3)

### VG200 ゲートウェイの追加

VG200 ゲートウェイを追加する前に、まず Cisco IOS ソフトウェア コマンドライン インターフェイス (CLI) を使用してゲートウェイを設定する必要があります。ゲートウェイの設定手順とコマンドについては、ゲートウェイに付属している設定マニュアルを参照してください。

BAT を使用して Cisco Unified Communications Manager データベースに Cisco VG200 ゲートウェイを追加するときに、次のタイプのトランクまたはポートを設定できます。

- アナログ デバイス用の FXS ポート
- ループスタートまたはグラウンドスタートのトランク用の Foreign Exchange Office (FXO)
- 北米における ISDN サービス用の T1 PRI (Primary Rate Interface; 1 次群速度インターフェイス) トランク：現在は Cisco VG200 ゲートウェイにのみ使用できます。

- ヨーロッパにおける ISDN サービス用の E1 PRI トランク:現在は Cisco VG200 ゲートウェイにのみ使用できます。
- デジタル アクセス T1 プロトコル トランク

Cisco VG200 ゲートウェイを Cisco Unified Communications Manager に追加する手順は、次のとおりです。

1. Cisco VG200 Gateway テンプレートを作成して、ゲートウェイとポートのセットに共通の値を定義します。詳細については、「[Cisco VG200 ゲートウェイ テンプレートの作成](#)」(P.48-5) を参照してください。
2. CSV データ ファイルを作成して、追加するゲートウェイとポートごとに個々の値を定義します。詳細については、「[Cisco VG200 ゲートウェイ用 CSV データ ファイルの作成](#)」(P.50-1) を参照してください。
3. ゲートウェイとポートを Cisco Unified Communications Manager データベースに追加します。詳細については、「[Cisco Unified Communications Manager へのゲートウェイの挿入](#)」(P.50-9) を参照してください。

### Cisco Catalyst 6000 (FXS) ゲートウェイおよびポートの追加

Cisco Catalyst 6000 (FXS) ゲートウェイおよびポートを Cisco Unified Communications Manager に挿入する手順は、次のとおりです。

1. Cisco Catalyst 6000 (FXS) ゲートウェイ テンプレートを作成します。詳細については、「[Cisco Catalyst 6000 \(FXS\) ゲートウェイ テンプレートの作成](#)」(P.48-10) を参照してください。
2. FXS ポートのセットに共通の値を定義するために、Cisco Catalyst 6000 (FXS) ポート テンプレートを作成します。詳細については、「[FXS/FXO ポート設定のフィールドの説明](#)」(P.48-22) を参照してください。
3. 追加する FXS ポート用に個々の値を定義するために、CSV データ ファイルを作成します。詳細については、「[Cisco Catalyst 6000 \(FXS\) ポート用 CSV データ ファイルの作成](#)」(P.50-3) を参照してください。
4. FXS ポートを Cisco Unified Communications Manager データベースに追加します。「[Cisco Unified Communications Manager へのゲートウェイの挿入](#)」(P.50-9) を参照してください。

BAT を使用してアナログ インターフェイス モジュール用に FXS ポートを追加する前に、次のタスクを実行して Cisco Catalyst 6000 ゲートウェイをインストールする必要があります。

1. Cisco IOS ソフトウェアのコマンドライン インターフェイスを使用して、ゲートウェイを設定します。設定方法については、ゲートウェイに付属しているマニュアルを参照してください。
2. Cisco Unified Communications Manager データベースに Cisco Catalyst 6000 ゲートウェイを追加するには Cisco Unified Communications Manager の管理ページを使用します。Cisco Unified Communications Manager の管理ページで、[デバイス (Device)] > [ゲートウェイ (Gateway)] の順に選択し、[新規追加 (Add New)] をクリックします。Cisco Catalyst 6000 24 Port FXS Gateway とデバイス プロトコルを選択して、[次へ (Next)] をクリックします。詳細については、『[Cisco Unified Communications Manager アドミニストレーション ガイド](#)』を参照してください。

BAT を使用して、アナログ デバイス用に、FXS ポートを Cisco Catalyst 6000 (FXS) アナログ インターフェイス モジュールに追加できます。Gateway Directory Number テンプレートを設定して、これらの FXS ポートおよび Catalyst 6000 (FXS) ポート テンプレートに関連付けしてから、これらのポートを Cisco Unified Communications Manager データベースに追加する必要があります。

### VG224 ゲートウェイの追加

VG224 ゲートウェイを追加する前に、まず Cisco IOS ソフトウェア コマンドライン インターフェイス (CLI) を使用してゲートウェイを設定する必要があります。ゲートウェイの設定手順とコマンドについては、ゲートウェイに付属している設定マニュアルを参照してください。

BAT を使用して Cisco Unified Communications Manager データベースに Cisco VG224 ゲートウェイを追加するときに、次のタイプのトランクまたはポートを設定できます。

- アナログ デバイス用の FXS ポート

Cisco VG224 ゲートウェイを Cisco Unified Communications Manager に追加する手順は、次のとおりです。

1. Cisco VG224 Gateway テンプレートを作成して、ゲートウェイとポートのセットに共通の値を定義します。詳細については、「[Cisco VG224 ゲートウェイ テンプレートの作成](#)」(P.48-11) を参照してください。
2. CSV データ ファイルを作成して、追加するゲートウェイとポートごとに個々の値を定義します。詳細については、「[Cisco VG224 ゲートウェイ用 CSV データ ファイルの作成](#)」(P.50-4) を参照してください。
3. ゲートウェイとポートを Cisco Unified Communications Manager データベースに追加します。詳細については、「[Cisco Unified Communications Manager へのゲートウェイの挿入](#)」(P.50-9) を参照してください。

### VG202 および VG204 ゲートウェイの追加

VG202 または VG204 ゲートウェイを追加する前に、まず Cisco IOS ソフトウェア コマンドライン インターフェイス (CLI) を使用してゲートウェイを設定する必要があります。ゲートウェイの設定手順とコマンドについては、ゲートウェイに付属している設定マニュアルを参照してください。

Cisco VG202 または VG204 ゲートウェイおよびポートを Cisco Unified Communications Manager に挿入する手順は、次のとおりです。

1. Cisco VG224 Gateway テンプレートを作成して、ゲートウェイとポートのセットに共通の値を定義します。詳細については、「[Cisco VG202 または VG204 ゲートウェイ テンプレートの作成](#)」(P.48-13) を参照してください。
2. CSV データ ファイルを作成して、追加するゲートウェイとポートごとに個々の値を定義します。詳細については、「[Cisco VG202 および VG204 ゲートウェイ用 CSV データ ファイルの作成](#)」(P.50-6) を参照してください。
3. ゲートウェイとポートを Cisco Unified Communications Manager データベースに追加します。詳細については、「[Cisco Unified Communications Manager へのゲートウェイの挿入](#)」(P.50-9) を参照してください。

### 追加情報

「[関連項目](#)」(P.48-52) を参照してください。

## ゲートウェイ テンプレートの検索

複数のゲートウェイ テンプレートに対応できるように、Cisco Unified Communications Manager では、特定の条件に基づいて特定のテンプレートを見つけることができます。テンプレートを見つける手順は、次のとおりです。



(注)

ブラウザセッションの作業中、検索/一覧表示の検索プリファレンスはクライアント マシンのクッキーに格納されます。別のメニュー項目に移動してからこのメニュー項目に戻った場合、またはブラウザを閉じてから新しいブラウザ ウィンドウを再度開いた場合、検索を変更するまで Cisco Unified Communications Manager 検索プリファレンスが維持されます。

## 手順

**ステップ 1** [一括管理(Bulk Administration)] > [ゲートウェイ (Gateways)] > [ゲートウェイテンプレート (Gateway Template)] の順に選択します。

[ゲートウェイテンプレートの検索と一覧表示 (Find and List Gateway Template)] ウィンドウが表示されます。

**ステップ 2** 最初の [検索対象: ゲートウェイ、検索条件 (Find Gateways where)] ドロップダウン リスト ボックスで、次のいずれかの検索条件を選択します。

- [名前 (Name)]
- [説明 (Description)]
- [DN/ ルートパターン (DN/Route Pattern)]
- [コーリングサーチスペース (Calling Search Space)]
- [デバイスプール (Device Pool)]
- [ルートグループ名 (Route Group Name)]
- [デバイスタイプ (Device Type)]

**ステップ 3** 2 番目の [検索対象: ゲートウェイ、検索条件 (Find Gateways where)] ドロップダウン リスト ボックスで、次のいずれかの検索条件を選択します。

- [が次の文字列で始まる (begins with)]
- [が次の文字列を含む (contains)]
- [が次の文字列と等しい (is exactly)]
- [が次の文字列で終わる (ends with)]
- [が空である (is empty)]
- [が空ではない (is not empty)]

**ステップ 4** 必要に応じて、適切な検索テキストを指定します。



**ヒント** データベースに登録されたすべてのゲートウェイを検索するには、検索テキストを入力せずに [検索 (Find)] をクリックします。

**ステップ 5** 3 番目のドロップダウン リスト ボックスから、[表示 (Show)] を選択してゲートウェイに関連付けられたエンドポイントを表示し、[検索 (Find)] をクリックします。

検索されたテンプレートのリストが、次の項目別に表示されます。

- [デバイス名 (Device Name)]
- [説明 (Description)]
- [デバイスプール (Device Pool)]
- [ステータス (Status)]
- [IP アドレス (IP Address)]

**ステップ 6** レコードのリストから、検索条件に一致するデバイス名をクリックします。

[ゲートウェイテンプレートの設定 (Gateway Template Configuration)] ウィンドウが表示されます。

### 追加情報

「関連項目」(P.48-52) を参照してください。

## ゲートウェイ テンプレートの追加または編集

新しい VG200、G202、VG 204、VG224、または Cisco Catalyst 6000 (FXS) ポート テンプレートを作成する手順は、次のとおりです。

### 手順

**ステップ 1** [一括管理(Bulk Administration)]>[ゲートウェイ (Gateways)]>[ゲートウェイテンプレート (Gateway Template)] の順に選択します。[ゲートウェイテンプレートの検索と一覧表示 (Find and List Gateway Template)] ウィンドウが表示されます。

- 既存のゲートウェイ テンプレートを編集する場合は、「ゲートウェイ テンプレートの検索」(P.48-3) を参照し、編集するゲートウェイを選択します。  
「VG200 ゲートウェイ テンプレートのフィールドの説明」(P.48-15)、「VG224 ゲートウェイ テンプレートのフィールドの説明」(P.48-16)、「VG202 および VG204 ゲートウェイ テンプレートのフィールドの説明」(P.48-17)、および「Cisco Catalyst 24 Port FXS Gateway テンプレートのフィールドの説明」(P.48-18) を参照してください。
- 新しいゲートウェイを追加するには、[新規追加 (Add New)] をクリックします。[新規ゲートウェイテンプレートを追加 (Add a new Gateway Template)] ウィンドウが表示されます。

**ステップ 2** 次のいずれかの手順を完了します。

- VG200 テンプレートを作成する場合は、「Cisco VG200 ゲートウェイ テンプレートの作成」(P.48-5) を参照してください。
- Cisco Catalyst 6000 (FXS) ポート テンプレートを作成する場合は、「Cisco Catalyst 6000 (FXS) ゲートウェイ テンプレートの作成」(P.48-10) を参照してください。
- VG224 テンプレートを作成する場合は、「Cisco VG224 ゲートウェイ テンプレートの作成」(P.48-11) を参照してください。
- VG202 または VG204 テンプレートを作成する場合は、「Cisco VG202 または VG204 ゲートウェイ テンプレートの作成」(P.48-13) を参照してください。

## Cisco VG200 ゲートウェイ テンプレートの作成

Cisco VG200 テンプレートを作成してから、ネットワーク モジュール用のエンドポイント識別子を追加します。

次のエンドポイント識別子の設定には BAT テンプレートを使用する必要があります。

- FXS ポート
- FXO トランク
- T1 PRI トランク
- E1 PRI トランク
- T1 CAS トランク

VG200 Gateway テンプレートを追加する手順は、次のとおりです。

## 手順

- ステップ 1** [一括管理 (Bulk Administration)] > [ゲートウェイ (Gateways)] > [ゲートウェイテンプレート (Gateway Template)] の順に選択します。
- [ゲートウェイテンプレートの検索と一覧表示 (Find and List Gateway Template)] ウィンドウが表示されます。
- ステップ 2** [新規追加 (Add New)] をクリックします。[新規ゲートウェイテンプレートを追加 (Add a new Gateway Template)] ウィンドウが表示されます。
- ステップ 3** [ゲートウェイタイプ (Gateway Type)] ドロップダウン リスト ボックスから、Cisco VG200 を選択し、[次へ (Next)] をクリックします。[ゲートウェイテンプレートの設定 (Gateway Template Configuration)] ウィンドウが表示されます。
- ステップ 4** すべてのフィールドに値を入力します。詳細については、「[VG200 ゲートウェイ テンプレートのフィールドの説明 \(P.48-15\)](#)」を参照してください。
- ステップ 5** [保存 (Save)] をクリックします。挿入が完了すると、新しいフィールドがペインに表示されます。
- ステップ 6** [Subunit] フィールドで、次の各サブユニット フィールドに適切なタイプを選択します。
- [VIC-2FXS] : FXS 音声インターフェイス カード
  - [VIC-2FXO] : FXO 音声インターフェイス カード
  - [VWIC-1MFT-T1] : T1 CAS または T1 PRI 用のエンドポイントを 1 つ備えた音声 WAN インターフェイス カード
  - [VWIC-2MFT-T1] : T1 CAS または T1 PRI 用のエンドポイントを 2 つ備えた音声 WAN インターフェイス カード
  - [VWIC-1MFT-E1] : E1 PRI 用のエンドポイントを 1 つ備えた音声 WAN インターフェイス カード
  - [VWIC-2MFT-E1] : E1 PRI 用のエンドポイントを 2 つ備えた音声 WAN インターフェイス カード
- ステップ 7** [保存 (Save)] をクリックします。更新が完了したことが [ステータス (Status)] によって示されると、[Subunit 0] ドロップダウン リスト ボックスの右側にエンドポイント識別子がリンクとして表示されます。
- ステップ 8** エンドポイント識別子 (たとえば、1/0/0) をクリックし、デバイス プロトコル情報を設定し、インストールした VIC タイプのポートを追加します。
- 詳細な手順については、次の項を参照してください。
- 「[VG200 ゲートウェイ テンプレートへの FXS ポートの追加 \(P.48-7\)](#)」
  - 「[VG200 ゲートウェイ テンプレートへの FXO ポートの追加 \(P.48-8\)](#)」
  - 「[VG200 ゲートウェイ テンプレートへのデジタル アクセス T1 \(T1-CAS\) ポートの追加 \(P.48-9\)](#)」
  - 「[VG200 ゲートウェイ テンプレートへの T1 PRI または E1 PRI デバイスの追加 \(P.48-9\)](#)」
- ステップ 9** ゲートウェイをリセットし、変更を適用するには、[リセット (Reset)] をクリックします。
- ステップ 10** 必要に応じて、エンドポイント情報とポートの設定を続行します。

## VG200 ゲートウェイ テンプレートへのポートの追加

VG200 ゲートウェイに関して設定できるデバイス プロトコルおよびポート タイプは、インストールされた音声インターフェイスによって異なります。この項では、次の手順について説明します。

- 「[VG200 ゲートウェイ テンプレートへの FXS ポートの追加](#)」 (P.48-7)
- 「[VG200 ゲートウェイ テンプレートへの FXO ポートの追加](#)」 (P.48-8)
- 「[VG200 ゲートウェイ テンプレートへのデジタル アクセス T1 \(T1-CAS\) ポートの追加](#)」 (P.48-9)
- 「[VG200 ゲートウェイ テンプレートへの T1 PRI または E1 PRI デバイスの追加](#)」 (P.48-9)

## VG200 ゲートウェイ テンプレートへの FXS ポートの追加

FXS (Foreign Exchange Station) ポートを使用すると、POTS デバイスに接続できます。VG200 ゲートウェイ テンプレートに FXS ポートを追加する手順は、次のとおりです。

### 始める前に

ポートを設定する前に、VG200 ゲートウェイ テンプレートを追加する必要があります。手順については、「[Cisco VG200 ゲートウェイ テンプレートの作成](#)」 (P.48-5) を参照してください。

### 手順

- 
- ステップ 1** FXS ポートを追加するゲートウェイ テンプレートを検索するには、「[ゲートウェイ テンプレートの検索](#)」 (P.48-3) を参照します。
- ステップ 2** [ゲートウェイテンプレートの設定 (Gateway Template Configuration)] ウィンドウから、設定する FXS VIC のエンドポイント識別子をクリックします。
- ウィンドウが更新され、[ゲートウェイテンプレートの設定 (Gateway Template Configuration)] ウィンドウにエンドポイントのアイコンが表示されます。
- ステップ 3** 適切な [ゲートウェイ情報 (Gateway Information)] と [ポート情報 (Port Information)] の設定値を入力します。該当するフィールドの詳細については、次の項を参照してください。
- 「[FXS/FXO ポート設定のフィールドの説明](#)」 (P.48-22)
  - 「[POTS ポートの設定](#)」 (P.48-48)
- ステップ 4** [保存 (Save)] をクリックします。
- 
-  **(注)** POTS ポートを挿入すると、ウィンドウが更新され、ウィンドウの下部に POTS ポート情報が表示されます。左側のパネルの [電話番号情報 (Directory Number Information)] 領域に、[新規 DN を追加 (Add a new DN)] リンクが表示されます。
- 
- ステップ 5** [新規 DN を追加 (Add a new DN)] をクリックして POTS ポートに電話番号を追加するか、[ステップ 7](#) に進んで別のポート タイプを設定します。
- 
-  **(注)** DN の追加と設定の詳細については、「[BAT テンプレートにおける回線の追加または更新](#)」 (P.3-5) を参照してください。
-

- ステップ 6** ポートを追加する VG200 ゲートウェイの [ゲートウェイテンプレートの設定 (Gateway Template Configuration)] メイン ウィンドウに戻るには、[関連リンク (Related Links)] ドロップダウン リスト ボックスで [MGCP 設定に戻る (Back to MGCP Configuration)] を選択し、[移動 (Go)] をクリックします。
- ステップ 7** ゲートウェイをリセットし、変更を適用するには、[リセット (Reset)] をクリックします。
- ステップ 8** その他の FXS ポートを追加する場合は、[ステップ 2](#)～[ステップ 6](#) を繰り返します。

#### 追加情報

「[関連項目](#)」(P.48-52) を参照してください。

## VG200 ゲートウェイ テンプレートへの FXO ポートの追加

FXO (Foreign Exchange Office) ポートを使用すると、セントラル オフィスまたは PBX に接続できます。VG200 ゲートウェイ テンプレートにループスタートまたはグラウンドスタート用の FXO ポートを追加し、設定する手順は、次のとおりです。



- (注)** Cisco Unified Communications Manager は、すべてのループスタート トランクには確実な接続解除監視がないと想定しています。確実な接続解除監視を伴うトランクをグラウンドスタートとして設定し、Cisco Unified Communications Manager サーバがフェールオーバー中にアクティブなコールを保持できるようにします。

#### 始める前に

ポートを設定する前に、VG200 ゲートウェイ テンプレートを追加する必要があります。手順については、「[Cisco VG200 ゲートウェイ テンプレートの作成](#)」(P.48-5) を参照してください。

#### 手順

- ステップ 1** FXO ポートを追加するゲートウェイ テンプレートを検索するには、「[ゲートウェイ テンプレートの検索](#)」(P.48-3) を参照します。
- ステップ 2** [ゲートウェイテンプレートの設定 (Gateway Template Configuration)] ウィンドウから、設定する FXO ポートのエンドポイント識別子をクリックします。
- ステップ 3** [ポートタイプ (Port Type)] ドロップダウン リスト ボックスから、[Ground Start] または [Loop Start] のいずれかを選択します。



- (注)** VIC-2FXO ポートの両方のエンドポイント識別子として同じポート タイプを選択する必要があります。異なるポート タイプを選択すると、メッセージが表示されます。

- ステップ 4** 「[FXS/FXO ポート設定のフィールドの説明](#)」(P.48-22) に示す適切な [ゲートウェイの設定 (Gateway Configuration)] と [ポート情報 (Port Information)] の設定値を入力します。
- ステップ 5** [保存 (Save)] をクリックします。
- ステップ 6** ポートを追加するゲートウェイ用の VG200 ゲートウェイ設定のメイン ウィンドウに戻るには、[関連リンク (Related Links)] ドロップダウン リスト ボックスで [MGCP 設定に戻る (Back to MGCP Configuration)] を選択し、[移動 (Go)] をクリックします。

- ステップ 7** ゲートウェイをリセットし、変更を適用するには、[リセット (Reset)] をクリックします。
- ステップ 8** 他の FXO ポートを追加するには、[ステップ 2](#) ～[ステップ 5](#) を繰り返します。

#### 追加情報

「[関連項目](#)」(P.48-52) を参照してください。

## VG200 ゲートウェイ テンプレートへのデジタル アクセス T1 (T1-CAS) ポートの追加

VG200 ゲートウェイにデジタル アクセス T1 (T1-CAS) ポートを追加する手順は、次のとおりです。

- ステップ 1** デジタル アクセス T1 (T1-CAS) ポートを追加するゲートウェイ テンプレートを検索するには、[「ゲートウェイ テンプレートの検索」](#) (P.48-3) を参照します。
- ステップ 2** [ゲートウェイテンプレートの設定 (Gateway Template Configuration)] ウィンドウから、設定するデジタル アクセス T1 (T1-CAS) ポートのエンドポイント識別子をクリックします。
- 表示される [デバイスプロトコル (Device Protocol)] ドロップダウン リスト ボックスから、[デジタル アクセス T1] を選択し、[次へ (Next)] をクリックします。
- ステップ 3** 適切なゲートウェイ設定を入力します。詳細については、[「Cisco VG200 ゲートウェイ テンプレート上のデジタル アクセス T1 トランクのフィールドの説明」](#) (P.48-29) を参照してください。
- ステップ 4** [保存 (Save)] をクリックします。
- ステップ 5** ゲートウェイをリセットし、変更を適用するには、[リセット (Reset)] をクリックします。
- ステップ 6** 選択したポート タイプの適切な設定値については、[「ポートの設定」](#) (P.48-47) を参照してください。

#### 追加情報

「[関連項目](#)」(P.48-52) を参照してください。

## VG200 ゲートウェイ テンプレートへの T1 PRI または E1 PRI デバイスの追加

- ステップ 1** T1 PRI ポートまたは E1 PRI ポートを追加するゲートウェイ テンプレートを検索するには、[「ゲートウェイ テンプレートの検索」](#) (P.48-3) を参照します。
- ステップ 2** [ゲートウェイテンプレートの設定 (Gateway Template Configuration)] ウィンドウから、設定する T1 PRI または E1 PRI ポートのエンドポイント識別子をクリックします。
- ステップ 3** T1 PRI または E1 PRI デバイス プロトコルの設定値を設定します。詳細なフィールドの説明は、[「Cisco VG200 ゲートウェイ テンプレート上の T1 PRI トランクまたは E1 PRI トランクのフィールドの説明」](#) (P.48-33) を参照してください。
- ステップ 4** [保存 (Save)] をクリックします。
- ステップ 5** ゲートウェイをリセットし、変更を適用するには、[リセット (Reset)] をクリックします。

#### 追加情報

「[関連項目](#)」(P.48-52) を参照してください。

## Cisco Catalyst 6000 (FXS) ゲートウェイ テンプレートの作成

Cisco Catalyst 6000 FXS ゲートウェイ テンプレートを作成する手順は、次のとおりです。注釈がない限り、すべてのフィールドに入力する必要があります。

- 
- ステップ 1** [一括管理 (Bulk Administration)] > [ゲートウェイ (Gateways)] > [ゲートウェイテンプレート (Gateway Template)] の順に選択します。
- [ゲートウェイテンプレートの検索と一覧表示 (Find and List Gateway Template)] ウィンドウが表示されます。
- ステップ 2** [新規追加 (Add New)] をクリックします。[新規ゲートウェイテンプレートを追加 (Add a new Gateway Template)] ウィンドウが表示されます。
- ステップ 3** [ゲートウェイタイプ (Gateway Type)] ドロップダウン リスト ボックスから、[Cisco Catalyst 6000 24 port FXS Gateway] を選択します。[ゲートウェイテンプレートの設定 (Gateway Template Configuration)] ウィンドウが表示されます。
- ステップ 4** [テンプレート名 (Template Name)] フィールドに、このテンプレートの固有の名前を入力します。
- ステップ 5** フィールドに設定値を入力します。詳細については、「[Cisco Catalyst 24 Port FXS Gateway テンプレートのフィールドの説明](#)」(P.48-18) を参照してください。
- ステップ 6** [保存 (Save)] をクリックします。
- ステップ 7** [新規ポートを追加 (Add a New Port)] をクリックします。
- 別のウィンドウに、ポート設定のダイアログが開きます。
- ステップ 8** ドロップダウン リスト ボックスから、設定するゲートウェイ モデルに基づくポート タイプとして [POTS] を選択します。
- ステップ 9** 「[POTS ポートの設定](#)」(P.48-48) の説明に従って、適切なポート設定を入力します。
- ステップ 10** [保存 (Save)] をクリックします。
- POTS ポートを挿入すると、ウィンドウが更新され、ウィンドウの左側のリストに POTS ポート情報が表示されます。新しいポートの右に、[DN の追加 (Add DN)] リンクが表示されます。
- ステップ 11** FXS ポートに電話番号を追加するには、[DN の追加 (Add DN)] をクリックします。
- 電話番号の追加と設定については、「[BAT テンプレートにおける回線の追加または更新](#)」(P.3-5) を参照してください。
- ステップ 12** [保存 (Save)] をクリックします。更新が完了したことが [ステータス (Status)] に示されると、[ゲートウェイテンプレートの検索と一覧表示 (Find and List Gateway Template)] ウィンドウにテンプレートが表示されます。[ゲートウェイテンプレートの検索と一覧表示 (Find and List Gateway Template)] ウィンドウに戻るには、ウィンドウの右上隅にある [関連リンク (Related Links)] ドロップダウン リスト ボックスから、[検索/リストに戻る (Back To Find/List)] を選択します。
-

## Cisco VG224 ゲートウェイ テンプレートの作成

Cisco VG224 テンプレートを作成してから、ネットワーク モジュール用のエンドポイント識別子を追加します。

次のエンドポイント識別子の設定には BAT テンプレートを使用する必要があります。

- FXS ポート

### 始める前に

VG224 Gateway テンプレートを追加する手順は、次のとおりです。

### 手順

- ステップ 1** [一括管理(Bulk Administration)]>[ゲートウェイ (Gateways)]>[ゲートウェイテンプレート (Gateway Template)] の順に選択します。  
[ゲートウェイテンプレートの検索と一覧表示 (Find and List Gateway Template)] ウィンドウが表示されます。
- ステップ 2** [新規追加 (Add New)] をクリックします。[新規ゲートウェイテンプレートを追加 (Add a new Gateway Template)] ウィンドウが表示されます。
- ステップ 3** [ゲートウェイタイプ (Gateway Type)] ドロップダウン リスト ボックスから、Cisco VG224 を選択し、[次へ (Next)] をクリックします。次の [新規ゲートウェイテンプレートを追加 (Add a new Gateway Template)] ウィンドウが表示されます。
- ステップ 4** [プロトコル (Protocol)] ドロップダウン リスト ボックスから、MGCP または SCCP を選択し、[次へ (Next)] をクリックします。[ゲートウェイテンプレートの設定 (Gateway Template Configuration)] ウィンドウが表示されます。
- ステップ 5** すべてのフィールドに値を入力します。詳細については、「[VG224 ゲートウェイ テンプレートのフィールドの説明](#)」(P.48-16) を参照してください。
- ステップ 6** [保存 (Save)] をクリックします。挿入が完了すると、新しいフィールドがペインに表示されます。
- ステップ 7** [Subunit 0] フィールドで、サブユニット フィールドに適切なタイプをドロップダウン リスト ボックスから選択します。
  - [VIC-2FXS] : FXS 音声インターフェイス カード
- ステップ 8** [保存 (Save)] をクリックします。更新が完了したことが [ステータス (Status)] によって示されると、[Subunit 0] ドロップダウン リスト ボックスの右側にエンドポイント識別子がリンクとして表示されます。
- ステップ 9** エンドポイント識別子 (たとえば、1/0/0) をクリックし、デバイス プロトコル情報を設定し、インストールした VIC タイプのポートを追加します。  
詳細な手順については、次の項を参照してください。
  - 「[VG224 ゲートウェイ テンプレートへの FXS ポートの追加](#)」(P.48-12)
- ステップ 10** ゲートウェイをリセットし、変更を適用するには、[リセット (Reset)] をクリックします。
- ステップ 11** 必要に応じて、エンドポイント情報とポートの設定を続行します。

## VG224 ゲートウェイ テンプレートへの FXS ポートの追加

FXS (Foreign Exchange Station) ポートを使用すると、POTS デバイ스에接続できます。VG224 ゲートウェイ テンプレートに FXS ポートを追加する手順は、次のとおりです。

### 始める前に

ポートを設定する前に、VG224 ゲートウェイ テンプレートを追加する必要があります。手順については、「[Cisco VG224 ゲートウェイ テンプレートの作成](#)」(P.48-11) を参照してください。

### 手順

- 
- ステップ 1** FXS ポートを追加するゲートウェイ テンプレートを検索するには、「[ゲートウェイ テンプレートの検索](#)」(P.48-3) を参照します。
- ステップ 2** [ゲートウェイテンプレートの設定 (Gateway Template Configuration)] ウィンドウから、設定する FXS VIC のエンドポイント識別子をクリックします。
- ウィンドウが更新され、[ゲートウェイテンプレートの設定 (Gateway Template Configuration)] ウィンドウにエンドポイントのアイコンが表示されます。
- ステップ 3** 適切な [ゲートウェイ情報 (Gateway Information)] と [ポート情報 (Port Information)] の設定値を入力します。該当するフィールドの詳細については、次の項を参照してください。
- 「[FXS/FXO ポート設定のフィールドの説明](#)」(P.48-22)
  - 「[POTS ポートの設定](#)」(P.48-48)
- ステップ 4** [保存 (Save)] をクリックします。
- 
-  **(注)** POTS ポートを挿入すると、ウィンドウが更新され、ウィンドウの下部に POTS ポート情報が表示されます。左側のパネルの [電話番号情報 (Directory Number Information)] 領域に、[新規 DN を追加 (Add a new DN)] リンクが表示されます。
- 
- ステップ 5** [新規 DN を追加 (Add a new DN)] をクリックして POTS ポートに電話番号を追加するか、[ステップ 7](#) に進んで別のポート タイプを設定します。
- 
-  **(注)** DN の追加と設定の詳細については、「[BAT テンプレートにおける回線の追加または更新](#)」(P.3-5) を参照してください。
- 
- ステップ 6** ポートを追加する VG224 ゲートウェイの [ゲートウェイテンプレートの設定 (Gateway Template Configuration)] メイン ウィンドウに戻るには、[関連リンク (Related Links)] ドロップダウンリストボックスで [MGCP 設定に戻る (Back to MGCP Configuration)] を選択し、[移動 (Go)] をクリックします。
- ステップ 7** ゲートウェイをリセットし、変更を適用するには、[リセット (Reset)] をクリックします。
- ステップ 8** その他の FXS ポートを追加する場合は、[ステップ 2](#) ~ [ステップ 6](#) を繰り返します。
-

## Cisco VG202 または VG204 ゲートウェイ テンプレートの作成

Cisco VG202 または VG204 テンプレートを作成してから、ネットワーク モジュール用のエンドポイント識別子を追加します。

次のエンドポイント識別子の設定には BAT テンプレートを使用する必要があります。

- FXS ポート

VG202 または VG204 ゲートウェイ テンプレートを追加する手順は、次のとおりです。

### 手順

- 
- ステップ 1** [一括管理(Bulk Administration)]>[ゲートウェイ (Gateways)]>[ゲートウェイテンプレート (Gateway Template)] の順に選択します。  
[ゲートウェイテンプレートの検索と一覧表示 (Find and List Gateway Template)] ウィンドウが表示されます。
  - ステップ 2** [新規追加 (Add New)] をクリックします。[新規ゲートウェイテンプレートを追加 (Add a new Gateway Template)] ウィンドウが表示されます。
  - ステップ 3** [ゲートウェイタイプ (Gateway Type)] ドロップダウンリスト ボックスから、Cisco VG202 または VG204 を選択し、[次へ (Next)] をクリックします。次の [新規ゲートウェイテンプレートを追加 (Add a new Gateway Template)] ウィンドウが表示されます。
  - ステップ 4** [プロトコル (Protocol)] ドロップダウン リスト ボックスから、MGCP または SCCP を選択し、[次へ (Next)] をクリックします。[ゲートウェイテンプレートの設定 (Gateway Template Configuration)] ウィンドウが表示されます。
  - ステップ 5** すべてのフィールドに値を入力します。詳細については、「[VG202 および VG204 ゲートウェイ テンプレートのフィールドの説明](#)」(P.48-17) を参照してください。
  - ステップ 6** [保存 (Save)] をクリックします。挿入が完了すると、新しい [Subunit 0] フィールドがペインに表示されます。
  - ステップ 7** [Subunit 0] フィールドで、サブユニット フィールドに適切なタイプをドロップダウン リスト ボックスから選択します。
  - ステップ 8** [保存 (Save)] をクリックします。更新が完了したことが [ステータス (Status)] によって示されると、[Subunit 0] ドロップダウンリスト ボックスの右側にエンドポイント識別子がリンクとして表示されます。
  - ステップ 9** エンドポイント識別子 (たとえば、0/0) をクリックし、デバイス プロトコル情報を設定し、インストールした VIC タイプのポートを追加します。  
詳細な手順については、次の項を参照してください。
    - 「[VG202 または VG204 ゲートウェイ テンプレートへの FXS ポートの追加](#)」(P.48-14)
  - ステップ 10** ゲートウェイをリセットし、変更を適用するには、[リセット (Reset)] をクリックします。
  - ステップ 11** 必要に応じて、エンドポイント情報とポートの設定を続行します。
-

## VG202 または VG204 ゲートウェイ テンプレートへの FXS ポートの追加

FXS (Foreign Exchange Station) ポートを使用すると、POTS デバイスに接続できます。VG202 または VG204 ゲートウェイ テンプレートに FXS ポートを追加する手順は、次のとおりです。

### 始める前に

ポートを設定する前に、VG202 または VG204 ゲートウェイ テンプレートを追加する必要があります。手順については、「Cisco VG202 または VG204 ゲートウェイ テンプレートの作成」(P.48-13) を参照してください。

### 手順

- 
- ステップ 1** FXS ポートを追加するゲートウェイ テンプレートを検索するには、「[ゲートウェイ テンプレートの検索](#)」(P.48-3) を参照します。
- ステップ 2** [ゲートウェイテンプレートの設定 (Gateway Template Configuration)] ウィンドウから、設定する FXS VIC のエンドポイント識別子をクリックします。
- ウィンドウが更新され、[ゲートウェイテンプレートの設定 (Gateway Template Configuration)] ウィンドウにエンドポイントのアイコンが表示されます。
- ステップ 3** 適切な [ゲートウェイ情報 (Gateway Information)] と [ポート情報 (Port Information)] の設定値を入力します。該当するフィールドの詳細については、次の項を参照してください。
- 「[FXS/FXO ポート設定のフィールドの説明](#)」(P.48-22)
  - 「[POTS ポートの設定](#)」(P.48-48)
- ステップ 4** [保存 (Save)] をクリックします。
- 
-  **(注)** POTS ポートを挿入すると、ウィンドウが更新され、ウィンドウの下部に POTS ポート情報が表示されます。左側のペインの [電話番号情報 (Directory Number Information)] 領域に、[新規 DN を追加 (Add a new DN)] リンクが表示されます。
- 
- ステップ 5** [新規 DN を追加 (Add a new DN)] をクリックして POTS ポートに電話番号を追加するか、[ステップ 7](#) に進んで別のポート タイプを設定します。
- 
-  **(注)** DN の追加と設定の詳細については、「[BAT テンプレートにおける回線の追加または更新](#)」(P.3-5) を参照してください。
- 
- ステップ 6** ポートを追加する VG202 または VG204 ゲートウェイの [ゲートウェイテンプレートの設定 (Gateway Template Configuration)] メイン ウィンドウに戻るには、[関連リンク (Related Links)] ドロップダウン リスト ボックスで [MGCP 設定に戻る (Back to MGCP Configuration)] を選択し、[移動 (Go)] をクリックします (MGCP ゲートウェイを設定している場合)。
- ステップ 7** ゲートウェイをリセットし、変更を適用するには、[リセット (Reset)] をクリックします。
- ステップ 8** その他の FXS ポートを追加する場合は、[ステップ 2](#) ~ [ステップ 6](#) を繰り返します。
- 

### 追加情報

「[関連項目](#)」(P.48-52) を参照してください。

## ゲートウェイの設定

すべてのゲートウェイ設定フィールドの詳細な説明を示す表は、次の項を参照してください。

- 「VG200 ゲートウェイ テンプレートのフィールドの説明」 (P.48-15)
- 「VG224 ゲートウェイ テンプレートのフィールドの説明」 (P.48-16)
- 「VG202 および VG204 ゲートウェイ テンプレートのフィールドの説明」 (P.48-17)
- 「Cisco Catalyst 24 Port FXS Gateway テンプレートのフィールドの説明」 (P.48-18)
- 「FXS/FXO ポート設定のフィールドの説明」 (P.48-22)
- 「Cisco VG200 ゲートウェイ テンプレート上のデジタル アクセス T1 トランクのフィールドの説明」 (P.48-29)
- 「Cisco VG200 ゲートウェイ テンプレート上の T1 PRI トランクまたは E1 PRI トランクのフィールドの説明」 (P.48-33)

ポート設定の詳細については、「ポートの設定」 (P.48-47) を参照してください。

## VG200 ゲートウェイ テンプレートのフィールドの説明

表 48-1 に、VG200 ゲートウェイ テンプレート設定の詳細な説明があります。関連する手順については、「関連項目」 (P.48-52) を参照してください。

表 48-1 VG200 ゲートウェイの設定

| フィールド                                                                | 説明                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                              |
|----------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| [テンプレート名 (Template name)]                                            | Cisco VG200 ゲートウェイ テンプレートを識別する最大 64 文字の名前を入力します。                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                |
| [説明 (Description)]                                                   | デバイスの目的を明らかにする説明を入力します。                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                         |
| [Cisco Unified CM グループ (Cisco Unified Communications Manager Group)] | ドロップダウン リスト ボックスから、Cisco Unified Communications Manager 冗長グループを選択します。<br><br>Cisco Unified Communications Manager 冗長グループには、優先順位が指定された最大 3 つの Cisco Unified Communications Manager のリストが含まれます。リスト内の最初の Cisco Unified Communications Manager は、プライマリ Cisco Unified Communications Manager の役割を果たします。プライマリ Cisco Unified Communications Manager が使用できない場合または失敗する場合は、ゲートウェイがリスト内の次の Cisco Unified Communications Manager への接続を試みます。 |

### [設定済みのスロット、VIC およびエンドポイント (Configured Slots, VICs and Endpoints)]

(注) 一部の VIC の開始ポート番号を指定する必要があります。たとえば、Subunit 0 の VIC に 0 で開始される 2 つのポート (0 と 1) がある場合は、Subunit 1 の VIC は 1 より大きなポート番号 (2 と 3 または 4 と 5) で開始する必要があります。

(注) VG200 ゲートウェイにはスロットが 1 つだけあります。

表 48-1 VG200 ゲートウェイの設定 (続き)

| フィールド                                                | 説明                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                           |
|------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| [Module in Slot 1]                                   | <p>VG200 ゲートウェイで使用可能なスロットの場合は、次のモジュール タイプから選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• [NM-1V] : Network Module-1Voice には、Sub-Unit 0 に、FXS または FXO 用の 1 枚の音声インターフェイス カード (VIC) があります。</li> <li>• [NM-2V] : Network Module-2Voice には、FXS または FXO 用に、Sub-Unit 0 に 1 枚、Sub-Unit 1 に 1 枚、合計 2 枚の VIC があります。</li> <li>• [NM-HDV] : Network Module-High Density Voice には、T1 CAS、T1 PRI、または E1 PRI 用に、Sub-Unit 0 に 1 枚の VIC があります。</li> <li>• [None] : ネットワーク モジュールが取り付けられていません。</li> </ul> |
| <b>[プロダクト固有の設定 (Product Specific Configuration)]</b> |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                              |
| ゲートウェイの製造元が定義するモデル固有の設定フィールド                         | <p>[プロダクト固有の設定 (Product Specific Configuration)] ではモデル固有のフィールドが定義されています。これらのフィールドは動的に設定されるので、事前の通知なく変更されることがあります。</p> <p>フィールドの説明、およびプロダクト固有の設定項目のヘルプを表示するには、[プロダクト固有の設定 (Product Specific Configuration)] 見出しの右にある [?] 情報アイコンをクリックします。ポップアップ ダイアログボックスにヘルプが表示されます。</p> <p>詳細な情報が必要な場合は、設定するゲートウェイのマニュアルを参照するか、製造元に連絡してください。</p>                                                                                                                                                             |

## VG224 ゲートウェイ テンプレートのフィールドの説明

表 48-2 に、VG224 ゲートウェイ テンプレート設定の詳細な説明があります。関連する手順については、「関連項目」(P.48-52) を参照してください。

表 48-2 VG224 ゲートウェイの設定

| フィールド                                                                | 説明                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                     |
|----------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| [テンプレート名 (Template name)]                                            | Cisco VG224 ゲートウェイ テンプレートを識別する最大 64 文字の名前を入力します。                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                       |
| [説明 (Description)]                                                   | デバイスの目的を明らかにする説明を入力します。                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                |
| [Cisco Unified CM グループ (Cisco Unified Communications Manager Group)] | <p>ドロップダウン リスト ボックスから、Cisco Unified Communications Manager 冗長グループを選択します。</p> <p>Cisco Unified Communications Manager 冗長グループには、優先順位が指定された最大 3 つの Cisco Unified Communications Manager のリストが含まれます。リスト内の最初の Cisco Unified Communications Manager は、プライマリ Cisco Unified Communications Manager の役割を果たします。プライマリ Cisco Unified Communications Manager が使用できない場合または失敗する場合は、ゲートウェイがリスト内の次の Cisco Unified Communications Manager への接続を試みます。</p> |

表 48-2 VG224 ゲートウェイの設定 (続き)

| フィールド                                                                    | 説明                                                                                                                                           |
|--------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <b>[設定済みのスロット、VIC およびエンドポイント (Configured Slots, VICs and Endpoints)]</b> |                                                                                                                                              |
| [Module in Slot 2]                                                       | VG224 ゲートウェイで使用可能なスロットに対し、ドロップダウン リスト ボックスから [ANALOG] を選択します。                                                                                |
| [Subunit 0]                                                              | VG224 ゲートウェイで使用可能なサブユニット 0 に対し、ドロップダウン リスト ボックスから [24FXS] を選択します。<br><b>(注)</b> VG224 ゲートウェイの場合は、[Module in Slot 2] と [Subunit 0] だけが使用可能です。 |

## VG202 および VG204 ゲートウェイ テンプレートのフィールドの説明

表 48-3 に、VG202 および VG204 ゲートウェイ テンプレート設定の詳細な説明があります。関連する手順については、「[関連項目](#)」(P.48-52) を参照してください。

表 48-3 VG202 および VG204 ゲートウェイの設定

| フィールド                                                                    | 説明                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                          |
|--------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| [テンプレート名 (Template name)]                                                | Cisco VG202 または VG204 ゲートウェイ テンプレートを識別する最大 64 文字の名前を入力します。                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                  |
| [説明 (Description)]                                                       | デバイスの目的を明らかにする説明を入力します。                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                     |
| [Cisco Unified CM グループ (Cisco Unified Communications Manager Group)]     | ドロップダウン リスト ボックスから、Cisco Unified Communications Manager 冗長グループを選択します。<br>Cisco Unified Communications Manager 冗長グループには、優先順位が指定された最大 3 つの Cisco Unified Communications Manager のリストが含まれます。リスト内の最初の Cisco Unified Communications Manager は、プライマリ Cisco Unified Communications Manager の役割を果たします。プライマリ Cisco Unified Communications Manager が使用できない場合または失敗する場合は、ゲートウェイがリスト内の次の Cisco Unified Communications Manager への接続を試みます。 |
| <b>[設定済みのスロット、VIC およびエンドポイント (Configured Slots, VICs and Endpoints)]</b> |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                             |
| [Module in Slot 0]                                                       | VG202 または VG204 ゲートウェイで使用可能なスロットに対し、ドロップダウン リスト ボックスから [ANALOG] を選択します。                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                     |
| [Subunit 0]                                                              | VG202 または VG204 ゲートウェイで使用可能なサブユニット 0 に対し、ドロップダウン リスト ボックスから [2FXS] を選択します。<br><b>(注)</b> VG202 および VG204 ゲートウェイの場合は、[Module in Slot 0] と [Subunit 0] だけが使用可能です。                                                                                                                                                                                                                                                             |

## Cisco Catalyst 24 Port FXS Gateway テンプレートのフィールドの説明

表 48-4 に、Cisco Catalyst 6000 24 Port FXS Gateway テンプレートの設定を示します。関連する手順については、「[関連項目](#)」(P.48-52) を参照してください。

表 48-4 Cisco Catalyst 6000 24 Port FXS Gateway の設定

| フィールド                                             | 説明                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                    |
|---------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| [説明 (Description)]                                | デバイスの目的を入力します。説明には、任意の言語で最大 50 文字を指定できますが、二重引用符 (")、パーセント記号 (%)、アンパサンド (&)、バックスラッシュ (\)、または山カッコ (<>) は使用できません。                                                                                                                                                                                                                                                        |
| [デバイスプール (Device Pool)]                           | ドロップダウン リスト ボックスから、適切なデバイス プールを選択します。<br><br>デバイス プールは、このデバイスのプロパティの集合 (たとえば、Cisco Unified Communications Manager グループ、日付/時刻グループ、地域、およびデバイスの自動登録用のコーリング サーチ スペース) を指定します。                                                                                                                                                                                             |
| [共通デバイス設定 (Common Device Configuration)]          | このゲートウェイに割り当てる共通デバイス設定を選択します。共通デバイス設定には、特定のユーザに関連付けられた属性 (サービスまたは機能) が含まれています。[共通デバイス設定 (Common Device Configuration)] ウィンドウで共通のデバイス設定を行います。<br><br>共通デバイス設定の設定値を参照するには、[詳細の表示 (View Details)] リンクをクリックします。                                                                                                                                                           |
| [メディアリソースグループリスト (Media Resource Group List)]     | このリストは、優先順位が付けられたメディア リソース グループのグルーピングを指定します。アプリケーションは、[メディアリソースグループリスト (Media Resource Group List)] で定義する優先順位に従って、使用可能なメディア リソースから必要なメディア リソース (たとえば保留音サーバ) を選択します。                                                                                                                                                                                                  |
| [ネットワーク保留 MOH 音源 (Network Hold MOH Audio Source)] | このグループの IP ゲートウェイのネットワーク保留オーディオソースを選択します。<br><br>ネットワーク保留オーディオ ソースは、システムがコールを保留にするとき (たとえば、ユーザがコールを転送したときまたはコール パークに置いたとき) に再生される音楽のオーディオ ソースを特定します。                                                                                                                                                                                                                  |
| [コーリングサーチスペース (Calling Search Space)]             | ドロップダウン リスト ボックスから、適切なコーリング サーチ スペースを選択します。コーリング サーチ スペースは、パーティションの集合を指定するものです。パーティションの集合は、ダイヤルされた番号のルーティング方法を決定するために検索されます。<br><br>このドロップダウン リスト ボックスに表示されるコーリング サーチ スペースの数は、Max List Box Items エンタープライズ パラメータを使用して設定できます。<br><br>(注) リスト ボックスの最大項目数を設定するには、[システム (System)] > [エンタープライズパラメータ (Enterprise Parameters)] の順に選択し、さらに Unified CMAAdmin Parameters を選択します。 |

表 48-4 Cisco Catalyst 6000 24 Port FXS Gateway の設定 (続き)

| フィールド                                         | 説明                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                 |
|-----------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| [AAR コーリングサーチスペース (AAR Calling Search Space)] | デバイスが自動代替ルーティング (AAR) の実行時に使用する適切なコーリングサーチスペースを選択します。AAR コーリングサーチスペースは、ルートパーティションの集合を指定するものです。ルートパーティションの集合は、帯域幅不足のために本来ならブロックされるダイヤルされた番号のルーティング方法を決定するために検索されます。                                                                                                                                                                 |
| [ロケーション (Location)]                           | このデバイスの適切なロケーションを選択します。ロケーションは、このロケーションの着信コールおよび発信コールに使用可能な合計帯域幅を指定します。ロケーションを [なし (None)] に設定すると、ロケーション機能がこのデバイスの消費する帯域幅を管理しないことを示します。                                                                                                                                                                                            |
| [AAR グループ (AAR Group)]                        | このデバイスの自動代替ルーティング (AAR) グループを選択します。AAR グループはプレフィックス番号を提供するものです。プレフィックス番号は、帯域幅不足のために本来ならブロックされるコールをルーティングするために使用します。グループを [なし (None)] に設定すると、ブロックされるコールのルーティングは試行されません。                                                                                                                                                             |
| [ネットワークロケール (Network Locale)]                 | ドロップダウンリストボックスから、ゲートウェイに関連付けられたロケールを選択します。ネットワークロケールは、特定のロケーションのハードウェアをサポートする詳細な情報のセットを識別します。ネットワークロケールには、デバイスが特定の地域で使用するトーンと断続周期の定義が含まれます。<br><br><b>(注)</b> すでにインストールされ、関連のデバイスでサポートされているネットワークロケールのみを選択します。リストには、この設定に使用できるすべてのネットワークロケールが含まれますが、すべてがインストールされているとは限りません。ファームウェアでサポートしないネットワークロケールにデバイスが関連付けられている場合、デバイスは起動しません。 |

表 48-4 Cisco Catalyst 6000 24 Port FXS Gateway の設定 (続き)

| フィールド                                       | 説明                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                              |
|---------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| [信頼できるリレーポイントを使用 (Use Trusted Relay Point)] | <p>ドロップダウン リスト ボックスで、Cisco Unified Communications Manager がこのメディア エンドポイントに Trusted Relay Point (TRP; 信頼できるリレー ポイント) デバイスを追加するかどうかを有効または無効にします。次のいずれかの値を選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• [デフォルト (Default)] : この値を選択すると、デバイスでは、このデバイスに関連付けられた共通デバイス設定の [信頼できるリレーポイントを使用 (Use Trusted Relay Point)] の設定値が使用されます。</li> <li>• [オフ (Off)] : この値を選択すると、このデバイスに対して TRP が使用不可になります。この設定値は、このデバイスに関連付けられた共通デバイス設定の [信頼できるリレーポイントを使用 (Use Trusted Relay Point)] の設定値よりも優先されます。</li> <li>• [オン (On)] : この値を選択すると、このデバイスに対して TRP が使用可能になります。この設定値は、このデバイスに関連付けられた共通デバイス設定の [信頼できるリレーポイントを使用 (Use Trusted Relay Point)] の設定値よりも優先されます。</li> </ul> <p>Trusted Relay Point (TRP; 信頼できるリレー ポイント) デバイスには、Trusted Relay Point というラベルの付いた MTP またはトランスコーダ デバイスが指定されます。</p> <p>複数のリソースがエンドポイント (トランスコーダ、RSVP エージェントなど) に対して必要な場合、Cisco Unified Communications Manager では、関連付けられたエンドポイント デバイスに最も近い場所に TRP を配置します。</p> <p>エンドポイントに TRP と MTP の両方が必要な場合、TRP は必須の MTP として使用されます。</p> <p>コールの動作の詳細については、『Cisco Unified Communications Manager システム ガイド』で TRP の挿入に関する要件の説明を参照してください。</p> |
| [ポート選択順序 (Port Selection Order)]            | <p>ポートが選択される順序を選択します。どちらのポート順序を使用すべきかわからない場合は、[Top Down] を選択してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• [Top Down] : ポート 1 からポート 8 まで、降順にポートを選択します。</li> <li>• [Bottom Up] : ポート 8 からポート 1 まで、昇順にポートを選択します。</li> </ul>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                 |
| [ロード情報 (Load Information)]                  | <p>ゲートウェイ用の該当するファームウェア ロード情報を入力します。</p> <p>ここで入力する値は、このゲートウェイのデフォルト値を上書きします。</p>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                |

表 48-4 Cisco Catalyst 6000 24 Port FXS Gateway の設定 (続き)

| フィールド                                                                                | 説明                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                        |
|--------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| [発呼側名に UTF-8 を転送 (Transmit UTF-8 for Calling Party Name)]                            | <p>このデバイスは、デバイスのデバイス プールのロケール設定を使用して、Unicode を送信するかどうか、および受信した Unicode 情報を変換するかどうかを決定します。</p> <p>送信デバイスでは、このチェックボックスをオンにした場合に、デバイスのデバイス プールのユーザ ロケール設定が着信側電話機のユーザ ロケール設定に一致すると、デバイスは Unicode を送信します。ユーザ ロケール設定が一致しないと、デバイスは ASCII を送信します。</p> <p>受信デバイスは、送信デバイスのデバイス プールのユーザ ロケール設定に基づいて、着信する Unicode 文字を変換します。ユーザ ロケール設定が着信側電話機のユーザ ロケールに一致する場合は、電話機に文字が表示されます。</p> <p><b>(注)</b> トランクの両端が同じ言語グループに属さないユーザ ロケールを設定している場合は、電話機に判読不可能な文字が表示されることがあります。</p> |
| [発呼側トランスフォーメーション CSS (Calling Party Transformation CSS)]                             | <p>この設定を使用すると、デバイスの発呼側番号をローカライズできます。選択する発呼側トランスフォーメーション CSS に、このデバイスに割り当てる発呼側トランスフォーメーション パターンが含まれていることを確認してください。</p> <p>発呼側トランスフォーメーション CSS が存在するパーティションにパターンを割り当てる場合、デバイスは発呼側トランスフォーメーション パターンの属性を使用します。</p> <p>詳細については、『Cisco Unified Communications Manager 機能およびサービス ガイド』を参照してください。</p>                                                                                                                                                              |
| [デバイスプールの発呼側トランスフォーメーション CSS を使用 (Use Device Pool Calling Party Transformation CSS)] | <p>デバイスに割り当てられているデバイス プールで設定された発呼側トランスフォーメーション CSS を使用するには、このチェックボックスをオンにします。このチェックボックスをオフにすると、デバイスは、デバイスの設定ウィンドウで設定された発呼側トランスフォーメーション CSS を使用します。</p>                                                                                                                                                                                                                                                                                                    |
| <b>[MLPP 情報 (Multilevel Precedence and Preemption (MLPP) Information)]</b>           |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                           |
| [MLPP ドメイン (MLPP Domain)]                                                            | <p>ドロップダウン リスト ボックスから、このデバイスに関連付けられた MLPP ドメインを選択します。この値を [なし (None)] のままにすると、このデバイスはデバイスのデバイス プールに設定された値から MLPP ドメインを継承します。デバイス プールに MLPP ドメインが設定されていない場合に、このデバイスは MLPP Domain Identifier エンタープライズ パラメータに設定された値からその MLPP ドメインを継承します。</p>                                                                                                                                                                                                                 |
| [MLPP 表示 (MLPP Indication)]                                                          | <p>このデバイス タイプには、この設定値がありません。</p>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                          |
| [MLPP プリエンプション (MLPP Preemption)]                                                    | <p>この設定値には、このデバイス タイプがありません。</p>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                          |

表 48-4 Cisco Catalyst 6000 24 Port FXS Gateway の設定 (続き)

| フィールド                                         | 説明                                                                                                                                                                                         |
|-----------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <b>[位置情報の設定 (Geo Location Configuration)]</b> |                                                                                                                                                                                            |
| [位置情報 (Geo Location)]                         | ドロップダウン リスト ボックスから、位置情報を選択します。<br>未指定の位置情報を選択できます。これは、このデバイスを位置情報に関連付けないことを示します。<br><br>[システム (System)] > [位置情報の設定 (Geolocation Configuration)] メニュー オプションで設定した位置情報を選択することもできます。           |
| [位置情報フィルタ (Geo Location Filter)]              | ドロップダウン リスト ボックスから、位置情報フィルタを選択します。<br><br>この値を [なし (None)] のままにすると、このデバイスには位置情報フィルタは適用されません。<br><br>[システム (System)] > [位置情報フィルタ (Geolocation Filter)] メニュー オプションで設定した位置情報フィルタを選択することもできます。 |

## FXS/FXO ポート設定のフィールドの説明

表 48-5 に、FXS/FXO ポート設定の詳細な説明があります。関連する手順については、「[関連項目 \(P.48-52\)](#)」を参照してください。

VG200 ゲートウェイでは、すべてのスイッチ エミュレーション タイプがネットワーク側をサポートするとは限りません。ゲートウェイ スイッチ タイプを設定する方法によって、ネットワーク側を設定できるかどうかが決まります。

表 48-5 FXS/FXO ポートの設定

| フィールド                                | 説明                                                                                                                                                                                                                                          |
|--------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <b>[デバイス情報 (Device Information)]</b> |                                                                                                                                                                                                                                             |
| [エンドポイント名 (End-Point Name)]          | VG200 ゲートウェイの場合、ここは表示専用フィールドです。Cisco Unified Communications Manager が生成する、VG200 アナログ インターフェイスを一意に識別する文字列が表示されます。                                                                                                                            |
| [説明 (Description)]                   | Cisco Unified Communications Manager は、アナログ MGCP の説明を一意に識別する文字列を生成します。<br>次の例を参考にしてください。<br>AALN/S0/SU1/1@domain.com<br><br>このフィールドは編集できます。説明には、任意の言語で最大 50 文字を指定できますが、二重引用符 (")、パーセント記号 (%)、アンパサンド (&)、バックスラッシュ (\)、または山カッコ (<>) は使用できません。 |

表 48-5 FXS/FXO ポートの設定 (続き)

| フィールド                                                               | 説明                                                                                                                                                                                            |
|---------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| [デバイスプール(Device Pool)]                                              | ドロップダウン リスト ボックスから、適切なデバイス プールを選択します。<br><br>デバイス プールは、このデバイスのプロパティの集合 (たとえば、 <b>Communications Manager</b> グループ、日付/時刻グループ、地域、およびデバイスの自動登録用のコーリング サーチ スペース) を指定します。                           |
| [メディアリソースグループリスト(Media Resource Group List)]                        | このリストは、優先順位が付けられたメディア リソース グループのグルーピングを指定します。アプリケーションは、[メディアリソースグループリスト(Media Resource Group List)] で定義する優先順位に従って、使用可能なメディア リソースから必要なメディア リソース (たとえば保留音サーバ) を選択します。                           |
| [パケットキャプチャモード(Packet Capture Mode)] (Cisco IOS MGCP ゲートウェイの場合のみ)    | このフィールドは、Cisco IOS MGCP ゲートウェイに対する暗号化されたシグナリング情報をトラブルシューティングする必要があるときにのみ設定します。パケット キャプチャを設定すると、コール処理が中断される場合があります。このフィールドの詳細については、『Cisco Unified Communications Manager セキュリティ ガイド』を参照してください。 |
| [パケットキャプチャ時間(Packet Capture Duration)] (Cisco IOS MGCP ゲートウェイの場合のみ) | このフィールドは、Cisco IOS MGCP ゲートウェイに対する暗号化されたシグナリング情報をトラブルシューティングする必要があるときにのみ設定します。パケット キャプチャを設定すると、コール処理が中断される場合があります。このフィールドの詳細については、『Cisco Unified Communications Manager セキュリティ ガイド』を参照してください。 |
| [コーリングサーチスペース(Calling Search Space)]                                | ドロップダウン リスト ボックスから、適切なコーリング サーチ スペースを選択します。コーリング サーチ スペースは、ルート パーティションの集合で構成されます。ルート パーティションの集合は、ダイヤルされた番号のルーティング方法を決定するために検索されます。                                                            |
| [AAR コーリングサーチスペース(AAR Calling Search Space)]                        | デバイスが自動代替ルーティング (AAR) の実行時に使用する適切なコーリング サーチ スペースを選択します。AAR コーリング サーチ スペースは、ルート パーティションの集合を指定するものです。ルート パーティションの集合は、帯域幅不足のために本来ならブロックされるダイヤルされた番号のルーティング方法を決定するために検索されます。                      |

表 48-5 FXS/FXO ポートの設定 (続き)

| フィールド                         | 説明                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                               |
|-------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| [ロケーション (Location)]           | <p>ロケーションを使用して、集中コール処理システム内にコールアドミッション制御 (CAC) を実装します。CAC を使用すると、ロケーション間のリンク経由での音声およびビデオ コールに使用できる帯域幅の量を制限することで、音声の品質およびビデオの可用性を規制できます。ロケーションは、このロケーションの着信コールおよび発信コールに使用可能な合計帯域幅を指定します。</p> <p>ドロップダウン リスト ボックスから、このデバイスの適切なロケーションを選択します。</p> <p>ロケーションを <b>Hub None</b> に設定すると、ロケーション機能がこのデバイスの消費する帯域幅を管理しないことを示します。<b>[Phantom]</b> というロケーション設定は、H.323 または SIP プロトコルを使用するクラスタ間トランク経由で CAC を正常に行うことができるロケーションを指定します。</p> <p>新しいロケーションを設定するには、[システム (System)] &gt; [ロケーション (Location)] メニュー オプションを使用します。</p> <p>ロケーションの詳細については、『Cisco Unified Communications Manager アドミネストレーション ガイド』を参照してください。クラスタ間トランク経由のロケーションベースの CAC の説明については、『Cisco Unified Communications Manager システム ガイド』を参照してください。</p> |
| [AAR グループ (AAR Group)]        | <p>このデバイスの自動代替ルーティング (AAR) グループを選択します。AAR グループはプレフィックス番号を提供するものです。プレフィックス番号は、帯域幅不足のために本来ならブロックされるコールをルーティングするために使用します。グループを [なし (None)] に設定すると、ブロックされるコールのルーティングは試行されません。</p>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                    |
| [ネットワークロケール (Network Locale)] | <p>ドロップダウン リスト ボックスから、ゲートウェイに関連付けられたロケールを選択します。ネットワーク ロケールは、特定のロケーションのハードウェアをサポートする詳細な情報のセットを識別します。ネットワーク ロケールには、デバイスが特定の地域で使用するトーンと断続周期の定義が含まれます。</p> <p><b>(注)</b> すでにインストールされ、関連のデバイスでサポートするネットワーク ロケールのみを選択します。リストには、この設定に使用できるすべてのネットワーク ロケールが含まれますが、すべてがインストールされているとは限りません。ファームウェアでサポートしないネットワーク ロケールにデバイスが関連付けられている場合、デバイスは起動しません。</p>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                    |

表 48-5 FXS/FXO ポートの設定 (続き)

| フィールド                                       | 説明                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                         |
|---------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| [信頼できるリレーポイントを使用 (Use Trusted Relay Point)] | <p>ドロップダウン リスト ボックスで、Cisco Unified Communications Manager がこのメディア エンドポイントに Trusted Relay Point (TRP; 信頼できるリレー ポイント) デバイスを追加するかどうかを有効または無効にします。次の値のいずれかを選択してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• [デフォルト (Default)] : この値を選択すると、デバイスが関連付けられている共通デバイス設定の [信頼できるリレーポイントを使用 (Use Trusted Relay Point)] の設定値を使用します。</li> <li>• [オフ (Off)] : この値を選択して、デバイスでの TRP の使用を無効にします。この設定値は、デバイスが関連付けられている共通デバイス設定の [信頼できるリレーポイントを使用 (Use Trusted Relay Point)] の設定値を上書きします。</li> <li>• [オン (On)] : この値を選択して、デバイスでの TRP の使用を有効にします。この設定値は、デバイスが関連付けられている共通デバイス設定の [信頼できるリレーポイントを使用 (Use Trusted Relay Point)] の設定値を上書きします。</li> </ul> <p>信頼できるリレー ポイント (TRP) デバイスでは、信頼できるリレー ポイントとして表示されている MTP またはトランスコーダを指定します。</p> <p>複数のリソースがエンドポイント (トランスコーダ、RSVP エージェントなど) に対して必要な場合、Cisco Unified Communications Manager では、関連付けられたエンドポイント デバイスに最も近い場所に TRP を配置します。</p> <p>TRP と MTP の両方がエンドポイントに必要な場合、TRP は必要な MTP として使用されます。コールの動作の詳細については、『Cisco Unified Communications Manager システム ガイド』を参照してください。</p> <p>TRP と RSVP エージェントの両方がエンドポイントに必要な場合、Cisco Unified Communications Manager は最初に TRP としても使用できる RSVP エージェントを検索します。</p> <p>TRP とトランスコーダの両方がエンドポイントに必要な場合、Cisco Unified Communications Manager は最初に TRP としても指定できるトランスコーダを検索します。</p> <p>ネットワーク バーチャライゼーションおよび信頼できるリレーポイントの詳細については、『Cisco Unified Communications Manager システム ガイド』を参照してください。</p> |

表 48-5 FXS/FXO ポートの設定 (続き)

| フィールド                                                                                 | 説明                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                        |
|---------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| [ 発呼側名に UTF-8 を転送 (Transmit UTF-8 for Calling Party Name)]                            | <p>このデバイスは、デバイスのデバイス プールのロケール設定を使用して、Unicode を送信するかどうか、および受信した Unicode 情報を変換するかどうかを決定します。</p> <p>送信デバイスでは、このチェックボックスをオンにした場合に、デバイスのデバイス プールのユーザ ロケール設定が着信側電話機のユーザ ロケール設定に一致すると、デバイスは Unicode を送信します。ユーザ ロケール設定が一致しないと、デバイスは ASCII を送信します。</p> <p>受信デバイスは、送信デバイスのデバイス プールのユーザ ロケール設定に基づいて、着信する Unicode 文字を変換します。ユーザ ロケール設定が着信側電話機のユーザ ロケールに一致する場合は、電話機に文字が表示されます。</p> <p><b>(注)</b> トランクの両端が同じ言語グループに属さないユーザ ロケールを設定している場合は、電話機に判読不可能な文字が表示されることがあります。</p> |
| [ 発呼側トランスフォーメーション CSS(Calling Party Transformation CSS)]                              | <p>(FXO ポートではなく) FXS ポートに対して表示されるこの設定を使用すると、デバイスの発呼側番号をローカライズすることができます。選択した [ 発呼側トランスフォーメーション CSS(Calling Party Transformation CSS)] には、このデバイスに割り当てる発呼側トランスフォーメーションパターンが含まれます。</p> <p><b>ヒント</b> コールが発生する前に、デバイスは番号分析を使用してトランスフォーメーションを適用する必要があります。[ 発呼側トランスフォーメーション CSS(Calling Party Transformation CSS)] を [ なし (None)] に設定すると、トランスフォーメーションは一致せず、適用されません。[ 発呼側トランスフォーメーションパターン] をルーティングに使用されない null ではないパーティションに設定してください。</p>                          |
| [ デバイスプールの発呼側トランスフォーメーション CSS を使用 (Use Device Pool Calling Party Transformation CSS)] | <p>このデバイスに割り当てられているデバイス プールに設定された発呼側トランスフォーメーション CSS を使用するには、このチェックボックスをオンにします。このチェックボックスをオフにすると、デバイスは [ ゲートウェイの設定 (Gateway Configuration)] ウィンドウで設定した発呼側トランスフォーメーション CSS を使用します。</p> <p>この設定は、FXS ポートに対して表示され、FXO ポートには表示されません。</p>                                                                                                                                                                                                                      |
| [ ホットラインデバイス (Hotline Device)]                                                        | <p>このデバイスをホットライン デバイスにするには、このチェックボックスをオンにします。ホットライン デバイスは、他のホットライン デバイスにだけ接続できます。この機能は、オフフックになると自動的に 1 つの電話番号をダイヤルするように電話機を設定する PLAR の拡張機能です。ホットラインでは、PLAR を使用するデバイスに適用できる制限事項が追加されます。</p> <p>ホットラインを実装するには、補足サービス ソフトキーのないソフトキー テンプレートを作成して、ホットライン デバイスに適用する必要があります。</p>                                                                                                                                                                                 |

表 48-5 FXS/FXO ポートの設定 (続き)

| フィールド                                                                      | 説明                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                      |
|----------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <b>[MLPP 情報 (Multilevel Precedence and Preemption (MLPP) Information)]</b> |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                         |
| [MLPP ドメイン (MLPP Domain)]                                                  | ドロップダウン リスト ボックスから、このデバイスに関連付けられた MLPP ドメインを選択します。この値を [くなし (None)] のままにすると、このデバイスはデバイスのデバイス プールに設定された値から MLPP ドメインを継承します。デバイス プールに MLPP ドメインが設定されていない場合に、このデバイスは MLPP Domain Identifier エンタープライズ パラメータに設定された値からその MLPP ドメインを継承します。                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                     |
| [MLPP 表示 (MLPP Indication)]                                                | <p>この設定を使用できないデバイスもあることに注意してください。(使用可能な場合) 優先トーンを再生する機能のあるデバイスが、MLPP 優先コールを行うときにその機能を使用するかどうかを指定します。</p> <p>ドロップダウン リスト ボックスで、このデバイスに割り当てる設定値を次のオプションから選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>[デフォルト (Default)] : デバイスは MLPP 表示設定をデバイス プールから継承します。</li> <li>[オフ (Off)] : デバイスは MLPP 優先コールの表示の対応も処理もしません。</li> <li>[オン (On)] : デバイスは MLPP 優先コールの表示に対応して処理します。</li> </ul> <p><b>(注)</b> [MLPP プリエンプション (MLPP Preemption)] が [強制 (Forceful)] で [MLPP 表示 (MLPP Indication)] が [オフ (Off)] または [デフォルト (Default)] (デフォルトが [オフ (Off)] のとき) という組み合わせでは、デバイスを設定しないでください。</p>                                                                                           |
| [MLPP プリエンプション (MLPP Preemption)]                                          | <p>この設定を使用できないデバイスもあることに注意してください。(使用可能な場合) 進行中のコールをプリエンプション処理する機能のあるデバイスが、MLPP 優先コールを行うときにその機能を使用するかどうかを指定します。</p> <p>ドロップダウン リスト ボックスで、このデバイスに割り当てる設定値を次のオプションから選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>[デフォルト (Default)] : デバイスは MLPP プリエンプション設定値をデバイス プールから継承します。</li> <li>[無効 (Disabled)] : このデバイスは、高優先のコールの完了に低優先のコールのプリエンプションが必要な場合に、プリエンプションの実行を許可しません。</li> <li>[強制 (Forceful)] : このデバイスは、高優先のコールの完了に低優先のコールのプリエンプションが必要な場合に、プリエンプションの実行を許可します。</li> </ul> <p><b>(注)</b> [MLPP プリエンプション (MLPP Preemption)] が [強制 (Forceful)] で [MLPP 表示 (MLPP Indication)] が [オフ (Off)] または [デフォルト (Default)] (デフォルトが [オフ (Off)] のとき) という組み合わせでは、デバイスを設定しないでください。</p> |

表 48-5 FXS/FXO ポートの設定 (続き)

| フィールド                                         | 説明                                                                                                                                                                                                                               |
|-----------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <b>[ポート情報 (Port Information) (POTS)]</b>      |                                                                                                                                                                                                                                  |
| [ポートディレクション (Port Direction)]                 | このポートを通過するコールの方向を選択します。 <ul style="list-style-type: none"> <li>[Inbound] : 着信コールだけに使用します。</li> <li>[Outbound] : 発信コールに使用します。</li> <li>[Bothways] : 着信コールと発信コールに使用します (デフォルト)。</li> </ul>                                         |
| [プレフィックス DN (Prefix DN)] (FXS ポート用)           | 着信コールでこのトランクが受信する数字に付加されるプレフィックス番号を入力します。<br>Cisco Unified Communications Manager は、[桁数 (Num Digits)] の設定値に従って、番号を切り捨てた後、プレフィックス番号を追加します。<br>国際的なエスケープ文字 + を入力できます。                                                              |
| [桁数 (Num Digits)] (FXS ポート用)                  | 収集する有意な数字の桁数を、0 ~ 32 で指定します。<br>Cisco Unified Communications Manager は、コールされる番号の右 (最後の桁) から有意な数字をカウントします。<br>このフィールドは、着信コールを処理し、PRI スパンに入るコールのルーティングに使用する着信側番号の最後の桁から始まる桁数を指定します。「プレフィックス DN (Prefix DN)」を参照してください。              |
| [必要な桁数 (Expected Digits)] (FXS ポート用)          | トランクの着信側で必要な桁数を入力します。ほとんど使用しません。不明の場合は、デフォルト値 (ゼロ) をそのまま使用してください。                                                                                                                                                                |
| [SMDI ポート番号 (SMDI Port Number、0-4096)]        | このフィールドはボイス メッセージ システムに接続するアナログ アクセス ポート用に使用します。<br>[SMDI ポート番号 (SMDI Port Number、0-4096)] は、アナログ アクセス ポートが接続されるボイス メッセージ システム上の実際のポート番号と同じ番号に設定します。<br><b>(注)</b> ボイス メッセージ システムが正常に動作するためには、一般にボイスメールの論理ポートが物理ポートに一致する必要があります。 |
| [不在ポート (Unattended Port)]                     | このデバイスの不在ポートを指定する場合は、このチェックボックスをオンにします。                                                                                                                                                                                          |
| <b>[位置情報の設定 (Geo Location Configuration)]</b> |                                                                                                                                                                                                                                  |
| [位置情報 (Geo Location)]                         | ドロップダウン リスト ボックスから、位置情報を選択します。<br>未指定の位置情報を選択できます。これは、このデバイスを位置情報に関連付けないことを示します。<br>[システム (System)] > [位置情報の設定 (Geolocation Configuration)] メニュー オプションで設定した位置情報を選択することもできます。                                                     |

表 48-5 FXS/FXO ポートの設定 (続き)

| フィールド                                                | 説明                                                                                                                                                                                                                                                                                                                               |
|------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| [位置情報フィルタ (Geo Location Filter)]                     | <p>ドロップダウン リスト ボックスから、位置情報フィルタを選択します。</p> <p>この値を [&lt;なし (None)&gt;] のままにすると、このデバイスには位置情報フィルタは適用されません。</p> <p>[システム (System)] &gt; [位置情報フィルタ (Geolocation Filter)] メニュー オプションで設定した位置情報フィルタを選択することもできます。</p> <p>(注) このフィールドは、FXS ゲートウェイに対してはサポートされません。</p>                                                                       |
| <b>[プロダクト固有の設定 (Product Specific Configuration)]</b> |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                  |
| ゲートウェイの製造元が定義するモデル固有の設定フィールド                         | <p>[プロダクト固有の設定 (Product Specific Configuration)] ではモデル固有のフィールドが定義されています。これらのフィールドは動的に設定されるので、事前の通知なく変更されることがあります。</p> <p>フィールドの説明、およびプロダクト固有の設定項目のヘルプを表示するには、[プロダクト固有の設定 (Product Specific Configuration)] 見出しの右にある [?] 情報アイコンをクリックします。ポップアップ ダイアログボックスにヘルプが表示されます。</p> <p>詳細な情報が必要な場合は、設定するゲートウェイのマニュアルを参照するか、製造元に連絡してください。</p> |

## Cisco VG200 ゲートウェイ テンプレート上のデジタル アクセス T1 トランクのフィールドの説明

表 48-6 に Cisco VG200 ゲートウェイ上の T1 CAS トランク用の値を追加または更新するためのフィールドについて、詳細に説明します。

Cisco Unified Communications Manager の管理ページで設定された値を表示するフィールドもあります。

BAT ユーザ インターフェイスでは、アスタリスクが付いているフィールドには値を入力する必要があります。アスタリスクのないフィールドでは、入力はオプションです。

関連する手順については、「[関連項目](#)」(P.48-52) を参照してください。

表 48-6 デジタル アクセス T1 (T1-CAS) の設定

| フィールド                                          | 説明                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                             |
|------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| [エンドポイント名 (End-Point Name)]                    | <p>VG200 ゲートウェイの場合、ここは表示専用フィールドです。Cisco Unified Communications Manager で生成された VG200 デジタル インターフェイスを一意に識別する文字列が表示されます。</p> <p>次の例を参考にしてください。</p> <p>S1/DS1-0@VG200-2</p> <p>S1 はスロット 1 を表し、DS1-0 はデジタル インターフェイスを表し、@VG200-2 は VG200 テンプレート名を表します。</p>                                                                                                                                            |
| [説明 (Description)]                             | <p>デバイスの目的を明らかにする説明を入力します。説明には、任意の言語で最大 50 文字を指定できますが、二重引用符 (")、パーセント記号 (%)、アンパサンド (&amp;)、バックスラッシュ (\)、または山カッコ (&lt;&gt;) は使用できません。</p>                                                                                                                                                                                                                                                       |
| [デバイスプール (Device Pool)]                        | <p>ドロップダウン リスト ボックスから、適切なデバイス プールを選択します。</p> <p>デバイス プールは、このデバイスのプロパティの集合 (たとえば、Communications Manager グループ、日付/時刻グループ、地域、およびデバイスの自動登録用のコーリング サーチ スペース) を指定します。</p>                                                                                                                                                                                                                             |
| [コールの分類 (Call Classification)]                 | <p>このパラメータは、このゲートウェイを使用する着信コールをネットワーク上にない (オフネット) と見なすか、ネットワーク上にある (オンネット) と見なすかを決定します。</p> <p>[コールの分類 (Call Classification)] フィールドが [システムデフォルトの使用 (Use System Default)] に設定されている場合は、Cisco Unified Communications Manager clusterwide サービス パラメータの Call Classification の設定によってゲートウェイがオンネットとオフネットのどちらであるかが決まります。</p> <p>このフィールドには、コールがオンネット、オフネットそれぞれの場合の警告音を指定します。</p>                          |
| [メディアリソースグループ リスト (Media Resource Group List)] | <p>このリストは、優先順位が付けられたメディア リソース グループのグルーピングを指定します。アプリケーションは、[メディアリソースグループ リスト (Media Resource Group List)] で定義する優先順位に従って、使用可能なメディア リソースから必要なメディア リソース (たとえば保留音サーバ) を選択します。</p>                                                                                                                                                                                                                   |
| [コーリングサーチスペース (Calling Search Space)]          | <p>ドロップダウン リスト ボックスから、適切なコーリング サーチ スペースを選択します。コーリング サーチ スペースは、ルート パーティションの集合を指定するものです。ルート パーティションの集合は、ダイヤルされた番号のルーティング方法を決定するために検索されます。</p> <p>このドロップダウン リスト ボックスに表示されるコーリング サーチ スペースの数は、Max List Box Items エンタープライズ パラメータを使用して設定できます。</p> <p><b>(注)</b> リスト ボックスの最大項目数を設定するには、[システム (System)] &gt; [エンタープライズパラメータ (Enterprise Parameters)] の順に選択し、さらに Unified CMAAdmin Parameters を選択します。</p> |

表 48-6 デジタル アクセス T1 (T1-CAS) の設定 (続き)

| フィールド                                             | 説明                                                                                                                                                                                                                                |
|---------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| [AAR コーリングサーチスペース (AAR Calling Search Space)]     | デバイスが自動代替ルーティング (AAR) の実行時に使用する適切なコーリングサーチスペースを選択します。AAR コーリングサーチスペースは、ルートパーティションの集合を指定するものです。ルートパーティションの集合は、帯域幅不足のために本来ならブロックされるダイヤルされた番号のルーティング方法を決定するために検索されます。                                                                |
| [ロケーション (Location)]                               | このデバイスの適切なロケーションを選択します。ロケーションは、このロケーションの着信コールおよび発信コールに使用可能な合計帯域幅を指定します。ロケーションを [なし (None)] に設定すると、ロケーション機能がこのデバイスの消費する帯域幅を管理しないことを示します。                                                                                           |
| [AAR グループ (AAR Group)]                            | このデバイスの自動代替ルーティング (AAR) グループを選択します。AAR グループはプレフィックス番号を提供するものです。プレフィックス番号は、帯域幅不足のために本来ならブロックされるコールをルーティングするために使用します。グループを [なし (None)] に設定すると、ブロックされるコールのルーティングは試行されません。                                                            |
| [MLPP ドメイン (MLPP Domain)]                         | ドロップダウンリストボックスから、このデバイスに関連付けられた MLPP ドメインを選択します。この値を [<なし (None)>] のままにすると、このデバイスはデバイスのデバイス プールに設定された値から MLPP ドメインを継承します。デバイス プールに MLPP ドメインが設定されていない場合に、このデバイスは MLPP Domain Identifier エンタープライズパラメータに設定された値からその MLPP ドメインを継承します。 |
| [DTMF 優先シグナルを処理 (Handle DTMF Precedence Signals)] | このゲートウェイで特殊な DTMF 信号を MLPP 優先レベルと解釈できるようにするには、このボックスをオンにします。                                                                                                                                                                      |
| [ロード情報 (Load Information)]                        | ゲートウェイ用の該当するファームウェア ロード情報を入力します。<br>ここで入力する値は、このゲートウェイのデフォルト値を上書きします。                                                                                                                                                             |
| [ポート選択順序 (Port Selection Order)]                  | チャンネルまたはポートが発信コールに割り当てられる順序、つまり最初 (最小番号のポート) から最後 (最大番号のポート) の順か、最後から最初の順かを選択します。<br>有効な入力値は、[Top Down] (最初から最後) または [Bottom Up] (最後から最初) です。どちらのポート順序を使用すべきかわからない場合は、[Top Down] を選択してください。                                       |
| [送信番号 (Digit Sending)]                            | ダイヤルアウト方式に、次の数字送信タイプのいずれかを選択します。 <ul style="list-style-type: none"> <li>[DTMF] : デュアル トーン多重周波数。通常のプッシュフォンのダイヤル方式。</li> <li>[MF] : 多重周波数。</li> <li>[PULSE] : パルス (ロータリー) ダイヤル方式。</li> </ul>                                        |

表 48-6 デジタル アクセス T1 (T1-CAS) の設定 (続き)

| フィールド                                                | 説明                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                               |
|------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| [ ネットワーク ロケール (Network Locale)]                      | <p>ドロップダウン リスト ボックスから、ゲートウェイに関連付けられたロケールを選択します。ネットワーク ロケールは、特定のロケーションのハードウェアをサポートする詳細な情報のセットを識別します。ネットワーク ロケールには、デバイスが特定の地域で使用するトーンと断続周期の定義が含まれます。</p> <p><b>(注)</b> すでにインストールされ、関連のデバイスでサポートされているネットワーク ロケールのみを選択します。リストには、この設定に使用できるすべてのネットワーク ロケールが含まれますが、すべてがインストールされているとは限りません。ファームウェアでサポートしないネットワーク ロケールにデバイスが関連付けられている場合、デバイスは起動しません。</p> |
| [SMDI 基本ポート (SMDI Base Port)]                        | <p>T1 スパンの最初の SMDI ポート番号を入力します。</p> <p>このパラメータをゼロでない値に設定し、このゲートウェイが不明なルート リスト タイプ、ルート グループ、またはルート リストに属する場合は、このスパンを過ぎるとハンディングは継続されません。</p>                                                                                                                                                                                                       |
| <b>[位置情報の設定 (Geo Location Configuration)]</b>        |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                  |
| [位置情報 (Geo Location)]                                | <p>ドロップダウン リスト ボックスから、位置情報を選択します。</p> <p>未指定の位置情報を選択できます。これは、このデバイスを位置情報に関連付けないことを示します。</p> <p>[システム (System)] &gt; [位置情報の設定 (Geolocation Configuration)] メニュー オプションで設定した位置情報を選択することもできます。</p>                                                                                                                                                   |
| [位置情報フィルタ (Geo Location Filter)]                     | <p>ドロップダウン リスト ボックスから、位置情報フィルタを選択します。</p> <p>この値を [くなし (None)] のままにすると、このデバイスには位置情報フィルタは適用されません。</p> <p>[システム (System)] &gt; [位置情報フィルタ (Geolocation Filter)] メニュー オプションで設定した位置情報フィルタを選択することもできます。</p>                                                                                                                                            |
| <b>[プロダクト固有の設定 (Product Specific Configuration)]</b> |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                  |
| ゲートウェイの製造元が定義するモデル固有の設定フィールド                         | <p>[プロダクト固有の設定 (Product Specific Configuration)] ではモデル固有のフィールドが定義されています。これらのフィールドは動的に設定されるので、事前の通知なく変更されることがあります。</p> <p>フィールドの説明、およびプロダクト固有の設定項目のヘルプを表示するには、[プロダクト固有の設定 (Product Specific Configuration)] 見出しの右にある [?] 情報アイコンをクリックします。ポップアップ ダイアログボックスにヘルプが表示されます。</p> <p>詳細な情報が必要な場合は、設定するゲートウェイのマニュアルを参照するか、製造元に連絡してください。</p>                 |

**追加情報**

「関連項目」(P.48-52) を参照してください。

## Cisco VG200 ゲートウェイ テンプレート上の T1 PRI トランクまたは E1 PRI トランクのフィールドの説明

表 48-7 に、Cisco VG200 ゲートウェイ上の T1 PRI トランクまたは E1 PRI トランクの値を追加または更新するためのフィールドについて説明します。

Cisco Unified Communications Manager の管理ページで設定された値を表示するフィールドもあります。

BAT ユーザ インターフェイスでは、アスタリスクが付いているフィールドには値を入力する必要があります。アスタリスクのないフィールドでは、入力はオプションです。

関連する手順については、「[関連項目](#)」(P.48-52) を参照してください。

表 48-7 T1 PRI トランクまたは E1 PRI トランクのフィールドの説明

| フィールド                                  | 説明                                                                                                                                                                                                                         |
|----------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <b>[ デバイス情報 (Device Information) ]</b> |                                                                                                                                                                                                                            |
| [ エンドポイント名 (End-Point Name) ]          | VG200 ゲートウェイの場合、ここは表示専用フィールドです。Cisco Unified Communications Manager が生成する、VG200 エンドポイントを一意に識別する文字列が表示されます。<br>次の例を参考にしてください。<br>S1/DS1-0@VG200-2<br>S1 はスロット 1 を表し、DS1-0 はデジタル インターフェイスを表し、@VG200-2 は VG200 ドメイン名を表します。    |
| [ 説明 (Description) ]                   | 設定するエンドポイントの説明を入力します。説明には、任意の言語で最大 50 文字を指定できますが、二重引用符 (")、パーセント記号 (%)、アンパサンド (&)、バックslash (\)、または山カッコ (<>) は使用できません。                                                                                                      |
| [ デバイスプール (Device Pool) ]              | このグループのゲートウェイまたはポート用のデバイス プールを選択します。<br>デバイス プールは、デバイスに共通した特性のセット (たとえば、地域、日付/時刻グループ、Cisco Unified Communications Manager グループ、自動登録用のコーリングサーチ スペースなど) を定義します。                                                              |
| [ コールの分類 (Call Classification) ]       | ドロップダウン リスト ボックスで、[ オンネット ]、[ オフネット ]、または [ システムデフォルトの使用 (Use System Default) ] の中からデバイスの設定オプションを選択します。<br>デバイス レベルで [ システムデフォルトの使用 (Use System Default) ] を選択した場合は、サービス パラメータの値を使用してデバイスが内部 (オンネット) か外部 (オフネット) かが決定されます。 |

表 48-7 T1 PRI トランクまたは E1 PRI トランクのフィールドの説明 (続き)

| フィールド                                           | 説明                                                                                                                                                                            |
|-------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| [ ネットワークロケール (Network Locale) ]                 | このゲートウェイに関連付けるネットワークロケールを選択します。<br><br>ネットワーク ロケールは、シスコのゲートウェイと電話機が、特定地域の PSTN およびその他のネットワークと通信するときに使用するトーンと断続周期を提供します。                                                       |
| [ メディアリソースグループリスト (Media Resource Group List) ] | このグループのゲートウェイまたはポート用のメディア リソース グループ リスト (MRGL) を選択します。<br><br>MRGL は、優先順位が付けられたメディア リソース グループのリストを指定します。アプリケーションは、MRGL で指定された優先順位に従って、使用可能なメディア リソースの中から、必要なメディア リソースを選択できます。 |
| [ ロケーション (Location) ]                           | このグループのゲートウェイまたはポート用のロケーションを選択します。<br><br>ロケーションは、帯域幅制限付き接続を使用してアクセスされるリモート ロケーションを指します。                                                                                      |
| [ AAR グループ (AAR Group) ]                        | このデバイスの自動代替ルーティング (AAR) グループを選択します。AAR グループはプレフィックス番号を提供するものです。プレフィックス番号は、帯域幅不足のために本来ならブロックされるコールをルーティングするために使用します。グループを [ なし (None) ] に設定すると、ブロックされるコールのルーティングは試行されません。      |
| [ ロード情報 (Load Information) ]                    | ゲートウェイ用のカスタム ソフトウェアに該当するロード情報を入力します。ここで入力する値は、このゲートウェイのデフォルト値を上書きします。<br><br>デフォルト ロードを使用する場合は、このフィールドをブランクのままにします。                                                           |

表 48-7 T1 PRI トランクまたは E1 PRI トランクのフィールドの説明 (続き)

| フィールド                                                                      | 説明                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                             |
|----------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| [発呼側名に UTF-8 を転送 (Transmit UTF-8 for Calling Party Name)]                  | <p>このデバイスは、デバイスのデバイス プールのロケール設定を使用して、Unicode を送信するかどうか、および受信した Unicode 情報を変換するかどうかを決定します。</p> <p>送信デバイスでは、このチェックボックスをオンにした場合に、デバイスのデバイス プールのユーザ ロケール設定が着信側電話機のユーザ ロケール設定に一致すると、デバイスは Unicode を送信します。ユーザ ロケール設定が一致しないと、デバイスは ASCII を送信します。</p> <p>受信デバイスは、送信デバイスのデバイス プールのユーザ ロケール設定に基づいて、着信する Unicode 文字を変換します。ユーザ ロケール設定が着信側電話機のユーザ ロケールに一致する場合は、電話機に文字が表示されます。</p> <p>トランクの両端が同じ言語グループに属さないユーザ ロケールを設定している場合は、電話機に判読不可能な文字が表示されることがあります。</p> |
| <b>[MLPP 情報 (Multilevel Precedence and Preemption (MLPP) Information)]</b> |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                |
| [MLPP ドメイン (MLPP Domain)] ("0000FF" など)                                    | このデバイスに関連付けられている MLPP ドメインの 16 進数値を入力します。ブランクまたは 0 ~ FFFFFFFF の値である必要があります。                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                    |

表 48-7 T1 PRI トランクまたは E1 PRI トランクのフィールドの説明 (続き)

| フィールド                                | 説明                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                             |
|--------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| [インターフェイス情報 (Interface Information)] |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                |
| [PRI プロトコルタイプ (PRI Protocol Type)]   | <p>スパンの通信プロトコルを選択します。</p> <p>E1 PRI スパンには、次のオプションがあります。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• [PRI AUSTRALIAN] : Australian ISDN</li> <li>• [PRI EURO] : European ISDN</li> <li>• [PRI ISO QSIG E1] : European</li> </ul> <p>T1 PRI スパンには、通信事業者または交換機に応じて、複数のオプションがあります。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• [PRI 4ESS] : AT&amp;T 長距離通信事業者、Lucent Definity 交換機</li> <li>• [PRI 5E8 Custom] : Cisco Unified IP Phone、Nortel Meridian 交換機、Lucent Definity 交換機</li> <li>• [PRI 5E8 Teleos] : Madge Teleos ボックス</li> <li>• [PRI 5E8 Intecom] : Intecom PBX</li> <li>• [PRI 5E9] : AT&amp;T 系の地域通信事業者または交換機</li> <li>• [PRI NI2] : Sprint 地域通信事業者または交換機</li> <li>• [PRI DMS-100] : Sprint 地域通信事業者または交換機</li> <li>• [PRI DMS-250] : MCI および Sprint 地域通信事業者または交換機</li> <li>• [PRI ETSI SC] : T1 ベースの欧州地域通信事業者、および日本の地域電話局</li> <li>• [PRI ISO QSIG T1] : PBX 間シグナリングプロトコル</li> </ul> |
| [プロトコル側 (Protocol Side)]             | <p>適切なプロトコル側を選択します。この設定値は、ゲートウェイが <b>Central Office/Network</b> デバイスに接続するか、<b>User</b> デバイスに接続するかを指定します。</p> <p>PRI 接続の両端が、逆の設定値を使用していることを確認してください。たとえば、<b>PBX</b> に接続しているときに、<b>PBX</b> がプロトコル側として <b>User</b> を使用する場合、このデバイスには <b>Network</b> を選択します。一般に、<b>Central Office (CO)</b> 接続には <b>User</b> を使用します。</p>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                             |

表 48-7 T1 PRI トランクまたは E1 PRI トランクのフィールドの説明 (続き)

| フィールド                                           | 説明                                                                                                                                                                                                                                                                                                                            |
|-------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| [チャンネル選択順序 (Channel Selection Order)]           | <p>チャンネルまたはポートが使用可能になる順序、つまり最初 (最小番号のポート) から最後 (最大番号のポート) の順か、最後から最初の順かを選択します。</p> <p>有効な入力値は、[Top Down] (最後から最初) または [Bottom Up] (最初から最後) です。どちらのポート順序を使用すべきかわからない場合は、[Top Down] を選択してください (デフォルトは [Bottom Up])。</p>                                                                                                         |
| [チャンネル IE タイプ (Channel IE Type)]                | <p>次の値のいずれかを選択して、チャンネル選択がチャンネルマップとして提示されるか、スロットマップとして提示されるかを指定します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• [Number] : B チャンネルの使用は、常にチャンネル マップ形式。</li> <li>• [Slotmap] : B チャンネルの使用は、常にスロットマップ形式。</li> <li>• [Use Number When 1B] : チャンネルの使用は、1 つの B チャンネルの場合はチャンネル マップ。ただし複数の B チャンネルが存在する場合はスロットマップ (デフォルト)。</li> </ul> |
| [PCM タイプ (PCM Type)]                            | <p>デジタル符号化フォーマットを指定します。次の形式のいずれかを選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• [a-law] : ヨーロッパおよび下記以外の国で使用します。</li> <li>• [mu-law] : 北米、香港、台湾、および日本で使用します。</li> </ul>                                                                                                                                                   |
| [最初のリスタートの遅延 (Delay for first restart、1/8 秒単位)] | <p>(オプション) スパンが開始するレートを、1/8 秒単位で入力します。遅延が起きるのは、システム上で多数の PRI スパンが使用可能になっているときに、[PRI 初期化でリスタートを制限 (Inhibit restarts at PRI initialization)] チェックボックスがオフになっている場合です (デフォルト値は 32)。</p> <p>たとえば、最初の 5 つのカードを 0 に設定し、次の 5 つのカードを 16 に設定します (カードが使用開始になるまで 2 秒待ちます)。</p>                                                             |
| [リスタート間遅延 (Delay between restarts、1/8 秒単位)]     | <p>再起動間の間隔を、1/8 秒単位で入力します。遅延が起きるのは、[PRI 初期化でリスタートを制限 (Inhibit restarts at PRI initialization)] チェックボックスがオフになっている場合に、PRI RESTART が送信されるときです (デフォルト値は 4)。</p>                                                                                                                                                                   |

表 48-7 T1 PRI トランクまたは E1 PRI トランクのフィールドの説明 (続き)

| フィールド                                                                       | 説明                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                            |
|-----------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| [PRI 初期化でリスタートを制限 (Inhibit restarts at PRI initialization)]                 | 再起動メッセージによって、PRI スパン上のポートの状況を確認します。RESTART が送信されない場合、Cisco Unified Communications Manager は、ポートが使用中であると想定します。デフォルトでは、このチェックボックスはオンになっています。<br>D チャネルは、別の PRI トランクの D チャネルと正常に接続されると、このチェックボックスがオフの場合は、Restart を送信します。                                                                                                                                         |
| [ステータスポーリングを有効化 (Enable status poll)]                                       | Cisco Unified Communications Manager 拡張サービス パラメータである Change B-Channel Maintenance Status を有効にするには、このチェックボックスをオンにします。このサービス パラメータによって B チャネルがアクティブのときに個別の B チャネルをサービスから除外できます。<br>Change B-Channel Maintenance Status サービス パラメータを無効にするには、このチェックボックスをオフにします。<br>デフォルトではこのチェックボックスはオフになっています。                                                                    |
| [不在ポート (Unattended Port)]                                                   | このデバイスの不在ポートを指定する場合は、このチェックボックスをオンにします。                                                                                                                                                                                                                                                                                                                       |
| <b>[コールルーティング情報 - インバウンドコール (Call Routing Information - Inbound Calls)]</b> |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                               |
| [有意な数字 (Significant Digits)]                                                | このフィールドは、PRI スパンが着信コールで保持しなければならない末尾の桁数を表します。有意な数字が有効になっているトランクは、着信コールで提供されるアドレスの最後の桁以外をすべて切り捨てます。<br>有意な数字を収集するかどうかに応じて、このチェックボックスをオンまたはオフにします。 <ul style="list-style-type: none"> <li>このチェックボックスをオンにしない場合、Cisco Unified Communications Manager は着信番号を切り捨てません。</li> <li>このチェックボックスをオンにする場合、収集する有意な数字の桁数も選択する必要があります。デフォルトでは、このチェックボックスはオンになっています。</li> </ul> |

表 48-7 T1 PRI トランクまたは E1 PRI トランクのフィールドの説明 (続き)

| フィールド                                                                        | 説明                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                   |
|------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| [ コーリングサーチスペース (Calling Search Space)]                                       | このグループの電話機またはポートのコーリングサーチスペースを選択します。<br><br>コーリングサーチスペースは、ルートパーティションの集合を指定するものです。ルートパーティションの集合は、ダイヤルされた番号のルーティング方法を決定するために検索されます。                                                                                                                                                                                                    |
| [AAR コーリングサーチスペース (AAR Calling Search Space)]                                | デバイスが自動代替ルーティング (AAR) の実行時に使用する適切なコーリングサーチスペースを選択します。AAR コーリングサーチスペースは、ルートパーティションの集合を指定するものです。ルートパーティションの集合は、帯域幅不足のために本来ならブロックされるダイヤルされた番号のルーティング方法を決定するために検索されます。                                                                                                                                                                   |
| [プレフィックスDN(Prefix DN)]                                                       | (オプション) 着信コールでこのトランクが受信する数字に付加されるプレフィックス番号を入力します。<br><br>Cisco Unified Communications Manager は、[桁数 (Num Digits)] の設定値に従って、番号を切り捨てた後、プレフィックス番号を追加します。                                                                                                                                                                                |
| <b>[コールルーティング情報 - アウトバウンドコール(Call Routing Information - Outbound Calls)]</b> |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                      |
| [ 発呼者回線IDの表示 (Calling Line ID Presentation)]                                 | Cisco Unified Communications Manager が発信者電話番号を送信するか、ブロックするかを選択します。<br><br>発信者回線番号の表示を変更しない場合は [デフォルト (Default)] を選択します。Cisco Unified Communications Manager が「Calling Line ID Allowed」を送信するようにする場合は、[許可 (Allowed)] を選択します。Cisco Unified Communications Manager が「Calling Line ID Restricted」を送信するようにする場合は、[非許可 (Restricted)] を選択します。 |
| [ 発呼者の選択 (Calling Party Selection)]                                          | ゲートウェイが発信する任意のコールは、電話番号情報を送信できます。どの電話番号が送信されるかを選択してください。<br><br><ul style="list-style-type: none"> <li>• [Originator] : コールの発信側デバイスの電話番号を送信します。この番号がデフォルト値です。</li> <li>• [First Redirect Number] : リダイレクトするデバイスの電話番号を送信します。</li> <li>• [Last Redirect Number] : コールを最後にリダイレクトしたデバイスの電話番号を送信します。</li> </ul>                           |

表 48-7 T1 PRI トランクまたは E1 PRI トランクのフィールドの説明 (続き)

| フィールド                                                     | 説明                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                        |
|-----------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| [ 発呼側 IE 番号タイプが不明 (Calling Party IE Number Type Unknown)] | <p>発信側電話番号の番号タイプの形式を選択します。</p> <p>Cisco Unified Communications Manager が、発信側の電話番号 (DN) タイプを設定します。NANP やヨーロッパダイヤル計画などのダイヤル計画に十分な経験がある場合を除いて、デフォルト値を変更しないようにお勧めします。Cisco Unified Communications Manager はヨーロッパの国別ダイヤル計画を認識しないので、ヨーロッパではデフォルト値を変更する必要があります。また、非国別タイプ番号としてルーティングを実行する PBX に接続する場合も、この設定値を変更できます。</p> <p>次のオプションのいずれかを選択してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• [Cisco Unified Communications Manager] : Cisco Unified Communications Manager が、電話番号のタイプを設定します。このオプションがデフォルト値です。</li> <li>• [International] : ご使用の国用のダイヤル計画以外の場所でダイヤルするときに使用します。</li> <li>• [National] : ご使用の国用のダイヤル計画内の場所でダイヤルするときに使用します。</li> <li>• [Unknown] : (オプション) ダイヤル計画が不明です。</li> </ul> |

表 48-7 T1 PRI トランクまたは E1 PRI トランクのフィールドの説明 (続き)

| フィールド                                                   | 説明                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                        |
|---------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| [着信側 IE 番号タイプが不明 (Called Party IE Number Type Unknown)] | <p>着信側電話番号の番号タイプの形式を選択します。Cisco Unified Communications Manager が、着信側の電話番号 (DN) タイプを設定します。NANP やヨーロッパダイヤル計画などのダイヤル計画に十分な経験がある場合を除いて、デフォルト値を変更しないようにお勧めします。Cisco Unified Communications Manager はヨーロッパの国別ダイヤル計画を認識しないので、ヨーロッパではデフォルト値を変更する必要があります。また、非国別タイプ番号としてルーティングを実行する PBX に接続する場合も、この設定値を変更できます。</p> <p>次のオプションのいずれかを選択してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• [Communications Manager] : Cisco Unified Communications Manager が電話番号のタイプを設定します (デフォルト)。</li> <li>• [International] : ご使用の国用のダイヤル計画以外の場所でダイヤルするときに使用します。</li> <li>• [National] : ご使用の国用のダイヤル計画内の場所でダイヤルするときに使用します。</li> <li>• [Unknown] : (オプション) ダイヤル計画が不明です。</li> </ul> |

表 48-7 T1 PRI トランクまたは E1 PRI トランクのフィールドの説明 (続き)

| フィールド                             | 説明                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                        |
|-----------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| [ 着信番号計画 (Called Numbering Plan)] | <p>着信側電話番号の番号計画の形式を選択します。</p> <p>Cisco Unified Communications Manager が、着信側の DN 番号計画を設定します。NANP やヨーロッパダイヤル計画などのダイヤル計画に十分な経験がある場合を除いて、デフォルト値を変更しないようにお勧めします。</p> <p>Cisco Unified Communications Manager はヨーロッパの国別ダイヤル計画を認識しないので、ヨーロッパではデフォルト値を変更する必要があります。また、非国別タイプ番号としてルーティングを実行する PBX に接続する場合も、この設定値を変更できます。</p> <p>次のオプションのいずれかを選択してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• [Communications Manager] : Cisco Unified Communications Manager が電話番号の番号計画を設定します (デフォルト)。</li> <li>• [ISDN] : ご使用の国用のダイヤル計画以外の場所でダイヤルするときに使用します。</li> <li>• [National Standard] : ご使用の国用のダイヤル計画内の場所でダイヤルするときに使用します。</li> <li>• [Private] : プライベートネットワーク内でダイヤルするときに使用します。</li> <li>• [Unknown] : (オプション) ダイヤル計画が不明です。</li> </ul> |

表 48-7 T1 PRI トランクまたは E1 PRI トランクのフィールドの説明 (続き)

| フィールド                               | 説明                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                        |
|-------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| [ 発呼番号計画 (Calling Numbering Plan)]  | <p>発信側電話番号の番号計画の形式を選択します。</p> <p>Cisco Unified Communications Manager が、発信側の DN 番号計画を設定します。NANP やヨーロッパダイヤル計画などのダイヤル計画に十分な経験がある場合を除いて、デフォルト値を変更しないようにお勧めします。</p> <p>Cisco Unified Communications Manager はヨーロッパの国別ダイヤル計画を認識しないので、ヨーロッパではデフォルト値を変更する必要があります。また、非国別タイプ番号としてルーティングを実行する PBX に接続する場合も、この設定値を変更できます。</p> <p>次のオプションのいずれかを選択してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• [Communications Manager] : Cisco Unified Communications Manager が電話番号の番号計画を設定します (デフォルト)。</li> <li>• [ISDN] : ご使用の国用のダイヤル計画以外の場所でダイヤルするときを使用します。</li> <li>• [National Standard] : ご使用の国用のダイヤル計画内の場所でダイヤルするときを使用します。</li> <li>• [Private] : プライベートネットワーク内でダイヤルするときを使用します。</li> <li>• [Unknown] : (オプション) ダイヤル計画が不明です。</li> </ul> |
| [ 削除桁数 (Number of digits to strip)] | <p>発信コールに関して除去する桁数を、0 ~ 32 で選択します (デフォルト値は 0)。</p> <p>たとえば、8889725551234 にダイヤルし、除去する桁数が 3 であるとします。この例では Cisco Unified Communications Manager は発信番号から 888 を除去します。</p>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                      |

表 48-7 T1 PRI トランクまたは E1 PRI トランクのフィールドの説明 (続き)

| フィールド                                                                   | 説明                                                                                                                                                                                                                                                                                                        |
|-------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| [ 発信者 ID DN(Caller ID DN)]                                              | <p>発信者 ID に使用するパターンを 0 ~ 24 桁で入力します。</p> <p>たとえば、北米では次のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>55XXXX = 可変発信者 ID。ここで、X は内線番号に相当します。この番号を指定しない場合、CO が、市外局番にこの番号を付加します。</li> <li>5555000 = 固定発信者 ID。コールの発信元である正確な内線番号ではなく、Corporate 番号を送信する場合に使用します。この番号を指定しない場合、CO が、市外局番にこの番号を付加します。</li> </ul> |
| [SMDI 基本ポート (SMDI Base Port)]                                           | T1 スパンの最初の SMDI ポート番号を入力します。                                                                                                                                                                                                                                                                              |
| <b>[PRI プロトコルタイプ固有情報 (PRI Protocol Type Specific Information)]</b>      |                                                                                                                                                                                                                                                                                                           |
| [IE 配信を表示 (Display IE Delivery)]                                        | (オプション) 発信側と着信側の名前通知サービスに対して、SETUP メッセージおよび CONNECT メッセージ内の表示情報要素 (IE) の通知を可能にするには、このチェックボックスをオンにします。デフォルトでは、このチェックボックスはオフになっています。                                                                                                                                                                        |
| [番号 IE 配信のリダイレクト - アウトバウンド (Redirecting Number IE Delivery - Outbound)] | <p>(オプション) コールの自動転送時に最初にリダイレクトした端末番号とコールのリダイレクトの理由を知らせるために、SETUP メッセージに番号 IE のリダイレクトを含めるには、このチェックボックスをオンにします。デフォルトでは、このチェックボックスはオフになっています。</p> <p>この設定値は、デジタル アクセス ゲートウェイ用のすべてのプロトコル上で、SETUP メッセージだけに適用されます。</p>                                                                                          |
| [番号 IE 配信のリダイレクト - インバウンド (Redirecting Number IE Delivery - Inbound)]   | <p>(オプション) コールの自動転送時に最初にリダイレクトした端末番号とコールのリダイレクトの理由を知らせるために、SETUP メッセージに番号 IE のリダイレクトを含めるには、このチェックボックスをオンにします。デフォルトでは、このチェックボックスはオフになっています。</p> <p>この設定値は、デジタル アクセス ゲートウェイ用のすべてのプロトコル上で、SETUP メッセージだけに適用されます。</p>                                                                                          |

表 48-7 T1 PRI トランクまたは E1 PRI トランクのフィールドの説明 (続き)

| フィールド                                                                        | 説明                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                      |
|------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| [IE 表示での付加先行文字を送る (Send Extra Leading Character in Display IE)]              | <p>DisplayIE フィールドに特殊先頭文字バイト (非 ASCII 文字、表示不能) を含めるには、このチェックボックスをオンにします。</p> <p>DisplayIE フィールドからこの文字バイトを除外するには、このチェックボックスをオフにします。</p> <p>このチェックボックスは DMS-100 プロトコルおよび DMS-250 プロトコルだけに適用します。</p> <p>デフォルトでは、このフィールドは無効 (オフ) になっています。</p>                                                                                                                                                                                                                                                                                               |
| [非 ISDN プログレスインジケータ IE を有効に設定 (Setup non-ISDN Progress Indicator IE Enable)] | <p>(オプション) 一部の PBX 上でリングバックを強制するには、このフィールドに値を指定する必要があります。</p> <p>デフォルトでは、このチェックボックスはオフになっています。ユーザが発信コールでリングバック音を受信しない場合だけ、このチェックボックスをオンにしてください。</p> <p>この設定値が使用可能である場合、Cisco Unified Communications Manager は、Q.931 セットアップ メッセージを、[Progress Indicator] フィールドが non-ISDN に設定されているデジタル (つまり、非 H.323) ゲートウェイに送信します。</p> <p>このメッセージは、Cisco Unified Communications Manager ゲートウェイが non-ISDN であること、および宛先デバイスが帯域内呼び出し音を再生しなければならぬことを、宛先デバイスに知らせます。</p> <p>通常、この問題は、デジタル ゲートウェイを介して PBX に接続する Cisco Unified Communications Manager に関連しています。</p> |
| [MCDN チャネル番号拡張ビットを 0 に設定 (MCDN Channel Number Extension Bit Set to Zero)]    | <p>このフィールドは、DMS-100 プロトコルだけに適用されます。インターフェイス識別子が存在することを指定するには、このチェックボックスをオンにします。デフォルトでは、このチェックボックスはオフになっています。</p>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                        |
| [ファシリティ IE でのコール名を送る (Send Calling Name In Facility IE)]                     | <p>このフィールドは、DMS-100 プロトコルだけに適用されます。PBX プロバイダーから得られる値を入力します。有効な値は 0 ~ 255 です。</p>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                        |

表 48-7 T1 PRI トランクまたは E1 PRI トランクのフィールドの説明 (続き)

| フィールド                                                       | 説明                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                |
|-------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| [ インターフェイス識別子あり (Interface Identifier Present)]             | このフィールドは、DMS-100 プロトコルだけに適用されます。インターフェイス識別子が存在することを指定するには、このチェックボックスをオンにします。デフォルトでは、このチェックボックスはオフになっています。                                                                                                                                                                                                                                         |
| [ インターフェイス識別子の値 (Interface Identifier Value)]               | このフィールドは、DMS-100 プロトコルだけに適用されます。PBX プロバイダーから得られる値を入力します。有効な値は 0 ~ 255 です。                                                                                                                                                                                                                                                                         |
| [ 接続先回線 ID の表示 (Connected Line ID Presentation)]            | Cisco Unified Communications Manager が着信側電話番号の表示を許可するか、ブロックするかを選択します。<br><br>着信回線番号の表示を変更しない場合は [ デフォルト (Default)] を選択します。Cisco Unified Communications Manager が 「Connected Line ID Allowed」 を送信するようにする場合は、[ 許可 (Allowed)] を選択します。Cisco Unified Communications Manager が 「Connected Line ID Restricted」 を送信するようにする場合は、[ 非許可 (Restricted)] を選択します。 |
| <b>[UUIE の設定 (UUIE Configuration)]</b>                      |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                   |
| [UUIE を介した優先レベルの通知 (Passing Precedence Level Through UUIE)] | PRI 4ESS UUIE フィールドを使用した MLPP 情報の受け渡しを可能にする場合に、このチェックボックスをオンにします。このボックスは、DRSN スイッチの操作に使用されます。<br><br>このチェックボックスは、このゲートウェイで PRI プロトコルタイプの値に PRI 4ESS が指定されている場合にだけ使用可能になります。<br><br>デフォルト値では、このチェックボックスはオフになっています。                                                                                                                                 |
| [セキュリティアクセスレベル (Security Access Level)]                     | セキュリティアクセスレベルの値を入力します。有効な値は 00 ~ 99 です。このフィールドは、[UUIE を介した優先レベルの通知 (Passing Precedence Level Through UUIE)] チェックボックスがオンの場合にだけ使用可能になります (デフォルト値は 2)。                                                                                                                                                                                               |

表 48-7 T1 PRI トランクまたは E1 PRI トランクのフィールドの説明 (続き)

| フィールド                                                                                                                                                                                                                                        | 説明                                                                                                                                                                                       |
|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <b>[位置情報の設定 (Geo Location Configuration)]</b>                                                                                                                                                                                                |                                                                                                                                                                                          |
| [位置情報 (Geo Location)]                                                                                                                                                                                                                        | ド롭ダウン リスト ボックスから、位置情報を選択します。<br><br>未指定の位置情報を選択できます。これは、このデバイスを位置情報に関連付けないことを示します。<br><br>[システム (System)] > [位置情報の設定 (Geolocation Configuration)] メニュー オプションで設定した位置情報を選択することもできます。       |
| [位置情報フィルタ (Geo Location Filter)]                                                                                                                                                                                                             | ド롭ダウン リスト ボックスから、位置情報フィルタを選択します。<br><br>この値を [なし (None)] のままにすると、このデバイスには位置情報フィルタは適用されません。<br><br>[システム (System)] > [位置情報フィルタ (Geolocation Filter)] メニュー オプションで設定した位置情報フィルタを選択することもできます。 |
| <b>[プロダクト固有の設定 (Product Specific Configuration)]</b>                                                                                                                                                                                         |                                                                                                                                                                                          |
| [プロダクト固有の設定 (Product Specific Configuration)] ではモデル固有のフィールドが定義されています。フィールドの説明、および製品固有の設定項目のヘルプを表示するには、[プロダクト固有の設定 (Product Specific Configuration)] 見出しの右側にある「？」情報アイコンをクリックして、ポップアップ ウィンドウにヘルプを表示してください。詳細な情報が必要な場合は、設定するゲートウェイの資料を参照してください。 |                                                                                                                                                                                          |

## ポートの設定

すべてのポート タイプ設定フィールドの詳細な説明を示す表は、次の項を参照してください。

- 「POTS ポートの設定」(P.48-48)
- 「デジタル アクセス T1 CAS 用の E & M ポートのフィールドの説明」(P.48-50)

ゲートウェイ設定の詳細については、「ゲートウェイの設定」(P.48-15) を参照してください。

### 追加情報

「関連項目」(P.48-52) を参照してください。

## POTS ポートの設定

表 48-8 に、POTS ポートの設定に関する説明があります。関連する手順については、「[関連項目](#)」(P.48-52) を参照してください。

表 48-8 POTS ポートの設定

| フィールド                                                               | 説明                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                    |
|---------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| [ポートタイプ (Port Type)]                                                | [ポートタイプ (Port Type)] ドロップダウンリスト ボックスで、[POTS] を選択します。                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                  |
| [開始ポート番号 (Beginning Port Number)]<br>[終了ポート番号 (Ending Port Number)] | 追加および設定するのが、使用可能なすべてのポートか、単一のポートか、特定の範囲のポートかを、[開始ポート番号 (Beginning Port Number)] フィールドと [終了ポート番号 (Ending Port Number)] フィールドの設定値によって選択します。 <ul style="list-style-type: none"> <li>特定の範囲のポートを指定するには、[開始ポート番号 (Beginning Port Number)] と [終了ポート番号 (Ending Port Number)] に適切な値を選択します。</li> <li>単一のポートを作成するには、[開始ポート番号 (Beginning Port Number)] フィールドと [終了ポート番号 (Ending Port Number)] フィールドで同じ値を選択します。</li> <li>使用可能なすべてのポートを追加するには、[開始ポート番号 (Beginning Port Number)] と [終了ポート番号 (Ending Port Number)] の両方のフィールドに [すべてのポート (All Ports)] を選択します。</li> </ul> |
| [ポートディレクション (Port Direction)]                                       | このポートを通過するコールの方向を選択します。 <ul style="list-style-type: none"> <li>[Inbound] : 着信コールだけに使用します。</li> <li>[Outbound] : 発信コールに使用します。</li> <li>[Bothways] : 着信コールと発信コールに使用します (デフォルト)。</li> </ul>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                              |
| [Audio Signal Adjustment into IP Network]                           | このフィールドには、ポート アプリケーション タイプに対して受信した音声信号に適用するゲインまたは損失を指定します。<br><b>(注)</b> ゲインの設定値が不適切な場合は、音声エコーが発生することがあります。この設定値を調整する場合は注意してください。                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                     |
| [Audio Signal Adjustment from IP Network]                           | このフィールドには、ポート アプリケーション タイプに対して送信した音声信号に適用するゲインまたは損失を指定します。<br><b>(注)</b> ゲインの設定値が不適切な場合は、音声エコーが発生することがあります。この設定値を調整する場合は注意してください。                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                     |
| [プレフィックス DN (Prefix DN)]                                            | 着信コールでこのトランクが受信する数字に付加されるプレフィックス番号を入力します。<br><br>Cisco Unified Communications Manager は、[桁数 (Num Digits)] の設定値に従って番号を切り捨てた後、プレフィックス番号を追加します。                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                          |

表 48-8 POTS ポートの設定 (続き)

| フィールド                                                | 説明                                                                                                                                                                                                                                                                                                                               |
|------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| [桁数(Num Digits)]                                     | <p>収集する有意な数字の桁数を、0 ~ 32 で指定します。</p> <p>Cisco Unified Communications Manager は、コールされる番号の右 (最後の桁) から有意な数字をカウントします。</p> <p>このフィールドは、着信コールを処理し、PRI スパンに入るコールのルーティングに使用する着信側番号の最後の桁から始まる桁数を指定します。「プレフィックス DN(Prefix DN)」を参照してください。</p>                                                                                                |
| [必要な桁数(Expected Digits)]                             | <p>トランクの着信側に必要な桁数を入力します。ほとんど使用しません。不明の場合は、デフォルト値 (ゼロ) をそのまま使用してください。</p>                                                                                                                                                                                                                                                         |
| [Call Restart Timer (1000 ~ 5000 ms)]                | <p>Call Restart Timer (1000 ~ 5000 ms)。ms はミリ秒単位の時間を表します。</p>                                                                                                                                                                                                                                                                    |
| [Offhook Validation Timer (100 ~ 1000 ms)]           | <p>Offhook Validation Timer (100 ~ 1000 ms)。ms はミリ秒単位の時間を表します。</p>                                                                                                                                                                                                                                                               |
| [Onhook Validation Timer (100 ~ 1000 ms)]            | <p>Onhook Validation Timer (100 ~ 1000 ms)。ms はミリ秒単位の時間を表します。</p>                                                                                                                                                                                                                                                                |
| [Hookflash Timer (100 ~ 1500 ms)]                    | <p>Hookflash Timer (100 ~ 1500 ms)。ms はミリ秒単位の時間を表します。</p>                                                                                                                                                                                                                                                                        |
| [SMDI ポート番号 (SMDI Port Number、0-4096)]               | <p>このフィールドはボイス メッセージ システムに接続するアナログ アクセス ポート用に使用します。</p> <p>[SMDI ポート番号 (SMDI Port Number、0-4096)] は、アナログ アクセス ポートが接続されるボイス メッセージ システム上の実際のポート番号と同じ番号に設定します。</p> <p><b>(注)</b> ボイス メッセージ システムが正常に動作するためには、一般にボイスメールの論理ポートが物理ポートに一致する必要があります。</p>                                                                                  |
| <b>[プロダクト固有の設定 (Product Specific Configuration)]</b> |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                  |
| <p>ゲートウェイの製造元が定義するモデル固有の設定フィールド</p>                  | <p>[プロダクト固有の設定 (Product Specific Configuration)] ではモデル固有のフィールドが定義されています。これらのフィールドは動的に設定されるので、事前の通知なく変更されることがあります。</p> <p>フィールドの説明、およびプロダクト固有の設定項目のヘルプを表示するには、[プロダクト固有の設定 (Product Specific Configuration)] 見出しの右にある [?] 情報アイコンをクリックします。ポップアップ ダイアログボックスにヘルプが表示されます。</p> <p>詳細な情報が必要な場合は、設定するゲートウェイのマニュアルを参照するか、製造元に連絡してください。</p> |

**追加情報**

「関連項目」(P.48-52) を参照してください。

## デジタル アクセス T1 CAS 用の E & M ポートのフィールドの説明

Cisco VG200 ゲートウェイ上の T1 CAS トランク用 E&M ポートの値を追加または更新する際には、次のフィールドの説明を参照してください。

Cisco Unified Communications Manager の管理ページで設定された値を表示するフィールドもあります。

BAT ユーザ インターフェイスでは、アスタリスクが付いているフィールドには値を入力する必要があります。アスタリスクのないフィールドでは、入力オプションです。

表 48-9 に、E & M ポートの設定に関する説明があります。関連する手順については、「[関連項目](#)」(P.48-52) を参照してください。

表 48-9 E & M ポートの設定

| フィールド                                                               | 説明                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                    |
|---------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| [ポートタイプ (Port Type)]                                                | [ポートタイプ (Port Type)] ドロップダウン リスト ボックスから、[EANDM] を選択します。                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                               |
| [開始ポート番号 (Beginning Port Number)]<br>[終了ポート番号 (Ending Port Number)] | 追加および設定するのが、使用可能なすべてのポートか、単一のポートか、特定の範囲のポートかを、[開始ポート番号 (Beginning Port Number)] フィールドと [終了ポート番号 (Ending Port Number)] フィールドの設定値によって選択します。 <ul style="list-style-type: none"> <li>特定の範囲のポートを指定するには、[開始ポート番号 (Beginning Port Number)] と [終了ポート番号 (Ending Port Number)] に適切な値を選択します。</li> <li>単一のポートを作成するには、[開始ポート番号 (Beginning Port Number)] フィールドと [終了ポート番号 (Ending Port Number)] フィールドで同じ値を選択します。</li> <li>使用可能なすべてのポートを追加するには、[開始ポート番号 (Beginning Port Number)] と [終了ポート番号 (Ending Port Number)] の両方のフィールドに [すべてのポート (All Ports)] を選択します。</li> </ul> |
| <b>[ポートの詳細 (Port Details)]</b>                                      |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                       |
| [ポートディレクション (Port Direction)]                                       | このポートを通過するコールの方向を選択します。 <ul style="list-style-type: none"> <li>[Inbound] : 着信コールだけに使用します。</li> <li>[Outbound] : 発信コールに使用します。</li> <li>[Bothways] : 着信コールと発信コールに使用します。</li> </ul>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                      |
| [発呼者の選択 (Calling Party Selection)]                                  | ゲートウェイが発信する任意のコールは、電話番号情報を送信できます。どの電話番号が送信されるかを選択してください。 <ul style="list-style-type: none"> <li>[Originator] : コールの発信側デバイスの電話番号を送信します。</li> <li>[First Redirect Number] : リダイレクトするデバイスの電話番号を送信します。</li> <li>[Last Redirect Number] : コールを最後にリダイレクトするデバイスの電話番号を送信します。</li> <li>[First Redirect Number (External)] : 最初にリダイレクトする外部電話マスク適用済みデバイスの電話番号を送信します。</li> <li>[Last Redirect Number (External)] : 最後にリダイレクトする外部電話マスク適用済みデバイスの電話番号を送信します。</li> </ul>                                                                                              |

表 48-9 E &amp; M ポートの設定 (続き)

| フィールド                                                | 説明                                                                                                                                                                                                                                                                                                                               |
|------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| [ 発信者 ID タイプ (Caller ID Type)]                       | <p>発信者 ID のタイプとして次のいずれかを選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• [ANI]: このタイプは、発信者 ID のタイプとして Asynchronous Network Interface (ANI) を使用する場合に選択します。</li> <li>• [DNIS]: このタイプは、発信者 ID のタイプとして Dialed Number Identification Service (DNIS) を使用する場合に選択します。</li> </ul>                                                      |
| [ 発信者 ID DN(Caller ID DN)]                           | <p>発信者回線番号に使用するパターンを 0 ~ 24 桁で入力します。たとえば、北米では次のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• 55XXXX = 可変発信者回線番号。ここで、X は内線番号に相当します。この番号を指定しない場合、CO が、市外局番にこの番号を付加します。</li> <li>• 5555000 = 固定発信者回線番号。コールの発信元である正確な内線番号ではなく、Corporate 番号を送信する場合に使用します。この番号を指定しない場合、CO が、市外局番にこの番号を付加します。</li> </ul>                          |
| [ プレフィックス DN(Prefix DN)]                             | <p>着信コールで着信側番号に付加されるプレフィックス番号を入力します。</p> <p>Cisco Unified Communications Manager は、[ 桁数 (Num Digits)] の設定値に従って番号を切り捨てた後、プレフィックス番号を追加します。</p>                                                                                                                                                                                     |
| [ 桁数 (Num Digits)]                                   | <p>収集する有意な数字の桁数を、0 ~ 32 で選択します。Cisco Unified Communications Manager は、コールされる番号の右 (最後の桁) から有意な数字をカウントします。</p> <p>このフィールドは、[Sig Digits] チェックボックスをオンにした場合に使用します。このフィールドは、着信コールを処理し、PRI スパンに入るコールのルーティングに使用する着信側番号の最後の桁から始まる桁数を指定します。[プレフィックス DN(Prefix DN)] と [Sig Digits] を参照してください。</p>                                           |
| [ 必要な桁数 (Expected Digits)]                           | <p>トランクの着信側に必要な桁数を入力します。ほとんど使用しません。不明の場合は、デフォルト値 (ゼロ) をそのまま使用してください。</p>                                                                                                                                                                                                                                                         |
| [ 不在ポート (Unattended Port)]                           | <p>このデバイスの不在ポートを指定する場合は、このチェックボックスをオンにします。</p>                                                                                                                                                                                                                                                                                   |
| <b>[プロダクト固有の設定 (Product Specific Configuration)]</b> |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                  |
| <p>ゲートウェイの製造元が定義するモデル固有の設定フィールド</p>                  | <p>[プロダクト固有の設定 (Product Specific Configuration)] ではモデル固有のフィールドが定義されています。これらのフィールドは動的に設定されるので、事前の通知なく変更されることがあります。</p> <p>フィールドの説明、およびプロダクト固有の設定項目のヘルプを表示するには、[プロダクト固有の設定 (Product Specific Configuration)] 見出しの右にある [?] 情報アイコンをクリックします。ポップアップ ダイアログボックスにヘルプが表示されます。</p> <p>詳細な情報が必要な場合は、設定するゲートウェイのマニュアルを参照するか、製造元に連絡してください。</p> |

## 関連項目

- 「シスコのゲートウェイの追加」 (P.48-1)
- 「ゲートウェイ テンプレートの検索」 (P.48-3)
- 「ゲートウェイ テンプレートの追加または編集」 (P.48-5)
- 「ゲートウェイの設定」 (P.48-15)
- 「ポートの設定」 (P.48-47)
- 「シスコのゲートウェイの削除」 (P.51-1)
- 「シスコのゲートウェイのレポートの生成」 (P.52-1)



## CHAPTER 49

# ゲートウェイのファイル形式

Cisco Unified Communications Manager 一括管理 (BAT) を使用すると、シスコのゲートウェイのファイル形式を Cisco Unified Communications Manager データベースに一括して設定できます。次のトピックでは、これらのタスクの情報と手順について説明します。

- [ゲートウェイのファイル形式の検索](#)
- [ゲートウェイのファイル形式の設定](#)

## ゲートウェイのファイル形式の検索

ゲートウェイのファイル形式を検索する手順は、次のとおりです。

### 手順

**ステップ 1** [一括管理 (Bulk Administration)] > [ゲートウェイ (Gateways)] > [ゲートウェイファイル形式 (Gateway File Format)] > [ファイル形式の作成 (Create File Format)] の順に選択します。

[ゲートウェイファイル形式の検索と一覧表示 (Gateway File Format Find and List)] ウィンドウが表示されます。

**ステップ 2** データベース内のすべてのレコードを検索するには、ダイアログボックスが空であることを確認して、[ステップ 3](#) に進みます。

レコードをフィルタまたは検索する手順は、次のとおりです。

- 最初のドロップダウン リスト ボックスから、検索パラメータを選択します。
- 2 番目のドロップダウン リスト ボックスから、検索パターンを選択します。
- 必要に応じて、適切な検索テキストを指定します。



**(注)** その他の検索条件を追加するには、[+] ボタンをクリックします。検索条件を追加した場合、指定したすべての検索条件に一致するレコードが検索されます。検索条件を削除するには、[-] ボタンをクリックして、最後に追加した条件を削除するか、[フィルタのクリア (Clear Filter)] ボタンをクリックして、追加した検索条件をすべて削除します。

**ステップ 3** [検索 (Find)] をクリックします。

すべてのレコードまたは一致するレコードが表示されます。[ ページあたりの行数 (Rows per Page)] ドロップダウン リスト ボックスから異なる値を選択すると各ページに表示される項目数を変更できます。



**(注)** 複数のレコードをデータベースから削除するには、該当するレコードの横のチェックボックスをオンにし、[ 選択項目の削除 (Delete Selected)] をクリックします。[すべてを選択 (Select All)] をクリックして [ 選択項目の削除 (Delete Selected)] をクリックすると、この選択内容の設定可能なすべてのレコードを削除できます。

**ステップ 4** 表示されたレコードのリストで、表示するレコードのリンクをクリックします。



**(注)** ソート順序を逆にするには、リスト ヘッダーの上向き矢印または下向き矢印をクリックします (ある場合)。

選択した項目がウィンドウに表示されます。

#### 追加情報

「関連項目」(P.49-6) を参照してください。

## ゲートウェイのファイル形式の設定

次のトピックでは、ゲートウェイのファイル形式の作成、コピー、変更、または削除について説明します。

- 「ファイル形式の作成」(P.49-2)
- 「ファイル形式のコピー」(P.49-3)
- 「ファイル形式の修正」(P.49-4)
- 「ファイル形式の削除」(P.49-5)

## ファイル形式の作成

テキストベースの CSV データ ファイル用のファイル形式を作成する手順は、次のとおりです。

#### 手順

- ステップ 1** [一括管理 (Bulk Administration)] > [ゲートウェイ (Gateways)] > [ゲートウェイファイル形式 (Gateway File Format)] > [ファイル形式の作成 (Create File Format)] の順に選択します。
- ステップ 2** [新規追加 (Add New)] をクリックします。[ゲートウェイファイル形式の作成 (Create Gateway File Format)] ウィンドウが表示されます。
- ステップ 3** [形式名 (Format Name)] フィールドに、このカスタム形式の名前を入力します。

- ステップ 4** [デバイスフィールド(Device Fields)] で、各ゲートウェイに定義するデバイス フィールド名を選択します。[デバイスフィールド(Device Fields)] ボックスで、デバイス フィールド名をクリックしてから矢印をクリックして、そのフィールドを [選択済みのデバイスフィールド(Selected Device Fields)] ボックスに移動します。

[Gateway Name] と [Description] は常に選択されています。

**ヒント**

Ctrl キーを押しながらリスト内の複数のフィールド名を任意に選択し、次に矢印をクリックすると、その複数のフィールドを同時に選択することができます。Shift キーを使用すると、特定範囲の項目を複数同時に選択することができます。

- ステップ 5** [回線フィールド(Line Fields)] ボックスで回線フィールド名をクリックしてから矢印をクリックして、そのフィールドを [選択済みの回線フィールド(Selected Line Fields)] ボックスに移動します。



**(注)** ファイル形式に [回線(Line)] を選択した場合は、必ず [電話番号(Directory Number)] を選択してください。

**ヒント**

[選択済みの回線フィールド(Selected Line Fields)] および [選択済みのデバイスフィールド(Selected Device Fields)] の [ソート順(Order)] ボックス内の項目の順序は変更できます。項目を選択し、上向き矢印を使用してその項目をリストの前方に移動させるか、または下向き矢印を使用してその項目をリストの後方に移動させます。

- ステップ 6** [IP Phone回線の最大数(IP Phone Line Maximums)] 領域で、[回線の最大数(Maximum Number of Lines)] フィールドの最大値を入力します。

- ステップ 7** カスタム ファイル形式を保存するには、[保存(Save)] をクリックします。ファイル形式の名前が、[ゲートウェイファイル形式の検索と一覧表示(Gateway File Format Find and List)] ウィンドウの [名前(Name)] リストに表示されます。

**追加情報**

「関連項目」(P.49-6) を参照してください。

## ファイル形式のコピー

既存の形式をコピーする手順は、次のとおりです。

**手順**

- ステップ 1** 「ゲートウェイのファイル形式の検索」(P.49-1) の手順に従って、コピーするゲートウェイ ファイル形式を検索します。
- ステップ 2** [検索結果(Search Results)] 領域で、コピーするファイル形式を選択します。[ゲートウェイファイル形式の作成(Create Gateway File Format)] ウィンドウが表示されます。

**ステップ 3** [コピー (Copy)] をクリックして選択されたファイル形式をコピーします。



**(注)** [ゲートウェイファイル形式の検索と一覧表示 (Gateway File Format Find and List)] ウィンドウで、対応する [コピー (Copy)] アイコンをクリックして、ファイル形式をコピーすることもできます。

**ステップ 4** [形式名 (Format Name)] フィールドに、コピーした形式の新しい名前を入力します。



**(注)** コピーしたファイルは、「[ファイル形式の修正](#)」(P.49-4) の手順で修正できます。

**ステップ 5** 変更を加えたら、[保存 (Save)] をクリックして、コピーしたファイル形式を変更内容とともにリストに保存します。

#### 追加情報

「[関連項目](#)」(P.49-6) を参照してください。

## ファイル形式の修正

既存のファイル形式を修正する手順は、次のとおりです。修正できるのは、カスタム形式だけです。

#### 手順

**ステップ 1** 「[ゲートウェイのファイル形式の検索](#)」(P.49-1) の手順に従って、修正するゲートウェイ ファイル形式を検索します。

**ステップ 2** [検索結果 (Search Results)] 領域で、修正するファイル形式を選択します。[ゲートウェイファイル形式の作成 (Create Gateway File Format)] ウィンドウが表示されます。

**ステップ 3** 次の方式のいずれかを使用して、形式を修正します。

- 新しいフィールドを追加するには、[デバイスフィールド (Device Fields)] ボックスまたは [回線フィールド (Line Fields)] ボックスからフィールドを選択してから矢印をクリックし、選択したフィールドを [選択済みのデバイスフィールド (Selected Device Fields)] または [選択済みの回線フィールド (Selected Line Fields)] の [ソート順 (Order)] ボックスに移動します。
- フィールドを削除するには、[選択済みのデバイスフィールド (Selected Device Fields)] または [選択済みの回線フィールド (Selected Line Fields)] の [ソート順 (Order)] ボックスからフィールドを選択してから矢印をクリックし、選択したフィールドを [デバイスフィールド (Device Fields)] ボックスまたは [回線フィールド (Line Fields)] ボックスに移動します。



**(注)** [Gateway Name] と [Description] の必須フィールドは削除できません。

- フィールドの順序を変更するには、[選択済みのデバイスフィールド (Selected Device Fields)] または [選択済みの回線フィールド (Selected Line Fields)] の [ソート順 (Order)] ボックスのフィールド名を選択し、上向き矢印または下向き矢印を使用してフィールドの位置を変更します。

**ステップ 4** 変更を加えたら、[保存 (Save)] をクリックして変更内容をファイル形式に保存します。

**追加情報**

「関連項目」(P.49-6) を参照してください。

## ファイル形式の削除

CSV データ ファイルの既存のファイル形式を削除する手順は、次のとおりです。削除できるのは、カスタム形式だけです。

**手順**

- ステップ 1** 「ゲートウェイのファイル形式の検索」(P.49-1) の手順に従って、削除するゲートウェイ ファイル形式を検索します。
- ステップ 2** [検索結果(Search Results)] 領域で、削除するファイルが正しいことを確認します。
- ステップ 3** リストからファイル形式を削除するには、[選択項目の削除(Delete Selected)] をクリックします。ファイル形式の削除を確認するメッセージが表示されます。[OK] をクリックして続行します。ファイル形式名がリストから削除されます。



(注) [選択項目の削除(Delete Selected)] をクリックする前に、表示された結果のリストを全部確認してください。

## ファイル形式と CSV データ ファイルの関連付け

テキスト エディタを使用して CSV データ ファイルを作成した場合は、テキストベースのファイルに値を入力するためのファイル形式をすでに作成したということになります。値は、ファイル形式で指定されている順序でテキスト ファイルに入力済みです。

CSV データ ファイルが完成したら、ファイル形式をテキストベースの CSV データ ファイルに関連付ける必要があります。ファイル形式を CSV ファイルに関連付けると、各フィールドの名前は CSV データ ファイルの最初のレコードとして表示されます。この情報を使用して、各フィールドの値を正しい順序で入力してあることが確認できます。

テキストベースの CSV データ ファイルでファイル形式を追加する手順は、次のとおりです。

**手順**

- ステップ 1** [一括管理(Bulk Administration)] > [ゲートウェイ(Gateways)] > [ゲートウェイファイル形式(Gateway File Format)] > [ファイル形式の追加(Add File Format)] の順に選択します。[ゲートウェイファイル形式の追加(Add Gateway File Format)] ウィンドウが表示されます。
- ステップ 2** [ファイル名(File Name)] フィールドで、このトランザクション用に作成したテキストベースの CSV ファイルを選択します。
- ステップ 3** [形式ファイル名(Format File Name)] フィールドで、このタイプのバルク トランザクション用に作成したファイル形式を選択します。
- ステップ 4** 一致するファイル形式を CSV データ ファイルに関連付けるジョブを作成するには、[送信 (Submit)] をクリックします。

**ステップ 5** [一括管理 (Bulk Administration)] メイン メニューの [ジョブスケジューラ (Job Scheduler)] オプションを使用して、このジョブのスケジュールやアクティブ化を行います。

ジョブの詳細については、[第 82 章「ジョブのスケジュール」](#)を参照してください。

---

#### 追加情報

[「関連項目」\(P.49-6\)](#) を参照してください。

## 関連項目

- [「ゲートウェイのファイル形式の検索」\(P.49-1\)](#)
- [「ゲートウェイのファイル形式の設定」\(P.49-2\)](#)



## CHAPTER 50

# ゲートウェイの挿入

次のトピックでは、Cisco Unified Communications Manager データベースにゲートウェイを挿入する方法について説明します。

- 「Cisco VG200 ゲートウェイ用 CSV データ ファイルの作成」 (P.50-1)
- 「Cisco VG224 ゲートウェイ用 CSV データ ファイルの作成」 (P.50-4)
- 「Cisco Catalyst 6000 (FXS) ポート用 CSV データ ファイルの作成」 (P.50-3)
- 「Cisco VG202 および VG204 ゲートウェイ用 CSV データ ファイルの作成」 (P.50-6)
- 「Cisco Unified Communications Manager へのゲートウェイの挿入」 (P.50-9)

## Cisco VG200 ゲートウェイ用 CSV データ ファイルの作成

BAT スプレッドシートを使用して、VG200 ゲートウェイおよびポート用の CSV データ ファイルが作成できます。次の項を参照してください。

- 「Cisco VG200 T1 CAS、T1 PRI、E1 PRI、FXS、または FXO ゲートウェイおよびポート用 CSV データ ファイルのための BAT スプレッドシートの使用方法」 (P.50-1)

テキスト エディタを使用して VG200 ゲートウェイおよびポート用の CSV 形式のテキスト ファイルが作成できます。次の項を参照してください。

- 「Cisco VG200 ゲートウェイ用のテキストベース CSV ファイルの作成」 (P.A-15)

## Cisco VG200 T1 CAS、T1 PRI、E1 PRI、FXS、または FXO ゲートウェイおよびポート用 CSV データ ファイルのための BAT スプレッドシートの使用方法

BAT スプレッドシートを使用して、個々の T1 CAS、T1 PRI、E1 PRI、FXS、または FXO ポートの詳細情報（たとえば、ドメイン名、MGCP 説明、およびポート識別子）を含む CSV データ ファイルを作成します。

BAT スプレッドシートのインストール方法と使用方法については、「BAT スプレッドシートをデータ収集に使用する方法」 (P.1-9) を参照してください。

VG200 ゲートウェイ用にテキストベースの CSV データ ファイルを作成する場合は、「T1 CAS トランク、T1 PRI トランク、または E1 PRI トランクのファイル形式」 (P.A-17) の情報と例を参照してください。

VG200 ゲートウェイ用にテキストベースの CSV データ ファイルを作成する場合は、「FXO トランクまたは FXS トランクの CSV ファイル形式」 (P.A-16) の情報と例を参照してください。

## 手順

- ステップ 1** BAT.xlt ファイルを検索し、ダブルクリックして、BAT スプレッドシートを開きます。
- ステップ 2** プロンプトが表示されたら、[マクロを有効にする] ボタンをクリックして、スプレッドシート機能を使用します。
- ステップ 3** [VG200 T1-Pri T1-CAS E1-Pri FXSFXO] タブをクリックします。
- ステップ 4** T1 CAS エンドポイントの場合に限り、[Number of Port Identifiers] フィールドが表示されるまで右にスクロールします。Cisco VG200 ゲートウェイごとに追加するポート識別子の数を入力します。1 つのポート識別子だけを使用する場合は、このステップをスキップしてください。
- ステップ 5** 各行に、次のフィールド用の情報を指定します。

- [Domain Name]: ゲートウェイを識別する名前を 1 ~ 64 文字で入力します。DNS ホスト名が正しく解決するように設定されている場合は、そのホスト名を使用します。そのように設定されていない場合は、Cisco MGCP ゲートウェイで定義されているとおりのホスト名を使用してください。

ホスト名は Cisco IOS ゲートウェイ上で設定されているホスト名と正確に一致している必要があります。たとえば、ホスト名が `vg200-1` に解決されるようにゲートウェイ上で設定され、IP ドメイン名が設定されていない場合、このフィールドには、そのホスト名を入力します（この場合、`vg200-1`）。ホスト名が `vg200-1` としてゲートウェイ上で設定され、IP ドメイン名が `cisco.com` としてゲートウェイ上で設定されている場合、このフィールドには `vg200-1.cisco.com` と入力します。

- [Description]: ゲートウェイの説明を 100 文字以下で入力します。ゲートウェイの検索に役立つ固有の説明を使用します。
- [Port Description]: ポートの説明を 50 文字以下で入力します。ポートのリスト内でポートの識別に役立つ説明を使用します。この要件は、ポート 2 ~ ポート 4 の [Description] フィールドに入力する場合にも当てはまります。
- [Port Directory Number]: このポートの電話番号を 24 桁以下の数字と特殊文字で入力します。この要件は、ポート 2 ~ ポート 4 の [Directory Number] フィールドに入力する場合にも当てはまります。



**(注)** [Port 1 Directory Number] フィールドと [Port 1 Partition] フィールドが必要なのは FXS ポートだけです。FXO ポートでは、これらのフィールドはブランクのままにします。

- [Slot]: 設定を試みているスロット番号を入力します。VG200 の場合は、常に 1 です。
- [Subunit]: サブユニットの値を表す整数を入力します。
- [Port Number]: ポート番号を表す整数を入力します。



**(注)** T1 CAS の場合に限り、ここで指定するポートは、VG200 テンプレートに指定されているポートと同じでなければなりません。CSV データ ファイルでは、テンプレートで設定されているポートは、「none」、「some」、または「all ports」と指定できます。テンプレートで設定されていないポートを、CSV データで設定しないでください。BAT VG200 テンプレートおよび CSV ファイルを挿入しようとするエラーが発生します。

たとえば、ポート 1、2、3、および 4 をテンプレートで設定した場合、CSV ファイルでは、ポートを設定しない、ポート 1、2、3、4 を設定する、またはポート 1 と 2 のみを設定することはいずれも可能で、挿入は受け付けられます。ただし、CSV ファイルでポート 5 および 6 を設定した場合、それらがテンプレートで設定されていないと、BAT で挿入エラーが発生します。

**ステップ 6** [Export to BAT Format] をクリックして、BAT Excel スプレッドシートから CSV ファイルにデータを転送します。

このファイルは、次の名前が付けられて、C:\XLSDataFiles（または、指定した別の既存フォルダ）に保存されます。

VG200Gateways#timestamp.txt

ここで、「timestamp」は、このファイルが作成された正確な日時を表します。



**ヒント** いずれかのフィールドにカンマを入力した場合、BAT.xlt を使用して BAT 形式にエクスポートするときに、そのフィールド エントリは二重引用符で囲われます。

スプレッドシートに空白行を入力すると、その空の行はファイルの終わりとして扱われず。空白行の後に入力されたデータは、BAT 形式には変換されません。

CSV データ ファイルを Cisco Unified Communications Manager サーバの最初のノードにアップロードして、BAT からこのデータ入力ファイルにアクセスできるようにする必要があります。詳細については、「[ファイルのアップロードとダウンロード](#)」(P.2-1) を参照してください。



**(注)** エクスポートされた CSV ファイルを読み取る方法については、BAT の [ゲートウェイの挿入 (Insert Gateways Configuration)] ウィンドウで、[サンプルファイルの表示 (View Sample File)] へのリンクをクリックしてください。

#### 追加情報

「[関連項目](#)」(P.50-10) を参照してください。

## Cisco Catalyst 6000 (FXS) ポート用 CSV データ ファイルの作成

個々の Cisco Catalyst 6000 (FXS) ポートそれぞれの詳細情報（たとえば、電話番号、ポート説明）を含む CSV データ ファイルを作成するには、BAT スプレッドシートを使用します。

BAT スプレッドシートのインストール方法と使用方法については、「[BAT スプレッドシートをデータ収集に使用する方法](#)」(P.1-9) を参照してください。

Catalyst 6000 (FXS) ポート用にテキストベースの CSV データ ファイルを作成する場合は、「[Cisco Catalyst 6000 FXS ポート用のテキストベース CSV ファイルの作成](#)」(P.A-19) を参照してください。

#### 手順

**ステップ 1** BAT.xlt ファイルを見つけ、ダブルクリックして、BAT スプレッドシートを開きます。

**ステップ 2** プロンプトが表示されたら、[マクロを有効にする] ボタンをクリックして、スプレッドシート機能を使用します。

**ステップ 3** [Catalyst 6000 (FXS) Ports] タブをクリックします。

**ステップ 4** ポート レコードそれぞれの情報を 1 行に入力します。すべての必須フィールド、および該当するオプション フィールドに値を入力します。各欄の見出しは、フィールドの長さを指定しています。

- [MAC Address] : ゲートウェイの MAC アドレスを 12 文字で入力します。
- [Port Number] : ゲートウェイに追加するポート番号 (1 ~ 24) を数値で入力します。
- [Directory Number] : このポートの電話番号を 24 桁以下の数字と特殊文字で入力します。  
[Partition] を指定した場合は、この値を必ず入力してください (オプション)。
- [Partition] : このポートが属するルート パーティションを 50 文字以下で入力します。電話番号を指定している場合以外は、この値を指定しないでください (オプション)。



**注意**

スプレッドシート内の空白行は End of File (ファイルの終わり) として扱われ、それ以降のレコードは廃棄されます。

**ステップ 5** [Export to BAT Format] をクリックして、BAT Excel スプレッドシートから CSV ファイルにデータを転送します。

このファイルは C:\XLSDataFiles¥ (または、別の既存フォルダを指定) に保存されます。

CSV データ ファイルを Cisco Unified Communications Manager サーバの最初のノードにアップロードして、BAT からこのデータ入力ファイルにアクセスできるようにする必要があります。詳細については、「[ファイルのアップロードとダウンロード](#)」(P.2-1) を参照してください。



**(注)** エクスポートされた CSV ファイルを読み取る方法については、BAT の [ゲートウェイの挿入 (Insert Gateways Configuration)] ウィンドウで、[サンプルファイルの表示 (View Sample File)] へのリンクをクリックしてください。

## Cisco VG224 ゲートウェイ用 CSV データ ファイルの作成

BAT スプレッドシートを使用して、VG200 ゲートウェイおよびポート用の CSV データ ファイルが作成できます。次の項を参照してください。

- 「[Cisco VG200 T1 CAS、T1 PRI、E1 PRI、FXS、または FXO ゲートウェイおよびポート用 CSV データ ファイルのための BAT スプレッドシートの使用方法](#)」(P.50-1)

テキスト エディタを使用して VG200 ゲートウェイおよびポート用の CSV 形式のテキスト ファイルが作成できます。次の項を参照してください。

- 「[Cisco VG200 ゲートウェイ用のテキストベース CSV ファイルの作成](#)」(P.A-15)

## Cisco VG224 FXS ゲートウェイおよびポート用 CSV データ ファイルの BAT スプレッドシートの使用

BAT スプレッドシートを使用して、個々の FXS ポートの詳細情報（ドメイン名、MGCP 説明、ポート識別子など）を含む CSV データ ファイルを作成します。

BAT スプレッドシートのインストール方法と使用方法については、「[BAT スプレッドシートをデータ収集に使用する方法](#)」(P.1-9) を参照してください。

VG224 ゲートウェイ用にテキストベースの CSV データ ファイルを作成する場合は、「[VG224 用の FXS トランク CSV ファイル形式](#)」(P.A-18) の情報と例を参照してください。

### 手順

- ステップ 1** **BAT.xlt** ファイルを検索し、ダブルクリックして、BAT スプレッドシートを開きます。
- ステップ 2** プロンプトが表示されたら、[マクロを有効にする] ボタンをクリックして、スプレッドシート機能を使用します。
- ステップ 3** [VG224] タブをクリックします。
- ステップ 4** MGCP プロトコルの場合は [MGCP Gateway] オプション ボタンを、SCCP プロトコルの場合は [SCCP Gateway] オプション ボタンをクリックします。
- ステップ 5** MGCP を選択した場合は、[ステップ 6](#) に進みます。SCCP を選択した場合は、[Create File Format] ボタンがスプレッドシートに表示されます。
  - a. [Create File Format] をクリックします。[Field Selection] ウィンドウが表示されます。
  - b. [Device Fields] ボックスから必要なデバイス フィールドを選択し、[>>] ボタンをクリックして、選択したフィールドを [Selected Device Fields] ボックスに移動します。
  - c. [Line Fields] ボックスから回線フィールドを選択し、[>>] ボタンをクリックして、選択したフィールドを [Selected Line Fields] ボックスに移動します。
  - d. 選択済みのフィールドの順序を変更するには、[Up] ボタンおよび [Down] ボタンを使用します。
  - e. [ << ] ボタンをクリックすると、選択済みのフィールドのリストからフィールドを削除できます。
  - f. 必要なフィールドの選択が終わったら、[Create] をクリックして、選択済みのフィールドを VG224 シートに追加します。
- ステップ 6** 各行に、次のフィールド用の情報を指定します。
  - [Domain Name] : ゲートウェイを識別する名前を 1 ~ 64 文字で入力します。DNS ホスト名が正しく解決するように設定されている場合は、そのホスト名を使用します。そのように設定されていない場合は、Cisco MGCP ゲートウェイで定義されているとおりのホスト名を使用してください。

ホスト名は Cisco IOS ゲートウェイ上で設定されているホスト名と正確に一致している必要があります。たとえば、ホスト名が `vg224-1` に解決されるようにゲートウェイ上で設定され、IP ドメイン名が設定されていない場合、このフィールドには、そのホスト名を入力します（この場合、`vg224-1`）。ホスト名が `vg224-1` としてゲートウェイ上で設定され、IP ドメイン名が `cisco.com` としてゲートウェイ上で設定されている場合、このフィールドには `vg224-1.cisco.com` と入力します。
  - [Description] : ゲートウェイの説明を 100 文字以下で入力します。ゲートウェイの検索に役立つ固有の説明を使用します。
  - [Port Description] : ポートの説明を 50 文字以下で入力します。ポートのリスト内でポートの識別に役立つ説明を使用します。この要件は、ポート 2 ~ ポート 4 の [Description] フィールドに入力する場合にも当てはまります。

- [Port Directory Number] : このポートの電話番号を 24 桁以下の数字と特殊文字で入力します。この要件は、ポート 2 ~ポート 4 の [Directory Number] フィールドに入力する場合にも当てはまります。



(注) [Port 1 Directory Number] フィールドと [Port 1 Partition] フィールドが必要なのは FXS ポートだけです。FXO ポートでは、これらのフィールドは空白のままにします。

- [Slot 2] : 設定を試みているスロット番号を入力します。VG224 の場合、スロットは常に 2 です。
- [Subunit] : サブユニットの値を表す整数を入力します。VG224 の場合、サブユニットは常に 0 です。
- [Port Number] : ポート番号を表す整数を入力します。

**ステップ 7** [Export to BAT Format] をクリックして、BAT Excel スプレッドシートから CSV ファイルにデータを転送します。

このファイルは、次の名前が付けられて、C:\¥XLSDataFiles（または、指定した別の既存フォルダ）に保存されます。

VG224Gateways#timestamp.txt

ここで、「timestamp」は、このファイルが作成された正確な日時を表します。



**ヒント** いずれかのフィールドにカンマを入力した場合、BAT.xlt を使用して BAT 形式にエクスポートするときに、そのフィールド エントリは二重引用符で囲まれます。

スプレッドシートに空白行を入力すると、その空の行はファイルの終わりとして扱われます。空白行の後に入力されたデータは、BAT 形式には変換されません。

CSV データ ファイルを Cisco Unified Communications Manager サーバの最初のノードにアップロードして、BAT からこのデータ入力ファイルにアクセスできるようにする必要があります。詳細については、「[ファイルのアップロードとダウンロード](#)」(P.2-1) を参照してください。



(注) エクスポートされた CSV ファイルを読み取る方法については、BAT の [ゲートウェイの挿入 (Insert Gateways Configuration)] ウィンドウで、[サンプルファイルの表示 (View Sample File)] へのリンクをクリックしてください。

#### 追加情報

「[関連項目](#)」(P.50-10) を参照してください。

## Cisco VG202 および VG204 ゲートウェイ用 CSV データ ファイルの作成

BAT スプレッドシートを使用して、VG202 および VG204 ゲートウェイおよびポート用の CSV データ ファイルが作成できます。次の項を参照してください。

- 「[Cisco VG202 および VG204 FXS ゲートウェイおよびポート用 CSV データ ファイルの BAT スプレッドシートの使用](#)」(P.50-7)

テキスト エディタを使用して VG202 および VG204 ゲートウェイおよびポート用の CSV 形式のテキスト ファイルが作成できます。次の項を参照してください。

- 「[Cisco VG202 および VG204 ゲートウェイ用のテキストベース CSV ファイルの作成](#)」(P.A-20)

## Cisco VG202 および VG204 FXS ゲートウェイおよびポート用 CSV データ ファイルの BAT スプレッドシートの使用

BAT スプレッドシートを使用して、個々の FXS ポートの詳細情報（ドメイン名、MGCP 説明、ポート識別子など）を含む CSV データ ファイルを作成します。

BAT スプレッドシートのインストール方法と使用方法については、「[BAT スプレッドシートをデータ収集に使用する方法](#)」(P.1-9) を参照してください。

VG202 および VG204 ゲートウェイ用にテキストベースの CSV データ ファイルを作成する場合は、「[VG202 および VG204 ゲートウェイ用の CSV ファイル形式](#)」(P.A-21) の情報と例を参照してください。

### 手順

- ステップ 1** **BAT.xlt** ファイルを検索し、ダブルクリックして、BAT スプレッドシートを開きます。
- ステップ 2** プロンプトが表示されたら、[マクロを有効にする] ボタンをクリックして、スプレッドシート機能を使用します。
- ステップ 3** [VG202-VG204] タブをクリックします。
- ステップ 4** MGCP の場合は [MGCP] オプション ボタンを、SCCP の場合は [SCCP] オプション ボタンをクリックします。
- ステップ 5** MGCP を選択した場合は、[ステップ 6](#) に進みます。SCCP を選択した場合は、[Create File Format] ボタンがスプレッドシートに表示されます。
  - a. [Create File Format] をクリックします。[Field Selection] ウィンドウが表示されます。
  - b. [Device Fields] ボックスから必要なデバイス フィールドを選択し、[>>] ボタンをクリックして、選択したフィールドを [Selected Device Fields] ボックスに移動します。
  - c. [Line Fields] ボックスから回線フィールドを選択し、[>>] ボタンをクリックして、選択したフィールドを [Selected Line Fields] ボックスに移動します。
  - d. 選択済みのフィールドの順序を変更するには、[Up] ボタンおよび [Down] ボタンを使用します。
  - e. [<<] ボタンをクリックすると、選択済みのフィールドのリストからフィールドを削除できます。
  - f. 必要なフィールドの選択が終わったら、[Create] をクリックして、選択済みのフィールドを VG224 シートに追加します。
- ステップ 6** 各行に、次のフィールド用の情報を指定します。
  - [Domain Name/MAC Address] : ゲートウェイを示す 1 ~ 64 文字の名前を入力します。DNS ホスト名が正しく解決するように設定されている場合は、そのホスト名を使用します。そのように設定されていない場合は、Cisco MGCP ゲートウェイで定義されているとおりのホスト名を使用してください。SCCP ゲートウェイの場合は、MAC アドレスを使用します。

ホスト名は Cisco IOS ゲートウェイ上で設定されているホスト名と正確に一致している必要があります。たとえば、ホスト名が `vg204-1` に解決されるようにゲートウェイ上で設定され、IP ドメイン名が設定されていない場合、このフィールドには、そのホスト名を入力します（この場合、`vg204-1`）。ホスト名が `vg204-1` としてゲートウェイ上で設定され、IP ドメイン名が `cisco.com` としてゲートウェイ上で設定されている場合、このフィールドには `vg204-1.cisco.com` と入力します。
  - [Description] : ゲートウェイの説明を 100 文字以下で入力します。ゲートウェイの検索に役立つ固有の説明を使用します。
  - [Slot] : 設定を試みているスロット番号を入力します。VG202 および VG204 の場合、スロットは常に 0 です。

- [Subunit] : サブユニットの値を表す整数を入力します。VG202 および VG204 の場合、サブユニットは常に 0 です。
- [Port Directory Number] : このポートの電話番号を 24 桁以下の数字と特殊文字で入力します。この要件は、ポート 2 ~ ポート 4 の [Directory Number] フィールドに入力する場合にも当てはまります。



(注) [Port 1 Directory Number] フィールドと [Port 1 Partition] フィールドが必要なのは FXS ポートだけであることを注意してください。

- [Port Number] : ポート番号を表す整数を入力します。
- [Port Description] : ポートの説明を 50 文字以下で入力します。ポートのリスト内でポートの識別に役立つ説明を使用します。この要件は、ポート 2 ~ ポート 4 の [Description] フィールドに入力する場合にも当てはまります。

**ステップ 7** [Export to BAT Format] をクリックして、BAT Excel スプレッドシートから CSV ファイルにデータを転送します。

このファイルは、次の名前が付けられて、C:\XLSDataFiles（または、指定した別の既存フォルダ）に保存されます。

VG202Gateways#timestamp.txt または VG204Gateways#timestamp.txt

ここで、「timestamp」は、このファイルが作成された正確な日時を表します。



**ヒント** いずれかのフィールドにカンマを入力した場合、BAT.xlt を使用して BAT 形式にエクスポートするときに、そのフィールド エントリは二重引用符で囲まれます。

スプレッドシートに空白行を入力すると、その空の行はファイルの終わりとして扱われません。空白行の後に入力されたデータは、BAT 形式には変換されません。

CSV データ ファイルを Cisco Unified Communications Manager サーバの最初のノードにアップロードして、BAT からこのデータ入力ファイルにアクセスできるようにする必要があります。詳細については、「[ファイルのアップロードとダウンロード](#)」(P.2-1) を参照してください。



(注) エクスポートされた CSV ファイルを読み取る方法については、BAT の [ゲートウェイの挿入 (Insert Gateways Configuration)] ウィンドウで、[サンプルファイルの表示 (View Sample File)] へのリンクをクリックしてください。

#### 追加情報

「[関連項目](#)」(P.50-10) を参照してください。

# Cisco Unified Communications Manager へのゲートウェイの挿入

シスコのゲートウェイおよびポートを Cisco Unified Communications Manager に追加する手順は、次のとおりです。

## 始める前に

- Cisco VG200 ゲートウェイを挿入する場合は、トランクまたはポートの Cisco VG200 ゲートウェイ テンプレートと VG200 ゲートウェイ ポートの CSV データ ファイルが必要です。詳細については、「[Cisco VG200 ゲートウェイ テンプレートの作成](#)」(P.48-5)と「[Cisco VG200 ゲートウェイ用 CSV データ ファイルの作成](#)」(P.50-1)を参照してください。
- Cisco Catalyst 6000 Port を挿入する場合は、Cisco Catalyst 6000 Ports テンプレートと、このバルク トランザクションに関するポートの詳細を含む CSV データ ファイルが必要です。詳細については、「[Cisco Catalyst 6000 \(FXS\) ゲートウェイ テンプレートの作成](#)」(P.48-10)と「[Cisco Catalyst 6000 \(FXS\) ポート用 CSV データ ファイルの作成](#)」(P.50-3)を参照してください。
- Cisco VG224 ゲートウェイを挿入する場合は、トランクまたはポートの Cisco VG224 ゲートウェイ テンプレートと VG224 ゲートウェイ ポートの CSV データ ファイルが必要です。詳細については、「[Cisco VG200 ゲートウェイ テンプレートの作成](#)」(P.48-5)と「[Cisco VG200 ゲートウェイ用 CSV データ ファイルの作成](#)」(P.50-1)を参照してください。
- Cisco VG202 または VG204 ゲートウェイを挿入する場合は、トランクまたはポートの Cisco VG202 または VG204 ゲートウェイ テンプレートと、VG202 または VG204 ゲートウェイ ポートの CSV データ ファイルが必要です。詳細については、「[Cisco VG202 または VG204 ゲートウェイ テンプレートの作成](#)」(P.48-13)と「[Cisco VG202 および VG204 ゲートウェイ用 CSV データ ファイルの作成](#)」(P.50-6)を参照してください。

## 手順

- ステップ 1** [一括管理 (Bulk Administration)] > [ゲートウェイ (Gateways)] > [ゲートウェイの挿入 (Insert Gateways)] の順に選択します。[ゲートウェイの挿入 (Insert Gateways Configuration)] ウィンドウが表示されます。
- ステップ 2** [ゲートウェイタイプ (Gateway Type)] ドロップダウン リスト ボックスから、挿入するゲートウェイのタイプを選択します。[ゲートウェイの挿入 (Insert Gateways Configuration)] ウィンドウが表示されます。
- ステップ 3** [ファイル名 (File Name)] フィールドのドロップダウン リスト ボックスで、追加する Cisco VG200 ゲートウェイ情報が格納されている CSV データ ファイルの名前を選択します。
- ステップ 4** [ゲートウェイテンプレート名 (Gateway Template Name)] フィールドで、このタイプのバルク トランザクション用に作成した VG200 または FXS ゲートウェイ テンプレートの名前を選択します。
- ステップ 5** [既存の設定の上書き (Override the existing configuration)] チェックボックスをオンにすると、既存のゲートウェイの設定が、挿入するファイルに含まれている情報によって上書きされます。
- ステップ 6** [ジョブ情報 (Job Information)] 領域に、ジョブの説明を入力します。
- ステップ 7** [今すぐ実行 (Run Immediately)] オプション ボタンをクリックしてゲートウェイを即座に挿入するか、[後で実行 (Run Later)] をクリックして後で挿入します。
- ステップ 8** [送信 (Submit)] をクリックして、ゲートウェイを挿入するジョブを作成します。

**ステップ 9** [一括管理 (Bulk Administration)] メイン メニューの [ジョブスケジューラ (Job Scheduler)] オプションを使用して、このジョブのスケジュールやアクティブ化を行います。

ジョブの詳細については、[第 82 章「ジョブのスケジュール」](#)を参照してください。

ログ ファイルの詳細については、「[BAT ログ ファイル \(P.83-3\)](#)」を参照してください。

#### 追加情報

「[関連項目 \(P.50-10\)](#)」を参照してください。

---

## 関連項目

- 「[Cisco VG200 ゲートウェイ用 CSV データ ファイルの作成 \(P.50-1\)](#)」
- 「[Cisco Catalyst 6000 \(FXS\) ポート用 CSV データ ファイルの作成 \(P.50-3\)](#)」
- 「[Cisco VG224 ゲートウェイ用 CSV データ ファイルの作成 \(P.50-4\)](#)」
- 「[Cisco VG202 および VG204 ゲートウェイ用 CSV データ ファイルの作成 \(P.50-6\)](#)」
- 「[Cisco Unified Communications Manager へのゲートウェイの挿入 \(P.50-9\)](#)」



# CHAPTER 51

## シスコのゲートウェイの削除

---

削除する記録を探すには、クエリー フィルタを定義する必要があります。Cisco Unified Communications Manager データベースからゲートウェイのグループを削除する手順は、次のとおりです。

[ゲートウェイの削除 (Delete Gateways Configuration)] ウィンドウでは、Cisco VG200 ゲートウェイと Cisco Catalyst 6000 ゲートウェイだけを削除できます。

## シスコのゲートウェイの削除

Cisco Unified Communications Manager からゲートウェイを削除する手順は、次のとおりです。

### 手順

- 
- ステップ 1** [一括管理 (Bulk Administration)] > [ゲートウェイ (Gateways)] > [ゲートウェイの削除 (Delete Gateways)] の順に選択します。
- [削除するゲートウェイの検索と一覧表示 (Find and List Gateways To Delete)] ウィンドウが表示されます。
- ステップ 2** [削除 ゲートウェイ、検索条件:(Delete Gateways where)] ドロップダウン リスト ボックスから、次のいずれかのオプションを選択します。
- [名前 (Name)]
  - [説明 (Description)]
  - [DN/ ルートパターン (DN/Route Pattern)]
  - [コーリングサーチスペース (Calling Search Space)]
  - [デバイスプール (Device Pool)]
  - [デバイスタイプ (Device Type)]
- ステップ 3** 2 番目の [検索対象: ゲートウェイ、検索条件 (Find Gateways where)] ドロップダウン リスト ボックスで、次のいずれかの検索条件を選択します。
- [が次の文字列で始まる (begins with)]
  - [が次の文字列を含む (contains)]
  - [が次の文字列と等しい (is exactly)]
  - [が次の文字列で終わる (ends with)]

- [ が空である (is empty)]
- [ が空ではない (is not empty)]

**ステップ 4** 3 番目のドロップダウン リスト ボックスで、[ 表示 (Show)] を選択して関連のエンドポイントを表示します。

**ステップ 5** 必要に応じて、適切な検索テキストを指定します。



**ヒント** データベースに登録されたすべてのゲートウェイを検索するには、検索テキストを入力せずに [ 検索 (Find)] をクリックします。

**ステップ 6** 複数のフィルタを追加するには、[AND] または [OR] をクリックします。クエリーをさらに定義するには、ステップ 2 ~ 5 を繰り返します。

**ステップ 7** [ 検索 (Find)] をクリックします。

検索されたテンプレートのリストが、次の項目別に表示されます。

- [ デバイス名 (Device Name)]
- [ 説明 (Description)]
- [ デバイスプール (Device Pool)]
- [ ステータス (Status)]
- [IP アドレス (IP Address)]

**ステップ 8** [ ジョブ情報 (Job Information)] 領域に、ジョブの説明を入力します。

**ステップ 9** [今すぐ実行 (Run Immediately)] オプション ボタンをクリックしてゲートウェイを即座に削除するか、[後で実行 (Run Later)] をクリックして後で削除します。

**ステップ 10** [送信 (Submit)] をクリックして、ゲートウェイ レコードを削除するジョブを作成します。

**ステップ 11** [一括管理 (Bulk Administration)] メイン メニューの [ジョブスケジューラ (Job Scheduler)] オプションを使用して、このジョブのスケジュールやアクティブ化を行います。

ジョブの詳細については、[第 82 章「ジョブのスケジュール」](#) を参照してください。

ログ ファイルの詳細については、「[BAT ログ ファイル \(P.83-3\)](#)」を参照してください。



#### 注意

クエリー テキストボックスに情報を何も入力しないと、すべてのゲートウェイ レコードが削除されます。削除は最終的な操作なので、削除したレコードは復元できません。

#### 追加情報

「[関連項目 \(P.51-2\)](#)」を参照してください。

## 関連項目

- 「[シスコのゲートウェイの削除 \(P.51-1\)](#)」
- 「[Cisco Unified Communications Manager へのゲートウェイの挿入 \(P.50-9\)](#)」
- 「[ジョブのスケジュール \(P.82-1\)](#)」
- 「[BAT ログ ファイル \(P.83-3\)](#)」



## CHAPTER 52

# シスコのゲートウェイのレポートの生成

VGXXX ゲートウェイのレポートは固定形式です。すべての VGXXX ゲートウェイ、または限定されたゲートウェイのセットのレポートを生成できます。



(注)

レポートを生成できるのは、VG200、VG224、VG202、VG204 ゲートウェイに対してだけです。

## シスコのゲートウェイのレポートの生成

シスコのゲートウェイのレポートを生成する手順は、次のとおりです。

### 手順

- ステップ 1** [一括管理 (Bulk Administration)] > [ゲートウェイ (Gateways)] > [ゲートウェイレポートの生成 (Generate Gateway Reports)] の順に選択します。
- [ゲートウェイの検索と一覧表示 (Find and List Gateway)] ウィンドウが表示されます。
- ステップ 2** [検索対象: ゲートウェイ、検索条件 (Find Gateways where)] ドロップダウン リスト ボックスから、次のいずれかのオプションを選択します。
- [名前 (Name)]
  - [説明 (Description)]
  - [DN/ ルートパターン (DN/Route Pattern)]
  - [コーリングサーチスペース (Calling Search Space)]
  - [デバイスプール (Device Pool)]
  - [デバイスタイプ (Device Type)]
- ステップ 3** 2 番目の [検索対象: ゲートウェイ、検索条件 (Find Gateways where)] ドロップダウン リスト ボックスで、次のいずれかの検索条件を選択します。
- [が次の文字列で始まる (begins with)]
  - [が次の文字列を含む (contains)]
  - [が次の文字列と等しい (is exactly)]
  - [が次の文字列で終わる (ends with)]
  - [が空である (is empty)]
  - [が空ではない (is not empty)]

**ステップ 4** 3 番目のドロップダウン リスト ボックスで、[表示 (Show)] を選択して関連のエンドポイントを表示します。

**ステップ 5** 必要に応じて、適切な検索テキストを指定します。



**ヒント** データベースに登録されたすべてのゲートウェイを検索するには、検索テキストを入力せずに [検索 (Find)] をクリックします。

**ステップ 6** 複数のフィルタを追加するには、[AND] または [OR] をクリックします。クエリーをさらに定義するには、ステップ 2 ~ 5 を繰り返します。

**ステップ 7** [検索 (Find)] をクリックします。

検索されたテンプレートのリストが、次の項目別に表示されます。

- [デバイス名 (Device Name)]
- [説明 (Description)]
- [デバイスプール (Device Pool)]
- [ステータス (Status)]
- [IP アドレス (IP Address)]

**ステップ 8** [次へ (Next)] をクリックして、レポートのタイプについての詳細を選択します。[ゲートウェイレポート設定 (Gateway Report Configuration)] ウィンドウに、選択したクエリーが表示されます。クエリーのタイプを変更する場合は、[戻る (Back)] をクリックします。

**ステップ 9** [ファイル名 (File Name)] フィールドに、このレポートの名前を入力します (必須)。

**ステップ 10** ドロップダウン リスト ボックスから、ファイル形式を選択します。

**ステップ 11** [ジョブ情報 (Job Information)] 領域に、ジョブの説明を入力します。

**ステップ 12** [今すぐ実行 (Run Immediately)] オプション ボタンをクリックしてレポートを即座に生成するか、[後で実行 (Run Later)] をクリックして後でレポートを生成します。

**ステップ 13** [送信 (Submit)] をクリックして、アシスタントを削除するジョブを作成します。

ジョブの詳細については、第 82 章「ジョブのスケジュール」を参照してください。

ログ ファイルの詳細については、「BAT ログ ファイル」(P.83-3) を参照してください。

レポート ファイルは、[一括管理 (Bulk Administration)] メニューの [ファイルのアップロード/ダウンロード (Upload/Download Files)] オプションを使用して検索またはダウンロードできます。詳細については、第 2 章「ファイルのアップロードとダウンロード」を参照してください。

#### 追加情報

「関連項目」(P.52-3) を参照してください。

## レポート ログ ファイルの表示

Cisco Unified Communications Manager 一括管理 (BAT) は、レポート トランザクションごとにログ ファイルを生成し、Cisco Unified Communications Manager サーバの最初のノードに格納します。このジョブのログ ファイルへのリンクは、このジョブの [ジョブスケジューラ (Job Scheduler)] ウィンドウにあります。詳細については、[第 82 章「ジョブのスケジュール」](#) を参照してください。

### 追加情報

[「関連項目」 \(P.52-3\)](#) を参照してください。

## 関連項目

- [「シスコのゲートウェイのレポートの生成」 \(P.52-1\)](#)
- [「レポート ログ ファイルの表示」 \(P.52-3\)](#)
- [「ファイルのアップロードとダウンロード」 \(P.2-1\)](#)
- [「ジョブのスケジュール」 \(P.82-1\)](#)
- [「BAT ログ ファイル」 \(P.83-3\)](#)





## **PART 9**

### **強制承認コードとクライアント識別コード**





## CHAPTER 53

# クライアント識別コードと強制承認コードの一括処理

Forced Authorization Code (FAC; 強制承認コード) と Client Matter Code (CMC; クライアント識別コード) を使用すると、コールへのアクセスとアカウントिंगを管理できます。CMC は、課金可能なクライアントに対するコール アカウントिंगと課金を支援し、FAC は特定のユーザが発信できるコールのタイプを規定します。

クライアント識別コード機能を有効にすると、コールが特定のクライアントに関連していることを示すコードをユーザが入力する必要があります。コール アカウントिंगと課金の目的で、顧客、学生などのユーザにクライアント識別コードを割り当てることができます。強制承認コード機能を有効にすると、ユーザがコールを確立する前に有効な承認コードを入力する必要があります。

CMC 機能と FAC 機能を使用するには、ルート パターンを変更し、ダイヤルプラン ドキュメントを更新して各ルート パターンに対する FAC や CMC の有効化または無効化を反映させる必要があります。

この章は、次の項で構成されています。

- 「CMC および FAC の設定チェックリスト」 (P.53-2)
- 「BAT の重要な考慮事項」 (P.53-2)
- 「BAT.xlt を使用した CSV ファイルの作成」 (P.53-3)
- 「テキスト エディタを使用したクライアント識別コードおよび強制承認コードの CSV データ ファイルの作成」 (P.53-4)
- 「既存の CMC 用または FAC 用の CSV ファイルの編集」 (P.53-4)
- 「コードの設定の削除」 (P.54-1)
- 「CMC 用および FAC 用の CSV ファイルの設定値」 (P.53-5)
- 「BAT を使用した CUCM データベースの更新」 (P.53-6)

# CMC および FAC の設定チェックリスト

表 53-1 は、Cisco Unified Communications Manager 一括管理 (BAT) を使用して CMC と FAC を実装する手順を示しています。関連する手順については、「[関連項目](#)」(P.53-8) を参照してください。

表 53-1 Cisco CMC および FAC の設定チェックリスト

| 設定手順                                                                                              | 関連する手順とトピック                                                                                                                                                                                                                                                   |
|---------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <b>ステップ 1</b> BAT に関する重要情報、および CMC 機能と FAC 機能の概要を確認します。                                           | <ul style="list-style-type: none"> <li>「<a href="#">BAT の重要な考慮事項</a>」(P.53-2)</li> <li>『<i>Cisco Unified Communications Manager 機能およびサービス ガイド</i>』</li> </ul>                                                                                                 |
| <b>ステップ 2</b> CMC 用または FAC 用の CSV ファイルを作成し、CMC と FAC の設定情報を入力します。                                 | <ul style="list-style-type: none"> <li>「<a href="#">BAT.xlt を使用した CSV ファイルの作成</a>」(P.53-3)</li> <li>「<a href="#">テキスト エディタを使用したクライアント識別コードおよび強制承認コードの CSV データ ファイルの作成</a>」(P.53-4)</li> <li>「<a href="#">CMC 用および FAC 用の CSV ファイルの設定値</a>」(P.53-5)</li> </ul> |
| <b>ステップ 3</b> Cisco Unified Communications Manager データベースを更新するために CSV ファイルを BAT に挿入します。           | <ul style="list-style-type: none"> <li>「<a href="#">BAT を使用した CUCM データベースの更新</a>」(P.53-6)</li> <li>「<a href="#">Cisco Unified Communications Manager データベースを更新する場合の BAT の設定</a>」(P.53-7)</li> </ul>                                                           |
| <b>ステップ 4</b> Cisco Unified Communications Manager の管理ページでルート パターンを追加または更新して、FAC または CMC を有効にします。 | <ul style="list-style-type: none"> <li>『<i>Cisco Unified Communications Manager アドミニストレーション ガイド</i>』</li> <li>『<i>Cisco Unified Communications Manager 機能およびサービス ガイド</i>』</li> </ul>                                                                          |
| <b>ステップ 5</b> ダイアルプラン ドキュメントを更新するか、BAT CSV ファイルのプリントアウトをダイアルプラン ドキュメントとともに保管します。                  | ダイアルプラン ドキュメントを参照                                                                                                                                                                                                                                             |
| <b>ステップ 6</b> ユーザに対して、コードなどの必要な情報をすべて提供し、機能の内容を説明します。                                             | 『 <i>Cisco Unified Communications Manager 機能およびサービス ガイド</i> 』                                                                                                                                                                                                 |

## BAT の重要な考慮事項

BAT を使用して CMC または FAC を設定する前に、次の情報を確認します。

- CMC と FAC で別々の CSV ファイルを作成します。1 つの CSV ファイルにこの 2 つの機能を混在させないでください。
- CMC または FAC の設定を初めて追加する場合は、BAT.xlt を使用して CSV ファイルを作成するか、カスタムのテキストベース CSV ファイルを作成することができます。
- CMC または FAC の設定を更新、削除、または追加する (初めての追加ではない) 場合は、既存の CSV ファイルを編集するか、カスタムのテキストベース CSV ファイルを作成することができます。

- ファイルおよびスプレッドシートでは、1 行に 2 つ以上のコード（およびそれに対応する設定値）を入力しないでください。各コード（およびそれに対応する設定値）に 1 行を指定します。たとえば、強制承認コード用のコードを入力する場合は、次の形式になります。  
(承認コード,承認コード名,承認レベル)  
1234,John Smith,20  
1235,Lisa Mendez,10  
5551,Debbie Dunn,30
- ファイルから情報を削除して空白にしても、その情報は Cisco Unified Communications Manager データベースから削除されません。つまり、空白の値ではデータベース内の既存の値は上書きされません。データベース内の既存の値は、値を更新すると上書きされます。
- 該当する CSV ファイルを、Cisco Unified Communications Manager サーバの最初のノードにアップロードしたことを確認します。詳細については、「[ファイルのアップロード](#)」(P.2-3) を参照してください。
- CSV ファイルを作成または変更する際には、「[BAT を使用した CUCM データベースの更新](#)」(P.53-6) で説明されているように、必ずその CSV ファイルを BAT に挿入する必要があります。

## BAT.xlt を使用した CSV ファイルの作成

BAT.xlt を使用して CMC 用または FAC 用の CSV ファイルを作成するには、次の手順を実行します。

### 手順

- ステップ 1** BAT.xlt ファイルは Cisco Unified Communications Manager サーバの最初のノード上にありますが、通常、このサーバには Microsoft Excel がインストールされていません。その場合は、最初のノードからこのファイルをコピーして、Microsoft Excel がインストールされているローカルマシンに移動する必要があります。
- ステップ 2** サーバから **BAT.xlt** ファイルをダウンロードします。Microsoft Excel がインストールされているローカルマシンについては、「[ファイルのダウンロード](#)」(P.2-2) を参照してください。
- ステップ 3** Microsoft Excel で **BAT.xlt** を開きます。プロンプトが表示されたら、[マクロを有効にする] をクリックします。



**ヒント** 個別に 2 つの CSV ファイル (CMC 用と FAC 用の CSV ファイル) を作成する必要があることに注意してください。

- ステップ 4** 次のタブのいずれかをクリックします。
  - [Insert CMC] : CMC 用の CSV ファイルを作成する場合
  - [Insert FAC] : FAC 用の CSV ファイルを作成する場合
- ステップ 5** [表 53-2](#) に従って、各カラムに CMC または FAC の設定値を入力します。
- ステップ 6** [ステップ 5](#) を繰り返し、すべてのコードを入力します。
- ステップ 7** Excel スプレッドシート形式を CSV ファイルに変換するために、[Export to BAT Format] をクリックします。

CSV ファイルが自動的にローカルマシンの C:\¥xlsDatafiles に保存されます。別のロケーションを選択するには、[Browse] をクリックします。

- ステップ 8** CSV ファイルを Cisco Unified Communications Manager サーバの最初のノードにアップロードします。詳細については、「[ファイルのアップロード](#)」(P.2-3) を参照してください。
- ステップ 9** CSV ファイルを BAT に追加します。CSV ファイルを BAT に挿入する方法については、「[BAT を使用した CUCM データベースの更新](#)」(P.53-6) を参照してください。

#### 追加情報

「[関連項目](#)」(P.53-8) を参照してください。

## テキスト エディタを使用したクライアント識別コードおよび強制承認コードの CSV データ ファイルの作成

値がカンマで区切られた ASCII テキストを複数行使用して、カンマ区切り値 (CSV) データ ファイルを作成することができます。カンマ区切り値 (CSV) ファイルでは、テキスト情報は表形式で与えられます。クライアント識別コードと強制承認コードのテキストベースの CSV データ ファイルの詳細については、「[クライアント識別コードと強制承認コードのテキストベースのカスタム CSV ファイルの作成](#)」(P.A-22) を参照してください。

#### 追加情報

「[関連項目](#)」(P.53-8) を参照してください。

## 既存の CMC 用または FAC 用の CSV ファイルの編集

既存のコードを更新する場合は、メモ帳で既存の CSV ファイルを手動で更新するか、またはメモ帳で新規のファイルを作成します。

次の手順を実行します。

#### 手順

- ステップ 1** 以前にコードを挿入した既存の CSV ファイルを編集するには、Cisco Unified Communications Manager サーバの最初のノードから CSV ファイルをダウンロードします。詳細については、「[ファイルのアップロード](#)」(P.2-3) を参照してください。
- ステップ 2** メモ帳で既存の CSV ファイルを開いて編集します。表 53-2 のテキストベースの表現を使用して、既存の設定の削除、新規コードの追加、または既存の設定の更新を行います。
- CMC 用 CSV ファイルを更新する場合は、たとえば、5555,Acme Toys のように入力することができます。ここで、5555 は Client Matter Code (必須)、Acme Toys は Description にそれぞれ相当します。
- FAC 用 CSV ファイルを更新する場合は、たとえば、1234,John Smith,20 のように入力することができます。ここで、1234 は Forced Authorization Code、John Smith は Authorization Code Name、20 は Authorization Level にそれぞれ相当します。

**注意**

新規コードの追加やコードの更新を行う場合は、必要な情報をすべて入力してください。既存のレコードでは、任意の部分を変更できますが、認証に必要な強制承認コードやクライアント識別コードなどは必ず含めなければなりません。情報を削除したり空白にしたりしても、その情報はデータベースから削除されません。データベース内の既存の値は、空白の値では上書きされませんが、前述の例にある値を Acme Toys, Inc. や John L. Smith などに更新すると上書きされます。

- ステップ 3** CSV ファイルを Cisco Unified Communications Manager サーバの最初のノードにアップロードします。詳細については、「[ファイルのアップロード](#)」(P.2-3) を参照してください。
- ステップ 4** CSV ファイルを BAT に追加します。CSV ファイルを BAT に挿入する方法については、「[BAT を使用した CUCM データベースの更新](#)」(P.53-6) を参照してください。

**追加情報**

「[関連項目](#)」(P.53-8) を参照してください。

## CMC 用および FAC 用の CSV ファイルの設定値

次の各項と表 53-2 を併せて参照してください。

- 「[BAT.xlt を使用した CSV ファイルの作成](#)」(P.53-3)
- 「[テキストエディタを使用したクライアント識別コードおよび強制承認コードの CSV データファイルの作成](#)」(P.53-4)
- 「[既存の CMC 用または FAC 用の CSV ファイルの編集](#)」(P.53-4)
- 「[コードの設定の削除](#)」(P.54-1)

関連する手順については、「[関連項目](#)」(P.53-8) を参照してください。

**表 53-2 CMC および FAC の設定値**

| 設定 / カラム                    | 説明                                                                                                                                          |
|-----------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <b>CMC 用 CSV ファイル</b>       |                                                                                                                                             |
| [Client Matter Code]        | ユーザがコールを発信するときに入力する 16 桁以内の固有のコードを入力します。クライアント識別コードは、このコードを使用するコールの CDR に表示されます。                                                            |
| [Description]               | このオプションのフィールドは、クライアントコードとクライアントの関連付けに役立ちます。説明には、任意の言語で最大 50 文字を指定できますが、二重引用符 (")、パーセント記号 (%)、アンパサンド (&)、バックスラッシュ (\)、または山カッコ (<>) は使用できません。 |
| <b>FAC 用 CSV ファイル</b>       |                                                                                                                                             |
| [Forced Authorization Code] | 16 桁以内の固有の承認コードを入力します。ユーザは FAC 対応のルートパターンでコールを発信するときこのコードを入力します。                                                                            |

表 53-2 CMC および FAC の設定値

| 設定 / カラム                  | 説明                                                                                                                                                                                                                                                                                                   |
|---------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| [Authorization Code Name] | 50 文字以内の固有の名前を入力します。この承認コード名は、承認コードを特定のユーザまたはユーザのグループに結び付けます。この名前は、このコードを使用するコールの CDR に表示されます。<br><br><b>ヒント</b> システム内のすべてのユーザに承認コードを割り当てる場合は、コード名にユーザの識別情報を含めるようにしてください。この識別情報には、ユーザ名やその他の機密性のない固有の識別情報（たとえば、電子メールのエイリアス、社員番号、学生番号）などを使用してください。承認コード名は CDR に書き込まれ、安全でないため、社会保障番号などの識別情報は使用しないでください。 |
| [Authorization Level]     | 0 ~ 255 の範囲内の 3 桁の承認レベルを入力します（デフォルトは 0）。承認コードに割り当てるレベルによって、ユーザが FAC 対応のルートパターンでコールをルーティングできるかどうかが決まります。コールを正常にルーティングするには、ユーザの承認レベルがそのコールのルートパターンに指定された承認レベル以上である必要があります。                                                                                                                             |

## BAT を使用した CUCM データベースの更新

Cisco Unified Communications Manager データベースを更新するには、BAT に CMC 用または FAC 用の CSV ファイルを挿入する必要があります。データベースを更新するには、次の手順を実行します。

### 始める前に

Cisco Unified Communications Manager を更新する前に、CMC 用または FAC 用の CSV ファイルを作成または編集する必要があります。

### 手順

- ステップ 1** CMC 用と FAC 用のどちらの CSV ファイルを使用したかに応じて、Cisco Unified Communications Manager の管理ページで次のいずれかのオプションを選択します。
- CMC の場合 : [一括管理 (Bulk Administration)] > [クライアント識別コード (Client Matter Codes)] > [クライアント識別コードの挿入 (Insert Client Matter Codes)]
  - FAC の場合 : [一括管理 (Bulk Administration)] > [強制承認コード (Forced Authorization Codes)] > [強制承認コードの挿入 (Insert Forced Authorization Codes)]
- ステップ 2** [ファイル名 (File Name)] ドロップダウン リストボックスで、更新されたコードが含まれる CSV ファイルを選択します。



**ヒント** 挿入するファイルの内容を表示するには、[ファイルの表示 (View File)] をクリックします。

- ステップ 3** 既存のコードのリストを更新する場合は、表 53-3 で説明されているように、[既存の設定の上書き (Override the existing configuration)] チェックボックスをオンにします。
- ステップ 4** [ジョブ情報 (Job Information)] 領域に、ジョブの説明を入力します。
- ステップ 5** [今すぐ実行 (Run Immediately)] オプション ボタンをクリックしてレポートを即座に生成するか、[後で実行 (Run Later)] をクリックして後でレポートを生成します。
- ステップ 6** [送信 (Submit)] をクリックして、FAC と CMC を挿入するジョブを作成します。  
ジョブの詳細については、第 82 章「ジョブのスケジュール」を参照してください。  
ログ ファイルの詳細については、「BAT ログ ファイル」(P.83-3) を参照してください。

#### 追加情報

「関連項目」(P.53-8) を参照してください。

## Cisco Unified Communications Manager データベースを更新する場合の BAT の設定

「BAT を使用した CUCM データベースの更新」(P.53-6) と表 53-3 を併せて参照してください。関連する手順については、「関連項目」(P.53-8) を参照してください。

表 53-3 CSV ファイルを挿入する場合の BAT の設定

| BAT の設定                                           | 説明                                                                                                                                                                                                                                                  |
|---------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| [ファイル名 (File Name)]                               | ドロップダウン リスト ボックスから、挿入する CMC ファイルまたは FAC ファイルを選択します。                                                                                                                                                                                                 |
| [既存の設定の上書き (Override the existing configuration)] | このチェックボックスは、既存の設定のコードを更新する場合に適用されます。<br><br>このチェックボックスをオンにすると、既存の承認コード名 (FAC)、承認レベル (FAC)、または説明 (CMC) が、挿入するファイルに含まれている情報で上書きされます (既存の承認コードとクライアント識別コードは変更されません)。このチェックボックスをオンにしないと、該当の承認コードまたはクライアント識別コードがすでに存在することを示すエラーがログ ファイルに書き込まれ、更新は行われません。 |

## 関連項目

- 「CMC および FAC の設定チェックリスト」 (P.53-2)
- 「BAT の重要な考慮事項」 (P.53-2)
- 「BAT.xlt を使用した CSV ファイルの作成」 (P.53-3)
- 「テキスト エディタを使用したクライアント識別コードおよび強制承認コードの CSV データ ファイルの作成」 (P.53-4)
- 「既存の CMC 用または FAC 用の CSV ファイルの編集」 (P.53-4)
- 「コードの設定の削除」 (P.54-1)
- 「CMC 用および FAC 用の CSV ファイルの設定値」 (P.53-5)
- 「BAT を使用した CUCM データベースの更新」 (P.53-6)
- 「Cisco Unified Communications Manager データベースを更新する場合の BAT の設定」 (P.53-7)
- 「クライアント識別コードと強制承認コードのテキストベースのカスタム CSV ファイルの作成」 (P.A-22)



## CHAPTER 54

# 強制承認コードとクライアント識別コードの削除

システムからコードを削除するには、削除対象のコードが含まれるカスタム ファイルを使用します。以前に承認コードを挿入または更新したカスタム ファイルを編集するか、または、新規の CSV ファイルを作成して削除対象のコードを手動で入力することができます。

強制承認コードとクライアント識別コードを削除する手順は、次のとおりです。

- 「コードの設定の削除」(P.54-1)
- 「強制承認コードとクライアント識別コードの削除」(P.54-2)

## コードの設定の削除

既存の CSV ファイルを編集する場合は、削除対象のコードが含まれる行だけを残すようにファイルを更新する必要があります。

### CMC の例 (既存の CSV ファイル)

次の情報が含まれるファイルを取得し、クライアント識別コード 5550、5551、および 5555 を削除するとします。

- 5550,Phil Jones DDS
- 5551,Southwest Shades
- 5552,Happy Pharmaceuticals
- 5553,Weddings by Joyce
- 5554,Peterson Plumbing
- 5555,Acme Toys
- 5556,Chicago Paralegals

エントリを削除するには、次のように削除対象のエントリだけをファイルに残します。

- 5550,Phil Jones DDS
- 5551,Southwest Shades
- 5555,Acme Toys

**CMC の例（新規の CSV ファイル）**

新規ファイルを作成してコードを削除する場合は、次のように各行にコードだけをリストします。

5550

5551

5555

**FAC の例（既存の CSV ファイル）**

次の情報が含まれるファイルを取得し、John、Dave、および Bill に割り当てられている承認コードを削除するとします。

- 1233,Sandy Brown,30
- 1234,John Smith,20
- 1235,Dave Green,30
- 1236,John David,20
- 1237,Alex Anderson,30
- 1238,Bill Jones,20
- 1239,Jennifer Summers,20

John、Dave、および Bill のエントリを削除するには、次のように削除対象のエントリだけをファイルに残します。

- 1234,John Smith,20
- 1235,Dave Green,30
- 1238,Bill Jones,20

**FAC の例（新規の CSV ファイル）**

新規ファイルを作成してコードを削除する場合は、次のように各行にコードだけをリストします。

1234

1235

1238

複数のコードを一括して削除する場合は、「[強制承認コードとクライアント識別コードの削除](#)」(P.54-2) を参照してください。

**追加情報**

「[関連項目](#)」(P.54-4) を参照してください。

## 強制承認コードとクライアント識別コードの削除

**始める前に**

- 次のタスクのいずれかを実行します。
- 削除対象のコード用に新規ファイルを作成する場合は、「[CMC の例（新規の CSV ファイル）](#)」(P.54-2) および 「[FAC の例（既存の CSV ファイル）](#)」(P.54-2) を参照してください。

- Cisco Unified Communications Manager サーバで、Cisco Unified Communications Manager サーバの最初のノードから該当する CSV ファイルをダウンロードします。詳細については、「[ファイルのアップロード](#)」(P.2-3) を参照してください。
- メモ帳で既存の CSV ファイルを開いて編集し、エントリを削除します。
- 変更された CSV ファイルを Cisco Unified Communications Manager サーバの最初のノードにアップロードします。詳細については、「[ファイルのアップロード](#)」(P.2-3) を参照してください。



(注) 削除トランザクション用に bat.xlt として作成したトランザクションファイルを挿入またはエクスポートしないでください。代わりに、削除が必要な CMC または FAC 用のレコードの詳細情報が設定されたカスタム ファイルを作成する必要があります。削除トランザクションには、このファイルしか使用しないでください。このカスタム削除ファイルには、ヘッダーを指定する必要がありません。コードの値を入力します。

## 手順

- ステップ 1** クライアント識別コードと強制承認コードのどちらかを削除するかに応じて、Cisco Unified Communications Manager の管理ページで次のいずれかのオプションを選択します。
- CMC の場合 : [一括管理 (Bulk Administration)] > [クライアント識別コード (Client Matter Codes)] > [クライアント識別コードの削除 (Delete Client Matter Codes)]
  - FAC の場合 : [一括管理 (Bulk Administration)] > [強制承認コード (Forced Authorization Codes)] > [強制承認コードの削除 (Delete Forced Authorization Codes)]
- ステップ 2** ドロップダウン リスト ボックスからカスタム ファイルを選択して、[検索 (Find)] をクリックします。
- ステップ 3** [クライアント識別コードの削除 (カスタム)(Delete Client Matter Codes Custom Configuration)] ウィンドウまたは [強制承認コードの削除 (カスタム)(Delete Forced Authorization Codes Custom Configuration)] ウィンドウが表示されます。
- ステップ 4** [ジョブ情報 (Job Information)] 領域に、ジョブの説明を入力します。
- ステップ 5** [今すぐ実行 (Run Immediately)] オプション ボタンをクリックして CMC または FAC を即座に削除するか、[後で実行 (Run Later)] をクリックして CMC または FAC を後で削除します。
- ステップ 6** [送信 (Submit)] をクリックして、FAC と CMC を削除するジョブを作成します。



(注) 削除のジョブを送信する前に、表示された結果のリストを全部確認してください。

- ステップ 7** [一括管理 (Bulk Administration)] メイン メニューの [ジョブスケジューラ (Job Scheduler)] オプションを使用して、このジョブのスケジュールやアクティブ化を行います。
- ジョブの詳細については、[第 82 章「ジョブのスケジュール」](#) を参照してください。
- ログ ファイルの詳細については、「[BAT ログ ファイル](#)」(P.83-3) を参照してください。

## 追加情報

「[関連項目](#)」(P.54-4) を参照してください。

## 関連項目

- 「CMC および FAC の設定チェックリスト」 (P.53-2)
- 「BAT の重要な考慮事項」 (P.53-2)
- 「BAT.xlt を使用した CSV ファイルの作成」 (P.53-3)
- 「テキスト エディタを使用したクライアント識別コードおよび強制承認コードの CSV データ ファイルの作成」 (P.53-4)
- 「既存の CMC 用または FAC 用の CSV ファイルの編集」 (P.53-4)
- 「CMC 用および FAC 用の CSV ファイルの設定値」 (P.53-5)
- 「BAT を使用した CUCM データベースの更新」 (P.53-6)
- 「コードの設定の削除」 (P.54-1)



## **PART 10**

### **ピックアップグループ**





## CHAPTER 55

# コール ピックアップ グループの使用法

コール ピックアップ グループを使用すると、該当するピックアップ グループ番号をダイヤルしたときに、自分のグループ内またはその他のグループ内の着信コールを受けることができます。

この章は、次の項で構成されています。

- 「BAT の重要な考慮事項」 (P.55-1)
- 「BAT.xlt を使用した CSV ファイルの作成」 (P.55-2)
- 「テキスト エディタを使用したコール ピックアップ グループ用の CSV データ ファイルの作成」 (P.55-3)
- 「既存のコール ピックアップ グループ CSV ファイルの編集」 (P.55-3)
- 「コール ピックアップ グループ CSV ファイルの設定値」 (P.55-4)
- 「BAT を使用した Cisco Unified Communications Manager データベースの更新」 (P.55-4)
- 「Cisco Unified Communications Manager データベースを更新する場合の BAT の設定」 (P.55-6)

## BAT の重要な考慮事項

BAT を使用してコール ピックアップ グループを設定する前に、次の情報を確認します。

- コール ピックアップ グループの設定を初めて追加する場合は、BAT.xlt を使用して CSV ファイルを作成するか、カスタムのテキストベース CSV ファイルを作成することができます。
- コール ピックアップ グループの設定を更新するには、既存の CSV ファイルを編集するか、テキストベースのカスタム CSV ファイルを作成します。
- 各ピックアップ グループ名（およびそれに対応する設定値）を 1 行に指定します。たとえば、ピックアップ グループの情報を入力する場合は、次の形式になります。
  - (Pickup Group Name, Pickup Group Number, Partition, Other Pickup Group Name-Member1... Other Pickup Group Name-Member10)
  - Marketing,7815,Part1,Marketing,Managers,Training
- 新規ピックアップ グループを追加する場合は、ピックアップ グループ名、ピックアップ グループ番号など、必要なすべてのフィールドに入力する必要があります。手順で特定のエントリが必須として指定されている場合は、ファイルにその情報を指定する必要があります。
- ファイルから情報を削除してブランクにしても、その情報は Cisco Unified Communications Manager データベースから削除されません。つまり、ブランクの値ではデータベース内の既存の値は上書きされません。データベース内の既存の値は、値を更新すると上書きされます。

## ■ BAT.xlt を使用した CSV ファイルの作成

- 該当する CSV ファイルを Cisco Unified Communications Manager クラスタの最初のノードにアップロードします。詳細については、「[ファイルのアップロード](#)」(P.2-3) を参照してください。
- CSV ファイルを作成または変更する際には、「[BAT を使用した Cisco Unified Communications Manager データベースの更新](#)」(P.55-4) で説明されているように、必ずその CSV ファイルを BAT に挿入する必要があります。

## 追加情報

「[関連項目](#)」(P.55-6) を参照してください。

## BAT.xlt を使用した CSV ファイルの作成

BAT.xlt を使用してコール ピックアップ グループ用の CSV ファイルを作成するには、次の手順を実行します。

## 手順

- 
- ステップ 1** BAT.xlt ファイルは Cisco Unified Communications Manager サーバ上にありますが、通常、Cisco Unified Communications Manager サーバには Microsoft Excel がインストールされていません。その場合は、Cisco Unified Communications Manager サーバからこのファイルをコピーして、Microsoft Excel がインストールされているローカル マシンに移動する必要があります。
- ステップ 2** [一括管理(Bulk Administration)] > [ファイルのアップロード/ダウンロード(Upload/Download Files)] の順に選択します。[ファイルの検索と一覧表示(Find and List Files)] ウィンドウが開きます。
- ステップ 3** [検索(Find)] をクリックして、BAT.xlt ファイルをダウンロードします。ファイルのアップロードまたはダウンロードの詳細については、[第 2 章「ファイルのアップロードとダウンロード」](#) を参照してください。
- ステップ 4** BAT.xlt を Microsoft Excel がインストールされているローカル マシンにコピーします。
- ステップ 5** Microsoft Excel で BAT.xlt を開きます。
- ステップ 6** [Call Pickup Group] タブをクリックします。
- ステップ 7** [表 55-1](#) に従って、各カラムにコール ピックアップ グループの設定値を入力します。
- ステップ 8** [ステップ 7](#) を繰り返し、すべてのピックアップ グループを入力します。
- ステップ 9** Excel スプレッドシート形式を CSV ファイルに変換するために、[Export to BAT Format] をクリックします。
- CSV ファイルが自動的にローカル マシンの C:\XlsDatafiles に保存されます。CSV ファイルの保存場所として別のロケーションを選択する場合は、[Browse] をクリックして希望のロケーションを選択します。
- ステップ 10** CSV ファイルを Cisco Unified Communications Manager クラスタの最初のノードにアップロードします。詳細については、「[ファイルのアップロード](#)」(P.2-3) を参照してください。
- ステップ 11** CSV ファイルを BAT に追加します。CSV ファイルを BAT に挿入する方法については、「[BAT を使用した Cisco Unified Communications Manager データベースの更新](#)」(P.55-4) を参照してください。
- 

## 追加情報

「[関連項目](#)」(P.55-6) を参照してください。

# テキスト エディタを使用したコール ピックアップ グループ用の CSV データ ファイルの作成

値がカンマで区切られた ASCII テキストを複数行使用して、カンマ区切り値 (CSV) データ ファイルを作成することができます。カンマ区切り値 (CSV) ファイルでは、テキスト情報は表形式で与えられます。コール ピックアップ グループ用のテキストベース CSV ファイルの詳細については、「[コール ピックアップ グループ用のテキストベース CSV ファイルの作成](#)」(P.A-25) を参照してください。

## 追加情報

「[関連項目](#)」(P.55-6) を参照してください。

## 既存のコール ピックアップ グループ CSV ファイルの編集

既存のコードを更新する場合は、メモ帳で既存の CSV ファイルを手動で更新するか、またはメモ帳で新規のファイルを作成します。

次の手順を実行します。

### 手順

- ステップ 1** 以前にコール ピックアップ グループ情報を挿入した既存の CSV ファイルを編集するには、Cisco Unified Communications Manager サーバの最初のノードから、該当する CSV ファイルをダウンロードします。詳細については、「[ファイルのダウンロード](#)」(P.2-2) を参照してください。
  - ステップ 2** メモ帳で既存の CSV ファイルを開いて編集します。表 55-1 のテキストベースの表現を使用して、既存の設定の削除、新規コール ピックアップ グループの追加、または既存の設定の更新を行います。  
たとえば、コール ピックアップ グループの CSV ファイルを更新するには、Marketing,,,Marketing,Managers,Training と入力します。ここで、Marketing は必須のピックアップ グループ名です。Marketing、Managers、および Training はピックアップ グループ Marketing に関連するその他のピックアップ グループ名です。
-  **注意** 既存のレコードのどの部分でも変更できますが、ピックアップ グループ名を含める必要があります。ピックアップ グループを更新すると、既存の他のピックアップ グループとの関連付けが解除されます。[Other Pickup Group] フィールドは、空白にしないでください。ピックアップ グループに関連付ける他のすべてのピックアップ グループを続けて入力します。
- ステップ 3** CSV ファイルを Cisco Unified Communications Manager クラスタの最初のノードにアップロードします。詳細については、「[ファイルのアップロード](#)」(P.2-3) を参照してください。
  - ステップ 4** CSV ファイルを BAT に追加します。CSV ファイルを BAT に挿入する方法については、「[BAT を使用した Cisco Unified Communications Manager データベースの更新](#)」(P.55-4) を参照してください。

## 追加情報

「[関連項目](#)」(P.55-6) を参照してください。

## コール ピックアップ グループ CSV ファイルの設定値

次の各項と表 55-1 を併せて参照してください。

- 「BAT.xlt を使用した CSV ファイルの作成」 (P.55-2)
- 「テキスト エディタを使用したコール ピックアップ グループ用の CSV データ ファイルの作成」 (P.55-3)
- 「既存のコール ピックアップ グループ CSV ファイルの編集」 (P.55-3)
- 「コール ピックアップ グループの削除」 (P.56-1)

関連する手順については、「関連項目」 (P.55-6) を参照してください。

表 55-1 コール ピックアップ グループの設定値

| 設定 / カラム                      | 説明                                                                                                                                                                                           |
|-------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <b>CPG 用 CSV ファイル</b>         |                                                                                                                                                                                              |
| [Pickup Group Name]           | この必須フィールドには、50 文字以内のコール ピックアップ グループ名を入力します。                                                                                                                                                  |
| [Pickup Group Number]         | この必須フィールドには、ユーザが着信コールを受ける際に入力する、24 桁以内のピックアップ グループ番号を入力します。                                                                                                                                  |
| [Partition]                   | 電話番号（ピックアップ グループ番号）が属するルート パーティションを選択します。<br><br>(注) 電話番号（ピックアップ グループ番号）は複数のパーティションに現れる可能性があります。<br><br>(注) [Pickup Group Number] と [Partition] の組み合わせは固有である必要があります。<br><br>このフィールドはオプションです。 |
| [Other Pickup Group Name (x)] | 新規ピックアップ グループに関連付けるその他のピックアップ グループの名前を入力します。このオプション フィールドでは、各ピックアップ グループをその他の最大 10 のピックアップ グループと関連付けることができます。                                                                                |

## BAT を使用した Cisco Unified Communications Manager データベースの更新

Cisco Unified Communications Manager データベースを更新するには、BAT にコール ピックアップ グループ用の CSV ファイルを挿入する必要があります。データベースを更新するには、次の手順を実行します。

### 始める前に

Cisco Unified Communications Manager を更新する前に、コール ピックアップ グループ用の CSV ファイルを作成または編集し、Cisco Unified Communications Manager サーバの最初のノードにアップロードする必要があります。詳細については、「ファイルのアップロード」 (P.2-3) を参照してください。

詳細については、次の項を参照してください。

- 「BAT.xlt を使用した CSV ファイルの作成」 (P.55-2)
- 「テキスト エディタを使用したコール ピックアップ グループ用の CSV データ ファイルの作成」 (P.55-3)
- 「既存のコール ピックアップ グループ CSV ファイルの編集」 (P.55-3)
- 「コール ピックアップ グループ CSV ファイルの設定値」 (P.55-4)

## 手順

**ステップ 1** BAT で、[一括管理 (Bulk Administration)] > [コールピックアップグループ (Call Pickup Group)] > [コールピックアップグループの挿入 (Insert Call Pickup Groups)] の順に選択します。

[ピックアップグループの挿入 (Insert Pickup Groups Configuration)] ウィンドウが表示されます。

**ステップ 2** [ファイル名 (File Name)] ドロップダウン リスト ボックスで、更新されたピックアップ グループが含まれる CSV ファイルを選択します。



**ヒント** 挿入するファイルの内容を表示するには、[ファイルの表示 (View File)] をクリックします。

**ステップ 3** 既存のピックアップ グループのリストを更新した場合は、表 55-2 で説明されているように、[既存の設定の上書き (Override the existing configuration)] チェックボックスをオンにします。

**ステップ 4** [ジョブ情報 (Job Information)] 領域に、ジョブの説明を入力します。

**ステップ 5** [今すぐ実行 (Run Immediately)] オプション ボタンをクリックしてピックアップ グループを即座に挿入するか、[後で実行 (Run Later)] をクリックして後で挿入します。

**ステップ 6** [送信 (Submit)] をクリックして、アシスタントを削除するジョブを作成します。

ジョブの詳細については、第 82 章「ジョブのスケジュール」を参照してください。

ログ ファイルの詳細については、「BAT ログ ファイル」 (P.83-3) を参照してください。

## 追加情報

「関連項目」 (P.55-6) を参照してください。

# Cisco Unified Communications Manager データベースを更新する場合の BAT の設定

「BAT を使用した Cisco Unified Communications Manager データベースの更新」(P.55-4) と表 55-2 を併せて参照してください。関連する手順については、「関連項目」(P.55-6) を参照してください。

表 55-2 CSV ファイルを挿入する場合の BAT の設定

| BAT の設定                                           | 説明                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                            |
|---------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| [ファイル名 (File Name)]                               | ドロップダウンリスト ボックスから、挿入するコール ピックアップ ファイルを選択します。                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                  |
| [既存の設定の上書き (Override the existing configuration)] | <p>このチェックボックスは、既存の設定のピックアップ グループを更新する場合に適用されます。</p> <p>このチェックボックスをオンにすると、挿入するファイルに含まれている情報が [Other Pickup Group Name-Member] に上書きされます。このチェックボックスをオンにしないと、該当するその他のピックアップ グループ名がすでに存在することを示すエラーが、ログ ファイルに書き込まれ更新されません。</p> <p>(注) ピックアップ グループごとに、[Pickup Group Number] と [Partition] の組み合わせが固有であることを確認します。</p> <p>(注) ピックアップ グループを更新する際、[Pickup Group Number] と [Partition] の値は無視され、既存の [Other Pickup Groups] は関連付けを解除されます。</p> |

## 追加情報

「関連項目」(P.55-6) を参照してください。

## 関連項目

- 「BAT の重要な考慮事項」(P.55-1)
- 「BAT.xlt を使用した CSV ファイルの作成」(P.55-2)
- 「テキスト エディタを使用したコール ピックアップ グループ用の CSV データ ファイルの作成」(P.55-3)
- 「既存のコール ピックアップ グループ CSV ファイルの編集」(P.55-3)
- 「コール ピックアップ グループの削除」(P.56-1)
- 「コール ピックアップ グループ CSV ファイルの設定値」(P.55-4)
- 「BAT を使用した Cisco Unified Communications Manager データベースの更新」(P.55-4)
- 「Cisco Unified Communications Manager データベースを更新する場合の BAT の設定」(P.55-6)
- 「コール ピックアップ グループ用のテキストベース CSV ファイルの作成」(P.A-25)



## CHAPTER 56

# コール ピックアップ グループの削除

コール ピックアップ グループを削除するには、クエリーを作成して、削除するピックアップ グループ レコードを見つけます。

## コール ピックアップ グループの削除

コール ピックアップ グループを削除するには、次の手順を実行します。

### 手順

- ステップ 1** BAT で、[一括管理(Bulk Administration)] > [コールピックアップグループ(Call Pickup Group)] > [コールピックアップグループの削除>Delete Call Pickup Groups] の順に選択します。  
[ピックアップグループの削除>Delete Pickup Groups Configuration] ウィンドウが表示されます。
- ステップ 2** 最初の [検索対象: コールピックアップグループ、検索条件(Find Call Pickup Groups where)] ドロップダウン リスト ボックスで、次のいずれかのオプションを選択します。
  - [コールピックアップグループ番号(Call Pickup Group Number)]
  - [コールピックアップグループ名(Call Pickup Group Name)]
  - [パーティション(Partition)]
- ステップ 3** 2 番目の [検索対象: コールピックアップグループ、検索条件(Find Call Pickup Groups where)] ドロップダウン リスト ボックスで、次のいずれかの検索条件を選択します。
  - [が次の文字列で始まる (begins with)]
  - [が次の文字列を含む (contains)]
  - [が次の文字列と等しい (is exactly)]
  - [が次の文字列で終わる (ends with)]
  - [が空である (is empty)]
  - [が空ではない (is not empty)]
- ステップ 4** 必要に応じて、適切な検索テキストを指定します。
- ステップ 5** 複数のフィルタを追加するには、[絞り込み(Search Within Results)] チェックボックスをオンにし、[AND] または [OR] をクリックします。クエリーをさらに定義するには、[ステップ 2](#) ~ [ステップ 4](#) を繰り返します。
- ステップ 6** [検索(Find)] をクリックして、定義したフィルタをクエリーに追加します。
- ステップ 7** [ジョブ情報(Job Information)] 領域に、ジョブの説明を入力します。

## ■ 関連項目

**ステップ 8** [今すぐ実行 (Run Immediately)] オプション ボタンをクリックしてピックアップ グループを即座に削除するか、[後で実行 (Run Later)] をクリックして後で削除します。

**ステップ 9** [送信 (Submit)] をクリックして、ピックアップ グループを削除するジョブを作成します。



(注)

クエリー テキスト ボックスに情報を何も入力しないと、すべてのピックアップ グループ レコードを削除するジョブが作成されます。



注意

コール ピックアップ グループを削除するジョブを送信する前に、結果のセット全体を参照し、結果セットに表示されるすべてのピックアップ グループを削除することを確認します。

**ステップ 10** [一括管理 (Bulk Administration)] メイン メニューの [ジョブスケジューラ (Job Scheduler)] オプションを使用して、このジョブのスケジュールやアクティブ化を行います。

ジョブの詳細については、[第 82 章「ジョブのスケジュール」](#)を参照してください。

ログ ファイルの詳細については、「[BAT ログ ファイル](#)」(P.83-3) を参照してください。

## 関連項目

- 「BAT の重要な考慮事項」(P.55-1)
- 「BAT.xlt を使用した CSV ファイルの作成」(P.55-2)
- 「テキスト エディタを使用したコール ピックアップ グループ用の CSV データ ファイルの作成」(P.55-3)
- 「既存のコール ピックアップ グループ CSV ファイルの編集」(P.55-3)
- 「コール ピックアップ グループ CSV ファイルの設定値」(P.55-4)
- 「BAT を使用した Cisco Unified Communications Manager データベースの更新」(P.55-4)
- 「Cisco Unified Communications Manager データベースを更新する場合の BAT の設定」(P.55-6)



## **PART 11**

### **モビリティ**





## CHAPTER 57

# アクセス リスト

---

アクセス リストとは、1 つ以上の許可ステートメントから構成されるシーケンシャル リストです。1 つ以上の拒否ステートメントを含むこともあります。これらのステートメントは、IP アドレスと場合によっては上位層 IP プロトコルに適用されます。アクセス リストには名前が付けられ、その名前で参照されます。多くのソフトウェア コマンドは、アクセス リストを構文の一部として受け入れます。

アクセス リストは、[一括管理 (Bulk Administration)] メニューを使用して挿入、削除、エクスポートできます。BAT の [アクセスリスト (Access List)] メニューを使用して、次の作業を実行できます。

- 「アクセス リストの挿入」 (P.57-1)
- 「アクセス リストの削除」 (P.57-2)
- 「アクセス リストのエクスポート」 (P.57-3)

## アクセス リストの挿入

BAT を使用してアクセス リストを挿入する手順は、次のとおりです。

### 始める前に

- アクセス リストには固有の詳細情報を含むカンマ区切り値 (CSV) 形式のデータ ファイルが必要です。
- 「ファイルのアップロード」 (P.2-3) の手順に従って、該当ターゲットとトランザクションのための機能を選択してデータ ファイルをアップロードします。

### 手順

- 
- ステップ 1** [一括管理 (Bulk Administration)] > [モビリティ (Mobility)] > [アクセスリスト (Access List)] > [アクセスリストの挿入 (Access List Insert)] の順に選択します。[アクセスリストの挿入 (Insert Access List Configuration)] ウィンドウが表示されます。
  - ステップ 2** [ファイル名 (File Name)] ドロップダウン リスト ボックスで、アップロードしたファイルを選択します。
  - ステップ 3** 既存の設定を上書きするには、[既存の設定の上書き (Override the existing configuration)] チェック ボックスをオンにします。
  - ステップ 4** [ジョブ情報 (Job Information)] セクションに、ジョブの説明を入力します。デフォルトの説明は、「Insert Access List」です。
  - ステップ 5** 対応するオプション ボタンを選択して、ジョブをすぐに実行するか、後で実行するかを選択できます。

- ステップ 6** [送信 (Submit)] をクリックして、アクセス リストを挿入するジョブを作成します。  
[ステータス (Status)] セクションのメッセージで、ジョブが正常に送信されたことが示されます。
- ステップ 7** このジョブのスケジュールやアクティブ化を行うには、[一括管理 (Bulk Administration)] メインメニューの [ジョブスケジューラ (Job Scheduler)] オプションを使用します。

**追加情報**

「関連項目」(P.57-4) を参照してください。

## アクセス リストの削除

BAT を使用してアクセス リストを削除する手順は、次のとおりです。

**始める前に**

- アクセス リスト名が含まれたデータ ファイルが必要です。
- 「ファイルのアップロード」(P.2-3) の手順に従って、トランザクションのための該当ターゲットと機能を選択してデータ ファイルをアップロードします。



**(注)** 削除トランザクション用に bat.xlt として作成したトランザクション ファイルを挿入またはエクスポートしないでください。代わりに、削除が必要なアクセス リストの詳細情報が設定されたカスタム ファイルを作成する必要があります。削除トランザクションには、このファイルしか使用しないでください。このカスタム削除ファイルには、ヘッダーを指定する必要があります。アクセス リスト名の値を入力します。

**手順**

- ステップ 1** [一括管理 (Bulk Administration)] > [モビリティ (Mobility)] > [アクセスリスト (Access List)] > [アクセスリストの削除 (Access List Delete)] の順に選択します。[アクセスリストの削除 (Delete Access List Configuration)] ウィンドウが表示されます。
- ステップ 2** [削除 アクセスリスト、検索条件: 名前が次のカスタムファイル内にある (Delete Access List where name in custom file)] ドロップダウン リスト ボックスで、アクセス リストを削除するためにアップロードしたファイルを選択します。
- ステップ 3** [検索 (Find)] をクリックします。
- ステップ 4** [ジョブ情報 (Job Information)] セクションが表示され、選択したアクセス リストが示されます。
- ステップ 5** 対応するオプション ボタンを選択して、ジョブをすぐに実行するか、後で実行するかを選択できます。
- ステップ 6** [送信 (Submit)] をクリックして、アクセス リストを削除するジョブを作成します。  
[ステータス (Status)] セクションのメッセージで、ジョブが正常に送信されたことが示されます。
- ステップ 7** [一括管理 (Bulk Administration)] メインメニューの [ジョブスケジューラ (Job Scheduler)] オプションを使用して、このジョブのスケジュールやアクティブ化を行います。

**追加情報**

「関連項目」(P.57-4) を参照してください。

# アクセス リストのエクスポート

BAT を使用してアクセス リストをエクスポートする手順は、次のとおりです。

## 手順



(注) [アクセスリストのエクスポート (Export Access List Configuration)] ウィンドウからヘルプにアクセスしている場合は、[ステップ 8](#)に進みます。

**ステップ 1** [一括管理 (Bulk Administration)] > [モビリティ (Mobility)] > [アクセスリスト (Access List)] > [アクセスリストのエクスポート (Access List Export)] の順に選択します。[アクセスリストのエクスポート (Export Access List Configuration)] ウィンドウが表示されます。

**ステップ 2** 最初の [検索 アクセスリスト、検索条件:(Find Access List where)] ドロップダウン リスト ボックスから、次のいずれかの検索条件を選択します。

- [名前 (Name)]
- [説明 (Description)]
- [オーナー (Owner)]

**ステップ 3** 2 番目の [検索 アクセスリスト、検索条件:(Find Access List where)] ドロップダウン リスト ボックスで、次のいずれかのオプションを選択します。

- [が次の文字列で始まる (begins with)]
- [が次の文字列を含む (contains)]
- [が次の文字列で終わる (ends with)]
- [が次の文字列と等しい (is exactly)]
- [が空である (is empty)]
- [が空ではない (is not empty)]

**ステップ 4** 必要に応じて、適切な検索テキストを指定します。



**ヒント** データベースに登録されているすべてのファイルを表示するには、検索テキストを入力せずに [検索 (Find)] をクリックします。

**ステップ 5** クエリーをさらに定義するには、次のようにします。

- ドロップダウン ボックスから [AND] または [OR] を選択し、[ステップ 2 ~ 4](#) を繰り返します。
- [+] ボタンをクリックすると複数のフィルタを追加でき、[-] ボタンをクリックするとフィルタを削除できます。
- [フィルタのクリア (Clear Filter)] ボタンをクリックすると、すべてのフィルタを一度に削除できます。

**ステップ 6** [検索 (Find)] をクリックします。

検索されたファイルのリストが、次の項目別に表示されます。

- [名前 (Name)]
- [説明 (Description)]
- [許可 (Allowed)]
- [オーナー (Owner)]

## ■ 関連項目

- ステップ 7** [次へ (Next)] をクリックします。次の [アクセスリストのエクスポート (Export Access List Configuration)] ウィンドウが表示されます。
- ステップ 8** [アクセスリストのエクスポート (Export Access Lists)] セクションの [ファイル名 (File Name)] フィールドにファイル名を入力します。
- ステップ 9** [Bulk Access List Export Format] ドロップダウン リスト ボックスで、[Access List Format] を選択します。
- ステップ 10** [ジョブ情報 (Job Information)] セクションで、対応するオプション ボタンを選択して、ジョブをすぐ実行するか、後で実行するかを選択できます。
- ステップ 11** [送信 (Submit)] をクリックして、アクセス リストをエクスポートするジョブを作成します。  
[ステータス (Status)] セクションのメッセージで、ジョブが正常に送信されたことが示されます。
- ステップ 12** このジョブのスケジュールやアクティブ化を行うには、[一括管理 (Bulk Administration)] メインメニューの [ジョブスケジューラ (Job Scheduler)] オプションを使用します。
- 

**追加情報**

「関連項目」(P.57-4) を参照してください。

## 関連項目

- 「アクセス リストの挿入」(P.57-1)
- 「アクセス リストの削除」(P.57-2)
- 「アクセス リストのエクスポート」(P.57-3)



## CHAPTER 58

# リモート接続先

BAT を使用して、リモート接続先の詳細を挿入、削除、エクスポートできます。次のトピックでは、BAT でのリモート接続先の操作について説明します。

- 「リモート接続先の挿入」(P.58-1)
- 「リモート接続先の削除」(P.58-2)
- 「リモート接続先のエクスポート」(P.58-3)

## リモート接続先の挿入

BAT を使用してリモート接続先の詳細を挿入する手順は、次のとおりです。

### 始める前に

- リモート接続先に固有の詳細情報を含むカンマ区切り値 (CSV) 形式のデータ ファイルが必要です。



(注) タイムゾーンの詳細は、カッコやアスタリスクを使用しないで入力する必要があります。たとえば、タイムゾーンとして Greenwich Mean Time (GMT; グリニッジ標準時) を入力する場合は、「(GMT) Etc/GMT\*」ではなく「Etc/GMT」と入力します。

- 「ファイルのアップロード」(P.2-3) の手順に従って、該当ターゲットとトランザクションのための機能を選択してデータ ファイルをアップロードします。

### 手順

- ステップ 1** [一括管理 (Bulk Administration)] > [モビリティ (Mobility)] > [リモート接続先 (Remote Destination)] > [リモート接続先の挿入 (Remote Destination Insert)] の順に選択します。[リモート接続先の挿入 (Insert Remote Destination Configuration)] ウィンドウが表示されます。
- ステップ 2** [ファイル名 (File Name)] ドロップダウン リスト ボックスで、アップロードしたファイルを選択します。
- ステップ 3** 既存の設定を上書きするには、[既存の設定の上書き (Override the existing configuration)] チェック ボックスをオンにします。
- ステップ 4** [ジョブ情報 (Job Information)] セクションに、ジョブの説明を入力します。デフォルトの説明は、「Insert Remote Destination」です。
- ステップ 5** 対応するオプション ボタンを選択して、ジョブをすぐに実行するか、後で実行するかを選択できます。

- ステップ 6** [送信 (Submit)] をクリックして、リモート接続先を挿入するジョブを作成します。  
[ステータス (Status)] セクションのメッセージで、ジョブが正常に送信されたことが示されます。
- ステップ 7** [一括管理 (Bulk Administration)] メイン メニューの [ジョブスケジューラ (Job Scheduler)] オプションを使用して、このジョブのスケジュールやアクティブ化を行います。

### 追加情報

「関連項目」(P.58-4) を参照してください。

## リモート接続先の削除

### 始める前に

- リモート接続先に固有の詳細情報を含むカンマ区切り値 (CSV) 形式のデータ ファイルが必要です。
- 「ファイルのアップロード」(P.2-3) の手順に従って、トランザクションのための該当ターゲットと機能を選択してデータ ファイルをアップロードします。



**(注)** 削除トランザクション用に `bat.xlt` として作成したトランザクション ファイルを挿入またはエクスポートしないでください。代わりに、削除が必要なリモート接続先レコードの詳細情報が設定されたカスタム ファイルを作成する必要があります。削除トランザクションには、このファイルしか使用しないでください。このカスタム削除ファイルには、ヘッダーを指定する必要があります。名前または説明の値を入力します。

### 手順

- ステップ 1** [一括管理 (Bulk Administration)] > [モビリティ (Mobility)] > [リモート接続先 (Remote Destination)] > [リモート接続先の削除 (Remote Destination Delete)] の順に選択します。[リモート接続先の削除 (Delete Remote Destination Configuration)] ウィンドウが表示されます。
- ステップ 2** [削除 リモート接続先、検索条件 (Delete Remote Destination where)] ドロップダウン リスト ボックスで、次のいずれかのオプションを選択します。
- [名前 (Name)]
  - [接続先 (Destination)]
  - [リモート接続先プロファイル (Remote Destination Profile)]
  - [デュアルモードフォン (Dual Mode Phone)]
- ステップ 3** カスタム ファイル ドロップダウン リスト ボックスで、リモート接続先を削除するためにアップロードしたファイルを選択します。
- ステップ 4** [検索 (Find)] をクリックします。
- ステップ 5** [ジョブ情報 (Job Information)] セクションが表示され、選択したリモート接続先が示されます。
- ステップ 6** 対応するオプション ボタンを選択して、ジョブをすぐに実行するか、後で実行するかを選択できます。
- ステップ 7** [送信 (Submit)] をクリックして、リモート接続先を削除するジョブを作成します。  
[ステータス (Status)] セクションのメッセージで、ジョブが正常に送信されたことが示されます。

**ステップ 8** [一括管理 (Bulk Administration)] メイン メニューの [ジョブスケジューラ (Job Scheduler)] オプションを使用して、このジョブのスケジュールやアクティブ化を行います。



(注) リモート接続を削除すると、リモート接続と関連付けられた時刻アクセス、時間帯およびタイム スケジュール レコードも削除されることに注意してください。

#### 追加情報

「関連項目」(P.58-4) を参照してください。

## リモート接続先のエクスポート

BAT を使用してリモート接続先をエクスポートする手順は、次のとおりです。

#### 手順



(注) エクスポートするリモート接続先を選択した後、2 番目の [リモート接続先のエクスポート (Export Remote Destination Configuration)] ウィンドウからヘルプにアクセスしている場合は、[ステップ 8](#) に進みます。

**ステップ 1** [一括管理 (Bulk Administration)] > [モビリティ (Mobility)] > [リモート接続先 (Remote Destination)] > [リモート接続先のエクスポート (Remote Destination Export)] の順に選択します。[リモート接続先のエクスポート (Export Remote Destination Configuration)] ウィンドウが表示されます。

**ステップ 2** 最初の [検索 リモート接続先、検索条件 (Find Remote Destination where)] ドロップダウン リスト ボックスで、次のオプションのいずれかを選択します。

- [名前 (Name)]
- [接続先 (Destination)]
- [リモート接続先プロファイル (Remote Destination Profile)]
- [デュアルモードフォン (Dual Mode Phone)]

**ステップ 3** 2 番目の [検索 リモート接続先、検索条件 (Find Remote Destination where)] ドロップダウン リスト ボックスで、次のいずれかのオプションを選択します。

- [が次の文字列で始まる (begins with)]
- [が次の文字列を含む (contains)]
- [が次の文字列で終わる (ends with)]
- [が次の文字列と等しい (is exactly)]
- [が空である (is empty)]
- [が空ではない (is not empty)]

**ステップ 4** 必要に応じて、適切な検索テキストを指定します。



**ヒント** データベースに登録されているすべてのファイルを表示するには、検索テキストを入力せずに [検索 (Find)] をクリックします。

**ステップ 5** クエリーをさらに定義するには、次のようにします。

- a. ドロップダウン ボックスから [AND] または [OR] を選択し、ステップ 2 ~ 4 を繰り返します。
- b. [+] ボタンをクリックすると複数のフィルタを追加でき、[-] ボタンをクリックするとフィルタを削除できます。
- c. [フィルタのクリア (Clear Filter)] ボタンをクリックすると、すべてのフィルタを一度に削除できます。

**ステップ 6** [検索 (Find)] をクリックします。

検索されたファイルのリストが、次の項目別に表示されます。

- [名前 (Name)]
- [接続先 (Destination)]
- [リモート接続先プロファイル (Remote Destination Profile)]
- [デュアルモードフォン (Dual Mode Phone)]

**ステップ 7** [次へ (Next)] をクリックします。次の [リモート接続先のエクスポート (Export Remote Destination Configuration)] ウィンドウが表示されます。

**ステップ 8** [リモート接続先のエクスポート (Export Remote Destination)] セクションの [ファイル名 (File Name)] フィールドにファイル名を入力します。

**ステップ 9** [ファイル形式 (File Format)] ドロップダウン リスト ボックスで、[リモート接続先の形式 (Remote Destination Format)] を選択します。

**ステップ 10** [ジョブ情報 (Job Information)] セクションで、対応するオプション ボタンを選択して、ジョブをすぐ実行するか、後で実行するかを選択できます。

**ステップ 11** [送信 (Submit)] をクリックして、リモート接続先をエクスポートするジョブを作成します。

[ステータス (Status)] セクションのメッセージで、ジョブが正常に送信されたことが示されます。

**ステップ 12** [一括管理 (Bulk Administration)] メイン メニューの [ジョブスケジューラ (Job Scheduler)] オプションを使用して、このジョブのスケジュールやアクティブ化を行います。

### 追加情報

「関連項目」(P.58-4) を参照してください。

## 関連項目

- 「リモート接続先の挿入」(P.58-1)
- 「リモート接続先の削除」(P.58-2)
- 「リモート接続先のエクスポート」(P.58-3)
- 「リモート接続先プロファイル テンプレート」(P.59-1)
- 『Cisco Unified Mobility Administration Guide』



## CHAPTER 59

# リモート接続先プロファイル

[一括管理 (Bulk Administration)] メニューを使用すると、Remote Destination Profile (RDP; リモート接続先プロファイル) を一括してフォーマット、挿入、削除、エクスポートできます。Cisco Unified Communications Manager の管理ページを通じて個々に更新する必要はありません。

- 「リモート接続先プロファイル テンプレート」 (P.59-1)
- 「リモート接続先プロファイルのファイル形式」 (P.59-7)
- 「リモート接続先プロファイルの挿入」 (P.59-12)
- 「リモート接続先プロファイルの削除」 (P.59-14)
- 「リモート接続先プロファイルのエクスポート」 (P.59-15)

## リモート接続先プロファイル テンプレート

リモート接続先プロファイル テンプレートを使用して、デバイス プール、ロケーション、コーリング サーチ スペース、プレゼンス グループ、プライバシー情報など、リモート接続先に共通のアトリビュートを定義できます。

次のトピックを使用して、BAT リモート接続先プロファイル テンプレートに関する作業を行います。

- 「リモート接続先プロファイル テンプレートの検索」 (P.59-1)
- 「リモート接続先プロファイル テンプレートの作成」 (P.59-3)
- 「リモート接続先プロファイル テンプレートの回線の追加または更新」 (P.59-3)
- 「リモート接続先プロファイル テンプレートの削除」 (P.59-4)

## リモート接続先プロファイル テンプレートの検索

複数の Remote Destination Profile (RDP; リモート接続先プロファイル) テンプレートに対応できるように、Cisco Unified Communications Manager では、特定の条件に基づいて特定のテンプレートを見つけることができます。テンプレートを見つける手順は、次のとおりです。

### 手順

- ステップ 1** [一括管理 (Bulk Administration)] > [モビリティ (Mobility)] > [リモート接続先プロファイル (Remote Destination Profiles)] > [リモート接続先プロファイルテンプレート (Remote Destination Profile Template)] の順に選択します。

[リモート接続先プロファイルテンプレートの検索と一覧表示 (Find and List Remote Destination Profile Templates)] ウィンドウが表示されます。2 つのドロップダウン リスト ボックスを使用して、テンプレートを検索します。

**ステップ 2** 最初の [ 検索対象: UDP テンプレート、検索条件:(Find UDP Templates where)] ドロップダウン リスト ボックスで、次のいずれかの検索条件を選択します。

- [ 名前 (Name)]
- [ 説明 (Description)]
- [ デバイスプール (Device Pool)]
- [ コーリングサーチスペース (Calling Search Space)]

2 番目の [ 検索 リモート接続先プロファイル、検索条件 :(Find Remote Destination Template where)] ドロップダウン リスト ボックスで、次のいずれかの検索条件を選択します。

- [ が次の文字列で始まる (begins with)]
- [ が次の文字列を含む (contains)]
- [ が次の文字列で終わる (ends with)]
- [ が次の文字列と等しい (is exactly)]
- [ が空である (is empty)]
- [ が空ではない (is not empty)]

**ステップ 3** 必要に応じて、適切な検索テキストを指定し、[ 検索 (Find)] をクリックします。



**ヒント** データベースに登録されているすべてのリモート接続先テンプレートを検索するには、検索テキストを入力せずに [ 検索 (Find)] をクリックします。

検索されたテンプレートのリストが、次の項目別に表示されます。

- [ テンプレート名 (Template name)]
- [ 説明 (Description)]
- [ デバイスプール (Device Pool)]
- [ コーリングサーチスペース (Calling Search Space)]

**ステップ 4** レコードのリストから、検索条件に一致するテンプレート名をクリックします。

[リモート接続先プロファイルテンプレートの設定 (Remote Destination Profile Template Configuration)] ウィンドウが表示されます。

#### 追加情報

「関連項目」(P.59-18) を参照してください。

## リモート接続先プロファイル テンプレートの作成

リモート接続先プロファイルを一括して追加するためのテンプレートを作成する手順は、次のとおりです。

- 
- ステップ 1** [一括管理 (Bulk Administration)] > [モビリティ (Mobility)] > [リモート接続先プロファイル (Remote Destination Profiles)] > [リモート接続先プロファイルテンプレート (Remote Destination Profile Template)] の順に選択します。
  - ステップ 2** [新規追加 (Add New)] をクリックします。[リモート接続先プロファイルテンプレートの設定 (Remote Destination Profile Template Configuration)] ウィンドウが表示されます。
  - ステップ 3** 表示されたフィールドに設定の詳細を入力します。詳細については、「[リモート接続先プロファイル テンプレートのフィールドの説明](#)」(P.59-5) を参照してください。
  - ステップ 4** [保存 (Save)] をクリックします。
  - ステップ 5** トランザクションが完了したことがステータスに示されたら、回線アトリビュートを追加することができます。
- 

### 追加情報

「[関連項目](#)」(P.59-18) を参照してください。

## リモート接続先プロファイル テンプレートの回線の追加または更新

次の手順を実行すると、BAT テンプレートに複数の回線を追加したり、既存の回線を更新したりすることができます。

### 手順

- 
- ステップ 1** 「[リモート接続先プロファイル テンプレートの検索](#)」(P.59-1) の手順に従って、回線を追加する RDP テンプレートを検索します。
  - ステップ 2** [リモート接続先プロファイルテンプレートの設定 (Remote Destination Profile Template Configuration)] ウィンドウの [割り当て情報 (Association Information)] 領域で、[回線 [1] - 新規 DN を追加 (Line [1] - Add a new DN)] をクリックします。
  - ステップ 3** [表 3-2](#) で説明されている回線設定値に対して、適切な値を入力または選択します。この回線用に選択する設定値は、このバッチ内のすべての RDP で使用されます。
-  **(注)** 適切な値を入力または選択した後、このページに戻って手順を完了する必要があります。
- 
- ステップ 4** [保存 (Save)] をクリックします。  
BAT によって、回線が電話機テンプレート設定に追加されます。

**ステップ 5** その他の回線の設定値を追加するには、**ステップ 2**～**ステップ 4**を繰り返します。



(注)

[回線テンプレートの設定 (Line Template Configuration)] ウィンドウの右上隅にある [関連リンク (Related Links)] ドロップダウン リスト ボックスから [検索/リストに戻る (Back to Find/List)] を選択すると、[電話番号の検索と一覧表示 (Find and List Directory Numbers)] ウィンドウが表示されます。既存の回線テンプレートを検索するには、適切な検索条件を入力して、[検索 (Find)] をクリックします。新しい回線テンプレートを追加するには、[回線テンプレートの検索と一覧表示 (Find and List Line Templates)] ウィンドウで、[新規追加 (Add New)] をクリックします。

回線テンプレートには、英数字を使用することをお勧めします。番号を指定すると、実際の電話番号と競合する可能性があるためです。英数字を使用することで、コール ピックアップ グループ番号やコール パーク番号などの情報との競合も回避できます。

#### 追加情報

「関連項目」(P.59-18) を参照してください。

## リモート接続先プロフィール テンプレートの削除

RDP テンプレートが不要になった場合は、削除することができます。テンプレートを削除する手順は、次のとおりです。

#### 手順

- ステップ 1** 「リモート接続先プロフィール テンプレートの検索」(P.59-1) の手順に従って、削除する RDP テンプレートを検索します。
- ステップ 2** [リモート接続先プロフィールテンプレートの検索と一覧表示 (Find and List Remote Destination Profile Templates)] ウィンドウで、削除するテンプレートの横のチェックボックスをオンにし、[選択項目の削除 (Delete Selected)] をクリックします。
- 削除操作を確認するように求めるメッセージが表示されます。
- ステップ 3** [OK] をクリックして、テンプレートを削除します。[リモート接続先プロフィールテンプレートの検索と一覧表示 (Find and List Remote Destination Profile Templates)] ウィンドウのテンプレートのリストから、テンプレート名が消去されます。



注意

特定の RDP テンプレートを使用するジョブを送信し、そのテンプレートを削除すると、ジョブも削除されます。

#### 追加情報

「関連項目」(P.59-18) を参照してください。

## リモート接続先プロファイル テンプレートのフィールドの説明

表 59-1 では、リモート接続先プロファイルテンプレートのフィールドについて説明します。



(注)

BAT ユーザ インターフェイスでは、アスタリスクが付いているフィールドには値を入力する必要があります。アスタリスクの付いていないフィールドはオプションです。

表 59-1 リモート接続先プロファイル テンプレートのフィールドの説明

| フィールド                                               | 説明                                                                                                                                                                       |
|-----------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| [ テンプレート名 (Template name) ]                         | テンプレート名を入力します。                                                                                                                                                           |
| [ 説明 (Description) ]                                | 作成する RDP テンプレートの説明を入力します。説明には、任意の言語で最大 50 文字を指定できますが、二重引用符 (")、パーセント記号 (%)、アンパサンド (&)、バックslash (\)、または山カッコ (<>) は使用できません。                                                |
| [ ユーザ ID (User ID) ]                                | Cisco Unified Communications Manager ユーザ ID を入力します。                                                                                                                      |
| [ デバイスプール (Device Pool) ]                           | このグループの RDP 用のデバイス プールを選択します。                                                                                                                                            |
| [ コーリングサーチスペース (Calling Search Space) ]             | このグループの RDP のコーリング サーチ スペースを選択します。<br><br>コーリング サーチ スペースは、ルート パーティションの集合を指定するものです。ルート パーティションの集合は、ダイヤルされた番号のルーティング方法を決定するために検索されます。                                      |
| [ メディアリソースリスト (Media Resource List) ]               | このグループの RDP 用のメディア リソース グループ リスト (MRGL) を選択します。<br><br>MRGL は、優先順位が付けられたメディア リソース グループのリストを指定します。アプリケーションは、MRGL に定義されている優先順位に従って、使用可能なメディア リソースの中から、必要なメディア リソースを選択できます。 |
| [ ユーザ保留音源 (User Hold Audio Source) ]                | このグループの RDP のユーザ保留オーディオ ソースを選択します。<br><br>ユーザ保留オーディオ ソースは、ユーザがコールを保留にしたときに再生される音楽のオーディオ ソースを特定します。                                                                       |
| [ ネットワーク保留 MOH 音源 (Network Hold MOH Audio Source) ] | システムがコールを保留にするとき (たとえば、ユーザがコールを転送する間や電話会議またはコール パークを開始する間) に再生される保留音オーディオ ソースを選択します。                                                                                     |
| [ ロケーション (Location) ]                               | このグループの RDP の適切なロケーションを選択します。<br><br>ロケーションは、このロケーションの着信コールおよび発信コールに使用可能な合計帯域幅を指定します。ロケーションを [ なし (None) ] に設定すると、ロケーション機能がこのデバイスの消費する帯域幅を管理しないことを示します。                  |

表 59-1 リモート接続先プロフィール テンプレートのフィールドの説明

| フィールド                                                          | 説明                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                           |
|----------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| [ ユーザロケール (User Locale)]                                       | <p>ドロップダウン リスト ボックスから、電話機ユーザ インターフェイスに関連付けられたロケールを選択します。ユーザ ロケールは、言語およびフォントなどのユーザをサポートする詳細情報のセットを識別します。</p> <p>Cisco Unified Communications Manager では、このフィールドは、ローカリゼーションをサポートしている電話機モデルにのみ使用可能になります。</p> <p><b>(注)</b> ユーザ ロケールが指定されていない場合、Cisco Unified Communications Manager はデバイスプールと関連付けられたユーザ ロケールを使用します。</p> <p><b>(注)</b> (電話機に) 英語以外の言語で情報を表示する必要がある場合、ユーザ ロケールを設定する前に <b>Locale Installer</b> をインストールして、確認します。Cisco Unified Communications Manager の <b>Locale Installer</b> のマニュアルを参照してください。</p> |
| [ プライバシ (Privacy)]                                             | <p>[ プライバシ (Privacy)] ドロップダウン リスト ボックスで、[ オン (On)]、[ オフ (Off)]、または [ デフォルト (Default)] を選択します。</p> <p>設定情報の詳細については、『Cisco Unified Communications Manager 機能およびサービス ガイド』の「割り込みとプライバシー」を参照してください。</p>                                                                                                                                                                                                                                                                                                           |
| [ プレゼンスグループ (Presence Group)]                                  | <p>RDP によってプレゼンス エンティティのステータスを受信するには、電話番号に適用されるプレゼンス グループのステータスを [ プレゼンスグループの設定 (Presence Group Configuration)] ウィンドウに示されるとおり表示するよう許可されているプレゼンス グループを選択します。</p> <p><b>ヒント</b> プレゼンス機能の詳細については、『Cisco Unified Communications Manager 機能およびサービス ガイド』を参照してください。</p>                                                                                                                                                                                                                                             |
| [ 再ルーティング用コーリング検索スペース (Rerouting Calling Search Space)]        | <p>ドロップダウン リスト ボックスから、再ルーティングに使用するコーリング検索スペースを選択します。</p> <p>参照側の再ルーティング用コーリング検索スペースが、参照側からターゲットへのルート検索に使用されます。コーリング検索スペースの再ルーティングが原因で参照操作に失敗した場合、参照プリミティブは、要求を拒否して「405 Method Not Allowed」というメッセージを返します。</p> <p>リダイレクション (3xx) プリミティブおよび転送機能も、再ルーティング用コーリング検索スペースを使用して、リダイレクトからまたは転送からターゲットへのルートを検索します。</p>                                                                                                                                                                                                  |
| [ プレゼンテーションインジケータを無視 (Ignore Presentation Indicators、内線コールのみ)] | <p>このチェックボックスをオンにすると、Cisco Unified Communications Manager では、内線コールのために受信したすべての表示が無視されます。</p>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                 |

### 追加情報

「関連項目」(P.59-18) を参照してください。

## リモート接続先プロファイルのファイル形式

次のトピックでは、テキスト エディタを使用して作成する CSV データ ファイルのファイル形式設定に関する情報を提供します。

- 「テキスト エディタを使用したリモート接続先用 CSV データ ファイルの作成」(P.59-7)
- 「リモート接続先のファイル形式の検索」(P.59-7)
- 「リモート接続先プロファイルのファイル形式の設定」(P.59-8)
- 「ファイル形式と CSV データ ファイルの関連付け」(P.59-12)
- 「リモート接続先プロファイル用のテキストベース CSV ファイルの作成」(P.A-27)

## テキスト エディタを使用したリモート接続先用 CSV データ ファイルの作成

値がカンマで区切られた ASCII テキストを複数行使用して、カンマ区切り値 (CSV) データ ファイルを作成することができます。カンマ区切り値 (CSV) ファイルでは、テキスト情報は表形式で与えられます。リモート接続用のテキストベース CSV ファイルの詳細については、「リモート接続先プロファイル用のテキストベース CSV ファイルの作成」(P.A-27) を参照してください。

デフォルトのリモート接続先のファイル形式は、修正することも削除することもできません。



(注)

Cisco Unified Communications Manager 一括管理 (BAT) スプレッドシートを使用して CSV データ ファイルを作成する場合は、スプレッドシート内でファイル形式を作成することができます。テキスト エディタを使用して CSV データ ファイルを作成する場合は、ファイル形式を作成するか、デフォルトのファイル形式を使用する必要があります。値は、テキストベースのファイルに、ファイル形式で指定されている順序と同じ順序で入力します。

### 追加情報

「関連項目」(P.59-18) を参照してください。

## リモート接続先のファイル形式の検索

リモート接続先のファイル形式を検索する手順は、次のとおりです。

### 手順

- ステップ 1** [一括管理 (Bulk Administration)] > [モビリティ (Mobility)] > [リモート接続先プロファイル (Remote Destination Profile)] > [リモート接続先プロファイルのファイル形式 (Remote Destination Profile File Format)] > [ファイル形式の作成 (Create File Format)] の順に選択します。

[リモート接続先プロファイルのファイル形式の作成 (Create Remote Destination Profile File Format Configuration)] ウィンドウが表示されます。

- ステップ 2** ウィンドウの右上隅にある [関連リンク (Related Links)] ドロップダウン リスト ボックスで、[検索/リストに戻る (Back to Find/List)] をクリックし、[移動 (Go)] をクリックします。
- ステップ 3** [検索 リモート接続先プロファイルのファイル形式、検索条件: 形式名 (Find Remote Destination File Format where Format Name)] ドロップダウン リスト ボックスで、次のいずれかの検索条件を選択します。
- [ が次の文字列で始まる (begins with)]
  - [ が次の文字列を含む (contains)]
  - [ が次の文字列で終わる (ends with)]
  - [ が次の文字列と等しい (is exactly)]
  - [ が空である (is empty)]
  - [ が空ではない (is not empty)]
- ステップ 4** 必要に応じて、適切な検索テキストを指定し、[検索 (Find)] をクリックします。



**ヒント** すべてのリモート接続先プロファイルの形式を検索するには、検索テキストを入力せずに [検索 (Find)] をクリックします。

- ステップ 5** クエリーをさらに定義する場合や、複数のフィルタを追加する場合は、[絞り込み (Search Within Results)] チェックボックスをオンにし、ドロップダウン ボックスから [AND] または [OR] を選択して、ステップ 3 ~ 4 を繰り返します。
- ステップ 6** レコードのリストから、検索条件に一致するファイル形式名をクリックします。  
[リモート接続先プロファイルのファイル形式の作成 (Create Remote Destination Profile File Format Configuration)] ウィンドウが表示されます。

#### 追加情報

「関連項目」(P.59-18) を参照してください。

## リモート接続先プロファイルのファイル形式の設定

次のトピックでは、リモート接続先プロファイルのファイル形式の作成、検索、コピー、変更、または削除について説明します。

- 「ファイル形式の作成」(P.59-9)
- 「ファイル形式のコピー」(P.59-10)
- 「ファイル形式の修正」(P.59-10)
- 「ファイル形式の削除」(P.59-11)

## ファイル形式の作成

テキストベースの CSV データ ファイル用のファイル形式を作成する手順は、次のとおりです。

### 手順

**ステップ 1** [一括管理 (Bulk Administration)] > [モビリティ (Mobility)] > [リモート接続先プロファイル (Remote Destination Profile)] > [リモート接続先プロファイルのファイル形式 (Remote Destination Profile File Format)] > [ファイル形式の作成 (Create File Format)] の順に選択します。

[リモート接続先プロファイルのファイル形式の作成 (Create Remote Destination Profile File Format Configuration)] ウィンドウが表示されます。

**ステップ 2** [形式名 (Format Name)] フィールドに、このカスタム形式の名前を入力します。

**ステップ 3** [デバイスフィールド (Device Fields)] で、各リモート接続先プロファイルに定義するデバイス フィールド名を選択します。[デバイスフィールド (Device Fields)] ボックスで、デバイス フィールド名をクリックしてから矢印をクリックして、そのフィールドを [選択済みのデバイスフィールド (Selected Device Fields)] ボックスに移動します。

CSV データ ファイルには、[Remote Destination Profile Name] および [Description] を含める必要があります。したがって、これらのフィールドは常に選択された状態になっています。



#### ヒント

Ctrl キーを押しながらリスト内の複数のフィールド名を任意に選択し、次に矢印をクリックすると、その複数のフィールドを同時に選択することができます。Shift キーを使用すると、特定範囲の項目を複数同時に選択することができます。

**ステップ 4** [回線フィールド (Line Fields)] ボックスで回線フィールド名をクリックしてから矢印をクリックして、そのフィールドを [選択済みの回線フィールド (Selected Line Fields)] ボックスに移動します。



#### ヒント

[選択済みの回線フィールド (Selected Line Fields)] および [選択済みのデバイスフィールド (Selected Device Fields)] の [ソート順 (Order)] ボックス内の項目の順序は変更できます。項目を選択し、上向き矢印を使用してその項目をリストの前方に移動させるか、または下向き矢印を使用してその項目をリストの後方に移動させます。

**ステップ 5** [IP Phone サービスの最大値 (IP Phone Service Maximums)] 領域の [回線の最大数 (Maximum Number of Lines)] フィールドに最大値を入力します。

**ステップ 6** カスタム ファイル形式を保存するには、[保存 (Save)] をクリックします。ファイル形式の名前が、[リモート接続先プロファイルのファイル形式の検索と一覧表示 (Find and List Remote Destination Profile File Formats)] ウィンドウの [名前 (Name)] リストに表示されます。

### 追加情報

「関連項目」(P.59-18) を参照してください。

## ファイル形式のコピー

CSV データ ファイルの既存の形式をコピーする手順は、次のとおりです。

### 手順

- ステップ 1** 「リモート接続先のファイル形式の検索」(P.59-7) の手順に従って、コピーするリモート接続先プロファイルのファイル形式を検索します。
- ステップ 2** [検索結果(Search Results)] 領域で、コピーするファイル形式を選択します。[リモート接続先プロファイルのファイル形式の作成(Create Remote Destination Profile File Format Configuration)] ウィンドウが表示されます。
- ステップ 3** [コピー(Copy)] をクリックして選択されたファイル形式をコピーします。



**(注)** [リモート接続先プロファイルのファイル形式の検索と一覧表示(Find and List Remote Destination Profile File Formats)] ウィンドウで、対応する [コピー(Copy)] アイコンをクリックして、ファイル形式をコピーすることもできます。

- ステップ 4** [形式名(Format Name)] フィールドに、コピーした形式の新しい名前を入力します。
- ステップ 5** 次の方式のいずれかを使用して、コピーした形式を修正します。
- 新しいフィールドを追加するには、[デバイスフィールド(Device Fields)] ボックスまたは [回線フィールド(Line Fields)] ボックスからフィールドを選択してから矢印をクリックして、選択したフィールドを [選択済みのデバイスフィールド(Selected Device Fields)] または [選択済みの回線フィールド(Selected Line Fields)] の [ソート順(Order)] ボックスに移動します。
  - フィールドを削除するには、[選択済みのデバイスフィールド(Selected Device Fields)] または [選択済みの回線フィールド(Selected Line Fields)] の [ソート順(Order)] ボックスからフィールドを選択してから矢印をクリックして、選択したフィールドを [デバイスフィールド(Device Fields)] ボックスまたは [回線フィールド(Line Fields)] ボックスに移動します。
  - フィールドの順序を変更するには、[選択済みのデバイスフィールド(Selected Device Fields)] または [選択済みの回線フィールド(Selected Line Fields)] の [ソート順(Order)] ボックスのフィールド名を選択し、上向き矢印または下向き矢印を使用してフィールドの位置を変更します。
- ステップ 6** 変更を加えたら、[保存(Save)] をクリックして、コピーしたファイル形式を変更内容とともにリストに保存します。

### 追加情報

「関連項目」(P.59-18) を参照してください。

## ファイル形式の修正

CSV データ ファイルの既存のファイル形式を修正する手順は、次のとおりです。修正できるのは、カスタム形式だけです。

### 手順

- ステップ 1** 「リモート接続先のファイル形式の検索」(P.59-7) の手順に従って、コピーするリモート接続先プロファイルのファイル形式を検索します。

**ステップ 2** [検索結果 (Search Results)] 領域で、修正するファイル形式を選択します。[リモート接続先プロフィールのファイル形式の作成 (Create Remote Destination Profile File Format Configuration)] ウィンドウが表示されます。

**ステップ 3** 次の方式のいずれかを使用して、コピーした形式を修正します。

- 新しいフィールドを追加するには、[デバイスフィールド (Device Fields)] ボックスまたは [回線フィールド (Line Fields)] ボックスからフィールドを選択してから矢印をクリックして、選択したフィールドを [選択済みのデバイスフィールド (Selected Device Fields)] または [選択済みの回線フィールド (Selected Line Fields)] の [ソート順 (Order)] ボックスに移動します。
- フィールドを削除するには、[選択済みのデバイスフィールド (Selected Device Fields)] または [選択済みの回線フィールド (Selected Line Fields)] の [ソート順 (Order)] ボックスからフィールドを選択してから矢印をクリックして、選択したフィールドを [デバイスフィールド (Device Fields)] ボックスまたは [回線フィールド (Line Fields)] ボックスに移動します。



(注) [Remote Destination Profile Name] および [Description] の必須フィールドは削除できません。

- フィールドの順序を変更するには、[選択済みのデバイスフィールド (Selected Device Fields)] または [選択済みの回線フィールド (Selected Line Fields)] の [ソート順 (Order)] ボックスのフィールド名を選択し、上向き矢印または下向き矢印を使用してフィールドの位置を変更します。

**ステップ 4** 変更を加えたら、[保存 (Save)] をクリックして変更内容をファイル形式に保存します。

#### 追加情報

「関連項目」(P.59-18) を参照してください。

## ファイル形式の削除

CSV データ ファイルの既存のファイル形式を削除する手順は、次のとおりです。削除できるのは、カスタム形式だけです。

#### 手順

**ステップ 1** 「リモート接続先のファイル形式の検索」(P.59-7) の手順に従って、コピーするリモート接続先プロフィールのファイル形式を検索します。

**ステップ 2** [検索結果 (Search Results)] 領域で、削除するファイルが正しいことを確認し、チェックボックスをオンにして形式を選択します。

**ステップ 3** リストからファイル形式を削除するには、[選択項目の削除 (Delete Selected)] をクリックします。ファイル形式の削除を確認するメッセージが表示されます。[OK] をクリックして続行します。ファイル形式名がリストから削除されます。



(注) [選択項目の削除 (Delete Selected)] をクリックする前に、表示された結果のリストを全部確認してください。

#### 追加情報

「関連項目」(P.59-18) を参照してください。

## ファイル形式と CSV データ ファイルの関連付け

テキスト エディタを使用して CSV データ ファイルを作成した場合は、テキストベースのファイルに値を入力するためのファイル形式をすでに作成したということになります。値は、ファイル形式で指定されている順序でテキスト ファイルに入力済みです。

CSV データ ファイルが完成したら、ファイル形式をテキストベースの CSV データ ファイルに関連付ける必要があります。ファイル形式を CSV ファイルに関連付けると、各フィールドの名前は CSV データ ファイルの最初のレコードとして表示されます。この情報を使用して、各フィールドの値を正しい順序で入力してあることが確認できます。

テキストベースの CSV データ ファイルでファイル形式を追加する手順は、次のとおりです。

### 手順

- 
- ステップ 1** [一括管理 (Bulk Administration)] > [モビリティ (Mobility)] > [リモート接続先プロファイル (Remote Destination Profile)] > [リモート接続先プロファイルのファイル形式 (Remote Destination Profile File Format)] > [ファイル形式の追加 (Add File Format)] の順に選択します。[ファイル形式の追加 (Add File Format)] ウィンドウが表示されます。
- ステップ 2** [ファイル名 (File Name)] フィールドで、このトランザクション用に作成したテキストベースの CSV ファイルを選択します。
- ステップ 3** [形式ファイル名 (Format File Name)] フィールドで、このタイプのバルク トランザクション用に作成したファイル形式を選択します。
- ステップ 4** 一致するファイル形式を CSV データ ファイルに関連付けるジョブを作成するには、[送信 (Submit)] をクリックします。
- ステップ 5** [一括管理 (Bulk Administration)] メイン メニューの [ジョブスケジューラ (Job Scheduler)] オプションを使用して、このジョブのスケジュールやアクティブ化を行います。

ジョブの詳細については、[第 82 章「ジョブのスケジュール」](#) を参照してください。

---

### 追加情報

「[関連項目](#)」(P.59-18) を参照してください。

## リモート接続先プロファイルの挿入

[一括管理 (Bulk Administration)] メニューを使用すると、Remote Destination Profile (RDP; リモート接続先プロファイル) を一括して挿入できます。Cisco Unified Communications Manager の管理ページを通じて個々に更新する必要はありません。

### 始める前に

- 追加するデバイスには、Cisco Unified Communications Manager 一括管理 (BAT) リモート接続先プロファイル テンプレートが必要です。
- リモート接続先プロファイルに固有の詳細を含むカンマ区切り値 (CSV) 形式のデータ ファイルが必要です。
- トランザクションのための該当ターゲットと機能を選択してデータ ファイルをアップロードします。

**追加情報**

「関連項目」(P.59-18) を参照してください。

## Cisco Unified Communications Manager へのリモート接続先プロファイルの挿入

次の手順を使用して、リモート接続先プロファイルを Cisco Unified Communications Manager に挿入します。

**手順**

- ステップ 1** [一括管理 (Bulk Administration)] > [モビリティ (Mobility)] > [リモート接続先プロファイル (Remote Destination Profile)] > [リモート接続先プロファイルの挿入 (Remote Destination Profile Insert)] の順に選択します。
- [リモート接続先プロファイルの挿入 (Insert Remote Destination Profile Configuration)] ウィンドウが表示されます。
- ステップ 2** [ファイル名 (File Name)] ドロップダウン リスト ボックスで、この固有のバルク トランザクション用に作成した CSV データ ファイルを選択します。
- ステップ 3** [リモート接続先プロファイルテンプレート (Remote Destination Profile Template)] ドロップダウン リスト ボックスで、このバルク トランザクション用に作成した BAT リモート接続先プロファイル テンプレートを選択します。



(注) リモート接続先プロファイルを挿入する場合は、リモート接続先プロファイル テンプレートはオプションです。リモート接続先プロファイル テンプレートを選択しない場合は、CSV データ ファイルに「Desk Phone Name」が含まれていることを確認してください。

- ステップ 4** [既存の設定の上書き (Override the existing configuration)] チェックボックスをオンにすると、既存のリモート接続先プロファイルの設定が、挿入するファイルに含まれている情報によって上書きされます。
- ステップ 5** [ジョブ情報 (Job Information)] 領域に、ジョブの説明を入力します。
- ステップ 6** [今すぐ実行 (Run Immediately)] オプション ボタンをクリックしてリモート接続先プロファイルのレコードを即座に挿入するか、[後で実行 (Run Later)] をクリックして後で挿入します。
- ステップ 7** [送信 (Submit)] をクリックして、リモート接続先プロファイルのレコードを挿入するジョブを作成します。
- ステップ 8** [ジョブスケジューラ (Job Scheduler)] ウィンドウで、このジョブのスケジュールやアクティブ化を行います。

ジョブの詳細については、第 82 章「ジョブのスケジュール」を参照してください。

ログ ファイルの詳細については、「BAT ログ ファイル」(P.83-3) を参照してください。

**追加情報**

「関連項目」(P.59-18) を参照してください。

## リモート接続先プロファイルの削除

[一括管理 (Bulk Administration)] メニューを使用すると、Remote Destination Profile (RDP; リモート接続先プロファイル) を一括して削除およびエクスポートできます。Cisco Unified Communications Manager の管理ページを通じて個々に更新する必要はありません。

### カスタム ファイルを使用したリモート接続先プロファイルの削除

テキスト エディタを使用して、削除するリモート接続先プロファイルのカスタム ファイルを作成することができます。同一のカスタム ファイルの中に、MAC アドレスとデバイス名の両方を含めることができますが、電話番号は同じファイルに入れることはできません。複数のファイルを作成する必要があります。1 つのファイルには、デバイス名と MAC アドレスを含め、もう 1 つのファイルには電話番号を含めます。

#### 始める前に

1. 削除する RDP について次の詳細のいずれかを記載するテキスト ファイルを作成します。
  - [名前 (Name)]
  - [説明 (Description)]
  - [デバイスプール (Device Pool)]
  - [コーリングサーチスペース (Calling Search Space)]
2. テキスト ファイルで 1 行に 1 項目ずつ配置します。
3. カスタム ファイルを Cisco Unified CallManager サーバにアップロードします。ファイルのアップロードの詳細については、「[ファイルのアップロード](#)」(P.2-3) を参照してください。

カスタム ファイルに記載されている RDP を削除する手順は、次のとおりです。

#### 手順

- 
- ステップ 1** [一括管理 (Bulk Administration)] > [モビリティ (Mobility)] > [リモート接続先プロファイル (Remote Destination Profile)] > [リモート接続先プロファイルの削除 (Remote Destination Profile Delete)] の順に選択します。
- [リモート接続先プロファイルの削除 (Delete Remote Destination Profile Configuration)] ウィンドウが表示されます。
- ステップ 2** [削除 リモート接続先プロファイル、検索条件:(Delete Remote Destination Profile where)] ドロップダウン リスト ボックスで、作成したカスタム ファイルのタイプを次のいずれかの条件から選択します。
- [名前 (Name)]
  - [説明 (Description)]
  - [デバイスプール (Device Pool)]
  - [コーリングサーチスペース (Calling Search Space)]
- ステップ 3** カスタム ファイルのリストで、この削除用のカスタム ファイルのファイル名を選択します。
- ステップ 4** [検索 (Find)] をクリックします。検索条件に一致する RDP のリストが表示されます。
- ステップ 5** [ジョブ情報 (Job Information)] 領域に、ジョブの説明を入力します。
- ステップ 6** [今すぐ実行 (Run Immediately)] オプション ボタンをクリックして RDP レコードを即座に削除するか、[後で実行 (Run Later)] をクリックして RDP レコードを後で削除します。

- ステップ 7** [送信 (Submit)] をクリックして、RDP レコードを削除するジョブを作成します。
- ステップ 8** [ジョブスケジューラ (Job Scheduler)] ウィンドウで、このジョブのスケジュールやアクティブ化を行います。

#### 追加情報

「関連項目」(P.59-18) を参照してください。

## リモート接続先プロファイルのエクスポート

エクスポートユーティリティを使用すると、複数の Cisco Unified CallManager サーバ上のレコードを 1 台の Cisco Unified CallManager サーバにマージできます。Cisco Unified CallManager サーバから別の Cisco Unified CallManager サーバにレコードを移動する手順は、次のとおりです。

## リモート接続先プロファイルのエクスポートの使用

リモート接続先プロファイルの詳細をエクスポートする手順は、次のとおりです。

#### 手順



(注)

エクスポートするリモート接続先プロファイルを選択した後、2 番目の [リモート接続先プロファイルのエクスポート (Export Remote Destination Profile Configuration)] ウィンドウからヘルプにアクセスしている場合は、[ステップ 7](#)に進みます。

- ステップ 1** [一括管理 (Bulk Administration)] > [モビリティ (Mobility)] > [リモート接続先プロファイル (Remote Destination Profile)] > [リモート接続先プロファイルのエクスポート (Remote Destination Profile Export)] の順に選択します。
- [リモート接続先プロファイルのエクスポート (Export Remote Destination Profile Configuration)] ウィンドウが表示されます。
- ステップ 2** 最初の [検索 リモート接続先プロファイル、検索条件:(Find Remote Destination Profile where)] ドロップダウンリストボックスで、次のいずれかの検索条件を選択します。
- [名前 (Name)]
  - [説明 (Description)]
  - [デバイスプール (Device Pool)]
  - [コーリングサーチスペース (Calling Search Space)]
- 2 番目の [検索 リモート接続先プロファイル、検索条件:(Find Remote Destination Profile where)] ドロップダウンリストボックスで、次のいずれかの検索条件を選択します。
- [が次の文字列で始まる (begins with)]
  - [が次の文字列を含む (contains)]
  - [が次の文字列で終わる (ends with)]
  - [が次の文字列と等しい (is exactly)]

- [ が空である (is empty)]
- [ が空ではない (is not empty)]

**ステップ 3** 必要に応じて、適切な検索テキストを指定します。



**ヒント** データベースに登録されているすべてのリモート接続先プロファイルを検索するには、検索テキストを入力せずに [検索 (Find)] をクリックします。

**ステップ 4** クエリーをさらに定義する場合や、複数のフィルタを追加する場合は、[絞り込み (Search Within Results)] チェックボックスをオンにし、ドロップダウン ボックスから [AND] または [OR] を選択して、ステップ 2 ~ 3 を繰り返します。

**ステップ 5** [検索 (Find)] をクリックします。

検索されたリモート接続先プロファイルが、次の項目別に表示されます。

- [名前 (Name)]
- [説明 (Description)]
- [デバイスプール (Device Pool)]
- [コーリングサーチスペース (Calling Search Space)]



**(注)** ジョブを送信する前に、表示された結果のリストを全部確認してください。

**ステップ 6** [次へ (Next)] をクリックします。

次の [リモート接続先プロファイルのエクスポート (Export Remote Destination Profile Configuration)] ウィンドウが表示されます。

**ステップ 7** [ファイル名 (File Name)] フィールドにエクスポート ファイル名を入力します。

**ステップ 8** [ファイル形式 (File Format)] ドロップダウン リスト ボックスで、ファイル形式を選択します。

**ステップ 9** [ジョブ情報 (Job Information)] 領域に、ジョブの説明を入力します。デフォルトの説明は、「Delete Remote Destination Profiles」です。

**ステップ 10** [今すぐ実行 (Run Immediately)] オプション ボタンをクリックしてリモート接続先プロファイルのレコードを即座にエクスポートするか、[後で実行 (Run Later)] をクリックして後でエクスポートします。

**ステップ 11** [送信 (Submit)] をクリックして、リモート接続先プロファイルのレコードを削除するジョブを作成します。

**ステップ 12** [ジョブスケジューラ (Job Scheduler)] ウィンドウで、このジョブのスケジュールやアクティブ化を行います。

ジョブの詳細については、[第 82 章「ジョブのスケジュール」](#)を参照してください。

ログ ファイルの詳細については、「[BAT ログ ファイル \(P.83-3\)](#)」を参照してください。

## Default Remote Destination Profile ファイル形式

Default Remote Destination Profile ファイル形式オプションを使用してリモート接続先プロファイルのレコードをエクスポートする場合は、そのリモート接続先プロファイルに関連付けられた各種の回線アトリビュートとともにレコードをエクスポートします。クエリーを使用してレコード数を制限することはできません。

表 59-2 に、Default Remote Destination Profile Format ファイル形式を選択した場合にエクスポートされるフィールドを示します。

**表 59-2 Default Remote Destination Profile ファイル形式でエクスポートされるフィールド**

| フィールドの種類   | エクスポートされるフィールド                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                |
|------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| デバイス フィールド | Remote Destination Profile Name、Description、User ID、Device Pool、CSS、AAR CSS、Media Resource List、User Hold Audio Source、Location、Privacy、Device Presence Group、Rerouting CSS                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                   |
| 回線フィールド    | Directory Number、Partition、Voice Mail Profile、Line CSS、AAR Group(Line)、Line User Hold Audio Source、Line Network Hold Audio Source、Forward All Destination、Forward All CSS、Forward Busy Internal Destination、Forward Busy Internal CSS、Forward Busy External Destination、Forward Busy External CSS、Forward No Answer Internal Destination、Forward No Answer Internal CSS、Forward No Answer External Destination、Forward No Answer External CSS、Forward No Coverage Internal Destination、Forward No Coverage Internal CSS、Forward No Coverage External Destination、Forward No Coverage External CSS、Forward No Answer Ring Duration、Call Pickup Group、MLPP Target、MLPP CSS、MLPP No Answer Ring Duration、External Phone Number Mask、Maximum Number Of Calls、Busy Trigger、Alerting Name、Alerting Name ASCII、Display、Line Description、Line Presence Group、Secondary CSS For Forward All、ASCII Display、Forward On CTI Failure Destination、Forward On CTI Failure CSS、AAR Destination Mask、Forward Unregistered Internal Destination、Forward Unregistered Internal CSS、Forward Unregistered External Destination、Forward Unregistered External CSS、Hold Reversion Ring Duration、Hold Reversion Notification Interval |

### 追加情報

「関連項目」(P.59-18) を参照してください。

## 関連項目

- 「リモート接続先プロファイル テンプレート」 (P.59-1)
- 「リモート接続先プロファイルのファイル形式」 (P.59-7)
- 「リモート接続先プロファイルの挿入」 (P.59-12)
- 「リモート接続先プロファイルの削除」 (P.59-14)
- 「リモート接続先プロファイルのエクスポート」 (P.59-15)



## CHAPTER 60

# モビリティ プロファイル

Cisco Unified Communications Manager 一括管理ツールを使用すると、一意の ID を使用して Cisco Unified Communications Manager データベースにモビリティ プロファイルを追加できます。

次のトピックでは、モビリティ プロファイルを管理するオプションについて説明します。

- 「モビリティ プロファイルの挿入」 (P.60-1)
- 「モビリティ プロファイルの削除」 (P.60-2)
- 「モビリティ プロファイルのエクスポート」 (P.60-3)

## モビリティ プロファイルの挿入

次の手順を使用して、モビリティ プロファイルを一括で挿入します。

### 手順

- ステップ 1** [一括管理 (Bulk Administration)] > [モビリティ (Mobility)] > [モビリティプロファイル (Mobility Profile)] > [モビリティプロファイルの挿入 (Insert Mobility Profile)] の順に選択します。[モビリティプロファイル設定の挿入 (Insert Mobility Profile Configuration)] ウィンドウが表示されます。
- ステップ 2** [ファイル名 (File Name)] ドロップダウン リスト ボックスで、この特定のバルク トランザクション用に作成した CSV データ ファイルを選択します。
-  **(注)** モビリティ プロファイルの CSV ファイル形式の詳細については、「[モビリティプロファイルのファイル形式](#)」 (P.A-35) を参照してください。
- ステップ 3** [既存の設定の上書き (Override the existing configuration)] チェックボックスをオンにすると、既存のモビリティ プロファイルの設定が、挿入するファイルに含まれている情報によって上書きされます。
- ステップ 4** [ジョブ情報 (Job Information)] フィールドに、ジョブの説明を入力します。
- ステップ 5** [今すぐ実行 (Run Immediately)] オプション ボタンをクリックしてプロファイルを即座に挿入するか、[後で実行 (Run Later)] をクリックして後で挿入します。
- ステップ 6** [送信 (Submit)] をクリックして、モビリティ プロファイルを挿入するジョブを作成します。
- ステップ 7** [一括管理 (Bulk Administration)] メイン メニューの [ジョブスケジューラ (Job Scheduler)] オプションを使用して、このジョブのスケジュールやアクティブ化を行います。
- ジョブの詳細については、[第 82 章「ジョブのスケジュール」](#) を参照してください。
- ログ ファイルの詳細については、「[BAT ログ ファイル](#)」 (P.83-3) を参照してください。



(注)

レコードの情報に何らかの問題がある場合、BAT はモビリティ プロファイル レコードを挿入しません。

**追加情報**

- 「[関連項目](#)」(P.60-4) を参照してください。

## モビリティ プロファイルの削除

ここでは、Cisco Unified Communications Manager データベースからモビリティ プロファイルを削除する方法について説明します。

**始める前に**

Cisco Unified Communications Manager の管理ページからモビリティ プロファイルを削除する前に、次の作業を実行する必要があります。

- テキスト ファイルを作成し、削除するモバイル プロファイルを 1 行に 1 つずつ指定します。
- カスタム ファイルを Cisco Unified Communications Manager サーバの最初のノードにアップロードします。詳細については、[第 2 章「ファイルのアップロードとダウンロード」](#)を参照してください。

カスタム ファイルを使用してモビリティ プロファイルを削除する手順は、次のとおりです。



(注)

削除トランザクション用に bat.xlt として作成したトランザクション ファイルを挿入またはエクスポートしないでください。代わりに、削除が必要なモビリティ プロファイル レコードの詳細情報を記述したカスタム ファイルを作成する必要があります。削除トランザクションには、このファイルしか使用しないでください。カスタム削除ファイルにはヘッダーは不要であり、名前、説明、またはモバイル クライアントのコール オプションの値を入力できます。

**手順**

- ステップ 1** [一括管理 (Bulk Administration)] > [モビリティ (Mobility)] > [モビリティプロファイル (Mobility Profile)] > [モビリティプロファイルの削除 (Delete Mobility Profile)] の順に選択します。[モビリティプロファイル設定の削除 (Delete Mobility Profile Configuration)] ウィンドウが表示されます。
- ステップ 2** [削除 モビリティプロファイル、検索条件 (Delete Mobility Profile where)] ドロップダウン リスト ボックスで、モビリティ プロファイルを削除するためにアップロードしたファイルを選択します。
- ステップ 3** [検索 (Find)] をクリックします。
- ステップ 4** [ジョブ情報 (Job Information)] セクションが表示され、選択したモビリティ プロファイルが示されます。
- ステップ 5** 対応するオプション ボタンを選択して、ジョブをすぐに実行するか、後で実行するかを選択できます。
- ステップ 6** [送信 (Submit)] をクリックして、モビリティ プロファイルを削除するジョブを作成します。  
[ステータス (Status)] セクションのメッセージで、ジョブが正常に送信されたことが示されます。
- ステップ 7** [一括管理 (Bulk Administration)] メイン メニューの [ジョブスケジューラ (Job Scheduler)] オプションを使用して、このジョブのスケジュールやアクティブ化を行います。

**追加情報**

- 「[関連項目](#)」(P.60-4) を参照してください。

## モビリティ プロファイルのエクスポート

BAT を使用してモビリティ プロファイルをエクスポートする手順は、次のとおりです。

**手順**

(注) [モビリティプロファイル設定のエクスポート (Export Mobility Profile Configuration)] ウィンドウからヘルプにアクセスしている場合は、[ステップ 9](#)に進みます。

- ステップ 1** [一括管理 (Bulk Administration)] > [モビリティ (Mobility)] > [モビリティプロファイル (Mobility Profile)] > [モビリティプロファイルのエクスポート (Export Mobility Profile)] の順に選択します。[エクスポートするモビリティプロファイルの検索と一覧表示 (Find and List Mobility Profiles To Export)] ウィンドウが表示されます。
- ステップ 2** 最初の [検索対象: モビリティ プロファイル、検索条件 (Find Mobility Profile where)] ドロップダウン リスト ボックスで、次のいずれかのオプションからクエリーを行うフィールドを選択します。
- [名前 (Name)]
  - [説明 (Description)]
  - [モバイルクライアントのコールオプション (Mobile Client Calling Option)]
- ステップ 3** 2 番目のドロップダウン リスト ボックスで、次のいずれかのオプションを選択します。
- [が次の文字列で始まる (begins with)]
  - [が次の文字列を含む (contains)]
  - [が次の文字列と等しい (is exactly)]
  - [が次の文字列で終わる (ends with)]
  - [が空である (is empty)]
  - [が空ではない (is not empty)]
- ステップ 4** 検索フィールド ボックスに、検索する値 (たとえば、特定のプロファイル名またはプロファイルの説明) を入力します。
- ステップ 5** 複数のフィルタを追加するには、[AND] または [OR] をクリックします。クエリーをさらに定義するには、ステップ 2 ～ステップ 4 を繰り返します。
- ステップ 6** [検索 (Find)] をクリックします。
- 一致するすべてのレコードが表示されます。[ページあたりの行数 (Rows per Page)] ドロップダウン リスト ボックスから異なる値を選択すると各ページに表示される項目数を変更できます。
- ステップ 7** 表示されるレコードリストから、目的のレコードのリンクをクリックします。
- データベースに登録されているすべてのモビリティ プロファイルを検索するには、検索テキストを入力せずに [検索 (Find)] をクリックします。選択したレコードがウィンドウに表示されます。
- ステップ 8** [次へ (Next)] をクリックします。
- [モビリティプロファイル設定のエクスポート (Export Mobility Profile Configuration)] ウィンドウが表示されます。

## ■ 関連項目

- ステップ 9** [ファイル名 (File Name)] テキスト ボックスに、エクスポートするモビリティ プロファイルのファイル名を入力します。
- ステップ 10** [ファイル形式 (File Format)] ドロップダウン リスト ボックスでモビリティ プロファイルのファイル形式を選択します。
- ステップ 11** [ジョブ情報 (Job Information)] 領域に、ジョブの説明を入力します。
- ステップ 12** [今すぐ実行 (Run Immediately)] オプション ボタンをクリックしてモビリティ プロファイルを即座にエクスポートするか、[後で実行 (Run Later)] をクリックして後でエクスポートします。
- ステップ 13** [送信 (Submit)] をクリックして、モビリティ プロファイルをエクスポートするジョブを作成します。
- ステップ 14** [一括管理 (Bulk Administration)] メイン メニューの [ジョブスケジューラ (Job Scheduler)] オプションを使用して、このジョブのスケジュールやアクティブ化を行います。
- ジョブの詳細については、[第 82 章「ジョブのスケジュール」](#) を参照してください。
- ログ ファイルの詳細については、「[BAT ログ ファイル](#)」(P.83-3) を参照してください。
- 

**追加情報**

- 「[関連項目](#)」(P.60-4) を参照してください。

## 関連項目

- 「[モビリティ プロファイルの挿入](#)」(P.60-1)
- 「[モビリティ プロファイルの削除](#)」(P.60-2)
- 「[モビリティ プロファイルのエクスポート](#)」(P.60-3)



## **PART 12**

### **リージョンマトリクス**





# CHAPTER 61

## リージョンマトリクスの更新

リージョンテーブルが物理ロケーションを定義するのに対し、リージョンマトリクステーブルはリージョン内で使用可能な帯域幅とリージョン間で使用可能な帯域幅を定義します。BATの[リージョンマトリクス(Region Matrix)]メニューを使用して、リージョンマトリクスを実装または実装解除します。

## リージョンマトリクスの実装および実装解除

リージョンマトリクスを実装または実装解除する手順は、次のとおりです。

- ステップ 1** [一括管理(Bulk Administration)] > [リージョンマトリクス(Region Matrix)] > [リージョンマトリクスの実装/実装解除(Populate/Depopulate Region Matrix)]の順に選択します。[リージョンマトリクス設定(Region Matrix Configuration)]ウィンドウが表示されます。
- ステップ 2** [リージョンマトリクスオプション(Region Matrix Options)]セクションで、[リージョンマトリクスの実装(Populate Region Matrix)]または[リージョンマトリクスの実装解除(Depopulate Region Matrix)]のいずれかを必要に応じて選択します。
- ステップ 3** [ジョブ情報(Job Information)]セクションに、ジョブの名前を入力します。この情報により、ジョブが識別しやすくなります。
- ステップ 4** ジョブをいつ実行するかに応じて、[今すぐ実行(Run now)]または[後で実行(Run Later)]を選択します。
- ステップ 5** [送信(Submit)]ボタンをクリックします。
- ステップ 6** [ジョブスケジューラ(Job Scheduler)]ウィンドウで、送信したジョブのステータスを確認します。必要に応じて、このウィンドウを使用してジョブを再スケジュールすることができます。



(注) 他のBATプロセスと異なり、リージョンマトリクスを実装または実装解除するジョブの進行は、渡されたレコードの数、失敗したレコードの数、または処理されたレコードの数で測定することはできません。結果は、プロセス全体が完了しないと確認できません。



(注) レコード数の作成は、このトランザクションには適用されません。

管理者はリージョン帯域幅のデフォルトを変更できますが、BATメニューを使用して変更することはできません。



(注)

---

リージョン帯域幅のデフォルトにアクセスするには、Cisco Unified Communications Manager で [システム (System)] > [サービスパラメータ (Service Parameters)] を選択します。パラメータタイプは Cisco Unified Communications Manager で、目的の 4 つのパラメータは [Clusterwide Parameters (System - Location and Region)] セクションの一部を構成しています。

---



## **PART 13**

### **インポートとエクスポート**





## CHAPTER 62

# インポート / エクスポート

Cisco Unified Communications Manager 一括管理ツール (BAT) の [インポート/エクスポート (Import/Export)] メニューを使用して、Cisco Unified Communications Manager データベースの一部を別のサーバに、または変更を加えて同じサーバにエクスポートまたはインポートできます。この方法で、事前に設定したデータベースをインストール済みの Cisco Unified Communications Manager サーバにインポートすることによって設定に要する時間が短縮されます。

次のトピックでは、これらのタスクを行う手順について説明します。

- 「設定のエクスポート」 (P.62-1)
- 「.tar ファイルの編集」 (P.62-7)
- 「設定のインポート」 (P.63-1)

## 設定のエクスポート

Cisco Unified Communications Manager から設定データをエクスポートする手順は、次のとおりです。

### 手順

- ステップ 1** [一括管理 (Bulk Administration)] > [インポート/エクスポート (Import/Export)] > [エクスポート (Export)] の順に選択します。
- [データのエクスポート (Export Data)] ウィンドウが表示されます。
- ステップ 2** [ジョブ情報 (Job Information)] セクションの [Tarファイル名 (Tar File Name)] フィールドに、.tar ファイル名を拡張子なしで入力します。
- BPS は、このファイル名を使用して設定の詳細をエクスポートします。
-  **(注)** 一度にエクスポートされたすべてのファイルは、1 つ (.tar) にまとめられ、サーバからダウンロードできます。
- ステップ 3** [エクスポートする項目の選択 (Select items to Export)] セクションの [システムデータ (System Data)] で、適切なチェックボックスをオンにします。次のオプションがあります。
- [Cisco Unified Communications Manager]
  - [Cisco Unified CM グループ (Cisco Unified Communications Manager Group)]
  - [日時グループ (Date/Time Group)]
  - [デバイスプール (Device Pool)]

- [エンタープライズパラメータ (Enterprise Parameter)]
- [ロケーション (Location)]
- [電話用 NTP(Phone NTP Reference)]
- [リージョン (Region)]
- [サーバ (Server)]
- [サービスパラメータ (Service Parameter)]
- [SRST]
- [セキュリティプロファイル (Security Profile、電話および SIP トランク )]
- [物理ロケーション (Physical Location)]
- [デバイスモビリティグループ (Device Mobility group)]
- [プレゼンスグループ (Presence Group)]
- [LDAP システム (LDAP System)]
- [デバイスモビリティ情報 (Device Mobility Info)]
- [DHCP サーバ (DHCP Server)]
- [DHCP サブネット (DHCP Subnet)]
- [アプリケーションサーバ (Application Server)]
- [LDAP ディレクトリ (LDAP Directory)]
- [LDAP 認証 (LDAP Authentication)]
- [MLPP ドメイン (MLPP Domain)]
- [リソースプライオリティネームスペースネットワークドメイン (Resource Priority Namespace Network Domain)]
- [リソースプライオリティネームスペースリスト (Resource Priority Namespace List)]
- [CUMA サーバセキュリティプロファイル (CUMA Server Security Profile)]
- [位置情報 (Geo Location)]
- [位置情報フィルタ (Geo Location Filter)]
- [エンタープライズ電話の設定 (Enterprise Phone Configuration)]
- [証明書 (Certificate)]
- [LDAP カスタムフィルタ (LDAP Custom Filter)]

**ステップ 4** [コールルーティングデータ (Call Routing Data)] で、適切なチェックボックスをオンにします。次のオプションがあります。

- [アプリケーションダイヤルルール (Application Dial Rules)]
- [CSS( コントロールのクラス )]
- [パーティション (Partitions、 コントロールのクラス )]
- [ルートフィルタ (Route Filter)]
- [時間帯 (Time Period、 コントロールのクラス )]
- [スケジュール (Time Schedule、 コントロールのクラス )]
- [トランスレーションパターン (Translation Pattern)]
- [AAR グループ (AAR Group)]

- [ 強制承認コード (Forced Authorization Codes)]
- [ ディレクトリ検索ダイヤルルール (Directory Lookup Dial Rules)]
- [ クライアント識別コード (Client Matter Codes)]
- [ コールパーク (Call Park)]
- [ コールピックアップグループ (Call Pickup Group)]
- [ 電話番号 (Directory Number)]
- [ ミートミー番号 (MeetMe Number)]
- [Cisco Attendant Console のパイロットポイント (Cisco Attendant Console Pilot Point)]
- [ ダイレクトコールパーク (Directed Call Park)]
- [SIP ダイヤルルール (SIP Dial Rules)]
- [ 回線グループ (Line Group)]
- [ ルートグループ (Route Group)]
- [ ハントリスト (Hunt List)]
- [ ルートリスト (Route List)]
- [ ハントパイロット (Hunt Pilot)]
- [ インターコムルートパーティション (Intercom Route Partition)]
- [ インターコムの CSS(Intercom CSS)]
- [ アクセスリスト (Access List)]
- [ ルートパターン (Route Pattern)]
- [ 着信側トランスフォーメーションパターン (Called Party Transformation Pattern)]
- [SIP ルートパターン (SIP Route Pattern)]
- [ インターコム電話番号 (Intercom Directory Number)]
- [ インターコムトランスレーションパターン (Intercom Translation Pattern)]
- [ 発呼側トランスフォーメーションパターン (Calling Party Transformation Pattern)]
- [ 時刻アクセス (Time Of Day Access)]
- [ 論理パーティションポリシー (Logical Partition Policy)]
- [CCD 要求サービス (CCD Requesting Service)]
- [ ホステッド DN グループ (Hosted DN Group)]
- [ 学習パターンのブロック (Block Learned Patterns)]
- [ ホステッド DN パターン (Hosted DN Patterns)]
- [CCD アドバタイジングサービス (CCD Advertising Service)]
- [ 外部コール制御プロファイル (External Call Control Profile)]
- [ トランスフォーメーションプロファイル (Transformation Profile)]
- [CCD 機能設定 (CCD Feature Configuration)]
- [CCD パーティション (CCD Partition)]
- [ モビリティプロファイル設定 (Mobility Profile Configuration)]
- [ ハンドオフ設定 (Handoff Configuration)]
- [ エンタープライズ機能アクセス設定 (Enterprise Feature Access Configuration)]

**ステップ 5** [メディアリソース (Media Resources)] で、適切なチェックボックスをオンにします。次のオプションがあります。

- [アナウンシエータ (Annunciator)]
- [会議ブリッジ (Conference Bridge)]
- [メディアリソースグループ (Media Resource Group)]
- [メディアリソースグループリスト (Media Resource Group List)]
- [メディアターミネーションポイント (Media Termination Point)]
- [トランスコーダ (Transcoder)]
- [MOH サーバ (MOH Server)]
- [モバイルボイスアクセス (Mobile Voice Access)]

**ステップ 6** [ユーザデータ (User Data)] で、適切なチェックボックスをオンにします。次のオプションがあります。

- [SIP レalm (SIP Realm)]
- [アプリケーションユーザ (Application User)]
- [ユーザグループ (User Group)]
- [権限 (Role)]
- [アプリケーションユーザ CAPF プロファイル (Application User CAPF Profile)]
- [クレデンシャルポリシーのデフォルト (Credential Policy Default)]
- [クレデンシャルポリシー (Credential Policy)]
- [エンドユーザ (End User)]
- [エンドユーザ CAPF プロファイル (End User CAPF Profile)]

**ステップ 7** [デバイスデータ (Device Data)] で、適切なチェックボックスをオンにします。次のオプションがあります。

- [ソフトキーテンプレート (Softkey Template)]
- [ゲートキーパー (Gate Keeper)]
- [トランク (Trunk)]
- [SIP プロファイル (SIP Profile)]
- [IP Phone サービス (Phone Services)]
- [電話ボタンテンプレート (Phone Button Template)]
- [共通の電話プロファイル (Common Phone Profile)]
- [ゲートウェイ (Gateway)]
- [デバイスのデフォルト (Device Defaults)]
- [デバイスプロファイル (Device Profile)]
- [共通デバイス設定 (Common Device Configuration)]
- [CTI ルートポイント (CTI Route Point)]
- [電話 (Phone)]
- [録音プロファイル (Recording Profile)]
- [リモート接続先 (Remote Destination)]
- [リモート接続先プロファイル (Remote Destination Profile)]

- [機能管理ポリシー (Feature Control Policy)]
- [デフォルトのデバイスプロファイル (Default Device Profile)]
- [SIP 正規化スクリプト (SIP Normalization Script)]

**ステップ 8** [拡張機能 (Advanced Features)] で適切なチェックボックスをオンにします。次のオプションがあります。

- [メッセージ受信番号 (Message Waiting Numbers)]
- [ボイスメールパイロット (Voice Mail Pilot)]
- [ボイスメールプロファイル (Voice Mail Profile)]
- [ボイスメールポート (Voice Mail Port)]
- [SAF フォワーダ (SAF Forwarder)]
- [SAF セキュリティプロファイル (SAF Security Profile)]
- [EMCC リモートクラスター (EMCC Remote Cluster)]
- [EMCC クラスター間サービスプロファイル (EMCC Intercluster Service Profile)]
- [Intercompany Media Engine サーバ接続 (Intercompany Media Engine Server Connections)] : このフィールドを設定する前に、シスコの IME サーバが設置され、利用可能であることを確認してください。
- [Intercompany Media Service] : このフィールドを設定する前に、シスコの IME サーバが設置され、利用可能であることを確認してください。
- [Intercompany Media Service の信頼要素 (Intercompany Media Services Trust Element)] : このフィールドを設定する前に、シスコの IME サーバが設置され、利用可能であることを確認してください。
- [Intercompany Media Service の登録済みパターン (Intercompany Media Services Enrolled Pattern)] : このフィールドを設定する前に、シスコの IME サーバが設置され、利用可能であることを確認してください。
- [Intercompany Media Service の登録済みグループ (Intercompany Media Services Enrolled Group)] : このフィールドを設定する前に、シスコの IME サーバが設置され、利用可能であることを確認してください。
- [Intercompany Media Service の除外グループ (Intercompany Media Services Exclusion Group)] : このフィールドを設定する前に、シスコの IME サーバが設置され、利用可能であることを確認してください。
- [フォールバックプロファイル (Fall Back Profile)] : このフィールドを設定する前に、シスコの IME サーバが設置され、利用可能であることを確認してください。
- [Intercompany Media Service の学習ルート (Intercompany Media Services Learned Route)] : このフィールドを設定する前に、シスコの IME サーバが設置され、利用可能であることを確認してください。
- [VPN プロファイル (VPN Profile)]
- [VPN ゲートウェイ (VPN Gateway)]
- [VPN グループ (VPN Group)]
- [EMCC 機能設定 (EMCC Feature Config)]
- [Intercompany Media Service のファイアウォール (Intercompany Media Services Firewall)] : このフィールドを設定する前に、シスコの IME サーバが設置され、利用可能であることを確認してください。

- [Intercompany Media Service 除外番号 (Intercompany Media Services Exclusion Number)] : このフィールドを設定する前に、シスコの IME サーバが設置され、利用可能であることを確認してください。
- [Intercompany Media Service E.164 トランスフォーメーション (Intercompany Media Services E.164 Transformation)] : このフィールドを設定する前に、シスコの IME サーバが設置され、利用可能であることを確認してください。
- [Intercompany Media Service 機能設定 (Intercompany Media Services Feature Configuration)] : このフィールドを設定する前に、シスコの IME サーバが設置され、利用可能であることを確認してください。
- [フォールバック機能設定 (Fallback Feature Configuration)] : このフィールドを設定する前に、シスコの IME サーバが設置され、利用可能であることを確認してください。
- [VPN 機能設定 (VPN Feature Configuration)]

**ステップ 9** [すべてを選択 (Select All)] ボタンを使用すると、すべてのチェックボックスを一度にオンにでき、[すべてをクリア (Clear All)] ボタンを使用すると、すべてのチェックボックスをオフにできます。

**ステップ 10** [ジョブ説明 (Job Description)] フィールドに、ジョブの説明を入力します。デフォルトの説明は、「Export Configuration」です。

**ステップ 11** 対応するオプション ボタンを選択して、ジョブをすぐに実行するか、後で実行するかを選択できます。

**ステップ 12** 関連レコードもエクスポートするために、テーブルの相互依存関係を確認するには、[依存関係の確認 (Check Dependency)] をクリックします。



(注) 依存関係を確認した後、任意のチェックボックスをオフにできます。依存関係の確認を省略することもできます。



(注) 依存関係の確認は、依存関係の 1 レベルだけの従属アイテムを選択します。たとえば、アイテムが CSS に従属している場合は、CSS のみが選択され、CSS が依存しているアイテムは選択されません。

**ステップ 13** [送信 (Submit)] をクリックして、選択したデータをエクスポートするジョブを作成します。

[ステータス (Status)] セクションのメッセージで、ジョブが正常に送信されたことが示されます。

**ステップ 14** [一括管理 (Bulk Administration)] メイン メニューの [ジョブスケジューラ (Job Scheduler)] オプションを使用して、このジョブのスケジュールやアクティブ化を行います。

ジョブの詳細については、[第 82 章「ジョブのスケジュール」](#)を参照してください。

## ログ ファイル

1 つのエクスポート トランザクションで複数のログ ファイルが作成されます。トランザクション全体に関して 1 つ、エクスポートするために選択した各項目に 1 つずつ、ログ ファイルが作成されます。これらのログ ファイルでは、項目ごとに別個の結果が示されます。ログ ファイル名の先頭に項目名が追加されるため、ログの識別は容易です。

これらのファイルには、[ジョブスケジューラ (Job Scheduler)] ページからアクセスできます。

**追加情報**

「[関連項目](#)」(P.62-8) を参照してください。

## .tar ファイルの編集

tar ファイルは、CSV ファイルのリストとヘッダー ファイルで構成されます。ヘッダー ファイルは、エクスポート元のサーバの詳細とエクスポートが実行された時刻を参照するために使用できます。ヘッダー ファイルには、パッケージ内のファイルの詳細も記述されています。

必要なデータをエクスポートした後に設定に変更を加える場合は、エクスポートした .tar ファイルを次の手順で編集することで変更できます。

**手順**

**ステップ 1** [一括管理 (Bulk Administration)] > [ファイルのアップロード/ダウンロード (Upload/Download Files)] の順に選択します。

[ファイルの検索と一覧表示 (Find and List Files)] ページが表示されます。

**ステップ 2** 「[ファイルのダウンロード](#)」(P.2-2) の手順に従って、更新する .tar ファイルをダウンロードします。

**ステップ 3** 「tar-xvf」 コマンドを使用して、マシン上の任意の場所に .tar ファイルを展開します。

指定した場所に .csv ファイルが展開されます。



**(注)** 「tar-xvf」 コマンドは、Windows サーバに対しては機能しない場合があります。TAR および UNTAR 操作は、7-Zip を使用している Windows で実行可能です。7-Zip は、WWW で入手可能なフリーウェアです。



**(注)** .csv ファイルの名前は、常に項目名と同じです。

**ステップ 4** MS Excel を使用して .csv ファイルを編集し、変更内容を保存します。



**(注)** メモ帳または Wordpad を使用しても .csv ファイルを編集できますが、.csv ファイルの編集には MS Excel を使用することをお勧めします。

.csv ファイルは、同じファイル名およびファイル形式を常に維持する必要があります。tar パッケージに新しいファイルを追加する場合は、そのファイルの名前とファイル形式が、Cisco Unified Communications Manager からエクスポートした場合と同じになるようにします。新しいファイル名がヘッダー ファイルに追加されたことも確認してください。



**ヒント** 新規項目を追加する場合は、その項目のレコードがなくても、その項目を必ず Cisco Unified Communications Manager からエクスポートするようにしてください。それによって、正しい名前とファイル形式を持つ .csv ファイルが作成されます。

**ステップ 5** 「tar-cvf」コマンドを使用してファイルを再圧縮し、新しい .tar ファイルがデフォルトの共通の場所に保存されたことを確認します。



**(注)** 「tar-cvf」コマンドは、Windows サーバに対しては機能しない場合があります。TAR および UNTAR 操作は、7-Zip を使用している Windows で実行可能です。7-Zip は、WWW で入手可能なフリーウェアです。



**注意** BPS が .tar ファイルを検索するのはデフォルトの場所だけなので、ファイルを再圧縮するとき、.tar ファイルは元のディレクトリ構造を保持している必要があります。

**ステップ 6** 「ファイルのアップロード」(P.2-3) の手順に従って、インポートする .tar ファイルをアップロードします。



**(注)** 必ず、ターゲットに [インポート/エクスポート (Import/Export)] を選択し、トランザクションタイプに [インポート (Import)] を選択してください。



**(注)** メモ帳または Wordpad を使用して編集する場合は、ファイル形式内のすべての新規エントリに必ずカンマを追加してください。



**(注)** [インポート/エクスポート (Import/Export)] ツールでは、パスワードおよび PIN の属性の更新はサポートされていません。これらの情報は暗号化形式でファイルにエクスポートされるため、プレーンテキストには変更できません。クレデンシャルを持つエンティティは、共通の電話プロファイル、SIP レルム、アプリケーション ユーザ、LDAP 認証、LDAP ディレクトリ、Cisco Attendant Console、およびエンド ユーザです。エクスポートされるファイルの enduser.csv に含まれる [User ID]、[User Pkid]、[Password]、[Pin] の各フィールドは変更できないことに注意してください。

## 関連項目

- 「設定のエクスポート」(P.62-1)
- 「.tar ファイルの編集」(P.62-7)
- 「ファイルの検索」(P.2-1)
- 「ファイルのダウンロード」(P.2-2)
- 「ファイルのアップロード」(P.2-3)
- 「ファイルの削除」(P.2-4)
- 「設定のインポート」(P.63-1)



## CHAPTER 63

# 設定のインポート

[一括管理(Bulk Administration)] メニューを使用して Cisco Unified Communications Manager に設定データをインポートする手順は、次のとおりです。



(注)

インポート .csv ファイルに IPMA に固有のテンプレートがある場合は、インポート トランザクションを実行する前に、ターゲット サーバで IPMA ウィザードを実行してください。



ヒント

既存のエンタープライズ パラメータやサービス パラメータは、インポート/エクスポートを使用しないと更新できません。パラメータの一部がデータベースで見つからない場合は、パラメータのインポートが失敗します。エンタープライズ パラメータまたはサービス パラメータを正しくインポートするには、インポートを実行している Cisco Unified Communications Manager の管理ページの [エンタープライズパラメータ (Enterprise Parameter)] ウィンドウまたは [サービスパラメータ (Service Parameter)] ウィンドウで、パラメータを更新する必要があります。更新するには、Cisco Unified Communications Manager の管理ページの [エンタープライズパラメータ (Enterprise Parameter)] ウィンドウまたは [サービスパラメータ (Service Parameter)] ウィンドウで、インポートを実行する前に、何も変更しないで [保存(Save)] をクリックします。

### 手順

**ステップ 1** [一括管理(Bulk Administration)] > [インポート/エクスポート (Import/Export)] > [インポート (Import)] の順に選択します。

[設定ツールのインポート (Config Tool Import Configuration)] ウィンドウが表示されます。

**ステップ 2** [ファイル名 (File Name)] フィールドで .tar ファイル名を選択し、[次へ(Next)] をクリックします。



(注) [ファイル名 (File Name)] ドロップダウン リストボックスに、アップロードした .tar ファイルがすべて表示されます。 .tar ファイルのアップロードについては、第 2 章「ファイルのアップロード」を参照してください。

**ステップ 3** [インポート設定 (Import Configuration)] セクションに、.tar ファイルのすべてのコンポーネントが表示されます。インポートするオプションに対応するチェックボックスをオンにします。

**ステップ 4** 項目が存在する場合にその項目が BPS によって更新され、存在しない場合に挿入されるようにするには、[既存の設定の上書き (Override the existing configuration)] チェックボックスをオンにします。既存の設定の上書きは、オプションです。



(注) [既存の設定の上書き (Override the existing configuration)] オプションを指定して電話機またはユーザ デバイス プロファイルをインポートしても、IP 電話機サービスは更新されませんが、既存のエンティティ セットに対する付加だけは行われることに注意してください。同じ名前を持つ複数の IP 電話機サービスを使用できますが、これらのサービスを区別する一意のキーがないため、インポートまたはエクスポートで更新するサービスを決定できず、代わりにサービスが付加されます。



(注) ファイルに変更を加えた場合は、更新中にファイル名とファイル形式を変更しないでください。

- ステップ 5** [すべてを選択 (Select All)] をクリックすると、すべてのオプションを一度に選択でき、[すべてをクリア (Clear All)] をクリックするとすべての選択を解除できます。
- ステップ 6** 対応するオプション ボタンを選択して、ジョブをすぐに実行するか、後で実行するかを選択します。
- ステップ 7** [送信 (Submit)] をクリックして、選択したデータをインポートするジョブを作成します。  
[ステータス (Status)] セクションのメッセージで、ジョブが正常に送信されたことが示されます。
- ステップ 8** このジョブのスケジュールやアクティブ化を行うには、[一括管理 (Bulk Administration)] メインメニューの [ジョブスケジューラ (Job Scheduler)] オプションを使用します。



(注) job-run が失敗した場合、修正した同じ tar ファイルを実行すると上書きできます。



(注) Cisco Unified Communications Manager サーバを作成すると、バックグラウンドでデータベース トリガーが実行され、Conference Bridge (CFB; 会議ブリッジ) や Media Termination point (MTP; メディアターミネーションポイント) などのエンティティが自動的に作成されます。これらのエンティティには、CFB\_1 や MTP\_1 などの名前が付いています。ユーザがこの情報を TAR ファイルにインポートし、別の Cisco Unified Communications Manager サーバにインポートすると、CFB や MTP などの項目が作成されます。別の Cisco Unified Communications Manager サーバでの名前は、インポート前と同じであることも、違う名前になることもあります。

## ログ ファイル

1 つのインポート トランザクションで複数のログ ファイルが作成されます。トランザクション全体に関して 1 つ、インポートするために選択した各項目に 1 つずつ、ログ ファイルが作成されます。ログ ファイル名の先頭に項目名が追加されるため、ログの識別は容易です。トランザクション全体を示すログの場合は、前にジョブ ID が付加されます。

これらのファイルには、[ジョブスケジューラ (Job Scheduler)] ページからアクセスできます。

## 依存関係にあるエンティティの段階的なインポート

Cisco Unified Communications Manager の一部のエンティティは互いに依存しており、一方をインポートしなければ他方をインポートできません。[インポート/エクスポート (Import/Export)] では、そのようなエンティティのインポート プロセスを 2 段階の手順で実行します。

1. 補助エンティティの値をブランクにして、優先度が高いほうのエンティティを最初にインポートします。



(注) これは、補助エンティティの値が最初の時点で利用できないためです。

2. .tar 内のすべてのエンティティをインポートした後に、[インポート/エクスポート (Import/Export)] では補助エンティティの値で優先度が高いほうのエンティティを更新し、インポート プロセスを完了します。



(注) 補助エンティティの値は、次の段階で利用可能になります。

### 例

依存関係にあるエンティティの段階的なインポート方法については、次の例を参考にしてください。

デバイス プールおよびメディア リソース グループ リスト (MRGL) : デバイス プール (優先度が高いほうのエンティティ) は、最初に MRGL (補助エンティティ) をブランクの値にしてインポートされます。これは MRGL の値がその時点で利用できないためです。 .tar ファイル内のすべてのエンティティをインポートした後に、[インポート/エクスポート (Import/Export)] ではデバイス プールを更新し、MRGL のブランクの値を正しい値で置き換えて、インポート プロセスを完了します。

依存関係があり、段階的にインポートする必要のあるエンティティは次のとおりです。

- デバイス プールおよび MRGL
- デバイス プールおよびルート グループ
- パーティションおよびタイム スケジュール
- アプリケーション ユーザおよびユーザ グループ
- ライセンス

### サンプル レコード

devicepool.csv

```
DEVICE POOL NAME,CISCO UNIFIED CALLMANAGER GROUP,DATE/TIME
GROUP,REGION,SRST REFERENCE,CALLING SEARCH SPACE FOR
AUTO-REGISTRATION,AAR CALLING SEARCH SPACE,DEVICE MOBILITY CALLING
SEARCH SPACE,MEDIA RESOURCE GROUP LIST,LOCATION,NETWORK
LOCALE,CONNECTION MONITOR DURATION,DEVICE MOBILITY GROUP,AAR
GROUP,REVERTED CALL FOCUS PRIORITY,LOCAL ROUTE GROUP,CALLING PARTY
TRANSFORMATION CSS,CALLED PARTY TRANSFORMATION CSS,INCOMING CALLING
PARTY NATIONAL NUMBER PREFIX,INCOMING CALLING PARTY INTERNATIONAL
NUMBER PREFIX,INCOMING CALLING PARTY UNKNOWN NUMBER PREFIX,INCOMING
CALLING PARTY SUBSCRIBER NUMBER PREFIX,PHYSICAL LOCATION
```

Branch\_0000,CMG 1

```
Phones,Central,region_0001,Disable,NULL,NULL,NULL,Intrn_MRGL-1_Volkswagen
Intn.,NULL,,-1,NULL,NULL,Default,NULL,NULL,NULL,Default,Default,Default,NULL
```

mediaresourcegrouplist.csv

NAME,MEDIA RESOURCE GROUP 1,SORT ORDER 1

Intrn\_MRGL-1\_Volkswagen Intn.,,



(注) [インポート/エクスポート (Import/Export)] では、依存関係にあるエンティティをインポートすると、2つのログファイルが生成されることに注意してください。最初のログファイルは、最初のエンティティの挿入ステータスを示しています。もう一方は、最初のエンティティが補助エンティティの値で正常に更新されたかどうかを示しています。

## インポートまたはエクスポートでサポートされない項目

次の項目はインポートまたはエクスポートでサポートされません。

- ダイアルプランインストーラ
- ルートプランレポート
- MOH オーディオソース
- 固定 MOH オーディオソース
- MOH オーディオファイル
- Cisco ボイスメールポートウィザード
- ファームウェアロード情報
- ライセンス
- アナウンス

## 上書き更新

[インポート/エクスポート (Import/Export)] は、Cisco Unified Communications Manager データベースの次のエンティティの挿入の機能はサポートしていません。これらのエンティティは、上書き更新のみです。

- [Cisco Unified CM]
- [LDAP システム (LDAP System)]
- [エンタープライズパラメータ (Enterprise Parameters)]
- [サービスパラメータ (Service Parameter)]
- [モビリティの設定 (Mobility Configuration)]
- [アナウンサー (Annunciator)]/[MOH サーバ (MOH Server)] : Cisco Unified Communications Manager サーバが作成されると、データベース トリガーによって MOH サーバやアナウンサーなどのエンティティが作成されます。この情報を TAR ファイルにエクスポートし、別の Cisco Unified Communications Manager サーバにインポートすると、システム トリガーによって MOH サーバやアナウンサーなどのエンティティが作成されます。[インポート/エクスポート (Import/Export)] では、既存の MOH サーバとサーバとのアソシエーション、または既存のアナウンサーとサーバとのアソシエーションの更新だけがサポートされます。インポートする前に、

CSV ファイルに有効なアソシエーションが確実に含まれるように TAR ファイルを編集できます。先にサーバをインポートしてから、作成されるアソシエーションに基づいて CSV ファイルを編集し、上書きでインポートすることをお勧めします。

- [デバイスのデフォルト (Device Defaults)]
- [クレデンシャルポリシーのデフォルト (Credential Policy Default)]
- [証明書 (Certificate)]: 新しい証明書は Cisco Unified Communications Manager の管理ページで作成または更新できないため、[インポート/エクスポート (Import/Export)] では既存の証明書の更新だけがサポートされます。証明書の [キャッシュの有効期間 (Duration in Cache)] パラメータだけを更新できます。

## Cisco Unified CallManager 4.x リリースからのアップグレード

Cisco Unified CallManager 4.x リリースからアップグレードした後でエンティティをインポートするときは、次の点に注意してください。

- BAT では、同じバージョンの Cisco Unified Communications Manager 間でのインポートおよびエクスポートだけがサポートされます。Cisco Unified CallManager 4.x リリースからアップグレードした後は、ソース サーバとターゲット サーバの両方で Cisco Unified Communications Manager のバージョンが同じであることを確認してください。
- アップグレードの前にソース サーバで実行していた以前の Cisco Unified CallManager 4.x バージョンでは適切なアプリケーション ユーザに関連付けられていたユーザ グループの一部が、ターゲット サーバで実行している Cisco Unified Communications Manager のバージョンに適切ではない場合があります。そのようなユーザ グループのインポート トランザクションは失敗します。

## 関連項目

- 「設定のエクスポート」 (P.62-1)
- 「.tar ファイルの編集」 (P.62-7)
- 「ログ ファイル」 (P.63-2)
- 「上書き更新」 (P.63-4)
- 「Cisco Unified CallManager 4.x リリースからのアップグレード」 (P.63-5)
- 「ファイルの検索」 (P.2-1)
- 「ファイルのダウンロード」 (P.2-2)
- 「ファイルのアップロード」 (P.2-3)
- 「ファイルの削除」 (P.2-4)





## CHAPTER 64

# インポート ファイルの検証

BAT の [インポート ファイルの検証 (Validate Import File)] ページを使用して、インポート .tar ファイルを検証できます。この機能を使用すると、次のことを検証できます。

- .tar ファイルには、ヘッダー ファイルが含まれている。
- ヘッダー ファイルに示されているすべてのファイルが、実際に .tar ファイルに含まれている。
- .tar ファイル内のすべてのファイルがヘッダー ファイルに示されている。
- ファイル名は [インポート/エクスポート (Import/Export)] で入力したとおりで正しい。
- .tar ファイル内の CSV ファイルのファイル フォーマットは正しい。



(注) この機能には、有効な文字、文字列の長さなどのフィールド レベルでの確認は含まれていません。

### 手順

- ステップ 1** [一括管理 (Bulk Administration)] > [インポート/エクスポート (Import/Export)] > [インポート ファイルの検証 (Validate Import File)] の順に選択します。
- [インポート ファイルの検証 (Validate Import File)] ウィンドウが表示されます。
- ステップ 2** [Tar ファイル名 (Tar File Name)] フィールドで .tar ファイル名を選択し、[送信 (Submit)] をクリックします。



(注) [ファイル名 (File Name)] ドロップダウン リスト ボックスに、アップロードした .tar ファイルがすべて表示されます。.tar ファイルのアップロードについては、[第 2 章「ファイルのアップロード」](#)を参照してください。

- [ステータス (Status)] セクションのメッセージで、ジョブが正常に送信されたことが示されます。
- ステップ 3** ジョブのステータスを確認するには、[一括管理 (Bulk Administration)] メイン メニューの [ジョブスケジューラ (Job Scheduler)] オプションを使用します。

## ログ ファイル

1 つのインポート ファイルの検証で複数のログ ファイルが作成されます。トランザクション全体に関して 1 つ、インポートするために選択した各項目に 1 つずつ、ログ ファイルが作成されます。ログ ファイル名の先頭に項目名が追加されるため、ログの識別は容易です。

これらのファイルには、[ジョブスケジューラ (Job Scheduler)] ページからアクセスできます。

検証中に問題が発生した場合は、ログ ファイルに示されます。



(注)

---

検証作業は、前述の項目に対してのみ行われます。

---

## 関連項目

- 「設定のエクスポート」 (P.62-1)
- 「.tar ファイルの編集」 (P.62-7)
- 「ファイルの検索」 (P.2-1)
- 「ファイルのダウンロード」 (P.2-2)
- 「ファイルのアップロード」 (P.2-3)
- 「ファイルの削除」 (P.2-4)



## **PART 14**

### **電話の移行**





## CHAPTER 65

# 電話の移行

Cisco Unified Communications Manager 一括管理ツールの電話の移行機能を使用すると、電話のタイプを別のタイプに一括で移行できます。Cisco Unified Communications Manager の [一括管理 (Bulk Administration)] メニューから [電話の移行 (Phone Migration)] サブメニューにアクセスできます。

電話の移行中には、以下の制限に注意する必要があります。

- スピードダイヤルや回線数の少ない電話に移行すると、回線またはスピードダイヤルは削除されません。ただし、回線/スピードダイヤルの一部は電話に表示されなくなります。電話の設定ページで元の回線/スピードダイヤルもすべて検索できます。
- 新しい電話に移行しても、SIP から SCCP への移行または SCCP から SIP への移行の場合と同様に、機能が失われる場合があります。
- 既存の電話のみ移行できます。CSV ファイルに既存のデバイス以外のデバイスを入力すると、システムにはエラーメッセージが表示されます。
- 電話が正常に移行すると、古い電話は新しい電話設定で更新されます。
- リセットまたは再起動オプションを選択すると、新しい電話がリセットされます。

## 電話の移行用の CSV データ ファイルの作成

BAT スプレッドシートを使用して、電話を移行するための CSV データ ファイルを作成できます。

- 「[電話の移行用 CSV データ ファイルを作成するための BAT スプレッドシートの使用方法](#)」 (P.65-1)

テキスト エディタを使用して電話を移行するための CSV 形式のテキスト ファイルを作成できます。

- 「[電話の移行用のテキストベース CSV ファイルの作成](#)」 (P.A-28)

## 電話の移行用 CSV データ ファイルを作成するための BAT スプレッドシートの使用方法

BAT スプレッドシートを使用して、電話の移行の詳細を含む CSV データ ファイルを作成します。

BAT スプレッドシートのインストール方法と使用方法については、「[BAT スプレッドシートをデータ収集に使用する方法](#)」 (P.1-9) を参照してください。

電話の移行用にテキストベースの CSV データ ファイルを作成する場合は、「[電話の移行用のテキストベース CSV ファイルの作成](#)」 (P.A-28) の情報と例を参照してください。

## 手順

- ステップ 1** BAT.xlt ファイルを検索し、ダブルクリックして、BAT スプレッドシートを開きます。
- ステップ 2** プロンプトが表示されたら、[マクロを有効にする] ボタンをクリックして、スプレッドシート機能を使用します。
- ステップ 3** [電話の移行 (Phone Migration)] タブをクリックします。
- ステップ 4** 各行に、次のフィールド用の情報を指定します。
- [Old Device Name] : 移行している電話の名前を、古いデバイスを識別する 1 ~ 50 文字で入力します。これは必須フィールドです。
  - [New Device MAC Address] : 新しいデバイスの MAC アドレス (12 文字) を入力します。これは必須フィールドです。
  - [Description] : 説明を 50 文字以内で入力します。これはオプションのフィールドです。説明には、任意の言語で最大 50 文字を指定できますが、二重引用符 (")、パーセント記号 (%)、アンパサンド (&)、バックスラッシュ (\)、または山カッコ (<>) は使用できません。
- ステップ 5** [Export to BAT Format] をクリックして、BAT Excel スプレッドシートから CSV ファイルにデータを転送します。

このファイルは、次の名前が付けられて、C:\¥XLSDataFiles (または、指定した別の既存フォルダ) に保存されます。

PhoneMigration#timestamp.txt

ここで、「timestamp」は、このファイルが作成された正確な日時を表します。



**ヒント** いずれかのフィールドにカンマを入力した場合、BAT.xlt を使用して BAT 形式にエクスポートするときに、そのフィールド エントリは二重引用符で囲まれます。

スプレッドシートに空白行を入力すると、その空の行はファイルの終わりとして扱われません。空白行の後に入力されたデータは、BAT 形式には変換されません。

CSV データ ファイルを Cisco Unified Communications Manager サーバの最初のノードにアップロードして、BAT からこのデータ入力ファイルにアクセスできるようにする必要があります。詳細については、「ファイルのアップロードとダウンロード」(P.2-1) を参照してください。



**(注)** エクスポートされた CSV データ ファイルを読み取る方法については、BAT の [電話の移行設定 (Phone Migration Configuration)] ウィンドウで、[サンプルファイルの表示] へのリンクをクリックしてください。

## 追加情報

「関連項目」(P.65-4) を参照してください。

# 電話機の移行

BAT で電話の移行機能を使用して電話を一括で移行する手順は、次のとおりです。

## 始める前に

- 移行する電話のデバイス名、新しい電話の MAC アドレス、および新しい電話の説明を含むカンマ区切り値 (CSV) 形式のデータ ファイルを用意しておく必要があります。
- 特定のタイプの電話機テンプレート、および移行の設定と準備に使用するプロトコルを用意しておく必要があります。
- 「[ファイルのアップロード](#)」(P.2-3) の手順に従って、該当ターゲットとトランザクションのための機能を選択してデータ ファイルをアップロードします。

## 手順

- 
- ステップ 1** [一括管理 (Bulk Administration)] > [電話の移行 (Phone Migration)] の順に選択します。[電話の移行設定 (Phone Migration Configuration)] ウィンドウが表示されます。
- ステップ 2** [情報のリセット/リスタート (Reset/Restart Information)] セクションのオプション ボタンをクリックして、電話をリセットまたは再起動できます。[電話をリセット/リスタートしない (Don't Reset/Restart phones)] がデフォルトの設定です。
- ステップ 3** [電話の移行情報 (Phone Migration Information)] セクションで、[ファイル名 (File Name)] ドロップダウン リスト ボックスから、アップロードしたファイルを選択します。
- ステップ 4** [電話テンプレート名 (Phone Template Name)] ドロップダウン リスト ボックスから、移行に使用する電話機テンプレートを選択します。
- ステップ 5** [ジョブ情報 (Job Information)] セクションに、ジョブの説明を入力します。デフォルトの説明では、「電話の移行」と指定されます。
- ステップ 6** 対応するオプション ボタンを選択して、ジョブをすぐに実行するか、後で実行するかを選択できます。
- ステップ 7** 電話を移行するジョブを作成するには、[送信 (Submit)] をクリックします。
- ステップ 8** 機能やデータが失われる可能性があることを示す警告メッセージが表示されます。  
[キャンセル] をクリックして、ジョブを送信せずに [電話の移行設定 (Phone Migration Configuration)] ウィンドウに戻ります。  
または  
[OK] をクリックして、ジョブの送信を続行します。  
[ステータス (Status)] セクションのメッセージで、ジョブが正常に送信されたことが示されます。
- ステップ 9** このジョブのスケジュールやアクティブ化を行うには、[一括管理 (Bulk Administration)] メインメニューの [ジョブスケジューラ (Job Scheduler)] オプションを使用します。
-

## 関連項目

- 「SSCP から SIP への電話機の移行」(P.13-1)
- 「電話の移行用 CSV データ ファイルを作成するための BAT スプレッドシートの使用法」(P.65-1)
- 「電話の移行用のテキストベース CSV ファイルの作成」(P.A-28)
- 『Cisco Unified CallManager Administration Guide』



## **PART 15**

### **クラスタ間のエクステンション モビリティ (EMCC)**





## CHAPTER 66

# クラスタ間のエクステンション モビリティ テンプレート

Cisco Unified Communications Manager の Bulk Administration (BAT; 一括管理) を使用すると、管理者は、高速かつ効率的に Extension Mobility Cross Cluster (EMCC; クラスタ間のエクステンション モビリティ) を一括で挿入、更新、または削除できます。Cisco Unified Communications Manager の管理ページを使用して個々に更新を行う必要はありません。

次のトピックでは、BAT を使用して EMCC テンプレートと他の IP テレフォニー デバイスに関する作業を行う方法について説明します。

## EMCC テンプレートの使用方法

BAT EMCC テンプレートを使用して、一連の新しい EMCC を追加するために共通の EMCC 属性を定義します。テンプレートを作成する前に、Cisco Unified Communications Manager の管理ページで EMCC 設定値がすでに設定済みであることを確認してください。BAT で新しい設定値を作成することはできません。

次のトピックを使用して、BAT EMCC テンプレートに関する作業を行います。

- 「EMCC テンプレートの検索」 (P.66-1)
- 「新しい EMCC テンプレートの作成」 (P.66-2)
- 「EMCC テンプレートの削除」 (P.66-3)
- 「BAT EMCC テンプレートのフィールドの説明」 (P.66-4)

## EMCC テンプレートの検索

複数の EMCC テンプレートに対応できるように、Cisco Unified Communications Manager では、特定の条件に基づいて特定のテンプレートを見つけることができます。テンプレートを見つける手順は、次のとおりです。



(注)

ブラウザセッションの作業中、検索/一覧表示の検索プリファレンスはクライアント マシンのクッキーに格納されます。別のメニュー項目に移動してからこのメニュー項目に戻った場合、またはブラウザを閉じてから新しいブラウザ ウィンドウを再度開いた場合、検索を変更するまで Cisco Unified Communications Manager 検索プリファレンスが維持されます。

## 手順

- ステップ 1** [一括管理 (Bulk Administration)] > [EMCC] > [EMCC テンプレート (EMCC Template)] の順に選択します。
- [EMCC テンプレートの検索と一覧表示 (EMCC Template Find and List)] ウィンドウが表示されます。2つのドロップダウン リストボックスを使用して、テンプレートを検索します。
- ステップ 2** 最初の [検索対象: EMCC テンプレート、検索条件:(Find EMCC Template where)] ドロップダウン リストボックスで、次のいずれかの検索条件を選択します。
- [テンプレート名 (Template Name)]
  - [説明 (Description)]
- 2番目の [検索対象: EMCC テンプレート、検索条件:(Find EMCC Template where)] ドロップダウン リストボックスで、次のいずれかの検索条件を選択します。
- [が次の文字列で始まる (begins with)]
  - [が次の文字列を含む (contains)]
  - [が次の文字列と等しい (is exactly)]
  - [が次の文字列で終わる (ends with)]
  - [が空である (is empty)]
  - [が空ではない (is not empty)]
- ステップ 3** 必要に応じて、適切な検索テキストを指定し、[検索 (Find)] をクリックします。



**ヒント** データベースに登録されているすべての EMCC テンプレートを検索するには、検索テキストを入力せずに [検索 (Find)] をクリックします。

検索されたテンプレートのリストが表示されます。

- ステップ 4** レコードのリストから、検索条件に一致するデバイス名をクリックします。
- 選択した EMCC テンプレートがウィンドウに表示されます。

## 追加情報

「関連項目」(P.66-5) を参照してください。

## 新しい EMCC テンプレートの作成

EMCC テンプレートを作成する手順は、次のとおりです。

## 手順

- ステップ 1** [一括管理 (Bulk Administration)] > [EMCC] > [EMCC テンプレート (EMCC Template)] の順に選択します。
- [EMCC テンプレートの検索と一覧表示 (EMCC Template Find and List)] ウィンドウが表示されます。
- ステップ 2** [新規追加 (Add New)] をクリックします。[EMCC テンプレートの設定 (EMCC Template Configuration)] ウィンドウが表示されます。

- ステップ 3** このバッチに共通する EMCC 設定値を入力します。フィールドの説明については、表 66-1 を参照してください。
- ステップ 4** この EMCC テンプレートの設定値をすべて入力した後、[保存(Save)] をクリックします。これでテンプレートが作成されます。
- ステップ 5** テンプレートを作成した後は、[挿入(Insert)] ページでデフォルトのテンプレートを設定します。[挿入(Insert)] ページにアクセスするには、[一括管理(Bulk Administration)] > [EMCC] > [EMCC の挿入/更新(Insert/Update EMCC)] の順に選択します。

#### 追加情報

「関連項目」(P.66-5) を参照してください。

## EMCC テンプレートの削除

不要になった BAT テンプレートは削除できます。テンプレートを削除する手順は、次のとおりです。

#### 手順

- ステップ 1** 「EMCC テンプレートの検索」(P.66-1) の手順に従って、削除する EMCC テンプレートを検索します。
- ステップ 2** [EMCC テンプレートの設定(EMCC Template Configuration)] ウィンドウで、削除するテンプレートを確認し、[削除(Delete)] をクリックします。



(注) [EMCC テンプレートの検索と一覧表示(EMCC Template Find and List)] ウィンドウから、EMCC テンプレートを削除することもできます。削除するテンプレートの横にあるチェックボックスをオンにして、[選択項目の削除(Delete Selected)] をクリックします。

削除操作を確認するように求めるメッセージが表示されます。



(注) デフォルトの EMCC テンプレートとして設定されているテンプレートは、システムから削除できません。デフォルトの EMCC テンプレートは、[EMCC の挿入/更新(Insert/Update EMCC)] ページまたは [EMCC の削除(Delete EMCC)] ページで見つけることができます。[EMCC テンプレートの検索と一覧表示(EMCC Template Find and List)] ページで見つけることもできます。検索と一覧表示のページでは、デフォルトのテンプレートにチェックボックスが表示されません。

- ステップ 3** [OK] をクリックして、テンプレートを削除します。[EMCC テンプレートの検索と一覧表示(EMCC Template Find and List)] ウィンドウの EMCC テンプレートのリストから、テンプレート名が消去されます。



#### 注意

特定の EMCC テンプレートを使用するジョブを送信し、そのテンプレートを削除すると、ジョブも削除されます。

#### 追加情報

「関連項目」(P.66-5) を参照してください。

## BAT EMCC テンプレートのフィールドの説明

表 66-1 では、EMCC テンプレートを追加するときに表示されるすべてのフィールドについて説明します。

Cisco Unified Communications Manager の管理ページで設定された値を表示するフィールドもあります。

BAT ユーザ インターフェイスでは、アスタリスクが付いているフィールドには値を入力する必要があります。アスタリスクの付いていないフィールドはオプションです。

関連する手順については、「[関連項目](#)」(P.66-5) を参照してください。

表 66-1 EMCC テンプレートのフィールドの説明

| フィールド                                   | 説明                                                                                                                                                                                                    |
|-----------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <b>[デバイス情報(Device Information)]</b>     |                                                                                                                                                                                                       |
| [テンプレート名(Template name)]                | テンプレートの名前を入力します。                                                                                                                                                                                      |
| [説明(Description)]                       | 作成する EMCC テンプレートの説明を入力します。説明には、任意の言語で最大 50 文字を指定できますが、二重引用符 (" )、パーセント記号 (% )、アンパサンド (& )、バックスラッシュ (\ )、または山カッコ (<> ) は使用できません。                                                                       |
| [デバイスプール(Device Pool)]                  | この EMCC のデバイス プールを選択します。<br>デバイス プールは、デバイスに共通した特性のセット (たとえば、地域、日付/時刻グループ、Cisco Unified Communications Manager グループ、自動登録用のコーリング サーチ スペースなど) を定義します。                                                    |
| [SIP プロファイル(SIP Profile)]               | デフォルトの SIP プロファイルまたはすでに作成した特定のプロファイルを選択します。SIP プロファイルは、デフォルトのテレフォニー イベント ペイロードのタイプ、登録タイマーおよびキープアライブ タイマー、メディア ポート、Iris、および動的 DNS サーバ アドレスなど、電話機の特定の SIP 情報を提供します。                                     |
| [共通デバイス設定(Common Device Configuration)] | この EMCC を割り当てる共通デバイス設定を選択します。共通デバイス設定には、特定のユーザに関連付けられた属性 (サービスまたは機能) が含まれています。[共通デバイス設定(Common Device Configuration)] ウィンドウで共通のデバイス設定を行います。<br>共通デバイス設定の設定値を参照するには、[詳細の表示(View Details)] リンクをクリックします。 |
| [共通の電話プロファイル(Common Phone Profile)]     | ドロップダウン リスト ボックスで、利用可能な共通の電話プロファイルのリストから、共通の電話プロファイルを選択します。                                                                                                                                           |



(注)

EMCC テンプレートの設定を続行するには、「[新しい EMCC テンプレートの作成](#)」(P.66-2) に進みます。

## 関連項目

- 「EMCC テンプレートの使用方法」 (P.66-1)
- 「新しい EMCC テンプレートの作成」 (P.66-2)
- 「EMCC テンプレートの削除」 (P.66-3)
- 「BAT EMCC テンプレートのフィールドの説明」 (P.66-4)





## CHAPTER 67

# EMCC の挿入および更新

Cisco Unified Communications Manager の Bulk Administration (BAT; 一括管理) を使用して、Cisco Unified Communications Manager データベース内で EMCC デバイスを挿入および更新することができます。

- 「EMCC デバイスの挿入」 (P.67-1)
- 「EMCC デバイスの更新」 (P.67-2)

## EMCC デバイスの挿入

EMCC デバイスを Cisco Unified Communications Manager データベースに追加する手順は、次のとおりです。



(注) EMCC デバイスを挿入する前に、有効な EMCC テンプレートをデフォルトとして設定しておく必要があります。デフォルトのテンプレートを設定するには、EMCC の更新に関する項を参照してください。



(注) 各 EMCC デバイスには、EMCC1、EMCC2 という形式の一意の名前が付いています。BAT では、最後に使用した名前を取得して、EMCC デバイス番号が割り当てられます。電話機、UDP、RDP、EMCC テンプレートなどの他のエンティティが、同じ形式 (EMCC1、EMCC2) で命名されている場合は、BAT の [EMCC の挿入 (Insert EMCC)] によって、名前の重複に対するエラーが生成されます。したがって、これらのエンティティのうちで同じ名前形式を持つものについては、EMCC デバイスを挿入する前に必ず名前を変更してください。

### 例

Admin ユーザが 27 台の EMCC デバイスを挿入しようとしています。初めに BAT では UCM 内で最後に使用された EMCC デバイスのシリアル番号を検索します。たとえば EMCC123 だと仮定します。これにより、BAT ではそれに続く番号である EMCC124 ~ EMCC150 にデバイスの挿入を開始します。このとき、EMCC135、EMCC137、EMCC150 という名前がすでに UDP デバイスによって使用されていた場合、BAT の [EMCC の挿入 (Insert EMCC)] で命名エラーが生成されます。UDP デバイスの名前が変更されないかぎり、これらの名前を持つ EMCC デバイスは作成されません。

## 手順

- 
- ステップ 1** [一括管理 (Bulk Administration)] > [EMCC] > [EMCC の挿入 / 更新 (Insert/Update EMCC)] の順に選択します。
- [EMCC 設定の挿入 / 更新 (Insert/Update EMCC Configuration)] ウィンドウが表示されます。
- ステップ 2** [EMCC デバイスの挿入 (Insert EMCC Devices)] オプション ボタンが選択されていることを確認します。
- ステップ 3** [追加する EMCC デバイスの数 (Number of EMCC Devices to be added)] フィールドに、デバイスの数を入力します。
- ステップ 4** [ジョブ情報 (Job Information)] 領域に、ジョブの説明を入力します。
- デフォルトの説明は、「EMCC デバイスの挿入」です。
- ステップ 5** EMCC デバイスを即座に挿入するには、[今すぐ実行 (Run Immediately)] オプション ボタンをクリックします。EMCC デバイスを後で挿入するには、[後で実行 (Run Later)] をクリックします。
- ステップ 6** EMCC デバイスを挿入するジョブを作成するには、[送信 (Submit)] をクリックします。
- ステップ 7** このジョブのスケジュールやアクティブ化を行うには、[一括管理 (Bulk Administration)] メインメニューの [ジョブスケジューラ (Job Scheduler)] オプションを使用します。
- ジョブの詳細については、[第 82 章「ジョブのスケジュール」](#) を参照してください。
- ログ ファイルの詳細については、「[BAT ログ ファイル](#)」(P.83-3) を参照してください。
- 

## 追加情報

「[関連項目](#)」(P.67-3) を参照してください。

## EMCC デバイスの更新

EMCC 設定を更新する手順は、次のとおりです。

## 手順

- 
- ステップ 1** [一括管理 (Bulk Administration)] > [EMCC] > [EMCC の挿入 / 更新 (Insert/Update EMCC)] の順に選択します。
- [EMCC 設定の挿入 / 更新 (Insert/Update EMCC Configuration)] ウィンドウが表示されます。
- ステップ 2** [EMCC デバイスの更新 (Update EMCC Devices)] オプション ボタンを選択します。
- ステップ 3** デフォルトのテンプレートを設定するには、[デフォルトの EMCC テンプレート (Default EMCC Template)] ドロップダウン リスト ボックスから EMCC テンプレートを 1 つ選択します。
- ステップ 4** すべてのデバイスをリセットするには [リセット (Reset)] オプション ボタンを選択し、すべてのデバイスをリセットしない場合は [リセットしない (Don't Reset)] を選択します。
- ステップ 5** [ジョブ情報 (Job Information)] 領域に、ジョブの説明を入力します。
- デフォルトの説明は、「EMCC デバイスの更新」です。
- ステップ 6** EMCC レコードを即座に更新するには、[今すぐ実行 (Run Immediately)] オプション ボタンをクリックします。レコードを後で更新するには、[後で実行 (Run Later)] をクリックします。
- ステップ 7** EMCC デバイスを更新するジョブを作成するには、[送信 (Submit)] をクリックします。

- ステップ 8** このジョブのスケジュールやアクティブ化を行うには、[一括管理 (Bulk Administration)] メインメニューの [ジョブスケジューラ (Job Scheduler)] オプションを使用します。
- ジョブの詳細については、[第 82 章「ジョブのスケジュール」](#) を参照してください。
- ログ ファイルの詳細については、「[BAT ログ ファイル](#)」(P.83-3) を参照してください。
- 

## 関連項目

- [「EMCC デバイスの挿入」](#) (P.67-1)
- [「EMCC デバイスの更新」](#) (P.67-2)





## CHAPTER 68

# EMCC デバイスの削除

---

BAT を使用して、EMCC デバイスを一括で削除できます。EMCC デバイスを削除する手順は、次のとおりです。

### 手順

- ステップ 1** [一括管理 (Bulk Administration)] > [EMCC] > [EMCC の削除 (Delete EMCC)] の順に選択します。  
[EMCC 設定の削除 (Delete EMCC Configuration)] ウィンドウが表示されます。
  - ステップ 2** [削除する EMCC デバイスの数 (Number of EMCC Devices to be deleted)] フィールドに、削除するデバイスの数を入力します。
  - ステップ 3** [ジョブ情報 (Job Information)] 領域に、ジョブの説明を入力します。  
デフォルトの説明は、「EMCC の削除」です。
  - ステップ 4** EMCC デバイスを即座に削除するには、[今すぐ実行 (Run Immediately)] オプション ボタンをクリックします。デバイスを後で削除するには、[後で実行 (Run Later)] をクリックします。
  - ステップ 5** EMCC デバイスを削除するジョブを作成するには、[送信 (Submit)] をクリックします。
  - ステップ 6** このジョブのスケジュールやアクティブ化を行うには、[一括管理 (Bulk Administration)] メインメニューの [ジョブスケジューラ (Job Scheduler)] オプションを使用します。  
ジョブの詳細については、[第 82 章「ジョブのスケジュール」](#) を参照してください。  
ログ ファイルの詳細については、「[BAT ログ ファイル \(P.83-3\)](#)」を参照してください。
- 

### 追加情報

「[関連項目 \(P.68-1\)](#)」を参照してください。

## 関連項目

- 「[ジョブのスケジュール \(P.82-1\)](#)」
- 「[BAT ログ ファイル \(P.83-3\)](#)」
- 「[EMCC デバイスの挿入 \(P.67-1\)](#)」
- 「[EMCC デバイスの更新 \(P.67-2\)](#)」





## **PART 16**

### **Intercompany Media Service**





## CHAPTER 69

# 信頼要素の設定の挿入

信頼要素の設定を Cisco Unified Communications Manager データベースに追加する手順は、次のとおりです。

### 始める前に

- 要素名、説明、要素タイプ、信頼グループが含まれる CSV データ ファイルが必要です。
- CSV データ ファイルは、CSV 形式に変換した BAT スプレッドシートを使用して作成できます。

### 手順

- ステップ 1** [一括管理 (Bulk Administration)] > [Intercompany Media Service] > [信頼要素 (Trust Element)] > [信頼要素の挿入 (Insert Trust Element)] の順に選択します。
- [Intercompany Media Service の信頼要素設定の挿入 (Insert Intercompany Media Services Trust Element Configuration)] ウィンドウが表示されます。
- ステップ 2** [ファイル名 (File Name)] フィールドで、このバルク トランザクション用に作成した CSV データ ファイルを選択します。
- ステップ 3** [ジョブ情報 (Job Information)] 領域に、ジョブの説明を入力します。
- デフォルトの説明は、「信頼要素の挿入」です。
- ステップ 4** Cisco 信頼要素の挿入レコードを即座に挿入するには、[今すぐ実行 (Run Immediately)] オプション ボタンをクリックします。レコードを後で挿入するには、[後で実行 (Run Later)] をクリックします。
- ステップ 5** Unified 信頼要素レコードを挿入するジョブを作成するには、[送信 (Submit)] をクリックします。
- ステップ 6** このジョブのスケジュールやアクティブ化を行うには、[一括管理 (Bulk Administration)] メインメニューの [ジョブスケジューラ (Job Scheduler)] オプションを使用します。
- ジョブの詳細については、[第 82 章「ジョブのスケジュール」](#) を参照してください。
- ログ ファイルの詳細については、「[BAT ログ ファイル](#)」(P.83-3) を参照してください。

### 追加情報

「[関連項目](#)」(P.69-2) を参照してください。

## 関連項目

- 「BAT スプレッドシートをデータ収集に使用方法」(P.1-9)
- 「IME 信頼要素設定用のテキストベース CSV ファイルの作成」(P.A-29)
- 「CSV データ ファイルの処理」(P.1-5)
- 「信頼要素の設定の削除」(P.70-1)



# CHAPTER 70

## 信頼要素の設定の削除

信頼要素を Cisco Unified Communications Manager データベースから削除する手順は、次のとおりです。

### 始める前に

1. 削除する信頼要素の要素名が記載されたテキスト ファイルを作成します。
2. カスタム ファイルを Cisco Unified Communications Manager サーバの最初のノードにアップロードします。詳細については、「[ファイルのアップロード](#)」(P.2-3) を参照してください。

カスタム ファイルに記載されている信頼要素を削除する手順は、次のとおりです。



(注) 削除トランザクションに、`bat.xlt` を使用して作成した挿入トランザクションファイルを使用しないでください。代わりに、削除が必要な信頼要素のレコードの詳細情報を記述したカスタムファイルを作成する必要があります。削除トランザクションには、このファイルしか使用しないでください。このカスタム削除ファイルには、ヘッダーを指定する必要がありません。名前や説明などの値を入力します。

### 手順

- ステップ 1** [一括管理 (Bulk Administration)] > [Intercompany Media Service] > [信頼要素 (Trust Element)] > [信頼要素の削除 (Delete Trust Element)] の順に選択します。  
[Intercompany Media Service の信頼要素設定の削除 (Delete Intercompany Media Services Trust Element Configuration)] ウィンドウが表示されます。
- ステップ 2** [削除 Intercompany Media Service の信頼要素、検索条件: 名前が次のカスタムファイル内にある (Delete Intercompany Media Services Trust Element where Name in custom file)] ドロップダウン リスト ボックスで、この削除に使用するカスタム ファイルのファイル名を選択します。
- ステップ 3** [検索 (Find)] をクリックします。
- ステップ 4** 検索条件に一致する信頼要素が表示されます。
- ステップ 5** [送信 (Submit)] をクリックして、信頼要素を削除するジョブを作成します。  
[一括管理 (Bulk Administration)] メイン メニューの [ジョブスケジューラ (Job Scheduler)] オプションを使用して、このジョブのスケジュールやアクティブ化を行います。ジョブの詳細については、[第 82 章「ジョブのスケジュール」](#) を参照してください。  
ログ ファイルの詳細については、「[BAT ログ ファイル](#)」(P.83-3) を参照してください。

**追加情報**

「関連項目」(P.70-2) を参照してください。

**関連項目**

- 「信頼要素の設定の挿入」(P.69-1)
- 「ファイルのアップロード」(P.2-3)
- 「ジョブのスケジュール」(P.82-1)
- 「BAT ログ ファイル」(P.83-3)



# CHAPTER 71

## 信頼グループの設定の挿入

---

信頼グループの設定を Cisco Unified Communications Manager データベースに追加する手順は、次のとおりです。

### 始める前に

名前、説明、信頼の詳細情報が含まれる CSV データ ファイルが必要です。

CSV データ ファイルは、CSV 形式に変換した BAT スプレッドシートを使用して作成できます。

### 手順

- 
- ステップ 1** [一括管理 (Bulk Administration)] > [Intercompany Media Service] > [信頼グループ (Trust Group)] > [信頼グループの挿入 (Insert Trust Group)] の順に選択します。  
[Intercompany Media Service の信頼グループ設定の挿入 (Insert Intercompany Media Services Trust Group Configuration)] ウィンドウが表示されます。
  - ステップ 2** [ファイル名 (File Name)] フィールドで、このバルク トランザクション用に作成した CSV データ ファイルを選択します。
  - ステップ 3** [ジョブ情報 (Job Information)] 領域に、ジョブの説明を入力します。  
デフォルトの説明は、「信頼グループの挿入」です。
  - ステップ 4** Unified 信頼グループの挿入レコードを即座に挿入するには、[今すぐ実行 (Run Immediately)] オプション ボタンをクリックします。レコードを後で挿入するには、[後で実行 (Run Later)] をクリックします。
  - ステップ 5** Unified 信頼グループの挿入レコードを挿入するジョブを作成するには、[送信 (Submit)] をクリックします。
  - ステップ 6** このジョブのスケジュールやアクティブ化を行うには、[一括管理 (Bulk Administration)] メインメニューの [ジョブスケジューラ (Job Scheduler)] オプションを使用します。  
ジョブの詳細については、[第 82 章「ジョブのスケジュール」](#) を参照してください。  
ログ ファイルの詳細については、「[BAT ログ ファイル](#)」(P.83-3) を参照してください。
- 

### 追加情報

「[関連項目](#)」(P.71-2) を参照してください。

## 関連項目

- 「信頼グループの設定の削除」(P.72-1)
- 「BAT スプレッドシートをデータ収集に使用する方法」(P.1-9)
- 「IME 信頼グループ設定用のテキストベース CSV ファイルの作成」(P.A-30)
- 「CSV データ ファイルの処理」(P.1-5)



## CHAPTER 72

# 信頼グループの設定の削除

信頼グループを Cisco Unified Communications Manager データベースから削除する手順は、次のとおりです。

### 始める前に

1. 削除する信頼グループの名前を指定したテキスト ファイルを作成します。
2. カスタム ファイルを Cisco Unified Communications Manager サーバの最初のノードにアップロードします。詳細については、「[ファイルのアップロード](#)」(P.2-3) を参照してください。

カスタム ファイルに記載されている信頼グループを削除する手順は、次のとおりです。



**(注)** 削除トランザクションに、bat.xlt を使用して作成した挿入トランザクションファイルを使用しないでください。代わりに、削除が必要な信頼グループのレコードの詳細情報を記述したカスタム ファイルを作成する必要があります。削除トランザクションには、このファイルしか使用しないでください。このカスタム削除ファイルには、ヘッダーを指定する必要がありません。名前、説明、グループ タイプ、または Cisco リンク ルート フィルタ グループ プロファイルの値を入力します。

### 手順

**ステップ 1** [一括管理 (Bulk Administration)] > [Intercompany Media Service] > [信頼グループ (Trust Group)] > [信頼グループの削除 (Delete Trust Group)] の順に選択します。

[Intercompany Media Service の信頼グループ設定の削除 (Delete Intercompany Media Services Trust Group Configuration)] ウィンドウが表示されます。

**ステップ 2** [削除 Intercompany Media Service の信頼グループ、検索条件: 名前が次のカスタムファイル内にある (Delete Intercompany Media Services Trust Group where Name in costum file)] ドロップダウン リストボックスで、この削除に使用するカスタム ファイルのファイル名を選択します。

**ステップ 3** [検索 (Find)] をクリックします。

**ステップ 4** 検索条件に一致する信頼グループが表示されます。

**ステップ 5** [送信 (Submit)] をクリックして、信頼グループを削除するジョブを作成します。

[一括管理 (Bulk Administration)] メイン メニューの [ジョブスケジューラ (Job Scheduler)] オプションを使用して、このジョブのスケジュールやアクティブ化を行います。ジョブの詳細については、[第 82 章「ジョブのスケジュール」](#)を参照してください。

ログ ファイルの詳細については、「[BAT ログ ファイル](#)」(P.83-3) を参照してください。

**追加情報**

「関連項目」(P.72-2) を参照してください。

**関連項目**

- 「信頼グループの設定の挿入」(P.71-1)
- 「ファイルのアップロード」(P.2-3)
- 「ジョブのスケジュール」(P.82-1)
- 「BAT ログ ファイル」(P.83-3)



# CHAPTER 73

## 登録済みグループの設定の挿入

登録済みグループの設定を Cisco Unified Communications Manager データベースに追加する手順は、次のとおりです。

### 始める前に

[グループ名 (Group Name)]、[説明 (Description)]、[フォールバックプロファイル (Fall Back Profile)]、[グループ内のすべてのパターンがエイリアス (All Patterns in Group Are Aliases)] の各データが含まれる CSV データ ファイルが必要です。

CSV データ ファイルは、CSV 形式に変換した BAT スプレッドシートを使用して作成できます。

### 手順

- ステップ 1** [一括管理 (Bulk Administration)] > [Intercompany Media Service] > [登録済みグループ (Enrolled Group)] > [登録済みグループの挿入 (Insert Enrolled Group)] の順に選択します。  
[Intercompany Media Service の登録済みグループ設定の挿入 (Insert Intercompany Media Service Enrolled Group Configuration)] ウィンドウが表示されます。
- ステップ 2** [ファイル名 (File Name)] フィールドで、このバルク トランザクション用に作成した CSV データ ファイルを選択します。
- ステップ 3** [ジョブ情報 (Job Information)] 領域に、ジョブの説明を入力します。  
デフォルトの説明は、「登録済みグループの挿入」です。
- ステップ 4** Unified 登録済みグループの挿入レコードを即座に挿入するには、[今すぐ実行 (Run Immediately)] オプション ボタンをクリックします。レコードを後で挿入するには、[後で実行 (Run Later)] をクリックします。
- ステップ 5** Unified 登録済みグループの挿入レコードを挿入するジョブを作成するには、[送信 (Submit)] をクリックします。
- ステップ 6** このジョブのスケジュールやアクティブ化を行うには、[一括管理 (Bulk Administration)] メインメニューの [ジョブスケジューラ (Job Scheduler)] オプションを使用します。  
ジョブの詳細については、[第 82 章「ジョブのスケジュール」](#) を参照してください。  
ログ ファイルの詳細については、「[BAT ログ ファイル](#)」(P.83-3) を参照してください。

### 追加情報

「[関連項目](#)」(P.73-2) を参照してください。

## 関連項目

- 「BAT スプレッドシートをデータ収集に使用する方法」(P.1-9)
- 「IME 登録済みグループ設定用のテキストベース CSV ファイルの作成」(P.A-31)
- 「CSV データ ファイルの処理」(P.1-5)
- 「登録済みグループの設定の削除」(P.74-1)
- 「ジョブのスケジュール」(P.82-1)
- 「BAT ログ ファイル」(P.83-3)



# CHAPTER 74

## 登録済みグループの設定の削除

Cisco Unified Communications Manager データベースから登録済みグループを削除する手順は、次のとおりです。

### 始める前に

1. 削除する登録済みグループのグループ名が記載されたテキスト ファイルを作成します。
2. カスタム ファイルを Cisco Unified Communications Manager サーバの最初のノードにアップロードします。詳細については、「[ファイルのアップロード](#)」(P.2-3) を参照してください。

カスタム ファイルに記載されている登録済みグループを削除する手順は、次のとおりです。



(注) 削除トランザクションに、`bat.xlt` を使用して作成した挿入トランザクションファイルを使用しないでください。代わりに、削除が必要な登録済みグループのレコードの詳細情報を記述したカスタム ファイルを作成する必要があります。削除トランザクションには、このファイルしか使用しないでください。このカスタム削除ファイルには、ヘッダーを指定する必要がありません。名前前の値を入力します。

### 手順

- ステップ 1** [一括管理 (Bulk Administration)] > [Intercompany Media Service] > [登録済みグループ (Enrolled Group)] > [登録済みグループの削除 (Delete Enrolled Group)] の順に選択します。  
[Intercompany Media Service の登録済みグループ設定の削除 (Delete Intercompany Media Services Enrolled Group Configuration)] ウィンドウが表示されます。
- ステップ 2** [削除 Intercompany Media Service の登録済みグループ、検索条件: 名前が次のカスタムファイル内にある (Delete Intercompany Media Services Enrolled Group where Name in custom file)] ドロップダウンリスト ボックスで、削除に使用するカスタム ファイルのファイル名を選択します。
- ステップ 3** [検索 (Find)] をクリックします。
- ステップ 4** 検索条件に一致する登録済みグループが表示されます。
- ステップ 5** [送信 (Submit)] をクリックして、登録済みグループを削除するジョブを作成します。  
[一括管理 (Bulk Administration)] メイン メニューの [ジョブスケジューラ (Job Scheduler)] オプションを使用して、このジョブのスケジュールやアクティブ化を行います。ジョブの詳細については、[第 82 章「ジョブのスケジュール」](#) を参照してください。  
ログ ファイルの詳細については、「[BAT ログ ファイル](#)」(P.83-3) を参照してください。

**追加情報**

「関連項目」(P.74-2) を参照してください。

**関連項目**

- 「登録済みグループの設定の挿入」(P.73-1)
- 「ファイルのアップロード」(P.2-3)
- 「ジョブのスケジュール」(P.82-1)
- 「BAT ログ ファイル」(P.83-3)



## CHAPTER 75

# 除外グループの設定の挿入

除外グループの設定を Cisco Unified Communications Manager データベースに追加する手順は、次のとおりです。

### 始める前に

- 名前と説明が含まれる CSV データ ファイルが必要です。
- CSV データ ファイルは、CSV 形式に変換した BAT スプレッドシートを使用して作成できます。

### 手順

- ステップ 1** [一括管理 (Bulk Administration)] > [Intercompany Media Service] > [除外グループ (Exclusion Group)] > [除外グループの挿入 (Insert Exclusion Group)] の順に選択します。  
[Intercompany Media Service の除外グループ設定の挿入 (Insert Intercompany Media Services Exclusion Group Configuration)] ウィンドウが表示されます。
- ステップ 2** [ファイル名 (File Name)] フィールドで、このバルク トランザクション用に作成した CSV データ ファイルを選択します。
- ステップ 3** [ジョブ情報 (Job Information)] 領域に、ジョブの説明を入力します。  
デフォルトの説明は、「除外グループの挿入」です。
- ステップ 4** Unified 除外グループの挿入レコードを即座に挿入するには、[今すぐ実行 (Run Immediately)] オプション ボタンをクリックします。レコードを後で挿入するには、[後で実行 (Run Later)] をクリックします。
- ステップ 5** Unified 除外グループの挿入レコードを挿入するジョブを作成するには、[送信 (Submit)] をクリックします。
- ステップ 6** このジョブのスケジュールやアクティブ化を行うには、[一括管理 (Bulk Administration)] メイン メニューの [ジョブスケジューラ (Job Scheduler)] オプションを使用します。  
ジョブの詳細については、[第 82 章「ジョブのスケジュール」](#) を参照してください。  
ログ ファイルの詳細については、「[BAT ログ ファイル](#)」(P.83-3) を参照してください。

### 追加情報

「[関連項目](#)」(P.75-2) を参照してください。

## 関連項目

- 「BAT スプレッドシートをデータ収集に使用する方法」(P.1-9)
- 「IME 除外グループ設定用のテキストベース CSV ファイルの作成」(P.A-32)
- 「CSV データ ファイルの処理」(P.1-5)
- 「除外グループの設定の削除」(P.76-1)
- 「ジョブのスケジュール」(P.82-1)
- 「BAT ログ ファイル」(P.83-3)



# CHAPTER 76

## 除外グループの設定の削除

除外グループを Cisco Unified Communications Manager データベースから削除する手順は、次のとおりです。

### 始める前に

1. 削除する除外グループの名前が記載されたテキスト ファイルを作成します。
2. カスタム ファイルを Cisco Unified Communications Manager サーバの最初のノードにアップロードします。詳細については、「[ファイルのアップロード](#)」(P.2-3) を参照してください。

カスタム ファイルに記載されている除外グループを削除する手順は、次のとおりです。



**(注)** 削除トランザクションに、`bat.xlt` を使用して作成した挿入トランザクションファイルを使用しないでください。代わりに、削除が必要な除外グループのレコードの詳細情報を記述したカスタム ファイルを作成する必要があります。削除トランザクションには、このファイルしか使用しないでください。このカスタム削除ファイルには、ヘッダーを指定する必要がありません。名前`の値`を入力します。

### 手順

**ステップ 1** [一括管理 (Bulk Administration)] > [Intercompany Media Service] > [除外グループ (Exclusion Group)] > [除外グループの削除 (Delete Exclusion Group)] の順に選択します。

[Intercompany Media Service の除外グループ設定の削除 (Delete Intercompany Media Service Exclusion Group Configuration)] ウィンドウが表示されます。

**ステップ 2** [削除 Intercompany Media Service の除外グループ、検索条件: 名前が次のカスタムファイル内にある (Delete Intercompany Media Services Exclusion Group Configuration)] ドロップダウン リスト ボックスで、削除に使用するカスタム ファイルのファイル名を選択します。

**ステップ 3** [検索 (Find)] をクリックします。

**ステップ 4** 検索条件に一致する除外グループが表示されます。

**ステップ 5** [送信 (Submit)] をクリックして、除外グループを削除するジョブを作成します。

[一括管理 (Bulk Administration)] メイン メニューの [ジョブスケジューラ (Job Scheduler)] オプションを使用して、このジョブのスケジュールやアクティブ化を行います。ジョブの詳細については、[第 82 章「ジョブのスケジュール」](#) を参照してください。

ログ ファイルの詳細については、「[BAT ログ ファイル](#)」(P.83-3) を参照してください。

**追加情報**

「関連項目」(P.76-2) を参照してください。

**関連項目**

- 「除外グループの設定の挿入」(P.75-1)
- 「ファイルのアップロード」(P.2-3)
- 「ジョブのスケジュール」(P.82-1)
- 「BAT ログ ファイル」(P.83-3)



## CHAPTER 77

# フォールバック プロファイルの設定の挿入

フォールバック プロファイルの設定を Cisco Unified Communications Manager データベースに追加する手順は、次のとおりです。

### 始める前に

- [名前 (Name)]、[説明 (Description)]、[アドバタイズされたフォールバックの E.164 番号 (Advertised Fallback Directory E.164 Number)]、[フォールバックの QOS の重要度レベル (Fallback QOS Sensitivity Level)]、[フォールバックのコール応答タイマー (Fallback Call Answer Timer)]、[フォールバックの電話番号パーティション (Fallback Directory Number Partition)]、[フォールバックの電話番号 (Fallback Directory Number)]、[発信者 ID の部分一致の桁数 (Number of Digits for Caller ID Partial Match)]、[フォールバックのコール CSS (Fallback Call CSS)] のデータが含まれる CSV データ ファイルが必要です。
- CSV データ ファイルは、CSV 形式に変換した BAT スプレッドシートを使用して作成できます。

### 手順

- ステップ 1** [一括管理 (Bulk Administration)] > [Intercompany Media Service] > [フォールバックプロファイル (Fallback Profile)] > [フォールバックプロファイルの挿入 (Insert Fallback Profile)] の順に選択します。  
[フォールバックプロファイル設定の挿入 (Insert Fallback Profile Configuration)] ウィンドウが表示されます。
- ステップ 2** [ファイル名 (File Name)] フィールドで、このバルク トランザクション用に作成した CSV データ ファイルを選択します。
- ステップ 3** [ジョブ情報 (Job Information)] 領域に、ジョブの説明を入力します。  
デフォルトの説明は、「フォールバック プロファイルの挿入」です。
- ステップ 4** Unified フォールバック プロファイルの挿入レコードを即座に挿入するには、[今すぐ実行 (Run Immediately)] オプション ボタンをクリックします。レコードを後で挿入するには、[後で実行 (Run Later)] をクリックします。
- ステップ 5** Unified フォールバック プロファイルの挿入レコードを挿入するジョブを作成するには、[送信 (Submit)] をクリックします。
- ステップ 6** このジョブのスケジュールやアクティブ化を行うには、[一括管理 (Bulk Administration)] メイン メニューの [ジョブスケジューラ (Job Scheduler)] オプションを使用します。  
ジョブの詳細については、[第 82 章「ジョブのスケジュール」](#) を参照してください。  
ログ ファイルの詳細については、「[BAT ログ ファイル](#)」(P.83-3) を参照してください。

**追加情報**

「関連項目」(P.77-2) を参照してください。

**関連項目**

- 「BAT スプレッドシートをデータ収集に使用する方法」(P.1-9)
- 「フォールバック プロファイル設定用のテキストベース CSV ファイルの作成」(P.A-33)
- 「CSV データ ファイルの処理」(P.1-5)
- 「フォールバック プロファイルの設定の削除」(P.78-1)
- 「ジョブのスケジュール」(P.82-1)
- 「BAT ログ ファイル」(P.83-3)



## CHAPTER 78

# フォールバック プロファイルの設定の削除

フォールバック プロファイルを Cisco Unified Communications Manager データベースから削除する手順は、次のとおりです。

### 始める前に

1. 削除するフォールバック プロファイルの名前が記載されたテキスト ファイルを作成します。
2. カスタム ファイルを Cisco Unified Communications Manager サーバの最初のノードにアップロードします。詳細については、「[ファイルのアップロード](#)」(P.2-3) を参照してください。

カスタム ファイルに記載されているフォールバック プロファイルを削除する手順は、次のとおりです。



**(注)** 削除トランザクションに、`bat.xlt` を使用して作成した挿入トランザクション ファイルを使用しないでください。代わりに、削除が必要なフォールバック プロファイル レコードの詳細情報が設定されたカスタム ファイルを作成する必要があります。削除トランザクションには、このファイルしか使用しないでください。このカスタム削除ファイルには、ヘッダーを指定する必要がありません。名前の値を入力します。

### 手順

- ステップ 1** [一括管理 (Bulk Administration)] > [Intercompany Media Service] > [フォールバックプロファイル (Fallback Profile)] > [フォールバックプロファイルの削除 (Delete Fallback Profile)] の順に選択します。  
[フォールバックプロファイル設定の削除 (Delete Fallback Profile Configuration)] ウィンドウが表示されます。
- ステップ 2** [削除 フォールバックプロファイル、検索条件: 名前が次のカスタムファイル内にある (Delete Fallback Profile where Name in custom file)] ドロップダウン リスト ボックスで、この削除用に作成したカスタム ファイルのファイル名を選択します。
- ステップ 3** [検索 (Find)] をクリックします。
- ステップ 4** 選択基準に一致するフォールバック プロファイルが表示されます。
- ステップ 5** [送信 (Submit)] をクリックして、フォールバック プロファイルを削除するジョブを作成します。  
[一括管理 (Bulk Administration)] メイン メニューの [ジョブスケジューラ (Job Scheduler)] オプションを使用して、このジョブのスケジュールやアクティブ化を行います。ジョブの詳細については、[第 82 章「ジョブのスケジュール」](#) を参照してください。  
ログ ファイルの詳細については、「[BAT ログ ファイル](#)」(P.83-3) を参照してください。

**追加情報**

「関連項目」(P.78-2) を参照してください。

**関連項目**

- 「フォールバック プロファイルの設定の挿入」(P.77-1)
- 「ファイルのアップロード」(P.2-3)
- 「ジョブのスケジュール」(P.82-1)
- 「BAT ログ ファイル」(P.83-3)



## **PART 17**

### **CUPS**





## CHAPTER 79

# ライセンスの操作

Cisco Unified Presence は、Cisco Unified Communications 環境の全体的な価値を実現するために不可欠なコンポーネントで、ユーザの在席状況に関する情報を収集します。Cisco Unified Personal Communicator や Cisco Unified Communications Manager などのアプリケーションは、この情報を使用してコラボレーティブに通信するための最も効果的な方法を決定することで、生産性を高めることができます。

BAT の [CUPS] メニューを使用すると、すべての Unified Presence ユーザおよび Cisco Unified Personal Communicator ユーザのライセンスを更新およびエクスポートできます。

## [CUPS] メニューの使用方法

この項では、BAT の [CUPS] メニューと、そのメニューを使用して CUPS ユーザと CUPC ユーザを更新およびエクスポートする方法について説明します。

[一括管理 (Bulk Administration)] メニューの [CUPS] の下に新しく追加された項目には、次の 2 つがあります。

- [CUPS/CUPC ユーザの更新 (Update CUPS/CUPC Users)] : [一括管理 (Bulk Administration)] > [CUPS] > [CUPS/CUPC ユーザの更新 (Update CUPS/CUPC Users)]
- [CUPS/CUPC ユーザのエクスポート (Export CUPS/CUPC Users)] : [一括管理 (Bulk Administration)] > [CUPS] > [CUPS/CUPC ユーザのエクスポート (Export CUPS/CUPC Users)]

## CUPS/CUPC ユーザの更新

ライセンスを追加または変更する手順は、次のとおりです。

**ステップ 1** [ファイルのアップロード/ダウンロード (Upload/Download Files)] ウィンドウを使用して、csv ファイルをアップロードします。



**(注)** csv ファイルのアップロードでは、必ず、正しい BAT ターゲットとトランザクション タイプを選択する必要があります。

**ステップ 2** [CUP/CUPC ユーザの更新 (CUP/CUPC User Update Configuration)] ウィンドウに移動し、アップロードする csv ファイルを選択してジョブを送信します。



**(注)** ジョブをすぐに実行するか、後で実行するかは、対応するオプション ボタンをクリックして選択できます。[後で実行 (Run Later)] を選択した場合は、[ジョブスケジューラ (Job Scheduler)] ウィンドウを使用して、このジョブをスケジュールし、アクティブ化する必要があります。

**ステップ 3** [ジョブスケジューラ (Job Scheduler)] ウィンドウで、送信した BAT ジョブの進行状況を監視します。

## CUPS/CUPC ユーザのエクスポート

[ユーザエクスポートのクエリー (Export Users Query)] ウィンドウを使用すると、すべての Unified Presence ユーザと Cisco Unified Personal Communicator ユーザの現在のライセンス情報を取得できます。



**(注)** 現時点では、一部の Unified Presence ユーザを選択するオプションはありません。システム内のすべての Unified Presence ユーザがファイルにエクスポートされます。

ライセンスをエクスポートする手順は、次のとおりです。

**ステップ 1** [ユーザエクスポートのクエリー (Export Users Query)] ウィンドウに移動します。

**ステップ 2** [検索 (Find)] をクリックして、基本的なユーザ情報とユーザのライセンス ステータスを確認します。

**ステップ 3** [次へ (Next)] をクリックして、CUPS/CUPC のエクスポート ウィンドウを表示します。

**ステップ 4** エクスポートするファイルの名前を指定し、[送信 (Submit)] をクリックして BAT ジョブを開始します。

**ステップ 5** [ジョブスケジューラ (Job Scheduler)] ウィンドウに移動し、送信した BAT ジョブの進行状況を確認します。



**(注)** ジョブが完了したら、[ファイルのアップロード/ダウンロード (Upload/Download Files)] ウィンドウに移動して、エクスポートした .csv をダウンロードできます。



## **PART 18**

### **Tool for Auto-Registered Phones Support**





## CHAPTER 80

# Tool for Auto-Registered Phones Support (TAPS) の使用方法

Tool for Auto-Registered Phones Support (TAPS) を使用すると、電話機ユーザが TAPS 電話番号にコールして、ユーザの電話番号に関して事前に設定した電話機設定をダウンロードできます。TAPS は、Cisco Unified Communications Manager の管理機能と連動して次の機能を提供します。

**TAPS の設定**：自動登録機能を使用するすべての電話機について TAPS を使用できるようにしたり、ダミー MAC アドレスを持つ、BAT を使用して追加される電話機にだけ TAPS を限定したりできます。詳細については、「[TAPS の自動登録オプションの設定](#)」(P.80-7) を参照してください。

**TAPS の保護**：一部の電話番号を TAPS で更新できないように保護できます。詳細については、「[電話番号の保護の設定](#)」(P.80-8) を参照してください。

**TAPS のユーザ ロケール**：TAPS プロンプトの言語を選択できます。詳細については、「[Tool for Auto-Registered Phones Support のユーザ ロケールの設定](#)」(P.81-1) を参照してください。

次のトピックでは、TAPS の使用、インストールおよび設定について説明します。

- 「[TAPS の概要](#)」(P.80-2)
- 「[TAPS のインストール](#)」(P.80-4)
- 「[TAPS サービスのアクティブ化](#)」(P.80-6)
- 「[TAPS サービスのアクティブ化](#)」(P.80-6)
- 「[TAPS の起動/停止/再起動](#)」(P.80-6)
- 「[TAPS のオプション設定](#)」(P.80-7)
- 「[電話番号の保護の設定](#)」(P.80-8)
- 「[TAPS ログ ファイルの表示](#)」(P.80-10)
- 「[エンド ユーザ用の Tool for Auto-Registered Phones Support 情報](#)」(P.81-3)

## TAPS の概要

TAPS のコンポーネントは、Cisco Unified Communications Manager のインストールの一部として Cisco Unified Communications Manager の最初のノードにインストールされます。TAPS が動作するためには、Cisco Unified Communications Manager で、自動登録機能を有効にする必要があります。



(注)

TAPS を使用すると、Cisco Unified Communications Manager 上の自動登録範囲は減少します。TAPS を使用して更新したら、電話機の自動登録済み Directory Number (DN; 電話番号) が未割り当ての DN になります。BAT を定期的を使用して未割り当ての DN を削除し、自動登録範囲を解放する必要があります。詳細については、『Cisco Unified Communications Manager アドミニストレーションガイド』を参照してください。

TAPS アプリケーションは、Cisco Unified Contact Center Express (Cisco UCCX) サーバにインストールする必要があります。TAPS には、ユーザ インターフェイスおよびプロンプトについて Cisco UCCX サーバ上で稼動する Cisco IP Interactive Voice Response (IP IVR) アプリケーションが必要です。

管理者は、新規電話機を設定するための TAPS の使用方法について、エンド ユーザに手順を示す必要があります。エンド ユーザの手順については、「[エンド ユーザ用の Tool for Auto-Registered Phones Support 情報](#)」(P.81-3) を参照してください。



(注)

TAPS を使用して電話機を Cisco Unified Communications Manager データベースに追加しないときは、TAPS サービスを停止することをお勧めします。

### 追加情報

「[関連項目](#)」(P.80-11) を参照してください。

## TAPS の自動登録オプション

TAPS を使用して自動登録電話機を更新するためには、次のオプションを設定できます。

- MAC アドレスを更新し、事前定義済みの新しい電話機用の設定をダウンロードする。
- 既存の電話機と交換した新しい電話機に設定をリロードする。

以下の項目を参照してください。

- 「[新しい電話機での TAPS の使用方法](#)」(P.80-2)
- 「[設定をリロードするための TAPS の使用方法](#)」(P.80-3)

## 新しい電話機での TAPS の使用方法

ダミー MAC アドレスを持つ新しい電話機設定が Cisco Unified Communications Manager の管理機能に追加されると、電話機をネットワークに接続できます。システム管理者または電話機のユーザが、TAPS の電話番号をダイヤルすると、電話機にその設定がダウンロードされます。同時に、その電話機の情報も、正しい MAC アドレスを使用して、Cisco Unified Communications Manager の管理ページ内で更新されます。TAPS が正しく動作するためには、Cisco Unified Communications Manager の管理ページで、自動登録機能が使用可能になっていることを確認する必要があります。



(注) TAPS を使用すると、Cisco Unified Communications Manager 上の自動登録範囲は減少します。TAPS を使用して更新したら、電話機の自動登録済み Directory Number (DN; 電話番号) が未割り当ての DN になります。BAT を定期的を使用して未割り当ての DN を削除し、自動登録範囲を解放する必要があります。詳細については、『Cisco Unified Communications Manager アドミニストレーションガイド』を参照してください。

#### 例

100 名の新入社員が月曜日から入社するとします。これらのユーザとその新しい電話機を Cisco Unified Communications Manager の管理機能に追加する必要があります。BAT を使用すると、その 100 台の電話機の電話機テンプレート、および電話機とユーザ用の CSV データ ファイルを作成できます。CSV データ ファイルでダミー MAC アドレス オプションを使用すると、新しい電話機に個々に MAC アドレスを追加する必要がありません。自動登録機能が Cisco Unified Communications Manager で有効になっていると、電話機をネットワークに直接接続できます。システム管理者または新入社員は、TAPS の電話番号をダイヤルし、ボイス プロンプトの指示に従って設定をロードできます。

## 設定をリロードするための TAPS の使用方法

機能していない既存の電話機を交換する必要がある場合、TAPS を使用して既存の電話機設定を新しい電話機にダウンロードできます。ユーザは新しい電話機を受け取ってネットワークに接続すると、TAPS 電話番号をダイヤルして以前の電話機の設定をダウンロードできます。この処理中、ユーザは設定を変更できません。

Cisco Unified Communications Manager の管理ページで、自動登録機能を有効にする必要があります。すべての電話機に対して TAPS を使用するように設定して、ユーザが既存の電話機設定をダウンロードできるようにする必要があります。詳細については、「[TAPS の自動登録オプションの設定](#)」(P.80-7) を参照してください。



(注) TAPS を使用すると、Cisco Unified Communications Manager 上の自動登録範囲は減少します。TAPS を使用して更新したら、電話機の自動登録済み Directory Number (DN; 電話番号) が未割り当ての DN になります。BAT を定期的を使用して未割り当ての DN を削除し、自動登録範囲を解放する必要があります。詳細については、『Cisco Unified Communications Manager アドミニストレーションガイド』を参照してください。

#### 例

あるユーザの Cisco Unified IP Phone モデル 7940 に、雷雨で回路短絡が発生したとします。このユーザは、新しい Cisco Unified IP Phone モデル 7940 を受け取り、ネットワークに接続します。TAPS の電話番号をダイヤルすると、損傷した電話機で以前に使用していた設定が新しい電話機にダウンロードされます。TAPS により、Cisco Unified Communications Manager の管理ページ内のデバイス情報が自動的に更新されます。

#### 追加情報

「[関連項目](#)」(P.80-11) を参照してください。

## 電話番号の保護

TAPS では電話番号を置き換えることができるため、管理者は特定の電話番号が上書きされないように保護できます。重要な電話番号を保護するには、TAPS の保護オプションを使用します。詳細については、「[電話番号の保護の設定](#)」(P.80-8) を参照してください。

### 例

電話番号 5000 には、システム用のボイス メッセージ アクセスが用意されています。このような場合、新しいユーザが誤って新しい電話機上で 5000 を設定しないようにします。TAPS の保護オプションを使用すると、TAPS が電話番号「5000」にアクセスできないように指定できます。

### 追加情報

「[関連項目](#)」(P.80-11) を参照してください。

## TAPS ユーザ用の言語プロンプト

TAPS のユーザ プロンプトを複数の言語で設定できます。管理者は、ユーザが使用できる言語を選択できます。詳細については、「[Tool for Auto-Registered Phones Support のユーザ ロケールの設定](#)」(P.81-1) を参照してください。

英語以外の言語プロンプトを使用する必要がある場合は、クラスタ内の Cisco Unified Communications Manager および Cisco UCCX サーバの最初のノードに Cisco Unified Communications Manager Locale Installer がインストールされていることを確認してから、TAPS をインストール、アップグレード、または設定します。Locale Installer を使用すると、最新の翻訳済みテキスト、翻訳済みボイス プロンプト、各国/地域固有の電話トーン、および各国/地域固有のゲートウェイ トーンを電話機で利用できます。Cisco Unified Communications Manager Locale Installer の詳細については、それぞれの Locale Installer のマニュアルを参照してください。

### 追加情報

「[関連項目](#)」(P.80-11) を参照してください。

## TAPS のインストール

この項では、TAPS のインストール、再インストール、およびアンインストールについて説明しています。TAPS は、Cisco Unified Communications Manager サーバと Cisco Customer Response Solution サーバの両方と連動します。このインストール手順では、TAPS を UCCX サーバにインストールします。



(注)

インストールする TAPS のバージョンと互換性のある Cisco UCCX のバージョンを確認するには、『[Cisco Unified Contact Center Express \(Cisco Unified CCX\) Software and Hardware Compatibility Guide](#)』を参照してください。

### 始める前に

BAT 用の TAPS をインストールするための前提条件は、次のとおりです。

- Cisco Unified Communications Manager の最初のノードが設定され、実行されている。
- Cisco Unified Communications Manager の最初のノード サーバの IP アドレスがわかっている。

- Cisco UCCX サーバが設定されている。Cisco UCCX アプリケーションを独自の専用サーバ上に配置できる。
- 各国/地域に合わせて TAPS プロンプトを作成する場合は、必ず **Locale Installer** を使用する。

TAPS を UCCX アプリケーション サーバにインストールする手順は、次のとおりです。

### 手順

- 
- ステップ 1** 管理者特権を使用して、Cisco Unified Communications Manager の最初のノード データベースを実行しているシステムにログオンします。
- ステップ 2** [アプリケーション (Applications)] > [プラグイン (Plugins)] の順に選択します。[プラグインの検索と一覧表示 (Find and List Plugins)] ウィンドウが表示されます。
- ステップ 3** [TAPS] のリンクを探し、[ダウンロード (Download)] をクリックして、TAPS\_AAR.aar プラグインをローカル マシンに保存します。
- ステップ 4** [アプリケーション (Applications)] > [AAR Management] の順に選択して、UCCX アプリケーション管理ページに TAPS ユーザとしてログインし、[AAR Management] ページから TAPS\_AAR.aar をアップロードします。
- ステップ 5** [アプリケーション (Applications)] > [Application Management] の順に進みます。[Application Management] ページが表示されます。
- ステップ 6** TAPS アプリケーションをクリックします。
- ステップ 7** [Cisco\_Unified\_CM\_IP\_Address] チェックボックスをオンにして、Cisco Unified Communications Manager の IP アドレスを二重引用符で囲んで指定します。



- (注)** デフォルトでは、IP アドレスは " " と表示されるため、引用符の間に IP アドレスを入力する必要があります。

- ステップ 8** 次のコマンドを使用して、Tomcat および Cisco Unified CCX Cluster View Daemon を再起動します。
- `utils service "Cisco Tomcat" stop/start`
  - `utils service "Cisco Unified CCX Cluster View Daemon" stop/start`



- (注)** TAPS\_AAR.aar の管理の詳細については、『*Cisco Unified Contact Center Express Administration Guide*』を参照してください。

### 追加情報

「[関連項目](#)」(P.80-11) を参照してください。

# UCCX アプリケーション サーバでの TAPS アプリケーションの設定

Cisco UCCX アプリケーション サーバのマニュアルを参照するには、<http://www.cisco.com> の Cisco Voice Applications and Tools にアクセスしてください。アプリケーションの設定方法については、『Cisco Unified Contact Center Express Administration Guide』を参照してください。

## 追加情報

「関連項目」(P.80-11) を参照してください。

## TAPS サービスのアクティブ化

TAPS サービスは、Cisco Unified Communications Manager Serviceability を使用してアクティブ化および非アクティブ化することができます。Serviceability には、適切な URL を使用してアクセスします。サービスをアクティブ化する手順は、次のとおりです。

### 手順

- 
- ステップ 1 Cisco Unified Communications Manager Serviceability にアクセスします。
  - ステップ 2 [Tools] > [Service Activation] の順に選択します。  
[Service Activation] ウィンドウが表示されます。
  - ステップ 3 ドロップダウンリスト ボックスから、適切なサーバを選択します。[Next] をクリックします。
  - ステップ 4 Unified CM Services リストの [Database and Admin Services] から [TAPS Service] を選択し、[Save] をクリックします。



(注) サービスがすでにアクティブ化されている場合は、[Activation Status] に [Activated] と表示されます。

- 
- ステップ 5 サービスが有効になり、[Activation Status] カラムに [Activated] と表示されます。
- 

## TAPS の起動/停止/再起動

TAPS サービスは、Cisco Unified Communications Manager Serviceability を使用してアクティブ化されると、自動的に起動します。この項では、TAPS サービスを停止または再起動する手順について説明します。

### 手順

- 
- ステップ 1 Cisco Unified Communications Manager Serviceability で、[Tools] > [Control Center-Feature Services] の順に選択します。  
[Control Center-Feature Services] ウィンドウが表示されます。

**ステップ 2** [Servers] ドロップダウン リスト ボックスから、Cisco Unified Communications Manager サーバを選択します。

TAPS サービスが Unified CM Services の [Database and Admin Services] カラムの下のリストに表示されます。



(注) 「[TAPS サービスのアクティブ化](#)」(P.80-6) を使用して TAPS をアクティブ化した場合は、[Status] に [Activated] と表示されます。

**ステップ 3** TAPS サービスに対応するチェックボックスをオンにします。

**ステップ 4** TAPS サービスを再起動する場合は、[Restart] をクリックします。

サービスが再起動し、「Service Successfully Restarted」というメッセージが表示されます。

**ステップ 5** TAPS サービスを停止する場合は、[Stop] をクリックします。

サービスが停止し、「Service Successfully Stopped」というメッセージが表示されます。

**ステップ 6** 停止した TAPS サービスを起動する場合は、[Start] をクリックします。

サービスが起動し、「Service Successfully Started」というメッセージが表示されます。

## TAPS のオプション設定

管理者は、Cisco Unified Communications Manager システムでの TAPS の使用方法を選択できます。TAPS の機能オプションによって、電話機の更新や電話プロファイルのダウンロードをユーザがより柔軟に行えるようになります。TAPS のオプションには、次のものがあります。

- 「[TAPS の自動登録オプションの設定](#)」(P.80-7)
- 「[電話番号の保護の設定](#)」(P.80-8)
- 「[Tool for Auto-Registered Phones Support のユーザ ロケールの設定](#)」(P.81-1)

## TAPS の自動登録オプションの設定

TAPS の設定オプションを使用すると、Cisco Unified Communications Manager データベースに自動登録する電話機を TAPS を使用して更新できます。次の 2 つの方法が用意されています。

- BAT を使用して追加され、ダミー MAC アドレスを持つ電話機用
- Cisco Unified Communications Manager の管理機能の既存の電話機用

デフォルト設定の場合、TAPS が使用する電話機は、プレフィックス「BAT」で始まるデバイス名で、ダミー MAC アドレスを持つものに限定されます。

TAPS の設定オプションを使用すると、標準 MAC アドレスを持つ電話機も含め、すべての電話機を Cisco Unified Communications Manager システムに自動登録できます。



(注) TAPS を使用すると、Cisco Unified Communications Manager 上の自動登録範囲は減少します。TAPS を使用して更新したら、電話機の自動登録済み Directory Number (DN; 電話番号) が未割り当ての DN になります。BAT を定期的に使用して未割り当ての DN を削除し、自動登録範囲を解放する必要があります。詳細については、『Cisco Unified Communications Manager アドミニストレーションガイド』を参照してください。

TAPS の設定オプションを設定する手順は、次のとおりです。

#### 手順

- ステップ 1** [Cisco Unified Communications Manager の管理 (Cisco Unified Communications Manager Administration)] ウィンドウで、[システム (System)] > [サービスパラメータ (Service Parameters)] の順に選択します。[サービスパラメータ設定 (Service Parameter Configuration)] ウィンドウが表示されます。
- ステップ 2** [サーバ (Server)] ドロップダウン リスト ボックスから、適切なサーバを選択します。
- ステップ 3** [サービス (Service)] ドロップダウン リスト ボックスから、[Cisco TAPS Service] を選択します。
- ステップ 4** [パラメータ値 (Parameter Value)] ドロップダウン リスト ボックスで、次の 2 つのオプションのいずれかを選択します。
- [Allow Auto-Registered phones to reset with a profile with a dummy MAC address]  
TAPS は、ダミー MAC アドレスがあるプロファイルを持つ自動登録済み電話機だけを更新します。
  - [Allow Auto-Registered phones to reset with any profile]  
TAPS は、プロファイルにかかわらず、自動登録済み電話機を更新します。
- ステップ 5** [保存 (Save)] をクリックします。ステータス メッセージで更新の完了が示されます。
- ステップ 6** TAPS のオプション ウィンドウに戻るには、[戻る (Back)] をクリックします。

#### 追加情報

「関連項目」(P.80-11) を参照してください。

## 電話番号の保護の設定

TAPS の保護オプションを使用すると、TAPS でアクセスできない電話番号を指定できます。この機能は、電話番号が誤って別の電話機に割り当てられないように保護する場合に使用します。



(注) TAPS を使用すると、Cisco Unified Communications Manager 上の自動登録範囲は減少します。TAPS を使用して更新したら、電話機の自動登録済み Directory Number (DN; 電話番号) が未割り当ての DN になります。BAT を定期的に使用して未割り当ての DN を削除し、自動登録範囲を解放する必要があります。詳細については、『Cisco Unified Communications Manager アドミニストレーションガイド』を参照してください。

制限された電話番号を表示したり、制限された電話番号をさらに追加したりする場合は、以下の項を参照してください。

- 「保護電話番号の検索」(P.80-9)
- 「電話番号の制限」(P.80-9)
- 「電話番号に対する制限の解除」(P.80-10)

## 保護電話番号の検索

制限された電話番号を検索し、一覧表示する手順は、次のとおりです。

### 手順

- 
- ステップ 1** [一括管理 (Bulk Administration)] > [TAPS] > [セキュア TAPS(Secure TAPS)] の順に選択します。[セキュア電話番号 (Secure Directory Number Configuration)] ウィンドウが表示されます。
  - ステップ 2** [次へ (Next)] をクリックします。
  - ステップ 3** 適切な検索条件を入力し、[検索 (Search)] をクリックします。保護された番号がある場合、一覧にそれらの番号が表示されます。
  - ステップ 4** 電話番号をさらに制限する場合は、「電話番号の制限」(P.80-9) を参照してください。電話番号の制限を解除する場合は、「電話番号に対する制限の解除」(P.80-10) を参照してください。
- 

### 追加情報

「関連項目」(P.80-11) を参照してください。

## 電話番号の制限

TAPS で使用できないように電話番号を指定する手順は、次のとおりです。TAPS は、保護対象の電話番号のリストに含まれる電話番号を使用できません。

### 手順

- 
- ステップ 1** [一括管理 (Bulk Administration)] > [TAPS] > [セキュア TAPS(Secure TAPS)] の順に選択します。[セキュア電話番号 (Secure Directory Number Configuration)] ウィンドウが表示されます。
  - ステップ 2** [新規追加 (Add New)] をクリックします。[セキュア電話番号 (Secure Directory Number Configuration)] ウィンドウが表示されます。
  - ステップ 3** [電話番号 (Directory Numbers)] フィールドに、TAPS から保護する電話番号を入力します。複数の電話番号を入力するには、電話番号のエントリごとに 1 回線を使用してください。
  - ステップ 4** [保存 (Save)] をクリックします。

- ステップ 5** [セキュア電話番号 (Secure Directory Number Configuration)] ウィンドウに戻るには、ウィンドウの右上隅にある [関連リンク (Related links)] ドロップダウン リスト ボックスから [検索/リストに戻る (Back to Find/List)] を選択し、[移動 (Go)] をクリックします。

TAPS は、このリストに示されている電話番号を使用できません。ユーザが、このリスト内の電話番号のいずれかを入力して、デバイス プロファイルの更新を試みると、TAPS は、その要求を拒否します。

#### 追加情報

「関連項目」(P.80-11) を参照してください。

## 電話番号に対する制限の解除

TAPS で使用できない電話番号のリストから、電話番号を削除する手順は、次のとおりです。

#### 手順

- ステップ 1** [一括管理 (Bulk Administration)] > [TAPS] > [セキュア TAPS (Secure TAPS)] の順に選択します。[セキュア電話番号 (Secure Directory Number Configuration)] ウィンドウが表示されます。
- ステップ 2** 削除する電話番号を検索する場合は、「保護電話番号の検索」(P.80-9) を参照してください。
- ステップ 3** 保護された電話番号のリストから削除する電話番号を選択し、[削除 (Delete)] をクリックします。

#### 追加情報

「関連項目」(P.80-11) を参照してください。

## TAPS ログ ファイルの表示

TAPS ログ ファイルを表示する手順は、次のとおりです。

- ステップ 1** [一括管理 (Bulk Administration)] > [TAPS] > [TAPS ログファイルの表示 (View Taps Log File)] の順に選択します。
- ステップ 2** [TAPS ログファイルの表示 (View Taps Log File)] ウィンドウが表示されます。
- ステップ 3** ログ ファイルの各行に、TAPS のトランザクションが示されます。

#### 追加情報

「関連項目」(P.80-11) を参照してください。

## 関連項目

- [「TAPS の概要」 \(P.80-2\)](#)
- [「TAPS のインストール」 \(P.80-4\)](#)
- [「TAPS サービスのアクティブ化」 \(P.80-6\)](#)
- [「TAPS サービスのアクティブ化」 \(P.80-6\)](#)
- [「TAPS の起動/停止/再起動」 \(P.80-6\)](#)
- [「TAPS のオプション設定」 \(P.80-7\)](#)
- [「電話番号の保護の設定」 \(P.80-8\)](#) [「TAPS の自動登録オプション」 \(P.80-2\)](#)
- [「TAPS ログ ファイルの表示」 \(P.80-10\)](#)
- [「Tool for Auto-Registered Phones Support のユーザ ロケールの設定」 \(P.81-1\)](#)
- [「エンド ユーザ用の Tool for Auto-Registered Phones Support 情報」 \(P.81-3\)](#)





# CHAPTER 81

## Tool for Auto-Registered Phones Support のユーザ ロケール

管理者は、TAPS のユーザ ロケール オプションを使用して TAPS ボイス プロンプトの言語を指定できます。TAPS のユーザ プロンプトを複数の言語で設定できます。

Locale Installer を実行して、ユーザ ロケールのサポートをインストールしておく必要があります。



(注)

Cisco Unified Communications Manager サーバごとに Cisco Unified Communications Manager Locale Installer を実行した後、クラスタ内の Cisco Unified Contact Center Express (Cisco UCCX) にロケール固有の AAR ファイルをインストールしておく必要があることに注意してください。

Locale Installer を使用すると、最新の翻訳済みテキスト、翻訳済みボイス プロンプト、各国/地域固有の電話トーン、および各国/地域固有のゲートウェイ トーンを電話機で利用できます。Cisco Unified Communications Manager Locale Installer の詳細については、それぞれの Locale Installer のマニュアルを参照してください。



(注)

TAPS を使用するには、少なくとも 1 つのユーザ ロケールを選択する必要があります。

## Tool for Auto-Registered Phones Support のユーザ ロケールの設定

TAPS プロンプトの言語を追加または削除するには、次の手順を参照してください。

- 「[Tool for Auto-Registered Phones Support プロンプトの言語の追加](#)」(P.81-1)
- 「[Tool for Auto-Registered Phones Support プロンプトの言語の削除](#)」(P.81-2)

## Tool for Auto-Registered Phones Support プロンプトの言語の追加

TAPS プロンプトの言語を設定する手順は、次のとおりです。

## 手順

**ステップ 1** [Cisco Unified CM の管理 (Cisco Unified Communications Manager Administration)] ウィンドウで、[一括管理 (Bulk Administration)] > [TAPS] > [TAPS のユーザロケール (User Locales for TAPS)] の順に選択します。[ユーザロケールの設定 (User Locales Configuration)] ウィンドウが表示されます。

**ステップ 2** Cisco Unified Communications Manager にインストールされている言語のリストである [ユーザロケール (User Locales)] リスト ボックスで、ユーザ プロンプトに使用する言語を選択します。矢印をクリックして、選択した言語を [選択済みのユーザロケール (Selected User Locales)] リスト ボックスに移動します。

必要に応じて、ユーザ プロンプト用に複数の言語を選択して、[選択済みのユーザロケール (Selected User Locales)] リスト ボックスに移動できます。



(注)

ユーザは自分の電話機のサポート プロンプト用言語に対応する設定を指定するため、[ユーザロケール (User Locale)] ペインでのロケールの順序は重要ではありません。[ユーザロケール (User Locale)] ペインに追加した言語はすべて、ユーザにオプションとして提供されます。

**ステップ 3** ユーザ プロンプトの言語を選択したら、ジョブを作成するには [保存 (Save)] をクリックします。



(注)

ロケールのインストールの詳細な手順については、『Cisco Unified Communications Operating System Administration Guide』のソフトウェアのアップグレードに関する項を参照してください。

**ステップ 4** [一括管理 (Bulk Administration)] メイン メニューの [ジョブスケジューラ (Job Scheduler)] オプションを使用して、このジョブのスケジュールやアクティブ化を行います。

ジョブの詳細については、第 82 章「ジョブのスケジュール」を参照してください。

ログ ファイルの詳細については、「BAT ログ ファイル」(P.83-3) を参照してください。

## 追加情報

「関連項目」(P.81-4) を参照してください。

## Tool for Auto-Registered Phones Support プロンプトの言語の削除

TAPS プロンプトの言語を削除する手順は、次のとおりです。

## 手順

**ステップ 1** [一括管理 (Bulk Administration)] > [TAPS] > [TAPS のユーザロケール (User Locales for TAPS)] の順に選択します。[ユーザロケールの設定 (User Locales Configuration)] ウィンドウが表示されます。

**ステップ 2** ユーザ プロンプト用に選択された言語のリストである [選択済みのユーザロケール (Selected User Locales)] リスト ボックスで、削除する言語を選択します。

**ステップ 3** 矢印をクリックして、選択した言語を [ユーザロケール (User Locales)] リスト ボックスに移動します。

必要に応じて、ユーザ プロンプトから複数の言語を選択して、[ユーザロケール (User Locales)] リスト ボックスに移動できます。

**ステップ 4** [保存(Save)] をクリックします。ステータス メッセージで更新の完了が示されます。

**ステップ 5** TAPS のオプション ウィンドウに戻るには、[戻る (Back)] をクリックします。

#### 追加情報

「関連項目」(P.81-4) を参照してください。

## エンド ユーザ用の Tool for Auto-Registered Phones Support 情報

新しい電話機を設定する手順は、次のとおりです。

#### 手順

**ステップ 1** 電話機をポートに接続します。

電話機の番号が自動的に登録され、表示されます。



**(注)** 電話機のプロフィールをダウンロードし、最初のノードとディレクトリに必要な更新を行うには、約 20 ~ 25 秒かかります。

**ステップ 2** システム管理者から提供された CTI ルート ポイント番号をダイヤルし、プロンプトに従います。

**ステップ 3** システム管理者によって指定された TAPS 内線番号をダイヤルします。

**ステップ 4** 使用言語を選択するように求める音声の流れます。適切な言語を選択します。

**ステップ 5** システム管理者によって指定された個人用内線番号とその後続けて # をダイヤルします。



**(注)** 市外局番を含む完全な電話番号を入力するように求められる場合があります。

**ステップ 6** 確認のために、もう一度、個人用内線番号とその後続けて # をダイヤルします。

確認プロンプトが聞こえます。

**ステップ 7** 電話を切ります。

電話機がリセットされ、ユーザの内線番号が表示されます。

問題が発生した場合は、システム管理者にお問い合わせください。

#### 追加情報

「関連項目」(P.81-4) を参照してください。

## 関連項目

- 「Tool for Auto-Registered Phones Support のユーザ ロケールの設定」 (P.81-1)
- 「エンド ユーザ用の Tool for Auto-Registered Phones Support 情報」 (P.81-3)
- 「TAPS のインストール」 (P.80-4)
- 「TAPS サービスのアクティブ化」 (P.80-6)
- 「TAPS サービスのアクティブ化」 (P.80-6)
- 「TAPS の起動/停止/再起動」 (P.80-6)
- 「TAPS のオプション設定」 (P.80-7)
- 「電話番号の保護の設定」 (P.80-8)



## **PART 19**

### **ジョブのスケジュール**





## CHAPTER 82

# ジョブのスケジュール

バルク トランザクションをスケジュールし、これらのトランザクションを開始する必要がある時刻を指定できます。

Cisco Unified Communications Manager の管理ページの [一括管理 (Bulk Administration)] メニューを使用して送信されたすべてのジョブは、Bulk Provisioning Service (BPS) のキューに入ります。ジョブに対して指定された開始時刻に従って、トランザクションが実行を開始します。開始時刻を指定しない場合、トランザクションは、受信した順に実行されます。

次のトピックでは、BPS のアクティブ化とジョブのスケジュールについて説明します。

- 「Bulk Provisioning Service のアクティブ化」 (P.82-1)
- 「BPS の起動/停止/再起動」 (P.82-2)
- 「BPS の非アクティブ化」 (P.82-3)
- 「ジョブの検索」 (P.82-3)
- 「ジョブのスケジュール」 (P.82-4)

## Bulk Provisioning Service のアクティブ化

実行のジョブを送信する前に、BPS をアクティブ化する必要があります。

BPS をアクティブ化する手順は、次のとおりです。

### 手順

- ステップ 1** [Cisco Unified Communications Manager Serviceability] ウィンドウから、[Tools] > [Service Activation] の順に選択します。  
[Service Activation] ウィンドウが表示されます。
- ステップ 2** [Server] ドロップダウン リスト ボックスから、Cisco Unified Communications Manager を実行するサーバを選択します。
- ステップ 3** [Database and Admin Services] 領域で、Cisco Bulk Provisioning Service に対応するチェックボックスをオンにします。



(注) サービスがすでにアクティブ化されている場合は、[Activation Status] に [Activated] と表示されます。

- ステップ 4** [Update] をクリックします。

**ステップ 5** ウィンドウが更新され、Bulk Provisioning Service に対応する [Activation Status] に [Activated] と表示されます。



(注) アクティブ化されると、BPS は自動的に起動します。このサービスの停止、起動、再起動については、「BPS の起動/停止/再起動」(P.82-2) を参照してください。



(注) サービスを起動するたびに、BPS は Cisco Unified Communications Manager データベースと同期されます。

## BPS の起動/停止/再起動

Cisco Unified Communications Manager Serviceability を使用してアクティブ化されると、BPS は自動的に起動します。この項では、BPS を停止または再起動する手順について説明します。

### 手順

**ステップ 1** [Cisco Unified Communications Manager Serviceability] で、[Tools] > [Control Center–Feature Services] の順に選択します。

[Control Center–Feature Services] ウィンドウが表示されます。

**ステップ 2** [Servers] ドロップダウン リスト ボックスから、Cisco Unified Communications Manager サーバを選択します。

[Database and Admin Services] 領域のリストの [Service Name] カラムの下に、[Cisco Bulk Provisioning Service] が表示されます。



(注) 「Bulk Provisioning Service のアクティブ化」(P.82-1) を使用して BPS をアクティブ化した場合は、[Status] に [Activated] と表示されます。

**ステップ 3** BPS に対応するチェックボックスをオンにします。

**ステップ 4** BPS を再起動する場合は、[Restart] をクリックします。

サービスが再起動し、「Service Successfully Restarted」というメッセージが表示されます。

**ステップ 5** BPS を停止する場合は、[Stop] をクリックします。

サービスが停止し、「Service Successfully Stopped」というメッセージが表示されます。

**ステップ 6** 停止した BPS を起動する場合は、[Start] をクリックします。

サービスが起動し、「Service Successfully Started」というメッセージが表示されます。

## BPS の非アクティブ化

必要ない場合は、BPS を非アクティブ化できます。この項では、BPS サービスを非アクティブ化し、ツールからログアウトする手順を説明します。

### 手順

- 
- ステップ 1** [Cisco Unified Communications Manager Serviceability] で、[Tools] > [Service Activation] の順に選択します。
- [Service Activation] ウィンドウが表示されます。
- ステップ 2** [Servers] ドロップダウン リスト ボックスから、Cisco Unified Communications Manager サーバを選択します。
- [Database and Admin Services] 領域のリストの [Service Name] カラムの下に、[Cisco Bulk Provisioning Service] が表示されます。
- ステップ 3** Cisco Bulk Provisioning Service に対応するチェックボックスをオフにし、[Update] をクリックします。
- サービスが非アクティブになり、[Status] カラムに [Deactivated] と表示されます。
- 

## ジョブの検索

Cisco Unified Communications Manager の管理ページの [一括管理 (Bulk Administration)] メニューを使用して、すでに BPS に送信されたジョブを検索する手順は、次のとおりです。

### 手順

- 
- ステップ 1** [一括管理 (Bulk Administration)] > [ジョブスケジューラ (Job Scheduler)] の順に選択します。[ジョブの検索と一覧表示 (Find and List Jobs)] ウィンドウが表示されます。
- ステップ 2** 最初の [検索対象: ジョブ、検索条件 (Find Job where)] ドロップダウン リスト ボックスから、次のいずれかの検索条件を選択します。
- [ユーザ (User)]
  - [ステータス (Status)]
  - [ジョブ ID (Job ID)]
  - [説明 (Description)]
  - [スケジュール日時 (Scheduled Date Time)]
- ステップ 3** 2 番目の [検索対象: ジョブ、検索条件 (Find Job where)] ドロップダウン リスト ボックスで、次のいずれかのオプションを選択します。
- [が次の文字列で始まる (begins with)]
  - [が次の文字列を含む (contains)]
  - [が次の文字列と等しい (is exactly)]
  - [が次の文字列で終わる (ends with)]

- [ が空である (is empty)]
- [ が空ではない (is not empty)]

**ステップ 4** 3 番目のドロップダウン リスト ボックスで、[ 表示 (Show)] を選択して完了したジョブを表示します。

**ステップ 5** 必要に応じて、適切な検索テキストを指定します。



**ヒント** データベースに登録されたすべてのジョブを検索するには、検索テキストを入力せずに [ 検索 (Find)] をクリックします。

**ステップ 6** 複数のフィルタを追加するには、[AND] または [OR] をクリックします。クエリーをさらに定義するには、ステップ 2 ~ 5 を繰り返します。

**ステップ 7** [ 検索 (Find)] をクリックします。

検索されたジョブのリストが、次の項目別に表示されます。

- [ ジョブ ID (Job ID)]
- [ スケジュール日時 (Scheduled Date Time)]
- [ 送信日時 (Submit Date Time)]
- [ 順序 (Sequence)]
- [ 説明 (Description)]
- [ ステータス (Status)]
- [ 最後のユーザ (Last User)]



**(注)** [後で実行 (Run Later)] オプション ボタンが選択されている場合は、ジョブをスケジュールしている間、[ステータス (Status)] に [保留 (Hold)] と表示されます。[今すぐ実行 (Run Immediately)] オプション ボタンが選択されている場合は、[ステータス (Status)] に [待機中 (Pending)] と表示されます。完了したジョブの場合、[ステータス (Status)] に [Completed (完了)] と表示され、エラーで完了しなかったジョブの場合、[ステータス (Status)] に [未完了 (Incomplete)] と表示されます。

**ステップ 8** スケジュールまたはアクティブ化する、処理中または保留のジョブのジョブ ID をクリックします。[ジョブスケジューラ (Job Scheduler)] ウィンドウが表示されます。

### 追加情報

詳細については、「[関連項目](#)」(P.82-6) を参照してください。

## ジョブのスケジュール

送信されたジョブをスケジュールする手順は、次のとおりです。

### 手順

**ステップ 1** 「[ジョブの検索](#)」(P.82-3) の手順に従って、スケジュールするジョブを表示します。

**ステップ 2** [ジョブスケジューラ (Job Scheduler)] ウィンドウで、[表 82-1](#) の手順に従ってジョブのスケジュールまたはアクティブ化の設定を入力します。

表 82-1 ジョブの設定

| フィールド                            | 説明                                                                                                                                                                                                                                                                                         |
|----------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| [ジョブ ID(Job ID)]                 | ジョブが送信されるときに作成されるジョブ ID が表示されます。                                                                                                                                                                                                                                                           |
| [ジョブのステータス (Job Status)]         | ジョブのステータスとして、次のいずれかのオプションが表示されます。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• [保留 (Hold)]</li> <li>• [待機中 (Pending)]</li> <li>• [完了 (Completed)]</li> <li>• [未完了 (Incomplete)]</li> </ul>                                                                                                     |
| [スケジュール日時 (Scheduled Date Time)] | ドロップダウン リスト ボックスから、月、日、年を選択します。ジョブをスケジュールする時刻を入力します。                                                                                                                                                                                                                                       |
| [送信日時 (Submit Date Time)]        | ジョブが送信される日時が表示されます。                                                                                                                                                                                                                                                                        |
| [順序 (Sequence)]                  | ドロップダウン リスト ボックスで、ジョブを実行する順序を選択します。1 から 20 までの数を選択できます。<br><br><b>(注)</b> 2 つ以上のジョブについてスケジュール済みの日時が同じ場合、この順序に従ってこれらのジョブが BPS のキューに入れます。スケジュール済みの日時と順序が同じ場合、ジョブは送信日時に従ってキューに入れます。                                                                                                           |
| [ジョブ説明 (Job Description)]        | ジョブを作成したときに入力した説明が表示されます。説明には、任意の言語で最大 50 文字を指定できますが、二重引用符 ("), パーセント記号 (%), アンパサンド (&), バックスラッシュ (\), または山カッコ (<>) は使用できません。                                                                                                                                                              |
| [頻度 (Frequency)]                 | 次のオプションからトランザクションの頻度を選択します。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• [一度 (Once)]</li> <li>• [月次 (Monthly)]</li> <li>• [週次 (Weekly)]</li> <li>• [日次 (Daily)]</li> <li>• [毎時 (Hourly)]</li> </ul> たとえば [日次 (Daily)] を選択すると、[スケジュール日時 (Scheduled Date Time)] フィールドに入力した時刻にトランザクションが毎日繰り返されます。 |
| [ジョブの終了時刻 (Job End Time)]        | 反復 (定期) ジョブの終了時刻が表示されます。                                                                                                                                                                                                                                                                   |
| [最終変更者 (Last Modified By)]       | このジョブを最後に変更した管理者の ID が表示されます。                                                                                                                                                                                                                                                              |

**ステップ 3** [ジョブのアクティブ化(Activate job)] をクリックして、スケジュールされた時刻にジョブをアクティブ化するか、[保存(Save)] をクリックして設定を保存し、ジョブを後でアクティブ化します。

[ジョブの検索と一覧表示(Find and List Jobs)] ウィンドウが表示されます。



**(注)** ジョブを保存するが、アクティブ化しない場合は、ジョブの状態が [保留(Hold)] と表示されません。これらのジョブは、アクティブ化されるまで BPS では処理されません。

**ステップ 4** アクティブ化したジョブの ID をクリックします。[ジョブスケジューラ(Job Scheduler)] ウィンドウの [ジョブの結果(Job Results)] 領域に、完了、未完了、停止要求中、処理中のすべてのジョブについて、以下の情報が表示されます。

- [ジョブの実行日時(Job Launched Date Time)]
- [ジョブの結果の状況(Job Result Status)]
- [処理されたレコードの数(Number Of Records Processed)]
- [失敗したレコードの数(Number Of Records Failed)]
- [レコードの総数(Total Number Of Records)]
- [ログファイル名(Log File Name)]



**(注)** [ログファイル名(Log File Name)] カラムのリンクをクリックすると、このトランザクションのログファイルが表示されます。

**ステップ 5** ジョブのリストに戻るには、[関連リンク(Related Links)] ドロップダウン リスト ボックスから [検索/リストに戻る(Back to Find/List)] を選択し、[移動(Go)] をクリックします。

## 関連項目

- 「Bulk Provisioning Service のアクティブ化」 (P.82-1)
- 「BPS の起動/停止/再起動」 (P.82-2)
- 「BPS の非アクティブ化」 (P.82-3)
- 「ジョブの検索」 (P.82-3)
- 「ジョブのスケジュール」 (P.82-4)



## **PART 20**

### **BAT および TAPS のトラブルシューティング**





## CHAPTER 83

# BAT および TAPS のトラブルシューティング

Cisco Unified Communications Manager Bulk Administration (BAT; 一括管理) または Tool for Auto-Registered Phones Support (TAPS) の使用時に発生する問題およびメッセージの詳細については、次のトピックを参照してください。

- 「BAT ログ ファイル」 (P.83-3)
- 「トレース設定ファイルの表示」 (P.83-1)
- 「BAT のトラブルシューティング」 (P.83-3)
- 「BAT および TAPS のトラブルシューティング」 (P.83-8)
- 「Tool for Auto-Registered Phones Support のエラー メッセージ」 (P.83-8)

## トレース設定ファイルの表示

トレース ファイルを使用すると、ツールの機能上の問題を追跡することができます。システムは、BAT および TAPS のトレース ファイルを、BAT および TAPS がインストールされているサーバに書き込みます。Cisco Unified Communications Manager Serviceability の [Service Control] ウィンドウでは、トレース ファイル機能の書き込みの有効化または無効化を選択できます。

この項では、トレース ファイルの書き込みを有効化および無効化する手順を説明します。機能を有効化する手順は、次のとおりです。

### 手順

- ステップ 1** [Cisco Unified Communications Manager Serviceability] で、[Trace] > [Trace Configuration] の順に選択します。  
[Trace Configuration] ウィンドウが表示されます。
- ステップ 2** [Server] ドロップダウン リスト ボックスから、Cisco Unified Communications Manager サーバを選択します。
- ステップ 3** [Configured Services] ドロップダウン リスト ボックスから次のサービスのいずれかを選択します。
  - BAT トレース ファイルの設定の場合は、[Cisco Bulk Provisioning Service] を選択します。
  - TAPS トレース ファイルの設定の場合は、[TAPS Service] を選択します。
- ステップ 4** トレース機能をアクティブ化するには、[Trace On] チェックボックスをオンにします。
- ステップ 5** [Trace Filter Settings] で、設定するトレース レベルを [Debug Trace Level] ドロップダウン リスト ボックスから選択します。表 83-1 の手順に従って、適切なデバッグ トレース レベルをクリックします。

表 83-1 デバッグ トレース レベル

| レベル     | 説明                                                                        |
|---------|---------------------------------------------------------------------------|
| [Fatal] | アプリケーションの中止を引き起こす可能性がある非常に重大なエラー イベントをトレースします。                            |
| [Error] | アラームの状態とイベントをトレースします。異常なパスで生成されるすべてのトレースに使用します。CPU サイクルの最小数を使用します。        |
| [Warn]  | 有害な可能性のある状況をトレースします。                                                      |
| [Info]  | 多くのサブレットの問題をトレースします。システム パフォーマンスへの影響は最小です。                                |
| [Debug] | 通常の操作で発生するすべての状態遷移の状況とメディア レイヤ イベントをトレースします。<br>すべてのロギングをオンにするトレース レベルです。 |

**ステップ 6** 必要に応じて、[Cisco Bulk Provisioning Service Trace Fields] チェックボックスと [Device Name Based Trace Monitoring] チェックボックスをオンにします。

**ステップ 7** [Trace Output Settings] で、最大ファイル数、ファイルあたりの最大行数、ファイルあたりの最大分数の値を入力します。

**ステップ 8** [Update] をクリックします。

機能が有効になり、トレース ファイルがサーバ上の次に示すロケーションに書き込まれます。

- BAT トレース ファイル : /var/log/active/cm/trace/bps/log4j
- TAPS トレース ファイル : /var/log/active/cm/trace/taps/log4j

BAT トレース ファイルは、次の形式で表示されます。

bps<インデックス番号>.log

TAPS トレース ファイルは、次の形式で表示されます。

taps<インデックス番号>.log

ここで、<インデックス番号> の範囲は、1 ~ 250 です。

トレース ファイルに記載する情報を設定すると、Real-Time Monitoring Tool (RTMT) の Trace and Log Central オプションを使用してトレース ファイルを収集し、表示することができます。詳細については、『Cisco Unified Communications Manager Serviceability System Guide』を参照してください。

トレース ファイルの書き込み機能を無効化する手順は、次のとおりです。

#### 手順

**ステップ 1** [Cisco Unified Communications Manager Serviceability] で、[Trace] > [Trace Configuration] の順に選択します。

[Trace Configuration] ウィンドウが表示されます。

**ステップ 2** [Server] ドロップダウン リスト ボックスから、Cisco Unified Communications Manager サーバを選択します。

- ステップ 3** [Configured Services] ドロップダウン リスト ボックスから、[Cisco Bulk Provisioning Service] を選択します。
- ステップ 4** トレース機能を非アクティブ化するには、[Trace On] チェックボックスをオフにします。
- ステップ 5** [Update] をクリックします。  
この操作によって、機能が無効になります。

## BAT ログ ファイル

BAT では、バルク トランザクションごとにログ ファイルが生成されます。このログ ファイルにはレコードのキー値が表示されるので、管理者は容易にレコードを再検討できます。電話機の MAC アドレスは、電話機の追加、更新、または変更時のキー値の役目を果たします。ユーザが追加されるときには、User ID がキー値の役目を果たします。BAT で作成した各ジョブのログ ファイルを表示するには、「[ジョブの検索](#)」(P.82-3) の手順に従って該当するジョブを表示し、[Log File Name] カラムのリンクをクリックします。ポップアップ ウィンドウに、そのジョブのログ ファイルの詳細が表示されます。

ログ ファイルの名前には、実行された操作の内容、およびその操作が終了した時刻が示されます。

- ログ ファイル名：ファイル名はジョブ ID を表します。ジョブ ID は、ジョブが送信されたときにシステムが作成する一意の識別子です。
- タイムスタンプ：ログ ファイル名に含まれるタイムスタンプ形式は、*mmddyyyyhhmmss* です。
- ログ ファイル名の形式は、*jobid#timestamp.txt* です。

### 追加情報

「[関連項目](#)」(P.83-9) を参照してください。

## BAT のトラブルシューティング

この項では、発生する可能性があるシナリオやエラー メッセージについて説明し、解決するために必要な処置を示します。

**症状** Cisco Unified Communications Manager の管理ページに [一括管理 (Bulk Administration)] メニューが表示されない

**説明** [一括管理 (Bulk Administration)] メニューにアクセスできるのは、Cisco Unified Communications Manager の最初のノードだけです。

**推奨処置** Cisco Unified Communications Manager の最初のノードにログインしていることを確認してください。

**症状** [一括管理(Bulk Administration)] のすべての機能にアクセスできない

**説明** Cisco Unified Communications Manager の管理ページにログインした後は、[一括管理(Bulk Administration)] のすべてのウィンドウにアクセスできるわけではありません。

**推奨処置** この問題は、User ID に適用される、アプリケーションへのアクセス制限によるものです。必要な権限を付与されたシステム管理者にお問い合わせください。

**症状** BAT.xlt ファイルで [Export to BAT Format] ボタンが機能しない

**説明** BAT.xlt ファイルで [Export to BAT Format] ボタンをクリックしても、何も実行されません。

**推奨処置** ブランクのセルをクリックします。カーソルがセル内のテキスト上にあるか、テキストボックス内にあるときには、ボタンが使用不可になっているように見える場合があります。

**症状** データを CSV 形式にエクスポートするときに、BAT の Excel スプレッドシートでコンパイルエラーが発生する

**説明** 使用している Microsoft Excel のバージョンを確認します。Excel 97 を使用している場合に、BAT.xlt で問題があったことが報告されています。

**推奨処置** Microsoft Excel 2000 以降のバージョンを使用してください。

**症状** BAT の Excel スプレッドシートが操作に反応しない

**説明** BAT の Excel スプレッドシートが、行の追加などの操作に応答しません。

**推奨処置** BAT の Excel スプレッドシートを開くときに、[マクロを有効にする] オプションが選択されていることを確認します。BAT.xlt のマクロを有効化する手順は、次のとおりです。

- a. BAT.xlt を開きます。
- b. [メニュー] > [ツール] > [マクロ] > [セキュリティ] へ移動します。
- c. [セキュリティ レベル] を [中] に設定します。
- d. BAT.xlt を閉じ、再び開きます。プロンプトが表示されたら、[マクロを有効にする] を選択します。

**症状** データ ファイル (CSV) 形式が電話テンプレートやサンプル ファイルに一致しない

**説明** データ ファイル内の回線数は、BAT 電話機テンプレートで設定された回線数以下である必要がありますが、そのようになっています。たとえば、電話機テンプレートに 3 回線があり、これらのうち回線 1、2、3 が設定されているとします。この場合、3 つ以下の回線が設定された電話機データ ファイルを使用する必要があります。「1111, 2222,, 4444」は、Line1-1111、Line2-2222、Line3-none、Line4-4444 となります。

**推奨処置** 使用する予定の BAT 電話機テンプレートを調べてください。CSV データ ファイルに指定される回線数は、BAT 電話機テンプレートで設定された回線数を超えてはなりません。また、CSV データ ファイルで指定するスピードダイヤル数は、使用する予定の BAT 電話機テンプレートの最大スピードダイヤル数を超えないようにしてください。

**症状** アップロードした CSV ファイルが [ファイル名 (File Name)] ドロップダウン リスト ボックスに表示されない

**説明** [ファイルのアップロード (File Upload Configuration)] ウィンドウを使用して Cisco Unified Communications Manager サーバにアップロードした CSV ファイルが、さまざまな操作の [ファイル名 (File Name)] ドロップダウン リスト ボックス フィールドに表示されません。たとえば、電話機を挿入するための CSV ファイルを、[一括管理 (Bulk Administration)] メニューの [ファイルのアップロード/ダウンロード (Uploading/Downloading)] メニュー オプションを使用してアップロードした場合、そのファイルが、[電話の挿入 (Insert Phones Configuration)] ウィンドウの [ファイル名 (File Name)] ドロップダウン リスト ボックスにオプションの 1 つとして表示されません。

**推奨処置** このファイルが正しい機能用にアップロードされていることを確認してください。前の例では、電話機のすべての詳細の挿入用のファイルをアップロードしましたが、CSV ファイルは実際には、電話機の特定の詳細の挿入用です。  
[ファイルのアップロード/ダウンロード (Upload/Download Files)] メニュー オプションからファイルを削除し、正しい機能にアップロードしてください。

**症状** スケジュールした時刻が経過してもジョブの状態が待機中のままになっている

**説明** ジョブが特定の時刻に実行されるようにスケジュールしています。しかし、スケジュールされている時刻を過ぎても、ジョブは待機状態のままです。

**推奨処置** 以下の詳細を確認してください。

- a. Cisco Bulk Provisioning Service (BPS) が起動していること。
- b. 処理中状態のジョブが他にないこと。BPS は、一度に 1 つのジョブしか処理できません。
- c. BPS トランザクションで処理の停止が要求されているかどうかを確認します。要求されている場合は、[ジョブスケジューラ (Job Scheduler)] ウィンドウに移動し、[ジョブのアクティブ化 (Activate Job)] をクリックします。

**症状** ジョブが保留状態のままになっている

**説明** ジョブと必要なすべてのデータを送信した後に、このジョブが [ジョブスケジューラ (Job Scheduler)] ウィンドウに保留状態で表示されます。このようなジョブは実行されません。

**推奨処置** 保留状態のジョブをアクティブ化してから、BPS で実行する必要があります。[ジョブスケジューラ (Job Scheduler)] ウィンドウに移動し、手順に従ってジョブをアクティブ化してください。

**症状** ジョブが [ジョブの検索と一覧表示 (Find and List Jobs)] ウィンドウに表示されない

**説明** ジョブと必要なすべてのデータを送信したら、[一括管理 (Bulk Administration)] > [ジョブスケジューラ (Job Scheduler)] の順に選択します。スケジュールしたジョブの適切な検索条件を入力し、[検索 (Find)] をクリックします。ジョブは検索結果に表示されません。[ジョブの検索と一覧表示 (Find and List Jobs)] ウィンドウの [検索オプション (Search Options)] 領域の 3 番目のドロップダウン リスト ボックスで、[非表示 (Hide)] が選択されているかどうかを確認します。このオプションでは、完了したすべてのジョブが非表示になります。送信したジョブがすでに完了している場合、そのジョブは [検索結果 (Search Results)] 領域に表示されません。

**推奨処置** [ジョブの検索と一覧表示(Find and List Jobs)] ウィンドウで 3 番目のドロップダウン リスト ボックスから [表示 (Show)] を選択し、もう一度 [検索 (Find)] をクリックします。これで、完了したジョブも検索結果に表示されます。

**症状** ポート番号がテンプレートに設定されていない

**説明** CSV ファイルにはポート番号が指定されていますが、対応するポートが BAT テンプレートに設定されていません。

**推奨処置** BAT テンプレートで、CSV ファイルで指定したポートを設定してください。

**症状** ダミー MAC アドレスの値を指定しようとしても、MAC アドレスの値がファイルで許可されない

**説明** この CSV ファイルには、MAC アドレスが入っています。MAC アドレスが CSV ファイル内のいずれかの行に含まれている場合、ダミー MAC アドレスは指定できません。

**推奨処置** ダミー MAC アドレスを使用する場合は、MAC アドレスを指定していないレコードだけが入っている、新しい CSV ファイルを作成してください。または別の方法として、CSV ファイルで MAC アドレスを指定し、[ダミー MAC アドレスの作成 (Create Dummy MAC Address)] チェックボックスをオフにしてください。

**症状** BAT.xlt スプレッドシートが Microsoft Excel XP (Office XP) で機能しない

**説明** Office XP に付属している Microsoft Excel では、マクロ セキュリティがデフォルトで高に設定されています。この設定のため、BAT.xlt 内のマクロを実行できず、BAT.xlt が使用不可になります。

**推奨処置** BAT.xlt 内のマクロを使用できるようにするには、次の手順を実行します。

- a. BAT.xlt を開きます。
- b. [メニュー] > [ツール] > [マクロ] > [セキュリティ] へ移動します。
- c. [セキュリティ レベル] を [中] に設定します。
- d. BAT.xlt を閉じ、再び開きます。プロンプトが表示されたら、[マクロを有効にする] を選択します。

**症状** [電話の移行-SCCP から SIP(Migrate Phones - SCCP TO SIP)] ウィンドウを使用して、SCCP 電話機を SIP に移行する要求を送信した後も、Cisco Unified IP Phone のモデル 7940 と 7960 が SCCP 電話機として表示される

**推奨処置** この問題を解消するには、移行後、個々の電話機の電源を再投入（電源を一度オフにしてからオンに）します。



**(注)** Cisco Unified IP Phone (7905、7911、7912、7941、7961、7970、および 7971 の各モデル) の場合、移行アクティビティが正常に機能した後で電話機が SIP として登録されます。

**エラー メッセージ** 選択したファイル形式にレコードが一致していない

**説明** MS Excel で、最後の列をブランクにして CSV ファイルを作成すると、MS Excel では、行 15 の後に来る最後の列にカンマを追加できません。このエラーは、このような CSV ファイルがいずれかの BAT 操作に使用されると発生します。

**推奨処置** CSV ファイルの最後の列をブランクにする場合は、次の手順を実行します。

- a. CSV ファイルを作成するときに、最後の列にダミー値を入力します。
- b. CSV ファイルを保存して閉じます。
- c. 保存した CSV ファイルをテキスト エディタまたはメモ帳で開きます。
- d. ダミー値をブランク値で置き換え、保存します。

**症状** BAT.xlt が Microsoft Excel 2007 で互換モードで稼動する

**説明** Excel のテンプレート bat.xlt は Microsoft Excel 2003 のファイルです。このファイルを Microsoft Excel 2007 で開くと、ファイルは互換モードで開きます。互換モードでは、Excel のテンプレートが Microsoft Excel 2003 のファイルとして動作し、Microsoft Excel 2007 の機能は使用できません。

**推奨処置** BAT.xlt が標準モードであることを確認します。Bat.xlt を開き、[ファイル]>[名前を付けて保存]を選択し、[Excel マクロ有効ブック]をクリックします。ファイルの名前を入力し、[保存]をクリックします。bat.xlt を閉じ、保存したファイル（名前を付けて保存したファイル）を開きます。

## BAT パフォーマンスのトラブルシューティング

バルク トランザクションは、トラフィックの少ない時間帯に送信することをお勧めします。Cisco Unified Communications Manager が大量のコールを処理しているときに BAT ファイルを最初のノード データベースに挿入すると、BAT トランザクションが低速になることがあります。実際に、Cisco Unified Communications Manager によるコールの処理に悪影響を及ぼすことがあります。

ファイルあたりのレコード数が 12000 未満になるようにファイルのサイズを制限すると、BAT パフォーマンスが向上する場合があります。

また、BAT ファイルを最初のノード データベースに挿入する前に TFTP サービスを停止すると、BAT パフォーマンスを向上させることができます。挿入 トランザクションが完了したら、TFTP サービスを再起動する必要があります。

Cisco Unified Communications Manager の最初のノード サーバ上の TFTP サービスを停止する手順は、次のとおりです。

### 手順

- 
- ステップ 1** [Cisco Unified Communications Manager Serviceability] ウィンドウで、[Tools] > [Control Center-Feature Services] の順に選択します。
  - ステップ 2** Unified CM Service リストから、対応するオプション ボタンをクリックして Cisco TFTP を選択します。
  - ステップ 3** [Stop] をクリックし、[OK] をクリックします。
-



(注)

挿入トランザクションが完了したら、TFTP サービスを再起動する必要があります。同じ手順によって、[Start] をクリックしてサービスを再起動します。

**追加情報**

「関連項目」(P.83-9) を参照してください。

## BAT および TAPS のトラブルシューティング

原則として、TAPS を使用していない場合は、TAPS サービスを停止することをお勧めします。サービスを停止すると TAPS を不必要に使用することを防止でき、CPU 時間を多少節約することもできます。

**追加情報**

「関連項目」(P.83-9) を参照してください。

## Tool for Auto-Registered Phones Support ログ ファイルの表示

TAPS は、1 件につき 1 行の情報を生成します。

TAPS ログ ファイルを表示するには、[一括管理 (Bulk Administration)] > [TAPS] > [TAPS ログファイルの表示 (View TAPS Log File)] の順に選択します。

## Tool for Auto-Registered Phones Support のエラー メッセージ

Cisco UCCX サーバで TAPS を実行しているときに、次の現象が発生する場合があります。

**症状** TAPS ルート ポイント番号をダイヤルすると、ビジー トーンが聞こえる

**説明** ビジー トーンにより、TAPS の最大同時セッション数に達したことが示されます。TAPS の最大セッション数は、UCCX 設定で TAPS アプリケーションに割り当てられているポート数と同じです。

**推奨処置** この状況を防止するには、Cisco UCCX で TAPS アプリケーションに割り当てられているポート数を増やす必要があります。

**症状** Cisco UCCX サーバが起動すると、JTAPI サブシステムにサービスの一部が表示されるか、サービスが使用できない

**説明** Cisco Unified Communications Manager または Cisco UCCX サーバ内の設定に問題があるために、この現象が発生しています。

**推奨処置** 問題が解決するまで、次のステップを順に実行してください。

- Cisco Unified Communications Manager が起動されていることを確認します。
- Cisco UCCX サーバで JTAPI が使用可能になっていることを確認します。
- UCCX サーバ上の JTAPI バージョンが、Cisco Unified Communications Manager にインストールされている JTAPI と同じバージョンであることを確認します。

- Cisco Unified Communications Manager 上でルート ポイントと CTI ポートが正しく設定されていることを確認します。
- JTAPI ユーザに対して [CTI からデバイスを制御可能 (Allow Control of Device from CTI)] チェックボックスがオンになっていることを確認します。これは、Cisco Unified Communications Manager の管理ページのユーザ ウィンドウで確認できます。
- CTI Manager サービスが起動していることを確認します。
- ポートとルート ポイントが、Cisco Unified Communications Manager ユーザ設定でユーザに関連付けられていることを確認します。

さらにトラブルシューティングを行うには、Cisco UCCX サーバの MIVR ログ ファイルを収集して調査します。

#### 追加情報

「関連項目」(P.83-9) を参照してください。

## 関連項目

- 「BAT ログ ファイル」(P.83-3)
- 「トレース設定ファイルの表示」(P.83-1)
- 「BAT のトラブルシューティング」(P.83-3)
- 「BAT パフォーマンスのトラブルシューティング」(P.83-7)
- 「BAT および TAPS のトラブルシューティング」(P.83-8)





## **PART 21**

付録





# APPENDIX A

## テキストベースの CSV ファイル

Cisco Unified Communications Manager Bulk Administration (BAT; 一括管理) は、Comma-Separated Values (CSV; カンマ区切り値) ファイル形式で入力されたデータを使用して、最初のノードサーバ上の Cisco Unified Communications Manager データベースへの挿入トランザクションの情報を提供します。CSV データ形式を使用すると、表形式のデータ レコードを含むテキスト ファイルを作成できます。

CSV データ ファイルを作成するには、Microsoft メモ帳などのテキスト エディタを使用します。各レコードのデータは、別個の行で入力する必要があります。各データ フィールドはカンマで区切り、ブランク フィールドにはカンマ区切り文字を指定します。CSV ファイルにブランク行があると挿入トランザクション中にエラーが発生するので、データ ファイル内のすべての行にデータを入力します。

Cisco Unified Communications Manager データベースにデータ レコードを挿入する場合、BAT は最初のノード データベースを実行するサーバ上にある指定のフォルダ セットにアクセスします。BAT がトランザクションの該当する CSV データ ファイルにアクセスできるようにするには、CSV データ ファイルを、Cisco Unified Communications Manager の最初のノード データベース サーバにアップロードする必要があります。詳細については、「[ファイルのアップロード](#)」(P.2-3) を参照してください。



(注)

UTF-8 形式で符号化したテキストベースの CSV ファイルのみをアップロードすることをお勧めします。この形式では、ASCII 文字以外の文字も保存できるためです。UTF-8 以外の形式で保存されたテキストベースの CSV ファイルは、Cisco Unified Communications Manager からダウンロードするときに文字化けすることがあります。

次のトピックで、各テキストベース CSV ファイルの情報およびファイル形式を説明します。

- 「[電話機用のテキストベース CSV ファイルの作成](#)」(P.A-2)
- 「[ユーザ用のテキストベース CSV ファイルの作成](#)」(P.A-7)
- 「[ユーザ デバイス プロファイル用のテキストベース CSV ファイルの作成](#)」(P.A-10)
- 「[Cisco Unified CM Assistant マネージャとアシスタントのアソシエーション用のテキストベース CSV ファイルの作成](#)」(P.A-13)
- 「[Cisco VG200 ゲートウェイ用のテキストベース CSV ファイルの作成](#)」(P.A-15)
- 「[Cisco VG224 ゲートウェイ用のテキストベース CSV ファイルの作成](#)」(P.A-18)
- 「[Cisco Catalyst 6000 FXS ポート用のテキストベース CSV ファイルの作成](#)」(P.A-19)
- 「[Cisco VG202 および VG204 ゲートウェイ用のテキストベース CSV ファイルの作成](#)」(P.A-20)
- 「[クライアント識別コードと強制承認コードのテキストベースのカスタム CSV ファイルの作成](#)」(P.A-22)
- 「[コール ピックアップ グループ用のテキストベース CSV ファイルの作成](#)」(P.A-25)
- 「[リモート接続先プロファイル用のテキストベース CSV ファイルの作成](#)」(P.A-27)

- 「電話の移行用のテキストベース CSV ファイルの作成」(P.A-28)
- 「IME 信頼要素設定用のテキストベース CSV ファイルの作成」(P.A-29)
- 「IME 登録済みグループ設定用のテキストベース CSV ファイルの作成」(P.A-31)
- 「IME 除外グループ設定用のテキストベース CSV ファイルの作成」(P.A-32)
- 「フォールバック プロファイル設定用のテキストベース CSV ファイルの作成」(P.A-33)
- 「エンドユーザ CAPF プロファイル用のテキストベース CSV ファイルの作成」(P.A-34)
- 「モビリティ プロファイル用のテキストベース CSV ファイルの作成」(P.A-35)

## 電話機用のテキストベース CSV ファイルの作成

電話機を追加するとき、データ入力に BAT スプレッドシートを使用する代わりに、値をカンマで区切った ASCII テキスト行を使用して Comma-Separated Values (CSV; カンマ区切り値) ファイルを作成できます。

電話機、IP テレフォニー デバイス、およびユーザの組み合わせの CSV テキスト ファイルを作成する手順は、次のとおりです。

### 手順

- ステップ 1** テキスト エディタ (Microsoft メモ帳など)、または CSV ファイルのエクスポートや作成が可能なアプリケーションを開きます。
- ステップ 2** Cisco Unified Communications Manager に追加する電話機、IP テレフォニー デバイス、またはユーザの組み合わせごとに、行を変えて値を入力します。デバイスのタイプごとに別の CSV ファイルを作成する必要があります。CSV データ ファイルを作成するときには、次の規則に注意してください。
- フィールドがブランクであっても、必ず、カンマ区切り文字を入力します。
  - 電話機をユーザに関連付ける場合は、ユーザ ID を指定します。
  - 回線が設定されていない BAT テンプレートで使用するために CSV ファイルを作成する場合にだけ、Directory Number フィールドをオプションにします。BAT 電話機テンプレートで回線が設定されている場合は、デバイスごとに CSV ファイルで電話番号を指定する必要があります。
  - ブランク行のある CSV ファイルを挿入するとエラーが発生するので注意します。
  - CSV ファイルを保存するときに、「UTF-8」符号化ファイルとして保存します。メモ帳では、[ 文字コード ] ドロップダウンで「UTF-8」の符号化を選択できます。



**(注)** UTF-8 形式で符号化したテキストベースの CSV ファイルのみをアップロードすることをお勧めします。この形式では、ASCII 文字以外の文字も保存できるためです。UTF-8 以外の形式で保存されたテキストベースの CSV ファイルは、Cisco Unified Communications Manager からダウンロードするときに文字化けすることがあります。

さまざまな電話機タイプに使用する CSV データ ファイル形式の詳細については、「電話機用の CSV データ ファイル形式」(P.A-3) を参照してください。

- ステップ 3** CSV ファイルを Cisco Unified Communications Manager の最初のノードにアップロードします。詳細については、「ファイルのアップロード」(P.2-3) を参照してください。

その他の電話機タイプの CSV ファイル形式の詳細については、次のトピックを参照してください。

- 「電話機用の CSV データ ファイル形式」 (P.A-3)
- 「All Phone Details オプション用のエクスポート ファイルのフィールド」 (P.A-5)
- 「電話機 CSV ファイルの例」 (P.A-6)

## 電話機用の CSV データ ファイル形式

電話機のタイプごとに特定のデータ形式が必要です。電話機のファイル形式でオプションとなっているフィールドであっても、所定の条件が満たされる場合は必須となることに注意してください。

次のトピックで、各電話機タイプの形式およびサンプルについて説明します。

- 「電話機とユーザの組み合わせのファイル形式」 (P.A-3)
- 「CTI ポート/H.323 クライアントのファイル形式」 (P.A-4)
- 「CTI ポートとユーザの組み合わせ、および H.323 クライアントとユーザの組み合わせのファイル形式」 (P.A-4)

## 電話機とユーザの組み合わせのファイル形式

次のサンプル形式に、電話機および固定ユーザの形式のテキストベース CSV ファイルのフィールド長、およびフィールドがオプションか必須かを示します。

**First Name** (オプション、64 文字以内)、**Last Name** (必須、1 ~ 64 文字)、**User ID** (必須、1 ~ 128 文字)、**Password** (オプション、128 文字以内)、**Manager User ID** (オプション、128 文字以内、グローバル ディレクトリ内に既存の ID を使用する必要あり)、**Department** (オプション、64 文字以内)、**PIN** (オプション、20 桁以内の数字)、**Default Profile** (オプション、50 文字以内)、**User Locale** (オプション、50 文字以内)、**Telephone Number** (オプション、20 桁以内の数字)、**Primary Extension** (オプション、50 桁以内の数字)、**Associated PC** (オプション、50 文字以内)、**ICD Extension** (オプション、50 桁以内の数字)、**Mail ID** (オプション、255 文字以内)、**Presence Group** (オプション、50 文字以内)、**Subscribe Calling Search Space** (オプション、50 文字以内)、**MAC Address** (必須、12 文字以内)、**Description** (オプション、50 文字以内)、**Location** (オプション、50 文字以内)、**Directory Number** (オプション、24 文字以内の数字または特殊文字)、**Display** (オプション、30 文字以内)、**Line Text Label** (オプション、30 文字以内)、**Forward Busy External** (オプション、50 文字以内の数字または特殊文字)、**Forward No Answer External** (オプション、50 文字以内の数字または特殊文字)、**Forward No Coverage External** (オプション、50 文字以内の数字または特殊文字)、**Forward Busy Internal** (オプション、50 文字以内の数字または特殊文字)、**Forward No Answer Internal** (オプション、50 文字以内の数字または特殊文字)、**Forward No Coverage Internal** (オプション、50 文字以内の数字または特殊文字)、**Call Pickup Group** (オプション、50 文字以内)、**Speed Dial** (オプション、50 文字以内の数字または特殊文字)、**Speed Dial Label** (オプション、30 文字以内)

### 例

```
John,Smith,johns,abcde,Daviss,12,12345,JohnProfile,English United States,1,1231123245AB,Dallas,9725557154,9725557154,Mike,9725557172,9725557196,9725557112,9725557127,9725557158,9725557189,9725557121/TollByPass,1230000000,Helpdesk
```

## CTI ポート/H.323 クライアントのファイル形式

次のサンプル形式に、CTI ポートおよび H.323 クライアントの形式のテキストベース CSV ファイルのフィールド長、およびフィールドがオプションか必須かを示します。

**Device Name** (必須、CTI ポートの場合 15 文字以内、H.323 クライアントの場合 50 文字以内)、**Description** (オプション、50 文字以内)、**Location** (オプション、50 文字以内)、**User ID** (オプション、1 ~ 30 文字)、**Directory Number** (オプション、24 文字以内の数字または特殊文字)、**Display** (オプション、30 文字以内)、**Line Text Label** (オプション、30 文字以内)、**Forward Busy External** (オプション、50 文字以内の数字または特殊文字)、**Forward No Answer External** (オプション、50 文字以内の数字または特殊文字)、**Forward No Coverage External** (オプション、50 文字以内の数字または特殊文字)、**Forward Busy Internal** (オプション、50 文字以内の数字または特殊文字)、**Forward No Answer Internal** (オプション、50 文字以内の数字または特殊文字)、**Forward No Coverage Internal** (オプション、50 文字以内の数字または特殊文字)、**Call Pickup Group** (オプション、50 文字以内)

### 例

```
TAPS Port 1,CTI TAPS Port 1,Dallas,johns,9728437154,9728437154,
Mike,9728437172,9728437196,9728437127,9728437154,9728437178,
9728437189,9728437121/TollByPass,1230000000,Helpdesk
```

## CTI ポートとユーザの組み合わせ、および H.323 クライアントとユーザの組み合わせのファイル形式

次のサンプル形式に、CTI ポートとユーザ、および H.323 クライアントとユーザの形式のテキストベース CSV ファイルのフィールド長、およびフィールドがオプションか必須かを示します。

**First Name** (オプション、64 文字以内)、**Last Name** (必須、1 ~ 64 文字)、**User ID** (必須、1 ~ 128 文字)、**Password** (オプション、128 文字以内)、**Manager User ID** (オプション、128 文字以内、グローバルディレクトリ内の既存の ID を使用する必要あり)、**Department** (オプション、64 文字以内)、**PIN** (オプション、128 桁以内の数字)、**Default Profile** (オプション、50 文字以内)、**User Locale** (オプション、50 文字以内)、**Telephone Number** (オプション、64 桁以内の数字)、**Primary Extension** (オプション、50 桁以内の数字)、**Associated PC** (オプション、50 文字以内)、**ICD Extension** (オプション、50 桁以内の数字)、**Mail ID** (オプション、255 文字以内)、**Presence Group** (オプション、50 文字以内)、**Subscribe Calling Search Space** (オプション、50 文字以内)、**Device Name** (必須、CTI ポートとユーザの組み合わせの場合 15 文字以内、H.323 クライアントとユーザの組み合わせの場合 50 文字以内)、**Description** (オプション、50 文字以内)、**Location** (オプション、50 文字以内)、**Directory Number** (オプション、24 文字以内の数字または特殊文字)、**Display** (オプション、30 文字以内)、**Line Text Label** (オプション、30 文字以内)、**Forward Busy External** (オプション、50 文字以内の数字または特殊文字)、**Forward No Answer External** (オプション、50 文字以内の数字または特殊文字)、**Forward No Coverage External** (オプション、50 文字以内の数字または特殊文字)、**Forward Busy Internal** (オプション、50 文字以内の数字または特殊文字)、**Forward No Answer Internal** (オプション、50 文字以内の数字または特殊文字)、**Forward No Coverage Internal** (オプション、50 文字以内の数字または特殊文字)、**Call Pickup Group** (オプション、50 文字以内)

### 例

```
John,Smith,johns,abcde,Daviss,12,12345,johnProfile,English United States,1,TAPS Port 1,CTI
TAPS Port
1,9725557154,9725557154,Mike,9725557172,9725557196,9725557112,9725557127,9725557158,972555
7189,9725557121/TollByPass,1230000000,Helpdesk
```



(注)

いずれかのフィールドの中で、カンマまたは二重引用符を値の一部として使用する場合は、テキスト値全体を二重引用符で囲んで、これを 1 つの値として指定する必要があります。

たとえば、John, Bill をテキスト値として入力する場合は、"John, Bill" と入力する必要があります。値に二重引用符を入力する場合は、二重引用符を 2 つの連続した二重引用符に置き換え、その値全体を二重引用符で囲む必要があります。たとえば、John "Chief は "John""Chief" と入力する必要があります。

**追加情報**

「IME 信頼グループ設定用のテキストベース CSV ファイルの作成」(P.A-30) を参照してください。

## All Phone Details オプション用のエクスポート ファイルのフィールド

エクスポート ユーティリティを使用して電話機レコードのすべての詳細を含むファイルを生成する場合、エクスポート ファイルは次の形式にする必要があります。

**注意**

エクスポート ユーティリティで生成したファイルは、編集しないことをお勧めします。Logout time や Login time などのフィールドはシステムが動的に生成するため、一切編集しないでください。Login User ID フィールドと Product Specific XML フィールドは、適切に動作するには正確である必要があるため、編集しないでください。製品固有の設定を更新するには、BAT を使用します。

Device Name,Description,Device Pool,Phone Template,CSS,AAR CSS,Location,Extension  
Mobility,Network Locale,Media Resource Group List,User Hold Audio Source,Network Hold Audio  
Source,Device User Locale,Signal Packet Capture Mode,Packet Capture Duration,Built in  
Bridge,Privacy,Retry Video Call as Audio,Ignore Presentation Indicators,Softkey Template,Module  
1,Module 2,Phone Load Name,Module 1 Load Name,Module 2 Load  
Name,Information,Directory,Messages,Services,Authentication Server,Proxy Server,Idle,Idle  
Timer,MLPP Indication,MLPP Preemption,MLPP Domain,Device Type,User ID,Common  
Profile,Owner User ID,Allow CTI Control Flag,Device Presence Group,Security Profile,Device  
Subscribe CSS,Unattended Port,Require DTMF Reception,RFC2833 Disabled,Certificate  
Operation,Authentication String,Certification Operation Completion Time,Device Protocol,Secure Shell  
User,Secure Shell Password,XML,Dial Rules,CSS Reroute,CSS Refer,DTMF Signalling,Default DTMF  
Capability,SIP Profile,SIPCodec\_MTPPreferredOrigCodec,Logout Profile,MTP Required,Digest  
User,Always Use Prime Line,Always Use Prime Line for Voice Messages,Geo Location

Directory Number,Partition,Voice Mail Profile,Line CSS,AAR Group,Line User Hold Audio  
Source,Line Network Hold Audio Source ,Auto Answer,Forward All Voice Mail,Forward All  
Destination,Forward All CSS,Forward Busy Internal Voice Mail,Forward Busy Internal  
Destination,Forward Busy Internal CSS,Forward Busy External Voice Mail,Forward Busy External  
Destination,Forward Busy External CSS,Forward No Answer Internal Voice Mail,Forward No Answer  
Internal Destination,Forward No Answer Internal CSS,Forward No Answer External Voice Mail,Forward  
No Answer External Destination,Forward No Answer External CSS,Forward No Coverage Internal Voice  
Mail,Forward No Coverage Internal Destination,Forward No Coverage Internal CSS,Forward No  
Coverage External Voice Mail,Forward No Coverage External Destination,Forward No Coverage  
External CSS,Forward No Answer Ring Duration,Call Pickup Group,MLPP Target,MLPP CSS,MLPP  
No Answer Ring Duration,Line Text Label,External Phone Number Mask,Maximum Number of  
Calls,Busy Trigger,Message Waiting Lamp Policy,Ring setting (Phone Idle),Ring Setting (Phone  
Active),Caller Name,Caller Number,Redirected Number,Dialed Number,Line Description,Alerting  
Name,Alerting Name ASCII,Line Presence Group,Secondary CSS for Forward All,Forward on CTI

Failure Voice Mail,Forward on CTI Failure Destination,Forward on CTI Failure CSS,Display,ASCII  
 DisplayParty Entrance Tone,Log Missed Calls,Park Monitor Forward No Retrieve Ext Voice Mail,Park  
 Monitor Forward No Retrieve Int Voice Mail,Park Monitor Forward No Retrieve Ext CSS,Park Monitor  
 Forward No Retrieve Int CSS,Park Monitor Forward No Retrieve Ext Destination,Park Monitor Forward  
 No Retrieve Int Destination,Park Monitor Reversion Timer

Speed Dial Number,Speed Dial Label,Speed Dial Label ASCII,Service Name,Subscribed Service  
 Name,Subscribed Service Name ASCII,Parameter Name,Parameter Value,Busy Lamp Field  
 Destination,Busy Lamp Field Directory Number,Busy Lamp Field Label,Busy Lamp Field Label ASCII

### 追加情報

「IME 信頼グループ設定用のテキストベース CSV ファイルの作成」(P.A-30) を参照してください。

## 電話機 CSV ファイルの例

次のリストは、一般的に使用される電話機 CSV データ ファイルの例です。

### テンプレートアトリビュート : Forward Busy Destination の使用

電話機テンプレートで Forward Busy Destination が 3001 の場合、CSV ファイル内で Forward Busy Destination に値の指定がないすべてのレコードは、3001 を使用します。

```
1231123245AB,SEP1231123245AB,Dallas,johns,9728437154,9728437154,Mike,,9728437196,9728437127,9728437154,9728437178,9728437189,9728437121/TollByPass,1230000000,Helpdesk
```

### 電話機の説明を入力しない

電話機の説明がブランクである場合は、次の形式で指定します。

```
1231123245AB,,Dallas,johns,9728437154,9728437154,Mike,9728437172,9728437196,9728437127,9728437154,9728437178,9728437189,9728437121/TollByPass,1230000000,Helpdesk
```

### アクティブな回線またはロケーションを入力しない

アクティブな回線が不要で、ロケーションもブランクの場合は、次の形式で指定します。

```
1231123245AB,SEP1231123245AB,,,1230000000,HelpDesk
```

### 2 回線のアクティブ回線

アクティブな回線が 2 回線必要な場合は、次の形式で指定します。

```
1231123245AB,SEP1231123245AB,Dallas,johns,9725557154,9725557154,Mike,9725557172,9725557196,9728437127,9728437154,9728437178,9728437189,9725557121/TollByPass,9725557155,9725557155,Kelvin,9725557133,9725557196,9728437112,9728437145,9728437187,9728437198,9725557112/TollByPass,1230000000,Helpdesk
```



(注)

MAC Address については、MAC アドレス値を入力するか、ダミー MAC アドレスの作成オプションのチェックボックスをオンにしてください。

### 必須の電話機エントリ

単一の回線が必要であるときに、必須値だけを組み込み、オプション値をまったく組み込まない場合は、次の形式で指定します。

```
1231123245AB,,,,,9725557154,,,,,
```

### ダミー MAC アドレス オプションの使用

ダミー MAC アドレスのオプションがオンになっている場合、1 回線を使用するには、次の形式で指定します。

```
,Dallas,9725557154,9725557154,Mike,9725557172,9725557196,9728437127,9728437154,9728437178,9728437189,9725557121/TollByPass,johns,1230000000,Helpdesk
```

### 追加情報

「IME 信頼グループ設定用のテキストベース CSV ファイルの作成」(P.A-30) を参照してください。

## ユーザ用のテキストベース CSV ファイルの作成

ユーザを追加するときに、データ入力に BAT スプレッドシートを使用する代わりに、値をカンマで区切った ASCII テキスト行を使用して Comma-Separated Values (CSV; カンマ区切り値) ファイルを作成できます。

ユーザ用の CSV テキスト ファイルを作成する手順は、次のとおりです。

### 手順

**ステップ 1** テキスト エディタ (Microsoft メモ帳など)、または CSV ファイルのエクスポートや作成が可能なアプリケーションを開きます。

**ステップ 2** Cisco Unified Communications Manager に追加するユーザごとに、行を変えて値を入力します。テキストベースの CSV ファイルで使用する必要がある形式の詳細については、「[ユーザのファイル形式](#)」(P.A-8) を参照してください。

すべてのデバイスのデバイス名をカンマで区切って、レコードの終わりに入力すると、任意の数の既存デバイスを新しいユーザに関連付けることができます。

デバイスを制御しないユーザに対しても、電話番号を関連付けることができます。



(注) CSV ファイル内にブランク行があると、エラーが発生します。

**ステップ 3** ファイルを Cisco Unified Communications Manager の最初のノードにアップロードします。詳細については、「[ファイルのダウンロード](#)」(P.2-2) を参照してください。

CSV ファイルを保存するときに、「UTF-8」符号化ファイルとして保存します。メモ帳では、[文字コード] ドロップダウンで「UTF-8」の符号化を選択できます。



(注) UTF-8 形式で符号化したテキストベースの CSV ファイルのみをアップロードすることをお勧めします。この形式では、ASCII 文字以外の文字も保存できるためです。UTF-8 以外の形式で保存されたテキストベースの CSV ファイルは、Cisco Unified Communications Manager からダウンロードするときに文字化けすることがあります。

### 関連項目

「IME 信頼グループ設定用のテキストベース CSV ファイルの作成」(P.A-30) を参照してください。

# ユーザのファイル形式



## ヒント

PIN と Password の値は、CSV ファイル上に指定するか、BAT を使用してファイルを挿入するときに指定する必要があります。ユーザまたはユーザのグループごとに個別の PIN またはパスワードを適用する場合は、CSV ファイルに PIN とパスワードを指定してください。すべてのユーザが使用できるデフォルトの PIN とパスワードを使用する場合は、CSV ファイルに PIN またはパスワードの値を指定するのではなく、BAT を使用して CSV ファイルを Cisco Unified Communications Manager に挿入するときに指定してください。

次のサンプル形式と例に、ユーザ用のテキストベース CSV ファイルのフィールド、フィールド長、およびフィールドがオプションか必須かを示します。

**First Name** (オプション、64 文字以内)、**Last Name** (必須、1 ~ 64 文字)、**User ID** (必須、128 文字以内)、**Manager User ID** (オプション、128 文字以内、グローバル ディレクトリ内の既存 ID を使用する必要あり)、**Department** (オプション、64 文字以内)、**PIN** (オプション、128 桁以内の数字)、**Default Profile** (オプション、50 文字以内)、**User Locale** (オプション、50 文字以内)、**Telephone Number** (オプション、64 桁以内の数字)、**Primary Extension** (オプション、50 桁以内の数字)、**Associated PC** (オプション、50 文字以内)、**ICD Extension** (オプション、50 桁以内の数字)、**Mail ID** (オプション、255 文字以内)、**Presence Group** (オプション、50 文字以内)、**Subscribe Calling Search Space** (オプション、50 文字以内)

## 例

```
John,Smith,johns,abc123de,karend,0012055,9989,johns profile,English
United States,SEP1231123245AB,9725557154,SEP0010EB001234
```

フィールドが空白であっても、区切り文字を指定する必要があります。CSV ファイルの作成時には、次の例とサンプル CSV レコードを参照してください。

## 例 1

ユーザのマネージャが空白である場合は、次の形式で指定します。

```
John,Smith,johns,abc123de,,0012055,9989,johns profile,English United
States,SEP1231123245AB,9725557154,SEP0010EB001234
```

## 例 2

必須フィールドだけを指定する場合は、次の形式で指定します。

```
Smith,johns,,,,,,,,
```

## 例 3

必須フィールドだけを指定して、ユーザを電話機に関連付ける場合は、次の形式で指定します。

```
Smith,johns,,,,,,,,,SEP1231123245AB,
```

**例 4**

ユーザは、複数のデバイスを制御できます。追加デバイスのデバイス名を、レコードの終わりに追加できます。

- ユーザが 1 台のデバイスだけを制御する場合は、次の形式で指定します。

```
John,Smith,johns,abc123de,karend,0012055,9989,johns profile,English
United States,SEP1231123245AB,9725557154
```

- ユーザが 3 台のデバイスを制御する場合は、次の形式で指定します。

```
John,Smith,johns,abc123de,karend,0012055,9989,johns profile,English
UnitedStates,SEP1231123245AB,9725557154,SEP0010EB001234,SEP0010EB432101
```

## ユーザのファイル形式の更新

ユーザ更新用の CSV テキスト ファイルを作成するには、テキスト エディタを使用します。ファイルを最初のノード サーバにアップロードします。詳細については、「[ファイルのアップロード](#)」(P.2-3) を参照してください。

レコードを更新する場合は、ファイルのすべての必須フィールドを指定する必要があります。すでに値を格納しているにもかかわらず、オプション フィールドをブランクにしてレコードを更新すると、その値はブランクにリセットされます。すでに格納されている値を保持する方法については、「[格納されている値の保持](#)」(P.18-2) を参照してください。

次のサンプル形式に、ユーザ更新用のフィールド長と文字列タイプを示し、その後に CSV ファイルの例を示します。

**User ID** (必須、1 ~ 128 文字)、**Password** (オプション、128 文字以内)、**Manager** (オプション、128 文字以内、グローバル ディレクトリ内の既存 ID を使用する必要あり)、**Department** (オプション、64 文字以内)、**PIN** (オプション、128 桁以内の数字)、**Default Profile** (オプション、50 文字以内)、**User Locale** (オプション、50 文字以内)、**Telephone Number** (オプション、64 桁以内の数字)、**Primary Extension** (オプション、50 桁以内の数字)、**Associated PC** (オプション、50 文字以内)、**ICD Extension** (オプション、50 桁以内の数字)、**Mail ID** (オプション、255 文字以内)

**例**

```
johns,Daviss,123,johnProfile,English United States,SEP8612113425AC,9725557154
```

**(注)**

フィールドがブランクであっても、区切り文字を指定する必要があります。CSV ファイルの作成時には、次の例とサンプル CSV レコードを参照してください。

**例 1**

ユーザのマネージャがブランクである場合は、次の形式で指定します。

```
johns,,123,johnProfile,English United States,SEP8612113425AC,9725557154
```

**例 3**

必須フィールドには次のフィールドを含めます。

```
John,Daviss,123,johnProfile,,,
```

**追加情報**

「IME 信頼グループ設定用のテキストベース CSV ファイルの作成」(P.A-30) を参照してください。

## ユーザ デバイス プロファイル用のテキストベース CSV ファイルの作成

ユーザ デバイス プロファイルを追加するときに、データ入力に BAT スプレッドシートを使用する代わりに、値をカンマで区切った ASCII テキスト行を使用して Comma-Separated Values (CSV; カンマ区切り値) ファイルを作成できます。



(注) いずれかのフィールドの中で、カンマまたは二重引用符を文字列として使用する場合は、テキスト全体を二重引用符で囲む必要があります。

ユーザ デバイス プロファイル用の CSV テキスト ファイルを作成する手順は、次のとおりです。

**手順**

- ステップ 1** CSV ファイルを作成するために、Microsoft メモ帳を開きます。
- ステップ 2** Cisco Unified Communications Manager に追加するユーザ デバイス プロファイルの値を、プロファイルごとに行を変えて入力します。テキストベースの CSV ファイルで使用する必要がある形式の詳細については、「ユーザ デバイス プロファイルのファイル形式」(P.A-11) を参照してください。



(注) CSV ファイル内にブランク行があると、エラーが発生します。

- ステップ 3** CSV ファイルを Cisco Unified Communications Manager の最初のノード サーバにアップロードします。CSV ファイルを保存するときに、「UTF-8」符号化ファイルとして保存します。メモ帳では、[文字コード] ドロップダウンで「UTF-8」の符号化を選択できます。



(注) UTF-8 形式で符号化したテキストベースの CSV ファイルのみをアップロードすることをお勧めします。この形式では、ASCII 文字以外の文字も保存できるためです。UTF-8 以外の形式で保存されたテキストベースの CSV ファイルは、Cisco Unified Communications Manager からダウンロードするときに文字化けすることがあります。

**追加情報**

「IME 信頼グループ設定用のテキストベース CSV ファイルの作成」(P.A-30) を参照してください。

## ユーザ デバイス プロファイルのファイル形式

次のサンプル形式に、ユーザ デバイス プロファイル用のフィールド長と文字列タイプを示し、その後に CSV ファイルの例を示します。

**Device Profile Name** (必須、1 ~ 50 文字)、**Description** (オプション、1 ~ 50 文字)、**Login UserID** (オプション、4 ~ 30 文字)、**Directory Number** (オプション、24 桁以内の数字または特殊文字)、**Display** (オプション、内部発信者 ID の場合は 30 文字以内)、**Line Text Label** (オプション、30 文字以内)、**Forward Busy External Destination** (オプション、50 桁以内の数字)、**Forward No Answer External Destination** (オプション、50 桁以内の数字)、**Forward No Coverage External** (オプション、50 桁以内の数字)、**Forward Busy Internal Destination** (オプション、50 桁以内の数字)、**Forward No Answer Internal Destination** (オプション、50 桁以内の数字)、**Forward No Coverage Internal** (オプション、50 桁以内の数字)、**Call Pickup Group** (オプション、50/50 文字以内)、**Speed Dial Number** (オプション、50 桁以内の数字)、**Speed Dial Label** (オプション、30 文字以内)

### 例

```
John Profile,John's
Profile,Johns,9725557154,9725557154,Mike,9725557172,9725557196,9725557126,9725557154,97255
57178,9725557189,9725557121/TollByPass,1230000000,Helpdesk
```

### 例 1

フィールドがブランクであっても、区切り文字を指定する必要があります。次の例は、**Display** の設定値を指定しない場合の正しい形式を示しています。

```
John Profile,John's
Profile,Johns,9725557154,,Mike,9725557172,9725557196,9725557126,9725557154,9725557178,9725
557189,9725557121/TollByPass,1230000000,Helpdesk
```

### 例 2

プロファイルに回線を設定せず、必須フィールドだけを追加する場合は、次の例のように指定します。

```
John Profile,,,,,
```

### 例 3

必須フィールドだけを入力し、ユーザ デバイス プロファイルを電話番号 1 つだけに関連付ける場合は、次のようになります。

```
John Profile,,,9725557154,,,,,
```

## 2つの回線と2つのスピードダイヤルを持つユーザ デバイス プロファイル

次のサンプル形式に、2つの回線を持つユーザ デバイス プロファイル用の CSV ファイルのフィールド長と文字列タイプを示します。

**User Device Profile Name** (必須、1 ~ 50 文字)、**Description** (オプション、1 ~ 50 文字)、**Login UserID** (オプション、4 ~ 30 文字)、**Directory Number1** (オプション、24 桁以内の数字または特殊文字)、**Display1** (オプション、内部発信者 ID の場合は 30 文字以内)、**Line Text Label1** (オプション、30 文字以内)、**Forward Busy External Destination1** (オプション、50 桁以内の数字)、**Forward No Answer External Destination1** (オプション、50 桁以内の数字)、**Forward No Coverage External Destination1** (オプション、50 桁以内の数字)、**Forward Busy Internal Destination1** (オプション、50 桁以内の数字)、**Forward No Answer Internal Destination1** (オプション、50 桁以内の数字)

数字)、**Forward No Coverage Internal Destination1** (オプション、50 桁以内の数字)、**Call Pickup Group1** (オプション、50/50 文字以内)、**Directory Number2** (オプション、24 桁以内の数字または特殊文字)、**Display2** (オプション、内部発信者 ID の場合は 30 文字以内)、**Line Text Label2** (オプション、30 文字以内)、**Forward Busy External Destination2** (オプション、50 桁以内の数字)、**Forward No Answer External Destination2** (オプション、50 桁以内の数字)、**Forward No Coverage External Destination2** (オプション、50 桁以内の数字)、**Forward Busy Internal Destination2** (オプション、50 桁以内の数字)、**Forward No Answer Internal Destination2** (オプション、50 桁以内の数字)、**Forward No Coverage Internal Destination2** (オプション、50 桁以内の数字)、**Call Pickup Group2** (オプション、50/50 文字以内)、**Speed Dial Number1** (オプション、50 桁以内の数字)、**Speed Dial Label1** (オプション、30 文字以内)、**Speed Dial Number2** (オプション、50 桁以内の数字)、**Speed Dial Label2** (オプション、30 文字以内)

### 例

```
John Profile,John's
Profile,John's,9725557154,9725557154,Mike,9725557172,9725557196,9725557126,9725557154,9725
557178,9725557189,9725557121/TollByPass,9725557155,9725557155,Kelvin,9725557133,9725557196
,9725557113,9725557145,9725557187,9725557198,9725557112/TollByPass,1230000000,Helpdesk,214
9523460,Keith
```

## すべての詳細オプションを使用するユーザ デバイス プロファイルのエクスポート ファイルのフィールド

エクスポートユーティリティを使用してユーザ デバイス プロファイルのすべての詳細を含むファイルを作成する場合、エクスポート ファイルは次の形式になります。次の例で、すべての詳細エクスポート ファイル内のフィールドの長さおよびタイプを示します。

エクスポートユーティリティは、ユーザ デバイス プロファイルのモデル固有フィールドは生成しません。



### 注意

エクスポートユーティリティで生成したファイルは、編集しないことをお勧めします。Logout time や Login time などの一部のフィールドはシステムが動的に生成するため、一切編集しないでください。Login User ID フィールドと Product Specific XML フィールドは、適切に動作するには正確である必要があるため、編集しないでください。製品固有の設定を更新するには、BAT を使用します。

Device Profile Name,Description,Device Pool,Phone Template,CSS,AAR CSS,Location,Extension Mobility,Network Locale,Media Resource Group List,User Hold Audio Source,Network Hold Audio Source,Device User Locale,Signal Packet Capture Mode,Packet Capture Duration,Built in Bridge,Privacy,Retry Video Call as Audio,Ignore Presentation Indicators,Softkey Template,Module 1,Module 2,Phone Load Name,Module 1 Load Name,Module 2 Load Name,Information,Directory,Messages,Services,Authentication Server,Proxy Server,Idle,Idle Timer,MLPP Indication,MLPP Preemption,MLPP Domain,Device Type,User ID,Common Profile,Owner User ID,Allow CTI Control Flag,Device Presence Group,Security Profile,Device Subscribe CSS,Unattended Port,Require DTMF Reception,RFC2833 Disabled,Certificate Operation,Authentication String,Certification Operation Completion Time,Device Protocol,Secure Shell User,Secure Shell Password,XML,Dial Rules,CSS Reroute,CSS Refer,DTMF Signalling,Default DTMF Capability,SIP Profile,SIPCodec\_MTPPreferredOrigCodec,Logout Profile,MTP Required,Digest User,Always Use Prime Line,Always Use Prime Line for Voice Message

Directory Number,Partition,Voice Mail Profile,Line CSS,AAR Group,Line User Hold Audio Source,Line Network Hold Audio Source ,Auto Answer,Forward All Voice Mail,Forward All Destination,Forward All CSS,Forward Busy Internal Voice Mail,Forward Busy Internal Destination,Forward Busy Internal CSS,Forward Busy External Voice Mail,Forward Busy External Destination,Forward Busy External CSS,Forward No Answer Internal Voice Mail,Forward No Answer Internal Destination,Forward No Answer Internal CSS,Forward No Answer External Voice Mail,Forward No Answer External Destination,Forward No Answer External CSS,Forward No Coverage Internal Voice Mail,Forward No Coverage Internal Destination,Forward No Coverage Internal CSS,Forward No Coverage External Voice Mail,Forward No Coverage External Destination,Forward No Coverage External CSS,Forward No Answer Ring Duration,Call Pickup Group,MLPP Target,MLPP CSS,MLPP No Answer Ring Duration,Line Text Label,External Phone Number Mask,Maximum Number of Calls,Busy Trigger,Message Waiting Lamp Policy,Ring setting (Phone Idle),Ring Setting (Phone Active),Caller Name,Caller Number,Redirected Number,Dialed Number,Line Description,Alerting Name,Alerting Name ASCII,Line Presence Group,Secondary CSS for Forward All,Forward on CTI Failure Voice Mail,Forward on CTI Failure Destination,Forward on CTI Failure CSS,Display,ASCII Display,Party Entrance Tone,Log Missed Calls,Park Monitor Forward No Retrieve Ext Voice Mail,Park Monitor Forward No Retrieve Int Voice Mail,Park Monitor Forward No Retrieve Ext CSS,Park Monitor Forward No Retrieve Int CSS,Park Monitor Forward No Retrieve Ext Destination,Park Monitor Forward No Retrieve Int Destination,Park Monitor Reversion Timer

Speed Dial Number,Speed Dial Label,Speed Dial Label ASCII,Service Name,Subscribed Service Name,Subscribed Service Name ASCII,Parameter Name,Parameter Value,Busy Lamp Field Destination,Busy Lamp Field Directory Number,Busy Lamp Field Label,Busy Lamp Field Label ASCII



(注) ブール値の設定には、True と False を使用します。

#### 追加情報

「IME 信頼グループ設定用のテキストベース CSV ファイルの作成」(P.A-30) を参照してください。

## Cisco Unified CM Assistant マネージャとアシスタントのアソシエーション用のテキストベース CSV ファイルの作成

Unified CM Assistant マネージャとアシスタントを追加するときに、データ入力に BAT スプレッドシートを使用する代わりに、値をカンマで区切った ASCII テキスト行を使用して Comma-Separated Values (CSV; カンマ区切り値) ファイルを作成できます。

Unified CM Assistant マネージャとアシスタント用の CSV テキスト ファイルを作成する手順は、次のとおりです。

#### 手順

- ステップ 1** テキスト エディタ (メモ帳など)、または CSV ファイルのエクスポートや作成が可能なアプリケーションを開きます。
- ステップ 2** Cisco Unified Communications Manager に追加するマネージャとアシスタントのアソシエーションの値を、アソシエーションごとに行を変えて入力します。テキストベースの CSV ファイルで使用する必要がある形式の詳細については、「マネージャおよびアシスタントのファイル形式」(P.A-14) を参照してください。



(注) CSV ファイル内にブランク行があると、エラーが発生します。

マネージャとアシスタントのユーザ ID をカンマで区切ってレコードの末尾に入力すると、1 人のマネージャに複数のアシスタントを割り当てることができます。

**ステップ 3** ファイルを Cisco Unified Communications Manager の最初のノード データベースを実行しているサーバにアップロードします。詳細については、「[ファイルのアップロード](#)」(P.2-3) を参照してください。

CSV ファイルを保存するときに、「UTF-8」符号化ファイルとして保存します。メモ帳では、[ 文字コード ] ドロップダウンで「UTF-8」の符号化を選択できます。



(注) UTF-8 形式で符号化したテキストベースの CSV ファイルのみをアップロードすることをお勧めします。この形式では、ASCII 文字以外の文字も保存できるためです。UTF-8 以外の形式で保存されたテキストベースの CSV ファイルは、Cisco Unified Communications Manager からダウンロードするときに文字化けすることがあります。

#### 追加情報

「[IME 信頼グループ設定用のテキストベース CSV ファイルの作成](#)」(P.A-30) を参照してください。

## マネージャおよびアシスタントのファイル形式

次のサンプル形式と例に、Unified Communications Manager Assistant のマネージャとアシスタントのアソシエーション用のフィールド長と文字列タイプを示します。Manager ID にはマネージャのユーザ ID を、Assistant ID にはアシスタントのユーザ ID を指定します。Assistant ID を最初にセットしてその後 Manager ID のリストを続けると、1 人のアシスタントに複数のマネージャを関連付けることもできます。CSV ファイルを挿入するときに、アソシエーションのタイプを選択します。

## デフォルトのマネージャとアシスタントのアソシエーション

マネージャとアシスタントのアソシエーションには、次のデフォルト形式を使用します。

**ManagerID** (必須、1 ~ 30 文字)、**AssistantID 1** (必須、1 ~ 30 文字)、**AssistantID 2** (オプション、1 ~ 30 文字) **...AssistantID #** (オプション、1 ~ 30 文字)

#### 例

Johns, Mikeh, Larryh

## デフォルトのアシスタントとマネージャのアソシエーション

アシスタントとマネージャのアソシエーションには、次のデフォルト形式を使用します。

**AssistantID** (必須、1 ~ 30 文字)、**ManagerID 1** (必須、1 ~ 30 文字)、**ManagerID 2** (オプション、1 ~ 30 文字) ...**ManagerID #** (オプション、1 ~ 30 文字)

### 例

Larryh,Johns, Mikeb, Karend

## カスタムのマネージャとアシスタントのアソシエーション

プロキシ回線設定の場合、アシスタント電話機にプロキシ回線を指定する CSV データファイルを次の形式で作成できます。

**ManagerID** (必須、1 ~ 30 文字)、**Device Name** (オプション、15 文字)、**Intercom DN** (オプション、1 ~ 24 文字)、**Assistant User ID** (必須、1 ~ 30 文字)、**Device Name** (オプション、15 文字)、**Intercom DN** (オプション、1 ~ 24 文字)、**Proxy Line DN** (必須、1 ~ 24 文字)、**Manager Line DN** (必須、1 ~ 24 文字)

### 例

Johns, SEP1231123245AB, 90001, Mikeh, SEP2342342342AB, 20001, 20002, 90002

### 追加情報

「IME 信頼グループ設定用のテキストベース CSV ファイルの作成」(P.A-30) を参照してください。

## Cisco VG200 ゲートウェイ用のテキストベース CSV ファイルの作成

Cisco VG200 ゲートウェイを追加するときに、データ入力に BAT スプレッドシートを使用する代わりに、値をカンマで区切った ASCII テキスト行を使用して Comma-Separated Values (CSV; カンマ区切り値) ファイルを作成できます。

VG200 ゲートウェイ用の CSV テキスト ファイルを作成する手順は、次のとおりです。

### 手順

- ステップ 1** テキスト エディタ (メモ帳など)、または CSV ファイルのエクスポートや作成が可能なアプリケーションを開きます。
- ステップ 2** Cisco Unified Communications Manager に追加する各ゲートウェイとポートの値を、ゲートウェイごとに行を変えて入力します。  
説明および例については、「FXO トランクまたは FXS トランクの CSV ファイル形式」(P.A-16) と「T1 CAS トランク、T1 PRI トランク、または E1 PRI トランクのファイル形式」(P.A-17) を参照してください。



(注) CSV ファイル内にブランク行があると、エラーが発生します。

**ステップ 3** ファイルを Cisco Unified Communications Manager の最初のノード データベースを実行しているサーバにアップロードします。詳細については、「[ファイルのアップロード](#)」(P.2-3) を参照してください。

CSV ファイルを保存するときに、「UTF-8」符号化ファイルとして保存します。メモ帳では、[文字コード] ドロップダウンで「UTF-8」の符号化を選択できます。



**(注)** UTF-8 形式で符号化したテキストベースの CSV ファイルのみをアップロードすることをお勧めします。この形式では、ASCII 文字以外の文字も保存できるためです。UTF-8 以外の形式で保存されたテキストベースの CSV ファイルは、Cisco Unified Communications Manager からダウンロードするときに文字化けすることがあります。

#### 追加情報

「[IME 信頼グループ設定用のテキストベース CSV ファイルの作成](#)」(P.A-30) を参照してください。

## FXO トランクまたは FXS トランクの CSV ファイル形式

次のサンプル形式に、Cisco VG200 ゲートウェイ用の必要なフィールド長と文字列タイプを示し、その後 CSV ファイルの例を示します。

**MGCP Domain Name** (必須、1 ~ 64 文字)、**Description** (オプション、100 文字以内)、**Slot** (必須、3 桁以内の数字)、**Subunit** (必須、3 桁以内の数字)、**Port Number** (必須、3 桁以内の数字)、**Port Description** (オプション、50 文字以内)、**Port Directory Number** (オプション、24 桁以内の数字または特殊文字)

#### 例

```
MGCPTest, VG200 Lab Gateway, 0, 1, 0, Port 0, 97255576601
MGCPTest, VG200 Lab Gateway, 0, 1, 1, Port 1, 97255572001
```



**(注)** フィールドが空白であっても、カンマ区切り文字を指定する必要があります。電話番号とルートパーティションは、Cisco VG200 Gateway テンプレート内のポートタイプが POTS の場合にだけ指定してください。

#### 例 1

Cisco VG200 ゲートウェイの **Description** が空白の場合は、次の形式で指定します。

```
MGCPTest, , 0, 1, 0, Port 0, 97255576601
```

#### 追加情報

「[関連項目](#)」(P.A-36) を参照してください。

# T1 CAS トランク、T1 PRI トランク、または E1 PRI トランクのファイル形式

次のサンプル形式に、Cisco VG200 ゲートウェイ用の必要なフィールド長と文字列タイプを示し、その後に CSV ファイルの例を示します。

## T1 CAS トランク

**MGCP Domain Name** (必須、1 ~ 64 文字)、**Description** (オプション、100 文字以内)、**Slot** (必須、3 桁以内の数字)、**Subunit** (必須、3 桁以内の数字)、**Port Number** (必須、3 桁以内の数字)、**Port Description** (オプション、50 文字以内)、**CAS Port Number** (オプション、3 桁以内の数字)

### 例 1

```
MGCPTest, VG200 Lab Gateway, 001, 001, 001, , ,
```

## T1 PRI または E1 PRI

**MGCP Domain Name** (必須、1 ~ 64 文字)、**Description** (オプション、100 文字以内)、**Slot** (必須、3 桁以内の数字)、**Subunit** (必須、3 桁以内の数字)、**Port Number** (必須、3 桁以内の数字)、**Port Description** (オプション、50 文字以内)

### 例 2

```
MGCPTest, VG200 Lab Gateway, 001, 001, 001, , ,
```



(注)

フィールドが空白であっても、カンマ区切り文字を指定する必要があります。

## 両トランク オプションの例

必須値だけを指定する場合は、次の形式で指定します。

```
MGCPTest, , 001, 001, 001, , ,
```

## T1 CAS の例

Cisco VG200 ゲートウェイの **Description** が空白の場合は、次の形式で指定します。

```
MGCPTest, , 001001, 001, 001, MGCP Port,
```

ポート識別子の場合、最初の数字は 0 または 1 (Sub-Unit 0 か Sub-Unit 1 のいずれかを示す) とし、その後にはポート番号 01 ~ 24 を続けます。許容値は 001 ~ 024 または 101 ~ 124 です。Cisco VG200 Gateway テンプレートに 3 つのポート識別子がある場合は、このオプションを使用します。

```
MGCPTest, VG200 Lab Gateway, 001, 002, 003
```

## 追加情報

「関連項目」(P.A-36) を参照してください。

# Cisco VG224 ゲートウェイ用のテキストベース CSV ファイルの作成

Cisco VG224 ゲートウェイを追加するときに、データ入力に BAT スプレッドシートを使用する代わりに、値をカンマで区切った ASCII テキスト行を使用して Comma-Separated Values (CSV; カンマ区切り値) ファイルを作成できます。

VG224 ゲートウェイ用の CSV テキスト ファイルを作成する手順は、次のとおりです。

## 手順

- ステップ 1** テキスト エディタ (メモ帳など)、または CSV ファイルのエクスポートや作成が可能なアプリケーションを開きます。
- ステップ 2** Cisco Unified Communications Manager に追加する各ゲートウェイとポートの値を、ゲートウェイごとに行を変えて入力します。
- 説明および例については、「[VG224 用の FXS トランク CSV ファイル形式](#)」(P.A-18) を参照してください。



(注) CSV ファイル内にブランク行があると、エラーが発生します。ファイルを Cisco Unified Communications Manager の最初のノード データベースを実行しているサーバにアップロードします。詳細については、「[ファイルのアップロード](#)」(P.2-3) を参照してください。

CSV ファイルを保存するときに、「UTF-8」符号化ファイルとして保存します。メモ帳では、[ 文字コード ] ドロップダウンで「UTF-8」の符号化を選択できます。



(注) UTF-8 形式で符号化したテキストベースの CSV ファイルのみをアップロードすることをお勧めします。この形式では、ASCII 文字以外の文字も保存できるためです。UTF-8 以外の形式で保存されたテキストベースの CSV ファイルは、Cisco Unified Communications Manager からダウンロードするときに文字化けすることがあります。

## VG224 用の FXS トランク CSV ファイル形式

次のサンプル形式に、Cisco VG224 ゲートウェイ用の必要なフィールド長と文字列タイプを示し、その後 CSV ファイルの例を示します。

**MGCP Domain Name** (必須、1 ~ 64 文字)、**Description** (オプション、100 文字以内)、**Slot** (必須、3 桁以内の数字)、**Subunit** (必須、3 桁以内の数字)、**Port Number** (必須、3 桁以内の数字)、**Port Description** (オプション、50 文字以内)、**Port Directory Number** (オプション、24 桁以内の数字または特殊文字)

### 例

```
MGCPTest,VG224 Lab Gateway,2,0,0,Port 0,97255576601
MGCPTest,VG224 Lab Gateway,2,0,1,Port 1,97255572001
```



(注) フィールドが空白であっても、カンマ区切り文字を指定する必要があります。電話番号とルートパーティションは、Cisco VG224 Gateway テンプレート内のポートタイプが POTS の場合にだけ指定してください。

#### 例 1

Cisco VG224 ゲートウェイの Description が空白の場合は、次の形式で指定します。

```
MGCPTest, ,2,0,0,Port 0,97255576601
```

#### 追加情報

「関連項目」(P.A-36) を参照してください。

## Cisco Catalyst 6000 FXS ポート用のテキストベース CSV ファイルの作成

Cisco Catalyst 6000 FXS ポートを追加するときに、データ入力に BAT スプレッドシートを使用する代わりに、値をカンマで区切った ASCII テキスト行を使用して Comma-Separated Values (CSV; カンマ区切り値) ファイルを作成できます。

Cisco Catalyst 6000 FXS ポート用の CSV テキスト ファイルを作成する手順は、次のとおりです。

#### 手順

- ステップ 1** テキスト エディタ (メモ帳など)、または CSV ファイルのエクスポートや作成が可能なアプリケーションを開きます。
- ステップ 2** Cisco Unified Communications Manager に追加する各ポートの値を、ポートごとに行を変えて入力します。テキストベースの CSV ファイルで使用する必要がある形式の詳細については、「[Cisco Catalyst 6000 \(FXS\) ポートのファイル形式](#)」(P.A-20) を参照してください。



(注) CSV ファイル内に空白行があると、エラーが発生します。

- ステップ 3** CSV ファイルを Cisco Unified Communications Manager の最初のノードにアップロードします。詳細については、「[ファイルのアップロード](#)」(P.2-3) を参照してください。

#### 追加情報

「関連項目」(P.A-36) を参照してください。

## Cisco Catalyst 6000 (FXS) ポートのファイル形式

CSV ファイルには、各ポートの情報がレコードとして含まれています。各レコードは、ポートの詳細を追加または更新する先のゲートウェイの MAC アドレス、およびそのゲートウェイ上のポート番号を指定します。



**(注)** BAT は、Cisco Catalyst 6000 (FXS) ゲートウェイを追加しません。既存のゲートウェイにポートを追加するか、ポートを更新するだけです。

MAC アドレスには、既存の Cisco Catalyst 6000 (FXS) ゲートウェイの MAC アドレス値を入力しないでください。この MAC アドレスは、Gateway Name の末尾の 12 文字分で構成されています。

CSV ファイル上のレコードで Partition に値を指定しない場合、これらのフィールドには BAT テンプレートからの値が使用されます。

次のサンプル形式に、Catalyst 6000 (FXS) ポート用の必要なフィールド長と文字列タイプを示し、その後に CSV ファイルの例を示します。

**MAC Address** (必須、12 文字)、**Port Number** (必須、2 桁の数字)、**Directory Number** (オプション、24 桁以内の数字または特殊文字)

### 例

```
1231123245AB,23,9725557250
```



**(注)** フィールドが空白であっても、カンマ区切り文字を指定する必要があります。電話番号も指定している場合以外は、パーティションを指定しないでください。

### 例

ポートの電話番号が空白である場合は、次の形式で指定します。

```
1231123245AB,23,
```

必須値だけを追加する場合は、次の形式で指定します。

```
1231123245AB,23,
```

### 追加情報

「[関連項目](#)」(P.A-36) を参照してください。

## Cisco VG202 および VG204 ゲートウェイ用のテキストベース CSV ファイルの作成

Cisco VG202 および VG204 ゲートウェイを追加するときに、データ入力に BAT スプレッドシートを使用する代わりに、値をカンマで区切った ASCII テキスト行を使用して Comma-Separated Values (CSV; カンマ区切り値) ファイルを作成できます。

VG202 または VG204 ゲートウェイ用の CSV テキスト ファイルを作成する手順は、次のとおりです。

## 手順

- ステップ 1** テキスト エディタ (メモ帳など)、または CSV ファイルのエクスポートや作成が可能なアプリケーションを開きます。
- ステップ 2** Cisco Unified Communications Manager に追加する各ゲートウェイとポートの値を、ゲートウェイごとに行を変えて入力します。
- 説明および例については、「[VG202 および VG204 ゲートウェイ用の CSV ファイル形式](#)」(P.A-21) を参照してください。



(注) CSV ファイル内に空白行があると、エラーが発生します。ファイルを Cisco Unified Communications Manager の最初のノードデータベースを実行しているサーバにアップロードします。詳細については、「[ファイルのアップロード](#)」(P.2-3) を参照してください。

CSV ファイルを保存するときに、「UTF-8」符号化ファイルとして保存します。メモ帳では、[文字コード] ドロップダウンで「UTF-8」の符号化を選択できます。



(注) UTF-8 形式で符号化したテキストベースの CSV ファイルのみをアップロードすることをお勧めします。この形式では、ASCII 文字以外の文字も保存できるためです。UTF-8 以外の形式で保存されたテキストベースの CSV ファイルは、Cisco Unified Communications Manager からダウンロードするときに文字化けすることがあります。

## VG202 および VG204 ゲートウェイ用の CSV ファイル形式

次のサンプル形式と例に、VG202 および VG204 ゲートウェイ用のテキストベース CSV ファイルのフィールド、フィールド長、およびフィールドがオプションか必須かを示します。

VG202 および VG204 ゲートウェイ用の CSV ファイル形式には、プロトコルに応じて次の 2 種類があります。

- 「[MGCP ゲートウェイの場合](#)」(P.A-21)
- 「[SCCP ゲートウェイの場合](#)」(P.A-21)

### MGCP ゲートウェイの場合

**Domain Name** (必須、1 ~ 64 文字)、**Description** (オプション、100 文字以内)、**Slot** (必須、3 桁以内の数字)、**Subunit** (必須、3 桁以内の数字)、**Port Number** (必須、3 桁以内の数字)、**Port Description** (オプション、50 文字以内)、**Port Directory Number** (オプション、24 桁以内の数字または特殊文字)

### 例

```
test,test,0,0,0,sample,1000
```

### SCCP ゲートウェイの場合

**Mac Address** (必須、1 ~ 64 文字)、**Description** (オプション、100 文字以内)、**Slot** (必須、3 桁以内の数字)、**Subunit** (必須、3 桁以内の数字)、**Port Number** (必須、3 桁以内の数字)、**Port Description** (オプション、50 文字以内)、**Port Directory Number** (オプション、24 桁以内の数字または特殊文字)

## 例

```
SKIGW1111111111, test, 0, 0, 0, sample, 1000
```

## クライアント識別コードと強制承認コードのテキストベースのカスタム CSV ファイルの作成

カスタムのテキストベース CSV ファイルを作成する手順は、次のとおりです。

### 手順

- ステップ 1** テキスト エディタ（メモ帳など）、または CSV ファイルのエクスポートや作成が可能なアプリケーションを開きます。
- ステップ 2** コードごとに個別の行を使用して、カスタムの Client Matter Code (CMC; クライアント識別コード) 用 CSV ファイルまたは Forced Authorized Code (FAC; 強制承認コード) 用 CSV ファイルを作成します。手順は、次のとおりです。
- CMC : [ステップ 3](#) および [ステップ 4](#)
  - FAC : [ステップ 3](#) および [ステップ 4](#)



**ヒント** 個別に 2 つの CSV ファイル (CMC 用と FAC 用の CSV ファイル) を作成する必要があることに注意してください。

- ステップ 3** CMC 用 CSV ファイルを作成するために、該当する情報を入力します。ここで、x、y は次のフィールドを表します。
- x : Client Matter Code (すべての追加、更新、および削除の必須エントリ)
  - y : Description (エントリの更新の場合はオプション)
- たとえば、5555,Acme Toys のように入力することができます。ここで、5555 は Client Matter Code (必須)、Acme Toys は Description にそれぞれ相当します。
- ステップ 4** FAC 用 CSV ファイルを作成するために、該当する情報を入力します。ここで、x、y、z は次のフィールドを表します。
- x : Forced Authorization Code (すべての追加、更新、および削除の必須エントリ)
  - y : Authorization Code Name (エントリの更新の場合はオプション)
  - z : Authorization Level (エントリの更新の場合はオプション)
- たとえば、1234,John Smith,20 のように入力することができます。ここで、1234 は Forced Authorization Code、John Smith は Authorization Code Name、20 は Authorization Level にそれぞれ相当します。



### 注意

コードの更新と同時に新規コードを追加する場合は、必要な情報をすべて入力してください。既存のレコードの任意の部分を変更できますが、認証に必要な強制承認コードやクライアント識別コードなどは必ず含める必要があります。情報を削除したりブランクにしたりしても、その情報はデータベースから削除されません。データベース内の既存の値は、ブランクの値では上書きされませんが、前述の例にある値を Acme Toys, Inc. や John L. Smith などに更新すると上書きされます。

**ステップ 5** CSV ファイルを Cisco Unified Communications Manager の最初のノードにアップロードします。詳細については、「[ファイルのアップロード](#)」(P.2-3) を参照してください。

CSV ファイルを保存するときに、「UTF-8」符号化ファイルとして保存します。メモ帳では、[文字コード] ドロップダウンで「UTF-8」の符号化を選択できます。



(注) UTF-8 形式で符号化したテキストベースの CSV ファイルのみをアップロードすることをお勧めします。この形式では、ASCII 文字以外の文字も保存できるためです。UTF-8 以外の形式で保存されたテキストベースの CSV ファイルは、Cisco Unified Communications Manager からダウンロードするときに文字化けすることがあります。

**ステップ 6** 次のタスクのいずれかを実行します。

- 追加または更新を行った場合は、「[BAT を使用した CUCM データベースの更新](#)」(P.53-6) の説明に従って、ファイルを BAT に挿入します。
- コードの設定を削除する場合は、「[コードの設定の削除](#)」(P.54-1) を参照してください。



(注) 同じ CSV ファイルに対して、挿入と更新の操作を同時に実行することはできません。挿入用と更新用に別の CSV ファイルを作成する必要があります。

#### 追加情報

「[関連項目](#)」(P.A-36) を参照してください。

## CMC 用ファイル形式

次のサンプル形式と例に、クライアント識別コード用のテキストベース CSV ファイルのフィールド、フィールド長、およびフィールドがオプションか必須かを示します。

**Client Matter Code** (必須、1 ~ 16 桁の数字)、**Description** (オプション、1 ~ 50 文字)

#### 例

```
1234567890123456,Marketing
```

#### 例

フィールドの値にカンマが含まれている場合、そのフィールドは二重引用符で囲んでください。カンマが含まれているフィールドは、次の形式で指定します。

```
1234567890123456,"Marketing, team"
```

#### 追加情報

「[関連項目](#)」(P.A-36) を参照してください。

## CMC 用ファイル形式の更新

クライアント識別コード更新用の CSV テキスト ファイルを作成するには、テキスト エディタを使用します。

次のサンプル形式はクライアント識別コード更新用のフィールド長と文字列タイプを示し、その後に CSV ファイルの例を示します。

**Client Matter Code** (必須、1 ~ 16 桁の数字)、**Description** (オプション、1 ~ 50 文字)

### 例

```
1234567890123456,Marketing
```

### 例

説明が空の場合は、次の形式で指定します。

```
1234567890123456,
```

### 追加情報

「[関連項目](#)」(P.A-36) を参照してください。

## FAC 用ファイル形式

次のサンプル形式と例に、強制承認コード用のテキストベース CSV ファイルのフィールド、フィールド長、およびフィールドがオプションか必須かを示します。

**Forced Authorization Code** (必須、1 ~ 16 桁の数字)、**Authorization Code Name** (必須、1 ~ 50 文字)、**Authorization Level** (必須、値の範囲は 0 ~ 255)

### 例

```
1234567890123456,John FAC,251
```

### 追加情報

「[関連項目](#)」(P.A-36) を参照してください。

## FAC 用ファイル形式の更新

強制承認コード更新用の CSV テキスト ファイルを作成するには、テキスト エディタを使用します。

次のサンプル形式は強制承認コード更新用のフィールド長と文字列タイプを示し、その後に CSV ファイルの例を示します。

**Forced Authorization Code** (必須、1 ~ 16 桁の数字)、**Authorization Code Name** (必須、1 ~ 50 文字)、**Authorization Level** (必須、値の範囲は 0 ~ 255)

### 例

```
1234567890123456,John FAC,251
```

**例**

更新しない値にも区切り文字を組み込む必要があります。Authorization Code Name だけを更新する必要がある場合は、次の形式で指定します。

```
1234567890123456,John FAC,
```

Authorization Level だけを更新する必要がある場合は、次の形式で指定します。

```
1234567890123456,John FAC,220
```

**追加情報**

「関連項目」(P.A-36) を参照してください。

## コール ピックアップ グループ用のテキストベース CSV ファイルの作成

カスタムのテキストベース CSV ファイルを作成する手順は、次のとおりです。

**手順**

- 
- ステップ 1** テキスト エディタ (メモ帳など)、または CSV ファイルのエクスポートや作成が可能なアプリケーションを開きます。
- コール ピックアップ グループ名ごとに個別の行を使用し、次のステップに従ってカスタム コール ピックアップ グループ CSV ファイルを作成します。
- ステップ 2** Pickup Group Name、Pickup Group Number、Partition、Other Pickup Group Name-Member1 ... Other Pickup Group Name-Member10 の値を入力します。
- たとえば、Marketing,7815,Part1,Marketing,Managers,Training のように入力します。ここで、Marketing は必須のピックアップ グループ名、7815 は必須のピックアップ グループ番号です。Part1 はパーティション、Marketing、Managers、および Training はピックアップ グループ Marketing に関連するその他のピックアップ グループ名です。

**注意**

情報を削除したりブランクにしたりしても、その情報はデータベースから削除されません。データベース内の既存の値は、ブランクの値では上書きされませんが、前述の例にある値を Sales from Marketing などに更新すると上書きされます。

- ステップ 3** CSV ファイルを Cisco Unified Communications Manager の最初のノードにアップロードします。詳細については、「ファイルのアップロード」(P.2-3) を参照してください。
- CSV ファイルを保存するときに、「UTF-8」符号化ファイルとして保存します。メモ帳では、[文字コード] ドロップダウンで「UTF-8」の符号化を選択できます。



- (注)** UTF-8 形式で符号化したテキストベースの CSV ファイルのみをアップロードすることをお勧めします。この形式では、ASCII 文字以外の文字も保存できるためです。UTF-8 以外の形式で保存されたテキストベースの CSV ファイルは、Cisco Unified Communications Manager からダウンロードするときに文字化けすることがあります。

**ステップ 4** 次のタスクのいずれかを実行します。

- 追加または更新を行った場合は、「[BAT を使用した CUCM データベースの更新](#)」(P.53-6) の説明に従って、ファイルを BAT に挿入します。
- コールピックアップグループの設定を削除する場合は、「[コードの設定の削除](#)」(P.54-1) を参照してください。

#### 追加情報

「[関連項目](#)」(P.A-36) を参照してください。

## CPG ファイル形式

次のサンプル形式と例に、コールピックアップグループ用のテキストベース CSV ファイルのフィールド、フィールド長、およびフィールドがオプションか必須かを示します。

**Pickup Group Name** (必須、1 ~ 50 文字)、**Pickup Group Number** (必須、1 ~ 24 桁の数字)、**Partition** (オプション、1 ~ 50 文字)、**Other Pickup Group Name-Member1... Other Pickup Group Name-Member10** (オプション、1 ~ 50 文字)

#### 例

```
Marketing,7815,Part1,Marketing,Managers,Training
```

#### 例

Other Pickup Group Member 以外は、この時点で指定しないオプション値にも区切り文字 (カンマ) を付ける必要があります。

Pickup Group の Partition がブランクの場合は、次の形式で指定します。

```
Marketing,7815,
```

#### 追加情報

「[関連項目](#)」(P.A-36) を参照してください。

## CPG ファイル形式の更新

コールピックアップグループ更新用の CSV テキスト ファイルを作成するには、テキスト エディタを使用します。

次のサンプル形式に、コールピックアップグループ更新用のフィールド長と文字列タイプを示し、その後に CSV ファイルの例を示します。

**Pickup Group Name** (必須、1 ~ 50 文字)、**Pickup Group Number** (必須、1 ~ 24 桁の数字)、**Partition** (オプション、1 ~ 50 文字)、**Other Pickup Group Name-Member1... Other Pickup Group Name-Member10** (オプション、1 ~ 50 文字)

#### 例

```
Marketing,,,Marketing,Managers,Training
```

**例**

Other Pickup Group Member を更新しない場合は、区切り文字（カンマ）を付けないでください。次の形式で指定します。

```
Marketing,,Managers,Marketing,Training
```

**追加情報**

「IME 信頼グループ設定用のテキストベース CSV ファイルの作成」(P.A-30) を参照してください。

## リモート接続先プロファイル用のテキストベース CSV ファイルの作成

Remote Destination Profile (RDP; リモート接続先プロファイル) を追加するときに、データ入力に BAT スプレッドシートを使用する代わりに、値をカンマで区切った ASCII テキスト行を使用して Comma-Separated Values (CSV; カンマ区切り値) ファイルを作成できます。

RDP 用の CSV テキスト ファイルを作成する手順は、次のとおりです。

**手順**

- ステップ 1** テキスト エディタ (Microsoft メモ帳など)、または CSV ファイルのエクスポートや作成が可能なアプリケーションを開きます。
- ステップ 2** Cisco Unified Communications Manager に追加する各 RDP の値を、RDP ごとに行を変えて入力します。CSV データ ファイルを作成するときには、次の規則に注意してください。
  - フィールドが空白であっても、必ず、カンマ区切り文字を入力します。
  - RDP をユーザに関連付ける場合は、ユーザ ID を指定します。
  - 回線が設定されていない BAT テンプレートで使用するために CSV ファイルを作成する場合にだけ、Directory Number フィールドをオプションと見なします。BAT RDP テンプレートで回線が設定されている場合は、RDP ごとに CSV ファイルで電話番号を指定する必要があります。
  - ブランク行のある CSV ファイルを挿入するとエラーが発生するので注意します。
- ステップ 3** CSV ファイルを Cisco Unified Communications Manager の最初のノードにアップロードします。詳細については、「ファイルのアップロード」(P.2-3) を参照してください。

CSV ファイルを保存するときに、「UTF-8」符号化ファイルとして保存します。メモ帳では、[ 文字コード ] ドロップダウンで「UTF-8」の符号化を選択できます。



- (注) UTF-8 形式で符号化したテキストベースの CSV ファイルのみをアップロードすることをお勧めします。この形式では、ASCII 文字以外の文字も保存できるためです。UTF-8 以外の形式で保存されたテキストベースの CSV ファイルは、Cisco Unified Communications Manager からダウンロードするときに文字化けすることがあります。

## 電話の移行用のテキストベース CSV ファイルの作成

電話機を移行するときに、データ入力に BAT スプレッドシートを使用する代わりに、値をカンマで区切った ASCII テキスト行を使用して Comma-Separated Values (CSV; カンマ区切り値) ファイルを作成できます。

電話の移行用の CSV テキスト ファイルを作成する手順は、次のとおりです。

### 手順

- ステップ 1** テキスト エディタ (Microsoft メモ帳など)、または CSV ファイルのエクスポートや作成が可能なアプリケーションを開きます。
- ステップ 2** 移行する各電話機の値を、電話機ごとに行を変えて入力します。CSV データ ファイルを作成するときには、次の規則に注意してください。
- フィールドがブランクであっても、必ず、カンマ区切り文字を入力します。
  - ブランク行のある CSV ファイルを挿入するとエラーが発生するので注意します。
- ステップ 3** CSV ファイルを Cisco Unified Communications Manager の最初のノードにアップロードします。詳細については、「[ファイルのアップロード](#)」(P.2-3) を参照してください。

CSV ファイルを保存するときに、「UTF-8」符号化ファイルとして保存します。メモ帳では、[ 文字コード ] ドロップダウンで「UTF-8」の符号化を選択できます。



**(注)** UTF-8 形式で符号化したテキストベースの CSV ファイルのみをアップロードすることをお勧めします。この形式では、ASCII 文字以外の文字も保存できるためです。UTF-8 以外の形式で保存されたテキストベースの CSV ファイルは、Cisco Unified Communications Manager からダウンロードするときに文字化けすることがあります。

## 電話の移行のファイル形式

次のサンプル形式と例に、電話の移行用のテキストベース CSV ファイルのフィールド、フィールド長、およびフィールドがオプションか必須かを示します。

**Old Device Name** (必須、1 ~ 50 文字)、**New Device MAC Address** (必須、12 文字) **Description** (オプション、1 ~ 50 文字)

### 例

Old Device Name,New Device MAC Address,Description

SEP123456789012,123333789012,Marketing

## IME 信頼要素設定用のテキストベース CSV ファイルの作成

IME 信頼要素設定を挿入するときに、データ入力に BAT スプレッドシートを使用する代わりに、値をカンマで区切った ASCII テキスト行を使用して Comma-Separated Values (CSV; カンマ区切り値) ファイルを作成できます。

IME 信頼要素設定用の CSV テキスト ファイルを作成する手順は、次のとおりです。

### 手順

- ステップ 1** テキスト エディタ (Microsoft メモ帳など)、または CSV ファイルのエクスポートや作成が可能なアプリケーションを開きます。
- ステップ 2** 追加する各 IME 信頼要素設定の値を、設定ごとに行を変えて入力します。CSV データ ファイルを作成するときには、次の規則に注意してください。
  - フィールドが空白であっても、必ず、カンマ区切り文字を入力します。
  - ブランク行のある CSV ファイルを挿入するとエラーが発生するので注意します。
- ステップ 3** CSV ファイルを Cisco Unified Communications Manager の最初のノードにアップロードします。詳細については、「[ファイルのアップロード](#)」(P.2-3) を参照してください。

CSV ファイルを保存するときに、「UTF-8」符号化ファイルとして保存します。メモ帳では、[ 文字コード ] ドロップダウンで「UTF-8」の符号化を選択できます。



- (注) UTF-8 形式で符号化したテキストベースの CSV ファイルのみをアップロードすることをお勧めします。この形式では、ASCII 文字以外の文字も保存できるためです。UTF-8 以外の形式で保存されたテキストベースの CSV ファイルは、Cisco Unified Communications Manager からダウンロードするときに文字化けすることがあります。

## IME 信頼要素設定のファイル形式

次のサンプル形式と例に、IME 信頼要素設定用のテキストベース CSV ファイルのフィールド、フィールド長、およびフィールドがオプションか必須かを示します。

**Name** (必須、1 ~ 50 文字)、**Description** (オプション、1 ~ 128 文字)、**Element Type** (必須、1 ~ 50 文字)、**Cisco IME Link Route Filter Group** (必須、1 ~ 50 文字)

### 例

Name, Description, Element Type, Cisco IME Link Route Filter Group

Elem1, sample\_file, Prefix, grp1

# IME 信頼グループ設定用のテキストベース CSV ファイルの作成

IME 信頼グループ設定を挿入するときに、データ入力に BAT スプレッドシートを使用する代わりに、値をカンマで区切った ASCII テキスト行を使用して Comma-Separated Values (CSV; カンマ区切り値) ファイルを作成できます。

IME 信頼グループ設定用の CSV テキスト ファイルを作成する手順は、次のとおりです。

## 手順

- ステップ 1** テキスト エディタ (Microsoft メモ帳など)、または CSV ファイルのエクスポートや作成が可能なアプリケーションを開きます。
- ステップ 2** 追加する各 IME 信頼グループ設定の値を、設定ごとに行を変えて入力します。CSV データ ファイルを作成するときには、次の規則に注意してください。
- フィールドがブランクであっても、必ず、カンマ区切り文字を入力します。
  - ブランク行のある CSV ファイルを挿入するとエラーが発生するので注意します。
- ステップ 3** CSV ファイルを Cisco Unified Communications Manager の最初のノードにアップロードします。詳細については、「[ファイルのアップロード](#)」(P.2-3) を参照してください。

CSV ファイルを保存するときに、「UTF-8」符号化ファイルとして保存します。メモ帳では、[ 文字コード ] ドロップダウンで「UTF-8」の符号化を選択できます。



(注) UTF-8 形式で符号化したテキストベースの CSV ファイルのみをアップロードすることをお勧めします。この形式では、ASCII 文字以外の文字も保存できるためです。UTF-8 以外の形式で保存されたテキストベースの CSV ファイルは、Cisco Unified Communications Manager からダウンロードするときに文字化けすることがあります。

## IME 信頼グループ設定のファイル形式

次のサンプル形式と例に、IME 信頼グループ設定用のテキストベース CSV ファイルのフィールド、フィールド長、およびフィールドがオプションか必須かを示します。

**Name** (必須、1 ~ 50 文字)、**Description** (オプション、1 ~ 128 文字)、**Element Type** (必須、1 ~ 50 文字)、**Cisco IME Link Route Filter Group** (必須、T または F)

### 例

Name, Description, Trusted

```
grp1,sample_file,t
```

# IME 登録済みグループ設定用のテキストベース CSV ファイルの作成

IME 登録済みグループ設定を挿入するときに、データ入力に BAT スプレッドシートを使用する代わりに、値をカンマで区切った ASCII テキスト行を使用して Comma-Separated Values (CSV; カンマ区切り値) ファイルを作成できます。

IME 登録済みグループ設定用の CSV テキスト ファイルを作成する手順は、次のとおりです。

## 手順

- ステップ 1** テキスト エディタ (Microsoft メモ帳など)、または CSV ファイルのエクスポートや作成が可能なアプリケーションを開きます。
- ステップ 2** 追加する各 IME 登録済みグループ設定の値を、設定ごとに行を変えて入力します。CSV データ ファイルを作成するときには、次の規則に注意してください。
  - フィールドがブランクであっても、必ず、カンマ区切り文字を入力します。
  - ブランク行のある CSV ファイルを挿入するとエラーが発生するので注意します。
- ステップ 3** CSV ファイルを Cisco Unified Communications Manager の最初のノードにアップロードします。詳細については、「[ファイルのアップロード](#)」(P.2-3) を参照してください。

CSV ファイルを保存するときに、「UTF-8」符号化ファイルとして保存します。メモ帳では、[ 文字コード ] ドロップダウンで「UTF-8」の符号化を選択できます。



- (注) UTF-8 形式で符号化したテキストベースの CSV ファイルのみをアップロードすることをお勧めします。この形式では、ASCII 文字以外の文字も保存できるためです。UTF-8 以外の形式で保存されたテキストベースの CSV ファイルは、Cisco Unified Communications Manager からダウンロードするときに文字化けすることがあります。

## IME 登録済みグループ設定のファイル形式

次のサンプル形式と例に、IME 登録済みグループ設定用のテキストベース CSV ファイルのフィールド、フィールド長、およびフィールドがオプションか必須かを示します。

**Group Name** (必須、1 ~ 50 文字)、**Description** (オプション、1 ~ 128 文字)、**Fallback Profile** (オプション、1 ~ 50 文字)、**All Patterns In Group Are Aliases** (オプション、T または F)

### 例

Group Name, Description, Fallback Profile, All Patterns In Group Are Aliases

Enrol\_grp1, sample\_file, profile1, t

# IME 除外グループ設定用のテキストベース CSV ファイルの作成

IME 除外グループ設定を挿入するときに、データ入力に BAT スプレッドシートを使用する代わりに、値をカンマで区切った ASCII テキスト行を使用して Comma-Separated Values (CSV; カンマ区切り値) ファイルを作成できます。

IME 除外グループ設定用の CSV テキスト ファイルを作成する手順は、次のとおりです。

## 手順

- 
- ステップ 1** テキスト エディタ (Microsoft メモ帳など)、または CSV ファイルのエクスポートや作成が可能なアプリケーションを開きます。
- ステップ 2** 追加する各 IME 除外グループ設定の値を、設定ごとに行を変えて入力します。CSV データ ファイルを作成するときには、次の規則に注意してください。
- フィールドが空白であっても、必ず、カンマ区切り文字を入力します。
  - ブランク行のある CSV ファイルを挿入するとエラーが発生するので注意します。
- ステップ 3** CSV ファイルを Cisco Unified Communications Manager の最初のノードにアップロードします。詳細については、「[ファイルのアップロード](#)」(P.2-3) を参照してください。

CSV ファイルを保存するときに、「UTF-8」符号化ファイルとして保存します。メモ帳では、[ 文字コード ] ドロップダウンで「UTF-8」の符号化を選択できます。




---

(注) UTF-8 形式で符号化したテキストベースの CSV ファイルのみをアップロードすることをお勧めします。この形式では、ASCII 文字以外の文字も保存できるためです。UTF-8 以外の形式で保存されたテキストベースの CSV ファイルは、Cisco Unified Communications Manager からダウンロードするときに文字化けすることがあります。

---

## IME 除外グループ設定のファイル形式

次のサンプル形式と例に、IME 除外グループ設定用のテキストベース CSV ファイルのフィールド、フィールド長、およびフィールドがオプションか必須かを示します。

**Group Name** (必須、1 ~ 50 文字)、**Description** (オプション、1 ~ 128 文字)

### 例

Name,Description

Exclu\_grp1,sample\_file

# フォールバック プロファイル設定用のテキストベース CSV ファイルの作成

フォールバック プロファイル設定を挿入するときに、データ入力に BAT スプレッドシートを使用する代わりに、値をカンマで区切った ASCII テキスト行を使用して Comma-Separated Values (CSV; カンマ区切り値) ファイルを作成できます。

フォールバック プロファイル設定用の CSV テキスト ファイルを作成する手順は、次のとおりです。

## 手順

- ステップ 1** テキスト エディタ (Microsoft メモ帳など)、または CSV ファイルのエクスポートや作成が可能なアプリケーションを開きます。
- ステップ 2** 追加する各フォールバック プロファイル設定の値を、設定ごとに行を変えて入力します。CSV データファイルを作成するときには、次の規則に注意してください。
  - フィールドがブランクであっても、必ず、カンマ区切り文字を入力します。
  - ブランク行のある CSV ファイルを挿入するとエラーが発生するので注意します。
- ステップ 3** CSV ファイルを Cisco Unified Communications Manager の最初のノードにアップロードします。詳細については、「[ファイルのアップロード](#)」(P.2-3) を参照してください。

CSV ファイルを保存するときに、「UTF-8」符号化ファイルとして保存します。メモ帳では、[ 文字コード ] ドロップダウンで「UTF-8」の符号化を選択できます。



- (注) UTF-8 形式で符号化したテキストベースの CSV ファイルのみをアップロードすることをお勧めします。この形式では、ASCII 文字以外の文字も保存できるためです。UTF-8 以外の形式で保存されたテキストベースの CSV ファイルは、Cisco Unified Communications Manager からダウンロードするときに文字化けすることがあります。

## フォールバック プロファイル設定のファイル形式

次のサンプル形式と例に、フォールバック プロファイル設定用のテキストベース CSV ファイルのフィールド、フィールド長、およびフィールドがオプションか必須かを示します。

**Name** (必須、1 ~ 50 文字)、**Description** (オプション、1 ~ 128 文字)、**Advertised Fallback Directory E.164 Number** (オプション、1 ~ 16 文字)、**Fallback Qos Sensitivity Level** (必須、1 ~ 2 文字)、**Fallback Call CSS** (必須、1 ~ 2 文字)、**Fallback Call Answer Timer** (必須、1 ~ 2 文字)、**Fallback Directory Number Partition** (必須、1 ~ 50 文字)、**Fallback Directory Number** (必須、1 ~ 50 文字)、**Number of Digits for Caller Id Partial Match** (必須、1 ~ 2 文字)

### 例

Name,Description,Advertised Fallback Directory E.164 Number, Fallback Qos Sensitivity Level, Fallback Call CSS, Fallback Call Answer Timer, Fallback Directory Number Partition, Fallback Directory Number, Number of Digits for Caller Id Partial Match

profile1,sample\_file,+91233232,1,Trunk Reroute Calling Search Space,2,partition1,1212,1

# エンドユーザ CAPF プロファイル用のテキストベース CSV ファイルの作成

エンドユーザ CAPF プロファイルを挿入するときに、データ入力に BAT スプレッドシートを使用する代わりに、値をカンマで区切った ASCII テキスト行を使用して Comma-Separated Values (CSV; カンマ区切り値) ファイルを作成できます。

エンドユーザ CAPF プロファイル用の CSV テキスト ファイルを作成する手順は、次のとおりです。

## 手順

- 
- ステップ 1** テキスト エディタ (Microsoft メモ帳など)、または CSV ファイルのエクスポートや作成が可能なアプリケーションを開きます。
- ステップ 2** 追加する各エンドユーザ CAPF プロファイルの値を、プロファイルごとに行を変えて入力します。CSV データ ファイルを作成するときには、次の規則に注意してください。
- フィールドがブランクであっても、必ず、カンマ区切り文字を入力します。
  - ブランク行のある CSV ファイルを挿入するとエラーが発生するので注意します。
- ステップ 3** CSV ファイルを Cisco Unified Communications Manager の最初のノードにアップロードします。[「ファイルのアップロード」\(P.2-3\)](#) を参照してください。

CSV ファイルを保存するときに、「UTF-8」符号化ファイルとして保存します。メモ帳では、[ 文字コード ] ドロップダウンで「UTF-8」の符号化を選択できます。




---

**(注)** UTF-8 形式で符号化したテキストベースの CSV ファイルのみをアップロードすることをお勧めします。この形式では、ASCII 文字以外の文字も保存できるためです。UTF-8 以外の形式で保存されたテキストベースの CSV ファイルは、Cisco Unified Communications Manager からダウンロードするときに文字化けすることがあります。

---

## エンドユーザ CAPF プロファイルのファイル形式

次のサンプル形式と例に、エンドユーザ CAPF プロファイル用のテキストベース CSV ファイルのフィールド、フィールド長、およびフィールドがオプションか必須かを示します。

**Instance ID** (必須、1 ~ 132 文字)、**End User ID** (必須、1 ~ 128 文字)、**Certificate Operation** (必須、1 ~ 100 文字)、**Authentication Mode** (必須、1 ~ 100 文字)、**Authentication String** (オプション、1 ~ 50 文字)、**Key Size** (必須、1 ~ 4 文字)、**Operation Completes By** (必須、1 ~ 15 文字)

### 例

Instance ID,End User ID,Certificate Operation,Authentication Mode,Authentication String,Key Size,Operation Completes By

11,user,No Pending Operation,By Existing Certificate (precedence to LSC),1234567,512,2010:1:21:12

# モビリティ プロファイル用のテキストベース CSV ファイルの作成

モビリティ プロファイルを挿入するときに、データ入力に BAT スプレッドシートを使用する代わりに、値をカンマで区切った ASCII テキスト行を使用して Comma-Separated Values (CSV; カンマ区切り値) ファイルを作成できます。

モビリティ プロファイル用の CSV テキスト ファイルを作成する手順は、次のとおりです。

## 手順

- ステップ 1** テキスト エディタ (Microsoft メモ帳など)、または CSV ファイルのエクスポートや作成が可能なアプリケーションを開きます。
- ステップ 2** 追加する各モビリティ プロファイルの値を、プロファイルごとに行を変えて入力します。CSV データ ファイルを作成するときには、次の規則に注意してください。
  - フィールドがブランクであっても、必ず、カンマ区切り文字を入力します。
  - ブランク行のある CSV ファイルを挿入するとエラーが発生するので注意します。
- ステップ 3** CSV ファイルを Cisco Unified Communications Manager の最初のノードにアップロードします。[「ファイルのアップロード」\(P.2-3\)](#) を参照してください。

CSV ファイルを保存するときに、「UTF-8」符号化ファイルとして保存します。メモ帳では、[ 文字コード ] ドロップダウンで「UTF-8」の符号化を選択できます。



- (注) UTF-8 形式で符号化したテキストベースの CSV ファイルのみをアップロードすることをお勧めします。この形式では、ASCII 文字以外の文字も保存できるためです。UTF-8 以外の形式で保存されたテキストベースの CSV ファイルは、Cisco Unified Communications Manager からダウンロードするときに文字化けすることがあります。

## モビリティ プロファイルのファイル形式

次のサンプル形式と例に、モビリティ プロファイル用のテキストベース CSV ファイルのフィールド、フィールド長、およびフィールドがオプションか必須かを示します。

**Mobility Profile Name** (必須、1 ~ 50 文字)、**Description** (オプション、1 ~ 128 文字)、**Service Access Number** (オプション、1 ~ 50 文字)、**Enterprise Feature Access Number/Partition** (オプション、1 ~ 50 文字)、**Callback Caller ID** (オプション、1 ~ 50 文字)、**Mobile Client Calling Option** (必須、1 ~ 50 文字)

### 例

Mobility Profile Name,Description,Service Access Number,Enterprise Feature Access Number/Partition,Callback Caller Id,Mobile Client Calling Option

MoProfile1,testexport,2323,123456 in part1,33,Dial via Office Reverse

## 関連項目

- 「電話機用のテキストベース CSV ファイルの作成」 (P.A-2)
- 「ユーザ用のテキストベース CSV ファイルの作成」 (P.A-7)
- 「ユーザ デバイス プロファイル用のテキストベース CSV ファイルの作成」 (P.A-10)
- 「Cisco Unified CM Assistant マネージャとアシスタントのアソシエーション用のテキストベース CSV ファイルの作成」 (P.A-13)
- 「Cisco VG200 ゲートウェイ用のテキストベース CSV ファイルの作成」 (P.A-15)
- 「Cisco Catalyst 6000 FXS ポート用のテキストベース CSV ファイルの作成」 (P.A-19)
- 「クライアント識別コードと強制承認コードのテキストベースのカスタム CSV ファイルの作成」 (P.A-22)
- 「コール ピックアップ グループ用のテキストベース CSV ファイルの作成」 (P.A-25)
- 「リモート接続先プロファイル用のテキストベース CSV ファイルの作成」 (P.A-27)
- 「電話の移行用のテキストベース CSV ファイルの作成」 (P.A-28)
- 「IME 信頼要素設定用のテキストベース CSV ファイルの作成」 (P.A-29)
- 「IME 登録済みグループ設定用のテキストベース CSV ファイルの作成」 (P.A-31)
- 「IME 除外グループ設定用のテキストベース CSV ファイルの作成」 (P.A-32)
- 「フォールバック プロファイル設定用のテキストベース CSV ファイルの作成」 (P.A-33)
- 「エンド ユーザ CAPF プロファイル用のテキストベース CSV ファイルの作成」 (P.A-34)
- 「モビリティ プロファイル用のテキストベース CSV ファイルの作成」 (P.A-35)



# APPENDIX B

## BAT のパフォーマンス

表 B-1 に、各種 BAT トランザクションのパフォーマンス値を示します。



(注)

次のパフォーマンス データは実験条件での値であり、Cisco Unified Communications Manager のアクティビティによって変化することがあります。オフピーク時の数値のみが、トランザクションの全体時間を判断するためのおおよその指針となります。

表 B-1 各種トランザクションの BAT パフォーマンス測定値

| トランザクション               | 処理レコード数/分 |
|------------------------|-----------|
| <b>強制承認コード</b>         |           |
| FAC の挿入                | 200       |
| FAC の削除                | 500       |
| <b>クライアント識別コード</b>     |           |
| CMC の挿入                | 250       |
| CMC の削除                | 500       |
| <b>コール ピックアップ グループ</b> |           |
| CPG の挿入                | 200       |
| CPG の削除                | 500       |
| <b>電話機/ユーザ</b>         |           |
| 電話機/ユーザの検証             | 100       |
| 電話機/ユーザの挿入             | 30        |
| <b>ユーザ</b>             |           |
| ユーザの挿入                 | 150       |
| ユーザの更新                 | 65        |
| パスワード/PIN のリセット (クエリー) | 500       |
| パスワード/PIN のリセット (カスタム) | 350       |
| ユーザ レポートの生成            | 500       |
| ユーザのエクスポート (特定)        | 250       |
| ユーザのエクスポート (すべて)       | 200       |
| ユーザの削除 (クエリー)          | 300       |
| ユーザの削除 (カスタム)          | 300       |

表 B-1 各種トランザクションの BAT パフォーマンス測定値

| トランザクション                      | 処理レコード数/分 |
|-------------------------------|-----------|
| <b>マネージャ/アシスタント</b>           |           |
| マネージャ/アシスタントの挿入               | 75        |
| マネージャ/アシスタント (CSV ベース削除)      | 300       |
| マネージャ/アシスタント (クエリー ベース削除)     | 300       |
| マネージャ/アシスタント (カスタム ファイルベース削除) | 300       |
| <b>UDP トランザクション</b>           |           |
| UDP の確認                       | 300       |
| UDP 固有の詳細の挿入                  | 65        |
| すべての詳細のエクスポート                 | 50        |
| 回線 UDP の追加                    | 75        |
| UDP のレポート                     | 125       |
| UDP の削除                       | 70        |
| <b>電話機トランザクション</b>            |           |
| 電話機の検証                        | 250       |
| 特定の電話機の挿入                     | 45        |
| すべての詳細のエクスポート                 | 75        |
| 電話機の更新                        | 150       |
| 電話回線の追加                       | 75        |
| 電話機のリセット/再起動                  | 500       |
| 電話機レポートの生成                    | 300       |
| 電話機の削除 (クエリー)                 | 75        |



## INDEX

### B

#### BAT

- アプリケーションの概要 [1-1](#)
- インストール [1-2](#)
- エラー メッセージ [83-3](#)
- オンライン ヘルプ [1-12](#)
- ジョブのスケジュール [82-1](#)
- 設定プロセスの概要 [1-3](#)
- データ入力ファイル [1-2](#)
- トラブルシューティング [83-3](#)
- バージョン [1-12](#)
- パフォーマンスのトラブルシューティング [83-7](#)
- ブラウザの要件 [1-12](#)
- ログ ファイルのロケーション [83-3](#)

BAT.xlt、「BAT スプレッドシート」を参照

#### BAT スプレッドシート

FXS 用 VG202 および VG204 ゲートウェイまたは VG202 および VG204 ゲートウェイ

FXS 用 CSV データ ファイルの作成

VG202 または VG204 ゲートウェイ用の CSV データ ファイルの作成 [50-7](#)

FXS 用 VG224 ゲートウェイまたは VG224 ゲートウェイ

FXS 用 CSV データ ファイルの作成

VG224 ゲートウェイ用の CSV データ ファイルの作成 [50-5](#)

IP テレフォニー デバイス [3-57](#)

T1 CAS または T1/E1 PRI 用 VG200 ゲートウェイ [50-1](#)

Unified CM Assistant カスタム マネージャ アシスタント、プロキシ モード用 [29-12](#)

Unified CM Assistant デフォルト マネージャ アシスタント [29-11](#)

概要 [1-9](#)

既存の電話機への回線の追加 [10-10, 45-2](#)

使用、CSV データ ファイルのための [1-9](#)

電話機 [3-57](#)

電話機とユーザ [25-2](#)

電話機の移行

電話機を移行するための CSV データ ファイルの作成 [65-1](#)

フィールドの説明

回線の追加 [10-12, 45-3](#)

ユーザ デバイス プロファイル [35-4](#)

ユーザの更新 [18-3](#)

マネージャとアシスタントのアソシエーション [29-10](#)

ユーザ [15-2](#)

ユーザ デバイス プロファイル [35-3](#)

BAT のパフォーマンス [B-1](#)

Bulk Provisioning Service

BPS のアクティブ化 [82-1](#)

BPS の非アクティブ化 [82-3](#)

### C

Catalyst 6000 FXS ポート

テキストベースの CSV ファイル形式 [A-20](#)

テキストベースの CSV ファイル、作成 [A-19](#)

Cisco [80-2](#)

Cisco CRS

TAPS に必須 [80-2](#)

TAPS の設定 [80-6](#)

TAPS のトラブルシューティング [83-8](#)

Cisco Customer Response Solutions、「Cisco CRS」を参照

Cisco IME リンク学習ルート フィルタ要素の設定  
削除 [78-1](#)

## Cisco Unified CallManager

挿入

EMCC [67-1](#)

Cisco Unified CM Assistant、「Unified CM Assistant」を参照

Cisco Unified CM Assistant 設定ウィザード [29-2](#)

## Cisco Unified Communications Manager

TAPS の自動登録機能の有効化 [80-2](#)概要、レコードの挿入の [1-11](#)

挿入

CTI ポート [6-1, 17-1, 40-1, 50-1](#)H.323 クライアント [6-1, 17-1, 40-1, 50-1](#)Unified CM Assistant マネージャとアシスタントのアソシエーション [30-1](#)VG200 ゲートウェイ (FXS または FXO) [50-9](#)VG200 ゲートウェイ (T1 CAS または T1/E1 PRI) [50-9](#)電話機 [6-1, 17-1, 40-1, 50-1](#)電話機とユーザ [28-1](#)ユーザ [17-1](#)

## Cisco Unified IP-IVR

TAPS に必須 [80-2](#)

Cisco VG202 または VG204 ゲートウェイ テンプレート

作成 [48-13](#)

## CMC

テキストベースの CSV ファイル、更新 [A-24](#)

## CPG

テキストベースの CSV ファイル、更新 [A-26](#)CSV、カンマ区切り値テキスト ファイル [1-3](#)

## CSV データ ファイル

新しいデバイスの追加 [1-6](#)概要 [1-5](#)既存のデバイスの更新 [1-6](#)使用、BAT スプレッドシート (BAT.xlt) の [1-9](#)

## CSV、テキストベース

Catalyst 6000 FXS ポート形式 [A-20](#)Catalyst 6000 FXS ポート、作成 [A-19](#)

## CMC

オプション [53-4](#)更新 [A-24](#)

## CPG

オプション [55-3](#)更新 [A-26](#)CTI ポート形式 [A-4](#)CTI ポートとユーザ形式 [A-4](#)

## FAC

オプション [53-4](#)更新 [A-24](#)FXO または FXS ポート形式 [A-16](#)H.323 クライアント形式 [A-4](#)H.323 クライアントとユーザ形式 [A-4](#)T1 CAS、T1/E1 PRI 形式 [A-17](#)VG200 ゲートウェイ、作成 [A-15](#)VG202 および VG204 ゲートウェイ、作成 [A-20](#)VG224 ゲートウェイ、作成 [A-18](#)概要 [A-1](#)

## 電話機

エクスポート ファイル、すべての詳細を含む [A-5](#)オプション [4-1](#)作成 [A-2](#)作成する場合のヒント [A-3](#)ユーザとの組み合わせ [A-3](#)

マネージャとアシスタントのアソシエーション

カスタム形式 [A-15](#)作成 [A-13](#)マネージャとアシスタントのデフォルト形式 [A-14](#)

## ユーザ

形式 [A-8](#)更新 [A-9](#)作成 [A-7](#)

ユーザ デバイス プロファイル

2 回線形式 [A-11](#)エクスポート ファイル [A-12](#)作成 [A-10](#)

- ユーザ デバイス プロファイルのオプション [37-1](#)
- ユーザ デバイス プロファイルの形式 [A-11](#)
- CTI ポート
  - 削除 [8-1, 13-1, 42-1](#)
  - ダミーの MAC アドレス、使用 [6-2, 28-1, 40-2](#)
  - テキストベースの CSV 形式 [A-4](#)
- CTI ポートとユーザ
  - テキストベースの CSV 形式 [A-4](#)

---

## E

- E1 PRI
  - VG200 ゲートウェイ テンプレートのフィールドの説明 [48-33](#)
  - VG200 ゲートウェイ用の CSV ファイルの作成 [50-1](#)
  - テキストベースの CSV ファイル形式 [A-17](#)
- E1 PRI ポート [48-9](#)
- EMCC
  - Cisco Unified CallManager への挿入更新 [67-2](#)
  - 挿入 [67-1](#)
  - デバイスの削除 [68-1](#)
  - テンプレート
    - 削除 [66-3](#)
    - テンプレートの検索 [66-1](#)
    - フィールドの説明 [66-4](#)

---

## F

- FAC
  - テキストベースの CSV ファイル、更新 [A-24](#)
- FXO
  - Cisco Unified Communications Manager への VG200 ゲートウェイの挿入 [50-9](#)
  - VG200 ゲートウェイ用のテキストベースの CSV ファイル形式 [A-16](#)
- FXO ポート [48-8](#)

## FXS

- Catalyst 6000 ポート
  - テキストベースの CSV 形式 [A-20](#)
- Catalyst 6000 ポート用テンプレートの作成 [48-10](#)
- VG200 ゲートウェイ
  - Cisco Unified Communications Manager への挿入 [50-9](#)
  - テキストベースの CSV ファイル形式 [A-16](#)

---

## H

- H.323 クライアント
  - 削除 [8-1, 13-1, 42-1](#)
  - テキストベースの CSV 形式 [A-4](#)
- H.323 クライアントとユーザ
  - テキストベースの CSV 形式 [A-4](#)

---

## I

- IP テレフォニー デバイス
  - BAT によるサポート [16-1](#)
- IP テレフォニー デバイス、「電話機」を参照

---

## M

- MGCP
  - T1-CAS ポート [48-9](#)
  - T1 PRI または E1 PRI ポート、追加 [48-9](#)

---

## N

- NM-1V [48-16](#)
- NM-2V [48-16](#)
- NM-HDV [48-16](#)

**P**

## PIN

リセット [21-1](#)**T**

## T1 CAS

VG200 ゲートウェイ用の CSV データ ファイルの作成 [50-1](#)VG200 テンプレートのフィールドの説明 [48-29](#)テキストベースの CSV ファイル形式 [A-17](#)T1-CAS ポート、追加 [48-9](#)

## T1 PRI

VG200 ゲートウェイ テンプレートのフィールドの説明 [48-33](#)VG200 ゲートウェイ用の CSV ファイルの作成 [50-1](#)テキストベースの CSV ファイル形式 [A-17](#)T1 PRI ポート [48-9](#)

## TAPS

Cisco CRS サーバ上の設定 [80-6](#)Cisco CRS を必要とする [80-2](#)Cisco Unified IP-IVR を必要とする [80-2](#)TAPS サービスのアクティブ化 [80-6](#)インストールの概要 [80-4](#)エンドユーザ用の手順 [81-3](#)概要 [80-1](#)言語プロンプト [80-4](#)削除 [81-2](#)サービスの起動 [80-6](#)サービスの再起動 [80-6](#)サービスの停止 [80-6](#)自動登録機能のオプションの設定 [80-7](#)使用のためのオプション [80-7](#)設定のリロード [80-3](#)電話番号に対する制限の解除 [80-10](#)電話番号の制限 [80-9](#)電話番号の保護 [80-4, 80-8](#)電話番号の保護の検索 [80-9](#)トラブルシューティング [83-8](#)必要条件 [80-2](#)ログ ファイルのロケーション [83-8](#)**U**

UDP、「ユーザ デバイス プロファイル」を参照

## Unified CM Assistant

CSV データ ファイルの作成 [29-10](#)

アシスタントの削除

カスタム ファイルの使用 [33-3](#)説明 [33-1](#)概要 [29-1](#)生成、レポートの [34-1](#)テキストベースの CSV ファイル、作成 [A-13](#)テキストベースの CSV ファイルのカスタム形式 [A-15](#)

## 電話機

アシスタントの設定オプション [29-5](#)新しい電話機のプロキシ回線 [29-7](#)既存の電話機のプロキシ回線 [29-7](#)シェアドラインの例 [29-9](#)シェアドライン モード [29-8](#)プロキシ回線の例 [29-6](#)プロキシ モード [29-2](#)マネージャの設定オプション [29-5](#)電話機と回線の設定 [29-2](#)プロキシ モード用のアシスタント テンプレート [29-3](#)プロキシ モード用のマネージャ テンプレート [29-3](#)マネージャとアシスタントのアソシエーションの挿入 [30-1](#)マネージャとアシスタントの回線設定、プロキシモード [29-4](#)マネージャとアシスタントのシェアドライン設定 [29-9](#)

マネージャの削除  
 カスタム ファイルの使用 **32-3**  
 クエリーの使用 **32-1, 33-1**  
 説明 **32-1**  
 Unified CM Assistant 設定ウィザード **29-2**

## V

VG200 ゲートウェイ  
 Cisco Unified Communications Manager (FXS または FXO) への挿入 **50-9**  
 Cisco Unified Communications Manager (T1 CAS または T1/E1 PRI) への挿入 **50-9**  
 T1 CAS または T1/E1 PRI 用の CSV データ ファイルの作成 **50-1**  
 ゲートウェイの削除 **51-1**  
 生成、レポートの **52-1**  
 テキストベースの CSV ファイルの作成 **A-15**  
 テンプレートの作成 **48-5, 48-11, 48-13**  
 フィールドの説明  
 T1 CAS テンプレート **48-29**  
 T1/E1 PRI テンプレート **48-33**  
 VG200 ゲートウェイ テンプレート  
 FXO ポート、追加 **48-8**  
 VG202 および VG04 ゲートウェイ  
 テキストベースの CSV ファイルの作成 **A-20**  
 VG224 ゲートウェイ  
 テキストベースの CSV ファイルの作成 **A-18**  
 VIC-2FXO **48-6**  
 VIC-2FXS **48-6, 48-11**  
 VWIC-1MFT-E1 **48-6**  
 VWIC-1MFT-T1 **48-6**  
 VWIC-2MFT-E1 **48-6**  
 VWIC-2MFT-T1 **48-6**

## い

移行、電話機の  
 電話機の移行手順 **65-3**

インストール  
 TAPS の概要 **80-4**  
 TAPS の前提条件 **80-4**  
 インターコム DN  
 追加 **47-2**  
 インターコム テンプレート  
 テンプレート上での追加または更新 **3-8**  
 インポート / エクスポート  
 検証 **64-1**  
 インポート ファイルの検証 **64-1**

## う

上書き、テンプレート値の **1-5**

## え

エクスポート  
 移動、Cisco Unified Communications Manager 間のレコードの **9-1**  
 エクスポート ファイルの使用 **1-7**  
 エンド ユーザ CAPF プロファイル **24-3**  
 手順、電話機レコードのエクスポートの **9-4**  
 電話機と 1 人以上のユーザ **9-5**  
 電話機レコードのオプション **9-1**  
 フィールド  
 All Phone Details **9-3**  
 All User Device Profile Details **43-1**  
 Default Phone Details **9-2**  
 Default Remote Destination Profile ファイル形式の詳細 **59-17**  
 Default User Device Profile Details **43-3**  
 ユーザ デバイス プロファイルのオプション **43-3**  
 ユーザ デバイス プロファイルのレコード形式 **43-1**  
 ユーザ レコードのオプション **20-1**  
 ユーザ レコードの形式 **20-1**  
 ライン アピアランス **23-2**

リモート接続先プロファイルレコードのオプション **59-15**

エクスポートされるフィールド **59-17**

- All Phone Details **9-3**
- All User Device Profile Details **43-1**
- Default Phone Details **9-2**
- Default User Device Profile Details **43-3**

エラーメッセージ、BAT の **83-3**

エンド **81-3**

エンドユーザ CAPF プロファイル

- エクスポート **24-3**
- 削除 **24-2**

## か

### 回線

- 最大数 **3-5, 3-9**
- テンプレート上での追加または更新 **3-5**
- フィールドの説明、追加または更新用のテンプレートの **3-36, 3-54**
- マスター電話機テンプレート **1-5**
- ユーザデバイスプロファイルへの更新 **44-1**

### 概要

- BAT アプリケーション **1-1**
- BAT スプレッドシート **1-9**
- Cisco Unified CM Assistant **29-1**
- CSV データファイル **1-5**
- TAPS **80-1**
- インストール **1-2**
- 検証 **1-10**
- 挿入、Cisco Unified Communications Manager へのレコードの **1-11**
- データ入力ファイル **1-2**
- テキストベースの CSV ファイル **A-1**
- テンプレート **1-4**
- ファイル形式、テキストベースの CSV ファイルの **1-7**
- ユーザ **15-1**
- ユーザデバイスプロファイル **35-1**
- レポート **12-1, 22-1, 46-1**

### カスタム ファイル

- Unified CM Assistant マネージャの削除 **32-3, 33-3**
- 使用 **1-7**
- 電話機の更新 **7-2**
- 電話機の削除 **8-3, 42-3**
- パスワードと PIN のリセットのための使用 **21-3**
- ユーザの削除 **19-2**

関連付け、ファイル形式の、テキストベースの CSV ファイルについての **4-6, 26-1, 38-1, 59-12**

## き

### 強制承認コード

- BAT の考慮事項 **53-2**
- BAT への CSV ファイルの挿入 **53-6**
- CSV ファイル (BAT.xlt) の作成 **53-3**
- CSV ファイルの設定値 (表) **53-5**
- CSV ファイルを挿入する場合の BAT の設定 (表) **53-7**
- カスタムの CSV ファイル (テキストベース) の作成 **A-22**
- 既存の CSV ファイルの更新 **53-4**
- 設定チェックリスト (表) **53-2**

## <

### クエリー

- Unified CM Assistant マネージャの削除 **32-1, 33-1**
- 回線の更新 **44-1**
- コール ピックアップ グループの削除 **56-1**
- 電話機の更新 **7-1**
- 電話機の削除 **8-1, 13-1**
- パスワードと PIN のリセットのための使用 **21-1**
- フィルタのカスタマイズ **1-6**
- ユーザの削除 **19-1**
- リモート接続先プロファイルの削除 **59-14**

## クライアント識別コード

- BAT の考慮事項 [53-2](#)
  - BAT への CSV ファイルの挿入 [53-6](#)
  - CSV ファイル (BAT.xlt) の作成 [53-3](#)
  - CSV ファイルの設定値 (表) [53-5](#)
  - CSV ファイルを挿入する場合の BAT の設定 (表) [53-7](#)
  - カスタムの CSV ファイル (テキストベース) の作成 [A-22](#)
  - 既存の CSV ファイルの更新 [53-4](#)
  - 設定チェックリスト (表) [53-2](#)
- クラスタ間のエクステンション モビリティ テンプレート
- テンプレートの検索 [66-1](#)

## け

## ゲートウェイ

- テキストベースの CSV ファイルについてのファイル形式の関連付け [49-5](#)
- ゲートウェイ テンプレート
- Catalyst 6000 FXS ポート
    - テンプレートの作成 [48-10](#)
  - POTS ポートの設定 (表) [48-48](#)
  - VG200 ゲートウェイ テンプレート
    - FXO ポート、追加 [48-8](#)
    - T1-CAS ポート、追加 [48-9](#)
    - T1 PRI または E1 PRI ポート、追加 [48-9](#)
    - テンプレートの作成 [48-5, 48-11, 48-13](#)
  - VG202 および VG204 の作成 [48-13](#)
  - 検索 [48-3](#)
  - 設定 [48-15](#)
  - 追加または編集 [48-5](#)
  - ポートの設定 (表) [48-47](#)
- ゲートウェイのファイル形式
- 検索 [49-1](#)
  - 設定 [49-2](#)
- 言語プロンプト、TAPS の [80-4](#)

## 検索

- EMCC テンプレート [66-1](#)
- TAPS からの電話番号の保護 [80-9](#)
- UDP テンプレート [36-1](#)
- UDP ファイル形式、テキストベースの CSV 用 [37-1](#)
- ゲートウェイ テンプレート [48-3](#)
- ゲートウェイのファイル形式 [49-1](#)
- ジョブ [82-3](#)
- 電話機テンプレート [3-3](#)
- 電話機のファイル形式 [4-2](#)
- ファイル [2-1](#)
- ユーザ テンプレート [16-1](#)
- ライン アピアランス [23-1](#)
- リモート接続先のファイル形式 [59-7](#)

## 検証

- インポート / エクスポート [64-1](#)
- オプション [1-10](#)
- 概要 [1-10](#)
- 電話機とユーザのレコード [27-1](#)
- 電話機のレコード [5-1, 39-1](#)
- ユーザ デバイス プロファイルのレコード [39-1](#)

## こ

## 更新

- EMCC [67-2](#)
  - TAPS を使用した電話機設定 [81-3](#)
  - ユーザ デバイス プロファイルへの回線 [44-1](#)
  - ライン アピアランス [23-3](#)
- 更新、回線の
- フィールドの説明 [10-3, 44-3](#)
- コール ピックアップ グループ
- BAT の考慮事項 [55-1](#)
  - BAT への CSV ファイルの挿入 [55-4](#)
  - CSV ファイル (BAT.xlt) の作成 [55-2](#)
  - CSV ファイルの設定値 (表) [55-4](#)
  - CSV ファイルを挿入する場合の BAT の設定 (表) [55-6](#)

カスタムの CSV ファイル (テキストベース) の作成 [A-25](#)

既存の CSV ファイルの更新 [55-3](#)

クエリーを使用したコール ピックアップ グループの削除 [56-1](#)

## コピー

テンプレート [36-6](#)

電話機テンプレート [3-10](#)

ファイル形式、テキストベースの CSV ファイルの [4-4, 49-3, 59-10](#)

ファイル形式、テキストベースの CSV 用 [37-3](#)

ユーザ テンプレート [16-3](#)

マネージャとアシスタントのアソシエーション [31-1](#)

未定義の電話番号 [8-4](#)

ユーザ [19-1](#)

ユーザ デバイス プロファイル [42-1](#)

ユーザ テンプレート [16-4](#)

リモート接続先のファイル形式、テキストベースの CSV ファイルの [59-11](#)

リモート接続先プロファイル、クエリーの使用 [59-14](#)

## 作成

Cisco VG202 または VG204 ゲートウェイ テンプレート [48-13](#)

サブユニット [48-6, 48-11](#)

## さ

サービス、追加または更新 [3-6](#)

サービスのアクティブ化

BPS [82-1](#)

TAPS [80-6](#)

再起動、電話機の

カスタム ファイルの使用 [11-3](#)

クエリーの使用 [11-1](#)

更新後 [11-1](#)

削除

Cisco IME リンク学習ルート フィルタ要素の設定 [78-1](#)

EMCC デバイス [68-1](#)

EMCC テンプレート [66-3](#)

Unified CM Assistant アシスタント [33-1](#)

Unified CM Assistant マネージャ [32-1](#)

VG200 ゲートウェイ [51-1](#)

エンドユーザ CAPF プロファイル [24-2](#)

コール ピックアップ グループ [56-1](#)

テンプレート [36-6](#)

電話機、カスタム ファイルの使用 [8-3, 42-3](#)

電話機、クエリーの使用 [8-1, 13-1](#)

電話機テンプレート [3-11](#)

ファイル形式、テキストベースの CSV ファイルの [4-6, 37-5, 49-5](#)

## し

自動登録、Cisco Unified Communications Manager での有効化

TAPS の自動登録機能の有効化 [80-2](#)

自動登録機能のオプション、設定 [80-7](#)

ジョブ

BPS のアクティブ化 [82-1](#)

BPS の非アクティブ化 [82-3](#)

検索 [82-3](#)

スケジュール [82-4](#)

ログ ファイルの表示 [82-6](#)

## す

スピードダイヤルの設定、追加または更新 [3-6, 3-7](#)

## せ

設定、Cisco Unified Communications Manager レコードの、プロセス [1-3](#)

設定、ゲートウェイのファイル形式 [49-2](#)

前提条件

TAPS [80-4](#)

## そ

### 挿入

EMCC [67-1](#)

挿入、Cisco Unified Communications Manager への  
レコードの、概要 [1-11](#)

## た

ダウンロード、電話機設定の、Unified TAPS を使  
用 [81-3](#)

ダミーの MAC アドレス [3-59, 6-2, 28-1, 40-2](#)  
リストの生成 [12-6](#)

## ち

### 着信番号アナライザ

トレース設定ファイル [83-1](#)

## つ

追加、インターコム テンプレートの  
フィールドの説明 [3-54](#)

### 追加、回線の

BAT スプレッドシートのフィールドの説  
明 [10-12, 45-3](#)

BAT スプレッドシートを使用した既存の電話機  
への [10-10, 45-2](#)

既存の電話機への [10-10, 45-1](#)

既存のユーザ デバイス プロファイルへ  
の [10-10, 45-1](#)

テンプレートのフィールドの説明 [3-36](#)

電話機テンプレートへの [3-5](#)

## て

手順、エンドユーザ用の TAPS の [81-3](#)  
テンプレート

BAT テンプレートの概要 [1-4](#)

EMCC [66-2](#)

EMCC の削除 [66-3](#)

IP サービスの追加または更新 [3-6](#)

値の上書き [1-5](#)

インターコム テンプレートの追加または更  
新 [3-8](#)

回線の追加または更新 [3-5](#)

検索 [36-1](#)

コピー [36-6](#)

削除 [36-6](#)

スピードダイヤル設定の追加または更新 [3-6, 3-7](#)

電話機のコピー [3-10](#)

電話機の削除 [3-11](#)

電話機の変更 [3-10](#)

ビジョーランプフィールドダイレクトコールパー  
クの設定値の追加または更新 [3-8](#)

### フィールドの説明

EMCC [66-4](#)

VG200 ゲートウェイ - T1 CAS ゲートウェ  
イ [48-29](#)

インターコム テンプレートの追加または更  
新 [3-54](#)

回線の追加または更新 [3-36](#)

電話機 [3-12](#)

ユーザ [16-4](#)

ユーザ デバイス プロファイル [36-2](#)

変更 [36-5](#)

マスター電話機 [1-5](#)

ユーザのコピー [16-3](#)

ユーザの削除 [16-4](#)

ユーザの変更 [16-3](#)

### テンプレート タイプ

Catalyst 6000 FXS ポート [48-10](#)

EMCC [66-2](#)

IP テレフォニー デバイス [3-4](#)

Unified CM Assistant アシスタント、プロキシ  
モード用の [29-3](#)

Unified CM Assistant マネージャ、プロキシ モー  
ド用の [29-3](#)

VG200 ゲートウェイテンプレート [48-5, 48-11, 48-13](#)

- 電話機 [3-4](#)
  - ユーザ [16-2](#)
  - ユーザ デバイス プロファイル [36-2](#)
  - 電話機
    - CAPF の設定 [3-83, 16-7, 66-5](#)
    - TAPS を使用した設定 [80-2](#)
      - 自動登録機能の有効化 [80-2](#)
    - Unified CM Assistant アシスタント [29-5](#)
    - Unified CM Assistant、プロキシ モード用の [29-2](#)
    - Unified CM Assistant マネージャの設定 [29-5](#)
    - エクスポートのオプション、レコードの [9-1](#)
    - エクスポートの手順、レコードの [9-4](#)
    - カスタム ファイルを使用した更新 [7-2](#)
    - クエリーを使用した更新 [7-1](#)
    - 更新 [7-1, 18-1, 19-1](#)
    - 削除 [8-1, 13-1, 42-1](#)
    - すべての詳細を含むエクスポートファイル [A-5](#)
    - 生成、レポートの [12-1](#)
    - 設定のリロード [80-3](#)
    - 挿入、Cisco Unified Communications Manager への [6-1, 17-1, 40-1, 50-1](#)
    - ダミーの MAC アドレス、使用 [3-59, 6-2, 28-1, 40-2](#)
    - ダミーの MAC アドレス リスト [12-6](#)
    - 追加
      - IP サービス [3-6](#)
      - インターコム テンプレート [3-8](#)
      - 回線 [3-5](#)
      - 既存の電話機への回線の追加 [10-10, 45-1](#)
      - スピード ダイヤルの設定 [3-6, 3-7](#)
      - ビジョー ランプ フィールド ダイレクト コールパークの設定値 [3-8](#)
      - ユーザ [25-1](#)
    - テキストベースの CSV ファイルの作成 [A-2](#)
    - テンプレート
      - IP テレフォニー デバイス [3-4](#)
      - コピー [3-10](#)
      - 削除 [3-11](#)
      - 新規作成 [3-4](#)
      - テンプレートの検索 [3-3](#)
      - フィールドの説明 [3-12](#)
      - 変更 [3-10](#)
      - レコードの検証 [5-1, 39-1](#)
      - レポートのオプション [12-3](#)
  - 電話機とユーザ
    - BAT スプレッドシートの使用 [25-2](#)
    - Cisco Unified Communications Manager への挿入 [28-1](#)
    - テキストベースの CSV 形式 [A-3](#)
    - レコードの検証 [27-1](#)
  - 電話機の移行
    - CSV データ ファイルの作成 [65-1](#)
  - 電話番号
    - TAPS からの制限 [80-9](#)
    - TAPS からの電話番号の保護の検索 [80-9](#)
    - TAPS からの保護 [80-8](#)
    - 制限の解除 [80-10](#)
- 
- と
- トラブルシューティング
    - BAT [83-3](#)
    - BAT のパフォーマンス [83-7](#)
    - BAT ログ ファイル [83-3](#)
    - TAPS [83-8](#)
  - トラブルシューティングの説明
    - BAT.xlt スプレッドシートが Excel XP で機能しない [83-6](#)
    - BAT.xlt ファイルで [Export to BAT Format] ボタンが機能しない [83-4](#)
    - BAT の Excel シートが操作に反応しない [83-4](#)
    - BAT のすべての機能にアクセスできない [83-4](#)
    - Cisco CRS が起動すると、JTAPI にサービスの一部が表示されるか、サービスが使用できない [83-8](#)
    - Cisco Unified Communications Manager で BAT のメニューが表示されない [83-3](#)
    - CSV データ ファイルが電話テンプレートやサンプル ファイルに一致しない [83-4](#)

- TAPS 番号をダイヤルすると、ビジー トーンが聞こえる **83-8**
- アップロードした CSV ファイルが表示されない **83-5**
- ジョブが [ ジョブの検索と一覧表示 (Find and List Jobs)] ウィンドウに表示されない **83-5**
- ジョブが保留状態のままになっている **83-5**
- ジョブの状態が待機中のままになっている **83-5**
- 選択したファイル形式にレコードが一致していない **83-7**
- ダミー MAC アドレスの値を指定しようとしても、MAC アドレスの値がファイルで許可されない **83-6**
- データをエクスポートするときに BAT のスプレッドシートでコンパイルエラーが発生する **83-4**
- ポート番号がテンプレートに設定されていない **83-6**
- トレース設定ファイル  
表示 **83-1**
- 
- ## は
- バージョン、表示 **1-12**
- パスワード  
リセット **21-1**
- 
- ## ひ
- ビジー ランプ フィールド ダイレクト コール パーク、追加または更新 **3-8**
- 表示  
ライン アピアランス **23-1**
- 表示、トレース設定ファイル **83-1**
- 
- ## ふ
- ファイル形式、ゲートウェイの  
検索 **49-1**
- ファイル形式、テキストベースの CSV ファイル、ゲートウェイ  
関連付け **49-5**
- ファイル形式、テキストベースの CSV ファイルの  
概要 **1-7**
- 関連付け **4-6, 26-1, 38-1, 59-12**
- 検索 **4-2, 37-1, 59-7**
- コピー **4-4, 37-3, 49-3, 59-10**
- 削除 **4-6, 37-5, 49-5**
- 電話機の作成 **4-3, 49-2**
- 変更 **4-5, 37-4, 49-4**
- ユーザ デバイス プロファイルの作成 **37-2**
- リモート接続先プロファイルの作成 **59-9**
- ファイルのアップロードとダウンロード  
検索 **2-1**
- 削除 **2-4**
- ダウンロード **2-2**
- フィールドの説明  
BAT スプレッドシート  
回線の追加 **10-12, 45-3**
- ユーザ デバイス プロファイル **35-4**
- ユーザの更新 **18-3**
- BAT スプレッドシートを使用したユーザの更新 **18-3**
- EMCC テンプレート **66-4**
- VG200 ゲートウェイ - T1 CAS テンプレート **48-29**
- VG200 ゲートウェイ - T1/E1 PRI テンプレート **48-33**
- インターコム テンプレートの追加または更新 **3-54**
- 回線の更新 **10-3, 44-3**
- 回線の追加または更新 **3-36**
- 電話機テンプレート **3-12**
- ユーザ デバイス プロファイル テンプレート **36-2**
- ユーザ テンプレート **16-4**
- ブラウザの要件 **1-12**

## へ

ヘルプ、オンライン [1-12](#)

## 変更

電話機テンプレート [3-10](#)

ファイル形式、テキストベースの CSV ファイルの [4-5, 49-4](#)

ファイル形式、テキストベースの CSV 用 [37-4](#)

ユーザテンプレート [16-3](#)

リモート接続先のファイル形式、テキストベースの CSV ファイルの [59-10](#)

## ほ

保護、TAPS からの電話番号の [80-4, 80-8](#)

## ま

マスター電話機テンプレート [1-5](#)

## み

未定義の電話番号

削除 [8-4](#)

## ゆ

## ユーザ

BAT スプレッドシートを使用した更新についてのフィールドの説明 [18-3](#)

Cisco Unified Communications Manager への挿入 [17-1](#)

CSV データ ファイルの作成 [15-2](#)

エクスポートされるレコード形式 [20-1](#)

更新 [18-1](#)

削除 [19-1](#)

カスタム ファイルの使用 [19-2](#)

クエリーの使用 [19-1](#)

生成、レポートの [22-1](#)

追加の概要 [15-1](#)

テキストベースの CSV 形式 [A-8](#)

テキストベースの CSV ファイル、更新 [A-9](#)

テキストベースの CSV ファイル、作成 [A-7](#)

## テンプレート

検索 [16-1](#)

コピー [16-3](#)

削除 [16-4](#)

新規作成 [16-2](#)

フィールドの説明 [16-4](#)

変更 [16-3](#)

ユーザ用 [16-2](#)

ユーザ フィールドの説明の更新 [18-3](#)

リセット、パスワードと PIN [21-1](#)

レコードのオプション [20-1](#)

## ユーザ デバイス プロファイル

## BAT スプレッドシート

使用 [35-3](#)

フィールドの説明 [35-4](#)

CSV データ ファイルの作成 [35-3](#)

エクスポート ファイルの形式 [43-1](#)

回線の更新 [44-1](#)

概要 [35-1](#)

既存のユーザ デバイス プロファイルへの回線の追加 [10-10, 45-1](#)

削除 [42-1](#)

すべての詳細を含むエクスポート ファイル [A-12](#)

追加の手順 [35-1](#)

テキストベースの CSV ファイル形式 [A-11](#)

テキストベースの CSV ファイル、作成 [A-10](#)

## テンプレート

検索 [36-1](#)

コピー [36-6](#)

削除 [36-6](#)

作成 [36-2](#)

変更 [36-5](#)

レコードのエクスポート オプション [43-3](#)

レコードの検証 [39-1](#)

レポート、生成 [46-1](#)

## ユーザと電話機

- BAT スプレッドシートの使用 [25-2](#)
- Cisco Unified Communications Manager への挿入 [28-1](#)
- レコードの検証 [27-1](#)

- 電話機 [12-1](#)
- 電話機のオプション [12-3](#)
- ユーザ [22-1](#)
- ユーザ デバイス プロファイル [46-1](#)

## ら

## ライン アピアランス

- エクスポート [23-2](#)
- 検索 [23-1](#)
- 更新 [23-3](#)
- 表示 [23-1](#)

## り

## リセット、電話機の

- カスタム ファイルの使用 [11-3](#)
- クエリーの使用 [11-1](#)
- 更新後 [11-1](#)

## リセット、パスワードと PIN の

- カスタム ファイルの使用 [21-3](#)
- クエリーの使用 [21-1](#)

## リモート接続先のファイル形式、テキストベースの CSV ファイルの

- 削除 [59-11](#)
- 変更 [59-10](#)

## リモート接続先プロファイル

- エクスポートのオプション、レコードの [59-15](#)

リモート接続先プロファイル テンプレート [59-1](#)

## ろ

## ログ ファイル

- BAT [83-3](#)
- ジョブのログ ファイルの表示 [82-6](#)
- ファイル名の表記法 [83-3](#)
- レポート ログ ファイル [12-6, 22-2, 34-2, 52-3](#)

## れ

## レポート

- Unified CM Assistant マネージャおよびアシスタント [34-1](#)
- VG200 ゲートウェイ [52-1](#)
- 概要 [12-1, 22-1, 46-1](#)
- ダミー MAC アドレス [12-6](#)

